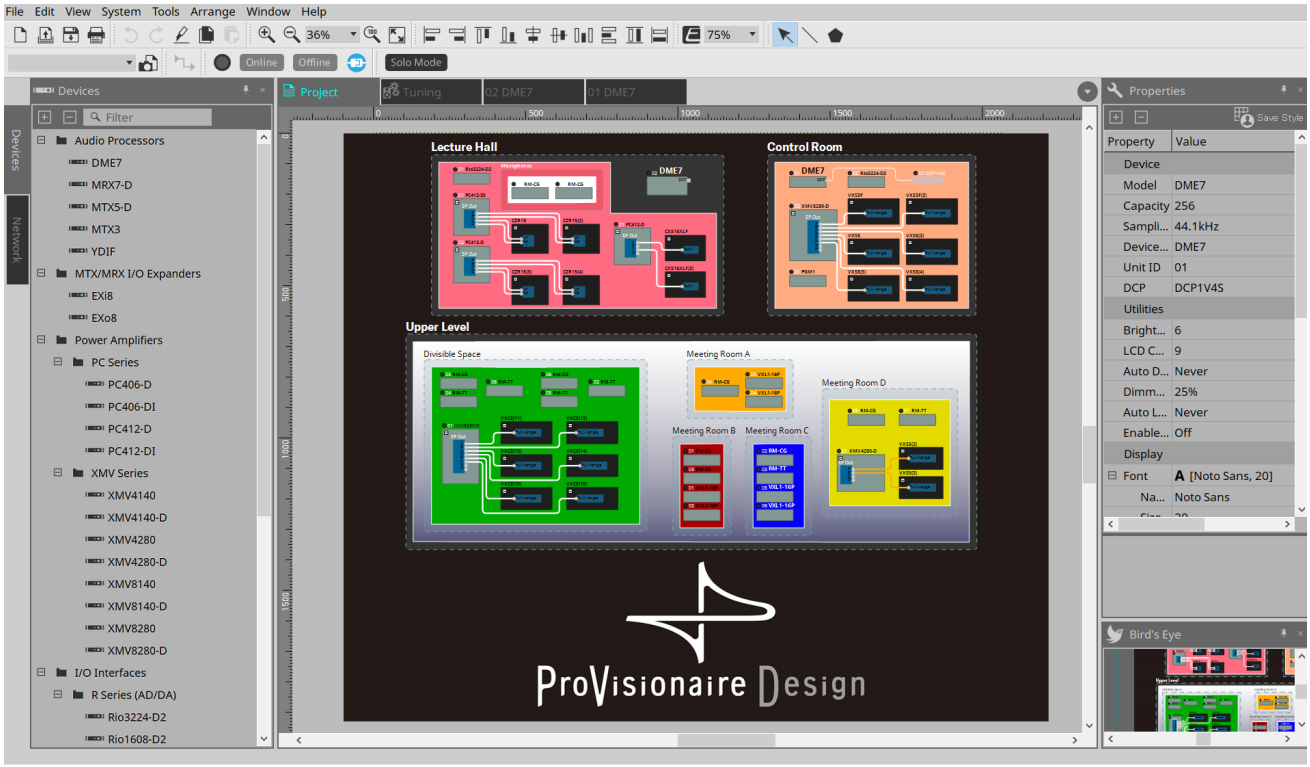
ProVisionaire Design

V2.0 ユーザーガイド



JA

目次

1. はじめに

このたびは、ヤマハProVisionaire Design(プロビジョネアーデザイン)をダウンロードいただき、ありがとうございます。ProVisionaire Designは、ヤマハ製品で構成される音響システムを統合的に設計するためのWindowsアプリケーションソフトウェアです。音声のルーティングを設計したり、各コンポーネントのパラメーターを調整したりすることで、用途に応じたプロセッシングの設定を行うことができます。
対応する機器の詳細については、ヤマハプロオーディオサイトに掲載されている関連マニュアルで紹介しています。必要なマニュアルをダウンロードしてご確認ください。

https://www.yamahaproaudio.com/

1.1. ご注意

- このソフトウェアおよびユーザーガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびユーザーガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびユーザーガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このユーザーガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- 商用目的で音源を使う場合、著作権にご注意ください。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- 本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- アプリケーションソフトウェアは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。最新のアプリケーションソフトウェアは、ヤマハプロオーディオサイトからダウンロードできます。
https://www.yamahaproaudio.com/

1.2. ProVisionaire Designでできること

- ProVisionare Designは大きく「Project」シート、「Tuning」シート、機器シートに分かれます。「Project」シートは機器の登録、設定を行います。「Tuning」シートは複数のアンプのチャンネルをまとめて操作するためのリンクグループを設定します。設定したリンクグループはリンクグループエディターで操作します。機器シートは各機器の詳細な設定/コントロールを行います。
- プロジェクト全体のパラメーターのリコールは「Linked Preset Manager」ダイアログ で行います。機器ごとのストア/リコールの方法は、機器ごとのページを参照してください。
- プロパティの初期値（位置情報を除く）をスタイルという形でコンピューターに記憶できます。スタイルを記憶させておくことで、プロジェクトに機器を追加するたびに設定を変更する必要がありません。スタイルは他のコンピューターにも持ち出すことができます。
- 機器はデバイスグループとしてグループ化できます。複数の機器をまとめて1つのグループとすることで、一括した電源制御などができます。
- Tuning シートでソロ機能を使うと、リンクグループ単位で音声の出力をコントロールできます。
- 「Project」シートにスピーカーを配置し、PCシリーズと接続すると、スピーカー単体のパラメーター特性を調整するSpeakerエディターや、同一パワーアンプに接続された複数のスピーカーのパラメーター特性を調整するMultiple Speakerエディターを開くことができます。
- 「Project」シートにスピーカーを配置し、パワーアンプと接続すると、スピーカー単位でリンクグループに登録できるようになります。

1.3. 理解しておく用語/概念

ソフトウェア
ProVisionaire Designでは以下の関連するソフトウェアがあります。

ソフトウェア	概要
ProVisionaire Control PLUS	Windows PCやiPadで動作するリモートコントローラーをデザインするためのソフトウェアです。
ProVisionaire Kiosk	Windows PCまたはiPad/iPhoneで動作するリモートコントロールに特化したソフトウェアです。
ProVisionaire Edge	ローカルネットワークのデバイスをモニタリングするためのソフトウェアです。
ProVisionaire Portal	デバイスライセンスをアクティベートするソフトウェアです。
ProVisionaire Cloud	デバイスライセンスを管理するクラウドサービスです。

単語
ProVisionaire Designでは構成を考える上で以下の単語があります。

単語	概要
プロジェクト	ProVisionaire Designで取り扱う機器群のこと。
オブジェクト	機器や画像、コンポーネントなどのシートに配置されているものの総称。
スタイル	オブジェクトごとの色や形状、機器の設定の初期値です。カスタマイズして保存することができます。
リンクグループ	同一シリーズの複数のチャンネルを連動して変更するためのグループ。

ファイル
ProVisionaire Designでは以下のファイルを使用します。

ファイルの種類	概要
プロジェクトファイル （拡張子.pvd）	ProVisionaire Designのすべての設定が記述されているファイル。[Save with Style]で保存されたプロジェクトファイルにはスタイルの情報も記述されています。 ProVisionaire Designが起動している間は、5分ごとに以下フォルダーに*.pvdとしてバックアップファイルを保存しています。 C:/Users/(ユーザー名)/Documents/Yamaha/ProVisionaire Design/Backup
スタイルファイル （拡張子.pvds）	ProVisionaire Design用のスタイルを保存したファイル。他のプロジェクトで作成したスタイルの情報が記述されています。

このユーザーガイドで< >はキーボードのキーを示します。< Shift >ならばShiftキーを意味します。

1.4. 動作環境/インストール

機器をコンピューターと接続して使用するためには、ヤマハプロオーディオサイトにあるダウンロードページからProVisionaire Designをダウンロードします。
https://www.yamahaproaudio.com/

1.4.1. 動作環境

OS	Windows 11（64bit）/ Windows 10（64bit）
CPU	Core i以上
メモリー	16 GB以上
ハードディスクの空き容量	3.2 GB以上
ディスプレイ	1280×1024（SXGA）以上
その他	PGM1のファームウェアアップデート、IP設定を行うときは、Bonjour Print Serivce(Windows)をインストールしてください。 Ethernet（1000BASE-T以上）搭載環境

ソフトウェアの最新バージョン、および動作環境については、下記のウェブサイトにてご確認ください。
https://www.yamahaproaudio.com/
お使いのコンピューターによっては、動作環境以上の条件を必要とする場合があります。

1.4.2. インストール

ProVisionaire Designのインストーラーはヤマハプロオーディオサイトからダウンロードしてください。
アプリケーションのページにリンクがあります。
https://www.yamahaproaudio.com/

ダウンロードした圧縮ファイルを解凍し、Install_PVDesign.exeをダブルクリックしたあと、インストーラーにしたがってインストールしてください。

2. 画面構成

ProVisionaire Designは「メニューバー」「ツールバー」「Projectシート」「Tuningシート」「機器シート」で構成されています。

- 「Project」シートは機器の配置をするシートです。ここに配置された機器がプロジェクトに登録されます。
- 「Tuning」シートはPCシリーズやXMVシリーズのEQやレベルを設定するシートです。同じシリーズの機器をまたいでパワーアンプのチャンネル単位でグループ化し、同種のパラメーター同士を相対値または絶対値で連動操作することができます。
- 「機器シート」は各機器の詳細設定をするシートです。

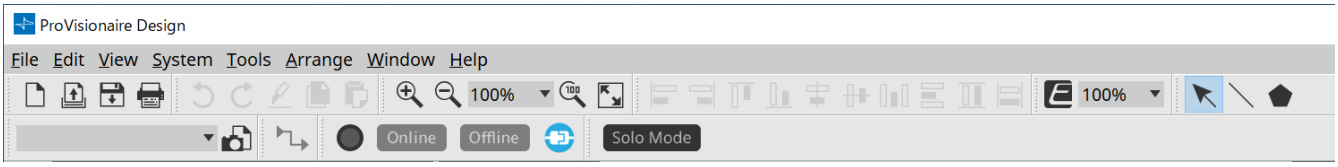
各シートには以下のエリアがあります。

シート	エリア
「Project」シート	「Devices」エリア 「Network」エリア 「Properties」エリア 「Bird's Eye」ビュー
「Tuning」シート	「Components」エリア 「Properties」エリア 「Project Devices」エリア 「Link Group」エリア 「Bird's Eye」ビュー

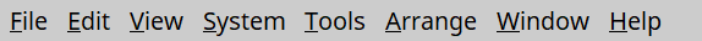
シート		エリア
機器シート：Audio Processors	DME10/7	「Components」エリア 「Parameter Sets」エリア 「Properties」エリア 「Parameters」エリア 「Parameter Link Group」エリア 「Bird's Eye」ビュー
	MRX7-D	「Components」エリア 「Parameter Sets」エリア 「Presets」エリア 「Parameter Link Group」エリア 「Gang Edit Group」エリア 「Properties」エリア 「Parameters」エリア 「Bird's Eye」ビュー
	MTX5-D	「Presets」エリア 「Bird's Eye」ビュー
	MTX3	「Presets」エリア 「Bird's Eye」ビュー
機器シート：Power Amplifiers	PC Series	「Presets」エリア 「Bird's Eye」ビュー
	XMV Series	「Bird's Eye」ビュー
機器シート：Powered Speakers	DZR Series	「Presets」エリア 「Bird's Eye」ビュー
	DXS XLF Series	「Presets」エリア 「Bird's Eye」ビュー
	VXL1-16P	「Bird's Eye」ビュー
	VXC2P	「Bird's Eye」ビュー
機器シート：Microphones	RM-CG	「Bird's Eye」ビュー
	RM-TT	「Bird's Eye」ビュー

2.1. シート共通

ここでは各シートで共通の項目を説明します。



メニューバー

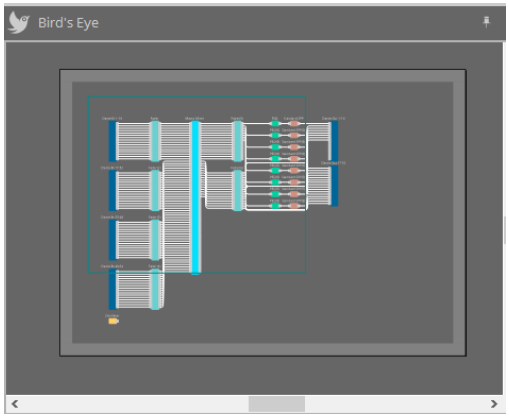


ProVisionaire Designで実行できるコマンド(命令)が、カテゴリーごとにまとめられています。クリックするとコマンドのリストが表示されます。(メニューバーとツールバー)

ツールバー

よく使う機能をボタンにしています。(メニューバーとツールバー)

Bird's Eyeビュー



シートの全景を表示します。緑色の枠内がシートに表示されます。枠をドラッグすることでシートの表示が移動します。枠の四隅で←→アイコンが表示されたときにドラッグすると、枠の拡大/縮小ができ、シートの表示面積も変わります。

Bird's Eyeビュー自体の拡大/縮小は< Ctrl >を押しながらマウスホイールを回してください。
Bird's Eyeビューと上のエリアの境部分にカーソルを置くと、カーソルの形状が変わり、ドラッグすることでビューの高さを変更できます。

エリア

エリアの右上には「」がありますが、クリックするとエリアがアイコンになって左右に配置され、シートを広く使うことができます。アイコンの上にカーソルを置くと一時的にエリアを展開します。アイコン化したエリアを再度固定表示する場合は、アイコンの上にカーソルを置いたときに表示される「」をクリックしてください。

エリアには以下のボタンやエディットボックスがあります。

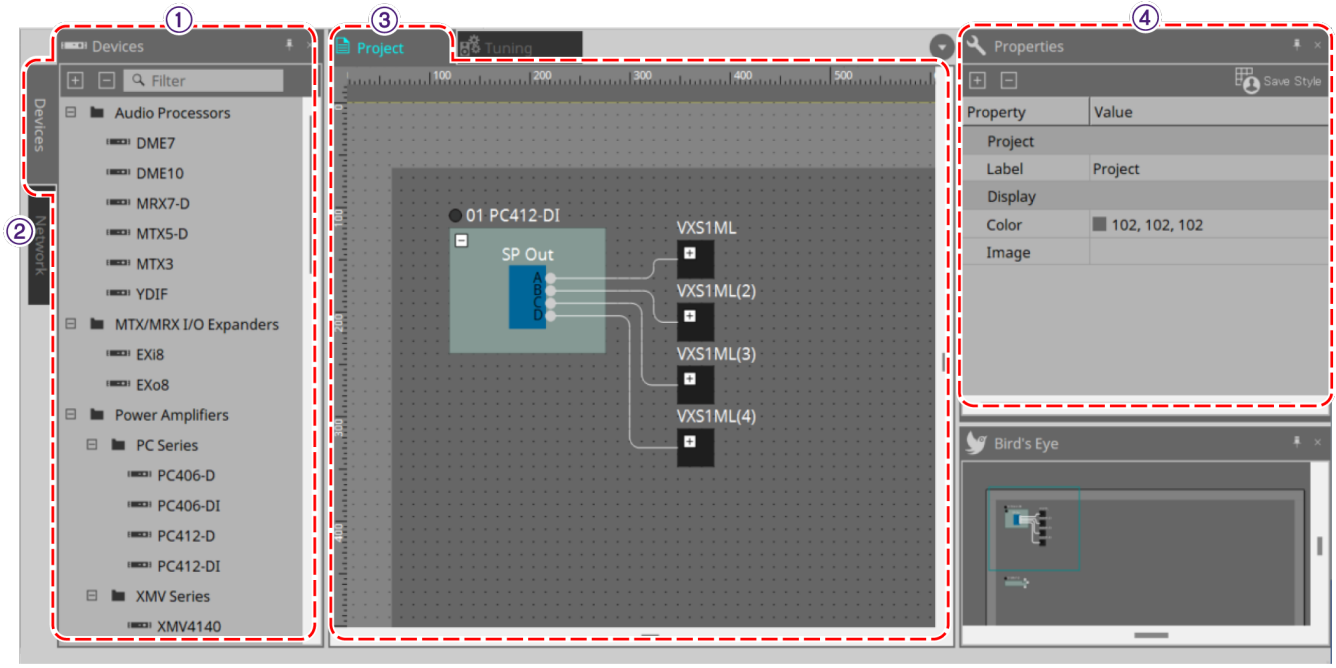
ボタン/エディットボックス	概要
	ツリー表示を全展開します。
	ツリー表示を全省略します。
Filter	入力された条件を満たすオブジェクトを絞り込んで抽出し、表示します。
	選択されているオブジェクトのスタイルをスタイルとしてコンピューターに登録します。

シート

シートのボタンでシートの一覧を表示し、移動するシートを選択します。
シートが増えるとが表示されます。ボタンで一つ左のシートに移動します。ボタンで一つ右のシートに移動します。
シートを右クリックして表示される（Closeメニュー）からシートを閉じることもできます。

シートとエリアの境部分にカーソルを置くと、カーソルの形状が変わり、ドラッグすることでエリアの幅を変更できます。

2.2. 「Projectシート」



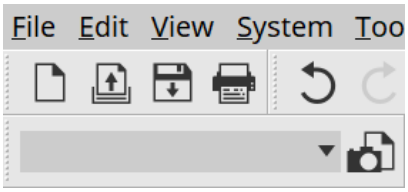
① 「Devices」エリア
「Project」シートに配置する機器のリストです。機器を「Project」シートにドラッグ&ドロップすることで、プロジェクトに機器を登録します。(「Devices」エリア)

② 「Network」エリア
コンピューターが認識した機器のリストです。機器を「Project」シートにドラッグ&ドロップすることで、プロジェクトに機器を登録します。(「Network」エリア)

③ 「Project」シート
機器をシートに配置することでプロジェクトに登録したり、接続図を作るシートです。(「Project」シート)
機器をダブルクリックすると、機器シートが開きます。

④ 「Properties」エリア
選択されているオブジェクトの情報を表示/編集します。(「Properties」エリア)

2.3. Linked Presets



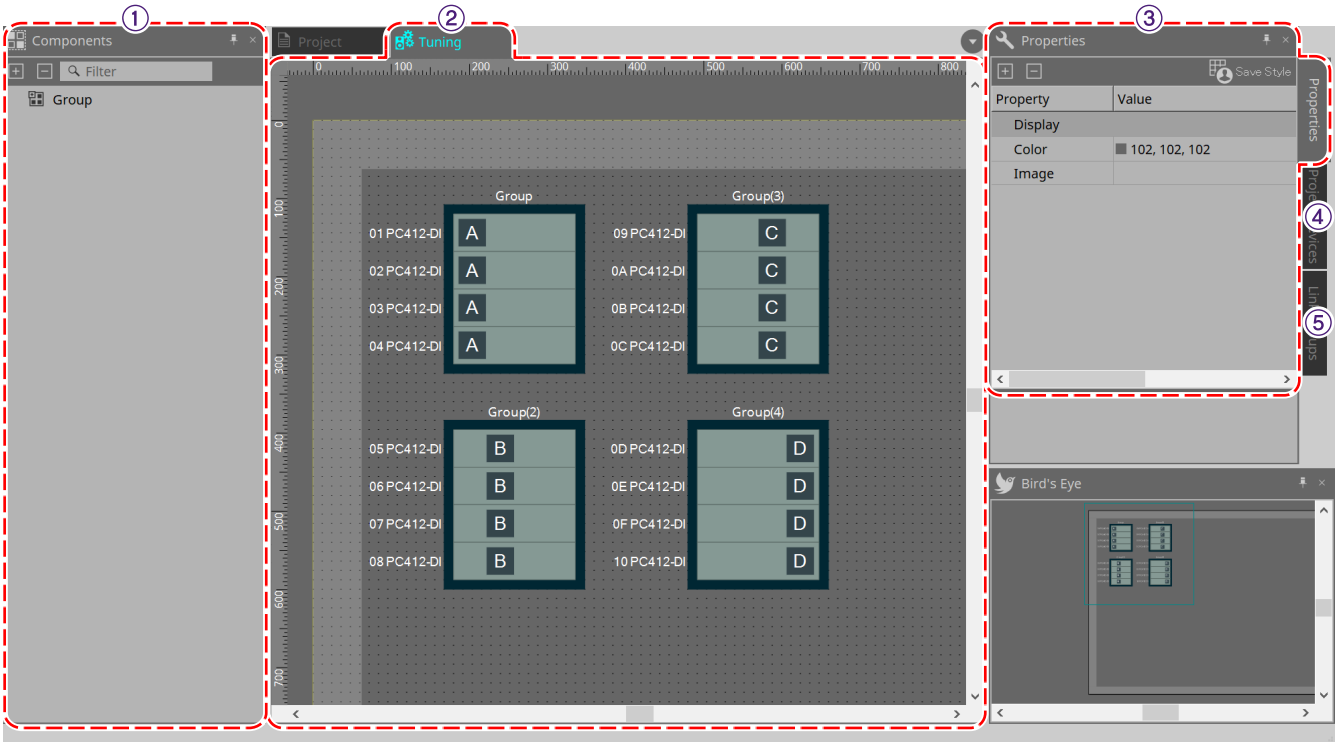
プロジェクトに追加されたすべての機器を一括リコールする機能です。

ボタンをクリックすると表示される「Linked Presets Manager」ダイアログで設定します。(「Linked Presets Manager」ダイアログ)

プロジェクト全体のプリセットのリコールは 1 Preset 01 でもできます。

2.4. 「Tuningシート」

対象機器：PCシリーズ, XMVシリーズ, DZR/DXS-XLFシリーズ（Danteモデルのみ）



① 「Components」エリア
「Tuning」シートに「Group」コンポーネントをドラッグ&ドロップすることで、リンクグループを登録します。

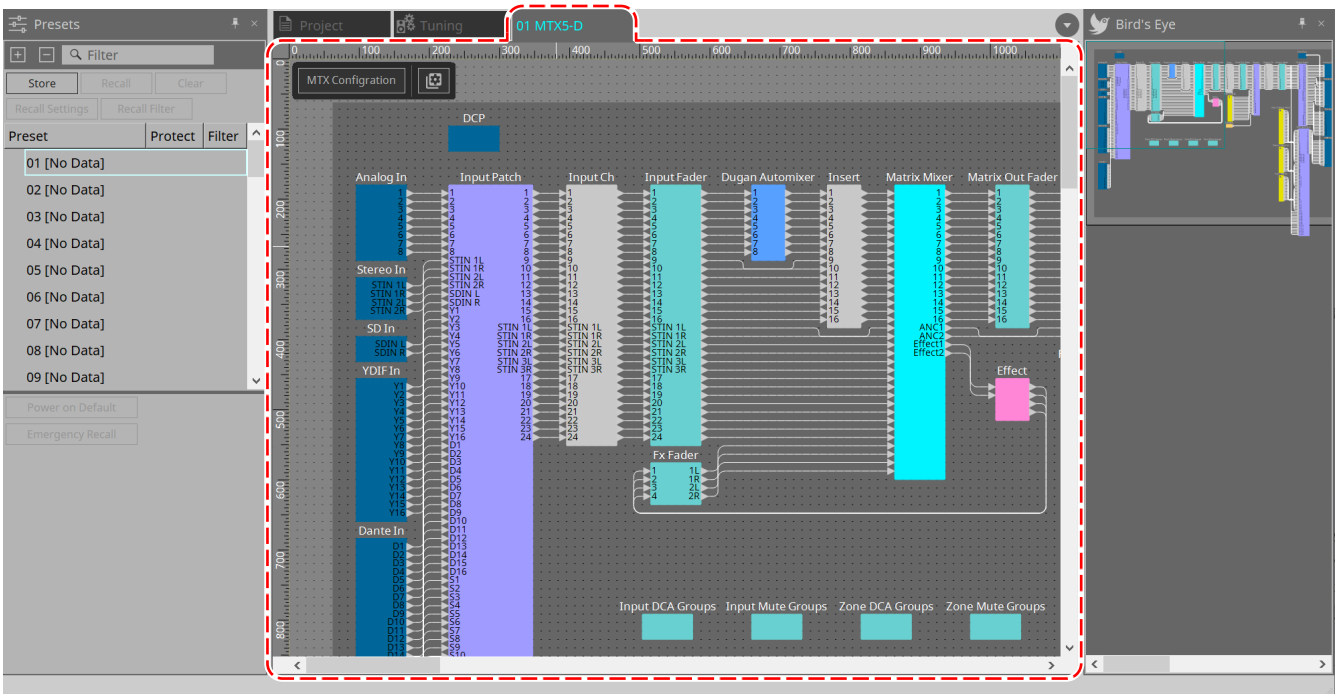
② 「Tuning」シート
リンクグループを作成/編集をするシートです。
リンクグループは機器間をチャンネル単位でリンク操作できる機能です。（「Tuning」シート）

③ 「Properties」エリア
選択されているオブジェクトの情報を表示/編集します。（「Properties」エリア）

④ 「Project Devices」エリア
「Project」シートに配置した機器のうち、リンクグループ化の対象機器をツリー表示します。
「Group」コンポーネントにドラッグ&ドロップすることで、リンクグループに登録することができます。（「Project Devices」エリア）

⑤ 「Link Groups」エリア
リンクグループのアサイン状態をツリー表示します。（「Link Groups」エリア）

2.5. 機器シート



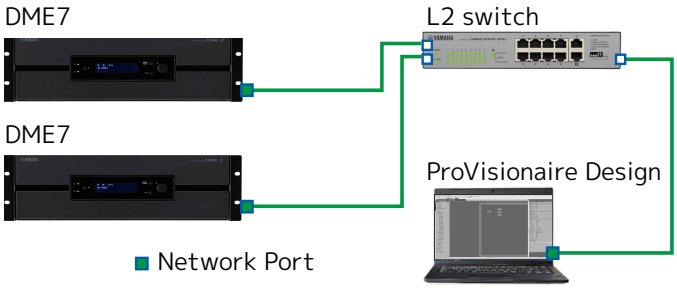
「Project」シートに配置された機器をダブルクリックすることで開きます。各機器のコンポーネントが配置されています。コンポーネントをダブルクリックすることでコンポーネントエディターが開き、機器のパラメーターの設定ができます。

詳細は機器ごとの項目でご確認ください。

3. 基本的な使い方

3.1. 機器との接続

ProVisionaire Designと機器を接続する際には、各機器により接続先の端子が異なりますので、
下表を参考に接続してください。



モデル	接続先
DMEシリーズ	ネットワーク端子 または Dante[PRIMARY]端子
MRX7-D/MTX5-D	Dante [PRIMARY]端子
MTX3	ネットワーク端子
EXi8/EXo8	ネットワーク端子
Rio-D2シリーズ/Tioシリーズ/RSioシリーズ	Dante [PRIMARY]端子
Rio-D3シリーズ	ネットワーク端子 または Dante[PRIMARY]端子
PC-D/DIシリーズ	ネットワーク端子
XMV-Dシリーズ	Dante [PRIMARY]端子
XMVシリーズ	ネットワーク端子
RM-CG/RM-TT	Dante/PoE 端子
DZR/DXS-XLFシリーズ	Dante端子
VXL1-16P	Dante/NETWORK 端子
VXC2P	Dante/NETWORK 端子

3.2. 手順

ProVisionaire Designでの作業は「機器とコンピューターが接続できる環境の場合」と「機器とコンピューターが接続できない環境の場合」で以下のような手順で行います。
Danteネットワークを構築する場合は、Dante Controllerもインストールしておき、Dante Controllerでパッチをしてください。Dante Controllerについては、ヤマハプロオーディオサイトのリンクを参照してください。https://www.yamahaproaudio.com/

3.2.1. 機器とコンピューターが接続できる環境の場合

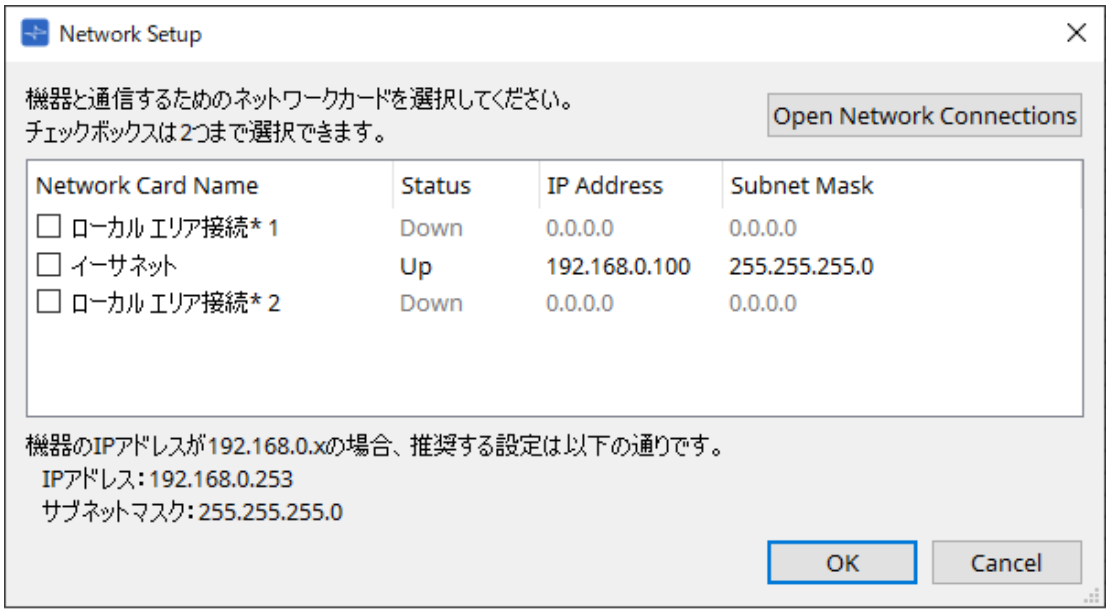
機器が手元にある場合は、ネットワークを組んでから設定をする手順となります。
たとえば、PCシリーズの初期設定は以下となっており、リダンダンシーネットワークで構築することを前提にしています。例としてPCシリーズを使用します。

項目	初期値
Unit ID	1
Dante Secondary Port	Redundant *スター接続
IP Setting	DHCP（DHCPサーバーがない場合、IPアドレスは169.254.x.xが設定されます）

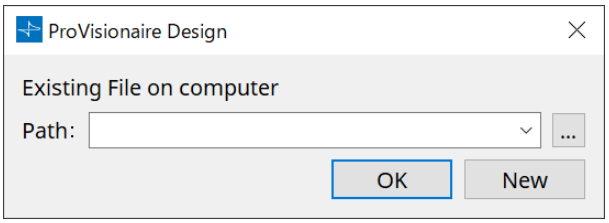
1. **配線をする。**
   機器の電源コードやネットワークの配線などをしてください。
   デイジーチェーン接続の場合は、Dante Secondary Portの設定を[Daisy Chain]に変更してください。

2. **接続機器の電源をすべてオンにする。**
   必要に応じて、初期化やファームウェアのアップデートをしてください。
   ProVisionare Designで初期化やファームウェアをアップデートする場合は、[System]メニュー→[Device Information]を選択して表示される、「Device Information」ダイアログで行ってください。

3. **ProVisionaire Designを起動する。**
   Network Setupダイアログが表示されます。
   機器と通信を行うネットワークカードのチェックボックスを選択して[OK]ボタンをクリックします。
   ネットワークカードは、同時に２つまで選択できます。その場合は、各ネットワークカードは異なるサブネットを設定してください。

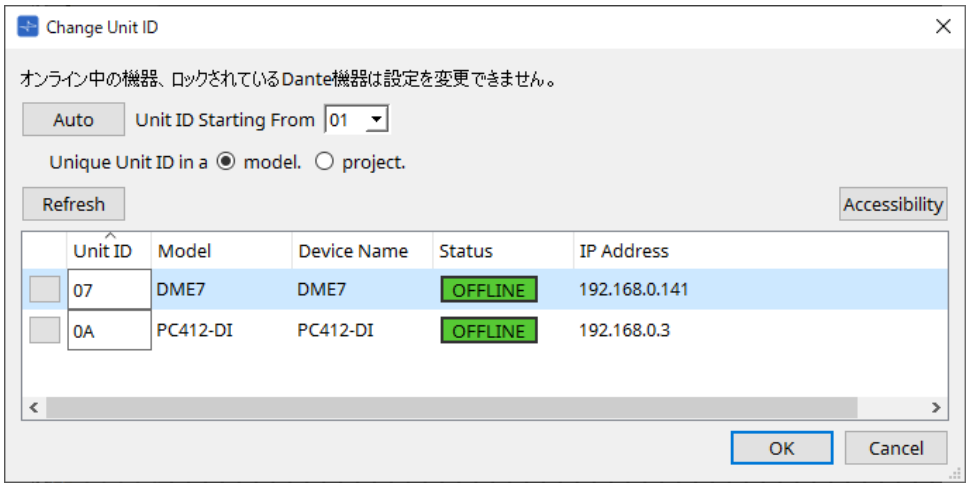


4. **スタートアップダイアログが表示されたら、[New]ボタンをクリックする。**



5. **Networkエリアに機器が表示されていることを確認する。**
   表示されていない場合は、機器の接続を確認し、Network Setupダイアログで機器と接続しているネットワークカードが正しいことを確認してください。

6. **Networkエリアで[Unit ID]ボタンをクリックする。**
   Change Unit IDダイアログが表示されます。

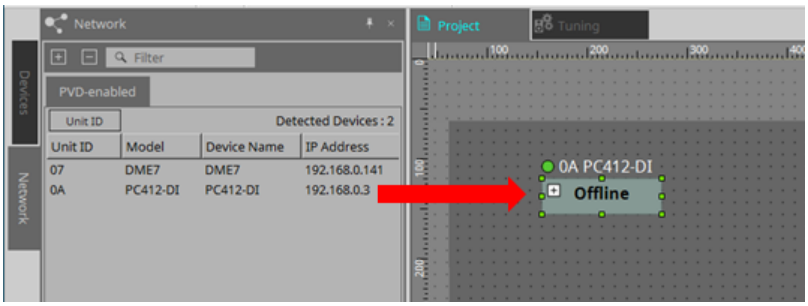


7. **[Auto]ボタンをクリックする。**
   Unit IDが重複しないように自動的に設定されます。

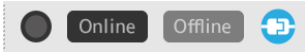
> MTXシリーズとXMVシリーズは本操作の対象外です。リアパネルのディップスイッチでUnit IDを設定してください。

8. **[OK]ボタンをクリックする。**
   機器が再起動し、再びNetworkエリアに機器が表示されるまでお待ちください。

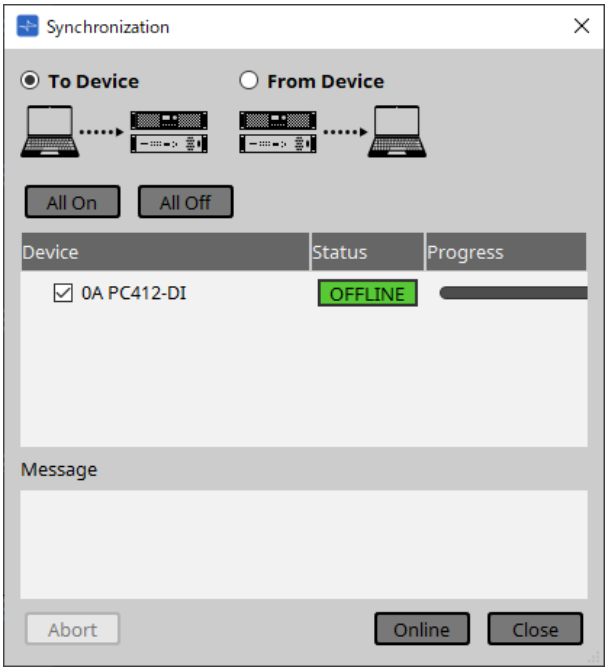
9. **Networkエリアから「Project」シートに機器をドラッグアンドドロップする。**
   プロジェクトに機器が登録されます。
   <Shift>キーを押しながら一番上の機器をクリックして、一番下の機器をクリックすると全機器を一括してドラッグアンドドロップすることもできます。



10. **ツールバーにある[Online]ボタンをクリックする。**

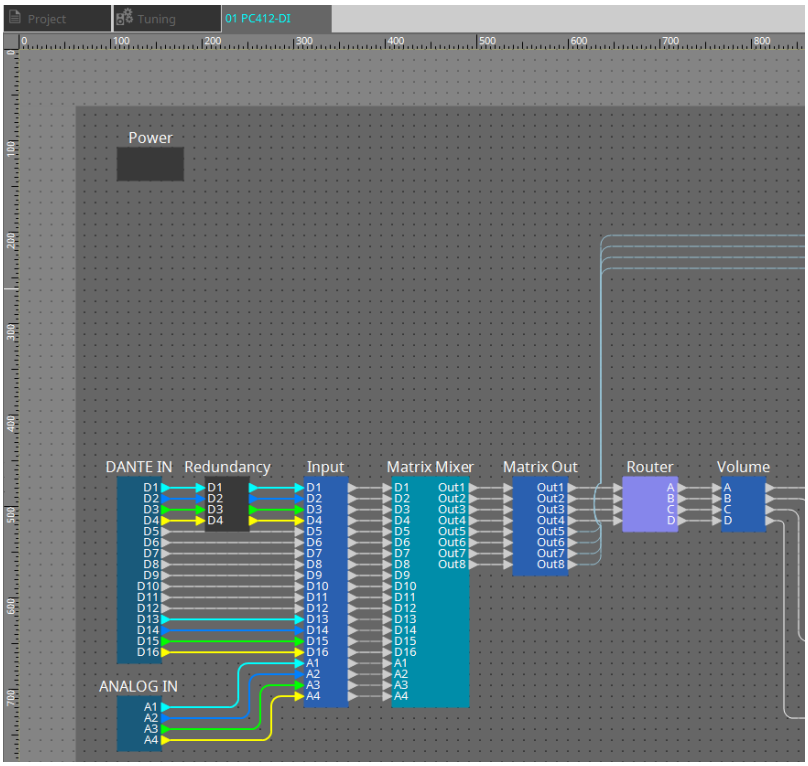


Synchronizationダイアログが表示されます。
同期の詳細については「オンラインと同期」を参照してください。

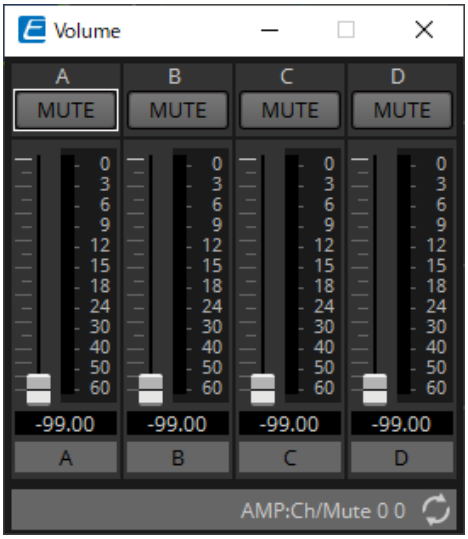


11. **[To Device]を選択したあと、[Online]ボタンをクリックする。**
ProVisionaire Designの設定が各機器に送信されます。

12. **機器をダブルクリックする。**
機器シートが表示されます。



13. **編集したいパラメーターを持つコンポーネントをダブルクリックする。**
エディターが表示されます。
各機器の中には2種類のコンポーネントエディターがあります。１つは共通のもの、もう１つは機器独自のものになります。共通のコンポーネントエディターについては、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。機器独自のものについては、各機器の「コンポーネントエディター」の説明を参照ください。



14. **パラメーターを設定する。**
同じ設定を複数にする場合は、1台設定が終わったら「Project」シートで設定が終わった機器を右クリックし、[Copy]を選択します。同じ設定にする他の機器を右クリックし、[Paste Parameters]を選択することで、設定が反映されます。

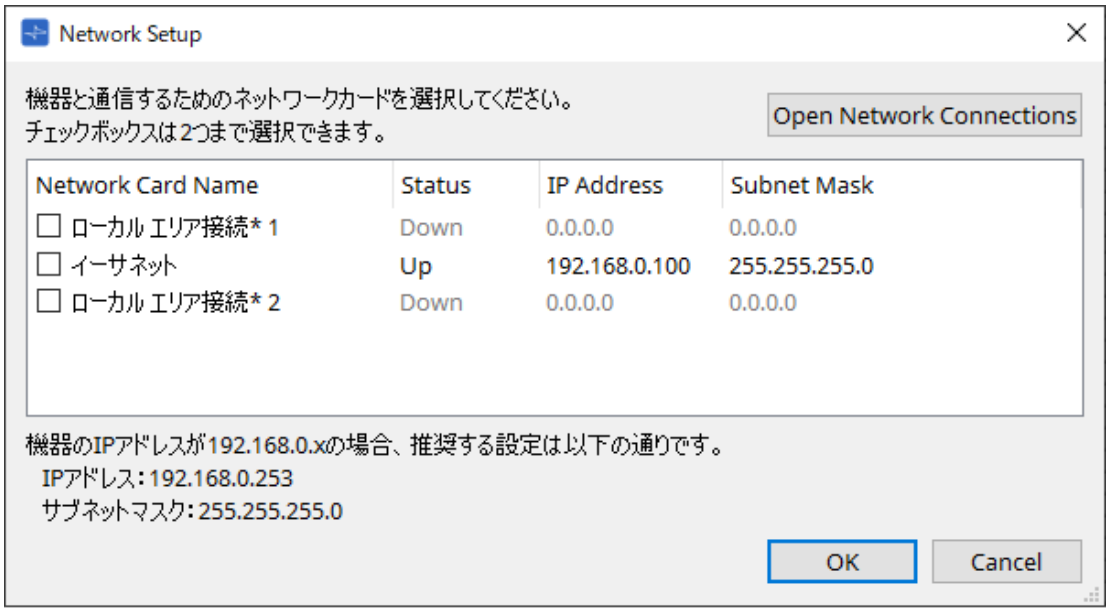
15. **設定が終わったあと、プロジェクトファイルを保存する。**
ボタンをクリックすると保存できます。
プロジェクトファイルにプロテクト情報を付加したい場合は、[File]メニューから選択する「Protect File」ダイアログでPINコードの設定が行えます。

DMEの場合、オンライン中にプロジェクトファイルを保存するとPCだけはなく、機器にもファイルを保存することができます。
詳細は、「File Storage」ダイアログを参照ください。

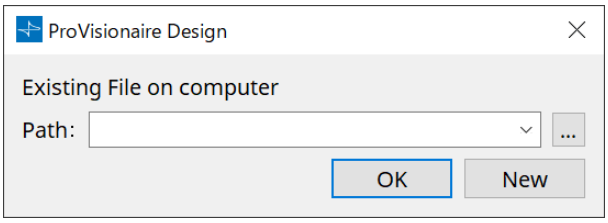
3.2.2. 機器とコンピューターが接続できない環境の場合

仮想で機器を配置し、あとで機器と同期をする方法です。

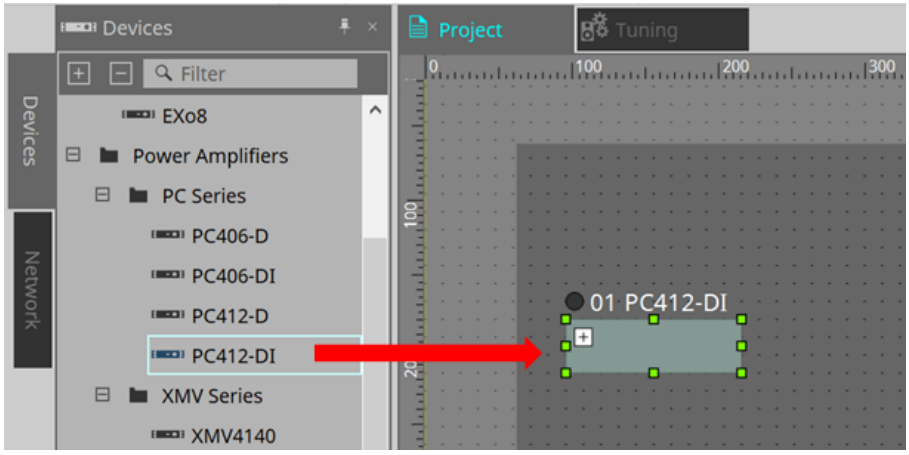
1. **ProVisionaire Designを起動する。**
   Network Setupダイアログが表示されます。
   オフラインで作業するので、ここでは[Cancel]ボタンをクリックします。



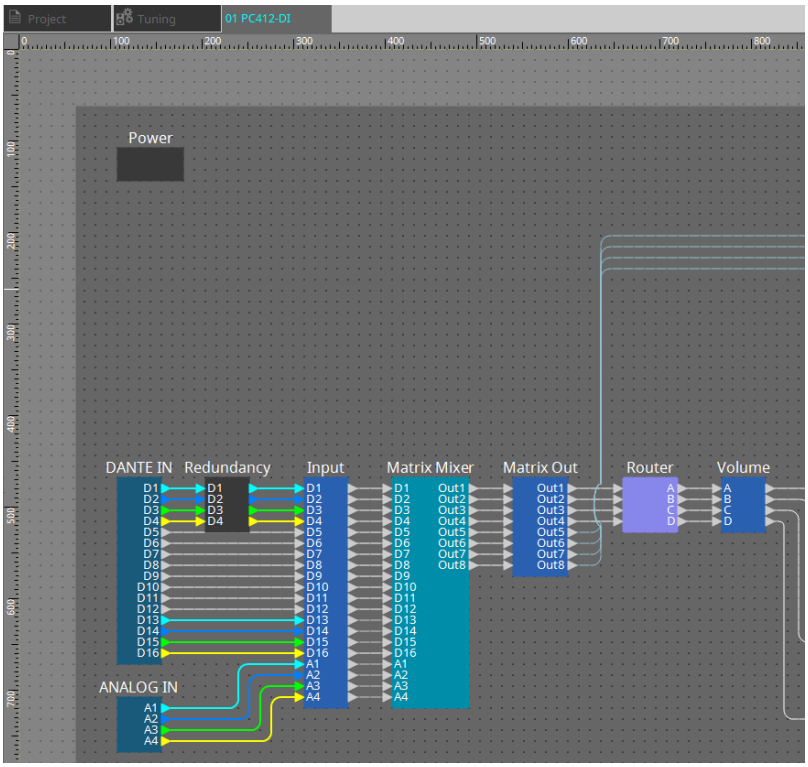
2. **スタートアップダイアログが表示されたら、[New]ボタンをクリックし、新規プロジェクトファイルを作成する。**
   プロジェクトファイルを編集する場合は[…]ボタンをクリックし、プロジェクトファイルを選択して[OK]ボタンをクリックします。



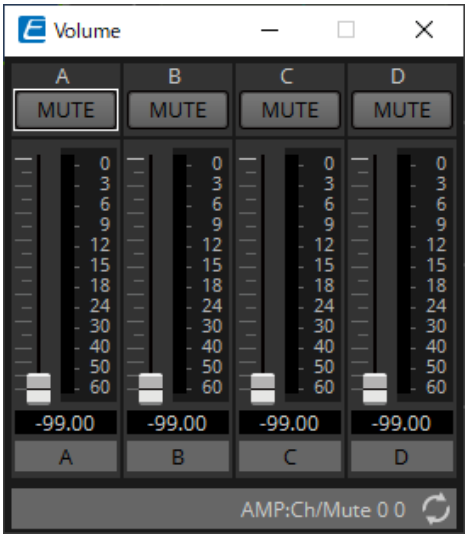
3. **Devicesエリアから「Project」シートに機器をドラッグアンドドロップする。**
   プロジェクトに機器を登録します。
   必要な数だけ機器を登録してください。



4. **機器をダブルクリックする。**
   機器シートが表示されます。



5. **編集したいパラメーターを持つコンポーネントをダブルクリックする。**
   エディターが表示されます。
   各機器の中には2種類のコンポーネントエディターがあります。１つは共通のもの、もう１つは機器独自のものになります。共通のコンポーネントエディターについては、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。機器独自のものについては、各機器の「コンポーネントエディター」の説明を参照ください。



6. **パラメーターを編集する。**

7. **プロジェクトファイルを保存する。**
   ツールバーの ボタンをクリックすると保存できます。

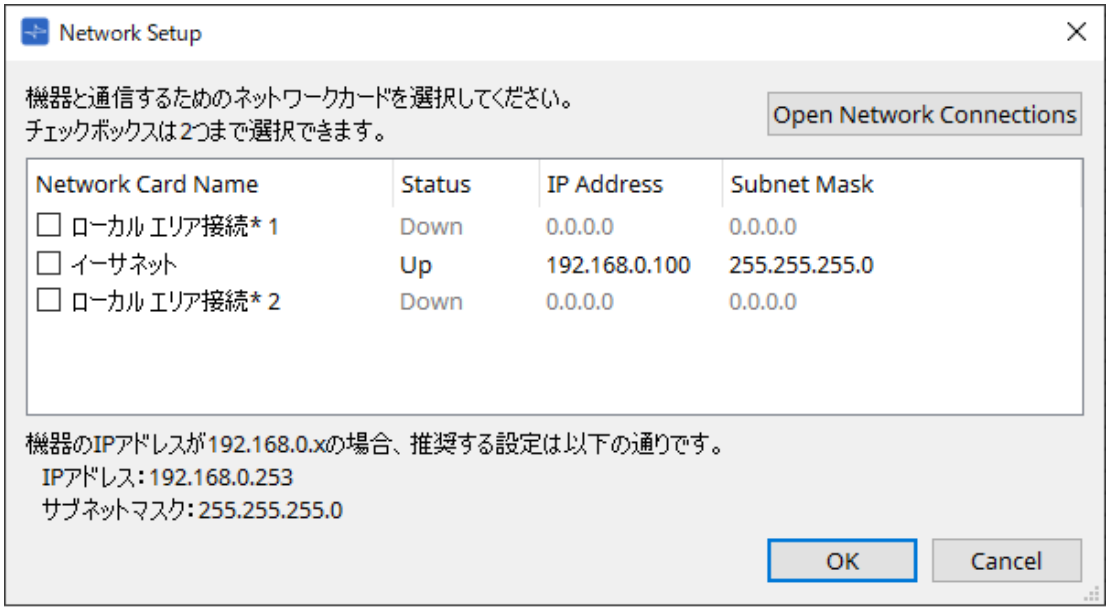
8. **機器のUnit IDとDante[SECONDARY]端子の設定をする。**
   設定方法については各機器の取扱説明書を参照してください。

9. **配線をする。**
   機器本体の電源コードやネットワークの配線などをしてください。

10. **接続機器の電源をすべてオンにする。**
    必要に応じて、初期化やファームウェアのアップデートをしてください。
    初期化やファームウェアのアップデートの方法については各機器の取扱説明書を参照してください。

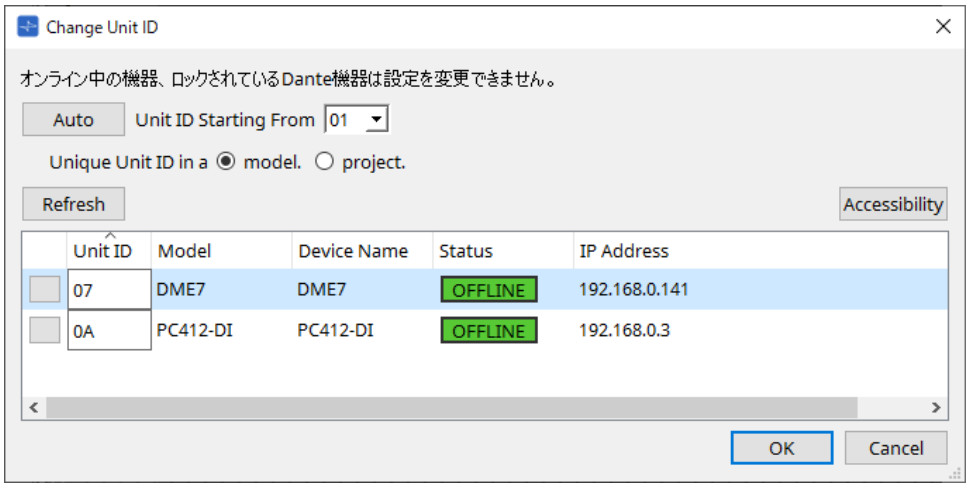
11. **メニューバーの[System]メニューからNetwork Setupを開く**
    Network Setupダイアログが表示されます。

12. **機器と通信を行うネットワークカードを選択して[OK]ボタンをクリックする。**



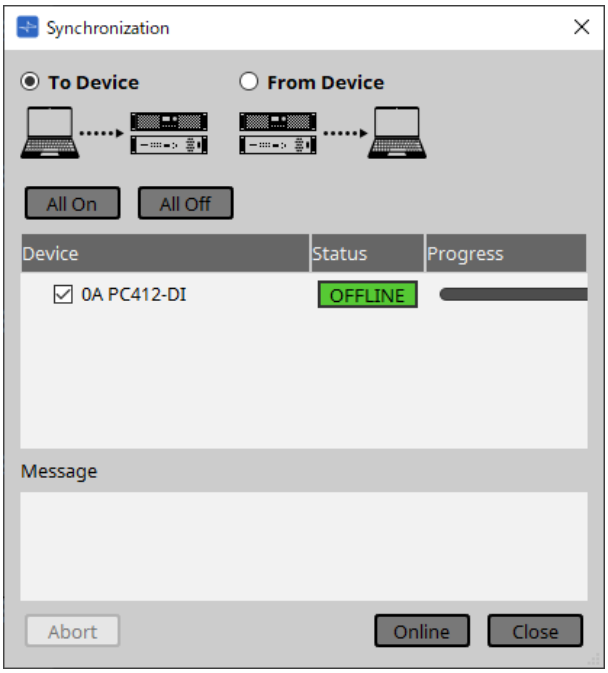
13. **「Project」シート上の仮想デバイスに設定されたUnit IDを機器に反映する。**
    機器のUnit IDを変更するには、以下の方法があります。
    - Networkエリアに表示されている機器を「Project」シート上の機器にドラッグアンドドロップする。
    - Networkエリアの[Unit ID]ボタンをクリックして、Change Unit IDダイアログでIdentifyボタンをクリックして機器を確認しつつ手動でUnit IDを変更する。
    - 機器で変更する。機器の取扱説明書を参照ください。

Unit IDを変更すると、機器が再起動します。



14. **ツールバーにある[Online]ボタンをクリックする。**

Synchronizationダイアログが表示されます。



15. **[To Device]を選択したあと、[Online]ボタンをクリックする。**
    ProVisionaire Designの設定が各機器に送信されます。
16. **必要に応じてProVisionaire Designでパラメーターの設定をする。**
17. **設定が終わったあと、プロジェクトファイルを上書きする。**

4. メニューバーとツールバー

メニューバーにはProVisionaire Designで実行できるコマンド（命令）が、カテゴリーごとにまとめられています。クリックするとコマンドのリストが表示されます。
ツールバーでは「Print」や「Align Left Side」などProVisionaire Designでよく使うコマンドをボタンにしています。

4.1. [File]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[New]		新規プロジェクトファイルを作成します。 オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	---
[Open]		保存されているプロジェクトファイルを開きます。オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。PINコードが設定されているプロジェクトファイルを開くと、「Security」ダイアログが表示されます。	---
[Go Online - From Devices]	---	ネットワーク上の機器データをProject Fileに反映します。	「Go Online - From Devices」ダイアログ
[Save]		プロジェクトファイルを上書き保存します。	---
[Save As]	---	プロジェクトファイルを別のファイルとして保存します。	「Save File」ダイアログ
[Save with Style]	---	ユーザースタイルを含んだプロジェクトファイルを保存します。このプロジェクトファイルを他のコンピューターで開いてもユーザースタイルは、自動的にインポートされません。インポートする場合はプロジェクトファイルを開いてから、[Import Style from Project File]を実行してください。	「Save File」ダイアログ
[Export Style]	---	コンピューターに記憶されているユーザースタイルをファイル(拡張子.pvds)としてエクスポートします。	「Export Style」ダイアログ

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Import Style]	---	エクスポートされたユーザースタイルをコンピューターにインポートします。	「Import Style」ダイアログ
[Import Style from Project File]	---	ユーザースタイルを含んだプロジェクトファイルからユーザースタイルをコンピューターにインポートします。	---
[Reset Style to Default]	---	ユーザースタイルをインストール直後の状態に初期化します。	---
[Protect File]	---	プロジェクトファイルにPINコードを設定して保護します。保護されたファイルは、開くときにPINコードの入力が要求されます。	「Protect File」ダイアログ
[Project Information]	---	物件情報や連絡先などのメモをプロジェクトファイルに記しておくことができます。	「Project Information」ダイアログ
[Print]		シートごとの印刷と印刷の設定をします。	「Print」ダイアログ
[File Storage]	---	DME本体のストレージにプロジェクトファイルを自動保存する設定を行います。	「File Storage」ダイアログ
[Recentry Open File]	---	最近使用したプロジェクトファイルを5つまで表示し、開くことができます。オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	---
[Exit]	---	ProVisionaire Designを終了します。オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	---

4.2. [Edit]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Undo]		前の操作を取り消します。*1	---
[Redo]		[Undo] で取り消した操作を再実行します。*1	---
[Cut]		選択されているものをコピーバッファーに移動します。	---
[Copy]		選択されているものをコピーバッファーにコピーします。	---
[Paste]		コピーバッファーにあるものを選択している場所に貼り付けます。	---
[Paste Parameters]	---	コピーバッファーにあるコンポーネントのパラメーターを選択したコンポーネントに上書きコピーします。機器間でもコピーしたコンポーネントのパラメーターを反映できます。	---

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Paste to Device Group]	---	コピーバッファーにある機器をデバイスグループにコピーします。	---
[Delete]	---	選択されているオブジェクトを削除します。	---
[Duplicate]	---	選択されているオブジェクトを複製します。	---
[Select All]	---	[All] 「Project」シート上のオブジェクトをすべて選択します。デバイスグループの中身を選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All]を選択してください。	---
	---	[All Components] 機器シート上のすべてのコンポーネントを選択します。	---
	---	[All Devices] 「Project」シート上のすべての機器を選択します。デバイスグループの機器を選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All Devices]を選択してください。	---
	---	[All Wires] 「Project」シート上のすべてのワイヤーを選択します。デバイスグループのワイヤーを選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All Wires]を選択してください。	---
	---	[All Graphics] 「Project」シート上のすべての画像を選択します。デバイスグループの画像を選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All Graphics]を選択してください。	---
	---	[All Link Groups] 「Tuning」シート上のすべてのリンクグループを選択します。	---
[Create Device Group]	---	「Project」シートで選択されているオブジェクトをデバイスグループとしてグループ化します。	---
[Unpack Device Group]	---	「Project」シートで選択されているデバイスグループ内のオブジェクトを「Project」シート上に展開します。	---
[Unbundle Wires]	---	選択されているコンポーネントまたはUser Defined Blockに接続されているワイヤー同士を等間隔に離して表示します。	詳細はDMEの項目を参照ください。
[Bundle Wires]	---	選択されているコンポーネントまたはUser Defined Blockに接続されているワイヤー同士を重ねて表示します。	詳細はDMEの項目を参照ください。

*1. [Undo]/[Redo]の対象はオブジェクトの配置/移動/削除と機器間のワイヤーの生成と削除、「Properties」エリアの設定変更です。

4.3. [View]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
エリア表示切替チェックボックス	---	チェックを入れると、該当するエリアが表示されます。シートごと、機器ごとに表示される内容は異なります。	---
[Zoom In]		シート内の表示を拡大します。	---
[Zoom Out]		シート内の表示を縮小します。	---
[Zoom to 100%]		シート内の表示を100%にします。	---
[Zoom to Fit]		配置されているすべてのオブジェクトがシートで見えるようにします。	---
[Editor Magnification]		Component Editorの拡大率を変更します。	---
[Print Area]	---	シート上にPrintダイアログで設定した用紙サイズを表示します。シートの（x,y）=（0,0）が用紙の左上になります。	---

4.4. [System]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Network Setup]	---	機器と通信するためのコンピューターのネットワークアダプターを選択します。ネットワークアダプターのIPアドレスの変更もできます。	「Network Setup」ダイアログ
[IP Settings]	---	ネットワーク上の機器を一覧で表示し、IPアドレスの変更を行います。	「IP Settings」ダイアログ
[Match Device by IP Address]	---	ProVisionaire DesignがIPアドレスで機器を検索する場合の設定をします。コンピューターを機器が異なるサブネットに設置されている場合に、設定をします。	「Match Devices by IP Address」ダイアログ
[Device Information]	---	ネットワーク上の機器を一覧で表示し、ファームウェアのアップデート、初期化や再起動を行います。	「Device Information」ダイアログ
[Word Clock]	---	機器のワードクロックを設定します。	「Work Clock」ダイアログ
[Protect Devices]	---	機器にAdministrator PINを設定して、意図しない変更を防ぎます。	「Protect Devices」ダイアログ
[Clock]	---	オンライン状態/オフライン状態に関わらず同一ネットワークに接続されているすべての機器の日時を更新します。	「Clock」ダイアログ

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Daylight Saving Time]	---	オンライン状態/オフライン状態に関わらず同一ネットワークに接続されているすべての機器のサマータイム(Daylight Saving Time)の設定をします。	「Daylight Saving Time」ダイアログ
[GPI Calibration]	---	機器の[GPI]端子の入力電圧検出範囲のキャリブレーションを行います(オンライン状態のときのみ設定可能)	「GPI Calibration」ダイアログ
[Get Log from Devices]	---	MTXシリーズ、XMVシリーズからログを取得します。	「Get Log from Devices」ダイアログ
[Show Alert Popup]	---	機器でアラートが発生したとき、ProVisionaire Designでのポップアップ表示の有無を設定します。	---
[RM Series Settings]	---	[Sign up] RM-CG/RM-TTに初期パスワードを設定します。 [Login] パスワードが設定されているRM-CG/RM-TTにログインします。ProVisionaire Designで機器を設定するにはログインが必要です。 [Password Settings] RM-CG/RM-TTのパスワードを変更します。 [Enable SCP remote control access] RM-CG/RM-TTの外部SCPコントローラによる制御を有効または無効にします。	「Sign up」ダイアログ 「Log In」ダイアログ 「Password Settings」ダイアログ 「Enable SCP remote control access」ダイアログ

4.5. [Tools]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Trace Signal Path]		チェックが入っている状態でポートまたはワイヤーを選択すると、選択したものを起点として出力方向と入力方向へ信号経路の検索を行います。	---
[Duplicate Port Label]	---	チェックが入っている状態で結線をすると、結線元のポート名を結線先のポートにコピーします。	---

4.6. [Arrange]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Align Left Sides]		複数選択しているオブジェクトのうち一番左側にあるオブジェクトに左端をあわせます。	---

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Align Right Sides]		複数選択しているオブジェクトのうち一番右側にあるオブジェクトに右端をあわせます。	---
[Align Tops]		複数選択しているオブジェクトのうち一番上にあるオブジェクトに上をあわせます。	---
[Align Bottoms]		複数選択しているオブジェクトのうち一番下にあるオブジェクトに下をあわせます。	---
[Align Horizontal Centers]		複数選択しているオブジェクトの水平方向の中間にオブジェクトの中央をあわせます。	---
[Align Vertical Centers]		複数選択しているオブジェクトの垂直方向の中間にオブジェクトの中央をあわせます。	---
[Distribute Horizontally]		選択しているオブジェクトを左右方向に等間隔に整列します。	---
[Distribute Vertically]		選択しているオブジェクトを上下方向に等間隔に整列します。	---
[Same Horizontally]		選択しているオブジェクトの高さをそろえます。	---
[Same Widths]		選択しているオブジェクトの幅をそろえます。	---
[Bring to Front]	---	選択しているオブジェクトを最前面に移動します。	---
[Send to Back]	---	選択しているオブジェクトを最背面に移動します。	---

4.7. [Window]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Close All Editor Windows]	---	すべてのコンポーネントエディターとパラメーター設定ウィンドウを閉じます。	---
[Show All Editor Windows]	---	すべてのコンポーネントエディターとパラメーター設定ウィンドウを前面に表示します。	---
[Hide All Editor Windows]	---	すべてのコンポーネントエディターとパラメーター設定ウィンドウを隠します。	---

4.8. [Help]メニュー

コマンド	ツールバーのボタン	概要	呼び出されるダイアログ
[Shortcut Keys]	---	ショートカットキー一覧を表示します。	「Shortcut Keys」ウィンドウ

4.9. ツールバーのみのボタン

メニューに対応したコマンドがないものは以下となります。

ボタン	概要
100%	シート内の現在の倍率を表示します。▼をクリックすると倍率の変更ができます。数字表示部をクリックすると、直接数字入力ができます。シート内の表示を縮小します。
	マウスカーソルをオブジェクトの選択や編集などができる状態にします。
	マウスカーソルを「Project」シートで線が描ける状態にします。
	マウスカーソルを「Project」シートで多角形が描ける状態にします。多角形はクリックで角を指定していきます。ダブルクリックすると描画を終了します。
1 Preset 01	ストア済みのLinked Presetsが左記のように表示されます（空のLinked Presetsデバイスプリセットは表示されません）。ここで選択したLinked Presetsがリコールされます。右の▼をクリックするとプルダウンメニューが表示され、選択したLinked Presetsのリコールができます。
	「Linked Presets Manager」ダイアログを開きます。
	機器とコンピューターがオンライン状態のときに点灯します。状態によってインジケーターの色が変わります。 青色：配置されているすべての機器がオンライン状態のとき 黄色：配置されている機器のうち少なくとも1台の機器がオフライン状態のとき 消灯：すべての機器がオフライン状態のとき
Online	クリックすると「Synchronization」ダイアログ（同期方向選択）が表示され、機器とProVisionaire Designを同期できるようにします。 配置した機器が実際にネットワーク上に接続されていない場合、[Online]ボタンは使用できません。
Offline	クリックすると「Offline」ダイアログが表示されます。 配置した機器が実際にネットワーク上に接続されていない場合、[Offline]ボタンは使用できません。

ボタン	概要
	ProVisionaire Designとネットワークの接続状態を切り替えます。オフライン状態でも接続状態だとProVisionaire Designは機器の検索などでネットワークにデータを送出します。オフィスのLANなどに接続していて、余計なデータを送出したくない場合は非接続状態にしてください。 接続状態です。 非接続状態です。
Solo Mode	機器とオンラインのとき、リンクグループエディターの[SOLO]ボタンを有効にします。

5. ショートカットキー

ここではProVisionaire Designで使えるショートカットキーを紹介します。

Designs

キーの組み合わせ	動作
< F5 >キー	[Online]を実行します。
< Ctrl >キー + < F5 >キー	[Offline]を実行します。
マウスホイール	フェーダーやノブ、数値ボックスの値を変更します。
< Alt >キーを押しながらコンポーネントエディターのパラメーターをクリックする	パラメーターをノミナルに設定します。
< Alt >キー + < F4 >キー	最前面のコンポーネントエディターを閉じます。

Sheet Operations

キーの組み合わせ	動作
上方向キー < Ctrl >キー + 上方向キー	デザインシートを上へスクロールします。 選択中のオブジェクトを上へ移動します。
下方向キー < Ctrl >キー + 下方向キー	デザインシートを下へスクロールします。 選択中のオブジェクトを下へ移動します。
左方向キー < Ctrl >キー + 左方向キー	デザインシートを左へスクロールします。 選択中のオブジェクトを左へ移動します。
右方向キー < Ctrl >キー + 右方向キー	デザインシートを右へスクロールします。 選択中のオブジェクトを右へ移動します。
< Page Up >キー	デザインシートを上へスクロールします。
< Page Down >キー	デザインシートを下へスクロールします。
< Home >キー	左端のオブジェクトへ移動します。
< End >キー	右端のオブジェクトへ移動します。
< Ctrl >キー + < Home >キー	左上隅のオブジェクトへ移動します。
< Ctrl >キー + < End >キー	右下隅のオブジェクトへ移動します。
マウスホイール	デザインシートを上下へスクロールします。
< Shift >キー + マウスホイール	デザインシートを左右へスクロールします。
< Ctrl >キー + マウスホイール	デザインシートを拡大/ 縮小します。
< Alt >キー + < F3 >キー	シート一覧を表示します。

Editing

キーの組み合わせ	動作
Componentsでオブジェクトをダブルクリックする	スタンプモードを開始します。 スタンプモードは、デザインシートをクリックするたびにオブジェクトを配置する機能です。
< Esc >キー	スタンプモードや編集作業を中断します。
< Ctrl >キーを押しながらオブジェクトをデザインシートにドラッグアンドドロップする	オブジェクトを複製します。
< Ctrl >キーを押しながらコンポーネントをデザインシートから右記のウィンドウ/ダイアログへドラッグアンドドロップする < Ctrl >キーを押しながらパラメーターをエディターから右記のウィンドウ/ダイアログへドラッグアンドドロップする。	コンポーネントまたはパラメーターを以下のウィンドウにアサインします。 -Parameter sets -GPIダイアログ -Remote Control Setup Listダイアログ -DCPコンポーネント
コンポーネントまたはパラメーターをParametersエリアから右記のウィンドウ/ダイアログへドラッグアンドドロップする	コンポーネントまたはパラメーターを以下のウィンドウにアサインします。 -Parameter sets -GPIダイアログ -Remote Control Setup Listダイアログ -DCPコンポーネント
英字キー、数字キー	デザインシートでLabelの先頭文字が一致するコンポーネントを選択します。 複数ある場合は、順次選択します。 Components/Parameter Sets/Parametersで先頭の文字が一致するコンポーネント/パラメーター/グループを選択します。 複数ある場合は、順次選択します。
< Ctrl >キー + クリック	デザインシートで複数のコンポーネント、コンポーネントのポート、ワイヤー、テキストを同時に選択または選択解除します。 コンポーネントエディターで複数のパラメーターを同時に選択または選択解除します。 Parametersエリアで複数のコンポーネント、パラメーターを同時に選択または選択解除します。
< Shift >キー + クリック	複数のオブジェクトを同時に選択または選択解除します。
< Ctrl >キー + < Shift >キー + クリック	DME10/7のコンポーネントエディターで複数のパラメーターを同時に選択または選択解除します。Temporary Link Groupを作ります。
マウスカーソルをドラッグする	デザインシートで四角領域に完全に囲まれたオブジェクトを選択します。
< Ctrl >キーを押しながらマウスカーソルをドラッグする	デザインシートで四角領域に全体または一部が含まれるオブジェクトを選択します。
< Shift >キーを押しながらマウスカーソルをドラッグする	デザインシートで四角領域に完全に囲まれたコンポーネントのインプットボードを選択します。

キーの組み合わせ	動作
< Alt >キーを押しながらマウスカーソルをドラッグする	デザインシートで四角領域に完全に囲まれたコンポーネントのアウトプットボードを選択します。
< Shift >キーと< Alt >キーを押しながらマウスカーソルをドラッグする	デザインシートで四角領域に完全に囲まれたコンポーネントのインプットボードとアウトプットボードを選択します。
接続元のコンポーネントポートから接続先のコンポーネントポートまでドラッグする	コンポーネントのポート間を結線します。 ドラッグ中にスペースキーを押すとTransmitterまたはReceiverのFormダイアログが開きます。
ワイヤーを選択して、< Space >キーを押す	ワイヤーをTransmitterコンポーネントとReceiverコンポーネントに接続します。
複数のポートを選択し、選択されたポートの１つから接続先のオブジェクトまでドラッグする	複数のポート間を同時に結線します。
Probe Monitorコンポーネントがonのときにオーディオコンポーネントのアウトプットボードを選択する	1番のモニタープローブをセットします。
Probe Monitorコンポーネントがonのときに< Shift >キーを押しながらオーディオコンポーネントのアウトプットボードを選択する	2番のモニタープローブをセットします。
Probe Monitorコンポーネントがonのときにオーディオコンポーネントのインプットボードを選択する	オシレータープローブをセットします。

6. アラート関連リスト

機器に異常が発生すると、アラートメッセージを表示します。アラートを表示中にそれよりも高いランクの異常が発生すると、そのアラートを表示します。
それぞれのアラートの詳細については、下記リンクから参照ください。

6.1. パワーアンプ

PCシリーズ
XMVシリーズ

6.2. プロセッサー

DME10/7
MRX7-D
MTX5-D
MTX3

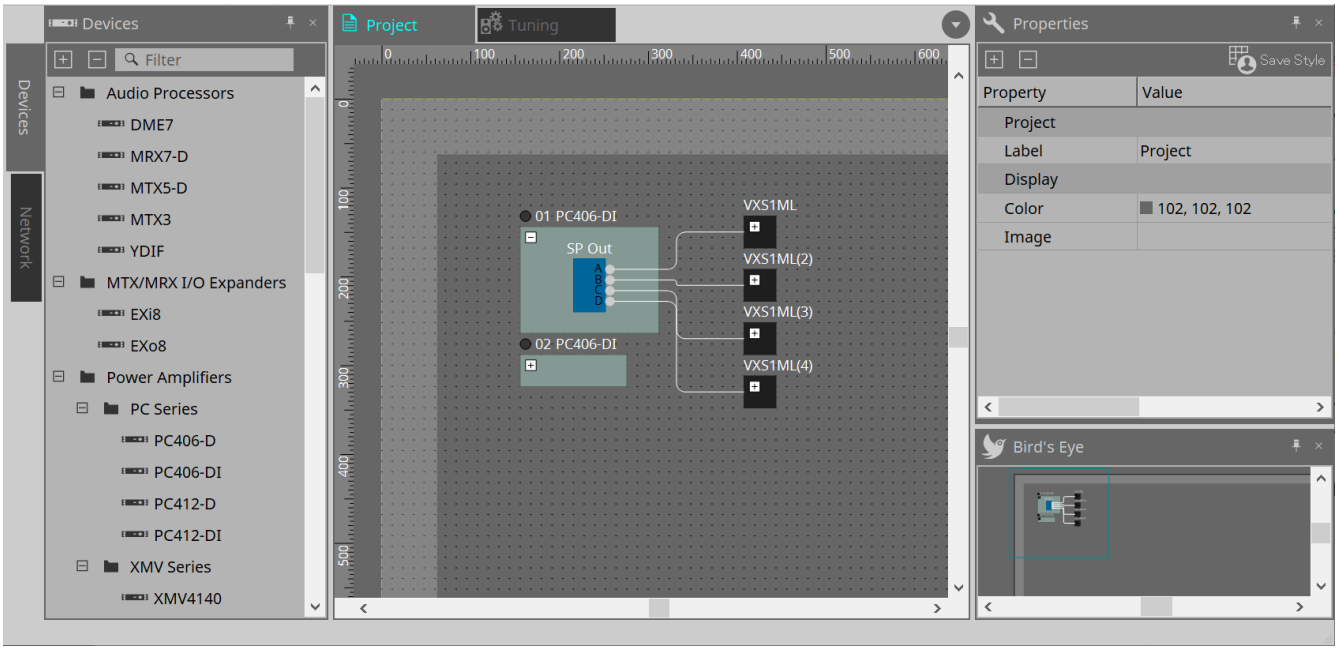
6.3. パワードスピーカー

DZR/DXS-XLFシリーズ

7.「Project」シート

「Project」シートを開くと、「Devices」エリア、「Network」エリア、「Project」シート、「Properties」エリア、「Bird's Eye」ビューが表示されます。

「Bird's Eye」ビューは「Project」シートの全景を表示します。



7.1.「Project」シート

機器を配置するシートです。ここに配置された機器がプロジェクトに登録されます。
登録された機器の基本設定は「Properties」エリアで設定します。

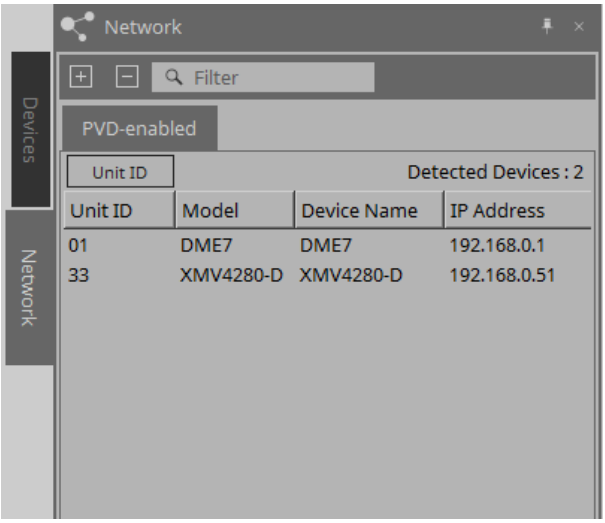
7.2.「Devices」エリア

「Project」シートに仮想機器として配置するときに、このエリアから機器をドラッグ&ドロップして配置します。

"YDIF"ついての詳細は「YDIF」の項目を参照ください。

7.3.「Network」エリア

コンピューターと同じネットワーク内にある機器を検出し、表示します。
表示されている機器を「Project」シートにドラッグ&ドロップすることでプロジェクトに登録されます。
[Unit ID]ボタンをクリックすると表示される「Change Unit ID」ダイアログで、機器本体のUnit IDを変更することができます。



RM-CG / RM-TT

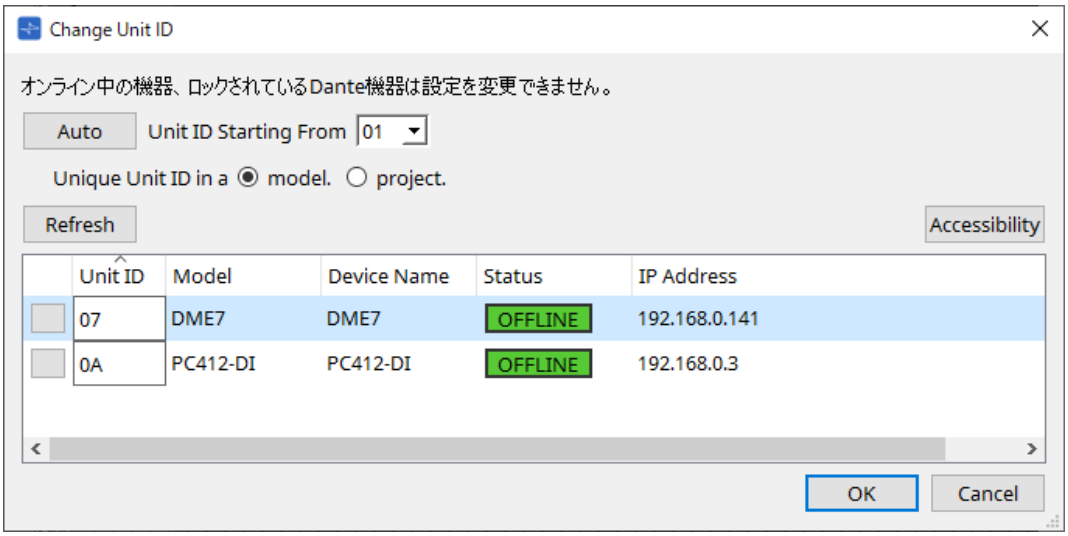
これらの機器をコントロールするには、ProVisionaire Designでログインする必要があります。
初期パスワードが設定されていない場合は、アイコンが、初期パスワードは設定されているがログインしていない場合は、アイコンが表示されます。
コンテキストメニューまたはSystemメニューのRM Settingsで実行できます。

7.3.1.「Change Unit ID」ダイアログ

このダイアログで機器本体のUNIT IDを変更することができます。UNIT IDを変更すると、機器が再起動するため、「Network」エリアから一時的に表示されなくなります。
オンライン状態の機器のUNIT IDは変更できません。

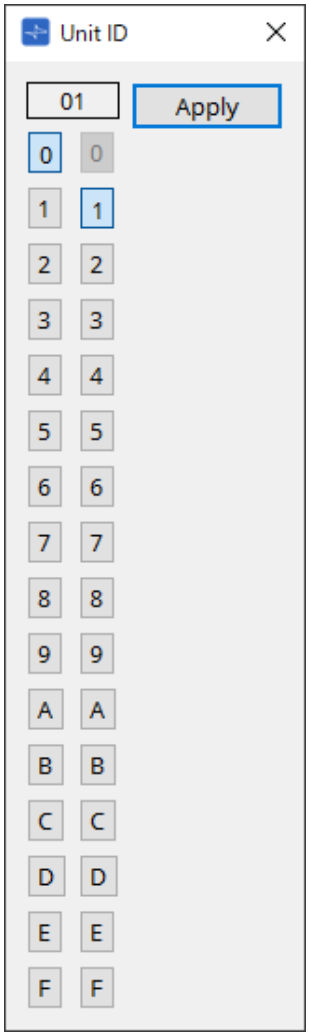
対象機器：DME10/7, PCシリーズ, RM-CG, RM-TT, VXL1-16P, DZR/DXS-XLFシリーズ（Danteモデルのみ）

MTXシリーズとXMVシリーズは本操作の対象外です。リアパネルのディップスイッチでUnit IDを設定してください。



- **[Auto]ボタン**
  [Unit ID Starting From]リストボックスで選択した番号から自動的にUNIT IDを機器に割り振ります。
- **[Unique Unit ID in a model/project]ラジオボタン**
  [Auto]ボタンを押したときのUNIT IDの割り振り方をモデル(model.)ごとにユニークにするか、プロジェクト(project.)でユニークにするかを切り替えます。
- **[Refresh]ボタン**
  ボタンの下にある機器リストを更新します。
- **[Accessibility]ボタン**
  選択中の機器のUNIT IDを変更するための補助ダイアログである「Unit ID」ダイアログを開きます。下の機器リストのIdentifyボタンや[Unit ID]テキストボックス以外を右クリックしても「Unit ID」ダイアログが開きます。
- **機器リスト**
  コンピューターと同じネットワーク内にある機器を検出し、表示します。
  - **Identifyボタン**
    UNIT IDの左にあるこのボタンを押すと、対象の機器のインジケーターが数秒間点滅します。
  - **[Unit ID]テキストボックス**
    対象機器のUNIT IDを設定します。
  - **[Model]/[Device Name]/[Status]/[IP Address]**
    機器の情報を表示します。クリックするとリストをソートします。

■「Unit ID」ダイアログ



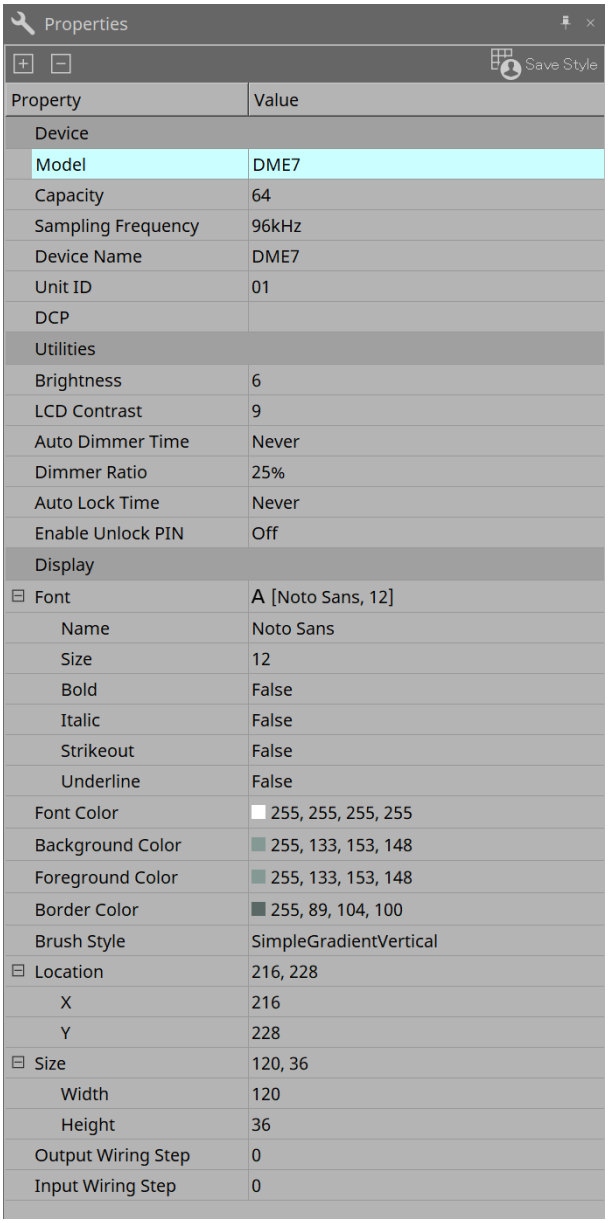
ボタンを押すと、上部にUnit IDを表示します。
機器のUnit IDは連続して変更できます。

上位で０を選択したときに、すでに下位が０だった場合は、自動的に1に変更されます。

- **[Apply]ボタン**
  UNIT IDを選択中の機器に適用します。

7.4.「Properties」エリア

シートやオブジェクトの情報を表示/設定します。
機器の設定に関わる項目の詳細や、クリックするとダイアログが表示される項目については、各機器の項目を参照してください。



- **[Save Style]ボタン**
  [Save Style]ボタンをクリックすると、「Properties」エリアに表示されている情報が初期値としてコンピューターに保存され、新規に作成される他のプロジェクトでも適用されます。対象はコンポーネント/ポート/ワイヤー/デザインシートです。
  「Properties」エリアで設定されている項目をユーザースタイルとして記憶させると、次に新規コンポーネントを配置したときやワイヤーをひいたときにスタイルに保存された機器設定/外観で配置されます。
  他のコンピューターで同じユーザースタイルを使用する場合は、以下のいずれかの方法を実行してください。
  - [File]メニューの[Export Style]でユーザースタイルをファイル化し、他のコンピューターでファイルを [File]メニューの [Import Style]で読み込む。
  - [File]メニューの[Save with Style]でユーザースタイル込みのプロジェクトファイルを作成し、他のコンピューターでファイルを読み込んだあと、[File]メニューの[Import Style from Project File]で読み込む。

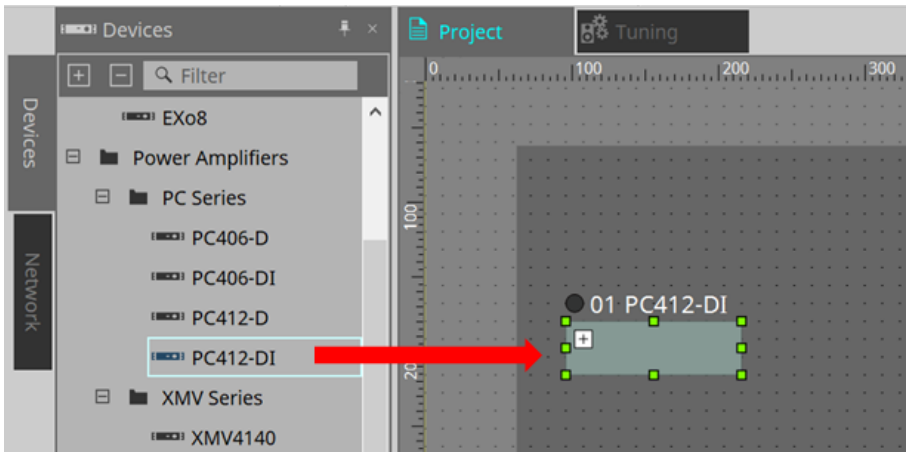
- **Device**
  - **Model**
    モデル名を表示します。
  - **Device Name**
    対象機器のUser Defined Nameを表示します。ダブルクリックすると編集できます。
  - **Unit ID**
    デバイスのUnit IDを表示します。オンライン中は変更できません。
- **Display**
  - **Output Wiring Step**
    Output Portに接続されているワイヤー同士の間隔です。
    同時にワイヤーの"Wire Routing"をAutomatic、"Auto Block Avoidance"をFalseに設定すると等間隔に表示されます。
  - **Input Wiring Step**
    Input Portに接続されているワイヤー同士の間隔です。
    同時にワイヤーの"Wire Routing"をAutomatic、"Auto Block Avoidance"をFalseに設定すると等間隔に表示されます。
- **Object**
  シート上のデバイスまたはコンポーネントのPortを選択したとき、Labelをクリックすると表示されるをクリックすると、「Port Label」ダイアログを開きます。

7.5. 機器の配置

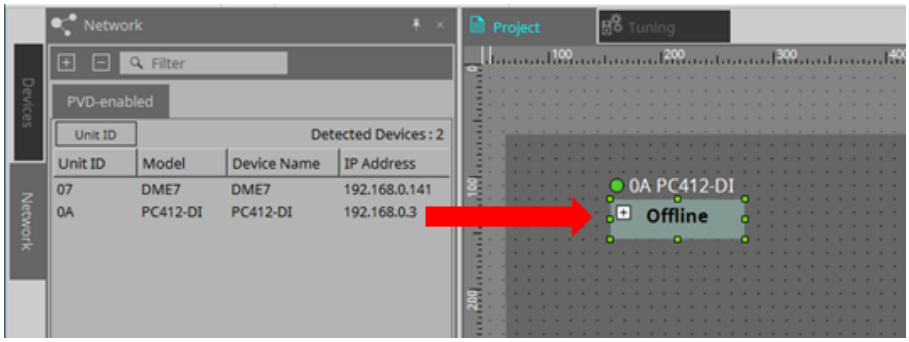
機器を「Project」シートに配置する方法を説明します。

「Devices」エリアや「Network」エリアのオブジェクトのどれかを選択している状態で英字キーを押すと、先頭文字が一致するオブジェクトが選択されます。

- **「Devices」エリアから機器を「Project」シートにドラッグ&ドロップする。**
  機器の台数やUNIT IDを選択できます。UNIT IDは「Properties」エリアで変更できます。



- **コンピューターを機器のネットワークにつなげて、「Network」エリアから機器を「Project」シートにドラッグ&ドロップする。**
  「Network」エリアにつながっているはずの機器が表示されない場合は、機器がネットワークにつながっているか、または電源がオンになっているか確認してください。
  スピーカーは「Network」エリアに表示されません。



[Device Group]をダブルクリックしてスタンプモードにして、「Project」シートをクリックすると、シートをクリックするたびに[Device Group]が配置されます。
スタンプモードを解除する場合は、< Esc >を押してください。

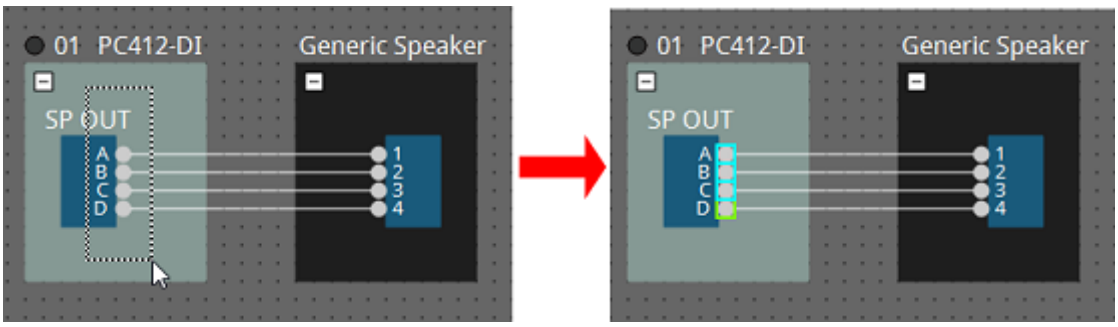
7.6. オブジェクトの複数選択

「Project」シートに配置されたオブジェクトを複数選択する方法を説明します。

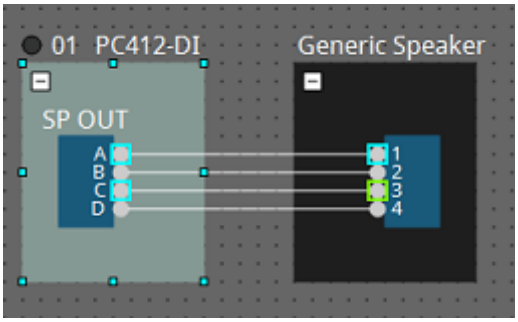
- **マウスカーソルで対象を完全に囲む**
  マウスカーソルをドラッグするとシートで四角領域に完全に囲まれたオブジェクトを選択します。
- **< Ctrl >を押しながらマウスカーソルで対象を完全にまたは一部を囲む**
  < Ctrl >を押しながらマウスカーソルをドラッグするとシートで四角領域に全体または一部が含まれるオブジェクトを選択します。

機器の内部のオブジェクトを選択する場合は、ドラッグ開始位置を機器の中にしてください。その機器の内部のオブジェクトのみが選択対象になります。

Device Groupを含んで囲んだ場合、ドラッグ開始位置がシート上であればシート上のオブジェクトが選択されます。ドラッグ開始位置がDevice Gruop上であれば、Device Gruop内のオブジェクトが選択されます。



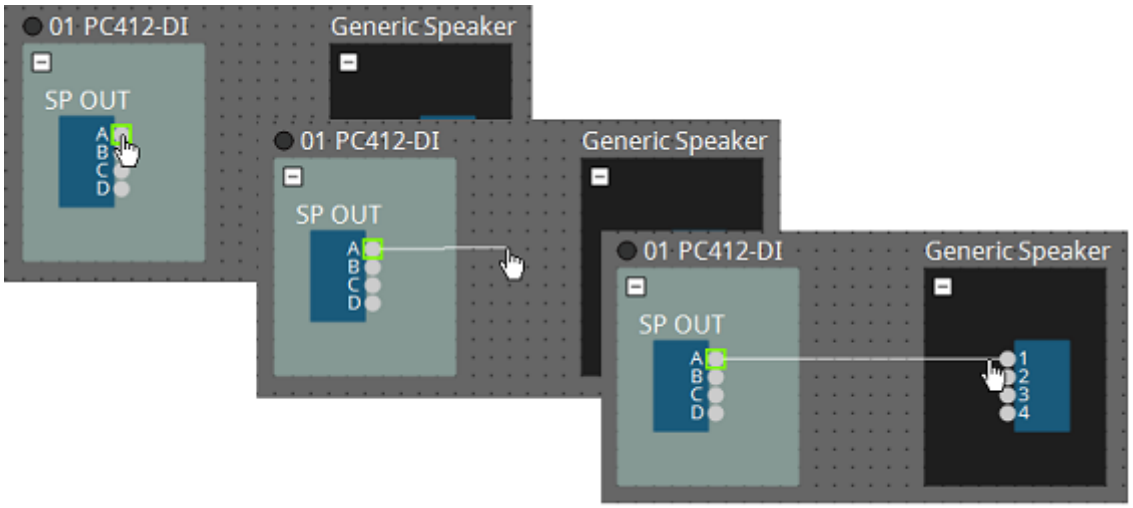
- **< Ctrl >を押しながら対象をクリックする**
  < Ctrl >を押しながら対象をクリックすると、任意のオブジェクトを複数選択できます。
  すでに選択されている対象を< Ctrl >を押しながらクリックすると選択を解除できます。



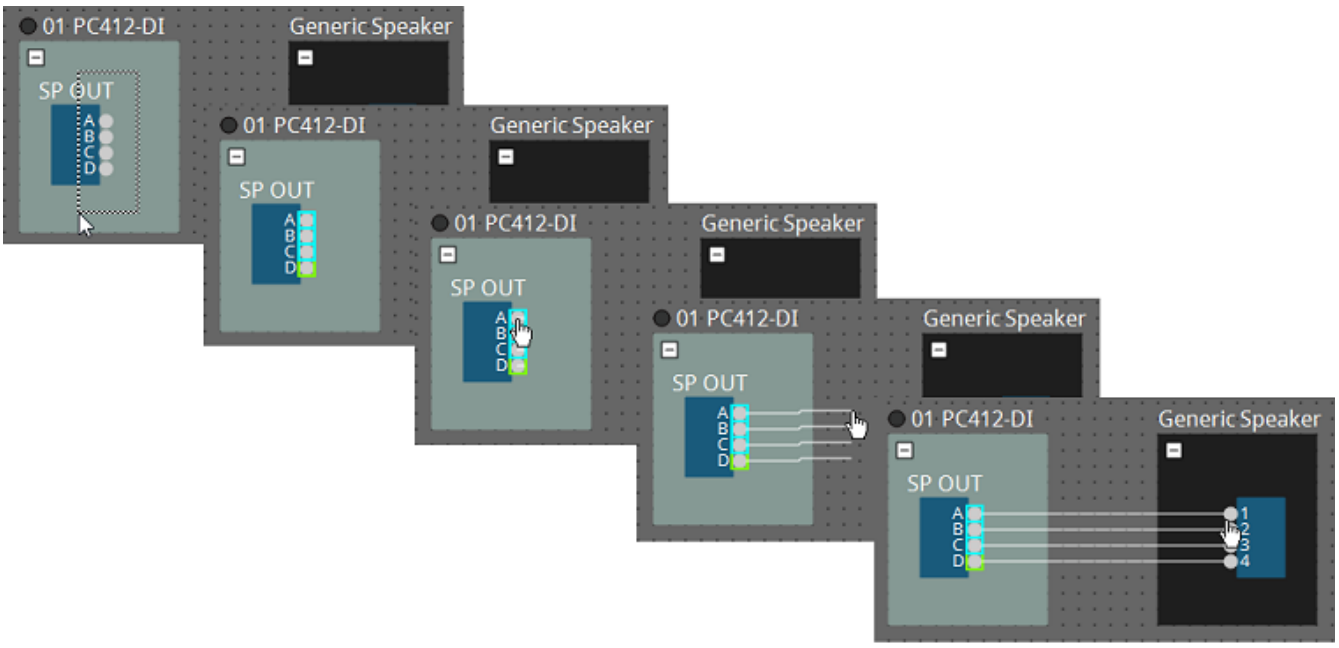
7.7. ポート間の結線

機器のポート間を結線する(ポート間にワイヤーを張る)方法を説明します。

- **1本ずつ結線**
  出力ポートの1つを接続先の機器の入力ポートにドラッグします。



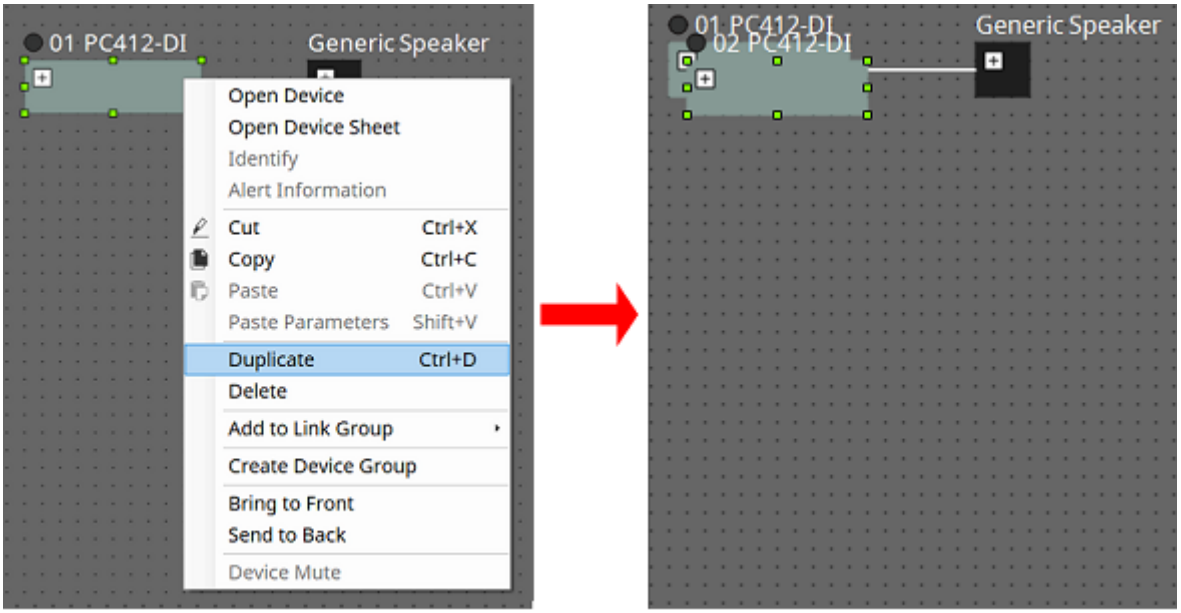
- **複数本同時に結線**
  複数の出力ポートを選び、その中から任意のポートの1つを接続先の機器の入力ポートにドラッグします。



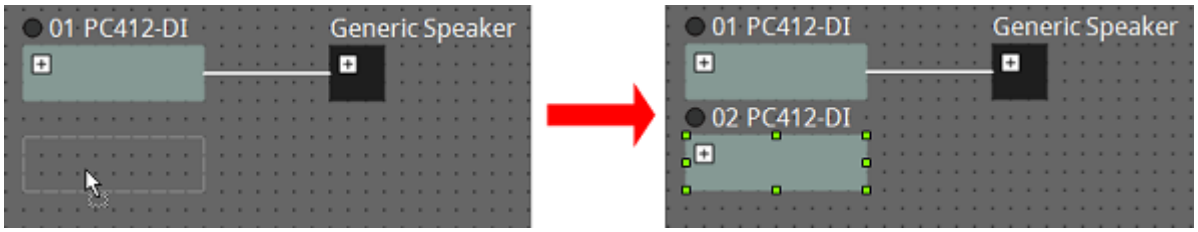
7.8. 機器を複製する

機器をパラメーターごと複製する方法を説明します。

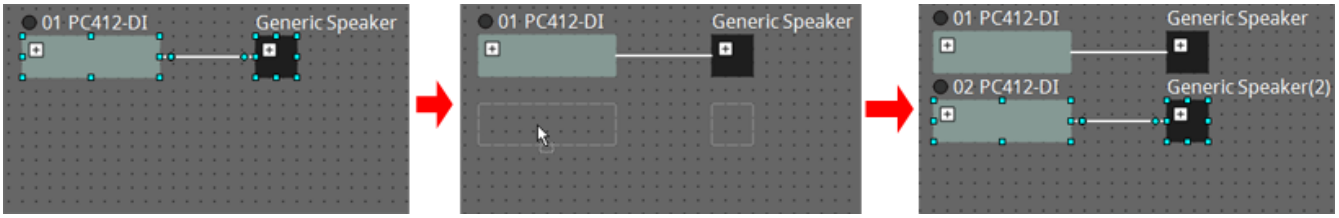
- **オブジェクトを右クリックして[Duplicate]を選択**
  オブジェクトに重なった形で複製が作成されます。ワイヤーごと複数のオブジェクトを選択した状態で[Duplicate]を選択すると、ワイヤーを含めて複製が作成されます。



- **オブジェクトを< Ctrl >を押しながらドラッグ&ドロップ**
  ドロップしたところに複製が作成されます。

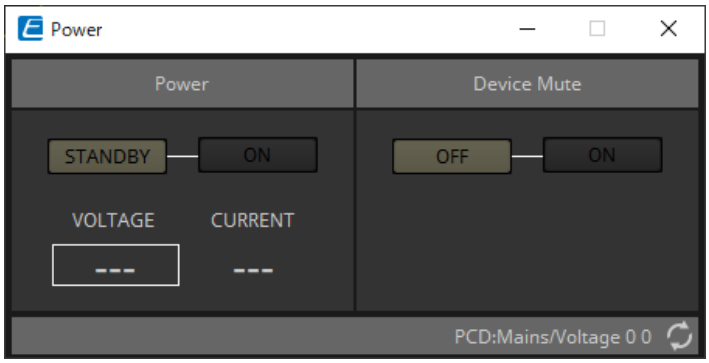


- **ワイヤーごと複数のオブジェクトを< Ctrl >を押しながらドラッグ&ドロップ**
  ドロップしたところにワイヤーを含めて複製が作成されます。



7.9.「Group」Editor

デバイスグループ内の機器の電源やミュートを一括でオン/オフします。
デバイスグループをダブルクリックするか、右クリックして表示されるコンテキストメニューの[Open Group Editor]を選択すると、「Group」Editorが開きます。オンライン中のみ有効です。



- **「Power」エリア**
  デバイスグループ内の機器の電源を一括でスタンバイまたはオンに切り替えます。
- **「Device Mute」エリア**
  デバイスグループ内の機器のミュートを一括で無効/有効に切り替えます。

8.「Tuning」シート

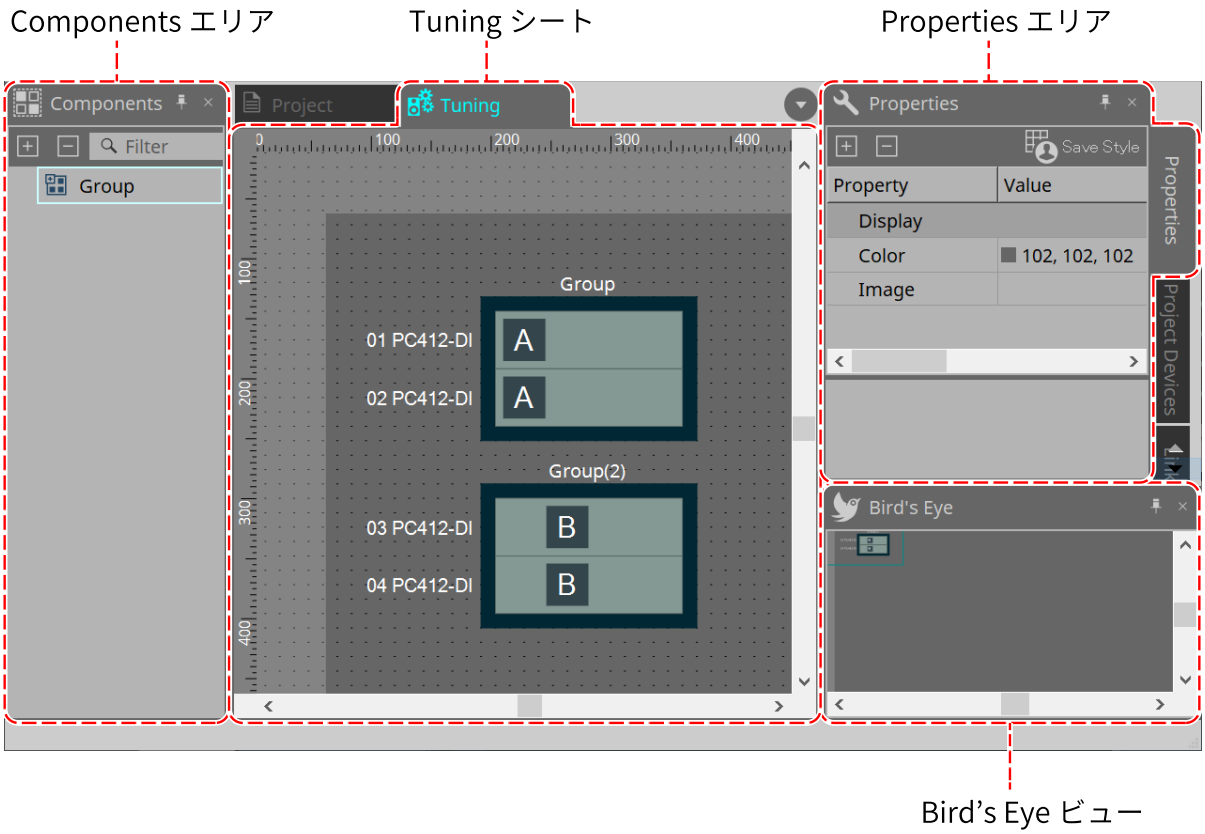
対象機器：PCシリーズ, XMVシリーズ, DZR/DXS-XLFシリーズ（Danteモデルのみ）

同じシリーズの機器をまたいでパワーアンプのチャンネル単位でグループ化したものをリンクグループと呼びます。グループ化されたチャンネルはリンクグループエディターを使って、同種のパラメーター同士を相対値または絶対値で連動操作することができます。
リンクグループの作成は、「Tuning」シートに「Components」エリアから[Group]をドラッグ&ドロップします。「Components」エリアで[Group]をダブルクリックすると、スタンプモードになります。シートをクリックするたびに[Group]が配置されます。スタンプモードを解除する場合は、< Esc >を押してください。

リンクグループへの登録には、以下の方法があります。

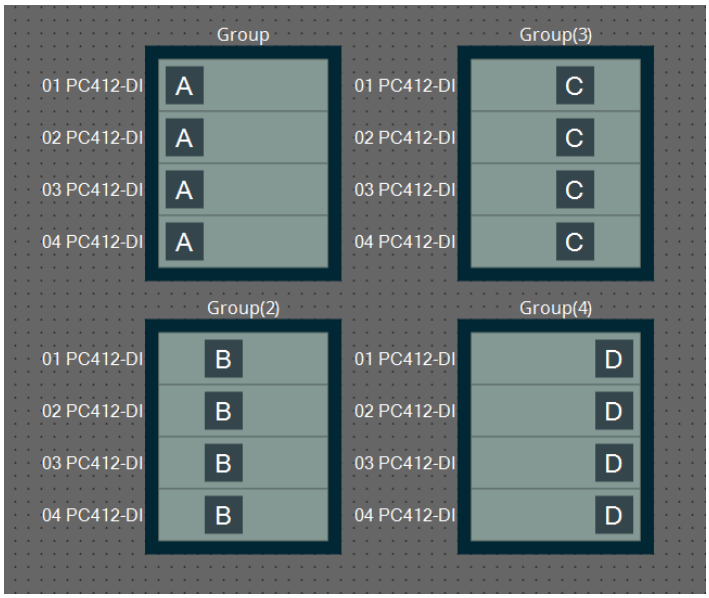
登録元	登録方法
「Project」シート	機器を右クリックして、[Add to Link Group]で登録するチャンネルとリンクグループを選択する。
	複数機器を選択したあと、機器を右クリックして、[Add to Link Group]で登録するチャンネルとリンクグループを選択する。
「Tuning」シート	「Project Devices」エリアの「Amplifiers」または「Speakers」のチャンネルを[Group]にドラッグ&ドロップする。
	「Project Devices」エリアの「Amplifiers」または「Speakers」のチャンネルを右クリックして、[Add to Link Group]で登録するリンクグループを選択する。

「Tuning」シートのオブジェクトをダブルクリックすると、リンクグループコンポーネントエディターが開きます。リンクグループコンポーネントエディターについては、各機器のコンポーネントエディターを参照してください。



8.1.「Tuning」シート

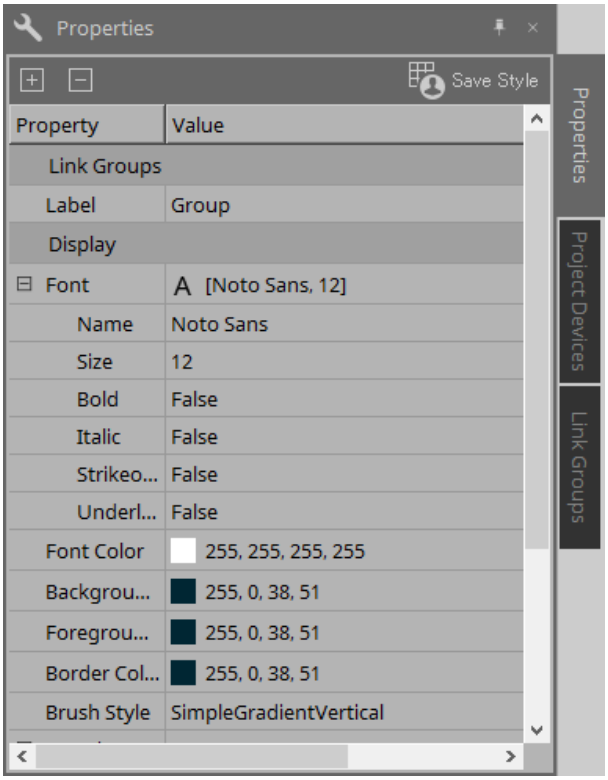
リンクグループを可視化しています。



リンクグループを右クリックして[Open Link Group Editor]を選択すると、リンクグループエディターが表示されます。
リンクグループエディターについては、パワーアンプの各機種を参照してください。

8.2.「Properties」エリア

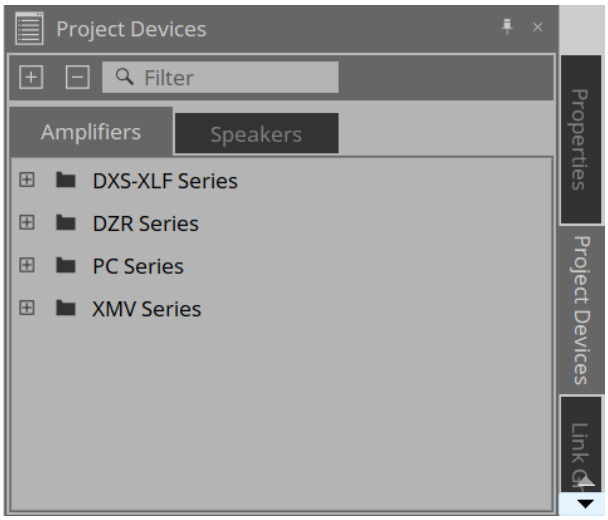
シートやオブジェクトの情報を表示/設定します。
[Save Style]ボタンをクリックすると、[Location]以外の情報をコンピューターに記憶させ、そのオブジェクトのデフォルト設定とします。



8.3.「Project Devices」エリア

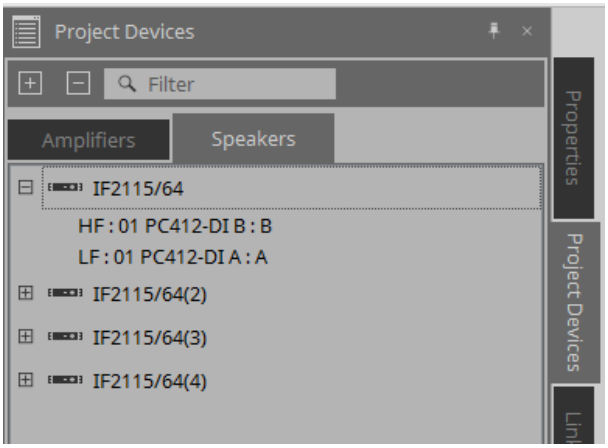
プロジェクトに登録されている機器をツリー表示します。

8.3.1. [Amplifiers]



展開すると、パワーアンプのチャンネルが表示されます。
[Group]にチャンネルをドラッグ&ドロップすると、リンクグループに登録できます。
右クリックして表示されるコンテキストメニューについては、コンテキストメニューを参照してください。

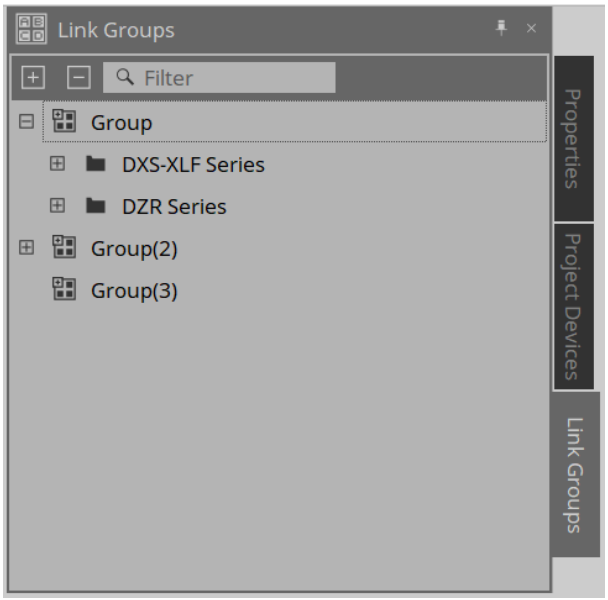
8.3.2. [Speakers]



展開すると、「Project」シートで、スピーカーのポートに接続されているパワーアンプのチャンネルが表示されます。
[Group]にチャンネルをドラッグ&ドロップすると、リンクグループに登録できます。
右クリックして表示されるコンテキストメニューについては、コンテキストメニューを参照してください。

8.4.「Link Groups」エリア

リンクグループとリンクグループに登録されたパワーアンプのチャンネルをツリー表示します。



右クリックして表示されるコンテキストメニューについては、コンテキストメニューを参照してください。

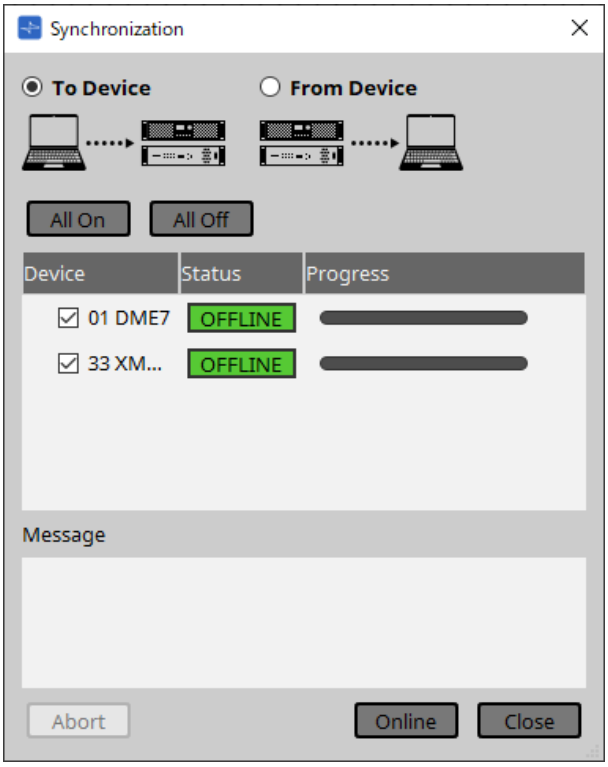
9. オンラインと同期

機器とコンピューターを接続して、ProVisionaire Designで作成した各種設定を機器に転送します。また、機器のデータをProVisionaire Designに取り込むこともできます。
機器とProVisionaire Designが同期して動作する状態を「オンライン状態」と呼びます。また、その状態にするための操作を「同期(Synchronization)」と呼びます。
同期によってProVisionaire Designと機器本体の設定を合わせて、両者の設定を一致させるとオンライン状態となり、機器をリアルタイムでコントロールできるようになります。

9.1. オンライン

ProVisionaire Designでオンライン状態にするには、ツールボタンの[Online]ボタンをクリックし、「Synchronization」ダイアログを表示させます。または、[File]メニューのGo Online - from Devicesを実行します。

9.1.1. 「Synchronization」ダイアログ



- **[To Device]ラジオボタン**
  ProVisionaire Designの設定を機器に反映させる場合に選択します。
- **[From Device]ラジオボタン**
  機器の設定をProVisionaire Designに反映させる場合に選択します。

以前にProVisionaire Designで施工したシステムであることが必要です。
また、そのときのプロジェクトファイルが必要となります。

- **[All On]ボタン**
  機器一覧にある全機器の[Device]チェックボックスにチェックを入れます。
- **[All Off]ボタン**
  機器一覧にある全機器の[Device]チェックボックスのチェックを外します。

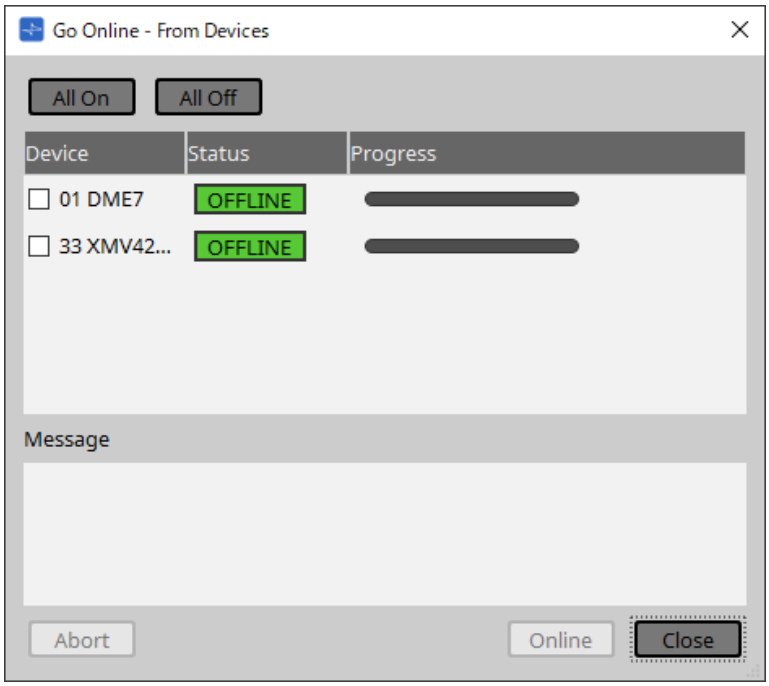
- **機器一覧**
  プロジェクトに登録されている機器を表示します。
  - **[Device]チェックボックス**
    同期したい機器にチェックを入れます。
  - **Status**
    機器との同期状態を表示します。
    表示する内容は以下となります。
    - 緑色：オフライン状態
    - 白色：ロスト状態
      ロスト状態とは、機器の電源が入っていないなどの要因でProVisionaire Designが機器を発見できていない状態です。
    - 青色：オンライン状態
    - 黄色：互換性が無い状態
  - **Progress**
    同期の進捗状態が表示されます。
- **Message欄**
  [Abort]ボタンをクリックして中断したり、エラーが発生した場合、詳細がここに表示されます。
- **[Abort]ボタン**
  クリックすると、同期を中断します。
- **[Online]ボタン**
  クリックすると選択した機器と同期を開始します。
- **[Close]ボタン**
  同期をキャンセルし、ダイアログを閉じます。
  同期中は、クリックできません。

9.1.2. 手順

1. **ツールバーの[Online] ボタンをクリックする。**
   「Synchronization」ダイアログが表示されます。
2. **[To Device] または[From Device] から同期の方向を選択する。**
   [To Device] を選択した場合
   ProVisionaire Designの設定を機器に送信し上書きします。
   [From Device] を選択した場合
   機器の設定をProVisionaire Designに読み込みます。
3. **オンラインにする機器にチェックを入れる。**
4. **[Online]ボタンをクリックする。**
   同期を開始し、同期状態の進捗が表示されます。
   [Abort]ボタンをクリックすると、動作が中断されます。同期途中に間違いに気づき、パラメーターを変更したい場合などの時間短縮に有効です。設定は途中まで送信されていますので、修正などをしたあとに、必ず同期を最後まで行ってください。
   同期が正常に終了すると、ダイアログは自動的に閉じます。

9.1.3. 「Go Online- From Devices」ダイアログ

ネットワーク上に発見した機器の設定を、編集中のプロジェクトファイルまたは新規のファイルに反映します。以前、ProVisionaire Designで施工したシステムであれば、プロジェクトファイルがなくても、機器の設定をプロジェクトファイルへ反映することができます。
メニューバーの[File]メニューからGo Online - From Devicesをクリックし開きます。



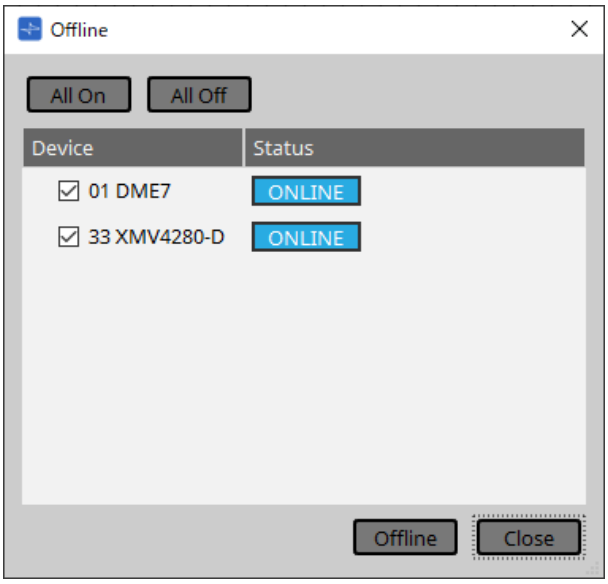
- **[All On]ボタン**
  機器一覧にある全機器の[Device]チェックボックスにチェックを入れます。
- **[All Off]ボタン**
  機器一覧にある全機器の[Device]チェックボックスのチェックを外します。
- **機器一覧**
  プロジェクトに登録されている機器を表示します。
  - **[Device]チェックボックス**
    同期したい機器にチェックを入れます。
  - **Status**
    機器との同期状態を表示します。
    表示する内容は以下となります。
    - 緑色：オフライン状態
    - 白色：ロスト状態
      ロスト状態とは、機器の電源が入っていないなどの要因でProVisionaire Designが機器を発見できていない状態です。
    - 青色：オンライン状態
    - 黄色：互換性が無い状態
  - **Progress**
    同期の進捗状態が表示されます。
- **Message欄**
  [Abort]ボタンをクリックして中断したり、エラーが発生した場合、詳細がここに表示されます。
- **[Abort]ボタン**
  クリックすると、同期を中断します。

- **[Online]ボタン**
  クリックすると選択した機器と同期を開始します。
- **[Close]ボタン**
  同期をキャンセルし、ダイアログを閉じます。
  同期中は、クリックできません。

9.2. オフライン

ProVisionaire Designでオフライン状態にするためには、ツールボタンの[Offline]ボタンをクリックすると表示される「Offline」ダイアログで行います。

9.2.1. 「Offline」ダイアログ



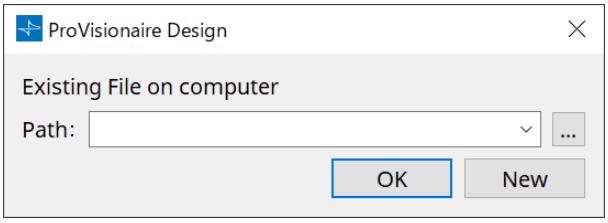
- **[All On]ボタン**
  機器一覧にある全機器の[Device]チェックボックスにチェックを入れます。
- **[All Off]ボタン**
  機器一覧にある全機器の[Device]チェックボックスのチェックを外します。
- **機器一覧**
  プロジェクトに登録されている機器を表示します。
  - **[Device]チェックボックス**
    オフラインにする機器にチェックを入れます。
  - **Status**
    機器との同期状態を表示します。
    表示する内容は以下となります。
    - 緑色：オフライン状態
    - 白色：ロスト状態
      ロスト状態とは、機器の電源が入っていないなどの要因でProVisionaire Designが機器を発見できていない状態です。
    - 青色：オンライン状態
    - 黄色：互換性が無い状態
- **[Offline]ボタン**
  クリックすると選択した機器とProVisionaire Designがオフライン状態になります。
- **[Close]ボタン**
  ダイアログを閉じます。

10. ダイアログ

ここではメニューバーやツールバーなどから呼び出されるダイアログやウィンドウなどについて説明します。

10.1. スタートアップダイアログ

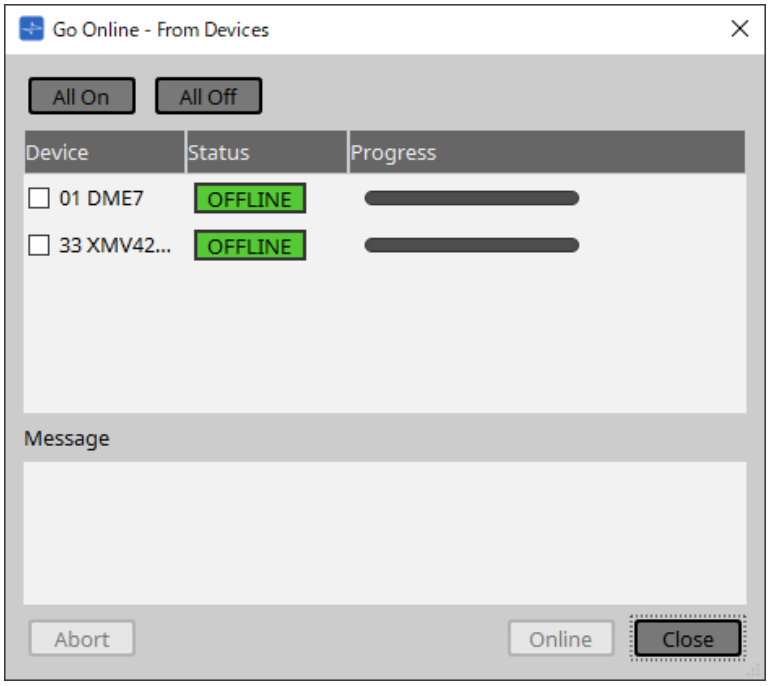
ProVisionaire Designを起動したときに開きます。



- **[Path]プルダウンメニュー**
  最近保存したプロジェクトファイルを表示/選択します。
- **[…]ボタン**
  「Select File」ダイアログが開きます。読み込むプロジェクトファイルを選択してください。
- **[OK]ボタン**
  [Path]プルダウンメニューに表示されているプロジェクトファイルを読み込みます。
- **[New]ボタン**
  新規にプロジェクトを開始します。

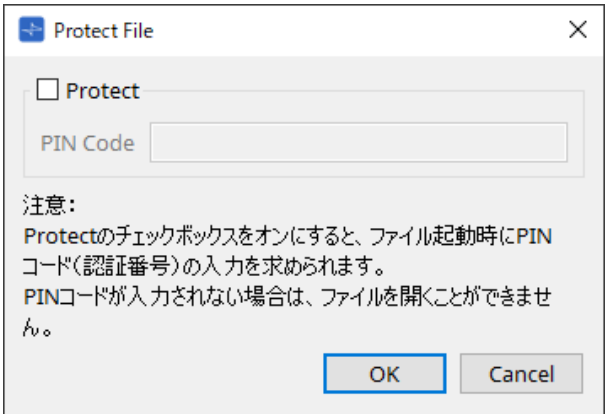
10.2. 「Go Online- From Devices」ダイアログ

メニューバーの[File]メニューからGo Online - From Devicesをクリックし開きます。
「Go Online- From Devices」ダイアログについての詳細は「オンラインと同期」を参照ください。



10.3. 「Protect File」ダイアログ

メニューバーの[File]メニューからProtect Fileをクリックし開きます。ProVisionaire Designではセキュリティのためにプロジェクトファイルに PINコード(暗証番号)を設定できます。



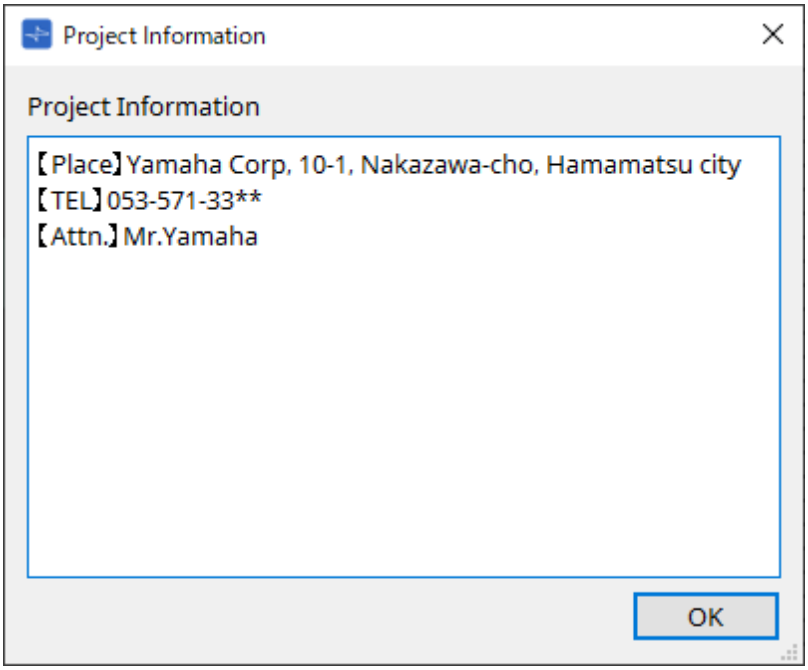
- **[Protect]チェックボックス**
  このチェックボックスをオンにすると、プロジェクトファイル起動時に「Security」ダイアログが開きます。
  チェックボックスをオフにしておくと、すべてのユーザーがプロジェクトファイルを開けます。
- **[PIN Code]**
  [Protect]チェックボックスがオンのとき、PINコード(暗証番号)を入力します(6桁の0〜9とa,b,c,d,e,f。大文字小文字の区別はありません)。

> PINコードを忘れた場合、該当プロジェクトファイルを開くことができなくなります。

- **[OK]ボタン**
  設定を更新し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

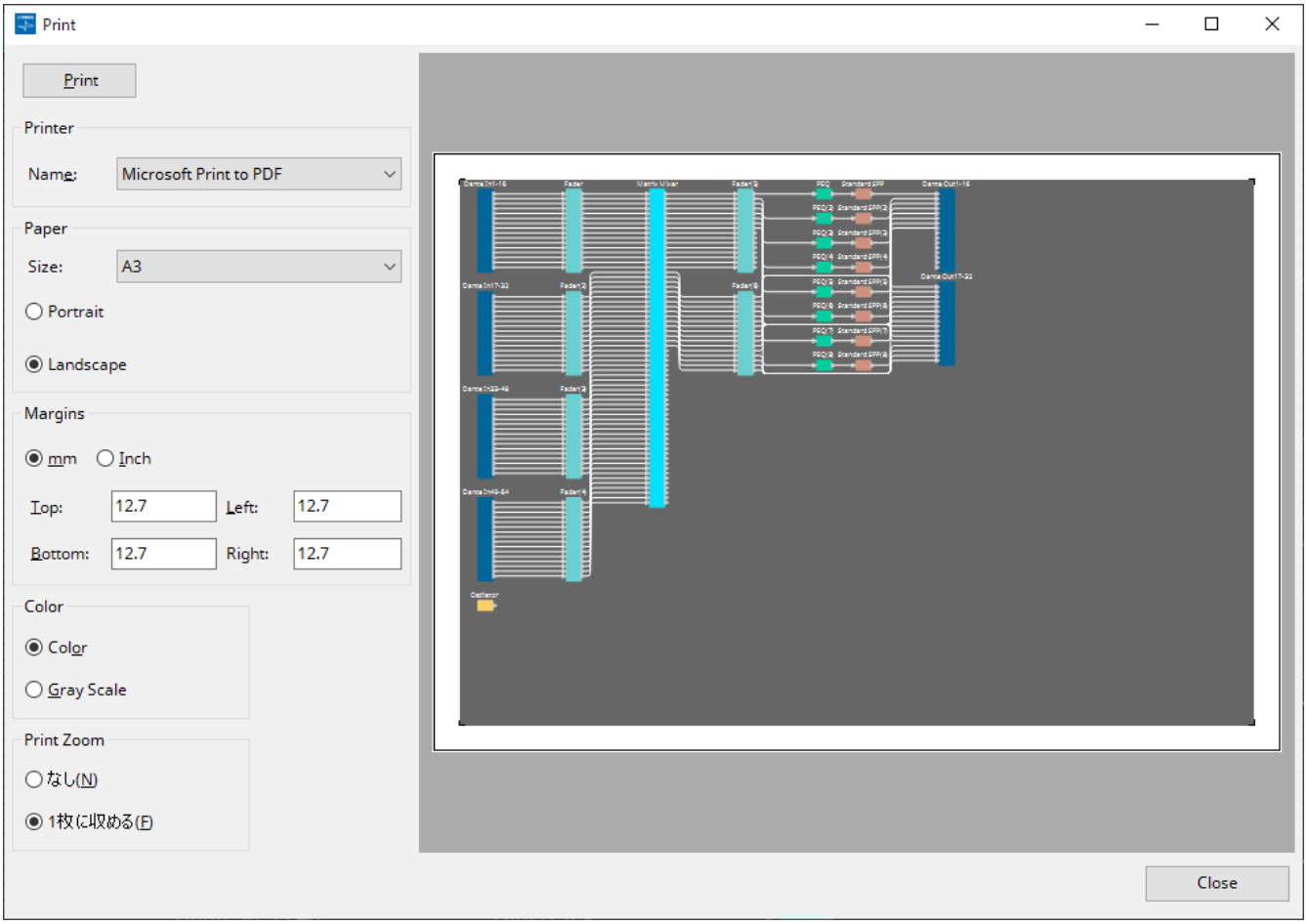
10.4. 「Project Information」ダイアログ

メニューバーの[File]メニューからProject Informationをクリックし開きます。物件情報や連絡先などのメモをプロジェクトファイルに記しておくことができます。



10.5. 「Print」ダイアログ

メニューバーの[File]メニューからPrintをクリックし開きます。シートの印刷に関する設定、シートに表示する用紙のサイズ設定、印刷プレビューの表示をします。



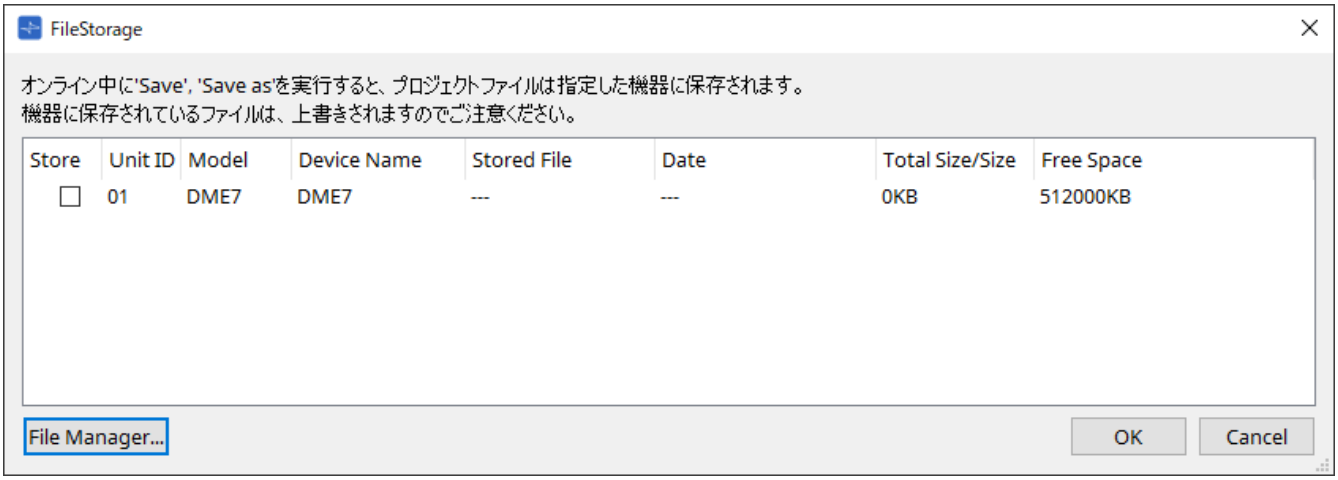
- **[Print]ボタン**
  クリックするとWindows の「印刷」ダイアログが開きます。
- **Printer**
  - **[Name]リストボックス**
    印刷するプリンターを設定します。
- **Paper**
  - **[Size]リストボックス**
    印刷用紙のサイズを設定します。[View]メニューの[Print Area]にチェックを入れたときにデザインシートで表示する用紙のサイズはこの設定に従います。
  - **[Portrait]/[Landscape]ラジオボタン**
    印刷用紙の方向を設定します。デザインシートに表示する用紙の方向はこの設定に従います。
- **Margins**
  - **[mm]/[Inch]ラジオボタン**
    上下左右の余白の単位を設定します。
  - **[Top]/[Bottom]/[Left]/[Right]テキストボックス**
    上下左右の余白を設定します。
- **Color**
  - **[Color]/[Gray Scale]ラジオボタン**

カラー印刷をするか、グレースケール印刷をするかを設定します。

- **Print Zoom**
  - **[なし]/[1枚に収める] ラジオボタン**
    デザインシートに表示されている用紙内の領域を印刷内容とするか、シート全体を1ページに収まるように縮小するかを指定します。
- **プレビューエリア**
  印刷のプレビューを表示します。

10.6. 「File Storage」ダイアログ

メニューバーの[File]メニューからFile Storageをクリックし開きます。DME本体にProVisionaire Designのプロジェクトファイルを保存できます。
1台のDMEに保存できるプロジェクトファイルは、1ファイルのみとなります。



リストには、ProVisionaire Designが検出したすべてのDMEが表示されます。

- **[Store]チェックボックス**
  プロジェクトファイルの保存先のDMEを選択します。DMEを複数選択することもできます。
  ProVisionaire Designと機器がオンライン中に、Save、 Save As、 Save with Styleを実行すると、PCだけではなく選択された複数のDMEにも自動的にプロジェクトファイルを転送し、保存します。

  このとき、機器に保存されているファイルは、上書きされますのでご注意ください。

- **Unit ID / Model / Device Name**
  機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
  機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。

- **Stored File**
  機器になんらかのファイルが保存されている場合は、その名称を表示します。
  保存されていない場合は、空欄となります。機器を発見できていない場合は---で表示します。

- **Date**
  保存済ファイルがある場合、ファイルの更新日時を表示します。
  保存されていない場合は、空欄となります。機器を発見できていない場合は---で表示します。

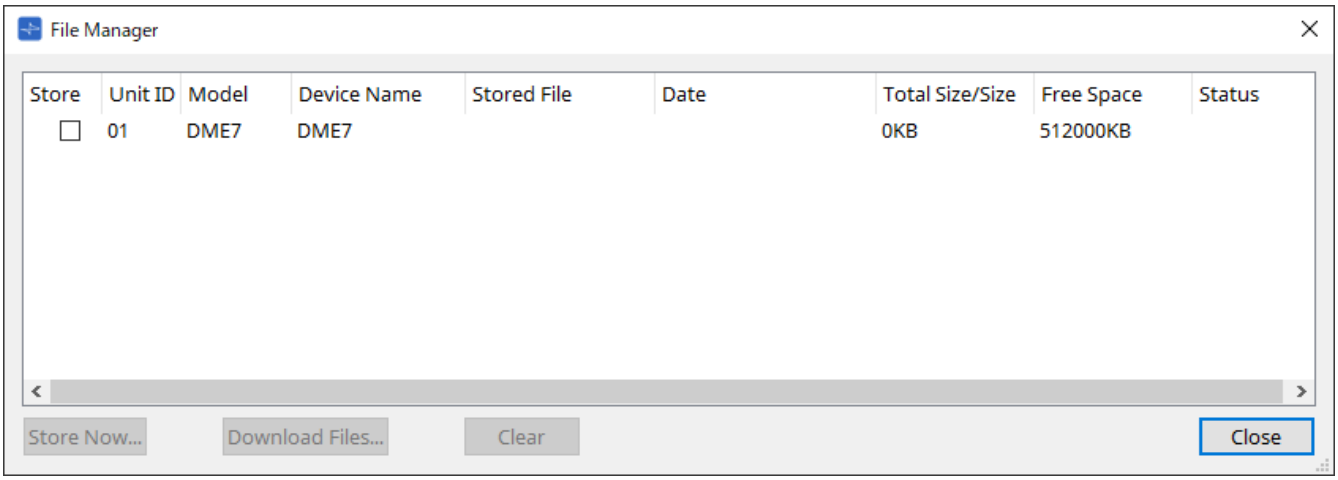
- **Total Size/Size**
  機器の場合は保存先のサイズ、ファイルの場合はファイルサイズを表示します。
  機器を発見できていない場合は---で表示します。

- **Free Space**
  機器の場合のみ保存先の空きサイズを表示します。
  機器を発見できていない場合は---で表示します。

- **[File Manager]ボタン**
  「File Manager」ダイアログを開きます。

10.6.1. [File Manager]ダイアログ

「File Storage」ダイアログの[File Manager]ボタンをクリックし開きます。DMEに任意のプロジェクトファイルを保存します。
保存先は、ProVisioniare Designがネットワーク上に発見したDMEを指定できます。

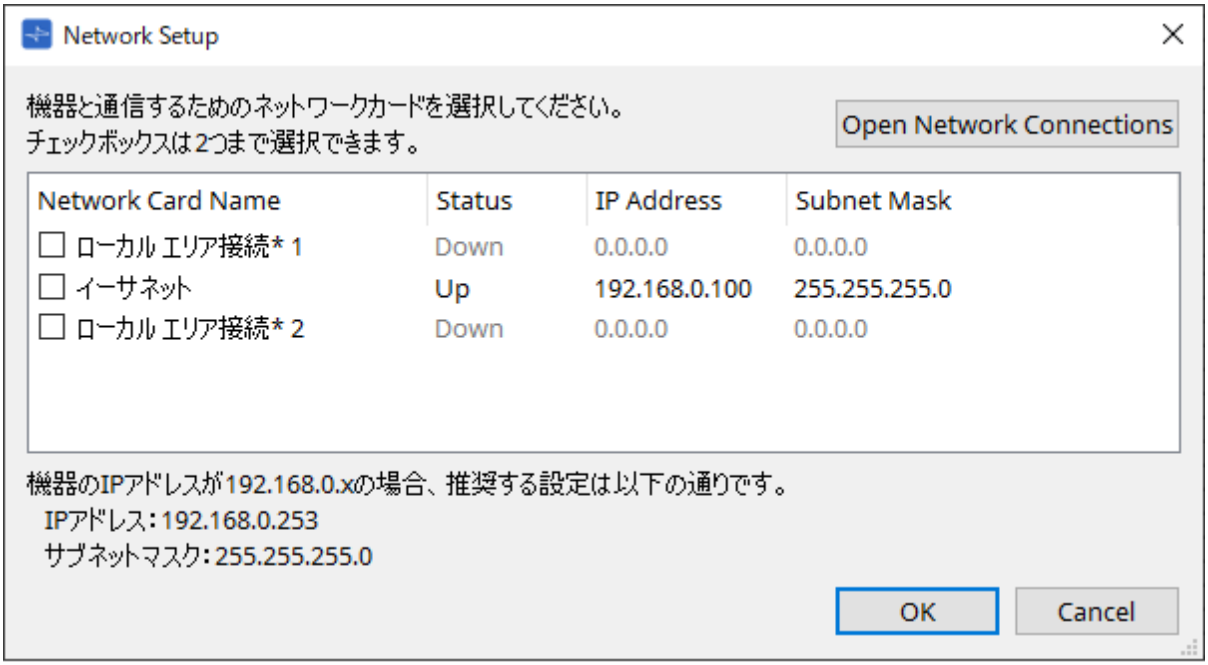


- **[Store]チェックボックス**
  Store Nowを実行したときの保存先を選択します。複数選択できます。
- **Status**
  Store Nowを実行したときの進捗状況を表示します。
- **[Store Now]ボタン**
  チェックボックスをチェックしている機器へプロジェクトファイルを転送します。
- **[Download Files]ボタン**
  チェックボックスをチェックしている機器からファイルをダウンロードします。
- **[Clear]ボタン**
  チェックボックスをチェックしている機器に保存されているファイルを削除します。

10.7. 「Network Setup」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからNetwork Setupをクリックし開きます。
機器と通信するためのコンピューターのネットワークインターフェースカード(以下「ネットワークカード」と呼びます)を選択します。ネットワークカードのIPアドレスの変更もできます

DHCPサーバーを使用しないときは、コンピューターのネットワークカードのIPアドレスを固定にしてください。推奨する設定は以下のとおりです。
IPアドレス：192.168.0.253
サブネットマスク：255.255.255.0

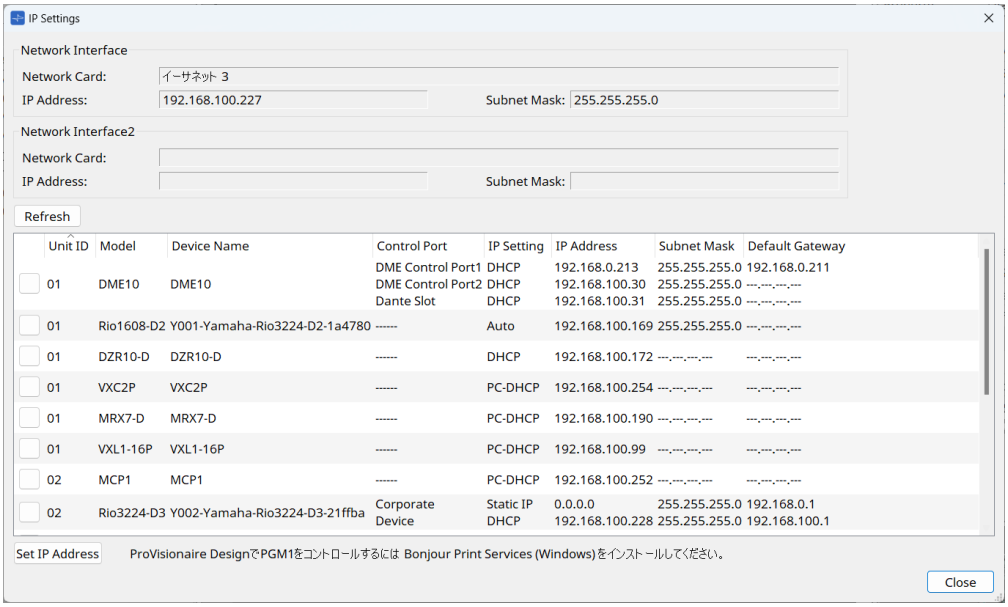


機器と接続する必要がない場合は、[Cancel]ボタンをクリックしてダイアログを閉じてください。

- **Network Card Name**
  ネットワークカードの名前を表示します。
- **Status**
  ネットワークカードの状態(UpまたはDown)を表示します。
- **IP AddressおよびSubnet Mask**
  ネットワークカードに割り当てられているIPアドレスおよびサブネットマスクを表示します。
  機器と同じサブネットのネットワークカードを選択してください。
- **[Open Network Connections]ボタン**
  コントロールパネルの「ネットワーク接続」を開きます。ネットワークカードのIPアドレスを変更するときに使います。
- **[OK]ボタン**
  設定を更新し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

10.8. 「IP Settings」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからIP Settingsをクリックし開きます。
ネットワーク上で発見した機器のIPアドレスを変更します。



- **「Network Interface」**
  「Network Setup」ダイアログで選択中のネットワークカードの名前/IPアドレス/サブネットマスクが表示されます。

- **[Refersh]ボタン**
  ネットワーク上の機器を再検索します。

- **機器リスト**

  - **Identifyボタン**
    Unit IDの左にあるこのボタンを押すと、対象の機器のインジケーターが数秒間点滅します。

  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。Unit IDが重複している場合は、⚠が表示されます。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。

  - **Control Port**
    複数のコントロールポートがある場合にポート名を表示します。

  - **IP Setting**
    IP設定のタイプを表示します。

  - **IP Address/Subnet Mask/Default Gateway**
    機器に設定されているIPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイが表示されます。

- **[Set IP Address]ボタン**
  「IP Address」ダイアログが開きます。

- **[Close]ボタン**
  ダイアログを閉じます。

10.9. 「IP Address」ダイアログ

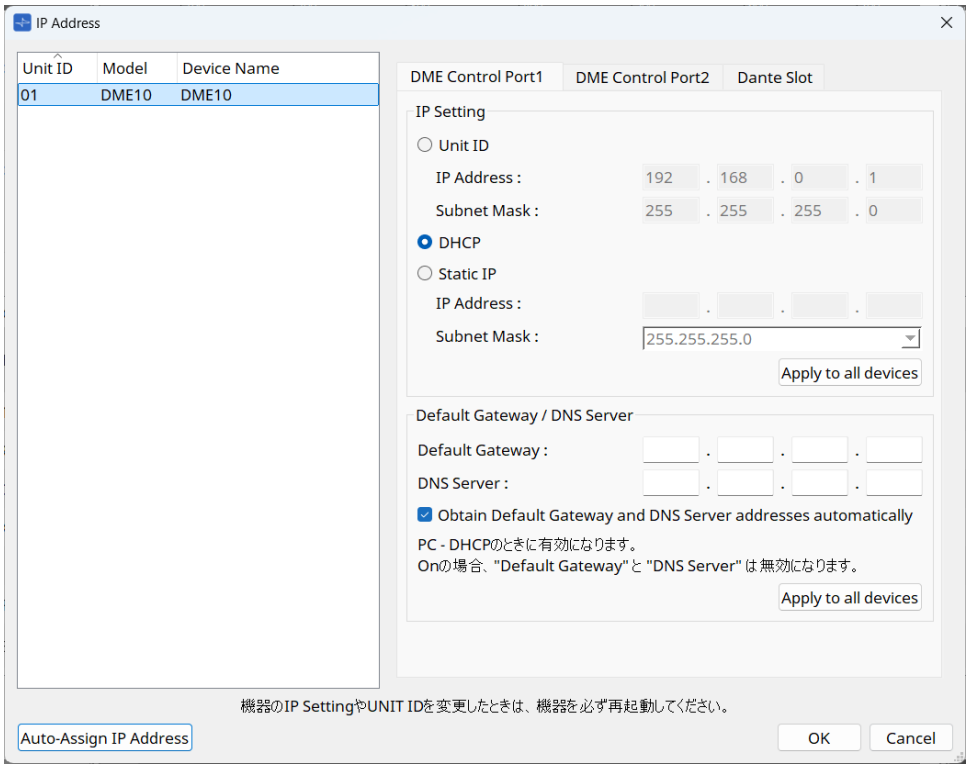
「IP Settings」ダイアログの[Set IP Address]ボタンをクリックし開きます。
機器のIP設定をします。機器同士で重複しないように設定してください。

オンライン状態のときは編集できません。

ProVisionaire Designで異なるサブネットの機器をコントロールする場合は、機器を固定IPアドレスで運用する必要があります。詳細については「サブネット越しに機器をコントロールするための設定」を参照してください。

■ DME10/7の場合

DME Control Port1、DME Control Port2、Dante Slotの3か所を設定します。



● DME Control Port1タブとDME Control Port2タブ

ProVisionaire DesignなどのコントローラがDMEを制御、あるいはDMEが他のデバイスを制御する際のIPアドレスを設定します。

DME Control Port1タブ

Network端子を介してコントロールする場合に使用します。

DME Control Port2タブ

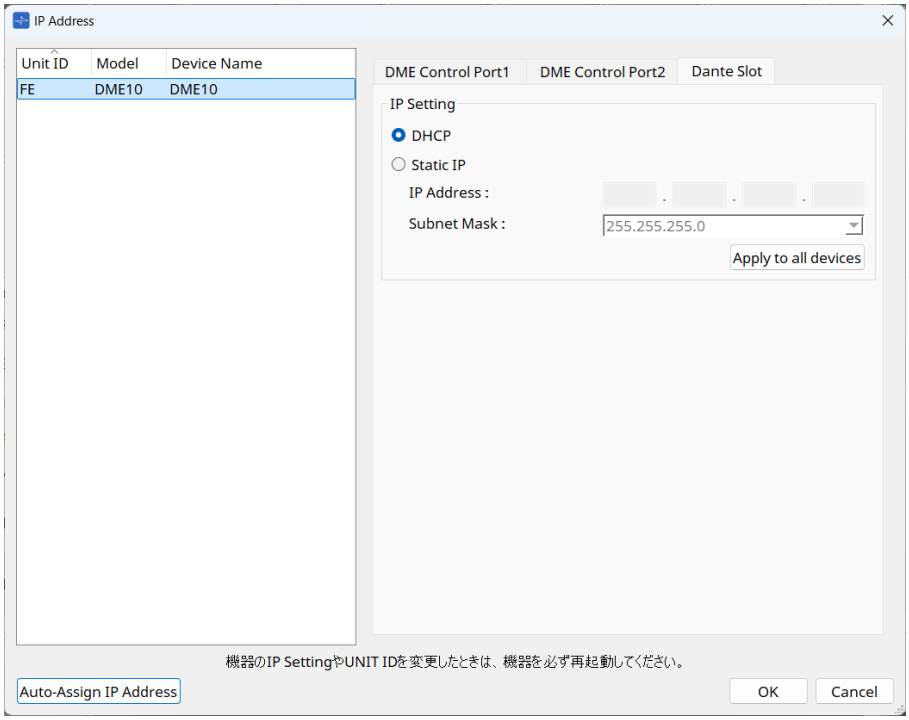
Dante Primary端子を介してコントロールする場合に使用します。
この際、Danteポートには本体をコントロールする信号とDanteをコントロールする信号が重畳されます。

Dante Primary/Secondary端子を介してDanteをコントロールする際のIPアドレスはDante Controllerで設定してください。

- **[Unit ID]ラジオボタン(DME Control Port1のみ)**
  機器のUNIT IDを基にして、自動的にIPアドレスを設定します。
  設定はIPアドレスが192.168.0."UNIT ID"、サブネットマスクが255.255.255.0となります。
- **[DHCP]ラジオボタン**
  DHCPサーバーでIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーを自動で設定します。
  DHCPサーバーがなければ、DME Control Port1は未定義となります。DME Control Port2はリンクローカルアドレスが自動的に設定されます。
- **[Static IP]ラジオボタン**
  IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
- **[Default Gateway]テキストボックス**
  デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
- **DNS Server**
  DNSサーバーのアドレスを設定します。
  - **[Obtain Default Gateway and DNS Server address automatically]チェックボックス**
    チェックを入れるとデフォルトゲートウェイのIPアドレスを自動取得します。上のデフォルトゲートウェイのIPアドレスの設定は無効となります。
  - **[Apply to all the devices]ボタン**
    デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーの状態をDMEに設定します。

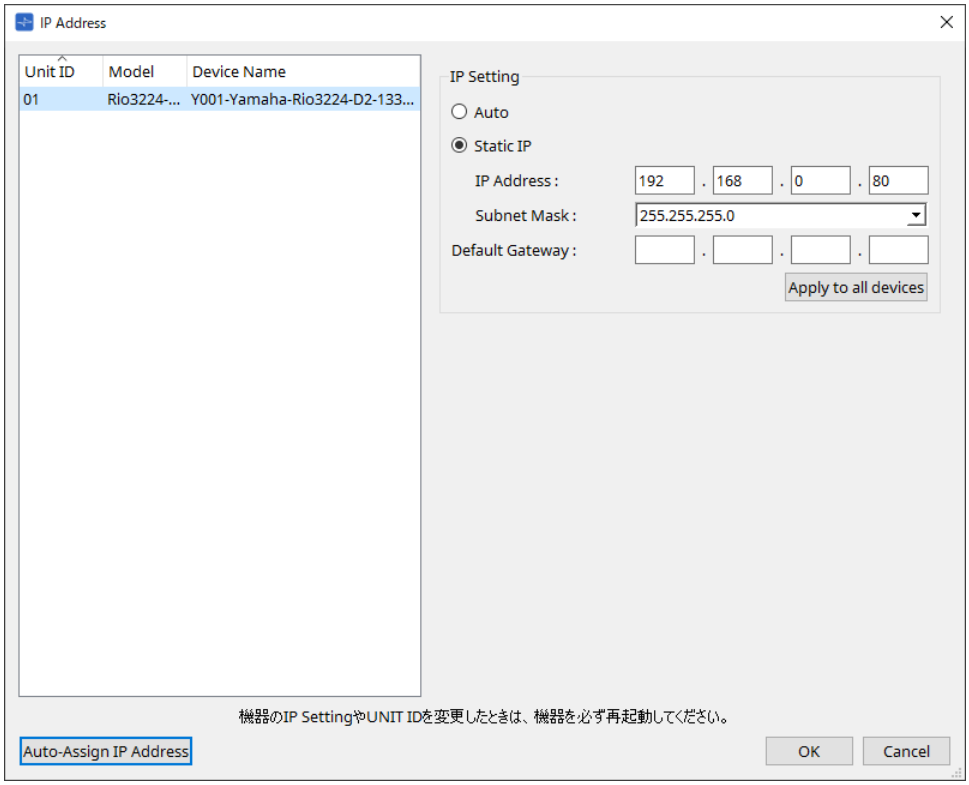
DME Control Port1とDME Control Port2のネットワークが重複しないように設定してください。

● **Dante Slotタブ**

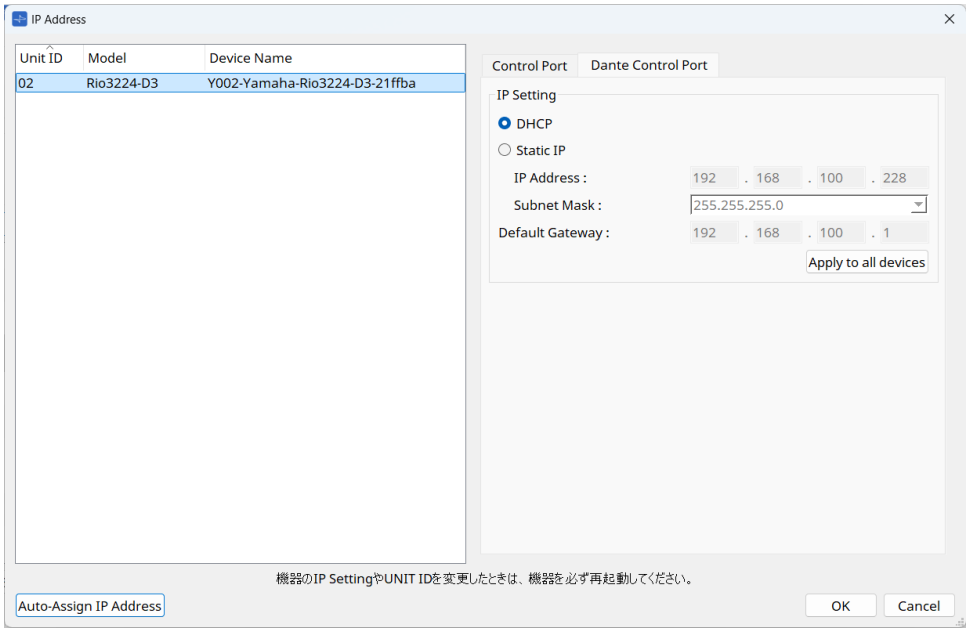


DanteをコントロールするためのIPアドレスはDante Controllerで設定してください。
そのとき"IPアドレスの手動設定"を選択したときは、Dante Slotを同じネットワークになるように設定してください。

■ Rio3224-D2 / Rio1608-D2の場合



■ Rio3224-D3 / Rio1608-D3の場合

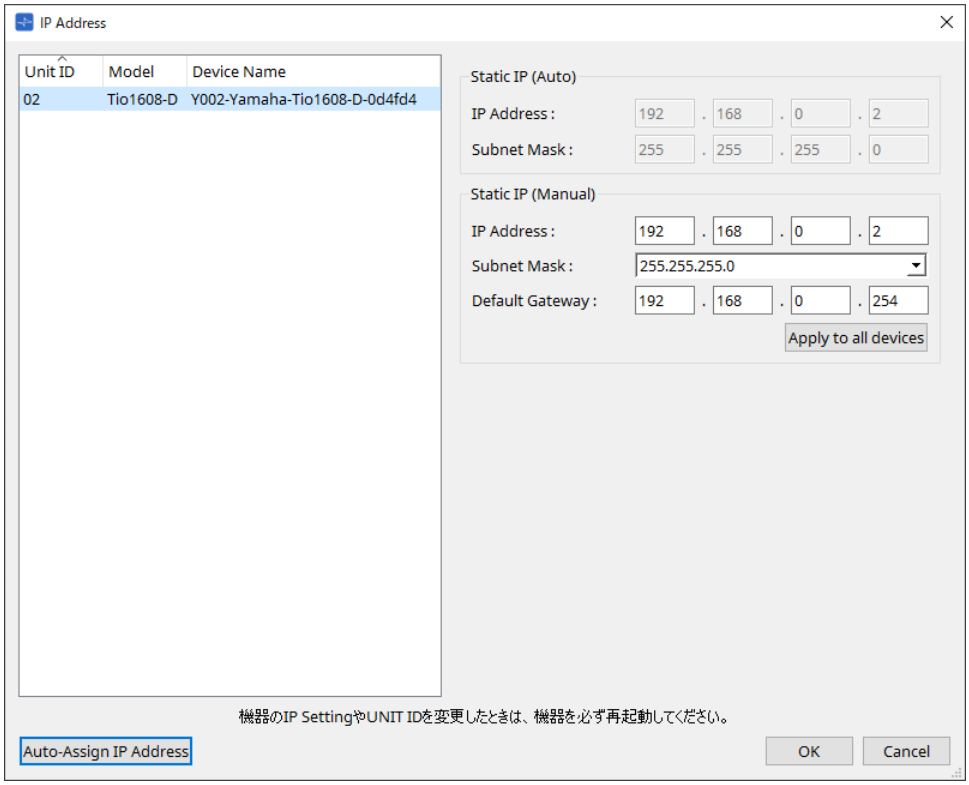


Control Portタブ
Network端子を介してコントロールする場合に使用します。

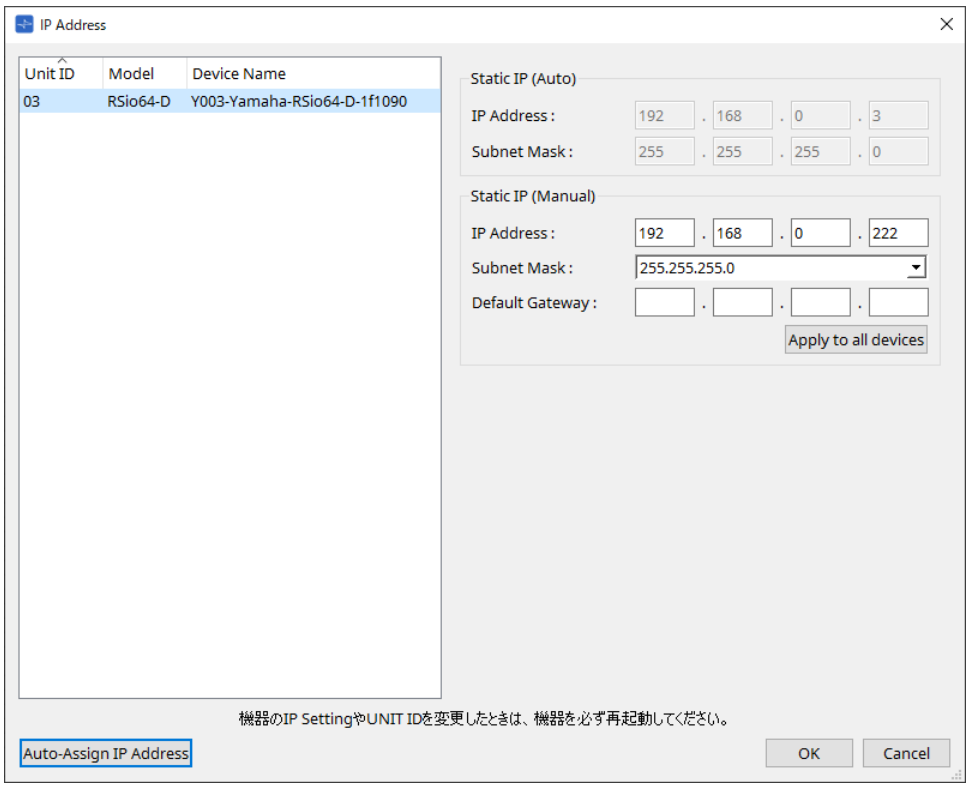
Dante Control Portタブ
Dante Primary端子を介してコントロールする場合に使用します。
この際、Danteポートには本体をコントロールする信号とDanteをコントロールする信号が重畳されます。

DanteをコントロールするためのIPアドレスはDante Controllerで設定してください。

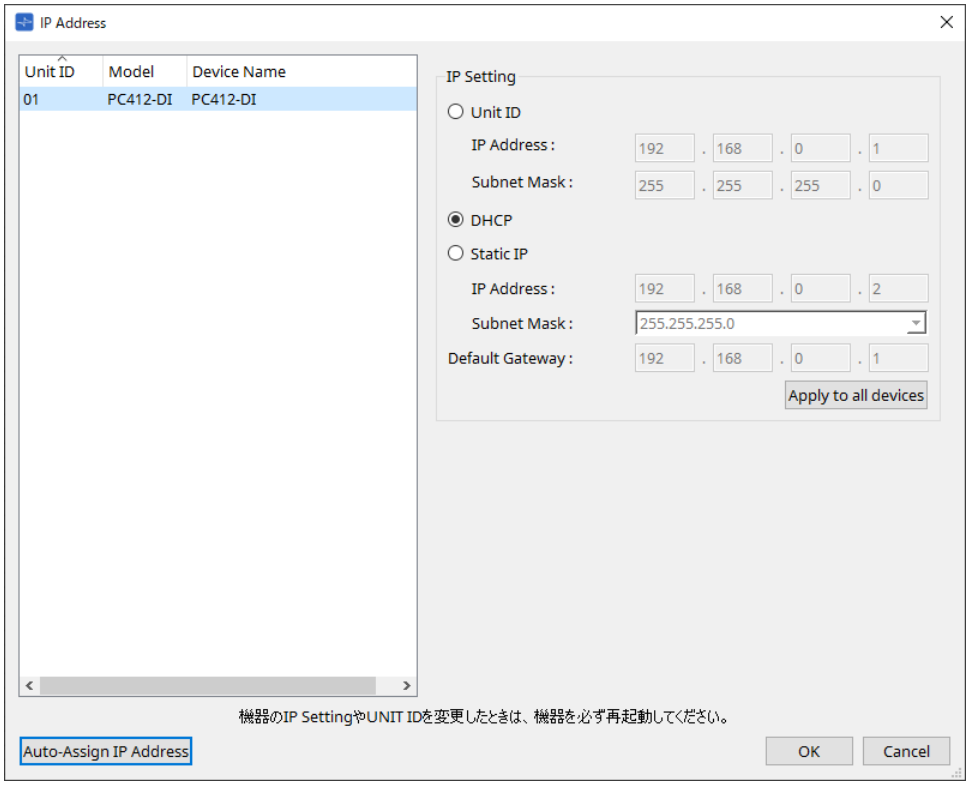
■ Tio1608-D / Tio1608-D2の場合



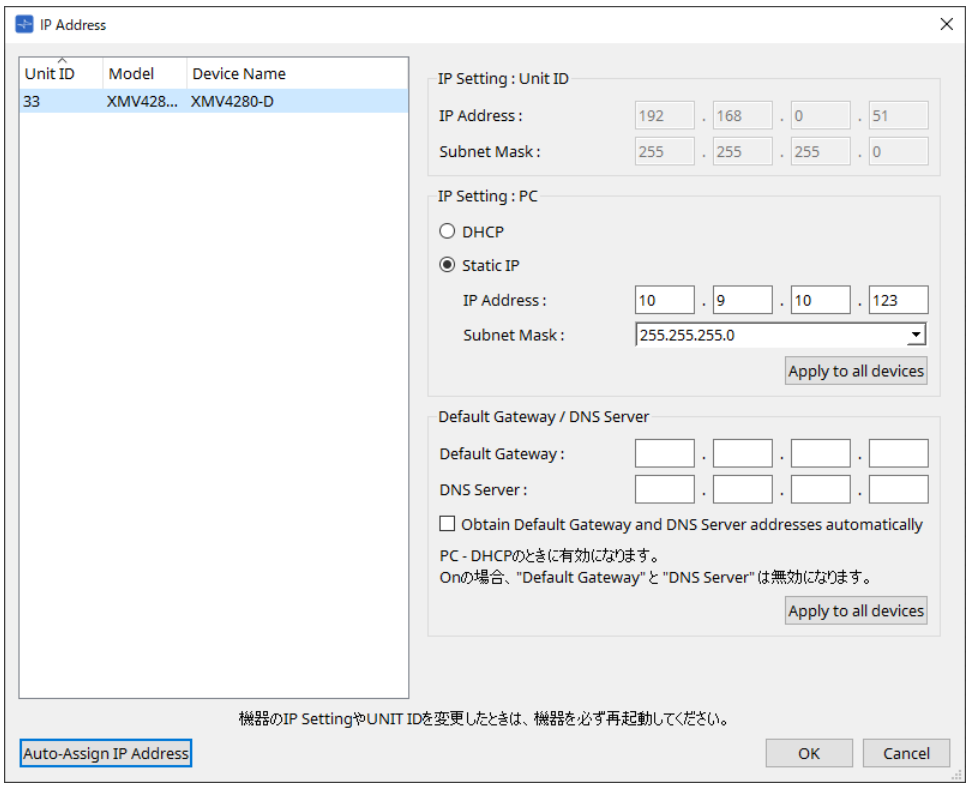
■ RSio64-Dの場合



■ PCシリーズの場合

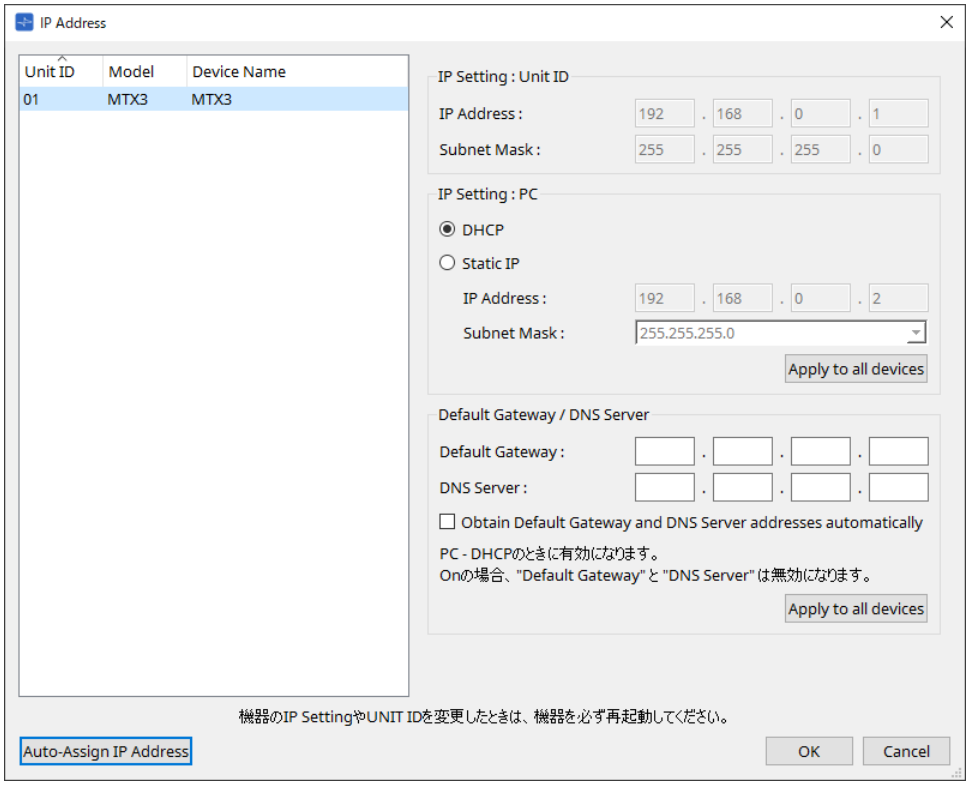


■ XMVシリーズの場合



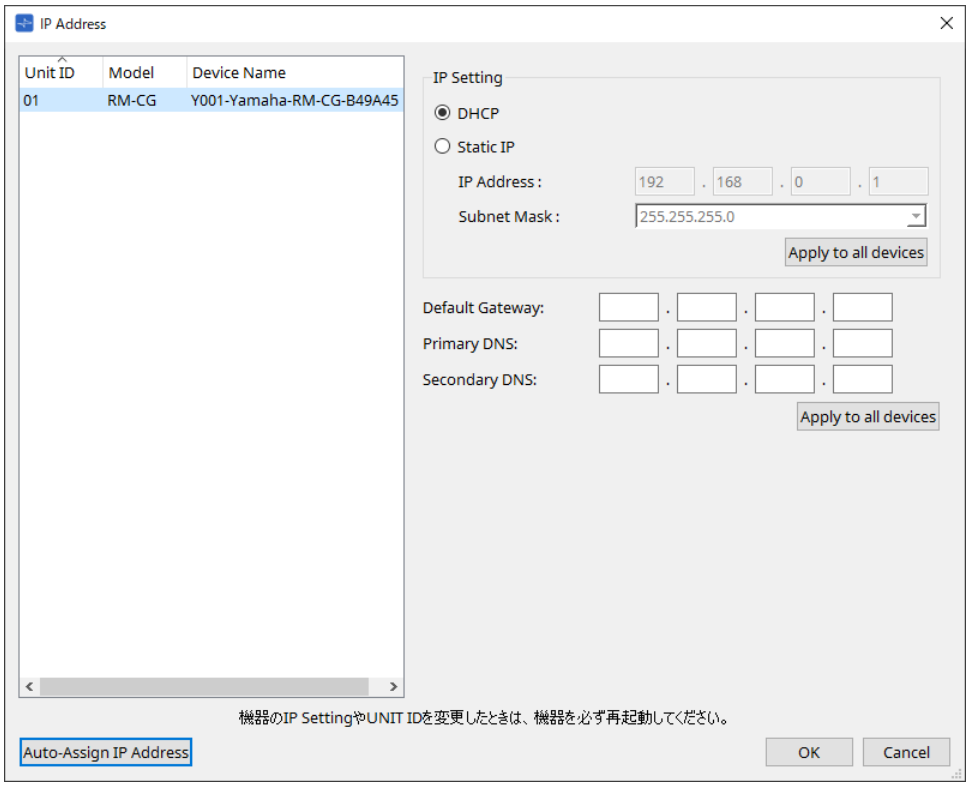
機器本体のアドレスがわからない場合は、ディップスイッチでIP Settingを[UNIT ID]に設定しておくことをおすすめします。

■ MTXシリーズ/PGM1/EXi8/EXo8の場合

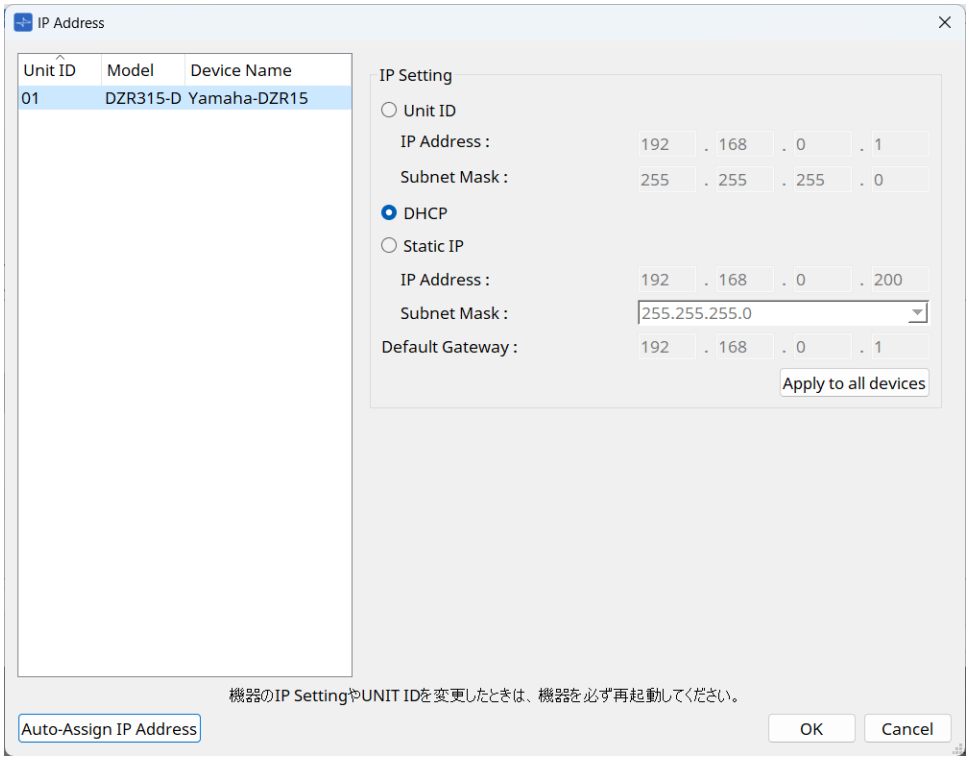


機器本体のアドレスがわからない場合は、ディップスイッチでIP Settingを[UNIT ID]に設定しておくことをおすすめします。

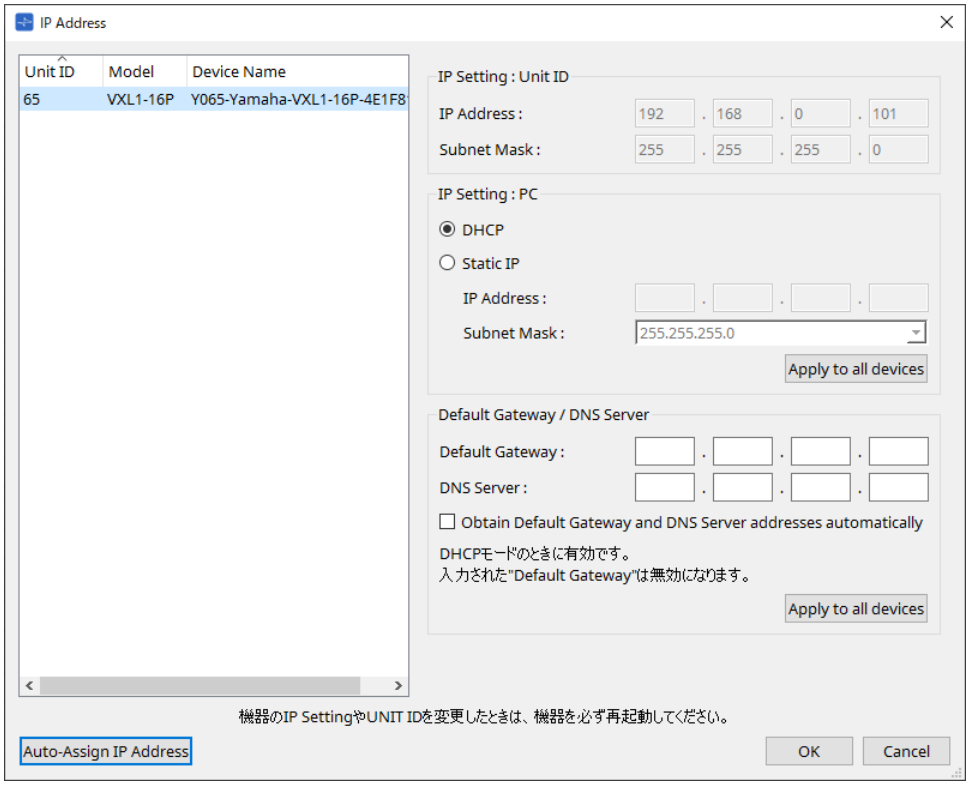
■ RM-CG / RM-TTの場合



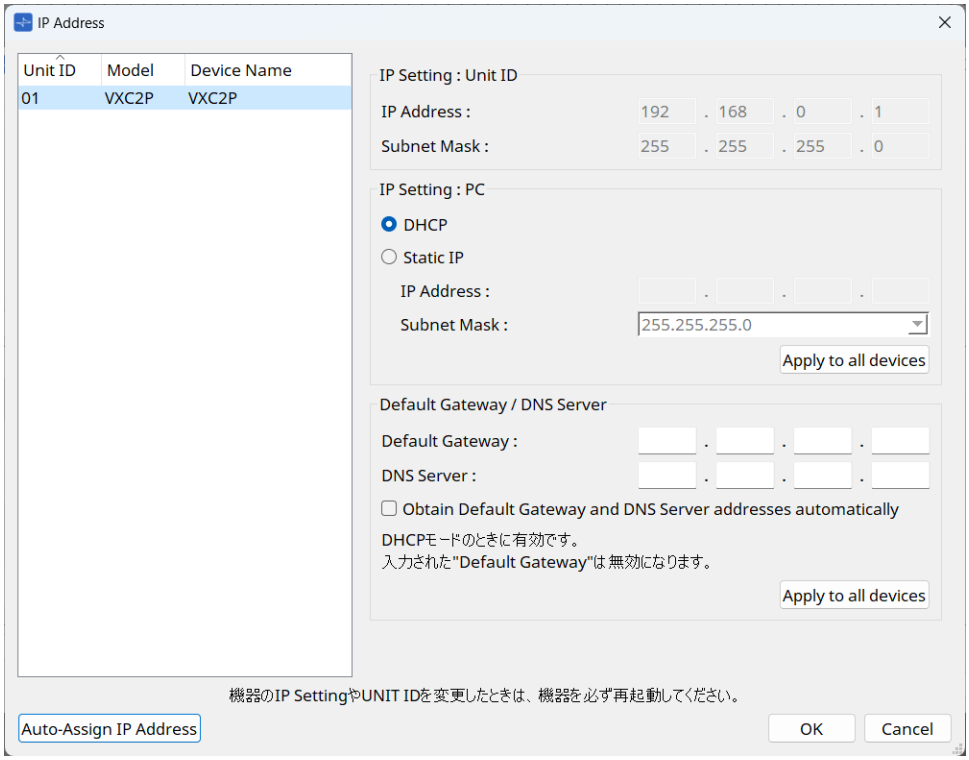
■ DZRシリーズ / DXS-XLFシリーズの場合



■ VXL1-16Pの場合

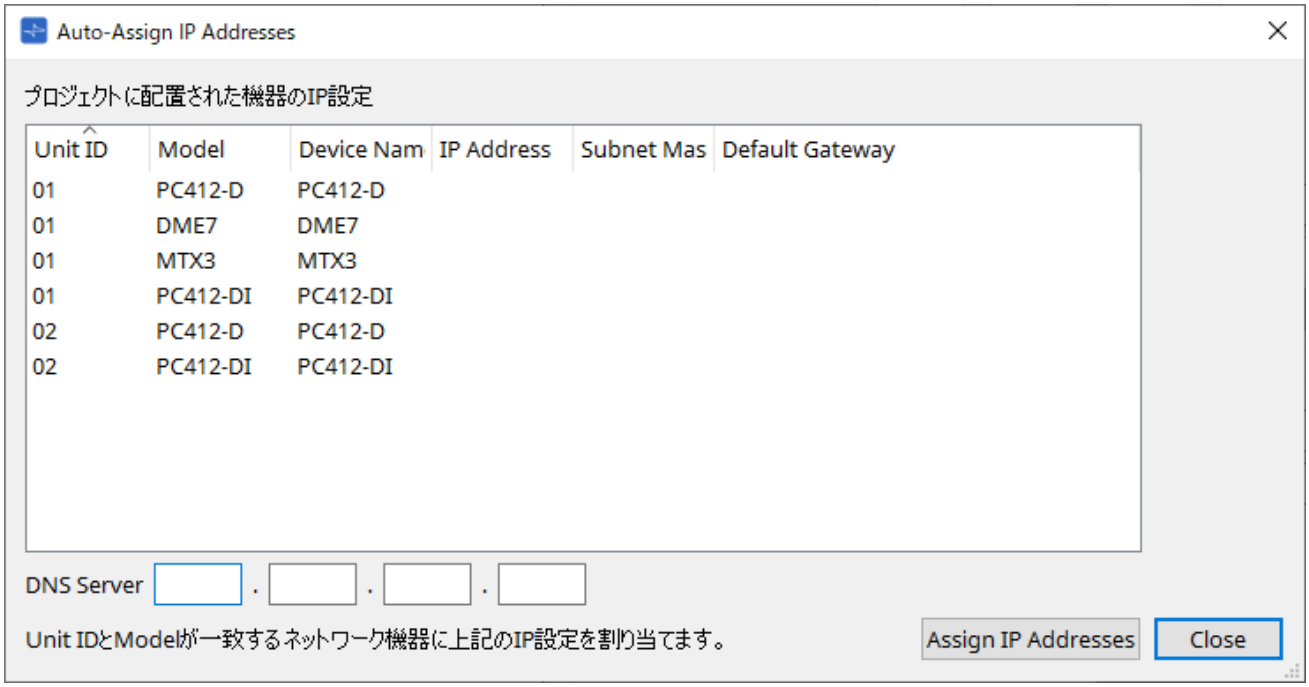


■ VXC2Pの場合


IP Address
Unit ID
Model
Device Name
01
VXC2P
VXC2P
IP Setting : Unit ID
IP Address :
192 . 168 . 0 . 1
Subnet Mask :
255 . 255 . 255 . 0
IP Setting : PC
DHCP
Static IP
IP Address :
Subnet Mask :
255.255.255.0
Apply to all devices
Default Gateway / DNS Server
Default Gateway :
DNS Server :
Obtain Default Gateway and DNS Server addresses automatically
DHCPモードのときに有効です。
入力された"Default Gateway"は無効になります。
Apply to all devices
機器のIP SettingやUNIT IDを変更したときは、機器を必ず再起動してください。
Auto-Assign IP Address
OK
Cancel

10.10. 「Auto-Assign IP Addresses」ダイアログ

「IP Address」ダイアログの[Auto-Assign IP Addresses]ボタンをクリックし開きます。
「Match Devices by IP Address」ダイアログで設定した仮想機器のIPアドレスなどの情報を一括で「IP Settings」ダイアログに反映させます。
詳細については「サブネット越しに機器をコントロールするための設定」を参照してください。



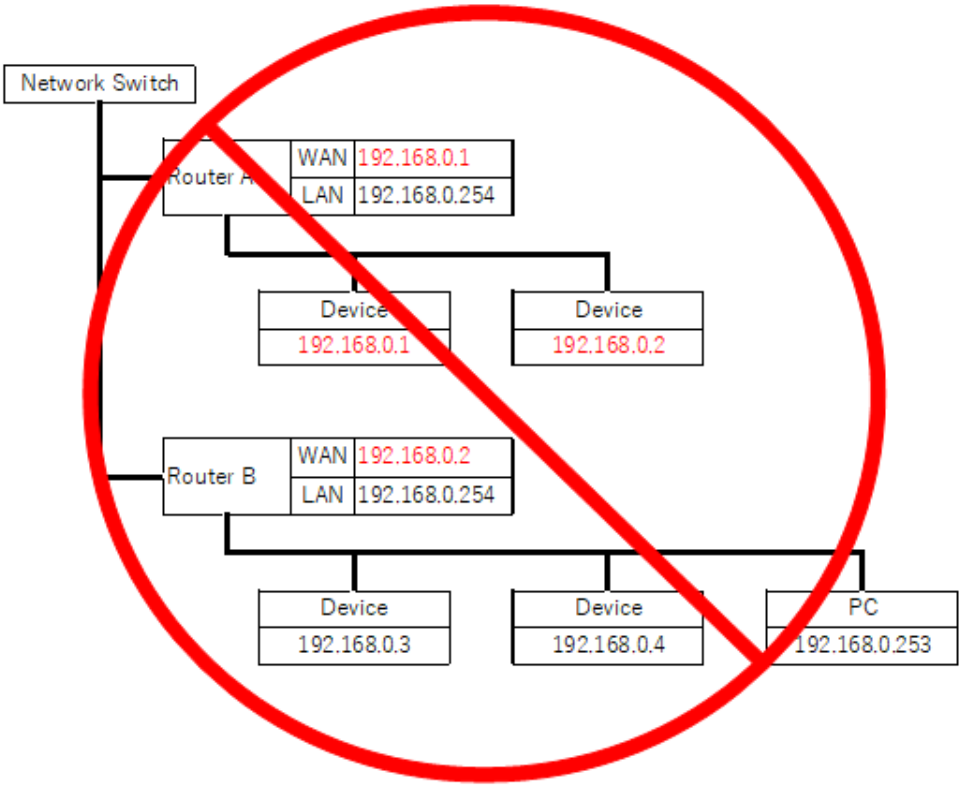
- **機器リスト**
  設定する機器と設定するIP設定の情報を表示します。
- **DNS Server（PGM1のみ）**
  デフォルトは空になっています。DNSサーバーのアドレスを指定します。
- **[Assign IP Addresses]ボタン**
  機器リストに表示されている情報を「IP Address」ダイアログに反映します。「IP Address」ダイアログで[DHCP]ラジオボタンが有効になっていても、[Static IP]ラジオボタンを有効に切り替えます。
- **[Close]ボタン**
  ダイアログを閉じます。

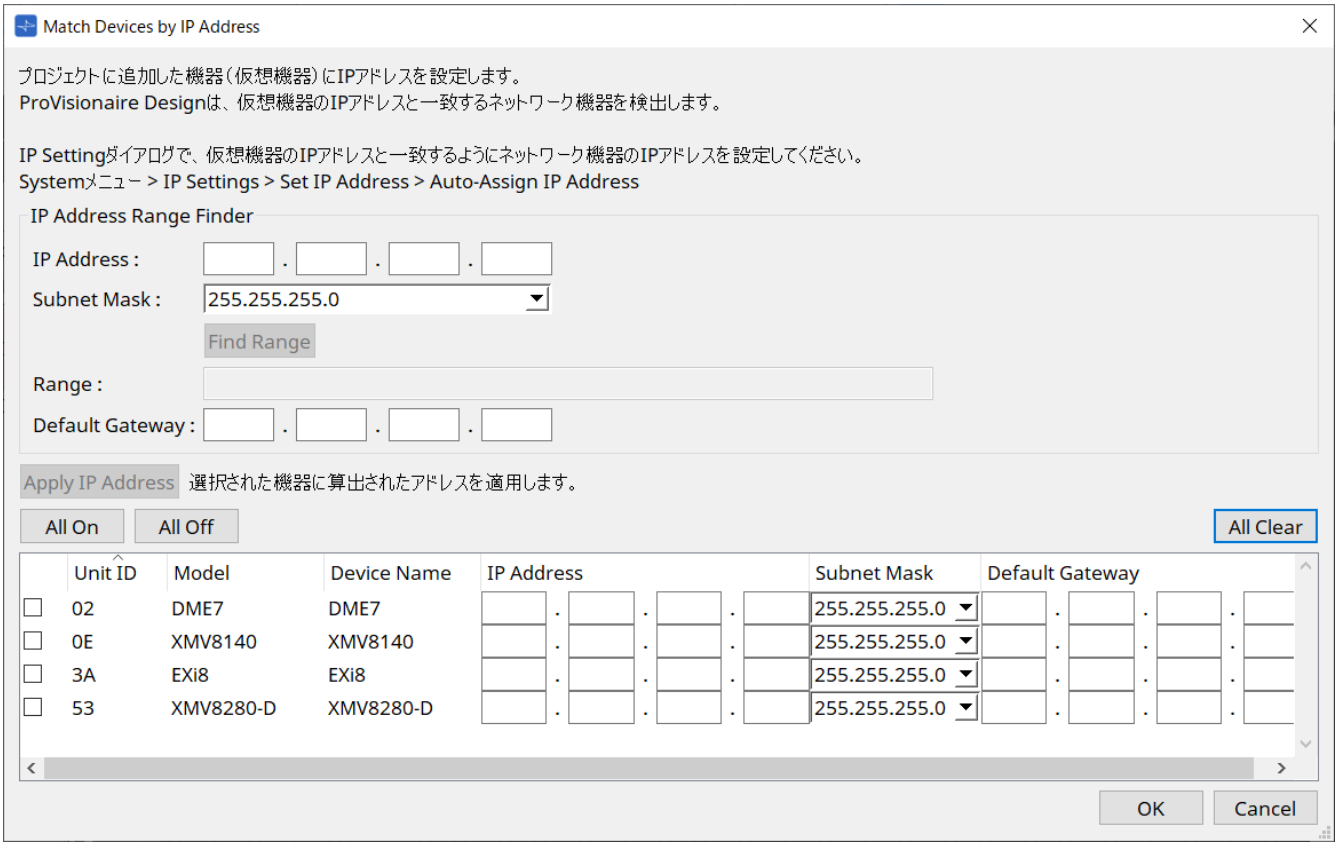
10.11. 「Match Devices by IP Address」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからMatch Devices by IP Addressをクリックし開きます。
このダイアログで仮想機器にIPアドレスを設定すると、ProVisionaire DesignがIPアドレスでネットワーク上の機器を検索します。ProVisionaire Designと異なるサブネットに配置されたシステムをコントロールする場合は、ここで設定してください。

設定手順については「サブネット越しに機器をコントロールするための設定」を参照してください。
異なるサブネットにある機器とはDanteの音声通信ができません。

IPアドレスは通信経路全体で唯一なものに設定してください。通信経路上に同じIPアドレスの機器があると、識別できないことがあります。





- **IP Address Range Finder**
  割り当てられるIPアドレスの範囲を計算します。
  - **[IP Address]**
    使用するIPアドレスを入力します。
  - **[Subnet Mask]**
    サブネットマスクを選択します。
  - **[Find Range]ボタン**
    クリックすると、入力されたIPアドレスとサブネットマスクから、設定できる範囲を計算します。
  - **[Range]**
    計算したIPアドレスの範囲を表示します。
  - **[Default Gateway]**
    計算したデフォルトゲートウェイを表示します。
- **[Apply IP Address]ボタン**
  クリックすると、「IP Address Range Finder」で算出したIPアドレスとデフォルトゲートウェイを機器リスト内の機器に反映します。
- **[All On]ボタン**
  機器リスト内のすべての機器を[Apply IP Adress]の適用対象にします。
- **[All Off]ボタン**
  機器リスト内のすべての機器を[Apply IP Adress]の適用対象外にします。
- **[All Clear]ボタン**
  機器のIPアドレスの情報を削除します。
- **機器リスト**
  機器リスト内の機器の設定を表示/編集をします。
  - **チェックボックス**

チェックを入れると、[Apply IP Adress]の適用対象となります。

- **[IP Address]/[Subnet Mask]/[Default Gateway]**
  機器のIPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイを表示/編集をします。

- **[OK]ボタン**
  設定内容を適用して、ダイアログを閉じます。

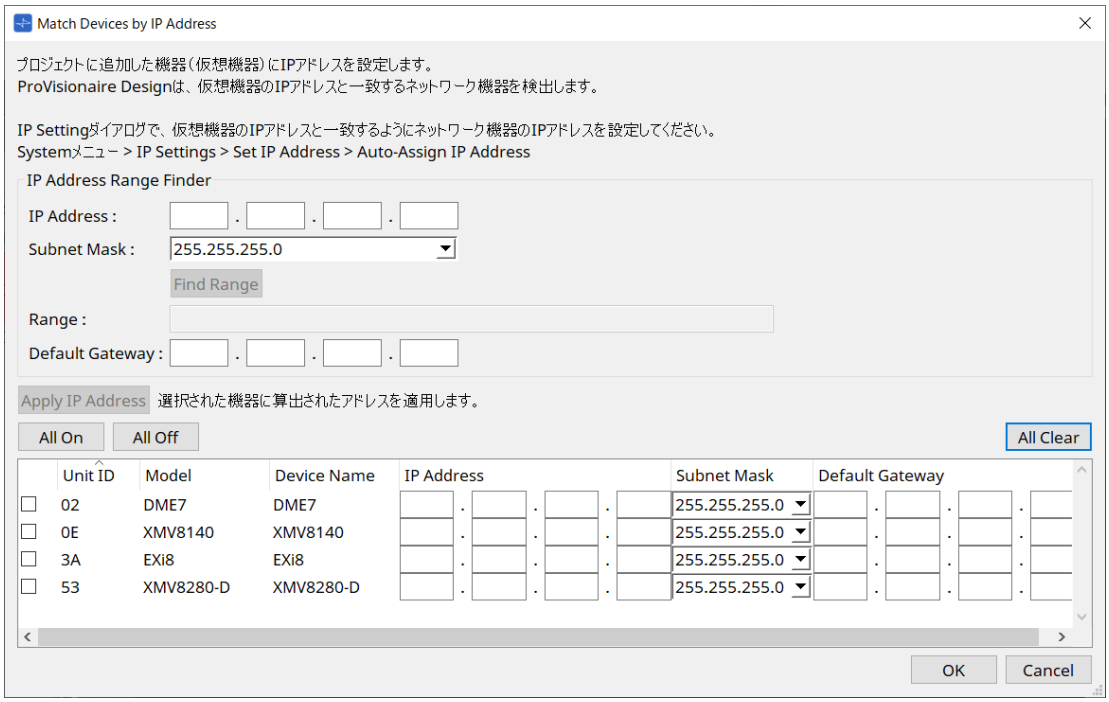
- **[Cancel]ボタン**
  設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

10.11.1. サブネット越しに機器をコントロールするための設定

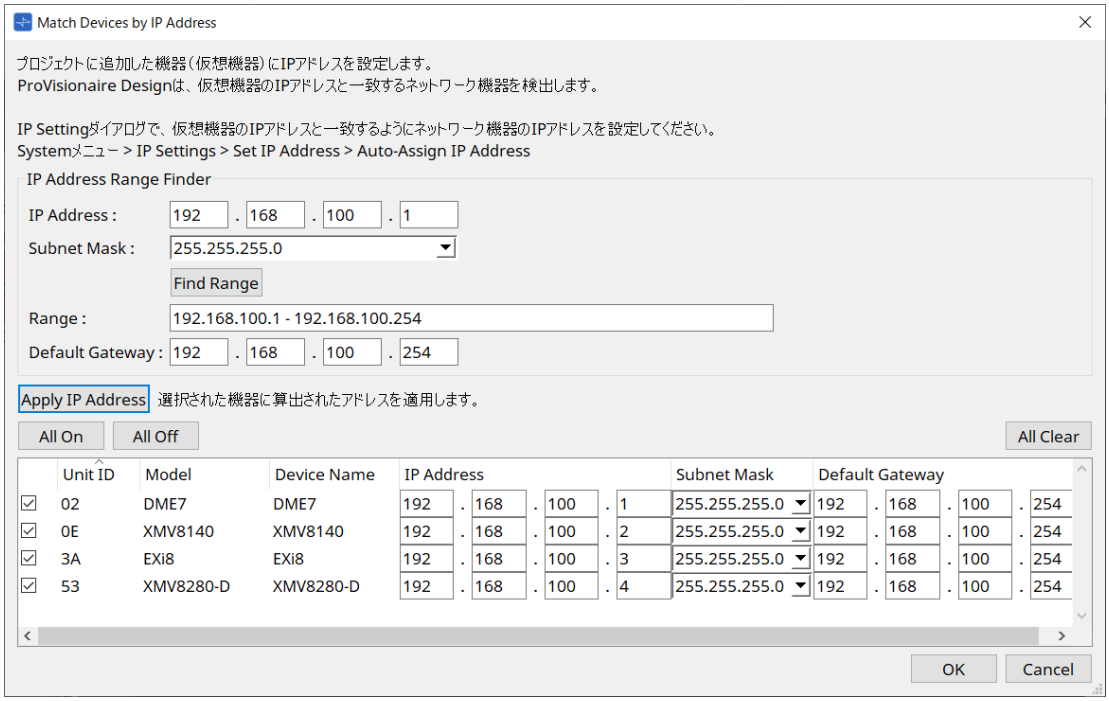
ProVisionaire Designと異なるサブネットの機器をコントロールする場合、IPアドレスを使ってすべての機器を識別します。
そのため、ProVisionaire Designで配置した機器(これを仮想デバイスと呼びます)とネットワーク上の機器(これを実デバイスと呼びます)のIP設定が一致するように設定する必要があります。
仮想デバイスのIP設定を「Match Device by IP Address」ダイアログで、実デバイスのIP設定を「IP Address」ダイアログで行います。

IPアドレスは通信経路全体で唯一なものになるようにしてください。通信経路上に同じIPアドレスの機器があると、識別できないことがあります。
まず、「Match Device by IP Address」ダイアログで仮想デバイスにIPアドレスを設定します。

1. **「Project」シートに機器を配置する。**
2. **ProVisionaire Designの[System]メニューの[Match Device by IP Address]をクリックする。**
   「Match Device by IP Address」ダイアログが開きます。



3. **「IP Address Range Finder」の[IP Address]テキストボックスに、検索対象の機器が接続されているサブネットの代表的なIPアドレスを入力する。**
4. **「IP Address Range Finder」の[Subnet Mask]リストボックスで、サブネットマスクを選択する。**
5. **「IP Address Range Finder」の[Find Range]ボタンをクリックする。**
   [Range]に有効なIPアドレスの範囲が表示され、[Default Gateway]テキストボックスにデフォルトゲートウェイのIPアドレス候補が表示されます。
   デフォルトゲートウェイのIPアドレスが異なる場合は編集してください。
6. **IPアドレスを設定したい仮想デバイスのチェックボックスにチェックを入れる。**
7. **[Apply IP Address]ボタンをクリックする。**



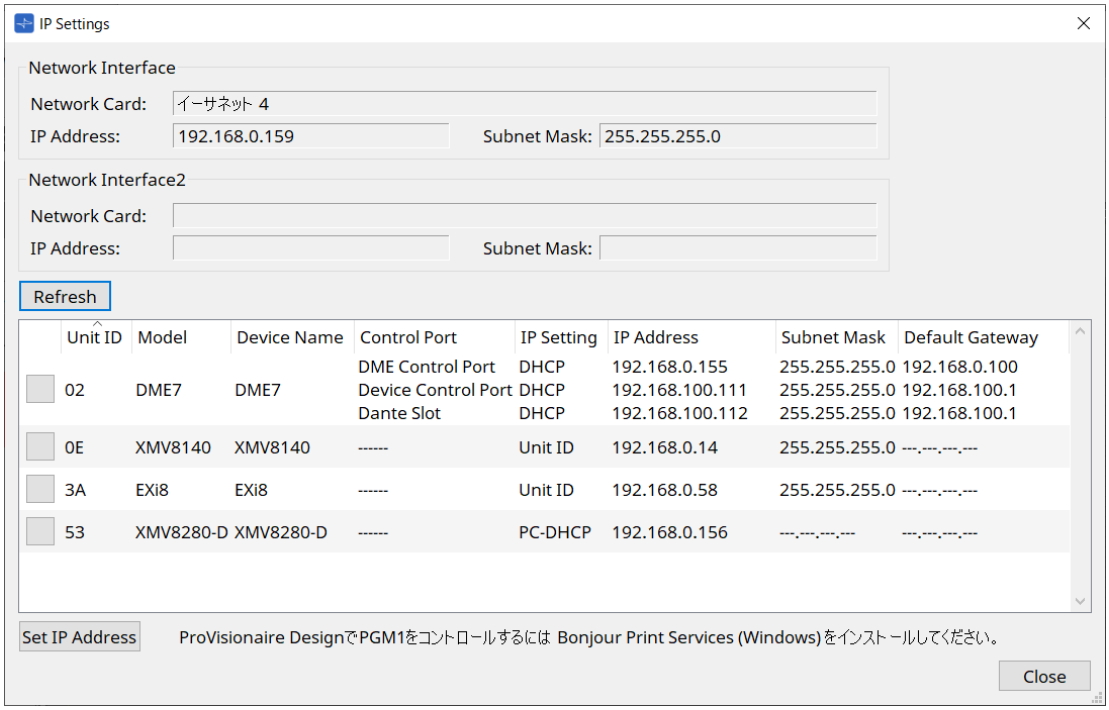
仮想デバイスに固定IPアドレスが設定されます。

9. **[OK]ボタンをクリックする。**

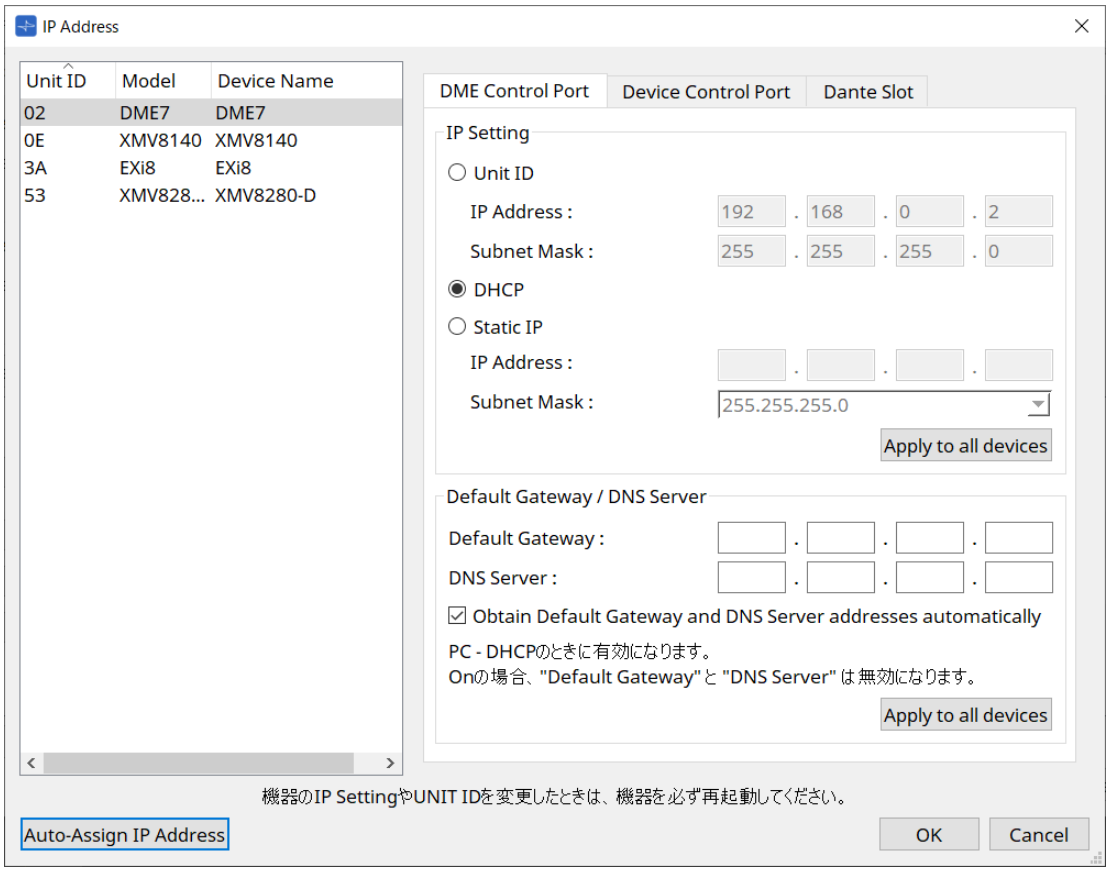
実デバイスにIPアドレスを設定する方法として、実デバイスの操作で設定する方法と、「IP Address」ダイアログで実デバイスにIPアドレスを設定する方法があります。
ここでは「IP Address」ダイアログを使って設定する方法を説明します。

次に、仮想デバイスに設定したIPアドレスを実デバイスに設定する手順を説明します。

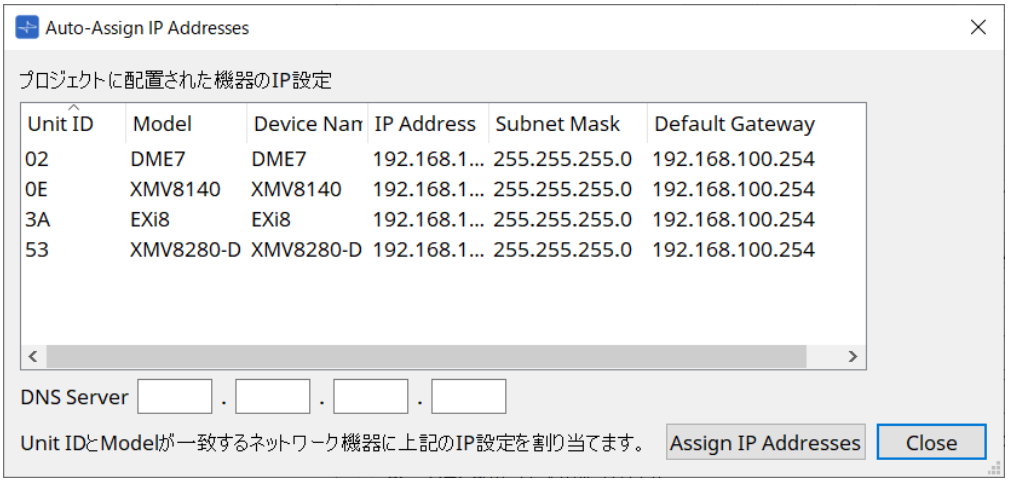
1. **実デバイスのUnit IDを仮想デバイスと一致するように設定する。**
2. **実デバイスをProVisioniare Designと同じサブネットに接続し、ProVisionaire Designで発見できるようにする。**
   詳細は、各デバイスの取扱説明書を参照ください。
3. **オフラインのまま、ProVisionaire Designの[System]メニューの[IP Settings]をクリックする。**
   「Network Setup」ダイアログが表示された場合は、ProVisioniare Designと同じネットワークを選択してください。



4. **すべての実デバイスが「IP Settings」ダイアログに表示されたら、[Set IP Address]ボタンをクリックする。**
   「IP Address」ダイアログが開きます。

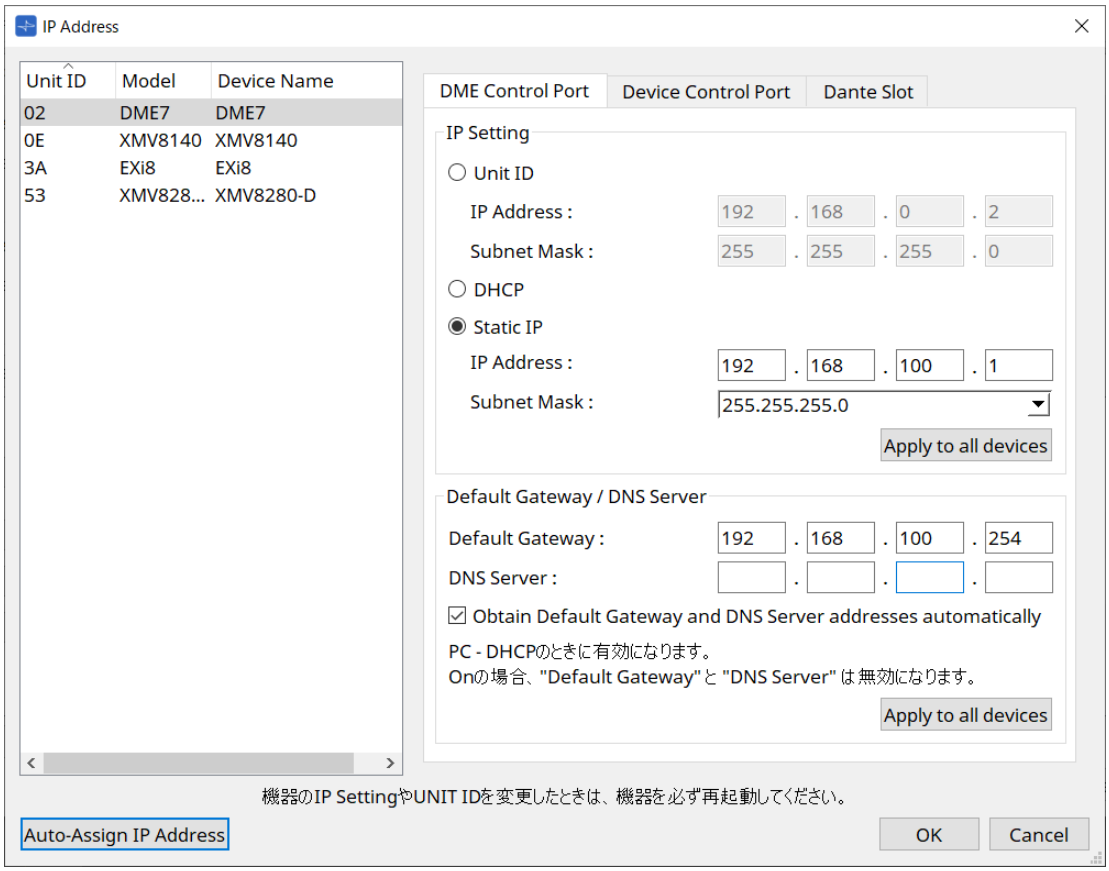


5. **[Auto-Assign IP Addresses]ボタンをクリックする。**



Match Device byダイアログで、仮想デバイスに設定されたIPアドレス一覧が表示されます。
必要に応じてDNS Serverを設定してください。

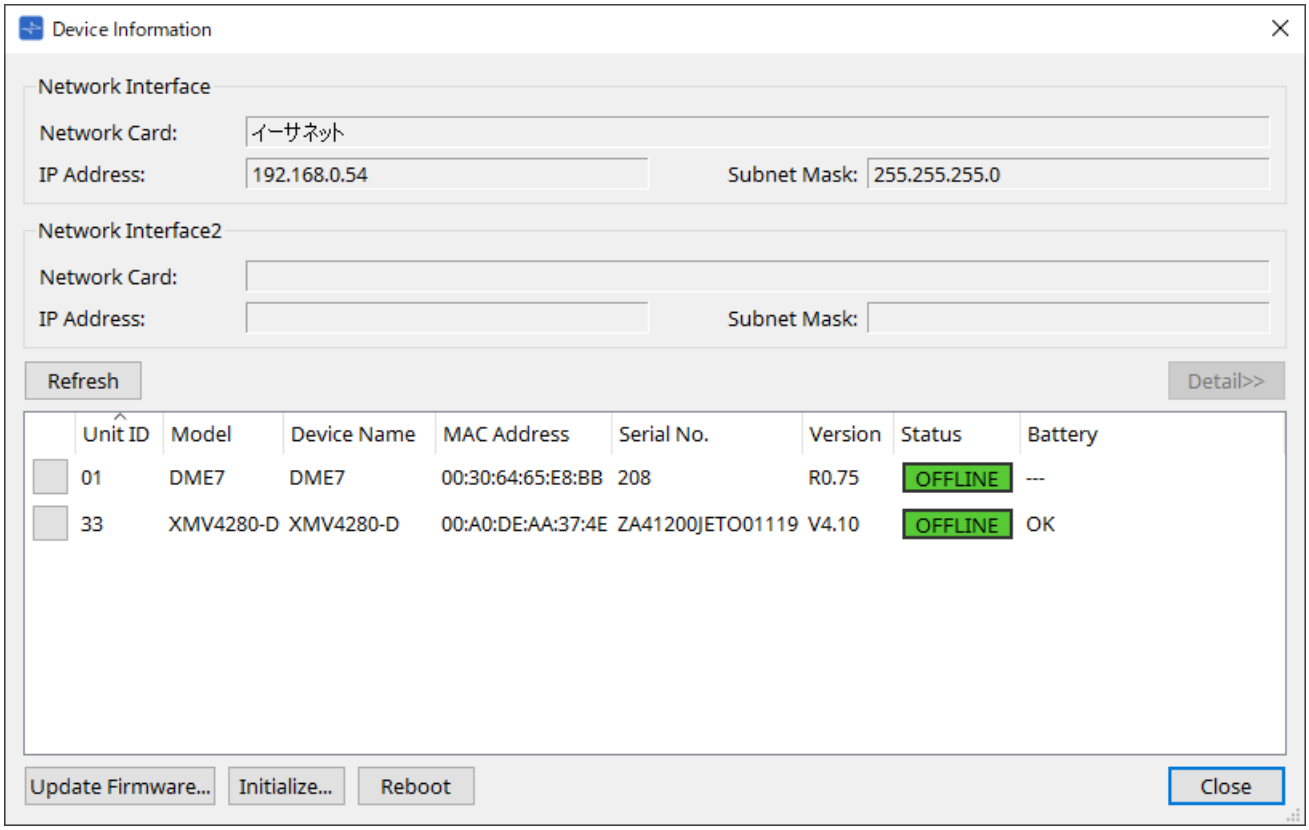
6. **[Assign IP Addresses]ボタンをクリックする。**
仮想デバイスとModel、Unit IDが一致する実デバイスに仮想デバイスの設定を反映します。



7. **[OK]ボタンをクリックする。**
IPアドレスやサブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定が実デバイスに転送されます。

10.12. 「Device Information」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからDevice Informationをクリックし開きます。
ネットワーク上の機器の情報を一覧で表示し、ファームウェアのアップデートや再起動などを行います。



- **Network Interface**
  「Network Setup」ダイアログで選択中のネットワークカードの名前/IPアドレス/サブネットマスクが表示されます。
- **[Refresh]ボタン**
  ネットワーク上の機器を再検索します。
  アップデート実行中は、クリックできません。
- **[Detail>>]ボタン**
  オンにすると右横に機器リストで選択中の機器固有の情報を表示します。
- **機器リスト**
  - **Identifyボタン**
    Unit IDの左にあるこのボタンを押すと、対象の機器のインジケーターが数秒間点滅します。
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。Unit IDが重複している場合は、⚠が表示されます。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。

> 機器が異なる場合は、UNIT IDは重複していても問題ありません。
> ただし、MTXシリーズでUnit IDモードに設定している場合は、IP Addressは自動的に192.168.0."Unit ID"に設定されます。
> この場合は、全デバイス間でUnit IDが重複しないように設定する必要があります。

  - **MAC Address**

機器に設定されているMACアドレスが表示されます。

- **Serial No.**
  機器のシリアルナンバーが表示されます。
- **Version**
  ファームウェアのバージョンが表示されます。
- **Status**
  オンラインまたはオフラインの状態が表示されます。
  また、機器をアップデートする際は進行状況が表示されます。
- **Battery (MTXシリーズ、XMVシリーズのみ)**
  電池残量が表示されます。

EMPTY	残量が0〜0.5V。ただちに使用を中止して、修理ご相談センターにご連絡ください。
LOW	残量が0.5 〜 2.5V。お早めに修理ご相談センターにご連絡ください。
OK	残量が2.5 〜 3.5V。問題ありません。
N/A	電池を内蔵していません。

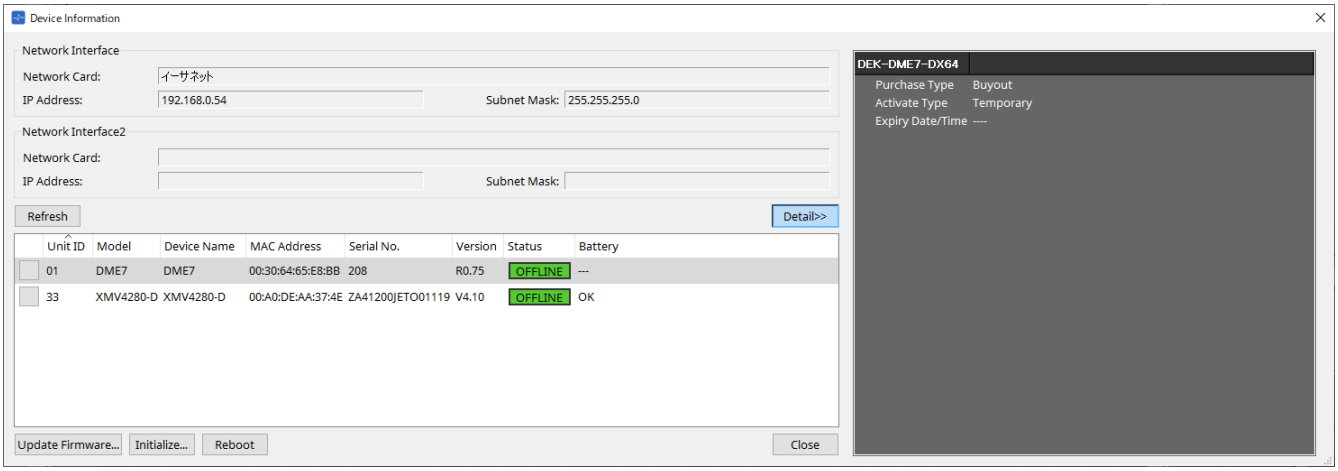
- **[Update Firmware]ボタン**
  ファームウェアをアップデートします。オフライン中の機器のみアップデートできます。
  このボタンをクリックすると、「Update Firmware」ダイアログが開きます。
- **[Initialize]ボタン**
  機器を初期化します。
  このボタンをクリックすると、「Initalize」ダイアログが開きます。
- **[Reboot]ボタン**
  機器を再起動します。
- **[Close]ボタン**
  ダイアログを閉じます。
  アップデート実行中は、クリックできません。

10.12.1. 「Detail>>」表示

機器固有の情報を表示します。

■ DME10/7の場合

機器本体が保有しているライセンスごとに情報を表示します。



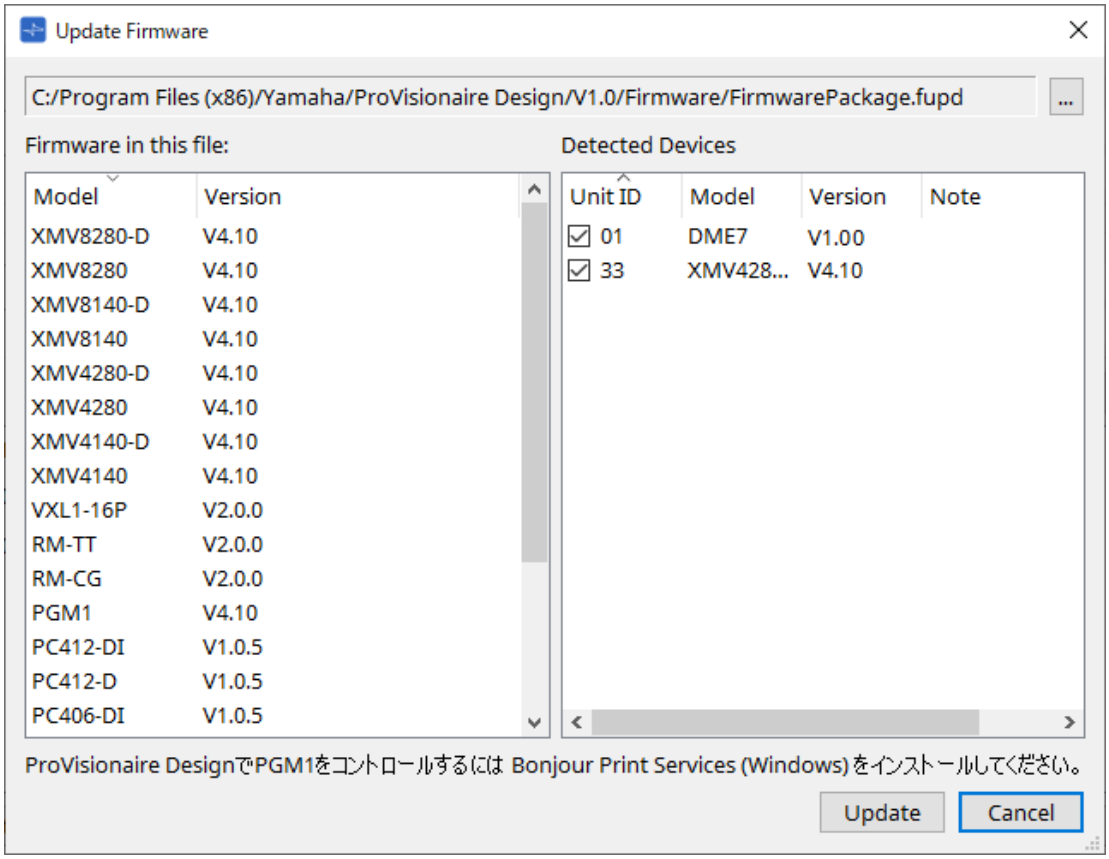
- **タイトル**
  プロダクト名を表示します。
- **Purchase Type**
  Buyout(買取)を表示します。
- **Activate Type**
  Purchase TypeがBuyoutのときに表示します。
  - **Temporary**
    アクティベート（有効化）/ディアクティベート（無効化）できるタイプ
  - **Permanent**
    ディアクティベート（無効化）できないタイプ
- **Expiry Date/Time**
  有効期限が設定されているライセンスの場合は、期限の切れる日時を表示します。
  それ以外のときは---を表示します。

ライセンスの管理は、「デバイスライセンスアクティベーションガイド」を参照ください。

10.13. 「Update Firmware」ダイアログ

「Device Information」ダイアログの[Update Firmware]ボタンをクリックし開きます。対応機器のファームウェアをアップデートします。
Danteファームウェアのアップデート方法については「Danteファームウェアアップデートガイド」を参照ください。

DME10/7は本体のファームウェアをアップデートすると同時にDanteファームウェアもアップデートされます。



- **ファイル**
  選択中のアップデート用ファイル(.fupd)のパスを表示します。
- **[…]ボタン**
  アップデート用のファイルを選択する場合にクリックします。このボタンをクリックすると「ファイルの選択」ダイアログが表示されるので、.fupdファイルを選択してください。

ProVisionaire Designをインストールしたとき、圧縮ファイルに同梱されている.fupdファイルもProgram Files(x86)フォルダにコピーされます。
ダイアログを開いたときは、自動的にこのファイルを選択しています。

- **Firmware in this file**
  アップデート用ファイルに含まれているファームウェアの機器ごとのバージョンを表示します。
- **Detected Devices**
  検出した機器を表示します。
  - **チェックボックス**
    アップデート対象機器を選択します。
  - **Unit ID**

機器のUnit IDを表示します。

- **Model**
  機器のモデル名を表示します。
- **Version**
  機器のファームウェアのバージョンを表示します。

ProVisionaire DesignでPGM1をアップデートするにはBonjour Print Services (Windows)をインストールしてください。

- **[Update]ボタン**
  アップデートを実行します。
  ファイルが選択されていない場合は、このボタンはグレーアウト表示となりクリックできません。
- **[Cancel]ボタン**
  アップデートをせずに、ダイアログを閉じます。

ProVisionaire Designと互換性のないデバイスを発見したときはアラートが表示されます。
ProVisionaire Designとデバイスの互換性は、ヤマハプロオーディオウェブサイトでご確認ください。
https://www.yamahaproaudio.com/

RMシリーズをアップデートするにはログインする必要があります。
RM-CG / RM-TTの項目をご参照ください。

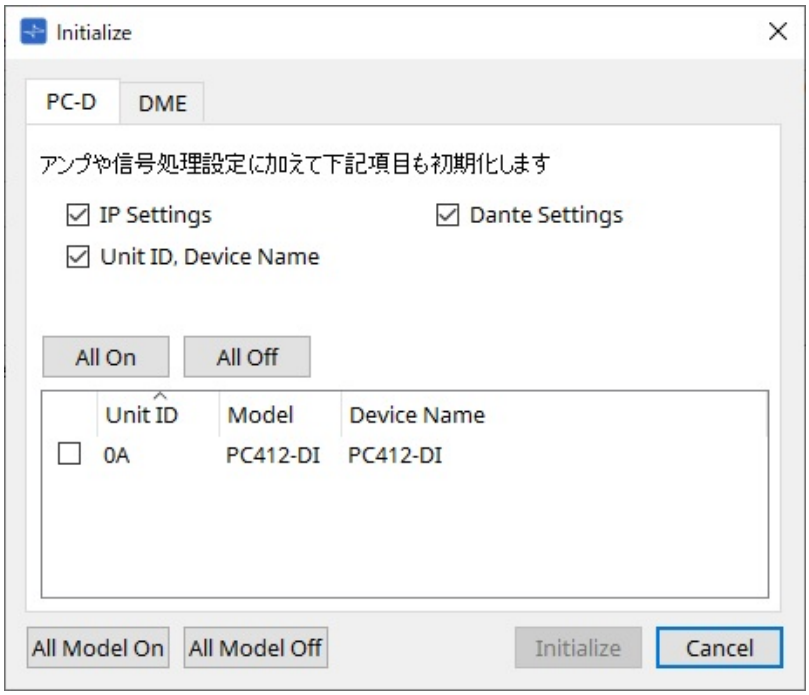
DZR/DXS-XLFシリーズはProVisionaire Designではアップデートできません。
DZR-D/DXS XLF-D Firmware UpdaterまたはUSBメモリーを使用してアップデートしてください。詳しくはヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。

Rio-D3シリーズはProVisionaire Designではアップデートできません。
R Remoteでアップデートしてください。詳しくはヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。

10.14. 「Initialize」ダイアログ

「Device Information」ダイアログの[Initialize]ボタンをクリックし開きます。機器の設定を初期化します。
対象製品はPCシリーズ、DME10/7、RM-CG、RM-TT、DZRシリーズ、DXS-XLFシリーズです。
初期化したい製品をタブで選択します。

■ PCシリーズの場合



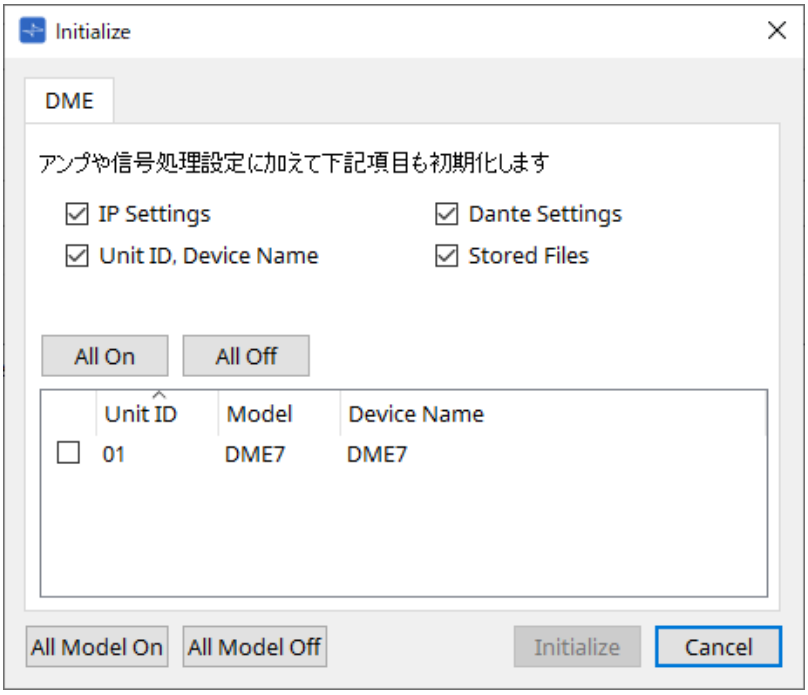
- **チェックボックス**
  初期化したい項目にチェックを入れます。
  - **IP Settings**
    チェックを入れると、機器のIP設定も初期化の対象となります。
  - **Unit ID, Device Name**
    チェックを入れると、機器のUnit IDや機器名も初期化の対象となります。
  - **Dante Settings**
    チェックを入れると、機器のDanteに関わる設定も初期化の対象となります。
- **[All On]ボタン**
  すべての機器のチェックボックスにチェックを入れます。
- **[All Off]ボタン**
  すべての機器のチェックボックスのチェックを外します。
- **チェックボックス**
  初期化したい機器にチェックを入れます。
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
- **[All Model On]ボタン**
  すべてのタブのすべての機器のチェックボックスにチェックを入れます。
- **[All Model Off]ボタン**
  すべてのタブのすべての機器のチェックボックスにチェックを外します。

- **[Initialize]ボタン**
  初期化を実行します。

> Dante Device LockがONに設定されているDante機器はUnit IDとDevice Nameは初期化できません。

- **[Cancel]ボタン**
  初期化を実行せずに、ダイアログを閉じます。

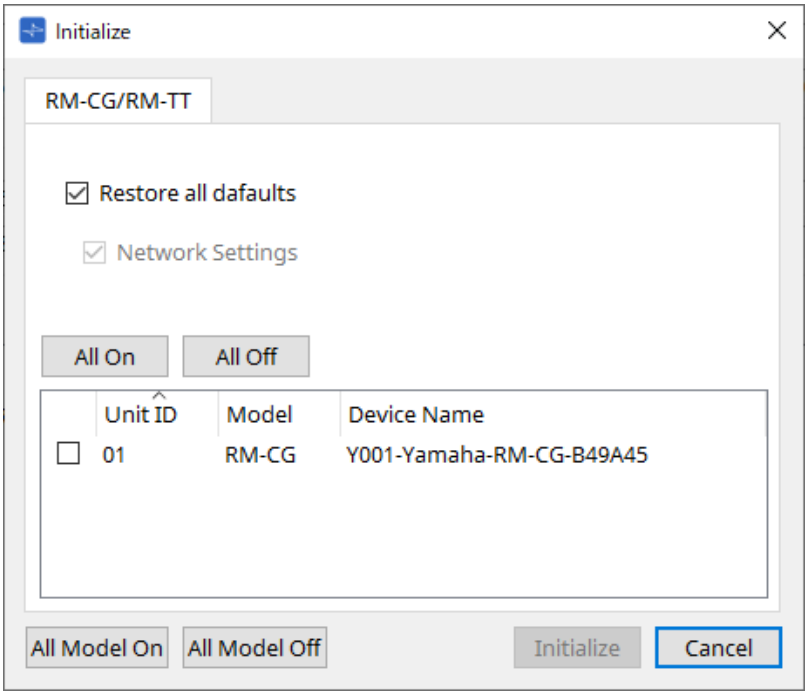
■ DME10/7の場合



- **チェックボックス**
  初期化したい項目にチェックを入れます。
  - **IP Settings**
    チェックを入れると、機器のIP設定も初期化の対象となります。
  - **Unit ID, Device Name**
    チェックを入れると、機器のUnit IDや機器名も初期化の対象となります。
  - **Dante Settings**
    チェックを入れると、機器のDanteに関わる設定も初期化の対象となります。
  - **Stored Files**
    チェックを入れると、File Storage機能で機器本体に保存したファイルも初期化の対象となります。

> 機器を初期化してもアクティベートされているライセンスに影響はありません。

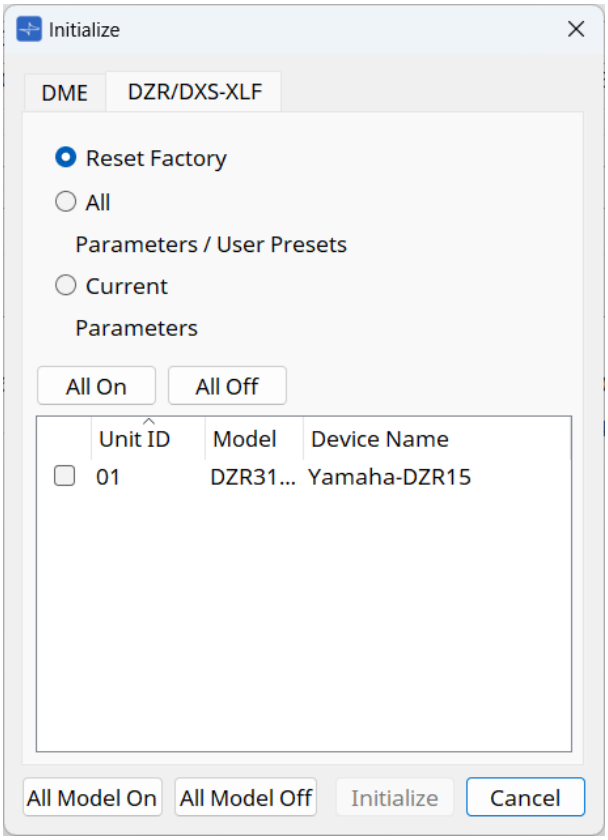
■ RM-CG、RM-TTの場合



- **チェックボックス**
  初期化したい項目にチェックを入れます。
  - **Restore all defaults**
    チェックを入れると、すべての項目を初期化します。Network Settingsの項目も強制的に初期化対象となります。
  - **Network Settings**
    チェックを入れると、機器のネットワーク設定も初期化の対象となります。

RMシリーズを初期化するにはログインする必要があります。
RM-CG/RM-TTの項目を参照ください。

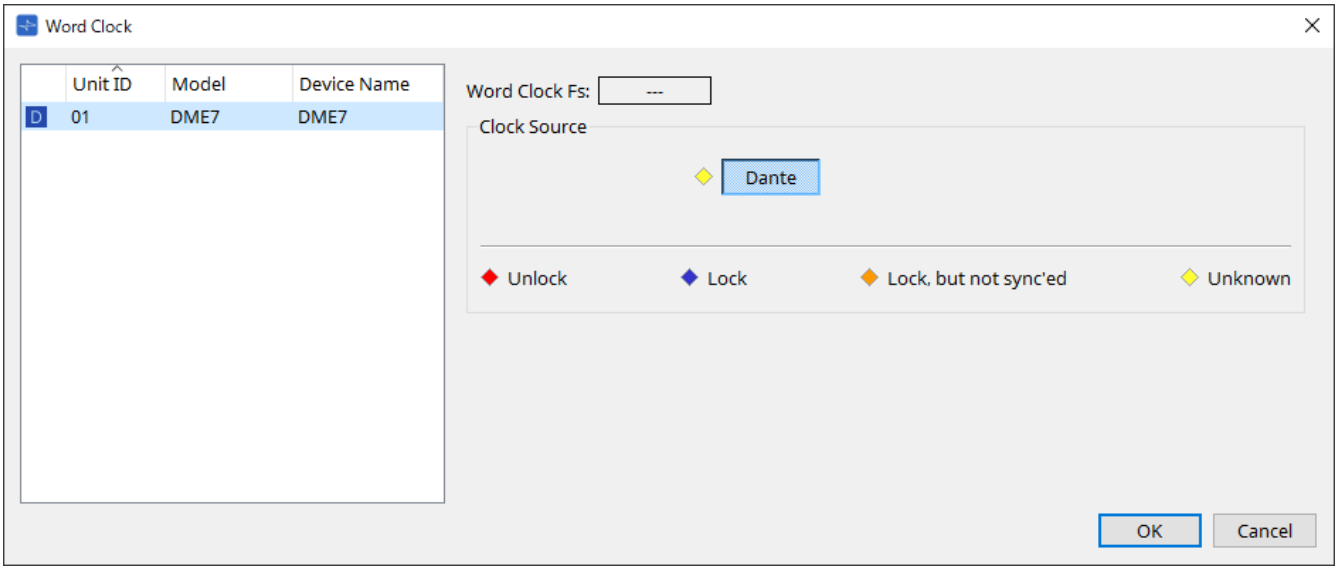
■ DZRシリーズ/DXS-XLFシリーズの場合



- **ラジオボタン**
  3種類から選択できます。
  - **Reset Factory**
    工場出荷状態にします。
  - **All**
    ネットワーク設定は残したまま、Parameters、User Presetsを初期化します。
  - **Current**
    ネットワーク設定とUser Presetsは残したまま、Parameterのみ初期化します。

10.15. 「Word Clock」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからWord Clockをクリックし開きます。機器のワードクロックの設定を変更します。
対象機種は、プロジェクトに追加されているMTXシリーズ、XMVシリーズ(Danteモデルを除く)、DME10/7になります。



- **[Device] リスト**
  ワードクロックの変更ができる機器が表示されます。ワードクロックの詳細を設定する機器をクリックすることでその機器の設定画面に切り替わります。Unit IDの左にあるアイコンはクロックソースが何に設定されているかを表します。

アイコン	クロックソース
D	Dante
I	Internal
S	Mini-YGDAI カード
なし	YDIF

- **Word Clock Fs**
  機器のワードクロックを表示します。オンライン状態のときは機器のワードクロック値を表示します。オフライン状態のときは「---」を表示します。

- **Clock Source**
  ボタンで機器のワードクロックのソースを選択します。選択可能なボタンの左側に状態を示すインジケーターが表示されます。オフライン状態のときは検出できないのですべてのインジケーターが黄色になります。

  - **MTX3、XMVの場合**
    内部クロックの44.1 kHz、48 kHz、YDIFを選択できます。

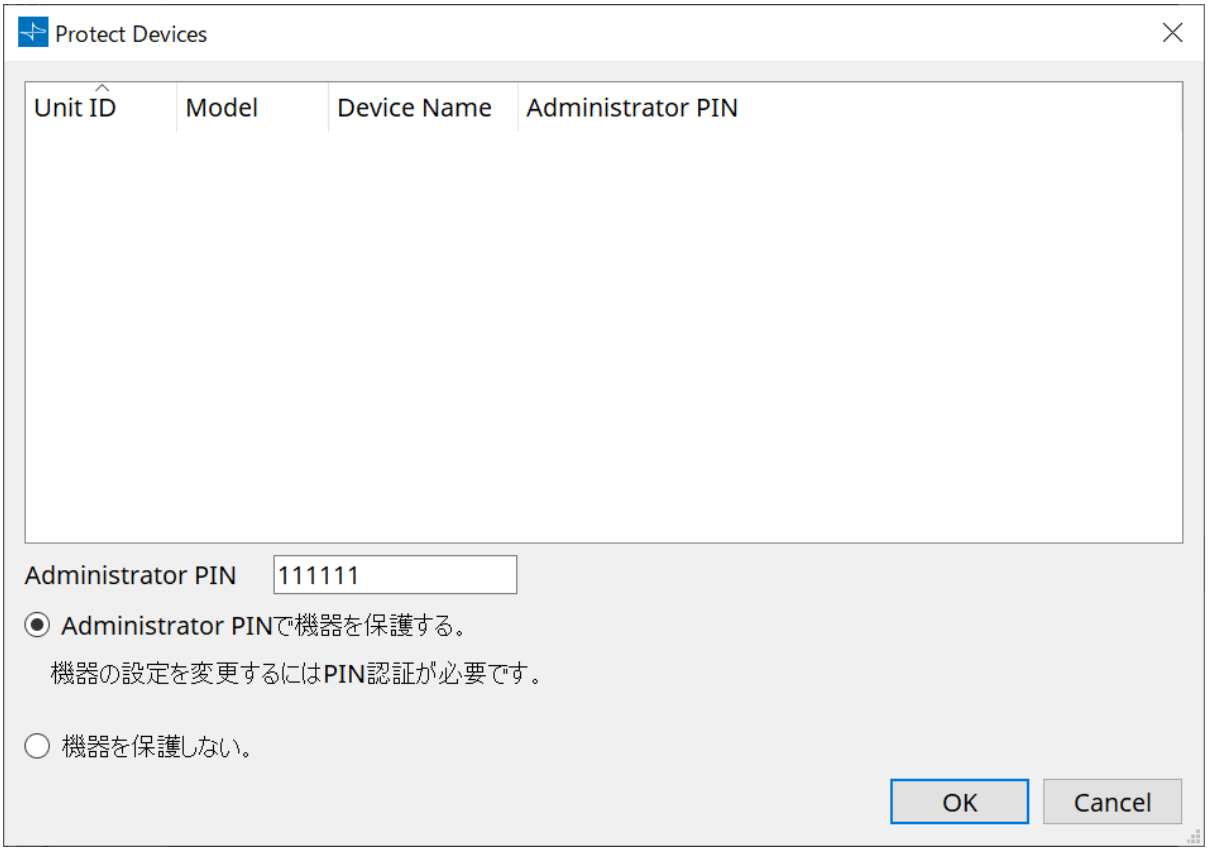
  - **MRX7-D/MTX5-Dの場合**
    Dante、YDIFまたはMini-YGDAI Cardを選択できます。

  - **DMEの場合**
    Danteのみ選択できます。

インジケーター	状態
◆ Unlock	アンロック状態。
◆ Lock	ロック状態。
◆ Lock, but not sync'ed	ロックはしているが同期していない状態。
◇ Unknown	外部機器が接続されていない、有効なクロック入力がないなどの理由で、クロックの状態を検出できない状態。

10.16. 「Protect Devices」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからProtect Devicesをクリックし開きます。
管理者以外が機器の設定を容易に変更できないように機器にAdministrator PINを設定することができます。Administrator PINを設定すると、ProVisionaire Designと機器をオンラインにするとき、各種設定を行うときにAdministrator PINの入力を求められます。Administrator PINを忘れると、機器本体を変更できなくなりますのでご注意ください。



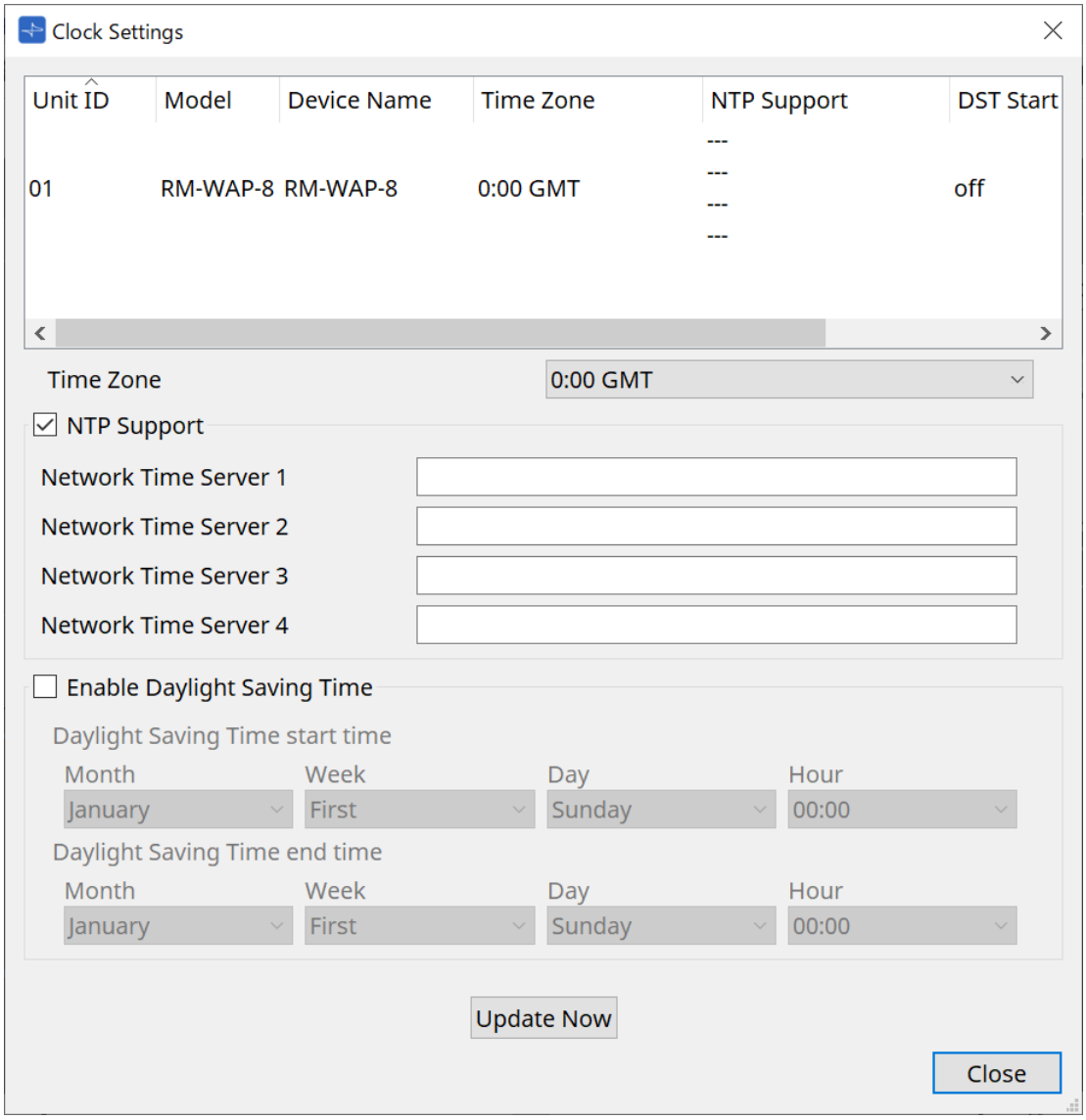
- **機器リスト**
  Administrator PINを解除できた機器またはAdministrator PINが設定されていない機器をリストに表示します。
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
  - **Administrator PIN**
    PINを解除できた機器は、Administrator PINを表示します。
- **[Administrator PIN]テキストボックス**
  機器に設定するAdministrator PINを入力します（6桁の0～9とa,b,c,d,e,f。大文字小文字の区別はありません。空のPINは設定できません)。
- **[Administrator PINで機器を保護する。]ラジオボタン**
  機器に変更を加えようとすると、PINの入力を求められます。
- **[機器を保護しない。]ラジオボタン**
  機器の保護を解除します。
- **[OK]ボタン**
  機器に設定を送信します。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を破棄して、ダイアログを閉じます。

10.17. 「Clock」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからClockをクリックし開きます。
接続されているすべての機器の内蔵時計は、オンライン状態にするたびにコンピューターの時計の日付および時間が送信され、自動的に更新されます。このダイアログからコンピューターの時計の日時を送信すると、オンライン状態/オフライン状態に関わらず同一ネットワークに接続されている機器の日時を更新します。

10.17.1. RM Series

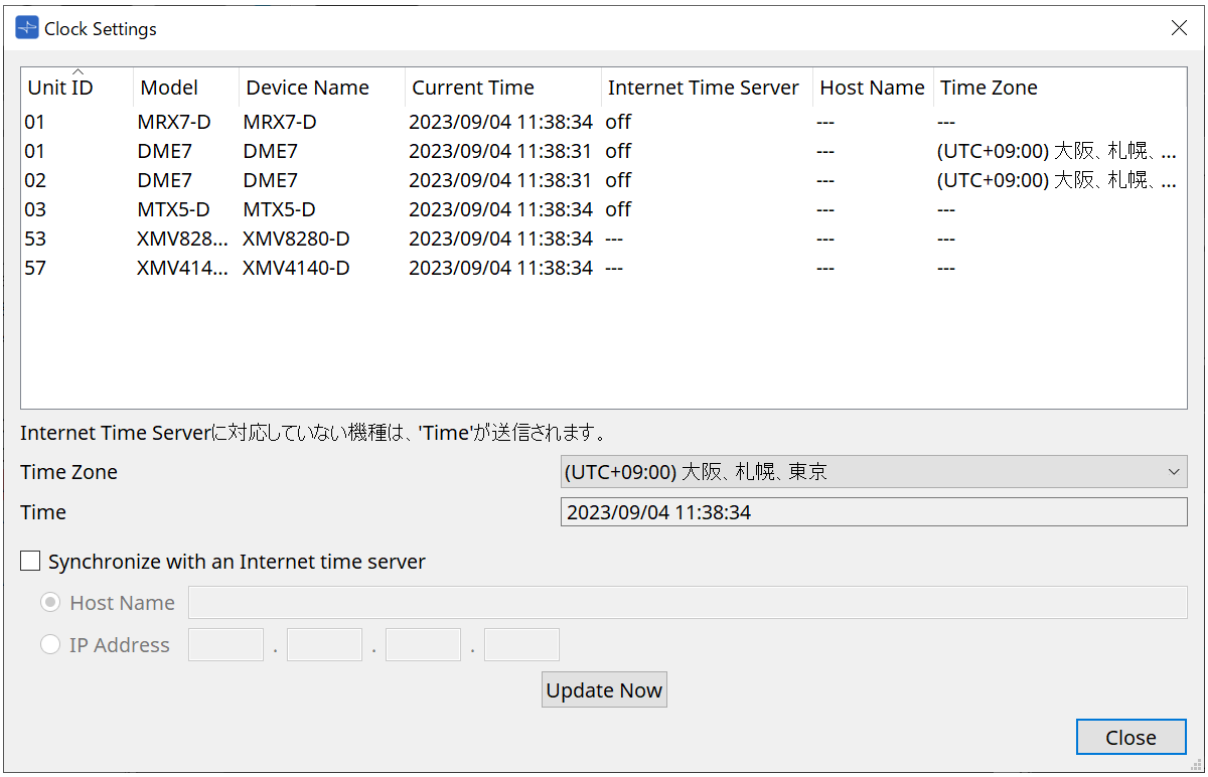
RMシリーズの設定を行います。



- **デバイスリスト**
  機器の現在の設定です。
- **[Time Zone]**
  タイムゾーンを設定します。
- **[NTP Support]チェックボックス**
  チェックすると、NTPを使用します。
- **[Enable Daylight Saving Time]チェックボックス**
  チェックすると、サマータイム（DST)の自動調整を行います。

10.17.2. Non-RM Series

RMシリーズ以外の機器の設定を行います。



- **デバイスリスト**
  機器の現在の設定です。

  設定は、ProVisionaire Designと機器をオンラインにするときに送信します。

- **[Time zone]**
  タイムゾーンを設定します。デフォルトではコンピューターのタイムゾーンが設定されています。

- **[Time]**
  タイムゾーンに応じた日付および時間を表示します。

- **[Synchronize with an Internet time server]チェックボックス**
  指定したタイムサーバーから時間情報を取得して、機器の内蔵時計を更新します。
  タイムサーバーに対応していない機器は、[Time]が送信されます。

  - **[Host name]**
    タイムサーバーのホスト名を設定します。

  - **[IP Address]**
    タイムサーバーのIPアドレスを設定します。

ご注意

- 外部のタイムサーバーを指定する場合は、別途インターネット接続環境を構築し、環境に合わせて「IP Address」ダイアログで[DNS server address]と[Default Gateway]を設定してください。
  外部のタイムサーバーを指定する場合は、信頼できるサーバーを指定してください。信頼できないサーバーを指定すると、ウィルスに感染するなどのリスクが発生します。
- ProVisionaire Edgeを使用する場合は、Synchronize with an Internet time serverを無効にすることを推奨します。有効にした場合、適切な時刻が表示されない可能性があります。

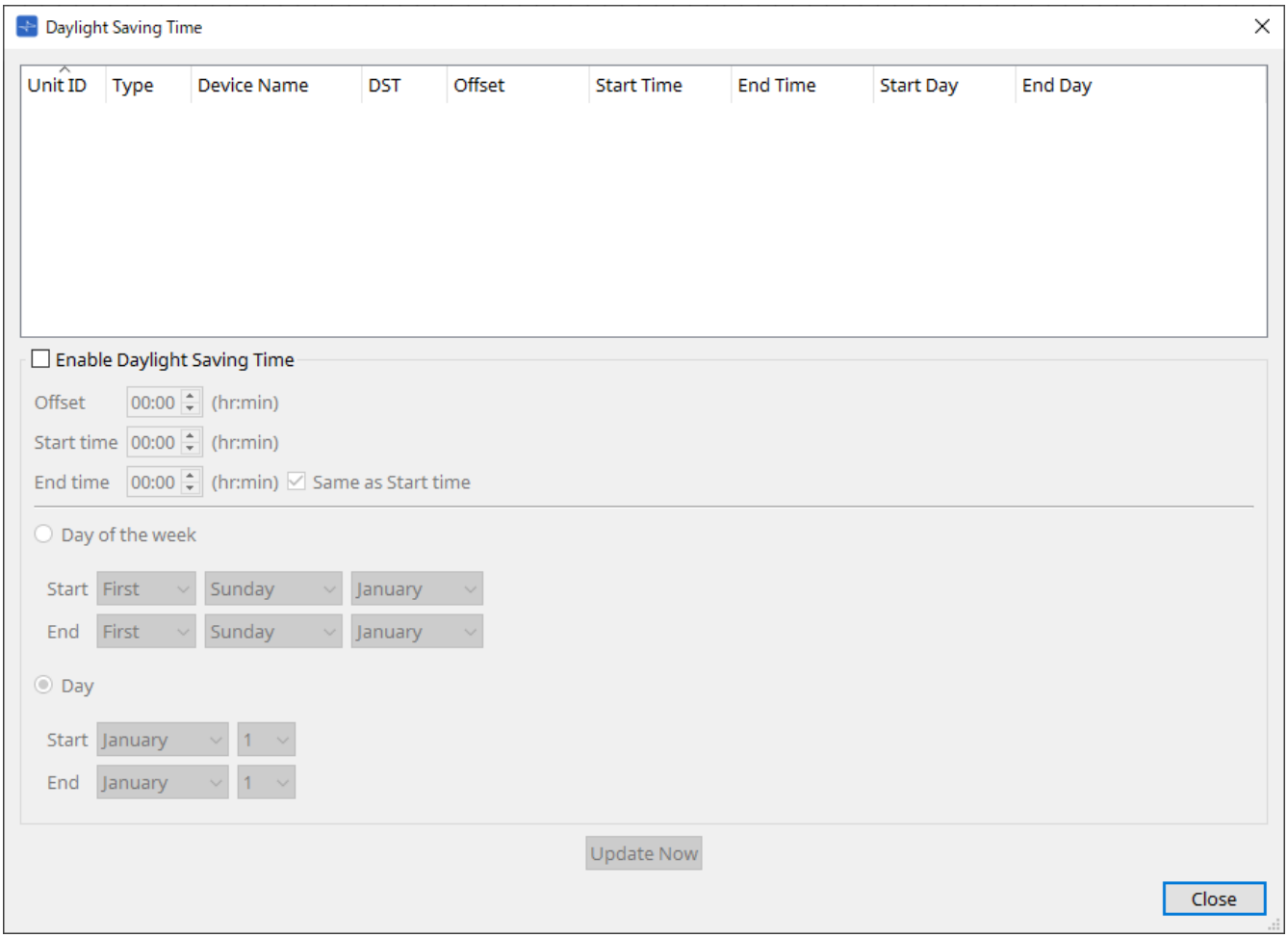
- **[Update Now] ボタン**
  クリックすると同時に機器の設定を更新します。
- **[Close]ボタン**
  ダイアログを閉じます。

10.18. 「Daylight Saving Time」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからDaylight Saving Timeをクリックし開きます。
オンライン状態/オフライン状態に関わらず同一ネットワークに接続されている機器のサマータイム(Daylight Saving Time)の設定をします。

対象機器はDME10/7、MTXシリーズです。

RMシリーズは「Clock」ダイアログを使って設定します。



- **デバイスリスト**
  機器の状態を表示します。
- **[Enable Daylight Saving Time]チェックボックス**
  オンにすると、サマータイム表示が有効になります。

コンピューターの「日付と時刻」で、「自動的に夏時間の調整をする」チェックボックスをオンにしている場合は、「Daylight Saving Time」ダイアログの[Enable Daylight Saving Time]チェックボックスも必ずオンにしてください。

  - **Offset**
    サマータイム期間に早める時間を設定します。
  - **Start time**
    サマータイムの開始時間を設定します。
    たとえばOffsetに01:00、Start timeに12:00を設定すると、サマータイム開始日の12:00になったときに時計を13:00にします。

- **End time**
  サマータイムの終了時間を設定します。開始時間と同じ場合は、[Same as Start time]をチェックします。
  たとえばOffsetに01:00、End timeに12:00を設定すると、サマータイム終了日のサマータイムで12:00になったときに時計を11:00にします。[Same as Start time]にチェックが入っていると、Start timeで指定した時間にしたがって自動的に終了日にサマータイムを解除して元の時間に戻します。

- **Day of the week**
  オンにすると、サマータイム期間を曜日で設定します。Startで開始日、Endで終了日を何回目の何曜日かで設定します。たとえば、4月の第1日曜は「First」「Sunday」「April」、10月の最終日曜日は「Last」「Sunday」「October」と設定します。

- **Day**
  サマータイム期間を日で設定します。Startで開始日、Endで終了日を月日で設定します。

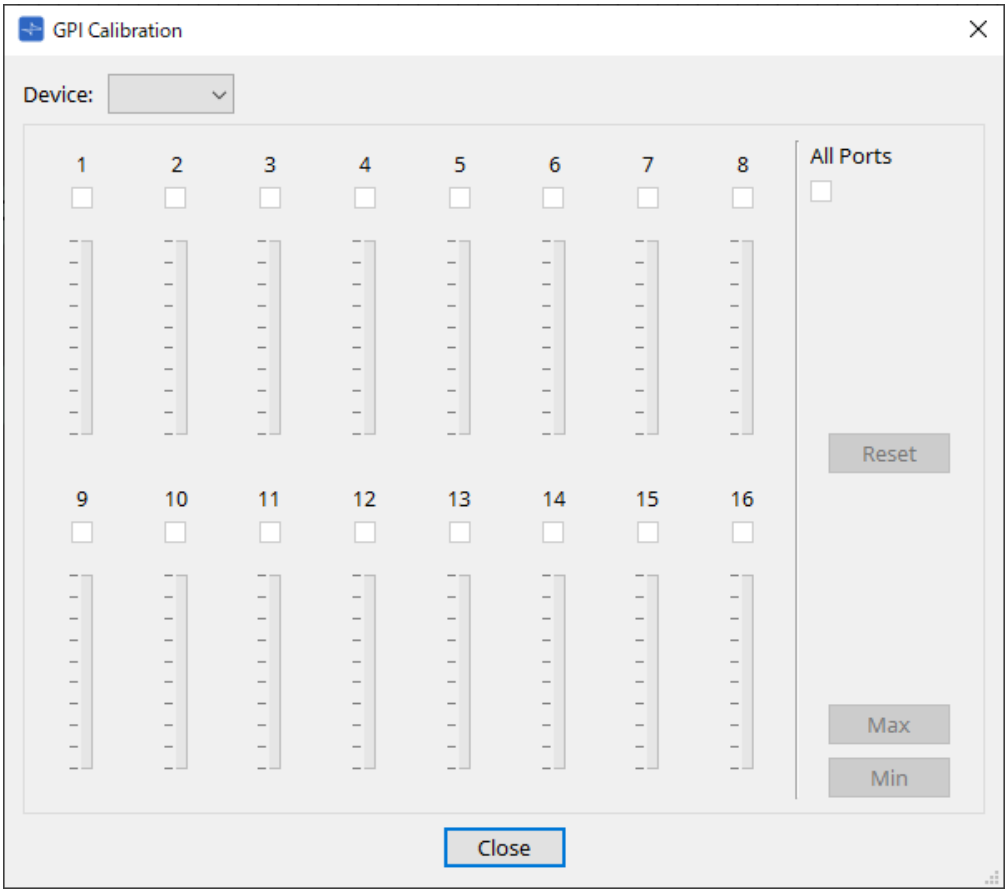
- **[Update Now] ボタン**
  クリックすると設定に合わせて、機器の内蔵時計を更新します。

- **[Close] ボタン**
  ダイアログを閉じます。

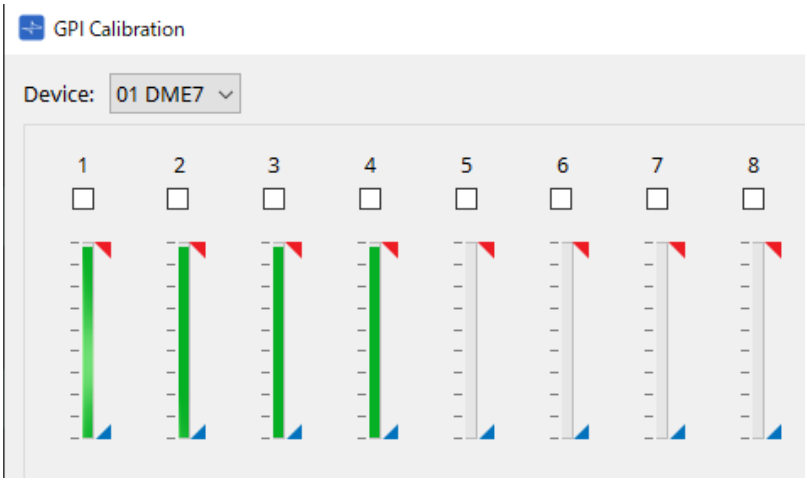
「Scheduler」ダイアログで、サマータイム開始時刻または終了時刻の前後2時間に設定されたイベントは、正しく実行されません。

10.19. 「GPI Calibration」ダイアログ

メニューバーの[System]メニューからGPI Calibrationをクリックし開きます。
機器の[GPI]端子の入力電圧検出範囲のキャリブレーションを行います。オンライン状態のときのみ設定できます。
[GPI]端子の入力電圧を安定させるために検出範囲を補正します。



- **[Device:]**
  キャリブレーション対象機器を選択します。
- **[All Ports]チェックボックス**
  すべてのチャンネルのチェックボックスをチェックします。
- **[Ch]チェックボックス**
  チェックしたチャンネルをキャリブレーションの対象とします。
- **キャリブレーション情報**
  リアルタイムで入力電圧を表示します。



- **[Reset]ボタン**
  チェックしたチャンネルのキャリブレーションをリセットします。
- **[Max]ボタン**
  チェックしたチャンネルの現在の入力電圧を最大値にセットします。
  セットした最大値は◥で表示します。
- **[Min]ボタン**
  チェックしたチャンネルの現在の入力電圧を最小値にセットします。
  セットした最小値は◢で表示します。

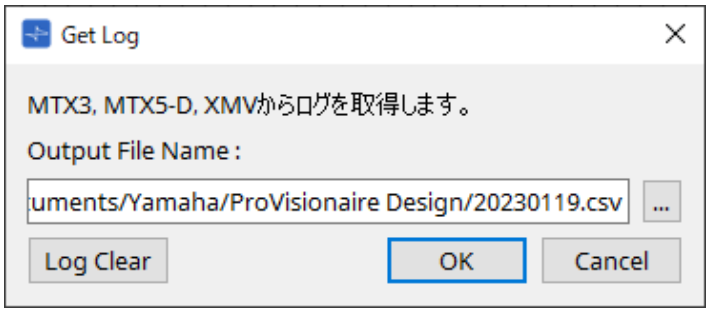
キャリブレーションの設定方法

1. **DMEやMTXシリーズ本体の[GPI]端子に外部機器を接続する。**
2. **キャリブレーションを行うチャンネル番号のチェックボックスをチェックする。**
   すべてのチャンネルを選択したいときは[All Ports] チェックボックスをチェックします。
3. **外部機器からの入力値を最大にして[Max]ボタンを、最小にして[Min]ボタンをクリックし、検出範囲を設定する。**
   配線による電圧降下の補正や出力機器の仕様に合わせて、最適な範囲に設定できます。

> •オン/オフが切り替わるスレッショルド値は、入力電圧の最大値と最小値の中央値(最大値と最小値を足して2で割った値)になります。誤動作防止のため、検出範囲を十分にとって設定してください。
> •ケーブルの長さやノイズの影響により電圧が下がる場合は、入力電圧の最大値および最小値を調整してください。また、電圧が不安定になることがあるので、最大値および最小値の間が十分に離れるように外部回路を構成/設定してください。

10.20. 「Get Log from Devices」ダイアログ

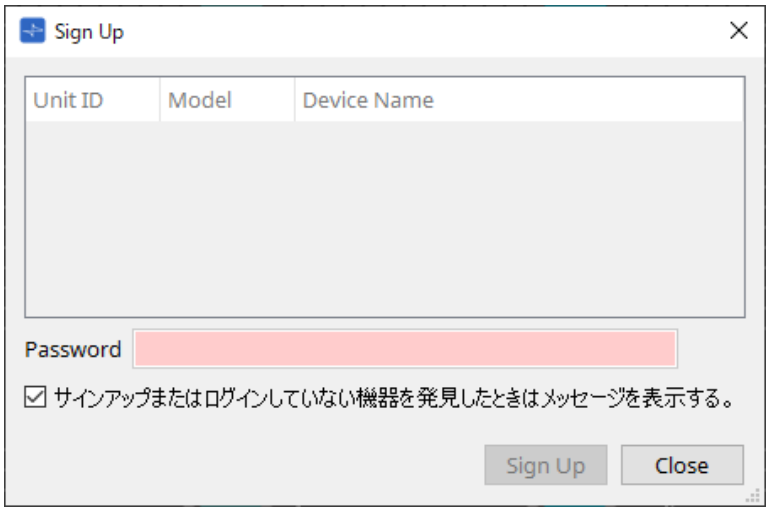
メニューバーの[System]メニューからGet Log from Devicesをクリックし開きます。
動作記録である「ログ」は MTXシリーズ/XMV本体のメモリーに保存されます。このダイアログでは、お使いのコンピューターが接続されているサブネット内に存在するすべてのMTXシリーズ/XMVのログを出力し、ファイルとして保存します。ログファイルの形式は「.csv」です。



- **[Output File Name:]テキストボックス**
  取得したログファイルの保存場所(絶対パス)を表示します。直接入力もできます。
- **[…]ボタン**
  ファイルブラウザーを開き、ログとして出力されるファイルを選択します
- **[Log Clear]ボタン**
  サブネット内に存在するすべての機器のログを消去します。
- **[OK]ボタン**
  ログファイルを出力し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  ログファイルの出力をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

10.21. 「RM Series Settings > Sign up」ダイアログ

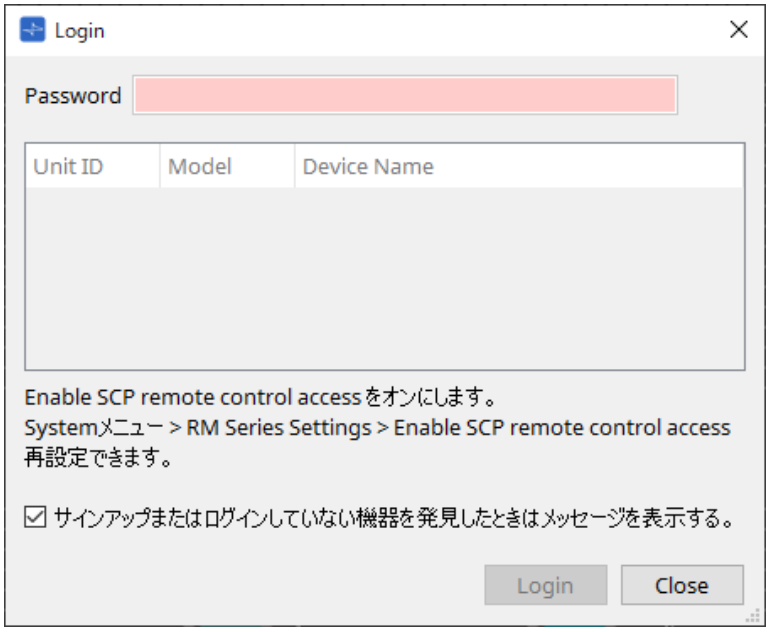
メニューバーの[System]メニュー>RM Series Settings>Sign up…をクリックし開きます。
RMシリーズに初期パスワードを設定します。
ProVisionaire Designで制御するには初期パスワードを設定する必要があります。



- **機器リスト**
  初期パスワードが設定されていないネットワーク上のRMシリーズを表示します。
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
- **[Password]テキストボックス**
  パスワードを入力します（4～16桁の英数字）。
- **[サインアップまたはログインしていない機器を発見したときにメッセージを表示する。]チェックボックス**
  チェックを入れると、初期パスワードが設定されていない機器やProVisionaire Designがログインしていない機器を発見したとき、自動的に「Sign Up」または「Login」ダイアログを表示します。

10.22. 「RM Series Settings > Login」ダイアログ

メニューバーの[System]メニュー>RM Series Settings>Login…をクリックし開きます。
ProVisionaire Designが機器をコントロールするためには、ログインする必要があります。

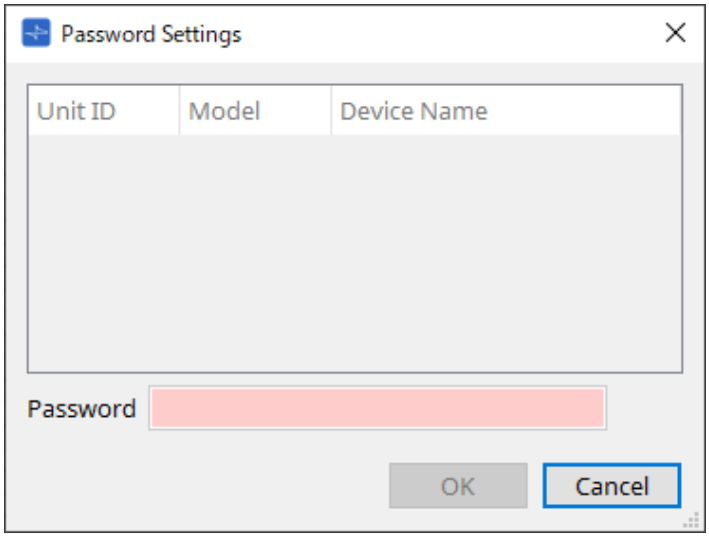


- **[Password]テキストボックス**
  パスワードを入力します（4～16桁の英数字）。
- **機器リスト**
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
- **[サインアップまたはログインしていない機器を発見したときはメッセージを表示します。]チェックボックス**
  チェックを入れると、初期パスワードが設定されていない機器やProVisionaire Designがログインしていない機器を発見したとき、自動的にSign UpまたはLoginダイアログを表示します。
- **[Login]ボタン**
  ログインを実行し、ダイアログを閉じます。
- **[Close]ボタン**
  ログインをキャンセルし、ダイアログを閉じます。

> ログイン時に機器のEnable SCP remote control Accessがオフになっている場合は、自動的にオンにします。
> オフにするには、[System]メニュー>RM Series Settings>Enable SCP remote control accessで再設定を行ってください。

10.23. 「RM Series Settings > Password Settings」ダイアログ

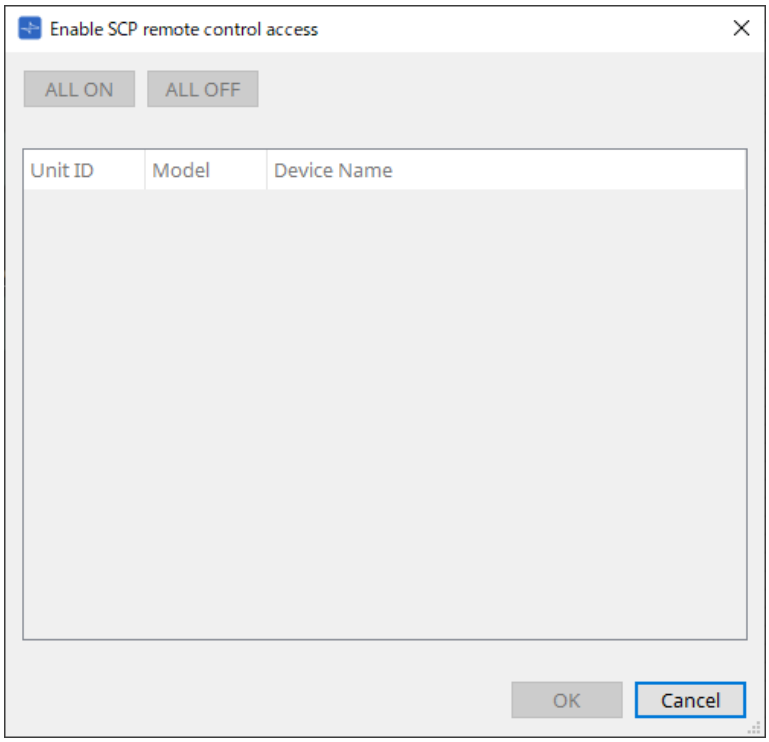
メニューバーの[System]メニュー>RM Series Settings>Password Settingsをクリックし開きます。機器のパスワードを変更します。



- **機器リスト**
  ログインしている機器をリストに表示します。
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
- **[Password]テキストボックス**
  パスワードを入力します（4～16桁の英数字）。
  入力したパスワードで、すべての機器のパスワードを上書きします。
- **[OK]ボタン**
  パスワードを設定し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を破棄して、ダイアログを閉じます。

10.24. 「RM Series Settings > Enable SCP remote control access」ダイアログ

メニューバーの[System]メニュー>RM Series Settings>Enable SCP remote control accessをクリックし開きます。
コントローラー(ProVisioniare Designも含みます)での設定変更を許可するにはEnable SCP remote control accessをオンにする必要があります。



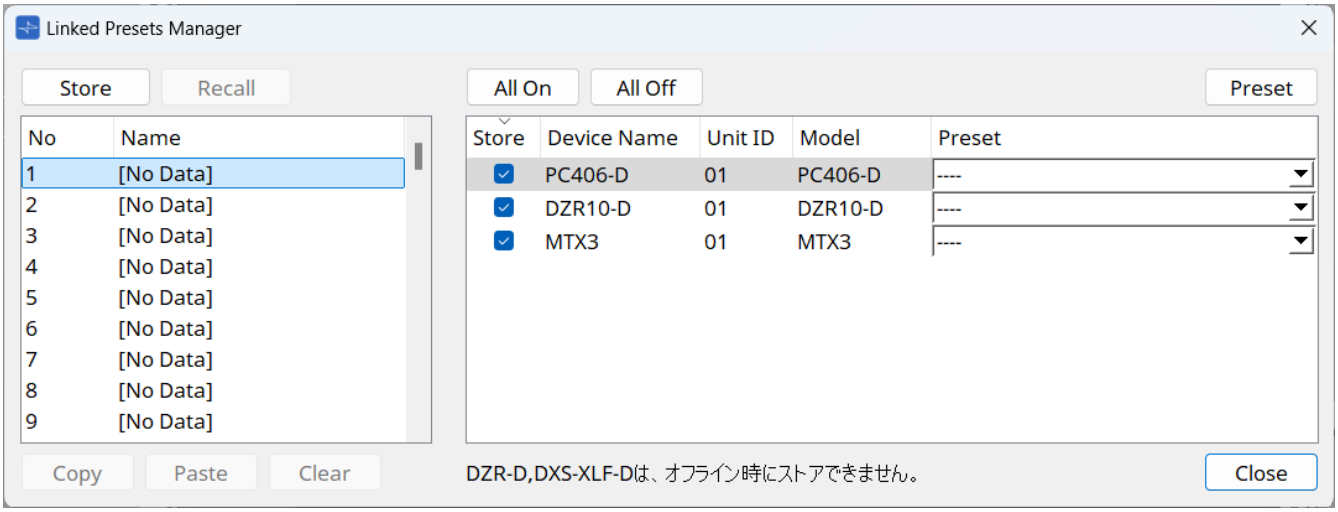
- **機器リスト**
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
- **[ALL ON]ボタン**
  すべての機器を選択します。
- **[ALL OFF]ボタン**
  すべての機器の選択を解除します。
- **チェックボックス**
  チェックを入れると、OKをクリックしたときにEnable SCP remote control accessを有効にします。
- **[OK]ボタン**
  設定を有効にしてダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を破棄して、ダイアログを閉じます。

10.25. 「Linked Presets Manager」ダイアログ

ツールバーの  をクリックし開きます。

機器ごとのプリセットやスナップショットを一斉にストア/リコールします。
各機器の任意のプリセットの集合体をリンクドプリセットと呼びます。
このダイアログではリンクドプリセットに各機器のプリセットをアサインする作業を行います。

DZRシリーズ/DXS-XLFシリーズはオフライン時はストア/リコールできません。



基本的な使い方は以下となります。

1. **左のリストでストア先のリンクドプリセットを選択する。**
2. **右のリストで、ストアしたい機器にチェックを入れる。**
3. **[Store]ボタンをクリックする。**
   手順2でチェックを入れた機器に手順1で選択したのと同じ番号にプリセットがストアされます。
   リンクドプリセットの対象から機器を外す場合は、右のリストの[Preset]で[----]を選択してください。
   なお、DMEシリーズとMRX7-Dはここではストアされません。
   リンクドプリセットをストアしたあとに、DMEシリーズはストア済のスナップショット、MRX7-Dはストア済のプリセットを"Preset"列で指定してください。

事前に個々の機器でプリセットを設定している場合は、以下の手順となります。

1. **左のリストでストア先のリンクドプリセットを選択する。**
2. **右のリストで、プリセットを設定している機器のチェックをはずす。**
3. **右のリストで、すでにストアしている機器の[Preset]を選択する。**
4. **[Store]ボタンをクリックする。**
   - **[Store]ボタン**
     リンクドプリセットをストアします。空のリンクドプリセットにストアすると、「Store Linked Preset」ダイアログが表示されます。
   - **[Recall]ボタン**
     選択しているリンクドプリセットをリコールします。
   - **リンクプリセット欄**
     ストアするリンクドプリセットやリコールするリンクドプリセットを選択します。

- **[Copy]ボタン**
  選択しているリンクドプリセットをコピーします。

- **[Paste]ボタン**
  コピーされているリンクドプリセットを、選択しているリンクドプリセットに貼り付けます。

- **[Clear]ボタン**
  選択しているリンクドプリセットを空にします。

- **[All On]ボタン**
  機器リスト内の機器すべての[Store]チェックボックスにチェックを入れます。

- **[All Off]ボタン**
  機器リスト内の機器すべての[Store]チェックボックスのチェックを外します。

- **[Preset]ボタン**
  選択している機器の機器シートを表示します。

- **機器リスト**
  プロジェクトに登録されている、プリセット機能を持つ機器を一覧表示します。

  - **[Store]チェックボックス**
    チェックを入れると、機器リストの[Store]チェックボックスにチェックが入っている機器に、[Preset]リストボックスで選択されたプリセットに上書き保存します。
    [Preset]リストボックスが[- - - -]の場合は、リンクドプリセットと同じ番号のプリセットに上書き保存されます。
    あらかじめ機器のプリセット番号に設定がストアされていて、そのプリセット番号を[Preset]リストボックスで選択している場合は、チェックを外してください。

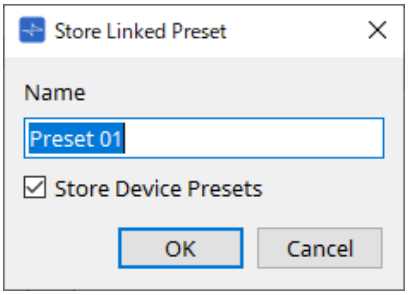
  - **Device Name /Unit ID / Model**
    機器名、機器のUnit ID、機器のモデル名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。

  - **[Preset]リストボックス**
    リンクドプリセットにリンクする機器のプリセットを選択してください。。
    ストアした後にプリセット番号を変更できます。また、リンクドプリセットのリコール対象外にする場合は、[----]を選択してください。

- **[Close]ボタン**
  ダイアログを閉じます。

10.26. 「Store Linked Preset」ダイアログ

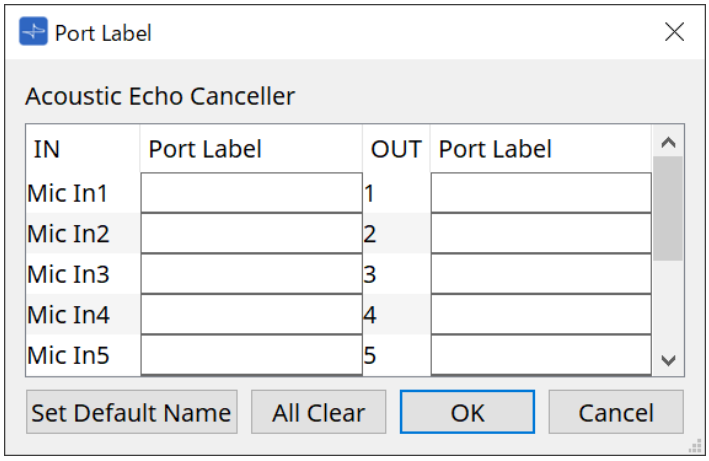
「Linked Presets Manager」ダイアログで[Store]ボタンをクリックし開きます。



- **[Name]テキストボックス**
  リンクドプリセット名を入力します。デフォルト状態では、「Preset + プリセット番号」が入力されています。リンクドプリセット名が空欄の場合はストアできません。
- **[Store Device Presets]チェックボックス**
  チェックを外すと、「Linked Presets Manager」ダイアログの右のリストにあるチェックが外れ、機器のプリセットを上書きストアしません。
  あらかじめ機器のプリセット番号に設定をストアしていた場合は、上書き防止のため、チェックを外してください。[Store]チェックボックスのチェックが外れた状態でストアされます。
- **[OK]ボタン**
  リンクドプリセットを設定して、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  リンクドプリセットを設定せずに、ダイアログを閉じます。

10.27. 「Port Label」ダイアログ

ポートを選択している状態で、「Properties」エリアのLabelのValue欄をクリックすると表示される▭から表示します。
選択しているポートを含むコンポーネントの全ポート名を一括で編集できます。



- **コンポーネント名**
  選択しているポートを含むコンポーネント名がリスト上部に表示されます。
- **[IN]/[OUT] 欄**
  ポートのデフォルト名称を表示します。
- **[Port Label] 欄**
  ポート名を表示/ 編集します。< Enter > を押すと入力が確定し、次のポートにフォーカスが移動します。カーソルキーでもフォーカスが移動します。
- **[Set Default Name] ボタン**
  [Port Label] 欄にデフォルト名称（[IN]/[OUT]欄に表示されている名称）を設定します。
- **[All Clear] ボタン**
  ポート名をすべてクリアします。
- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずに、ダイアログを閉じます。

11. コンテキストメニュー

右クリックするとコンテキストメニューが表示される場所があります。
「Devices」エリア、「Network」エリア、「Bird's Eye」ビューではコンテキストメニューは表示されません。

11.1. 各シートのタブ

シートのタブを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Close]	シートを閉じます。

11.2. 「Project」シート

「Project」シートを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Paste]	コピーしたオブジェクトをシート上に貼り付けます。
[Select All]	[All] シート上のオブジェクトをすべて選択します。デバイスグループの機器を選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All]を選択してください。
	[All Devices] シート上のすべての機器を選択します。デバイスグループの機器を選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All Devices]を選択してください。
	[All Wires] シート上のすべてのワイヤーを選択します。デバイスグループのワイヤーを選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All Wires]を選択してください。
	[All Graphics] シート上のすべての画像を選択します。デバイスグループの画像を選択する場合は、デバイスグループを選択してから[All Graphics]を選択してください。
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。
[Snap to Grid]	チェックを入れると、シートのグリッドに合わせてオブジェクトを配置します。

11.2.1. 「Project」シートの機器

「Project」シートの機器を右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Open Device]	チェックを入れると、機器の出力端子が表示されます。機器の左上にある[+]ボタンも同様です。パワーアンプのみが対象です。
[Open Device Sheet]	機器の機器シートを開きます。機器をダブルクリックするのと同様です。
[Identify]	機器のインジケーターが数秒間点滅します。
[Alert Information]	赤文字で表示されている機器で実行すると、「Alert」ダイアログが表示されます。
[Cut]	機器をコピーバッファーに移動します。
[Copy]	機器のパラメーター設定を含めてコピーします。
[Paste]	コピーバッファーにある機器のパラメーター設定を含めて複製します。
[Paste Parameters]	既存の機器を選択して実行すると、コピーした機器のパラメーターを反映します。
[Duplicate]	機器をパラメーター設定を含めて複製します。
[Delete]	機器を削除します。
[Add to Link Group]	リンクグループに機器のチャンネルを登録します。
[Create Device Group]	選択されているオブジェクトをデバイスグループに登録します。
[Bring to Front]	機器の表示を最前面に移動します。
[Send to Back]	機器の表示を最背面に移動します。
[Device Mute]	機器をミュートします。

11.2.2. 「Project」シートのスピーカー

「Project」シートのスピーカーを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。接続している機器によって使用できないメニューがあります。

メニュー	内容
[Open Speaker]	チェックを入れると、スピーカーの入力端子が表示されます。スピーカーの左上にある[+]ボタンも同様です。
[Open Speaker Editor]	「Speaker Editor」を開きます。スピーカーをダブルクリックするのと同様です。
[Open Multiple Speaker Editor]	複数のスピーカーを選択しているとき「Multiple Speaker Editor」を開きます。スピーカー単体を選択している場合は「Speker Editor」が開きます。
[Recall Speaker Preset(s)]	「Recall Speaker Preset(s)」ダイアログを開きます。
[Cut]	スピーカーをコピーバッファーに移動します。

メニュー	内容
[Copy]	スピーカーをコピーバッファーにコピーします。
[Paste]	コピーバッファーにあるスピーカーのパラメーター設定を含めて複製します。
[Duplicate]	スピーカーを複製します。
[Delete]	スピーカーを削除します。
[Add to Link Group]	スピーカーが機器に接続されている場合、接続されている機器のチャンネルを登録します。
[Create Device Group]	選択されているオブジェクトをデバイスグループに登録します。
[Bring to Front]	スピーカーの表示を最前面に移動します。
[Send to Back]	スピーカーの表示を最背面に移動します。

11.2.3. 「Project」シートのデバイスグループ

「Project」シートのデバイスグループを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Open Group Editor]	「Group」Editorを開きます。
[Cut]	デバイスグループをコピーバッファーに移動します。
[Copy]	デバイスグループをコピーバッファーにコピーします。
[Paste]	コピーバッファーにあるデバイスグループを複製します。
[Paste to Device Group]	コピーバッファーにあるデバイスグループをデバイスグループ内に複製します。
[Delete]	デバイスグループを削除します。
[Select All]	[All] デバイスグループ内のオブジェクトをすべて選択します。
	[All Devices] デバイスグループ内のすべての機器を選択します。
	[All Wires] デバイスグループ内のすべてのワイヤーを選択します。
	[All Graphics] デバイスグループ内のすべてのオブジェクトを選択します。
[Linked Presets Manager for Group]	デバイスグループ内の機器を対象とした「Linked Presets Manager for Group」ダイアログが開きます。使い方については「Linked Presets Manager」ダイアログを参照してください。
[Unpack Device Group]	デバイスグループを解除します。
[Bring to Front]	デバイスグループの表示を最前面に移動します。
[Send to Back]	デバイスグループの表示を最背面に移動します。

11.2.4. 「Project」シートのText、LineとPolygon

「Project」シートのText、LineやPolygonなどの画像を右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Cut]	画像をコピーバッファーに移動します。
[Copy]	画像をコピーバッファーにコピーします。
[Paste]	コピーバッファーにある画像を複製します。
[Duplicate]	画像を複製します。
[Delete]	画像を削除します。
[Create Device Group]	選択されている画像をデバイスグループに登録します。
[Bring to Front]	画像の表示を最前面に移動します。
[Send to Back]	画像の表示を最背面に移動します。

11.2.5. 「Project」シートのワイヤー

「Project」シートや機器シートのワイヤーを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。接続している機器によって使用できないメニューがあります。

メニュー	内容
[Delete]	ワイヤーを削除します。
[Bring to Front]	選択しているワイヤーを最前面に移動します。
[Send to Back]	選択しているワイヤーを最背面に移動します。
[Insert Node]	ワイヤーにノードを追加します。※ノードとは、ワイヤーの分割点です。
[Remove Segment]	ノードとノードの間のワイヤーを削除します。

11.2.6. 「Network」エリア

機器を右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Alert Information]	赤文字で表示されている機器で実行すると、「Alert」ダイアログが表示されます。
[Identify]	機器のインジケーターを数秒間点滅させます。
[Sign Up](RMシリーズのみ)	「RM Series Settings > Sign up」ダイアログを開きます。
[Login](RMシリーズのみ)	「RM Series Settings > Log In」ダイアログを開きます。

11.3. 機器シート

11.3.1. 機器シート内のコンポーネント/コンポーネントエディター

コンポーネントを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

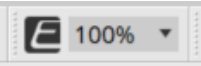
メニュー	内容
Open Component Editor	コンポーネントエディターを開きます。
[Copy]	コンポーネントをコンポーネントエディターのパラメーター設定を含めてコピーします。
[Paste Parameters]	既存の同種のコンポーネントエディターを選択して実行すると、コピーしたコンポーネントのパラメーターを反映します。

12. 機器シートの共通操作

機器シートでは以下の共通操作があります。

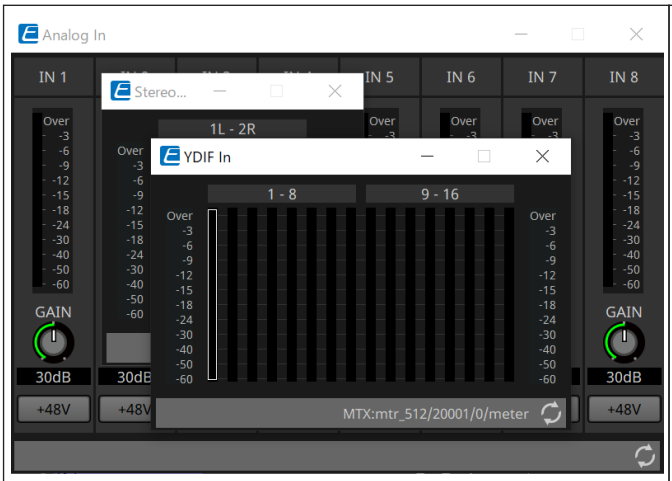
12.1. コンポーネントエディターの操作

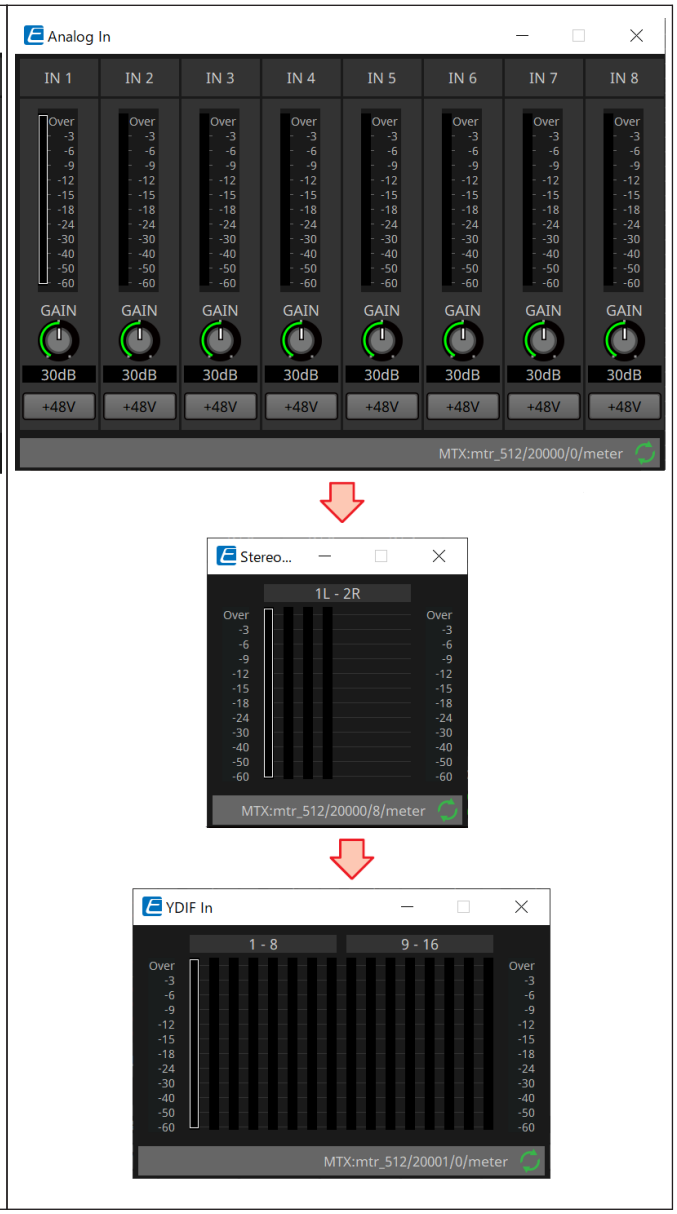
機器シート上の各コンポーネントをダブルクリックするか、右クリックして[Open Component Editor]を選択するとコンポーネントエディターが表示されます。
コンテキストメニューの詳細については、各機器の「コンテキストメニュー」を参照してください。
コンポーネントエディターを一つのウィンドウで切り替えたいときは、コンポーネントエディターの右下にあるリサイクルマーク( )をクリックして緑色( )にしてください。他のコンポーネントエディターを開く操作をしたときに、最前面のコンポーネントエディターの表示が切り替わります。



Editor MagnificationでEditorの拡大率を変更することができます。
50/75/100/150/200から選択できます。

リサイクルマークが灰色の場合	リサイクルマークが緑色の場合


Analog In
IN 1
IN 5
IN 6
IN 7
IN 8
Stereo...
1L - 2R
YDIF In
1 - 8
9 - 16
Over
GAIN
30dB
+48V
MTX:mtr_512/20001/0/meter

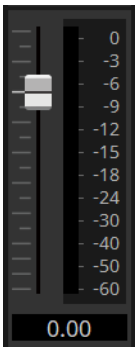

Analog In
IN 1
IN 2
IN 3
IN 4
IN 5
IN 6
IN 7
IN 8
Over
GAIN
30dB
+48V
MTX:mtr_512/20000/0/meter
Stereo...
1L - 2R
MTX:mtr_512/20000/8/meter
YDIF In
1 - 8
9 - 16
MTX:mtr_512/20001/0/meter

12.2. パラメーターの操作

コンポーネントエディターなどでパラメーターを設定する操作について説明します。

- **ノブ**
  ノブのパラメーター変更方法は複数あります。
  - ノブを選択して、マウスの左ボタンを押したままマウスカーソルを上下に動かす。
  - ノブを選択して、マウスホイールを回す。
  - 数字表示部を選択して、マウスの左ボタンを押したままマウスカーソルを上下に動かす。
  - 数字表示部を選択して、マウスホイールを回す。
  - 数字表示部をダブルクリックして、直接数字を入力する。
  - < Alt >+クリックでノミナル値にする。

- **スライダー**
  フェーダーなどに使われるスライダーのパラメーター変更方法は複数あります。
  - スライダーの操作子をドラッグする。
  - スライダーの操作子を選択して、枠内でマウスホイールを回す。
  - 数字表示部を選択して、マウスの左ボタンを押したままマウスカーソルを上下に動かす。
  - 数字表示部を選択して、マウスホイールを回す。
  - 数字表示部をダブルクリックして、直接数字を入力する。
  - < Alt >+クリックでノミナル値にする。

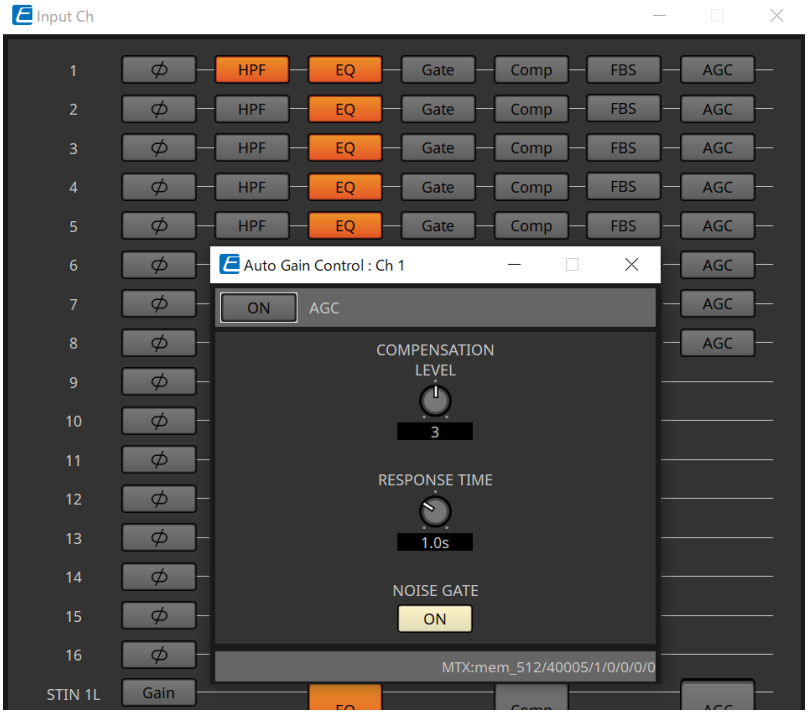


- **ボタン**
  ボタンはクリックすることでパラメーターが変わります。
  ボタンにはいくつかの種類があります。機能によって点灯する色は異なります。

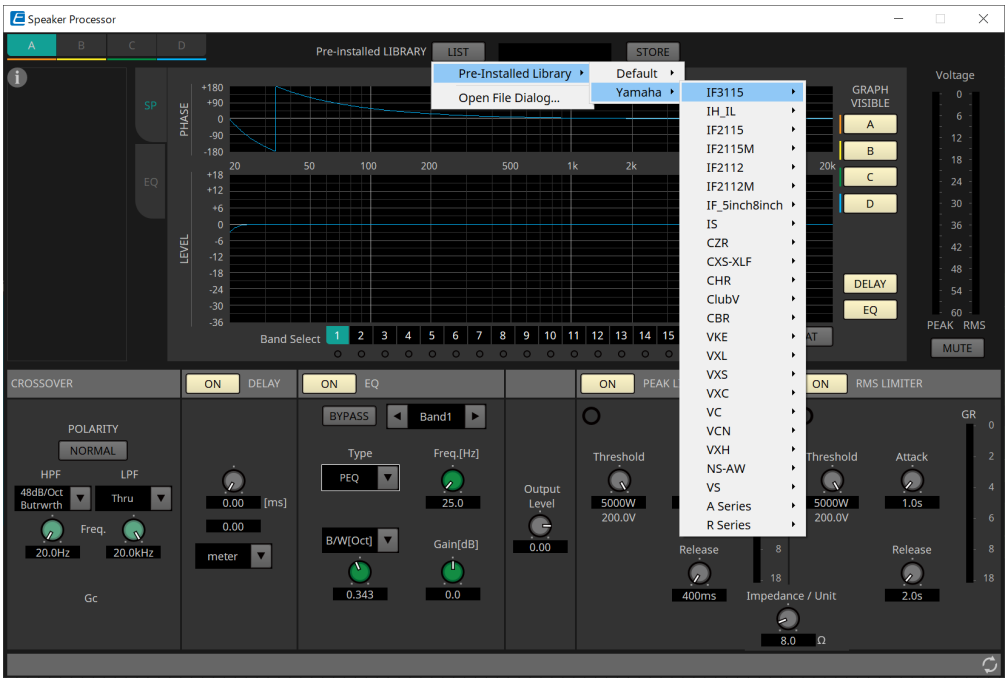
  機能を有効にするか無効にするか切り替える
  有効にするとボタンが点灯します。

  どれを有効にするのか切り替える
  複数のボタンがセットになっていて、1つを有効にするとそれ以外が無効になります。

パラメーター設定ウィンドウや別のコンポーネントエディターを開く
クリックするとパラメーター設定ウィンドウや別のコンポーネントエディターを開きます。



メニューを表示する
クリックするとメニューが表示されます。



12.3. ProVisionaire Control PLUSにパラメーターを登録する

ProVisionaire DesignからProVisionaire Control PLUSに各機器のパラメーター、スナップショット/プリセットを登録することができます。

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをProVisionaire Control PLUSのページへドラッグ&ドロップする。
「Parameters」エリア	パラメーターをProVisionaire Control PLUSのページへドラッグ&ドロップする。
「Preset」エリア / 「Parameter Sets」エリア	プリセット/スナップショット/スナップショットグループ*をProVisionaire Control PLUSのページへドラッグ&ドロップする。 *スナップショットグループはMRX7-Dのみの機能です。
Link Control エディター	< Ctrl >を押しながら、Link ControlをProVisionaire Control PLUSのページへドラッグ&ドロップする。 ※MRX7-Dのみの機能です。

13. オーディオプロセッサー DME10/DME7

13.1. 概要

DMEは使用するコンポーネントを自在に配置することで、自由にシステムデザインできるフリーコンフィグレーション方式のプロセッサーです。DMEはDCP/MCP1などの外部コントローラーで操作できます。

DMEの機器シートではコンポーネントを自由に配置して、コンポーネントを結線して、コンパイルするという作業をします。
そのあと、DME本体と通信してコンポーネントエディターなどを使ってパラメーターの設定をします。

Trace Signal Path機能で、信号経路を表示できます（信号経路の表示)。
また、Dulicate Port Label機能を使うと、起点となるポートの名称を信号経路に沿って、次々に複製することができます（入力ポート名の複製）。

パラメーターのストア/リコールはスナップショット形式で行います。
ストア/リコールしたい複数のパラメーターだけをグループ化し(パラメーターセット)、パラメーターセットごとに100パターンのパラメーター値をスナップショットとしてストアできます。
スナップショットはリモートコントローラーからリコールできます。

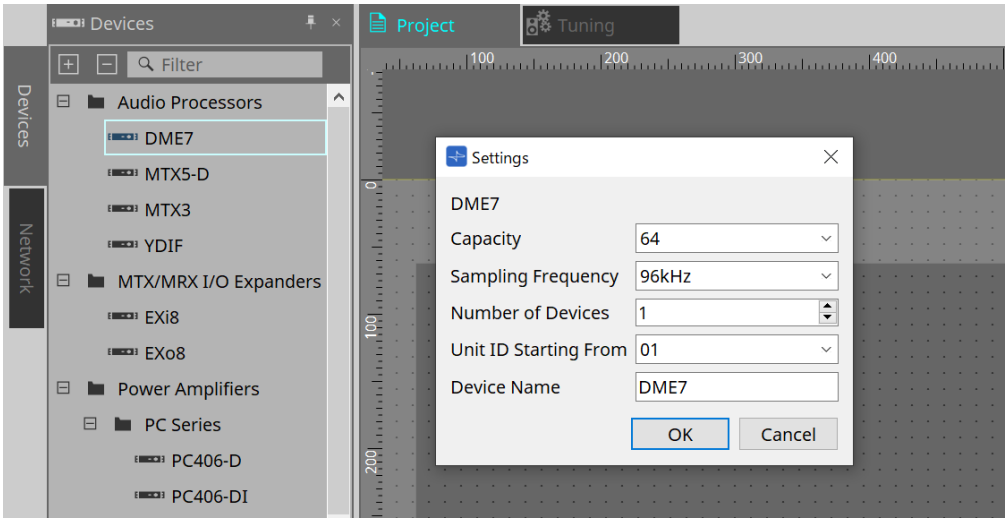
複数のパラメーターをリンクできます(パラメーターリンクグループ)。

コンポーネントの初期値やコンポーネント、コンポーネント間のワイヤーなどの情報をユーザースタイルという形でコンピューターに記憶できます。ユーザースタイルを記憶させておくことで、コンポーネントを配置するたびに設定を変更する作業が不要になります。ユーザースタイルは他のコンピューターにも持ち出すことができます。

コンポーネントやコンポーネント間のワイヤーはUser Defined Blockとしてブロック化できます。複数のコンポーネントをまとめて1つのブロックとすることで、シートの見た目をすっきりさせたり、ブロックのコピーで簡単に同じ機能を別チャンネル用に作ったりできます。ブロックごとに「View Only」モードや「Protect」モードを設定すると、「Protect User Defined Block」を実行したときにブロックを保護することができます。

13.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Capacity(DME7のみ)**
  Dante及びMatrix Mixer /Routerコンポーネントの入出力数です。64/128/192/256から選択できます。
  DME7本体のCapacityに合わせてください。詳細は、Propertiesエリア>Capacityを参照ください。

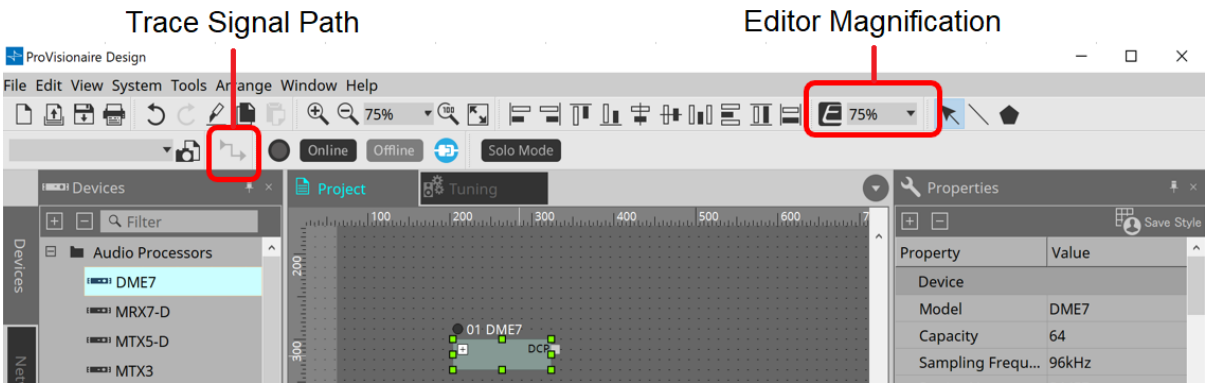
- **Sampling Frequency**
  機器のサンプリング周波数です。44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHzから選択できます。
  Danteのサンプルレートと合わせてください。

- **Number of Devices**
  シートに配置するDMEの台数を選択します。

- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。

- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

13.2.1. ツールバー

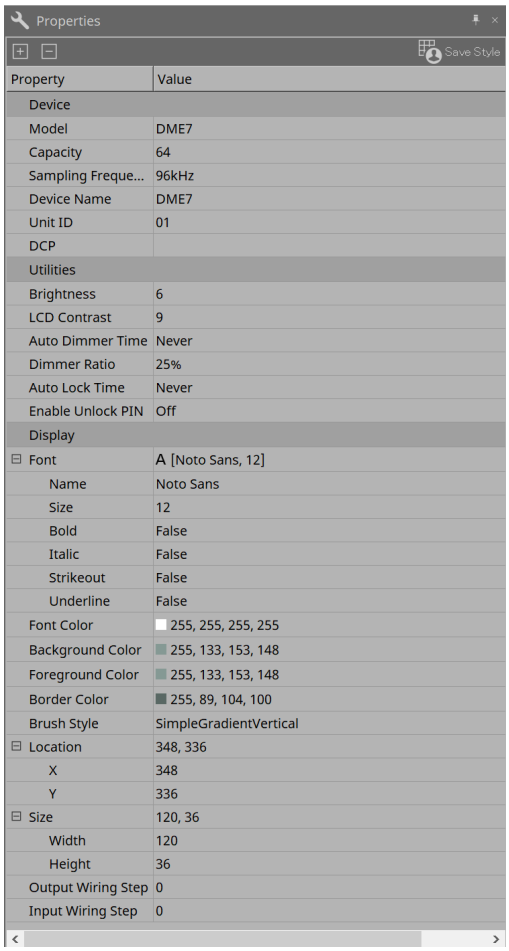


- **Editor Magnification**
  コンポーネントエディターの拡大率を変更します。

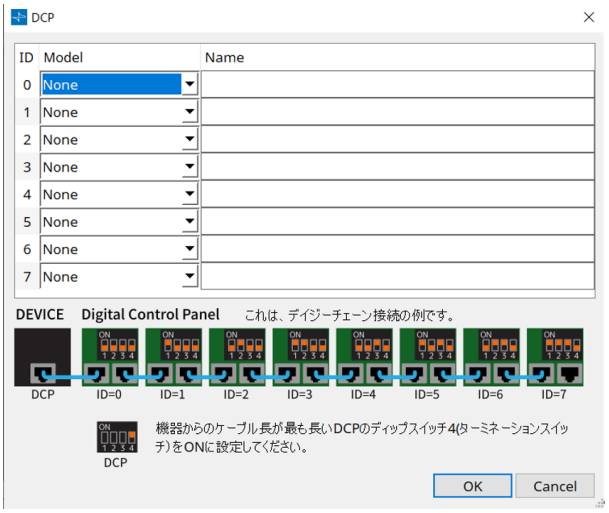
- **Trace Signal Path**
  オンにすると、ポートまたはワイヤーを選択したとき、選択したものを起点として出力方向と入力方向へ信号経路の検索を行います。

13.2.2. 「Properties」エリア

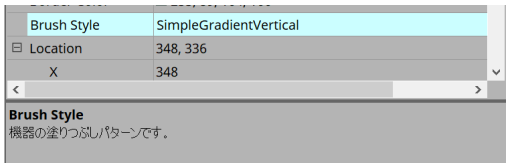
DMEの情報を表示/編集します。



- **Device**
  - **Capacity(DME7のみ)**
    Dante及びMatrix Mixer /Routerコンポーネントの入出力数です。64/128/192/256から選択できます。
    DME本体のCapacityに合わせてください。
    工場出荷時は、DME本体のCapacityは64になっています。64のとき、使用可能なDanteの入出力数とMatrix Mixer、Routerコンポーネントの入出力数の最大は64In、64Outになります。
    ライセンス(DEK-DME7-DX64)をひとつ追加するごとにDanteの入出力数とMatrix Mixer/Routerのコンポーネントの入出力数を64チャンネル増やすことができます。
    ライセンスは3つまで追加できます。機器にライセンスを追加する方法は、「デバイスライセンスアクティベーションガイド」を参照ください。
  - **Sampling Frequency**
    機器のサンプリング周波数です。44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHzから選択できます。
    Danteのサンプルレートと合わせてください。
  - **Unit ID**
    DME本体のUnit IDに合わせてください。工場出荷時は、1になっています。
  - **DCP(デジタルコントロールパネル)**
    DMEのDCPポートに接続するDCPを選択してください。
    DCPを選択すると、Device SheetにDCPコンポーネントが追加されます。

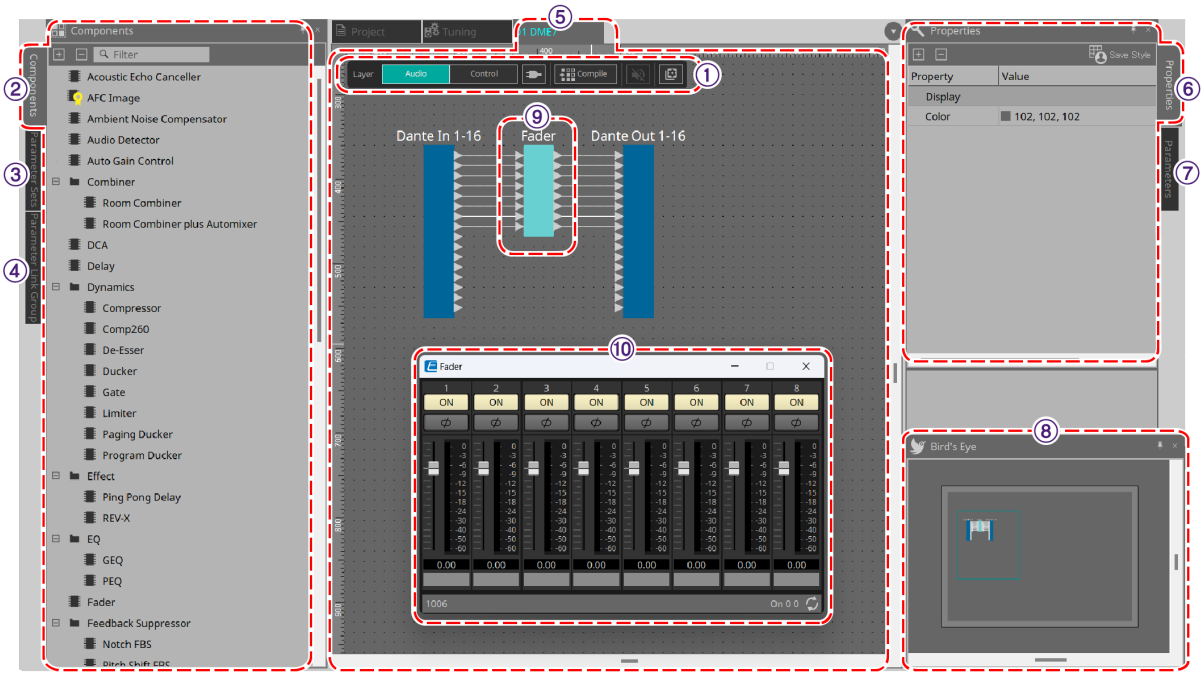


詳細は、「DCP」の項目を参照ください。
その他の項目は、Propertiesの項目を選択したときに表示される説明文で確認してください。



13.3. 機器シートの画面構成

機器シートは「メニューバー」「ツールボタン」「Componentsエリア」「Parameter Setsエリア」「デザインシート」「Propertiesエリア」「Parametersエリア」「Bird's Eyeビュー」から構成されています。



① ツールボタン
DMEでよく使うコマンドのショートカットボタンです。(ツールボタン)

② 「Components」エリア
AudioレイヤーとControlレイヤーごとにコンポーネントのリストが表示されます。(「Components」エリア)

③ 「Parameter Sets」エリア
パラメーターセットやスナップショットを設定します。(「Parameter Sets」エリア)

④ 「Parameter Link Group」エリア
Level系やON/OFF系の複数パラメーターを連動させるパラメーターリンクグループを作成します(「Parameter Link Group」エリア)。

⑤ デザインシート
コンポーネントの配置および結線をするシートです。(デザインシート)

⑥ 「Properties」エリア
選択中のコンポーネントやポート、ワイヤーの設定を変更します。(「Properties」エリア)

⑦ 「Parameters」エリア
デザインシート(Audioレイヤー、Controlレイヤー)に配置済のコンポーネントとパラメーターをリスト表示します。(「Parameters」エリア)

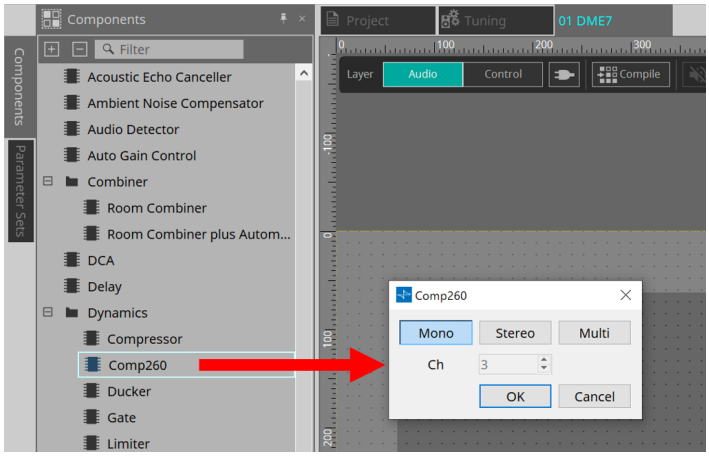
⑧ Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

⑨ コンポーネント
イコライザーやコンプレッサーなど各種信号処理モジュールを「コンポーネント」と呼びます。

⑩ コンポーネントエディター
コンポーネントエディターでパラメーターを設定します。

13.4. 基本的な使い方

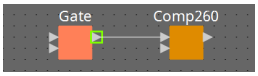
1. **使用するコンポーネントを左の「Components」エリアからデザインシートにドラッグ&ドロップする。**



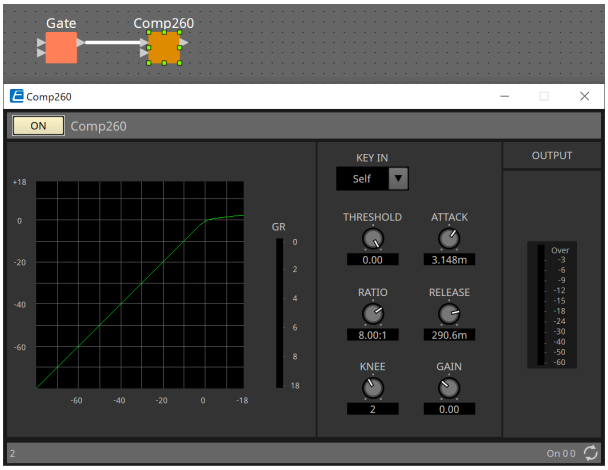
チャンネル数など複数の候補があるコンポーネントをドロップした場合、候補が表示されますので、必要に応じて選択してください。

> 「Components」エリアのリスト上のコンポーネントをダブルクリックすると、スタンプモードになって、デザインシートをクリックするたびにコンポーネントが連続して配置されます。スタンプモードを解除する場合は、< Esc >を押すか、リスト上で任意のコンポーネントをクリックしてください。

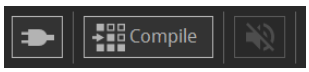
2. **コンポーネントの▶をドラッグして、他のコンポーネントの▶にドロップして、結線する。**
詳細については「ポート間の結線」を参照してください。



3. **コンポーネントを右クリックして「Open Component Editor」を選択またはダブルクリックして、コンポーネントエディターを開いてパラメーターを操作する。**

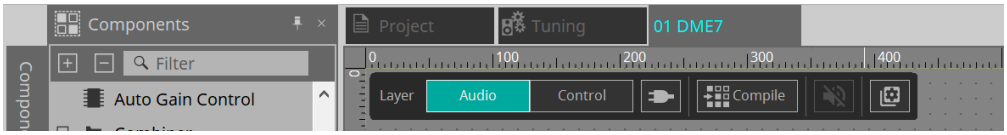


4. **必要な設定が完了したら、「Compile」ボタンをクリックして、コンポーネントの配置や結線に問題がないか確認する。**



13.5. ツールボタン

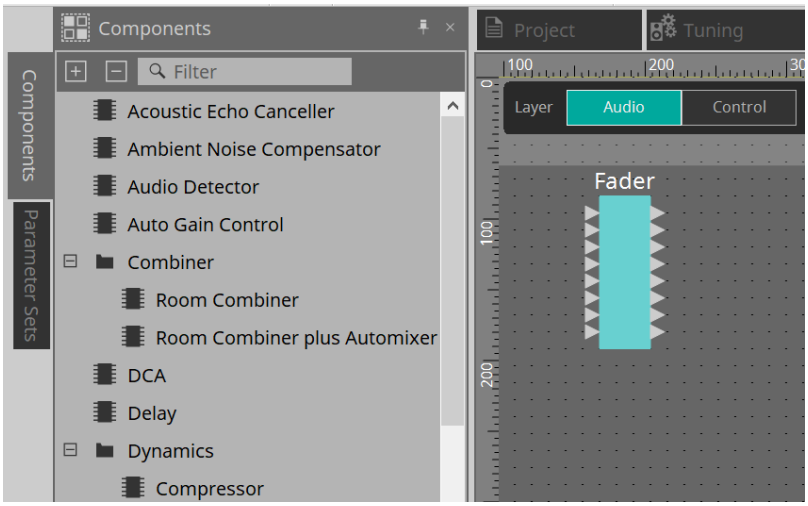
DMEでよく使うコマンドのショートカットボタンです。

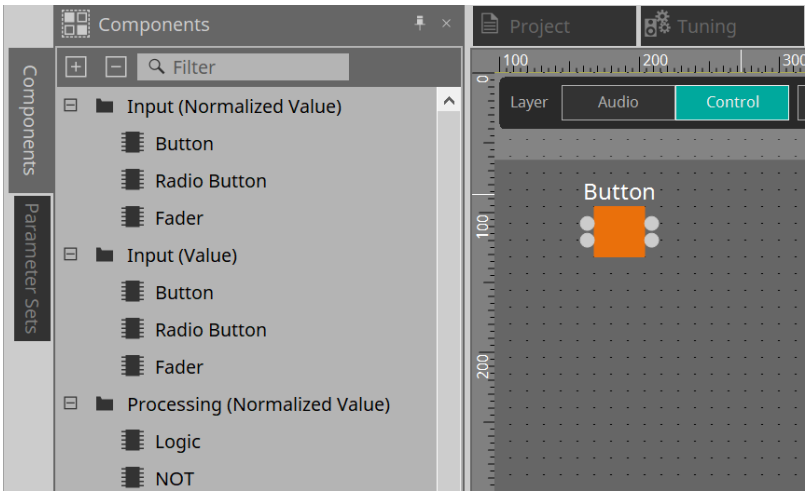


ボタン	コマンド	概要
Layer Audio Control	[Layer]	AudioレイヤーまたはControlレイヤーを切り替えます。 ショートカットキー(Ctrl+page up)で切り替えることもできます。
	[Control Function]	オンのときに、ControlレイヤーのConfigurationをエミュレーションします。Onのときは、Configurationの変更はできません。
Compile	[Compile]	コンポーネントの配置や結線に問題がないか解析します。
	[Device Mute]	DME7をミュートします。
	[Tools]	**[Remote Control Setup List]** リモートコントローラーからコントロールするパラメーターを登録します。 **[SD Card File Manager]** SD Cardコンポーネントで再生するファイルを登録します。 **[GPI]** GPI入出力を使うことによりカスタムメイドのコントローラーや外部機器からDMEをリモートコントロールできます。 **[MIDI]** MIDIでDMEをリモートコントロールできます。 **[MCP1]** 「Project」シートに配置されているMCP1のエディターを開きます。 **[Peak Hold]** ONにチェックを入れると配置されているコンポーネントのメーターで最大値を保持します。 Resetを選択すると、最大値の保持をリセットします。 **[Protect User Defined Block]** 「Protect User Defined Block」ダイアログを開きます。 詳細な説明は「User Defined Block」を参照ください。 **[Layer Link]** オンのときオーディオコンポーネントの配置位置をAudioレイヤーとControlレイヤーで同期します。

13.6. 「Components」エリア

AudioレイヤーとControlレイヤーごとにコンポーネントを用意しています。





また、コンポーネントの詳細な説明は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

13.7. デザインシート

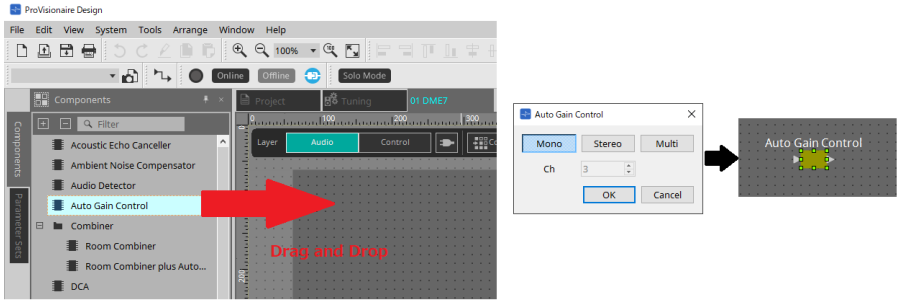
コンポーネントを配置したり結線したりします。 オンライン時にできる操作は主にパラメーターの設定です。配置や結線などに関わる作業はオフライン時のみとなります。

13.7.1. コンポーネントの配置

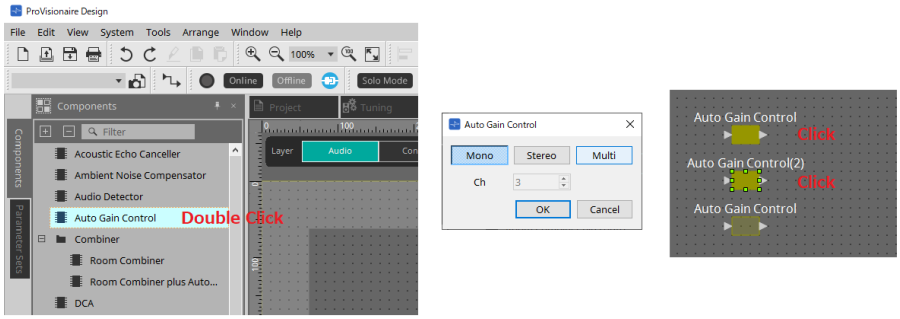
コンポーネントをデザインシートに配置する方法を説明します。

「Components」エリアのコンポーネントのどれかを選択している状態で英字キーを押すと、先頭文字が一致するコンポーネントが選択されます。

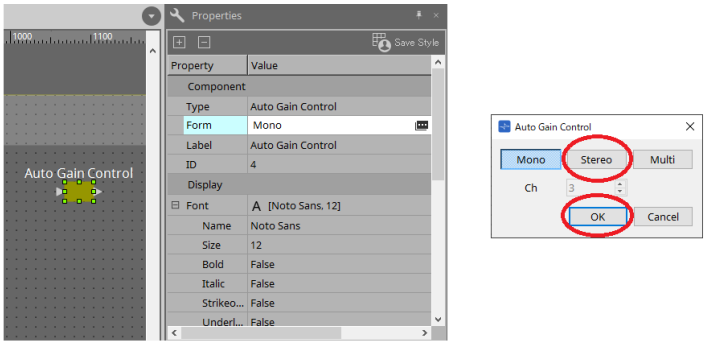
- **1 つだけ配置する**
  「Components」エリアのリストから配置するコンポーネントをデザインシートにドラッグ＆ドロップします。



- **同じコンポーネントを複数配置する**
  「Components」エリアのリスト上のコンポーネントをダブルクリックするとスタンプモードになって、デザインシートをクリックするたびにコンポーネントが配置されます。
  スタンプモードを解除する場合は、< Esc >を押すか、リスト上で任意のコンポーネントをクリックしてください。



- **配置したコンポーネントのチャンネル数を変更する**
  「Properties」エリアのプロパティのForm欄をクリックすると表示されるをクリックして、変更するチャンネル数を選択します。[…]が表示されないコンポーネントは変更できません。

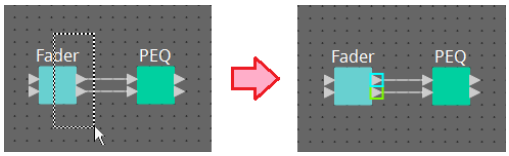


13.7.2. コンポーネント / ポート / ワイヤーの複数選択

デザインシートに配置されたコンポーネントやコンポーネントのポート、ポート間をつないでいるワイヤーを複数選択する方法を説明します。

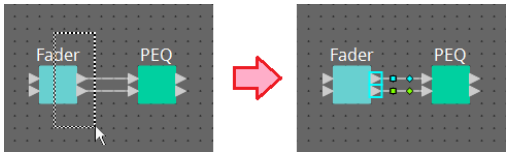
- **マウスカーソルで対象を完全に囲む**
  マウスカーソルをドラッグするとデザインシートで四角領域に完全に囲まれたコンポーネント、コンポーネントのポート、ワイヤー、テキストを選択します。

展開されている状態のUser Defined Blockを含んで囲んだ場合、ドラッグ開始位置がスタイルシート上であればスタイルシート上のものが選択されます。ドラッグ開始位置が User Defined Block上であれば、User Defined Block内のものが選択されます。



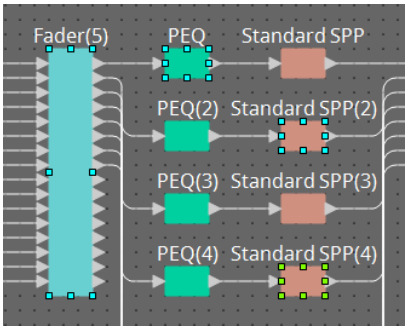
- **< Ctrl >を押しながらマウスカーソルで対象を完全にまたは一部を囲む**
  < Ctrl >を押しながらマウスカーソルをドラッグするとデザインシートで四角領域に全体または一部が含まれるコンポーネント、コンポーネントのポート、ワイヤー、テキストを選択します。

展開されている状態のUser Defined Blockを含んで囲んだ場合、ドラッグ開始位置がスタイルシート上であればスタイルシート上のものとUser Defined Blockが選択されます。ドラッグ開始位置がUser Defined Block上であれば、User Defined Block内のものが選択されます。



- **< Ctrl > を押しながら対象をクリックする**
  < Ctrl > を押しながら対象をクリックすると、対象を任意に選択できます。
  すでに選択されている対象を < Ctrl > を押しながらクリックすると選択を解除できます。
  複数を範囲で選択したあとに選択対象外のものを選んで解除するときに便利です。

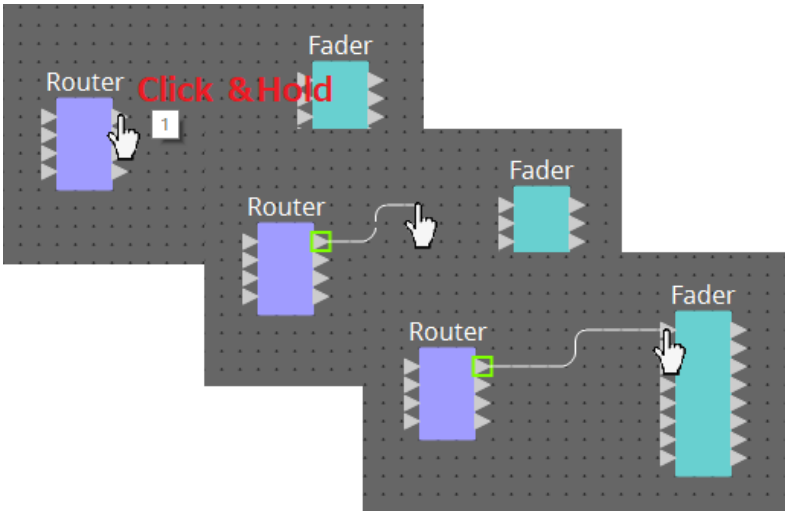
User Defined Block内のものとスタイルシート上のものを同時に選択した場合、コンポーネントなどの移動ができないなど一部操作に制限がかかります。



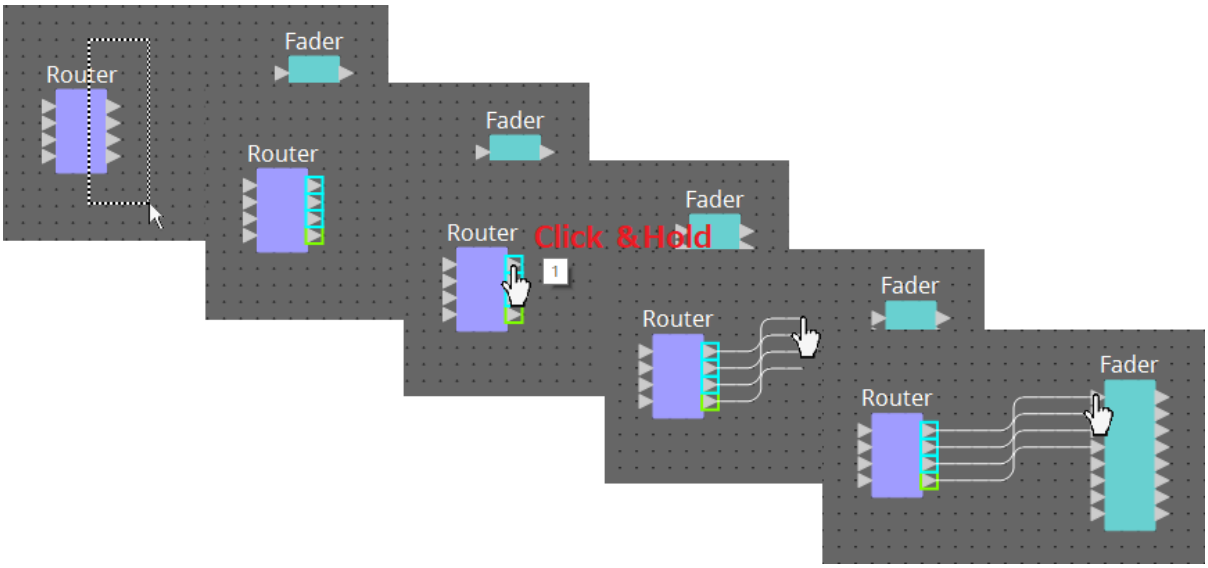
13.7.3. ポート間の結線

コンポーネントのポート間を結線する (ポート間にワイヤーを張る) 方法を説明します。

- **1 本ずつ結線**
  出力ポートの1つを接続先のコンポーネントの入力ポートにドラッグします。



- **複数本同時に結線**
  複数の出力ポートを選び、その中から任意のポートの1つを接続先のコンポーネントの入力ポートにドラッグします。

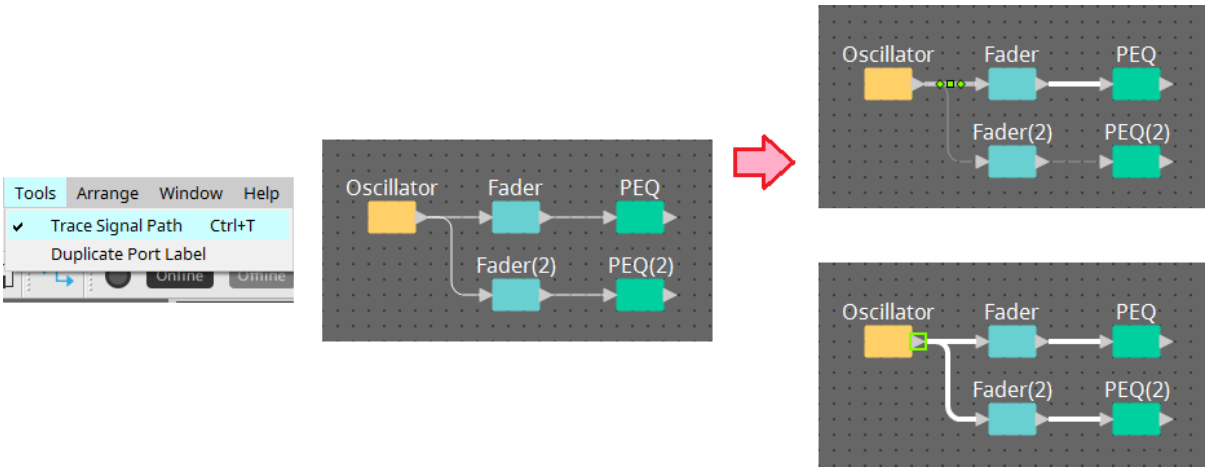


13.7.4. 信号経路の表示

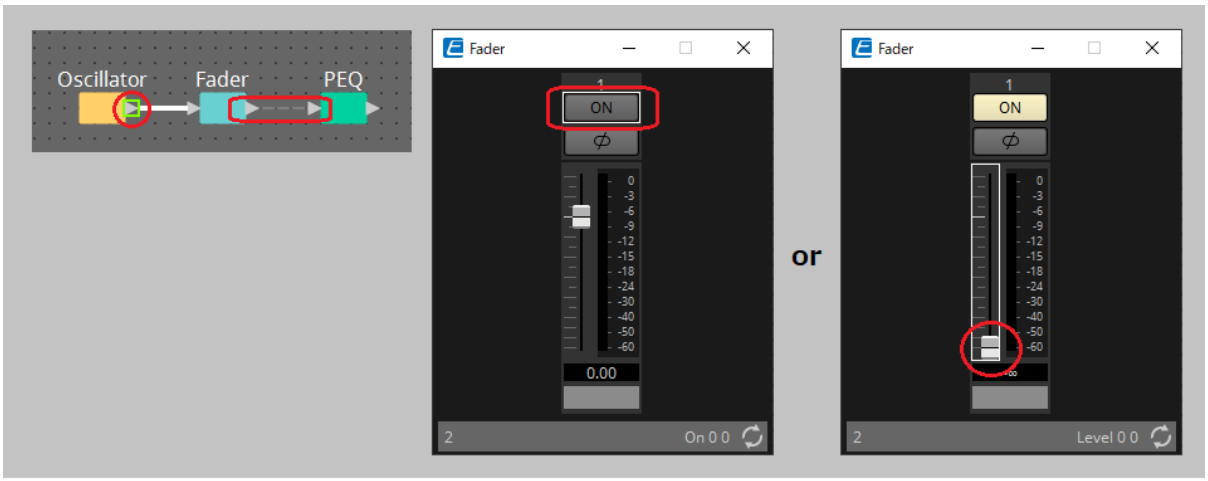
信号の経路を表示する方法を説明します。

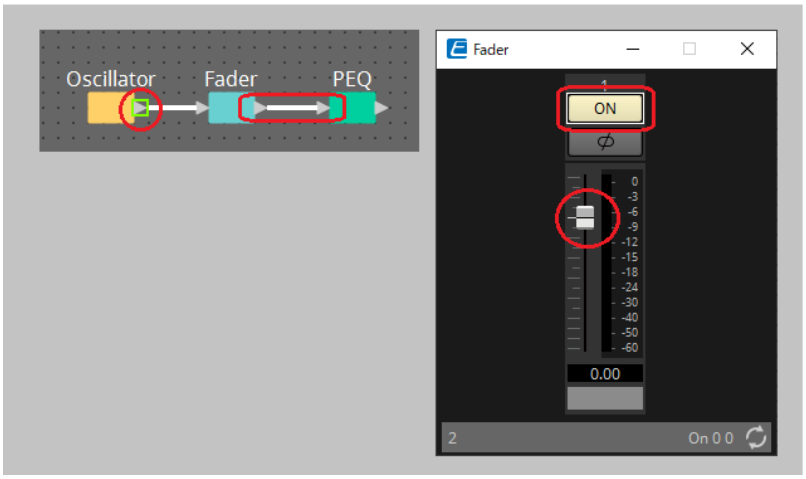
信号の経路を表示するためには、ツールバーの Trace Signal Pathボタンをクリック、もしくは[Tools]メニュー→[Trace Signal Path]にチェックを入れてください。

- **ワイヤーをクリックする**
  そのワイヤーに流れる信号の経路が表示されます。
- **ポートをクリックする**
  そのポートに流れる信号の経路が表示されます。



信号の経路としてはつながっていてもOFFになっていたりレベルが最低になっているなどの要因で音声信号が流れない場合、破線で経路が表示されます。





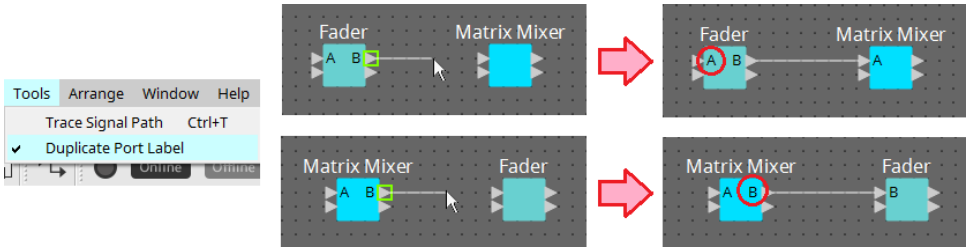
13.7.5. 入力ポート名の複製

ポート名に信号の名前などを使う場合、ポート名を複製すると便利です。
ここでは入力ポート名を自動複製するための説明をします。
基本的には入力ポート名が接続先コンポーネントの入力ポートに自動複製されますが、下記の例外があります。

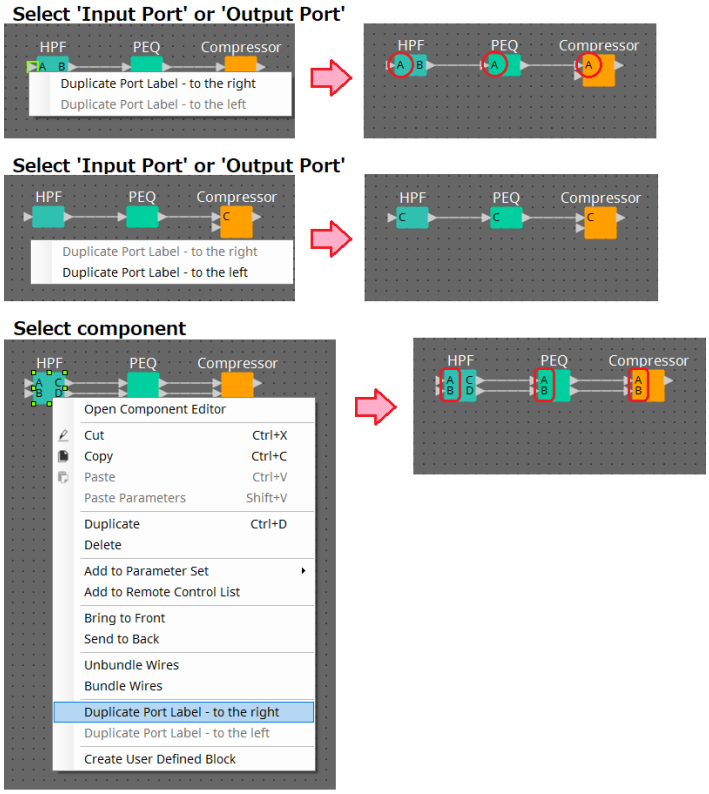
- ミキサー系コンポーネントや出力しかないコンポーネントは、出力ポート名が接続先のコンポーネントの入力ポートに複製されます。
- 複製元のポート名が空欄の場合は、自動複製されません。

すでにポート名が設定されている場合、ポート名は自動複製により上書きされます。

- **コンポーネント間を結線したときに、ポート名を自動複製する**
  [Tools]メニュー→[Duplicate Port Label]にチェックを入れると、コンポーネント間を結線したときに、ポート名を自動複製します。



- **信号経路に沿ってコンポーネントのポート名を複製する**
  ポートまたはコンポーネントを右クリックして表示されるコンテキストメニューで、[Duplicate Port Label - to the right]または[Duplicate Port Label - to the left]を選択すると、入力ポート名を後段または前段のコンポーネントの入力ポートに複製します。
  ただし、ミキサー系コンポーネントが途中にあった場合は、複製がミキサー系コンポーネントで止まります。



13.7.6. Unbundle Wiresについて

必要なすべてのコンポーネントを配置して、ワイヤーを引き終わったあとに、すべてのコンポーネントを選択して、[Unbundle Wires]を実行するとワイヤーが重ならないように表示されます。
[Unbundle Wires]を実行するとコンポーネントやコンポーネントに接続されているワイヤーの「Properties」エリアの項目が以下のような設定値になります。

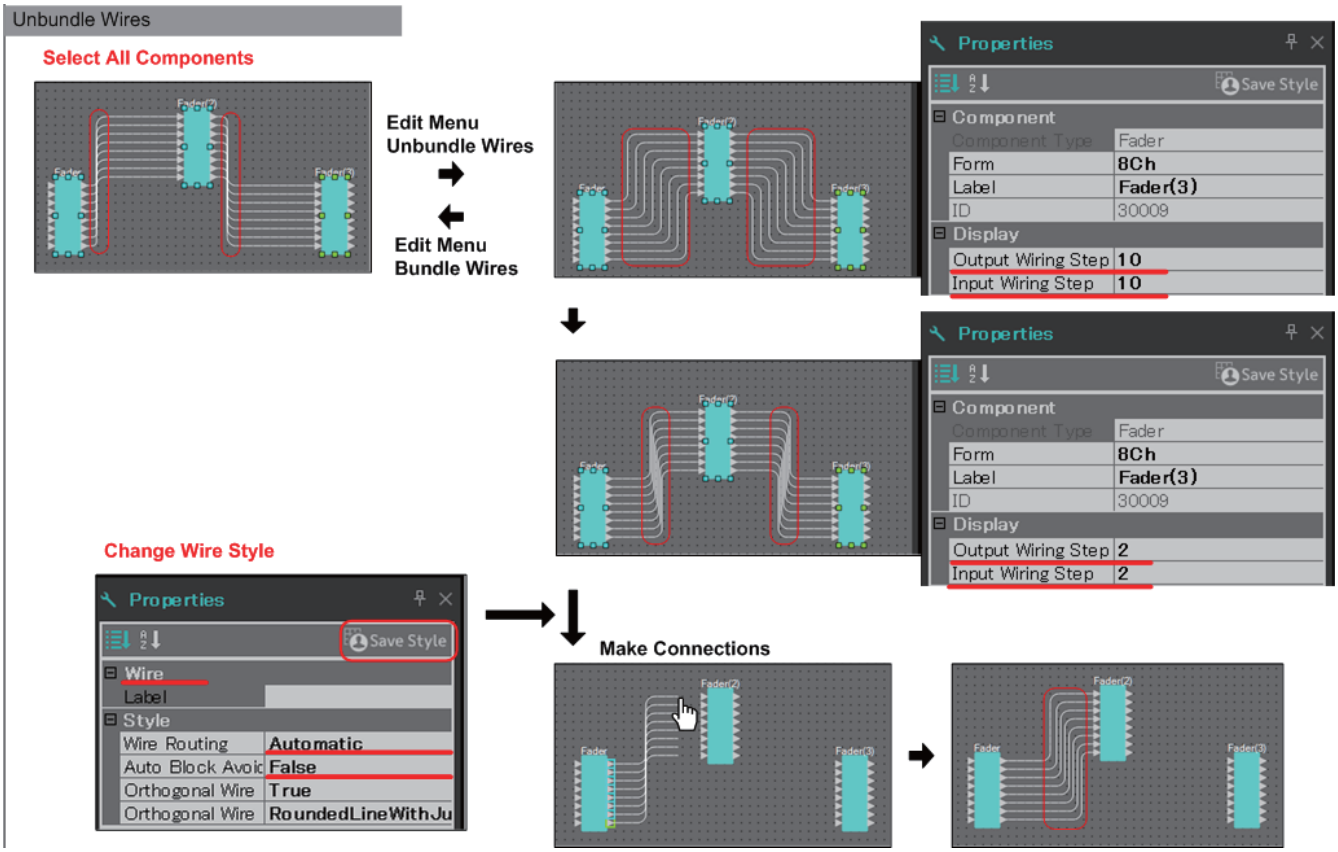
	項目	設定値
コンポーネント	Output Wiring Step	自動的に適切な値が表示されます
	Input Wiring Step	自動的に適切な値が表示されます
ワイヤー	Wire Routing	Automatic
	Auto Block Avoidance	False

部分的にワイヤーの間隔を変更したいときは、上記の操作をしたあとに [Output Wiring Step]や[Input Wiring Step]の値を変更してください。

結線をするときに、ワイヤーが重ならないようにしたい場合、以下の手順を実行してください。

1. **すべてのコンポーネントを配置する。**
2. **すべてのコンポーネントを選択して[Unbundle Wires]を実行する。**
3. **コンポーネント間を 1 本結線して、ワイヤーを選択する。**
4. **ワイヤーの[Wire Routing]を[Automatic]に、[Auto Block Avoidance]を[False]にする。**
5. **[Save Style]ボタンをクリックして、ワイヤーのユーザースタイルをコンピューターに記憶させる。**

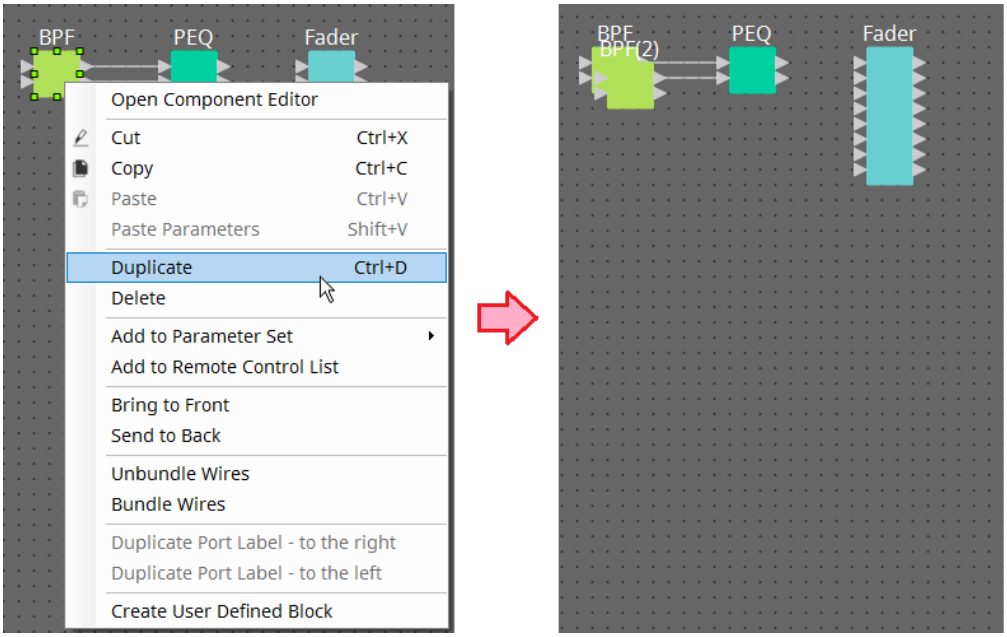
以降は、ワイヤーを引いた時点で重ならないように表示されます。



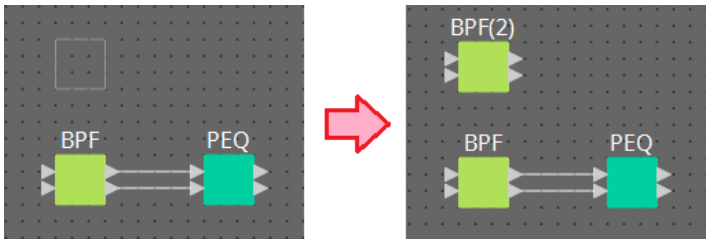
13.7.7. コンポーネントを複製する

コンポーネントをパラメーターごと複製する方法を説明します。

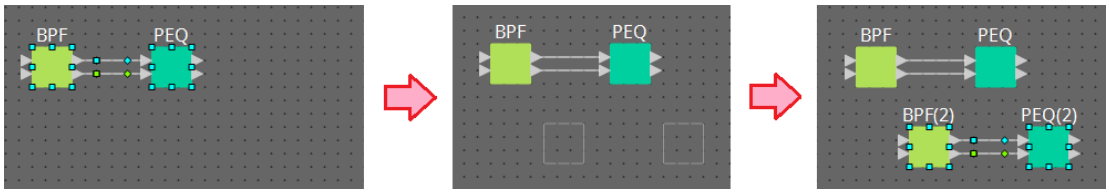
- **コンポーネントを右クリックして[Duplicate]を選択する。**
  コンポーネントに重なった形で複製が作成されます。ワイヤーごと複数のコンポーネントを選択した状態で[Duplicate]を選択すると、ワイヤーを含めて複製が作成されます。



- **コンポーネントを < Ctrl > を押しながらドラッグ&ドロップ**
  ドロップしたところに複製が作成されます。



- **ワイヤーごと複数のコンポーネントを < Ctrl > を押しながらドラッグ&ドロップ**
  ドロップしたところにワイヤーを含めて複製が作成されます。



13.8. デザインシート：Audioレイヤー

オーディオコンポーネントを配置してコンフィグレーションを作成します。
オーディオコンポーネント間をワイヤリングすることで音声信号の制御を行います。

13.8.1. オーディオコンポーネント

コンポーネントエディターの使い方については12章を参照ください。
また、コンポーネントの詳細な説明は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

13.9. デザインシート：Controlレイヤー

制御信号を扱うレイヤーです。
コントロールコンポーネントまたはオーディオコンポーネント間をワイヤリングすることでコントロール信号の制御を行います。

オーディオコンポーネントのパラメーター/メーター変化によるコントロールコンポーネントの制御、コントロールコンポーネントのパラメーター変化によるオーディオコンポーネントの制御ができます。
Controlレイヤーには、スナップショットも配置することができ、コンフィグレーションの一部として扱うことができます。

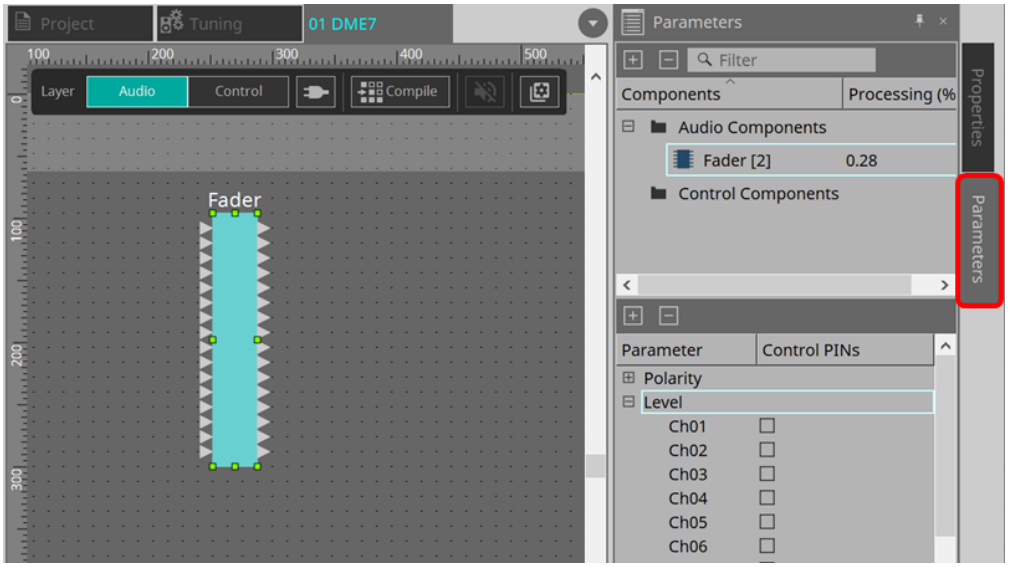
13.9.1. コントロールコンポーネント

コンポーネントエディターの使い方については12章を参照ください。
また、コンポーネントの詳細な説明は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

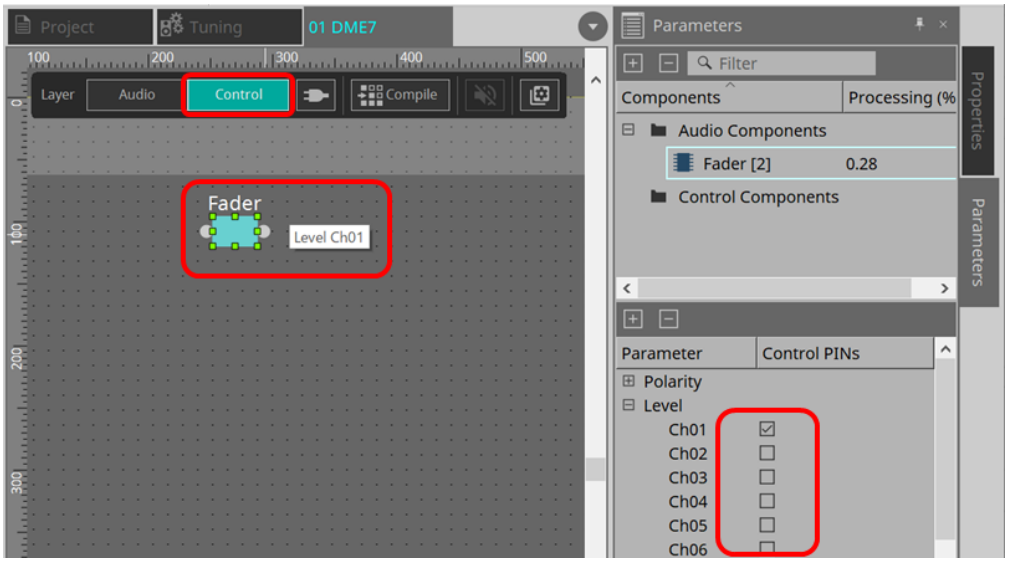
13.9.2. Controlレイヤーでオーディオコンポーネントのパラメーターを扱う

1. **Audioレイヤーを選択する。**

2. **「Parameters」エリアを選択し、シート上のオーディオコンポーネントを選択する。**

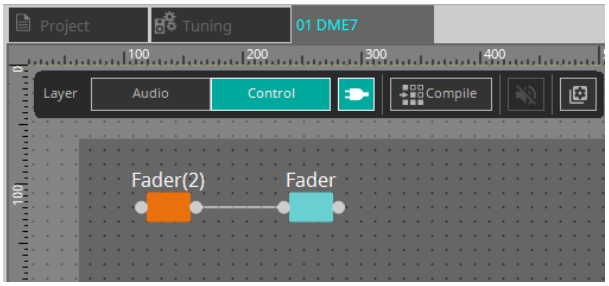


Control PINsで、任意のパラメーターのチェックボックスをオンにすると、オーディオコンポーネントがControlレイヤーにも配置されます。

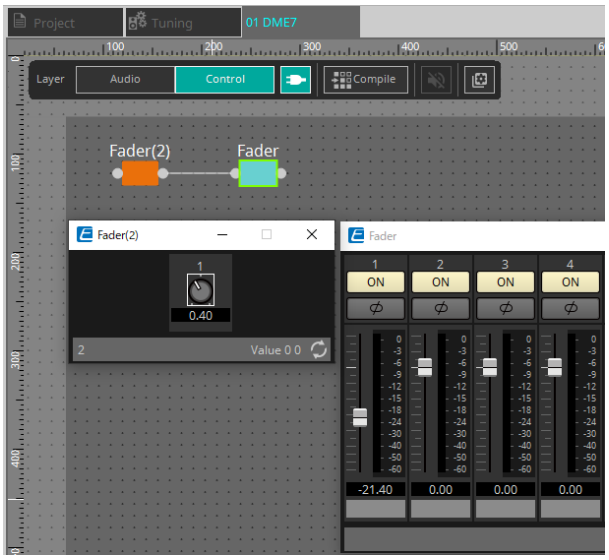


Toolsボタンの"Layer Link"をオフにするとオーディオコンポーネントの表示位置をAudioレイヤーとControlレイヤーで非同期にできます。

3. **Controlレイヤーにコントロールコンポーネントも配置し、必要なワイヤリングを行います。**



4. **Control Functionボタン をオンにして、コントロールコンポーネントのパラメーターを操作すると動作をシミュレーションできます。**



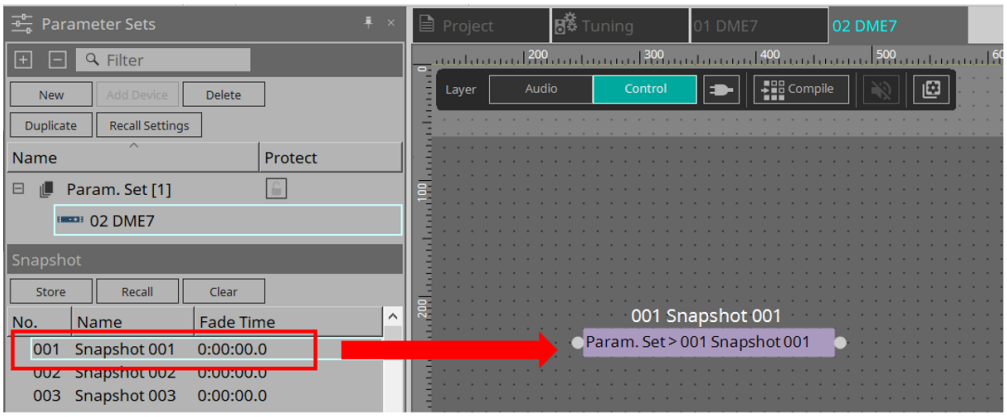
Control Functionボタンがオンの間は、コンフィグレーションの編集はできません。

13.9.3. SnapshotとParamSetのコントロールコンポーネントでの制御

スナップショットとパラメーターセットをコントロールコンポーネント内で制御することもできます。
パラメーターセットとスナップショットの詳細は「Parameter Sets」エリアを参照ください。

■ Snapshotコンポーネントでの制御例

1. **「Parameter Set」エリアの「Snapshot」からスナップショットをControlレイヤーにドラッグ＆ドロップで配置します。**



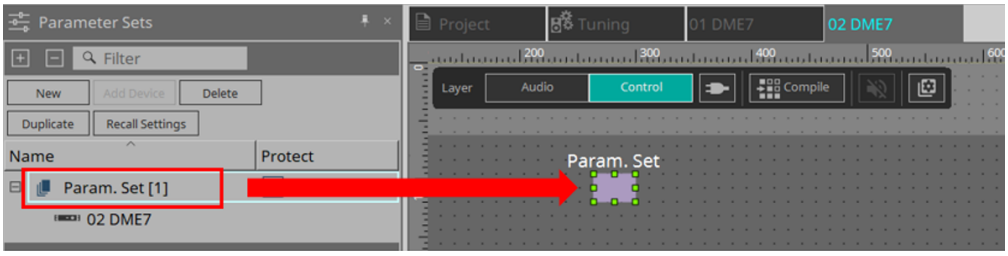
2. **入力ポートに信号が入力されると、スナップショットがリコールされます。**
3. **また、スナップショットをリコールすると、出力ポートから「1」が送信されます。**

■ ParamSetコンポーネントでの制御例

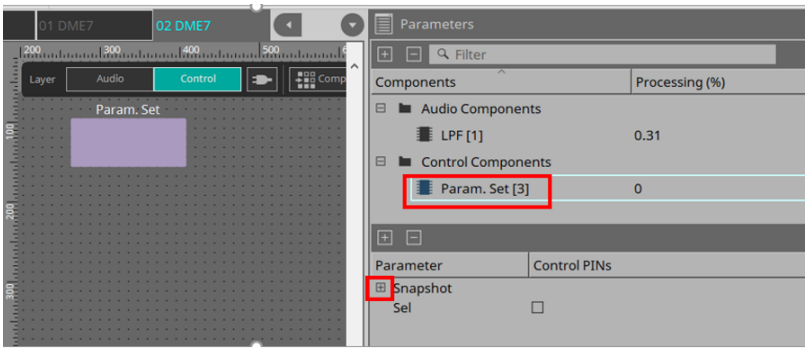
ParamSetコンポーネントを用いてスナップショットも制御可能です。ここではSnapshot PINSを用いた制御例とSel PINを用いた制御例の2つを紹介します。

[1]Snapshot PINsを使用した制御例

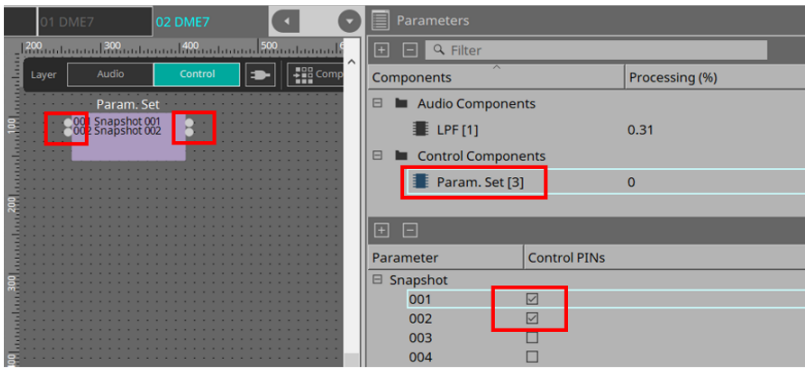
1. **「Parameter Sets」エリアのParameter SetをControlレイヤーにドラッグ＆ドロップで配置します。**



2. **「Parameters」エリアでParameter Setを選択し、Snapshotの「+」マークを展開します。**

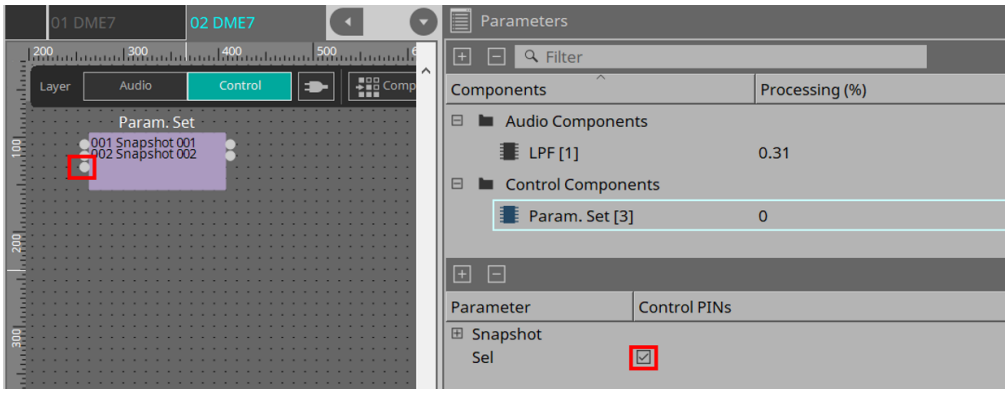


3. **任意のSnapshot番号の[Control PINs]チェックボックスにチェックを入れると、シート上のコンポーネントに入出力ポートが追加されます。リコールの方法は、■ Snapshotコンポーネントでの制御例と同じです。**



[2]Sel PINを使用した制御例

1. **「Parameters」エリアでParameter Setを選択し、[Control PINs]チェックボックスの"Sel"にチェックを入れると、シート上のコンポーネントの入力ポートに追加されます。**

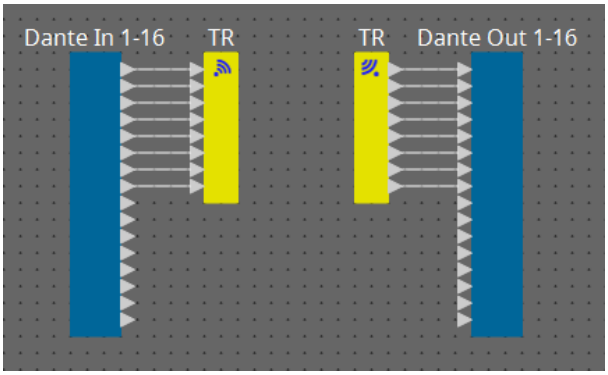


2. **Selの入力ピンに任意の数値（1～100)を入力すると、数値に対応したSnapshotコンポーネントがリコールされます(この際、当該コンポーネントの出力ピンからは「1」が出力されます)**

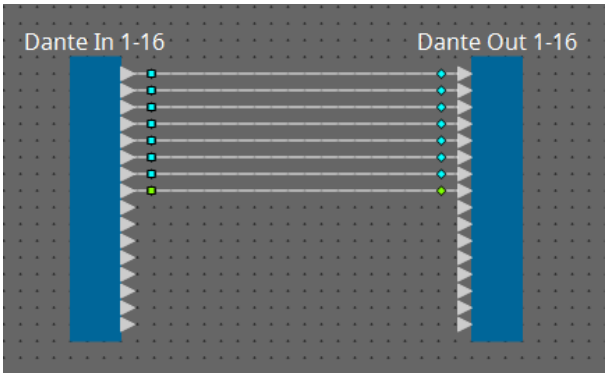
13.10. オーディオ/コントロール以外のコンポーネント

13.10.1. Transmitter/Reciever

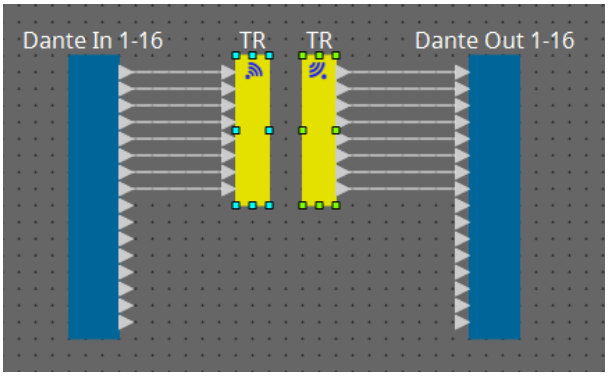
デザインシート上で離れたコンポーネント間をワイヤー無しで結線するための機能です。
同じコンポーネントラベルのTransmitter コンポーネントとReceiver コンポーネントが結線されます。複数ポートがある場合は同じポート番号同士で結線されます。1 つのTransmitter コンポーネントは複数のReceiver コンポーネントに結線できます。
デザインシートに配置するとき、コンポーネントラベルとチャンネル数を選択します。コンポーネントラベルは新規の名称を入力するか、対となるコンポーネントラベルを選択してください。チャンネル数は使用するチャンネル数を選択してください。



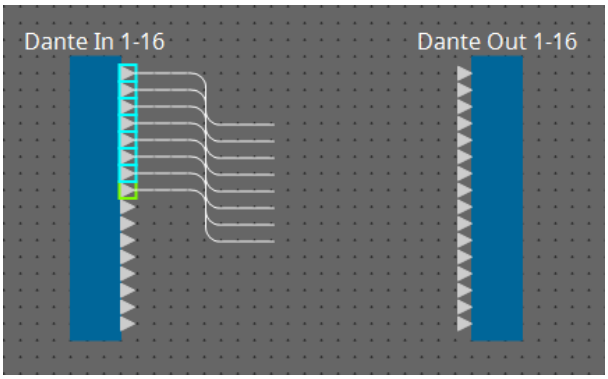
ワイヤーを選択して< Space > を押すと、Transmitter コンポーネントとReceiver コンポーネントが追加されます。



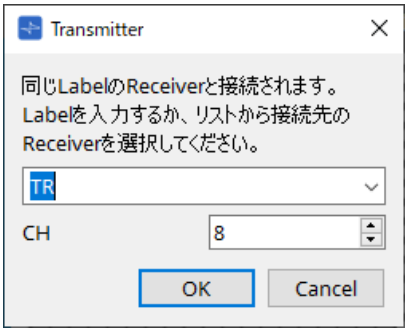
<Space>



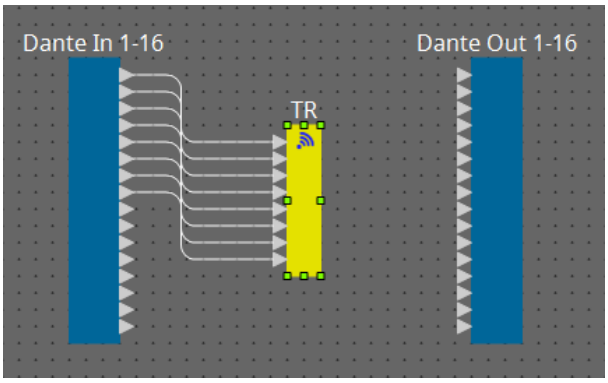
また、結線の途中でマウスのボタンを押したまま< Space > を押すと、Transmitter コンポーネントまたはReceiver コンポーネントが作成されます。



<Space>



[OK]



13.10.2. User Defined Block

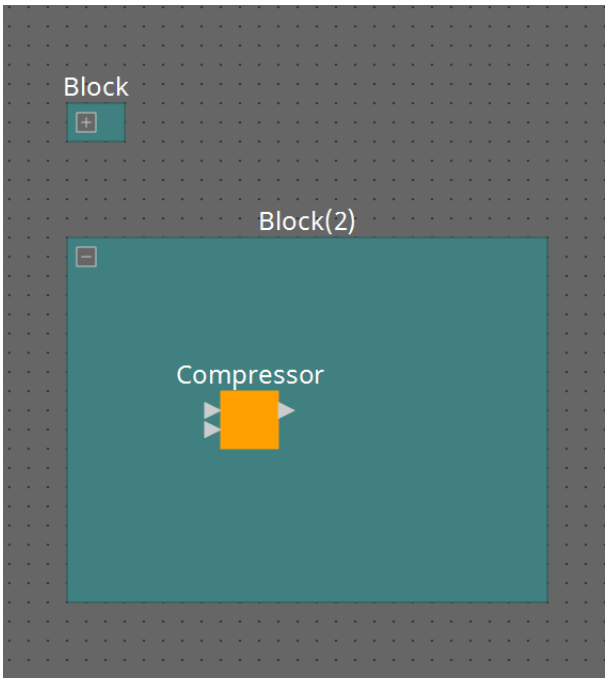
コンポーネントやコンポーネント間のワイヤーはUser Defined Blockとしてブロック化できます。複数のコンポーネントをまとめて1つのブロックとすることで、スタイルシートの見た目をすっきりさせたり、ブロックのコピーで簡単に同じ機能を別チャンネル用に作ったりできます。
User Defined Block には保護機能があります。保護することで他人がコンフィグやパラメーターを変更できないようにしたり、中を見たりできないようします。

User Defined Block の配置方法は以下のとおりです。

- 「Component」エリアからドラッグ＆ドロップする。(空のブロックが配置されます。)
- コンポーネントを選択した状態で右クリックして、[Create User Defined Block]を選択する。(選択しコンポーネントを内包したブロックが配置されます。)
- コンポーネントを選択した状態で[Edit メニュー→ [Create User Defined Block]を選択する。(選択しコンポーネントを内包したブロックが配置されます。)

User Defined Block を配置するときに、ブロックとしての入出力数を設定します。入出力数はあとで「Properties」エリアの「Form」で変更できます。入出力はブロックの外のものとブロック内のコンポーネントが直結しています。

ブロックの左上にある[+]/[－] をクリックするか、ブロックをダブルクリックすると表示が省略/展開します。



ブロックにはデザインシートと同じようにコンポーネントの配置や結線、設定ができます。
ブロックを選択した状態で上下左右の角をドラッグ＆ドロップすると、ブロックの拡大/ 小ができます。また、展開したブロックを選択した状態で上下左右の端をドラッグ& ドロップするとブロックをデザインシート上で移動できます。

User Defined Blockの解除方法は以下のとおりです。

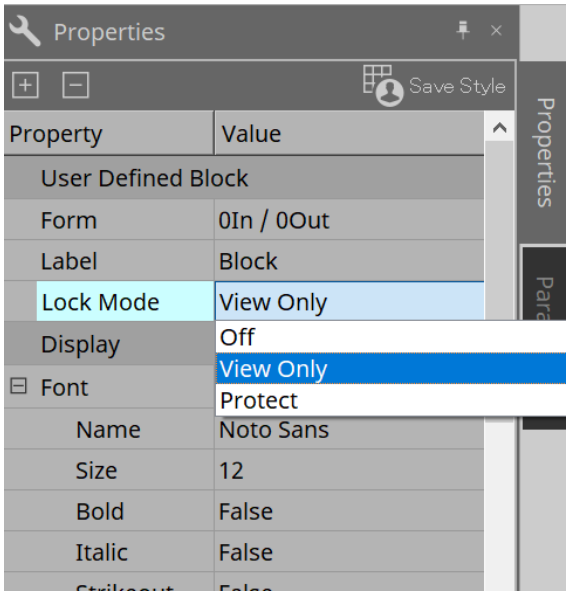
- ブロックを右クリックして、[Unpack User Defined Block]を選択する。
- ブロックを選択した状態で[Edit]メニュー→ [Unpack User Defined Block]を選択する。

User Defined Block の保護には3つのモードがあります。

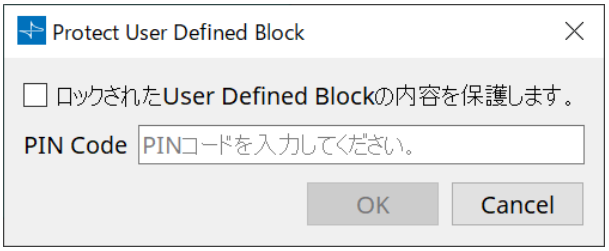
- **Off モード**
  保護されていない状態。
- **View Only モード**
  保護されたUser Defined Block やブロック内のコンポーネントエディターは開きますが、コンフィグレーションやパラメーターの変更はできません。また、User Defined Block内のコンポーネントは「Parameters」エリアに表示されません。
  保護されているブロック内のコンポーネントエディターの左下にはロックアイコン( )が表示されます。
- **Protect モード**
  保護されたUser Defined Blockは開くことができません。また、User Defined Block内のコンポーネントは「Parameters」エリアに表示されません。完全秘匿したいときに使用してください。
  保護されているブロックの左上にはロックアイコン( ) が表示されます。

プロテクトは以下の手順で行います。

1. **プロテクトの対象となるUser Defined Blockを選択する。**
   複数のUser Defined Blockを選択すると、同じモードでプロテクトします。
2. **「Properties」エリアの[Lock Mode]でプロテクトしたあとのロックモードを選択する。**



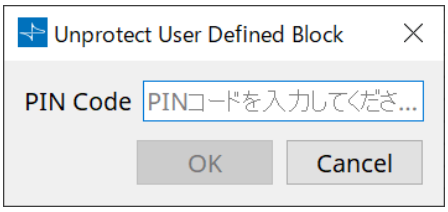
3. **必要に応じて1 と2 を繰り返して他のUser Defined Blockのロックモードを設定する。**
4. **機器シート内の[Tools]ボタンから[Protect User Defined Block]を選択する。**
   「Protect User Defined Block」ダイアログが開きます。



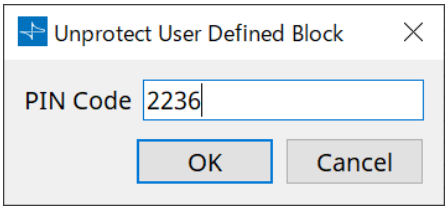
PINコードを入力して、OKボタンをクリックすると、Lock Modeが"Protect"であるすべてのUser Defined Blockに同じPINが設定されます。

プロテクトの解除は以下の手順で行います。

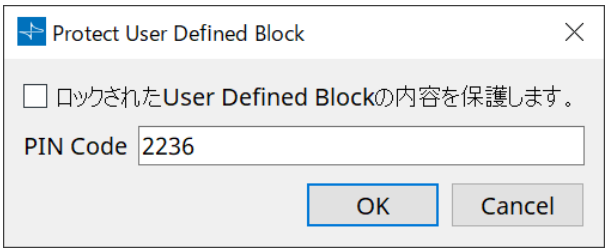
1. **機器シート内の[Tools]ボタンから[Protect User Defined Block]を選択する。**
   「Unprotect User Defined Block」ダイアログが開きます。



2. **ロックしたときのPIN Codeを入力して、[OK]ボタンをクリックする。**
   「Protect User Defined Block」ダイアログが開きます。



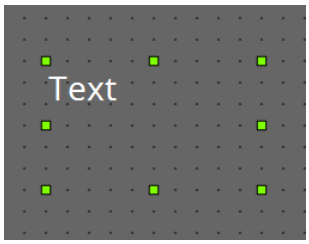
3. **「ロックされたUser Defined Blockの内容を保護します。」のチェックボックスのチェックを外す。**



4. **[OK] ボタンをクリックする。**
   プロテクトが解除されます。[Lock Mode] の設定は維持されます。

13.10.3. Text

デザインシートに文字を配置するときに使用するテキストボックスです。
[Text] と表示されている部分をダブルクリックすると、文字が入力できます。



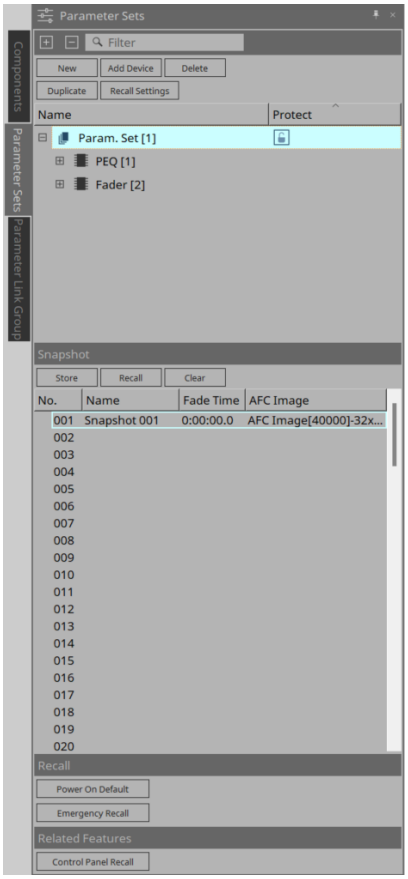
13.11. 「Parameter Sets」エリア

スナップショットでストア/リコールするパラメーターの集合体をパラメーターセットと呼びます。スナップショットをストアすると、パラメーターセットメンバーのカレント値を保存します。ひとつのパラメーターセットは 100 パターンのスナップショットをストアできます。1つのパラメーターを複数のパラメーターセットに登録できます。

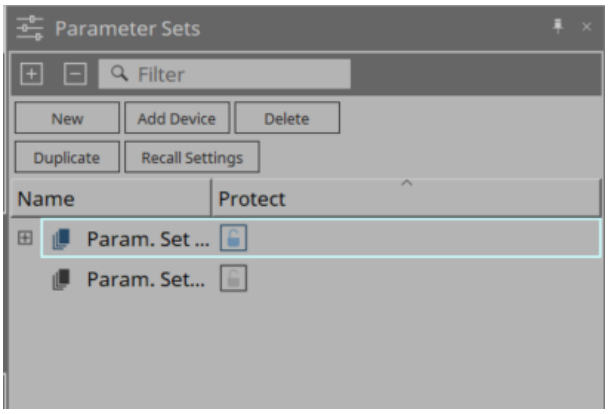
パラメーターセットへの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
デザインシート	< Ctrl >を押しながら、コンポーネントをパラメーターセット名にドラッグ & ドロップする。
	コンポーネントを右クリックして、[Add to Parameter Set]で登録するパラメーターセットを選択する。
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをパラメーターセット名にドラッグ & ドロップする。
「Parameters」エリア*1	コンポーネントまたはパラメーターをパラメーターセット名にドラッグ & ドロップする。
	コンポーネントまたはパラメーターを右クリックして、[Add to Parameter Set]で登録するパラメーターセットを選択する。
「Parameter Sets」エリア	登録先のパラメーターセットを選択したあと、[Add Device]ボタンをクリックすると、その時点で配置されているすべてのコンポーネントを登録する。

*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のコンポーネントやパラメーターを同時にパラメーターセットに登録できます。



13.11.1. Parameter Sets



- **[New]ボタン**
  パラメーターセットを新規に作成します。
- **[Add Device]ボタン**
  実行した時点で配置されているすべてのコンポーネントを登録します。
- **[Delete]ボタン**
  選択中のパラメーターセット、DME、コンポーネントまたはパラメーターを削除します。

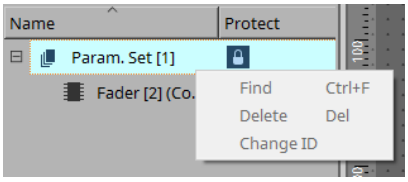
> パラメーターセットに登録されているメンバーを変更した場合は、再度スナップショットを上書きストアしてください。

- **[Duplicate]ボタン**
  選択したパラメーターセットを複製します。スナップショットも複製する場合は、表示される「Duplicate」ダイアログで[Snapshotを複製する]にチェックを入れてください。
- **[Recall Settings]ボタン**
  スナップショットと同時にGPI OutやSDカードのファイル再生/停止を行う場合は、「Recall Settings」ダイアログで設定してください。
- **パラメーターセット名**
  パラメーターセットの名称を表示します。名称部分をダブルクリックすると、パラメーターセットの名称を編集できます。

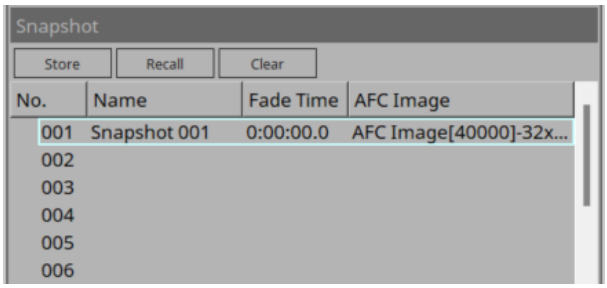
> パラメーターセット名の横の数字はパラメーターセットのIDです。IDは、リモートプロトコルコマンドでスナップショットをリコールするときに指定します。
> 右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューのChange IDで変更できます。

> 「Parameter Sets」エリアのパラメーターセットなどのどれかを選択している状態で英字キーを押すと、先頭文字が一致するパラメーターセットなどが選択されます。

- **Protect**
  オンにするとパラメーターセットの変更、スナップショットのストアができなくなります。
  クリックしてオン/オフを切り替えます。
  パラメーターセット名を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。



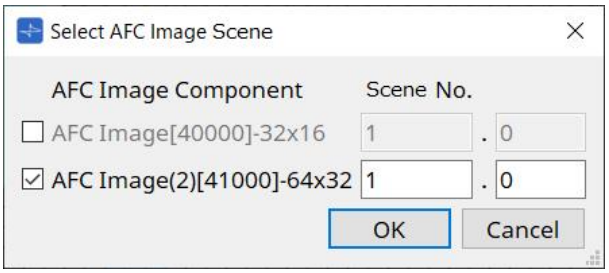
13.11.2. Snapshot



- **[Store]ボタン**
  スナップショットをストア(保存)します。
- **[Recall]ボタン**
  スナップショットをリコール(呼び出し)します。
- **[Clear]ボタン**
  スナップショットを削除します。
- **[Fade Time]欄**
  パラメーターセットに登録されているFaderコンポーネントのレベルまたはMatrix Mixerコンポーネントのセンドレベルの変更にかける時間(Fade Time)を表示しています。ダブルクリックすると「Fade Time」ダイアログが開きます。開いたダイアログで変更にかける時間を設定します。3時間まで設定できます。
- **[AFC Image]欄**
  「Select AFC Image Scene」ダイアログで指定したAFC ImageコンポーネントとScene番号を表示します。スナップショットをリコールすると同時に指定したAFC ImageコンポーネントのSceneをリコールします。

> AFC ImageコンポーネントはParameter Setには登録できません。

[AFC Image]欄をダブルクリックすると「Select AFC Image Scene」ダイアログが開きます。

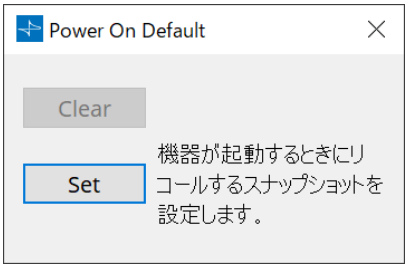


- **AFC Image Component**
  配置済のAFC Imageコンポーネントが表示されます。
  チェックを入れると、AFC ImageコンポーネントのSceneがスナップショットと同時にリコールされます。
- **Scene No.**
  リコールするAFC ImageコンポーネントのScene番号を指定します。

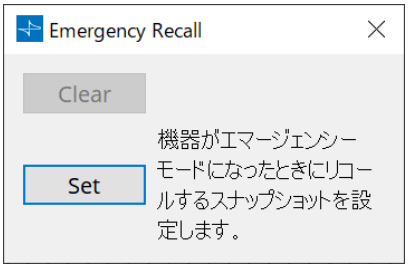
> AFC ImageコンポーネントのSceneは、AFC Image Controllerで作成します。
> AFC ImageコンポーネントとAFC Image Controllerの詳細は、AFC Image Controllerユーザーガイドを参照ください。

13.11.3. Recall

- **Power on Default**
  機器本体の電源をオンにしたときにリコールされるスナップショットを設定します。「Power on Default」ダイアログでSetボタンを押すと、[Snapshot]エリアで選択中のスナップショットがセットされます。
  スナップショットがセットされていないときは、前回電源をオフにしたときの状態で起動します。解除するときは、「Power on Default」ダイアログでClearを選択してください。

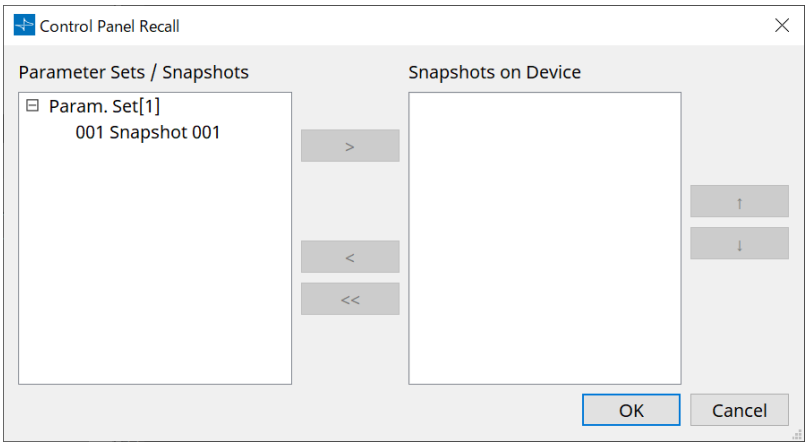


- **Emergency Recall**
  DMEがEMG(Emergency)信号を外部機器から受信したときや、+24V対応の[GPI IN]端子(IN 16)への入力が2.5V未満になったときにリコールされるスナップショットを設定します。
  設定/解除方法は、Power on Defaultと同様です。



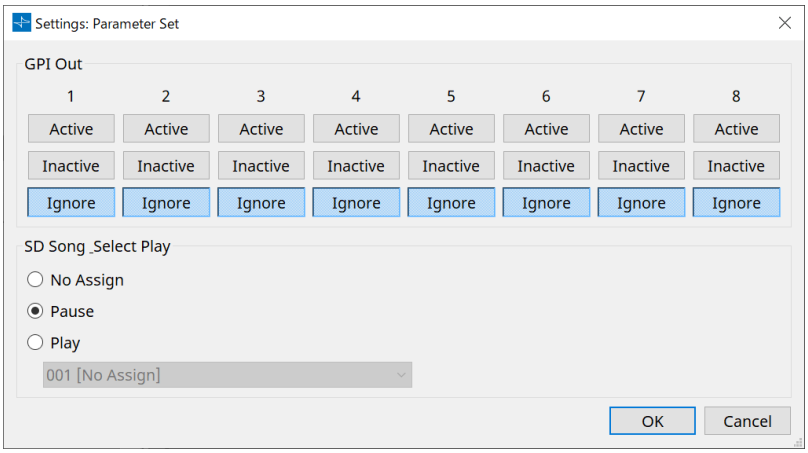
13.11.4. Related Features

- **Control Panel Recall**
  機器本体パネルでリコールするスナップショットを登録します。
  > ボタンをクリックして登録します。
  < ボタンで登録されたスナップショットを削除します。
  << ボタンで登録されたすべてのスナップショットを削除します。



上下ボタンで機器本体パネルに表示される順番を変更することができます。

13.11.5. 「Recall Settings」ダイアログ



- **GPI Out**

  スナップショットのリコールと同時に出力されるGPI OUTの設定を行います。

  GPI OUTの出力によって、機器本体の[GPI OUT]端子に接続された外部機器をコントロールします。

  [Active]/[Inactive]/[Ignore] ボタン
  GPI OUT端子の出力を有効(Active)にするか、OUTPUT TYPEを逆にして無効(Inactive)にするか、無視(Ignore)にするかを設定します。 GPI Outputダイアログの[OUTPUT TYPE]が[Pulse]または[Pulse Inv.]に設定されている場合は、選択肢が[Active]または[Ignore]のみとなります。

  - [Active]に設定されている場合
    [OUTPUT TYPE]が[Closed]のとき、[GPI OUT]端子はクローズド(接地)となります。
    [OUTPUT TYPE]が[Open]のとき、[GPI OUT]端子はオープンとなります。
    [OUTPUT TYPE]が[Pulse]のとき、[GPI OUT]端子は約250 msの間クローズド(接地)となります。
    [OUTPUT TYPE]が[Pulse Inv.]のとき、[GPI OUT]端子は約250 msの間オープンとなります。

  - [Inactive] に設定されている場合
    [OUTPUT TYPE]が[Closed]のとき、[GPI OUT]端子はオープンとなります。
    [OUTPUT TYPE]が[Open]のとき、[GPI OUT]端子はクローズド(接地)となります。

  - [Ignore] に設定されている場合
    出力に変化はありません。GPI OUTに別の機能がアサインされていてスナップショットのリコールの影響を受けたくない場合に設定します。

- **[SD Song Play]**

  - **Pause**
    スナップショットリコールと同時に再生中のファイルを停止します。

  - **Play**
    スナップショットリコールと同時に指定したファイルを再生します。
    再生できるファイルは、SD Card File Managerダイアログで設定したSDカード内のファイルです。

13.12. 「Parameter Link Group」エリア

Level系やON/OFF系の複数パラメーターを連動させるパラメーターリンクグループを作成します。
1つのパラメーターを複数のパラメーターリンクグループに登録できます。作成したパラメーターリンクグループはスナップショット、スケジューラー、GPI、DCP、MCP1、Remote Control Setup Listで使用できます。
1つのパラメーターリンクグループにLevel系とON/OFF系を混在することはできません。パラメーターリンクグループは最大64個まで作成できます。

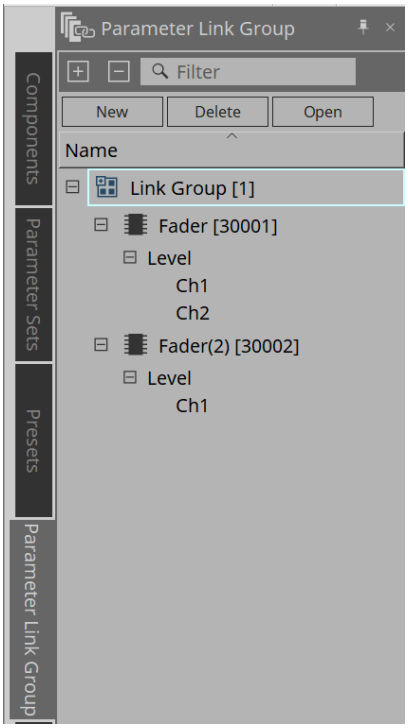
パラメーターリンクグループへの登録には、以下の方法があります。

[Parameter]

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをParameter Link Groupエリアのパラメーターリンクグループにドラッグ＆ドロップする。
	パラメーターを右クリックして、[Add to Parameter Link Group] で登録するパラメーターリンクグループを選択する。
「Parameters」エリア*1	パラメーターをParameter Link Groupエリアのパラメーターリンクグループにドラッグ＆ドロップする。
	パラメーターを右クリックして、[Add to Parameter Link Group] で登録するパラメーターリンクグループを選択する。

*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のパラメーターを同時にパラメーターリンクグループに登録できます。

「Parameter Link Group」エリアのパラメーターリンクグループなどの項目を選択している状態で英字キーを押すと、先頭文字が一致するパラメーターリンクグループなどが選択されます。



- **[New]ボタン**
  パラメーターリンクグループを作成します。

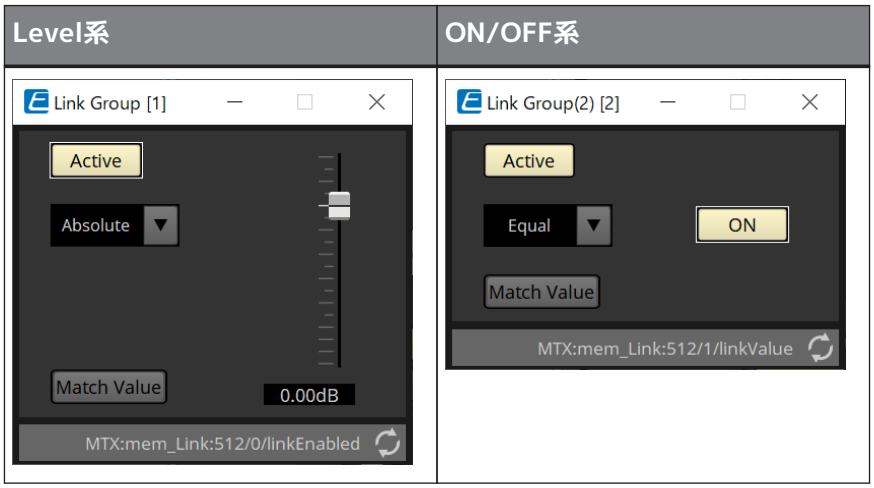
- **[Delete]ボタン**
  選択しているパラメーターリンクグループまたは パラメーターを削除します。

- **[Open]ボタン**
  選択しているパラメーターリンクグループの Link Controlエディターを表示します。

13.12.1. Link Control Editor

パラメーターリンクグループごとにリンクコントロールがあります。 リンクコントロールを変更すると、パラメーターリンクグループに登録されているパラメーターも同時に変更されます。
パラメーターリンクグループに登録されているパラメーターを変更しても、リンクコントロールのパラメーターは変わりません。
リンクコントロールは、GPI/DCP/Remote Control Setup List/Parameter Link Group/MCP1にアサインできます。

タイトルバーにパラメーターリンクグループの名称が表示されます。



- **フェーダー(Level 系のみ)**
  Level 系の値を設定します。

- **[ON] ボタン (ON/OFF 系のみ)**
  パラメーターのオン/オフを設定します。

- **[Match Values] ボタン**
  コンボボックスが [Absolute] または [Equal] のとき、登録されているパラメーターの値をリンクコントロールの値と同じにします。

- **[Active] ボタン**
  オンのとき、パラメーターリンクグループが有効になります。リンクを一時的に解除したいときにオフにしてください。

- **コンボボックス**
  Level 系と ON/OFF 系の設定をどのように反映させるかを設定します。

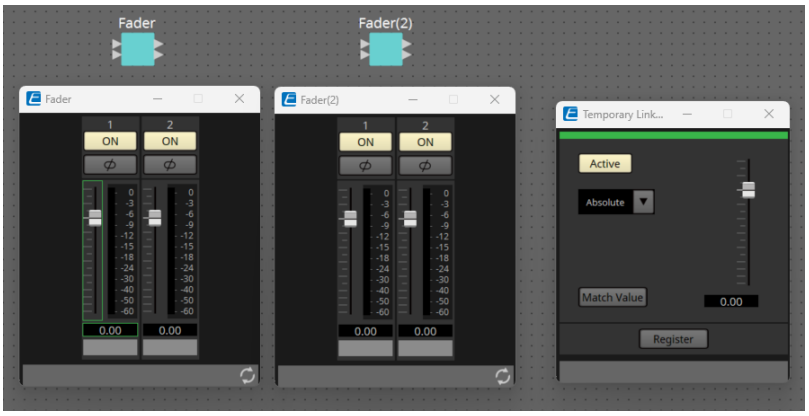
[Absolute]/[Equal]	登録されているパラメーターの値をリンクコントロールの値と同じにします。
[Relative]/[Opposite]	リンクコントロールを操作すると、登録されているパラメーターは相対位置を保ったまま動きます。

13.13. 「Temporary Link Group」

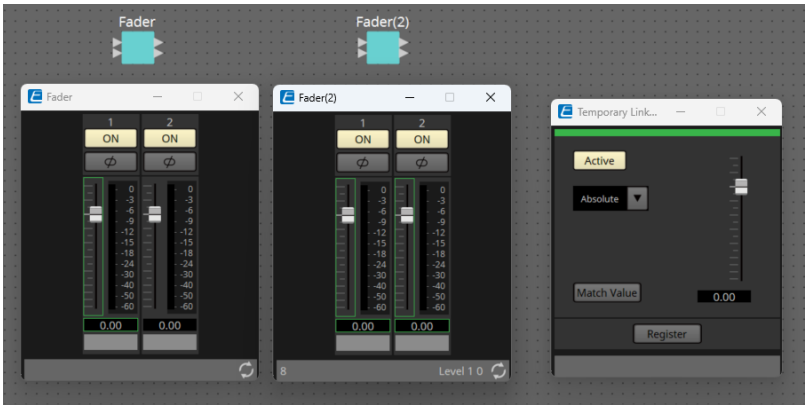
Parameter Link Groupを作成することなく、一時的に同様の機能を使うことができます。
Parameter Link Groupを作成するまでもなく、一時的にパラメーターをリンク動作させたい場合にお使いください。

手順

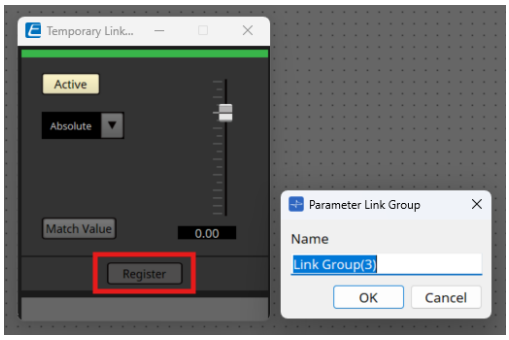
1. < Ctrl >キーと< Shift >キーを押しながらコンポーネントエディター上のパラメーターをクリックして選択します。選択したパラメーターは緑色の枠で囲まれます。
   一つ目のパラメーターをクリックするとTemporary Link Groupエディターが表示されます。



2. 更に< Ctrl >キーと< Shift >キーを押しながらパラメーターをクリックして選択します。
   複数のコンポーネントエディターをまたがってパラメーターを選択することもできます。



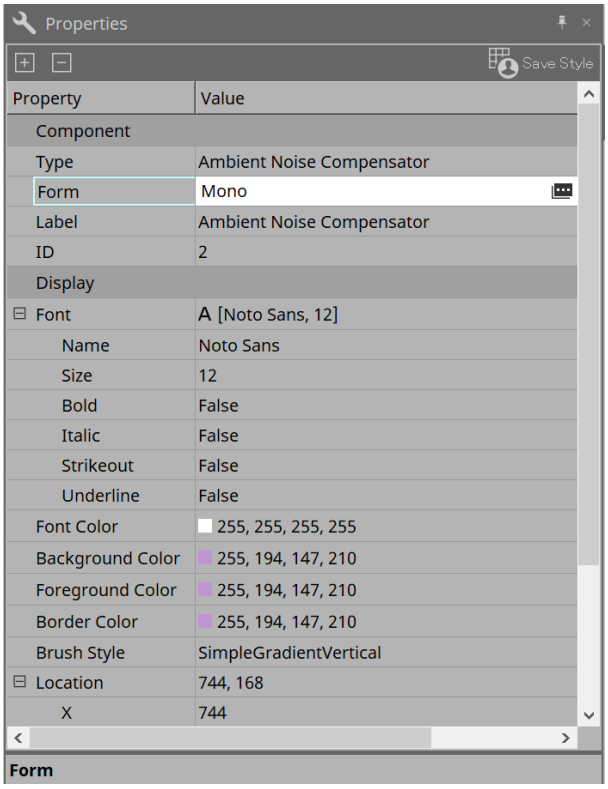
3. Temporary Link GroupエディターでParameter Link Groupと同様のリンク操作ができます。
4. Registerボタンをクリックすると選択中のパラメーターをParameter Link Groupに正式に登録することもできます。



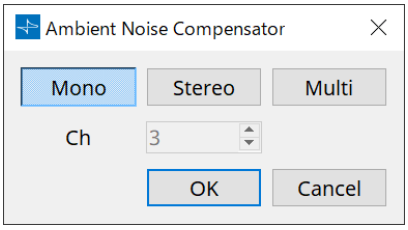
5. Temporary Link Groupエディターを閉じるとパラメーターの選択が解除され、リンク状態が解消されます。

13.14. 「Properties」エリア

選択中のコンポーネントやポート、ワイヤーの設定を変更します。



- **Component**
  "Form"のValueをクリックすると表示されるをクリックすると、コンポーネントのチャンネル数などを変更するためのダイアログが表示されます。
  が表示されないコンポーネントは変更できません。

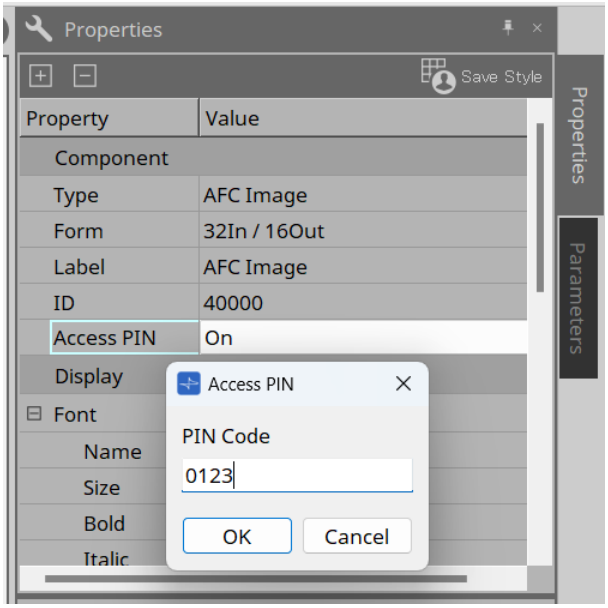


- **Port**
  "Label"のValueをクリックすると表示されるをクリックすると、コンポーネントのすべてのポートのラベルを一斉に編集できる「Port Label」ダイアログが表示されます。

- **Access PIN**

  AFC Imageコンポーネントに関する設定です。
  AFC Image Controllerによる予期せぬ設定変更を防ぎます。PINを設定すると、AFC Image ControllerがAFC Imageコンポーネントにアクセスするときに PIN入力を求められます。

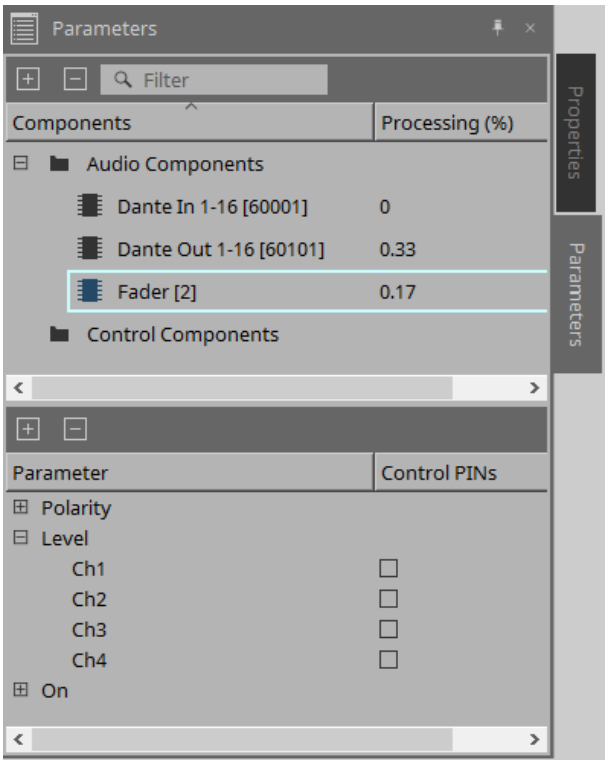
  OffからOnに変更するとPINを設定する「Access PIN」ダイアログが表示されます。
  PINは0〜9の4桁の数字です。OffにするとPINは削除されます。



13.15. 「Parameters」エリア

デザインシート（AudioまたはControlレイヤー）で選択中のコンポーネントの情報を表示します。
上部エリアでは、各コンポーネントの信号処理量を表示します。
下部エリアでは、上部で選択中のコンポーネントのパラメーターを一覧表示します。
[Control PINs]のチェックボックスをチェックしたパラメーターは、Controlレイヤーで制御できます。

このエリアからコンポーネントやパラメーターをパラメーターセット、リモートコントロールセットアップリスト、GPIダイアログ、MIDIダイアログ、DCPコンポーネントにアサインできます。アサイン方法は、各画面の説明を参照ください。



- **Components**
  シートで選択中のコンポーネントを表示します。
  - **Processing**
    消費するリソースを表示します。
- **Parameters**
  選択中のコンポーネントのパラメーター一覧です。
  - **Control PINs**
    チェックボックスをチェックしたパラメーターは、Controlレイヤーで制御できます。
    チェックと同時にオーディオコンポーネントをControlレイヤーに配置します。

13.16. コンテキストメニュー

各エリアを右クリックして表示されるコンテキストメニューの内容は以下の通りです。

13.16.1. デザインシート

オブジェクトがない場所で機器シートを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Paste]	コピーしたコンポーネントをデザインシート上に貼り付けます。
[Select All]	デザインシート上のコンポーネントとワイヤーをすべて選択します。
[Close All Editor Windows]	すべてのコンポーネントエディターとパラメーター設定ウィンドウを閉じます。
[Snap to Grid]	チェックを入れると、シートのグリッドに合わせてオブジェクトを配置します。
[Layer Link]	オンのときオーディオコンポーネントの配置位置をAudioレイヤーとControlレイヤーで同期します。

13.16.2. コンポーネント

コンポーネントの操作子以外の場所やコンポーネントを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。コンポーネントによって使用できないメニューがあります。

メニュー	内容
[Open Component Editor]	コンポーネントエディターを開きます。
[Cut]	選択されているものをコピーバッファーに移動します。
[Copy]	コンポーネントをコンポーネントエディターのパラメーター設定を含めてコピーします。
[Paste]	コピーしたコンポーネントをデザインシート上に貼り付けます。
[Paste Parameters]	既存の同種のコンポーネントエディターを選択して実行すると、コピーしたコンポーネントのパラメーターを反映します。
[Duplicate]	選択されているコンポーネントを複製します。
[Delete]	コンポーネントを削除します。
[Add to Parameter Set]	パラメーターセットにコンポーネントを登録します。
[Add to Remote Control List]	Remote Control Setup Listにコンポーネントの全パラメーターまたはコンポーネントのメーターを登録します。 複数のコンポーネントを同時に登録した場合は、メーターとして登録されます。
[Bring to Front]	コンポーネントの表示を前面に移動します。
[Send to Back]	コンポーネントの表示を背面に移動します。
[Unbundle Wires]	選択されているコンポーネントまたはUser Defined Blockに接続されているワイヤー同士を等間隔に離して表示します。

メニュー	内容
[Bundle Wires]	選択されているコンポーネントまたはUser Defined Blockに接続されているワイヤー同士を重ねて表示します。
[Duplicate Port Label - to the right]	選択されているコンポーネントの入力ポート名を信号経路に沿って、下流のコンポーネントの入力ポートに複製します。
[Duplicate Port Label - to the left]	選択されているコンポーネントの入力ポート名を信号経路に沿って、上流のコンポーネントの入力ポートに複製します。
[Create User Defined Block]	選択されているコンポーネントをUser Defined Blockとしてブロック化します。

13.16.3. コンポーネントのポート

メニュー	内容
[Duplicate Port Label - to the right]	選択されている入力ポートや出力ポートに対応している入力ポートのポート名を信号経路に沿って、下流のコンポーネントの入力ポートに複製します。
[Duplicate Port Label - to the left]	選択されている入力ポートや出力ポートに対応している入力ポートのポート名を信号経路に沿って、上流のコンポーネントの入力ポートに複製します。

13.16.4. コンポーネントエディター/パラメーター設定ウィンドウ

コンポーネントエディターやパラメーター設定ウィンドウを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Register as default values]	コンポーネントの現在のパラメーター値を初期値としてスタイルに登録します。新規のコンポーネントは登録された初期値で配置されます。 登録された初期値は、スタイルファイルとしてインポート/エクスポートできます。
[Reset default values to Factory Default]	コンポーネントの初期値をProVisonaire Designをインストールした直後の値にします。
[Copy]	コンポーネントをコンポーネントエディターのパラメーター設定を含めてコピーします。
[Paste Parameters]	既存の同種のコンポーネントエディターを選択して実行すると、コピーしたコンポーネントのパラメーターを反映します。
[Add to Parameter Set]	パラメーター上で実行すると、パラメーターセットにパラメーターを登録します。 パラメーター以外のところで実行するとコンポーネントをパラメーターセットに登録します。
[Add to Remote Control List]	パラメーター上で実行するとRemote Control Setup Listにパラメーターを登録します。 パラメーター以外のところで実行するとRemote Control Setup Listにコンポーネントの全パラメーターまたはコンポーネントのメーターを登録します。

13.16.5. ワイヤー

機器シートのAudioコンポーネントのワイヤーを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Delete]	ワイヤーを削除します。
[Bring to Front]	選択しているワイヤーを最前面に移動します。
[Send to Back]	選択しているワイヤーを最背面に移動します。
[Add to Transmitter ＆ Reciver Space]	ワイヤーをTransmitterコンポーネントとReceiverコンポーネントに接続します。
[Insert Node]	ワイヤーにノードを追加します。※ノードとは、ワイヤーの分割点です。
[Remove Segment]	ノードとノードの間のワイヤーを削除します。

13.16.6. 「Parameter Set」エリア

項目を右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器シートのコンポーネントまたはコンポーネントのパラメーターを検索します。
[Delete]	パラメーターセットまたは登録されているコンポーネントやパラメーターを削除します。
[Change ID]	パラメーターセットのIDを変更します。パラメーターセット名の横の数字はパラメーターセットのIDです。 IDは、リモートプロトコルコマンドでスナップショットをリコールするときに指定します。

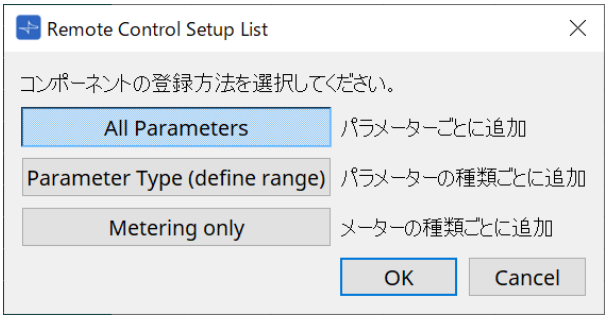
13.16.7. 「Parameters」エリア

項目を右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	コンポーネントで実行すると、デザインシート上の対応するコンポーネントが選択されます。 パラメーターで実行すると、対応するパラメーターを持つコンポーネントエディターが開き、パラメーターが選択されている状態で明示します。
[Add to Parameter Set]	コンポーネント上で実行するとパラメーターセットにコンポーネントを登録します。 パラメーター上で実行すると、パラメーターセットにパラメーターを登録します。

メニュー	内容
[Add to Remote Control List]	コンポーネント上で実行するとRemote Control Setup Listにコンポーネントの全パラメーターまたはコンポーネントのメーターを登録します。 パラメーター上で実行するとRemote Control Setup Listにパラメーターを登録します。 コンポーネントを登録したときは、登録方法を選択するためのダイアログが表示されます。

コンポーネントをRemote Control Setup Listに追加したときは、以下のダイアログが表示されます。

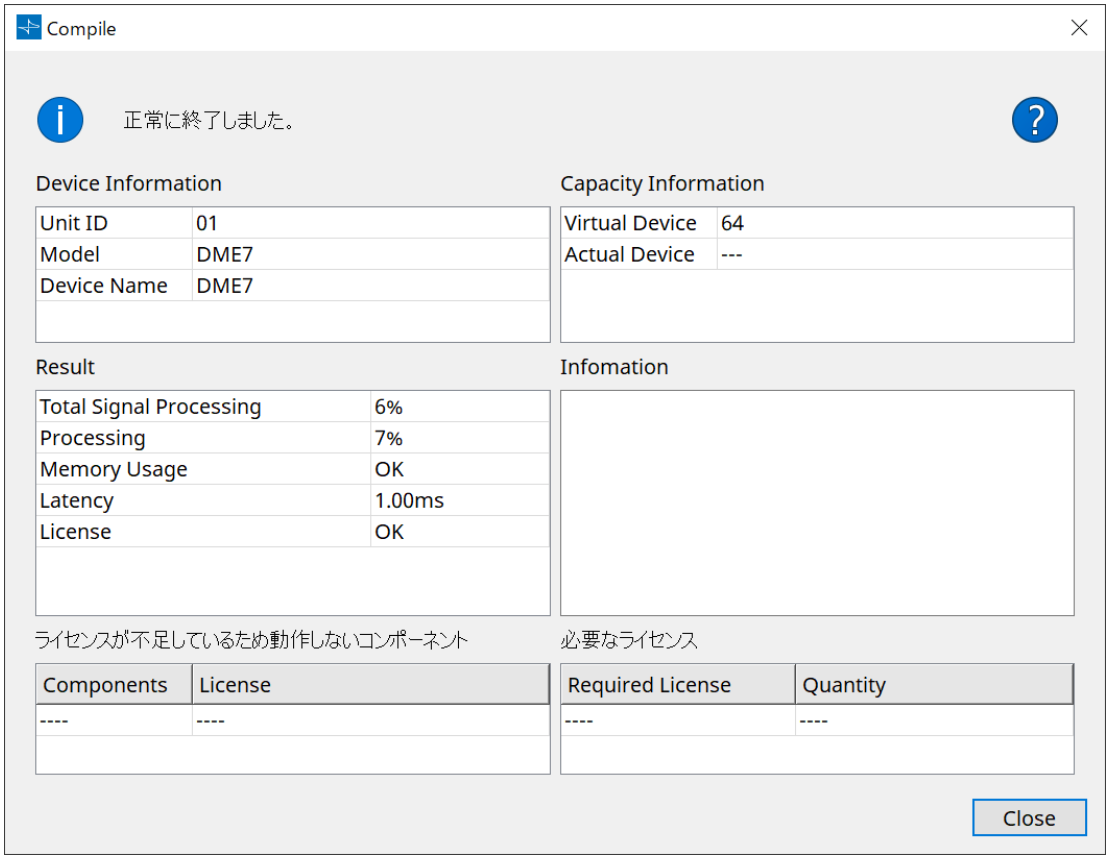


- **[All Parameters]ボタン**
  コンポーネントのすべてのパラメーターを登録します。
- **[Parameter Type (define range)]ボタン**
  コンポーネントのパラメーターを種類ごとに登録します。
- **[Metering only]ボタン**
  コンポーネントのメーターを種類ごとに登録します。

13.17. ダイアログ

13.17.1. 「Compile」ダイアログ

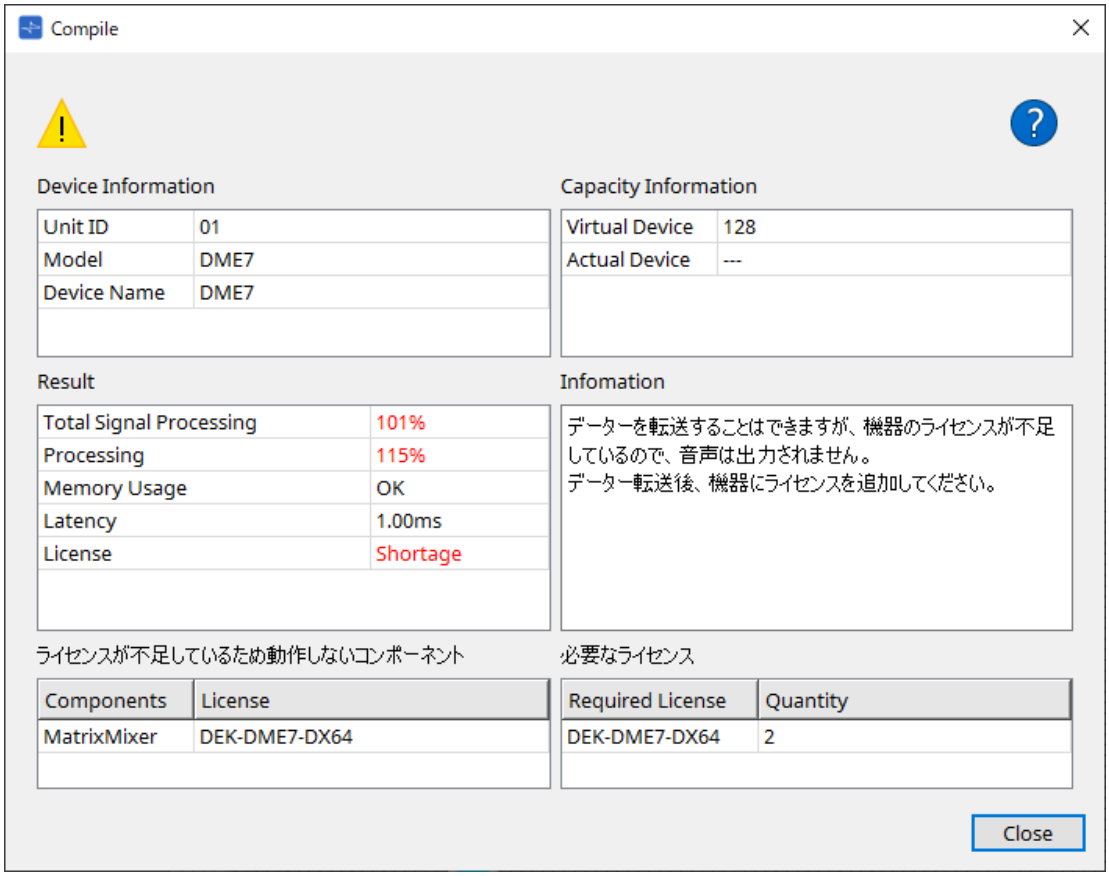
機器シート内のツールボタン[Compile]をクリックし開きます。
DMEのコンポーネントの配置や結線に問題がないか解析します。また、リソースの消費量などを確認できます。



- **/メッセージ**
  コンパイルが成功したか失敗したか表示します。成功した場合は「正常に終了しました。」と表示します。コンパイルに失敗した場合は「コンパイルに失敗しました」と表示します。
- **ボタン**
  クリックすると不具合の解消方法を表示します。
- **[Device Information]**
  機器の情報を表示します。
- **機器リスト**
  - **Unit ID / Model / Device Name**
    機器のUnit ID、機器のモデル名、機器名を表示します。
    機器名は、「Project」シートの「Properties」エリアの[Device Name]で変更できます。
- **[Capacity Information]**
  - **Virtual Device**
    デバイスの「Properties」エリア > Capacityで設定されているMatrix mixerコンポーネント等の入出力数です。
  - **Actual Device**
    ProVisionaire Designが発見している機器の実際のCapacityです。
    これが表示されているときは、この情報をもとにコンパイルを実行します。

- **[Result]**
  コンパイルした結果を表示します。コンパイルに成功したときだけ、DMEとオンラインにできます。
  - **Total Signal Processing**
    機器本体のすべての信号処理ユニットの使用率を表示します。
    (補足)機器本体の信号処理は複数の信号処理ユニットで実現しています。
    「Total Signal Processing」は、すべての信号処理ユニットで実現できる信号処理最大量を100%とした場合、何%使用しているかを表示しています。
  - **Processing**
    機器本体の各信号処理ユニットの使用率の中で、最大となる使用率を表示します。
    信号経路が長くなるほど、もしくはコンポーネントの入出力数が多くなるほど、使用率が上がる可能性があります。
  - **Memory Usage**
    機器本体のメモリー使用量が許容量を超えた場合、NGを表示します。
  - **Latency**
    DME本体の、Dante入力からDante出力までのオーディオ信号の遅延量を表示します。
    (補足)信号経路の中で、最大となる遅延量を表示します。コンポーネント内部で発生する遅延量は加味されません。
  - **License**
    ライセンスの過不足を表示します。
    NGが表示された場合は、ライセンスを追加購入することで解決できることがあります。
    詳しくは、Required Lisenceの情報を参照ください。
- **[Information]**
  コンパイルの詳細情報を表示します。
- **[ライセンスが不足しているため動作しないコンポーネント]**
  動作しないコンポーネント名とそれに必要なライセンス名を表示します。
- **[必要なライセンス]**
  必要なライセンスの名称と本数を表示します。
- **[Close] ボタン**
  ダイアログを閉じます。

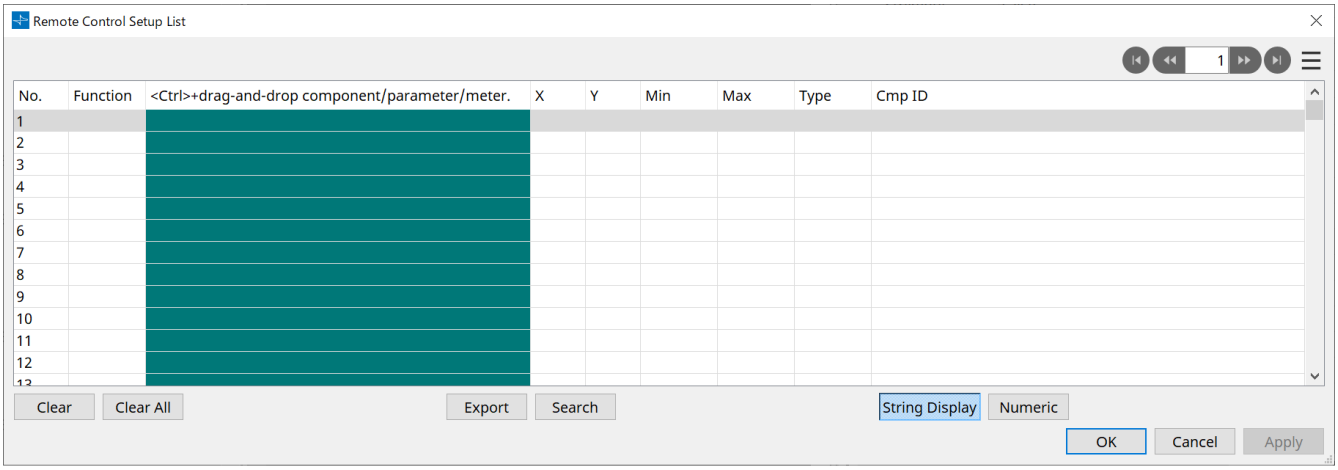
下記はコンパイルを失敗したときの表示例です。



13.17.2. 「Remote Control Setup List」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[Remote Control Setup List]をクリックし開きます。
通信プロトコルSCPやYOSCを使用してDMEをコントロールまたはモニタリングするには、Remote Control Setup Listにパラメーターまたはメーターを登録する必要があります。

通信プロトコルの詳細は、ヤマハプロオーディオウェブサイトに掲載される「DME7 リモートコントロールプロトコル仕様書」、「DME7 OSC仕様書」を参照ください。



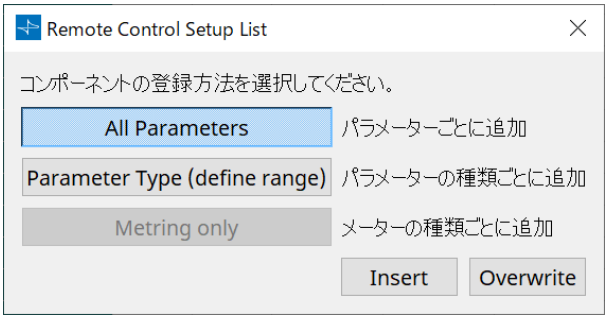
■ リストへの登録方法

リストへの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
デザインシート	< Ctrl >を押しながら、コンポーネントをリストにドラッグ＆ドロップする。
	コンポーネントを右クリックして、[Add to Remote Control List]を選択する。
コンポーネントエディター/パラメーター設定ウィンドウ	【パラメーター】 < Ctrl >を押しながら、パラメーターをリストにドラッグ&ドロップする。 パラメーターを右クリックして、[Add to Remote Control List]を選択する。
	【コンポーネント】 パラメーター以外の場所を右クリックして[Add to Remote Control List]を選択する。
「Parameters」エリア*1	コンポーネントまたはパラメーターをリストにドラッグ&ドロップする。 コンポーネントまたはパラメーターを右クリックして、[Add to Remote Control List]を選択する。

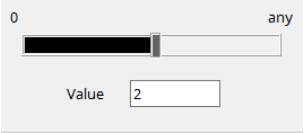
*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のコンポーネントやパラメーターを同時にリストに登録できます。

- コンポーネントをリストに追加したときは、以下のダイアログが表示されます。



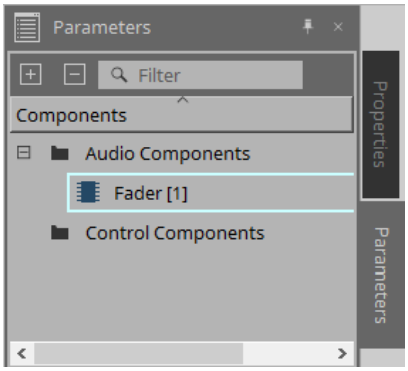
  - **[All Parameters]ボタン**
    コンポーネントのすべてのパラメーターを登録します。
  - **[Parameter Type (define range)]ボタン**
    コンポーネントのパラメーターを種類ごとに登録します。
    この場合、[X]/[Y]（チャンネルなどの指定）を"any"として登録します。
    "any"は、外部コントローラでチャンネルを指定します。
    詳細は、[DMEリモートコントロールプロトコル仕様書」を参照ください。
  - **[Metering only]ボタン**
    コンポーネントのメーターを種類ごとに登録します。

- **[Function]**
  リストに登録されたアイテムの種類を表示します。
- **[< Ctrl >+drag-and-drop component/parameter/meter.]**
  リストに登録されたアイテムを表示します。
- **[X]/[Y]**
  登録したパラメーターのX値、Y値(チャンネルなどを示します)を表示します。
  登録後にチャンネルなどを変更することができます。
  設定可能なパラメーターの場合、クリックするとレンジを設定するダイアログが開きます。



  "any"を選択した場合は、コントローラでチャンネルなどを指定することができます。
  チャンネルなどをコントローラで指定することによりリストに登録するパラメーターの数を減らすことができます。詳細は「DME7リモートコントロールプロトコル仕様書」を参照ください。

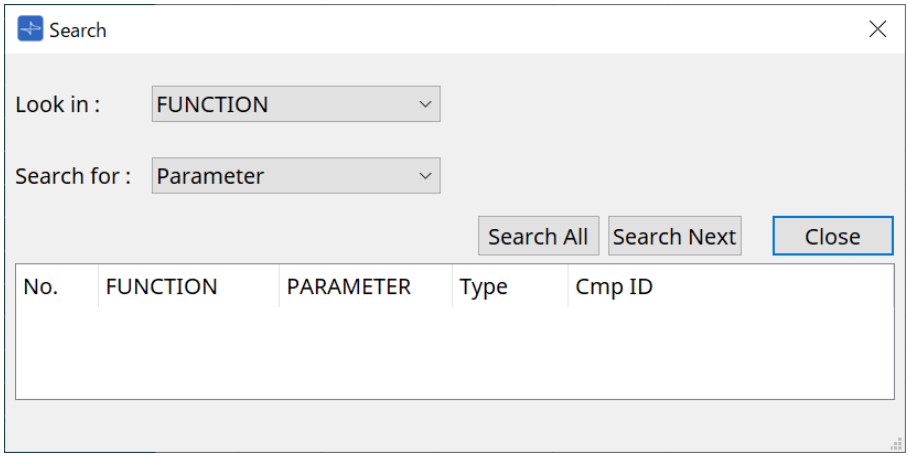
- **[Min]/[Max]**
  コントローラーで制御できるパラメーターの範囲を指定します。Level系などMix/Maxが設定可能なパラメーターの場合、クリックするとレンジを設定するダイアログが開きます。
- **[Type]**
  リストに登録されたパラメーターを持つコンポーネントの種類を表示します。
- **[Cmp ID]**
  コンポーネントのIDを表示します。「Parameters」エリアでコンポーネント名の末尾に表示されています。



- **ボタン**
  ページを移動します。
- **メニューまたは右クリックしたときに表示されるメニュー**
  - **Find**
    選択中の行のパラメーターまたはメーターのコンポーネントエディターを開きます。
  - **Cut**
    選択中の行を切り取ります。
  - **Copy**
    選択中の行をコピーします。
  - **Paste**
    コピーした行を貼り付けます。
  - **Insert**
    コピーした行を挿入します。
  - **Delete**
    選択中の行を削除します。
  - **Swap**
    選択中の行の位置を入れ替えます。
- **[Clear]ボタン**
  選択中の行を消去します。< Ctrl >や< Shift >を使って複数のアイテムを選択できます。
- **[Clear All]ボタン**
  すべての登録パラメーターまたはメーターを消去します。
- **[Export] ボタン**
  リストを*.csv形式のファイルに出力します。
- **[Search]ボタン**
  「Remote Control Setup List」ダイアログのリスト検索用「Search」ダイアログが開きます。
- **[String Display]/[Numeric]ボタン**
  [MIN]/[MAX] 欄の表示を切り替えます。
  String Display: コンポーネントエディターで表示される形式で表示します。
  Numeric: 内部値で表示します。
- **[OK]ボタン**
  設定内容を有効にして、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を変更せず、ダイアログを閉じます。
- **[Apply]ボタン**
  設定を更新します。

■リスト検索用「Search」ダイアログ

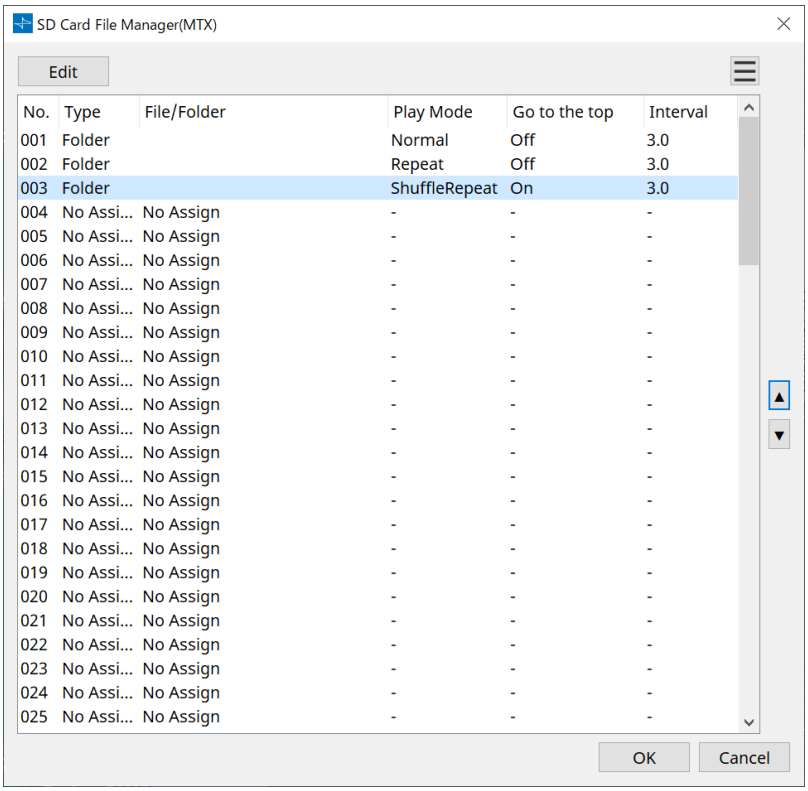
「Remote Control Setup List」ダイアログのリスト内を検索するときに使います。



- **[Look In:] リストボックス**
  検索する場所を選択します。
- **[Search for:] テキストボックス/ リストボックス**
  [Look In:] リストボックスで[FUNCTION] を選択した場合はリストボックス、それ以外を選択した場合はテキストボックスが表示されます。
  検索する項目を選択するか、テキストを入力してください。
- **[Search All] ボタン**
  条件にしたがってリスト内を検索し、結果を下に表示します。
  表示された結果のアイテムをクリックすると、「Remote Control Setup List」ダイアログの該当アイテムにフォーカスを移動します。
- **[Search Next] ボタン**
  条件にしたがってリスト内を検索し、「Remote Control Setup List」ダイアログで検索した結果のアイテムにフォーカスを移動させます。もう一度クリックすると、次の検索結果のアイテムにフォーカスが移動します。
- **[Close] ボタン**
  ダイアログを閉じます。

13.17.3. 「SD Card File Manager」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[SD Card File Manager]をクリックし開きます。
SD Cardコンポーネントで再生するファイルを登録します。
このリストは、DCPやGPIなどでファイル再生する際にも使用します。

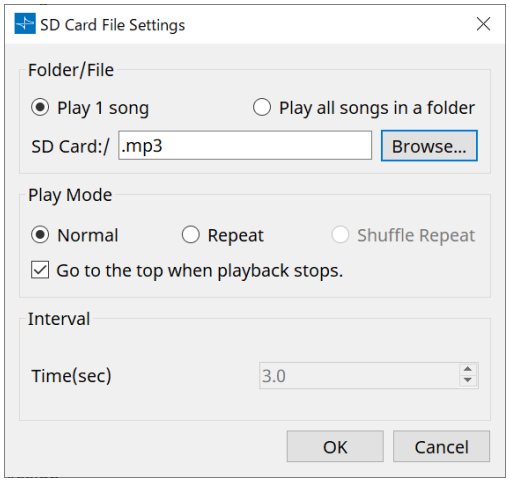


- **[Edit]ボタン**
  クリックすると「SD Card File Settings」ダイアログを開きます。
- **メニュー ☰ボタン**
  クリックすると、下記のコンテキストメニューを表示します。
  - **Copy**
    選択中の行の設定をコピーします。
  - **Paste**
    コピーした内容を選択中の行または他の機器の「SD Card File Manager」ダイアログにペーストします。
  - **Clear**
    選択中の行の設定を削除します。
  - **Copy All**
    すべての設定をコピーします。
  - **Clear All**
    すべての設定を削除します。
- **List**
  File/Folderを指定していないところは"No Assign"と表示します。
  - **No**
    001～100行まで設定できます。
  - **Type**
    「SD Card File Settings」ダイアログのFile /FolderでPlay 1 Songを選択したときは”1 Song”と表示します。Play all songs in a folderを選択したときは”Folder”と表示します。

- **File/Folder**
  File名またはFolder名を表示します。
- **Play Mode**
  再生モードを表示します。
- **Go to the top**
  [Go to the top when playback stops.]チェックボックスでの設定を表示します。
- **Interval**
  インターバルタイムを表示します。

- **上下ボタン**
  選択中の行の場所を入れ替えます。
- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

[SD Card File Settings]ダイアログ



【Folder/File】
再生するファイルを指定します。

- **[Play 1 song] / [Play all songs in a folder]ラジオボタン**
  [Play 1 song]を選択すると[SD Card:/]で選択中のファイルを再生します。
  [Play all songs in a folder]を選択すると[SD Card:/]で選択中のフォルダーに保存されているすべてのファイルを再生します。
- **[SD CARD:/]**
  再生するファイルの名前またはフォルダー名が表示されます。名前を変更したり、直接入力することもできます。
  [Play 1 song]を選択しているとき
  表示可能なファイルおよびフォルダーの形式は以下のとおりです。
  - (フォルダー名)¥(ファイル名) .mp3
  - (フォルダー名)¥(ファイル名) .wav
  - (ファイル名).mp3
  - (ファイル名).wav

- [Play all songs in a folder] を選択しているとき
  表示可能なフォルダーの形式は以下のとおりです。
  - (フォルダー名)
  - 空欄

> ・フォルダーは1階層のみ有効です。
> ・フォルダー名が空欄の場合は、SDメモリーカードのルートに存在しているファイルを再生します(ルート以下のフォルダーは含まれません)。

- **[Browse]ボタン**
  クリックすると、再生するファイルまたはフォルダーを選択する画面が表示されます。
  [Play 1 song] を選択しているときはファイルを選択してください。
  [Play all songs in a folder] を選択しているときはフォルダーを選択してください。

【Play Mode】

- **[Normal]/[Repeat]/[Shuffle Repeat]**
  ファイルの再生モードを設定します。
  [Normal]を選択すると、指定したファイルまたはフォルダー内のファイルを1回再生します。
  [Repeat]を選択すると、指定したファイルまたはフォルダー内のファイルを繰り返し再生します。
  [Shuffle Repeat]を選択すると、指定したフォルダー内のファイルをランダムに繰り返し再生します。
  [Folder/File]で[Play 1 song]が選択されている場合は、[Shuffle Repeat]は選択できません。

- **[Go to the top when playback stops.]チェックボックス**
  ファイルの再生を止めたときに、停止位置で待機するか先頭位置に戻るかを設定します。
  Onにすると、次に再生を始めたときにファイルの先頭またはフォルダー内の先頭のファイルから再生します。
  Offにすると、次に再生を始めたときに前回の停止位置から再生します。

【Interval】
ファイルを連続再生するときの再生間隔を設定します。

- **Time (sec)**
  0.0〜10.0 secまで0.1 sec単位で設定できます。

> ファイルを再生中に、別のファイルを再生するように設定したイベントが実行された場合は、再生中のファイルを停止した後に指定したファイルを再生します。

- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。

- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

13.17.4. 「GPI」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[GPI]をクリックし開きます。
GPIは、General Purpose Interface(汎用インターフェース)の略です。GPI入出力を使うことによりカスタムメイドのコントローラーや外部機器からDME7をリモートコントロールできます。GPI入力端子に接続されたコントローラーで、DMEのスナップショット切り替え、コンポーネントのパラメーター変更などができます。

GPI出力端子にLEDやランプなどの表示器や他社の外部制御機器を接続し、スナップショットやパラメーターの設定状態に応じて外部の機器をコントロールできます。
[GPI]端子の接続方法などハードウェアに関する詳細は機器本体の取扱説明書を参照してください。

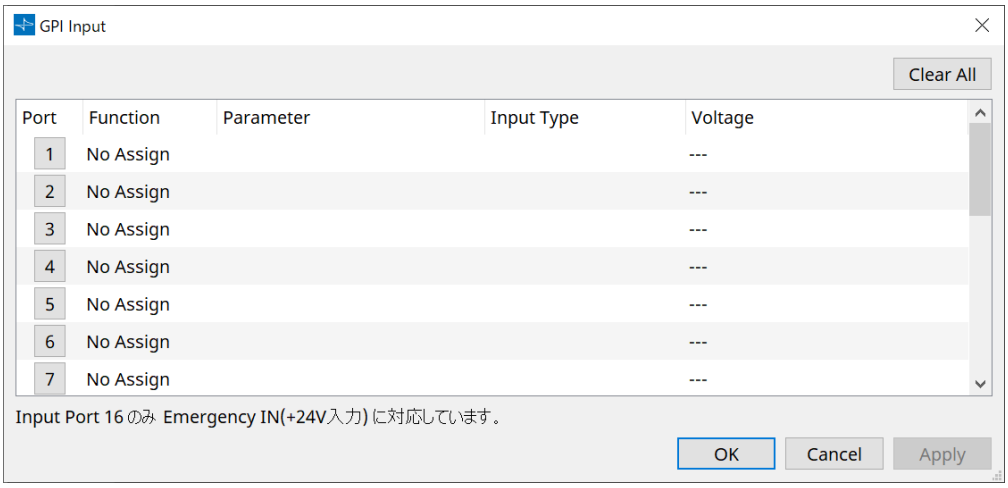
GPI Inputの設定方法は2種類あります。
・機器シートのツールボタンから開くGPI Inputダイアログで設定する。
ひとつのポートからの入力で、ひとつの機能を実行するには、こちらの方法をお試しください。

・機器シートのコントロールレイヤーにGPI Inputコンポーネントを追加し、エディターで設定する。
ひとつのポートからの入力によって、複数のパラメーター/機能を同時にコントロールしたい、コントロールコンポーネントを組み合わせて複雑な動作をさせたい場合は、こちらの方法をお試しください。
※GPI Inputは、ダイアログによる設定とコントロールレイヤーのGPI Inputコンポーネントによる設定が同時に実行されます。

GPI Outputの設定方法は2種類あります。
・機器シートのツールボタンから開くGPI Outputダイアログで設定する。
ひとつの動作を要因として、ひとつのポートから出力するような使い方の場合は、こちらの方法をお試しください。

・機器シートのコントロールレイヤーにGPI Outputコンポーネントを追加し、エディターで設定する。
複数の動作を要因として、１つのポートから出力したい、コントロールコンポーネントを組み合わせて複雑な動作をさせたい場合は、こちらの方法をお試しください。
※Output Port Typeの設定は、ダイアログとコントロールレイヤーのGPI Outコンポーネントで連動します。

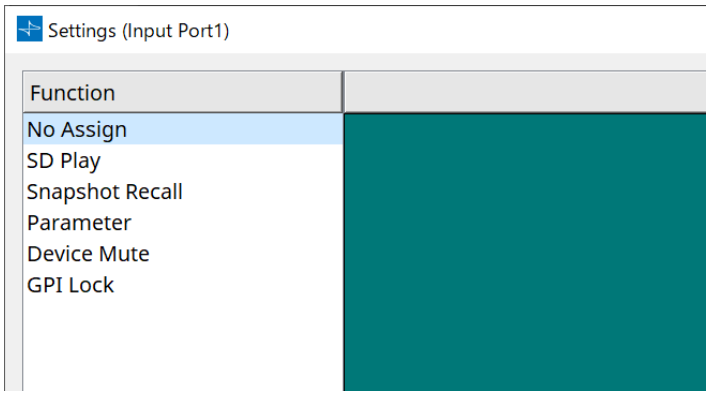
■ GPI Input/GPI Outputダイアログ共通の操作



- **[Clear All]ボタン**
  すべてのポートの設定を初期状態に戻します。
- **[Port]選択ボタン**
  クリックすると「Settings」ダイアログを開きます。
- **[OK] ボタン**
  設定を反映してダイアログを閉じます。

- **[Cancel] ボタン**
  設定を破棄してダイアログを閉じます。
- **Function**
  ポートにアサインされた機能を表示します。
- **Parameter**
  ポートにアサインされたパラメーターを表示します。

■ パラメーターやスナップショットの登録方法

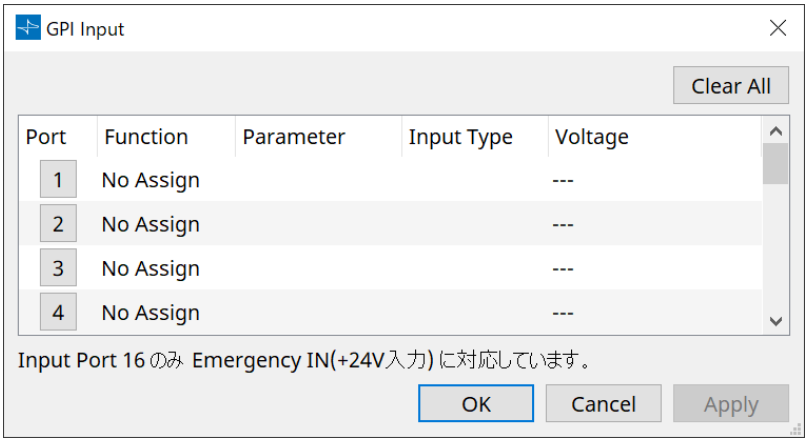


緑色の領域にスナップショットやパラメーターをドラッグ＆ドロップすると[Function]は、それに対応したものに自動的にかわります。

登録元	登録方法
「Parameter Sets」エリア	スナップショットを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。
「Parameters」エリア	パラメーターを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。

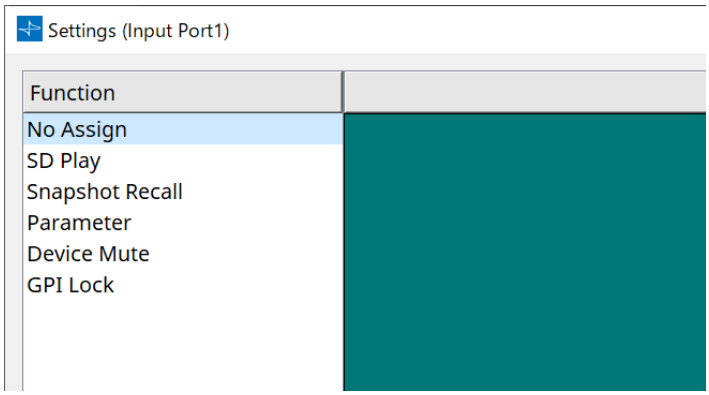
■ [GPI Input]ダイアログ

機器本体の[GPI IN] 端子の設定について説明します。



- **[Voltage]**
  オンライン中に入力電圧の現在値を表示します。
  ※[GPI IN]端子16のみEmegency In(+24V入力)に対応しています。

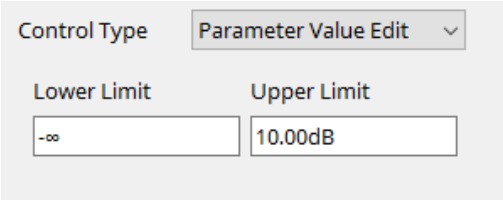
Settingsダイアログ



Function

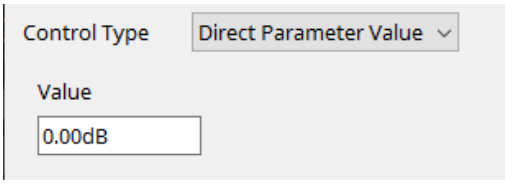
- **[SD Play]**
  - **SD Song Select & Play**
    SD Card File Managerダイアログで設定したファイルを再生します。
  - **SD Song Pause**
    再生中のファイルを停止します。
- **[Snapshot Recall]**
  スナップショットをリコールします。
- **[Parameter]**
  アサインしたパラメーターを操作します。

  Control TypeがParameter Value Editのとき



  アサインされたパラメーターを指定範囲内で変更します。
  Lower Limit/Upper Limitをクリックすると操作子がポップアップします。

  Control TypeがDirect Parameter Valueのとき



  アサインされたパラメーターを指定した値にします。
  Valueをクリックすると操作子がポップアップします。

- **[Device Mute]**
  機器をミュートします。
- **[GPI Lock]**
  GPI Lockを設定しているポート以外のすべてのGPI INポートからの入力が無効になります。
- **[Emergency In]**

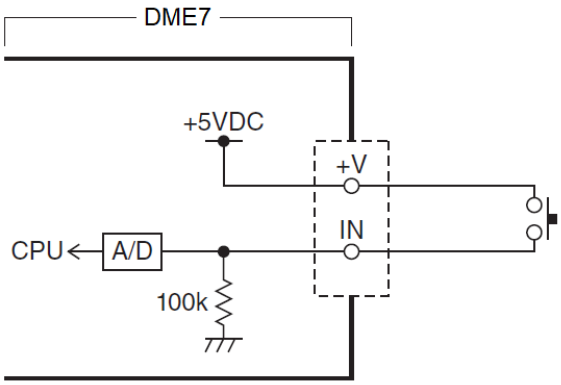
機器をエマージェンシーモードにします。ポート16のみ対応しています。

- **エマージェンシーモード**
  DMEがSCPのdevmode emergencyコマンドを受信したときや、+24V対応の[GPI IN]端子(IN 16)への入力が2.5V未満になったときに入るモードです。
  以下のような動作をします。
  - [Parameter Sets]の[Emergency Recall]で設定されたスナップショットをリコールします。エマージェンシーモードが解除されたとき、機器はリコール前の状態に戻ります。
  - DCPなどの外部コントローラーからの操作を受け付けなくなります。
  - ProVisioniare Designとオフラインになります。

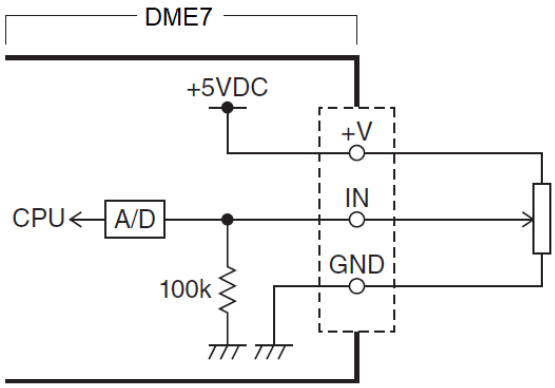
■ Input Type

[GPI IN] 端子を使った接続例

- **接続例1：**
  DMEをスイッチでコントロールする場合



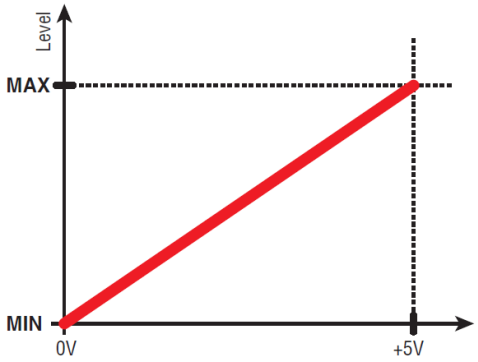
- **接続例2：**
  DMEを10kΩ Bカーブ可変抵抗器でコントロールする場合



- [Input Type]では以下の設定ができます。
  - ↗ Analog
  - ↘ Analog Inv.
  - High Active
  - Low Active
  - Rising Edge
  - Falling Edge

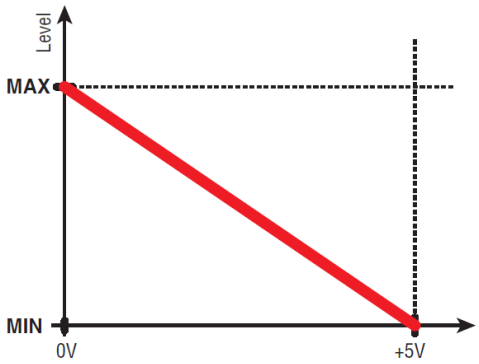
•オン/オフが切り替わるスレッショルド値は、入力電圧の最大値と最小値の中央値(最大値と最小値を足して2で割った値)になります。誤動作防止のため、検出範囲を十分にとって設定してください「(GPI Calibration」ダイアログ参照)。
•ケーブルの長さやノイズの影響により電圧が下がる場合は、「GPI Calibration」ダイアログで入力電圧の最大値および最小値を調整してください。また、電圧が不安定になることがあるので、最大値および最小値の間が十分に離れるように外部回路を構成/設定してください。

【↗ Analog】
連続的に変化するパラメーターを[Parameter Value Edit]としてアサインしたとき選択できます。



- [GPI IN]端子への入力電圧が最大(5V)のときにレベルが最大値となり、最小(0V)のときにレベルが最小値となります。

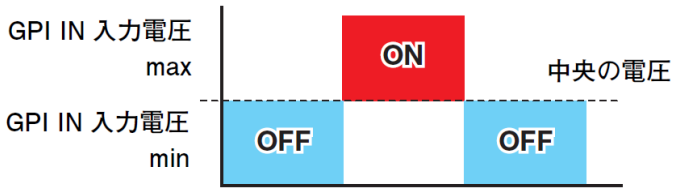
【↘ Analog Inv.】
連続的に変化するパラメーターを[Parameter Value Edit]としてアサインしたとき選択できます。



- [GPI IN]端子への入力電圧が最大(5V)のときにレベルが最小値となり、最小(0V)のときにレベルが最大値となります。

【⮱ High Active】
以下をアサインしたとき選択できます。

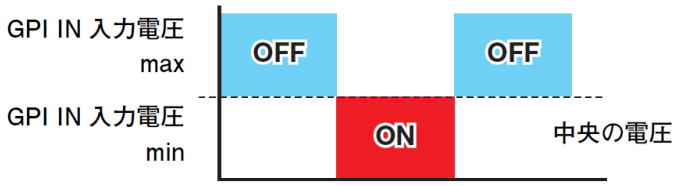
- Device Mute
- GPI Lock



- [GPI IN]端子への入力電圧が中央の電圧を上回ると機能をオンにし、下回ると機能をオフにします。

【↳ Low Active】
以下をアサインしたとき選択できます。

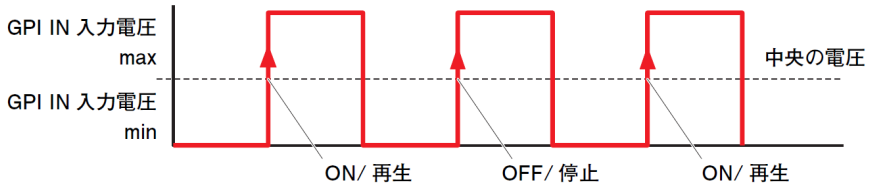
- Device Mute
- GPI Lock



- [GPI IN]端子への入力電圧が中央の電圧を上回ると機能をオフにし、下回ると機能をオンにします。

【⤴ Rising Edge】
以下をアサインしたとき選択できます。

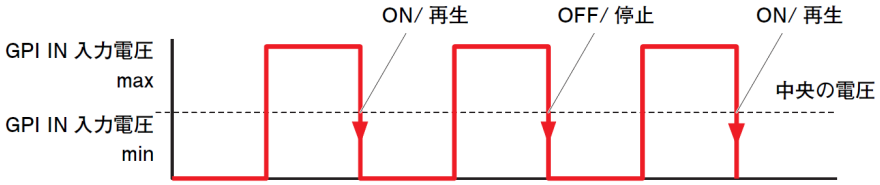
- On/Off
- SD Song Select & Play/ SD Song Pause
- Snapshot
- Parameter > Direct Parameter Value
- Device Mute
- GPI Lock



- [GPI IN]端子への入力電圧が中央の電圧よりも下から上に変化するときに、アサインした機能を実行します。

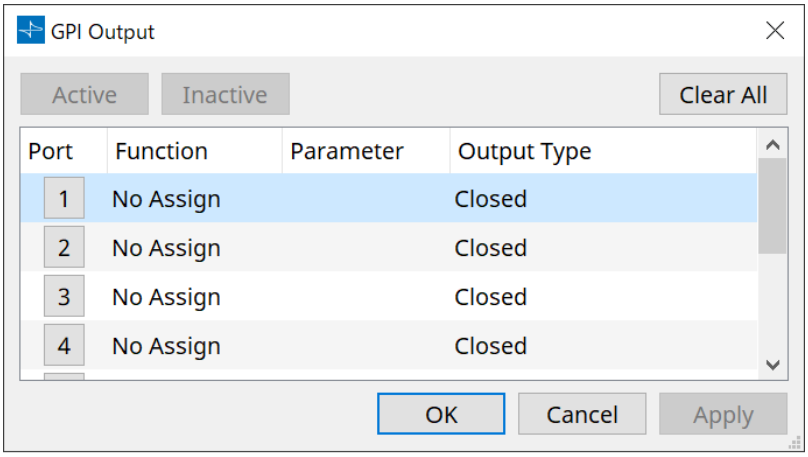
【⤵ Falling Edge】
以下をアサインしたとき選択できます。

- On/Off
- SD Song Select & Play/ SD Song Pause
- Snapshot
- Parameter > Direct Parameter Value
- Device Mute
- GPI Lock



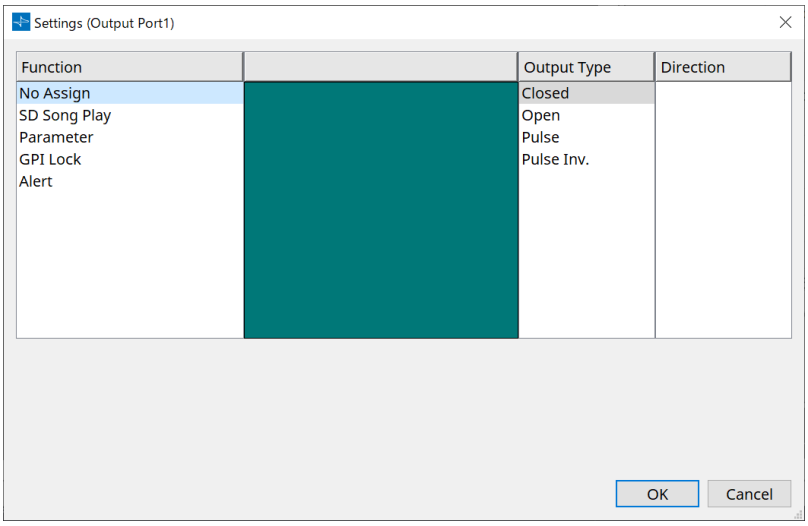
- [GPI IN]端子への入力電圧が中央の電圧よりも上から下に変化するときに、アサインした機能を実行します。

■ GPI Outputダイアログ



- **[Active]ボタン、[InActive]ボタン**
  オンライン中に押すと、Output Typeに応じた信号をテスト用にGPI Outに出力することができます。詳しくは、Output Typeの説明を参照ください。

Settingsダイアログ

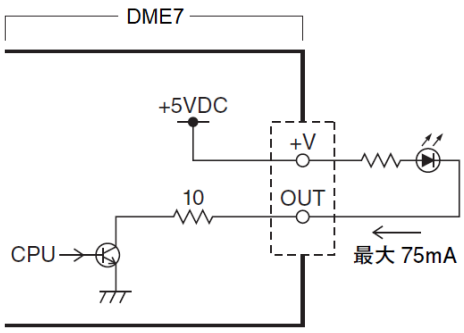


Function

- **[SD Song Play]**
  SD Cardのファイルを再生した状態になったとき[GPI OUT]端子に出力します。
- **[Parameter]**
  パラメーターが指定した状態になったとき[GPI OUT]端子に出力します。
- **[GPI Lock]**
  GPI Lockの状態を[GPI OUT]端子に出力します。
- **[Alert]**
  指定したアラートが発生したとき、[GPI OUT]端子に出力します。

■ Output Type

[GPI OUT]端子を使った接続例



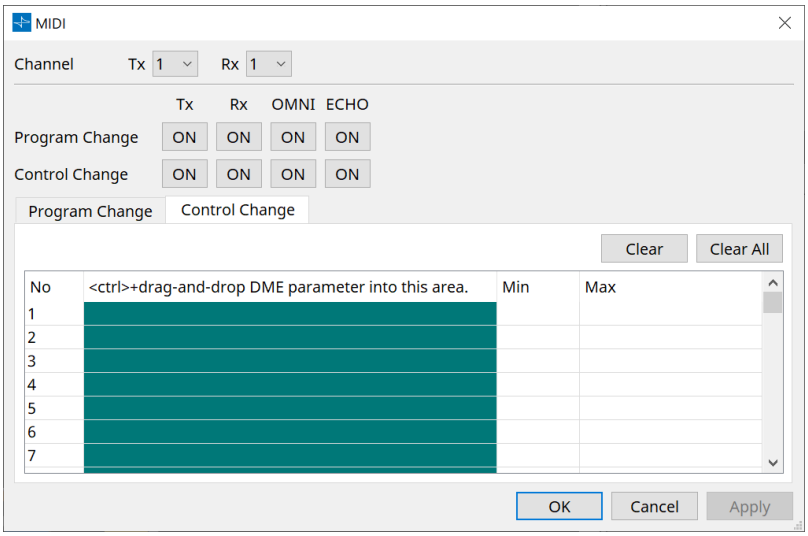
- [Ouput Type] では以下の設定ができます。
  - Closed
  - Open
  - Pulse
  - Pulse Inv.
- **Closed**
  [Function]で選択した状態になるとクローズドになります。
  [Parameter Value Edit]を選択したときは、指定したしきい値を超えたらクローズドになります。
  [Direct Parameter Value]を選択したときは、指定した値になったらクローズドになります。
  - [Active]ボタンを押すと、クローズドになります。
  - [InActive]ボタンを押すと、オープンになります。
- **Open**
  [Function] で選択した状態になるとオープンになります。
  [Parameter Value Edit]を選択したときは、指定したしきい値を超えたらオープンになります。
  [Direct Parameter Value]を選択したときは、指定した値になったらオープンになります。
  - [Active]ボタンを押すと、オープンになります。
  - [InActive]ボタンを押すと、クローズドになります。
- **Pulse**
  [Direction]が[Upward]の場合、[Function]で選択した状態になると、約250 msの間オープンからクローズドになります。
  [Parameter Value Edit]を選択したときは、しきい値を超えたときに約250 msの間オープンからクローズドになります。
  [Direction]が[Downward]の場合、[Function]で選択した状態が解除されると、約250 msの間オープンからクローズドになります。
  [Parameter Value Edit]を選択したときは、しきい値を下回ったときに約250 msの間オープンからクローズドになります。
  - [Active]ボタンを押すと、250 msの間オープンになります。
  - [InActive]ボタンは、無効です。
- **Pulse Inv.**
  [Direction]が[Upward]の場合、[Function]で選択した状態になると、約250 msの間クローズドからオープンになります。
  [Parameter Value Edit]を選択したときは、しきい値を超えたときに約250 msの間クローズドからオープンになります。
  [Direction]が[Downward]の場合、[Function]で選択した状態が解除されると、約250 msの間クロー

ズドからオープンになります。
[Parameter Value Edit]を選択したときは、しきい値を下回ったときに約250 msの間クローズドからオープンになります。

- [Active]ボタンを押すと、250 msの間オープンになります。
- [InActive]ボタンは、無効です。

13.17.5. 「MIDI」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[MIDI]をクリックし開きます。
MIDIでDMEをコントロールしたり、DMEからコントロールできます。
オンライン状態でも編集できます。



■ リストへのアサイン方法

リストへのアサインには、以下の方法があります。

登録元	登録方法
「Parameter Sets」エリア	スナップショットを「Program Change」画面の緑の領域へドラッグ＆ドロップする。
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターを「Control Change」画面の緑の領域へドラッグ＆ドロップする。
「Parameter Sets」エリア	パラメーターを「Control Change」画面の緑の領域へドラッグ＆ドロップする。

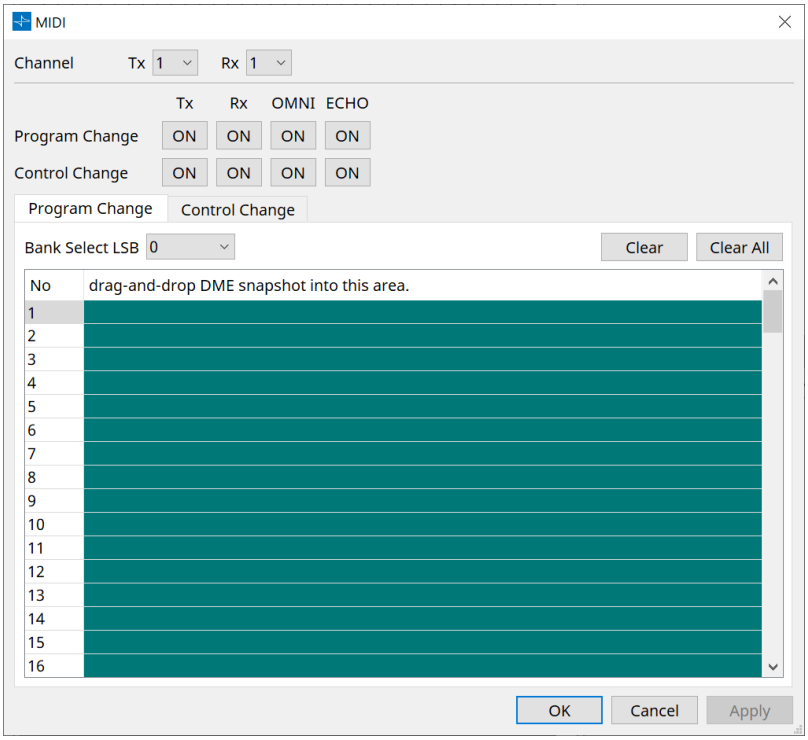
■ MIDI共通部

- **Channel**
  - **Tx**
    MIDIの送信チャンネル(1～16)を選択します。
  - **Rx**
    MIDIの受信チャンネル(1～16)を選択します。
  - **Program Change**
    プログラムチェンジのTx(送信)、Rx(受信)をON/OFFします。
    OMNIを[ON]にすると、受信チャンネルの設定に関係なくすべてプログラムチェンジを受信しま

す。（受信のみ。送信は単一チャンネルになります）
ECHOを[ON]にすると、外部から受信したプログラムチェンジをそのまま出力します。

- **Control Change**
  コントロールチェンジのTx(送信)、Rx(受信)をON/OFFします。
  OMNIを[ON]にすると、受信チャンネルの設定に関係なくすべてのコントロールチェンジを受信します。（受信のみ。送信は単一チャンネルになります）
  ECHOを[ON]にすると、外部から受信したコントロールチェンジをそのまま出力します。

- **Program Change/Control Change切り替えタブ**
  Program Changeを設定する画面とControl Changeを設定する画面を切り替えます。
- **[Clear]ボタン**
  選択中の行の設定をクリアします。
- **[Clear All]ボタン**
  全行の設定をクリアします。



■ [Program Change]タブ

プログラムチェンジナンバー「1～128」にスナップショットをアサインします。プログラムチェンジを受信したときに、スナップショットを切り替えます。
最大999までアサインできます。129以上のスナップショットは、バンクを変更してアサインします。

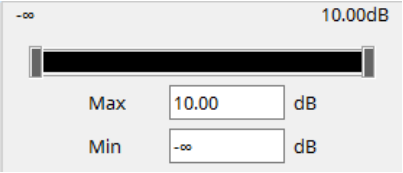
- **[Bank Select LSB]ボタン**
  Bankは0～7。Bankごとに001～128から選択します。
- **プログラムチェンジのリスト**
  中央のリストには、プログラムチェンジナンバーと現在の設定が表示されます。
  - **No.**
    プログラムチェンジナンバーが表示されます。
  - **Drag-and-drop Snapshot into this area.**
    登録されているスナップショット名を表示します。

■ [Control Change]タブ

DMEごとに、コントロールチェンジにコンポーネントのパラメーターをアサインします。
外部機器からコントロールチェンジを送信して、DMEのパラメーターを変更できます。
コントロールチェンジナンバー1～31、33-95、102-119にアサインできます。

> コントロールチェンジナンバー0と32はバンクセレクトMSB、96-101はRPN/NRPN関連、120-127はモードメッセージに使用されるため、パラメーターのアサインはできません。

- **コントロールチェンジのリスト**
  中央のリストには、コントロールチェンジナンバーと現在の設定が表示されます。
  - **No.**
    コントロールチェンジナンバーが表示されます。
  - **< Ctrl >+drag-and-drop DME parameter into this area.**
    登録されているパラメーター名を表示します。
  - **Min/Max**
    操作可能なパラメーター範囲を設定します。クリックすると操作子がポップアップします。
    スライダーをドラッグしてパラメーターを変更します。



13.18. アラート一覧

DME10/7 で発生するアラート、およびその内容/対策は以下のとおりです。

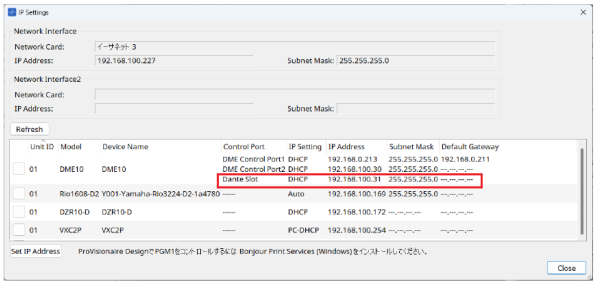
Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30002	EXT TEMP Limit	-	環境温度が上限値を超えました。冷却のための空気の流れが阻害されていないか確認してください。	-	-
30009	FAN Rotation Error	-	ファンの回転数制御において異常が検出されました。ファンの回転を阻害する障害物がないか確認してください。	-	ファンが停止しました。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。
30010	Fan Lifespan Warning	-	ファンの動作寿命が近づいています。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。	-	-
30011	Low Battery	-	バッテリーの残量が低下しています。バッテリーを交換してください。	バッテリーが残量が間もなく、なくなります。バッテリーを交換してください。	バッテリーの残量がありません。一部のデータは正しく保存できません。
30022	Leader W/C Unlock	-	-	リーダーワードクロックソースに選択されているクロック信号が不正なため、同期できません。	-
30024	Storage Lifespan Warning	-	データストレージ部品の動作寿命が近づいています。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。	-	-

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30025	Storage Access Error	-	ストレージへのデータ書き込み中にエラーが発生しました。	-	ストレージへのデータ書き込み中にエラーが発生しました。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。
30026	IP Address Duplicate	-	-	IPアドレスの重複が検出されました。	-

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30033	Dante Module Error	-	-	-	Danteモジュールが応答しません。下記をご参照ください。

Dante SlotとDanteモジュールが同一ネットワーク上にあるかご確認ください。同一ネットワーク上にない場合、Dante SlotとDante モジュール間で通信ができません。以下の方法でIPアドレスを適切に設定してください。それでも問題が解決しない場合は、DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。
Dante SlotのIPアドレスはProVisionaire Design、DanteモジュールのIPアドレスはDante Controllerで確認できます。DanteモジュールのIPアドレスの確認方法についてはDante Controllerのユーザーガイドをご参照ください。

ProVisionaire Design



1. Dante ControllerからDME本体のDante IPをDHCPモードに設定する
→DHCPサーバーがある：自動的にIP Addressが設定される
→DHCPサーバーがない：169.254.xxx.xxxが振られる（リンクローカルアドレス）

2. 適用し、再起動する
DME本体を再起動しないとパラメーターが反映されません。

3. コンピューターのNICを適切に設定する
→DHCPサーバーがある：自動的にIP Addressが設定される
→DHCPサーバーがない：169.254.xxx.xxxに設定する
ネットワーク内で競合しないように注意

4. ProVisionaire DesignからDante SlotのNICを設定する
→DHCPサーバーがある：自動的にIP Addressが設定される
→DHCPサーバーがない：169.254.xxx.xxxに設定する
ネットワーク内で競合しないように注意
設定変更後、DME本体が自動的に再起動します。

5. 本体が再起動されたことを確認する
再起動されていないとパラメーターが反映されません。

LANケーブル1本で設定する場合はProVisionaire DesignをDante [Primary]端子に接続し、DME Control Port2をDHCPモードに設定してください。

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30034	No Dante Connection	-	Danteポートがネットワークに接続されていません。Danteのケーブル結線を確認してください。	-	-
30037	Wrong Dante Clock	-	Danteクロックが正しく設定されていません。設定を見直してください。	-	-
30038	Muted - Dante Clock Err.	-	-	誤ったDanteクロック設定などにより、ミュートされました。Danteクロック設定を確認してください。	-
30039	Dante Clock Offset Err.	-	Danteクロック周波数オフセットが不安定です。スイッチの設定も含め、ネットワーク設計・設定を見直してください。	-	-
30040	Dante Redundancy Triiggered	-	Danteオーディオ伝送がセカンダリーネットワークに切り替わりました。	-	-
30041	Dante Secondary Error	-	Danteセカンダリーポートが機能していません。	-	-
30047	Power ON	機器本体の電源がONになりました。	-	-	-
30049	Device Initialized	機器のメモリ初期化が実行されました。	-	-	-
30050	Time Synchronized	時刻が同期されました。	-	-	-
30051	Firmware Updated	ファームウェアがアップデートされました。	-	-	-
30052	Scene/Snapshot Store	Scene/Snapshotがストアされました。	-	-	-

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30053	Scene/Snapshot Recall	Scene/Snapshotがリコールされました。	-	-	-
30056	PSU Switched Over	-	二重化された電源ラインA/Bのうち、いずれかの電源供給が途絶えました。電源ケーブルの結線を確認してください。	-	-
30057	Dante Link 100Mbps	-	Danteポートのリンク速度が1Gbps未満です。別のネットワークスイッチや別のポートに接続し直すか、別のネットワークケーブルに変更してみてください。	-	-
30058	Sub Module Error	-	-	-	機器内部のサブモジュールが応答しません。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。
30059	Sub Module Rebooted	-	-	機器内部のサブモジュールが予期せずに再起動しました。	-
30060	Illegal MAC address	-	-	-	EthernetインターフェースのMACアドレスが不正です。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30061	Dante MAC Address Err.	-	-	-	DanteインターフェースのMACアドレスが不正です。DME7は修理サービスセンター、DME10はお買い上げのディーラーまたは販売店にお問い合わせください。
30062	IP Address Assigned	ネットワークインターフェースにIPアドレスが割り当てられました。	-	-	-
30063	IP Address Assigned (Auto IP)	Auto IPによりネットワークインターフェースにIPアドレスが割り当てられました。	-	-	-
30064	IP Address Released	DHCPサーバーにより割り当てられたIPアドレスが解放されました。	-	-	-
30065	Internal Network Error	-	-	不正なネットワークアドレスのため、機器内部モジュールとの通信が確立できません。	-
30066	Dante (TX) Overflow	-	-	Danteフロー（送信）が不足しています。Danteフロー数に収まるようにパッチを再設定してください。	-
30067	Dante (RX) Overflow	-	-	Danteフロー（受信）が不足しています。Danteフロー数に収まるようにパッチを再設定してください。	-
30068	Dante Settings Locked	-	Dante Device Lock機能やDDMの権限設定により、Danteの設定変更がDanteモジュールに適用できませんでした。	-	-

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30069	DCP Comms Error	-	-	ホスト機器とDCPの間の通信において、通信エラーが検出されました。以下のポイントを確認してください。 1) ケーブルの長さが規定以内か 2) ケーブルの品質が十分か 3)最終段のDCPが正しく終端されているか	-
30070	DCP Configuration Error	-	-	ホスト機器とDCPの間の通信において、通信エラーが検出されました。以下のポイントを確認してください。 1) ケーブルの長さが規定以内か 2) ケーブルの品質が十分か 3)最終段のDCPが正しく終端されているか	-
30071	DSP Resource Overflow	-	-	音声信号処理リソースが予期せずにオーバーフローしました。ノイズが発生した可能性があります。	-
30072	Incompatible Data/File	-	-	互換性のないデータ/ファイルフォーマットのため、読み込めませんでした。	-
30073	Incompatible RC Protocol	-	-	互換性のない制御プロトコルのため、外部の制御用デバイス・ソフトウェアと通信できませんでした。	-
30074	DHCP Server No Response	-	-	DHCPサーバーが応答しません。	-
30075	NTP Server No Response	-	-	NTPサーバーが応答しません。	-

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30076	Missing License	-	-	ライセンスがない、もしくは不足しているため、一部またはすべての機能が動作していません。追加ライセンスをアクティベートするか、該当する機能の使用を停止してください。	-
30077	Setting Data Corrupted/Lost	-	-	設定データ・ファイルが破損しています。	-
30078	Storage Full	-	-	ストレージの空き容量がありません。	-
30079	Unsupported File System	-	-	ドライブが非対応のファイルシステム形式でフォーマットされています。対応している形式でフォーマットし直してください。	-
30080	Removable Drive Mounted	リムーバブルドライブが機器にマウントされました。	-	-	-
30081	Removable Drive Unmounted	リムーバブルドライブが機器から取り外されました。	-	-	-
30082	File Not Found	ファイルが見つかりません。	-	-	-
30083	Authentication Failed	-	誤ったPINコード・パスワードが入力されました。	-	-
30084	Panel Locked	パネル操作がロックされました。	-	-	-
30085	Panel Unlocked	パネル操作のロックが解除されました。	-	-	-
30086	Scene/Snapshot Recall Failed	-	-	Scene/Snapshotのリコールに失敗しました。	-

Data ID	Data Name	Message [Normal]	Message [Warning]	Message [Error]	Message [Fault]
30087	Data Sync Failed	-	-	データ同期シーケンスが予期せずに中断しました。	-

14. オーディオプロセッサー MRX7-D

14.1. 概要

MRX7-Dは使用するコンポーネントを自在に配置することで、自由にシステムデザインできるフリーコンフィグレーション方式のプロセッサーです。
MRX7-DはDCP/ MCP1 などの外部コントローラーで操作できます。
また、PGM1を使用してページングシステムを構築することもできます。

MRX7-Dのデバイスシートではコンポーネントを自由に配置して、コンポーネントを結線して、コンパイルするという作業をします。
そのあと、MRX7-D本体と通信してコンポーネントエディターなどを使ってパラメーターの設定をします。

パラメーターのストア / リコールはスナップショット形式で行います。
ストア/リコールしたい複数のパラメーターだけをグループ化し (パラメーターセット)、パラメーターセットごとに 10パターンのパラメーター値をスナップショットとしてストアできます。
スナップショットはプリセットに登録することで DCP などの機材と一緒に本体フロントパネルからリコールできます。
複数のスナップショットをまとめて (スナップショットグループ)、1つのプリセットに登録できます。スナップショットやスナップショットグループはリモートコントローラーからリコールできます。

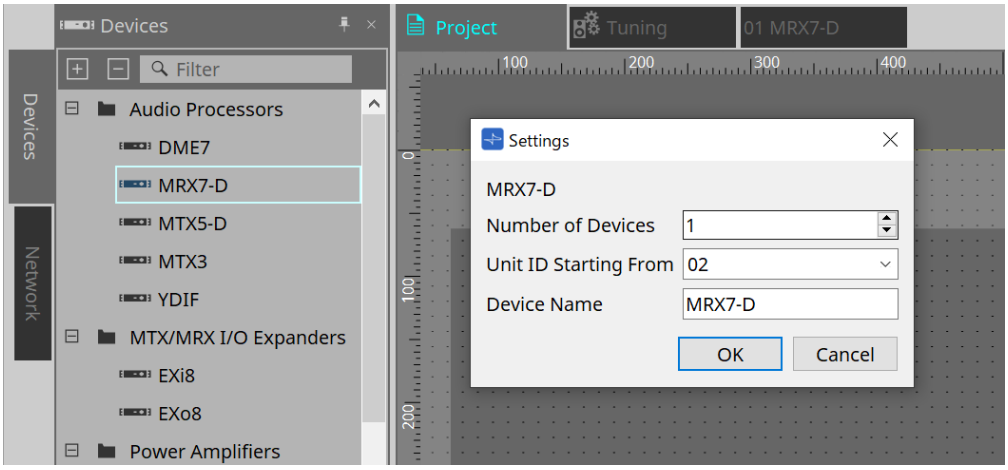
複数のパラメーターをリンクできます (パラメーターリンクグループ)。
コンポーネントごとにリンクできます (ギャングエディットグループ)。

コンポーネントの初期値やコンポーネント、コンポーネント間のワイヤーなどの情報をユーザースタイルという形でコンピューターに記憶できます。ユーザースタイルを記憶させておくことで、コンポーネントを配置するたびに設定を変更する作業から解放されます。ユーザースタイルは他のコンピューターにも持ち出すことができます。

コンポーネントやコンポーネント間のワイヤーはUser Defined Blockとしてブロック化できます。複数のコンポーネントをまとめて 1つのブロックとすることで、スタイルシートの見た目をすっきりさせたり、ブロックのコピーで簡単に同じ機能を別チャンネル用に作ったりできます。ブロックごとに「View Only」モードや「Protect」モードを設定すると、「Protect User Defined Block」を実行したときにブロックを保護することができます。

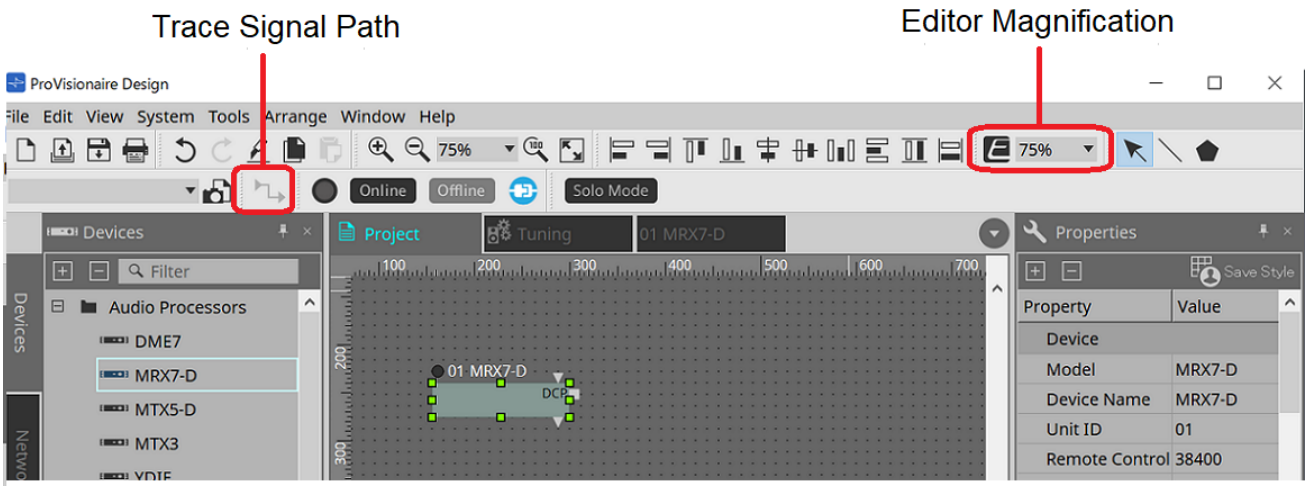
14.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するMRX7-Dの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

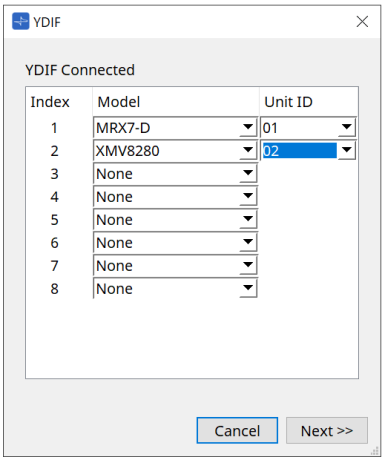
14.2.1. ツールバー

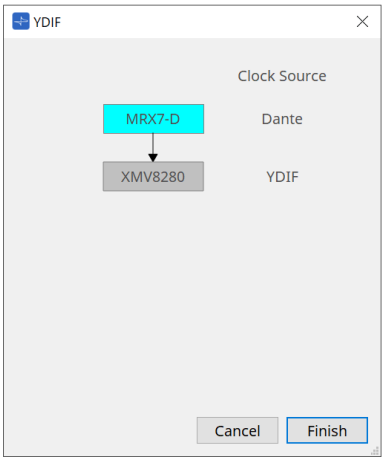


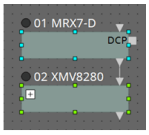
- **Editor Magnification**
  コンポーネントエディターの拡大率を変更します。
- **Trace Signal Path**
  オンにすると、ポートまたはワイヤーを選択したとき、選択したものを起点として出力方向と入力方向へ信号経路の検索を行います。

14.2.2. 「Devices」エリア

“YDIF”をプロジェクトに追加すると、複数の機器をYDIF端子で接続して使用する場合の接続例を提示します。自動的にワードクロックの設定も行います。

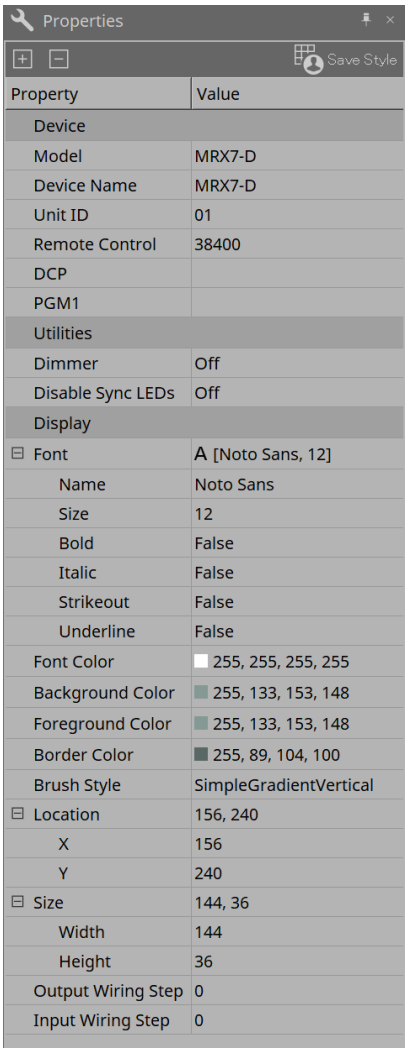






14.2.3. 「Properties」エリア

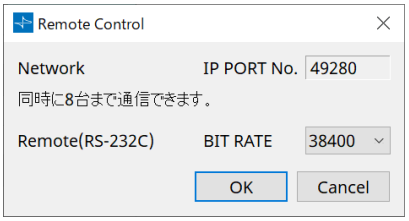
MRX7-Dの情報を表示/編集します。



Device

- **Unit ID**
  MRX7-D本体のUnit IDに合わせてください。工場出荷時は、1になっています。

- **Remote Control**
  外部コントローラーを接続する場合のポート番号の確認や、RS-232Cに外部コントローラーを接続する場合の設定をします。
  「Remote Control」ダイアログは、プロパティのValue欄をクリックすると表示される▤から表示します。



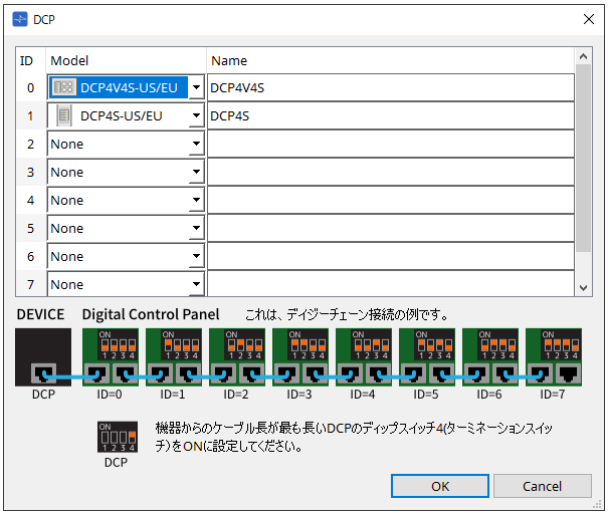
  - **[Network IP PORT No.]**
    MRX7-DのNETWORK 端子のポート番号を表示します。
    端子には最大8台までの外部コントローラーを接続できます。

- **[Remote(RS-232C) BIT RATE] リストボックス**
  RS-232Cの通信速度を選択します。「38400」bpsと「115200」bpsが選択できます。
  RS-232Cには1台の外部コントローラーを接続できます。

- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。

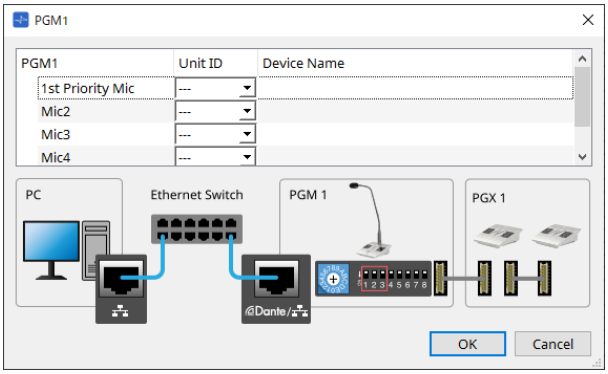
- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

  - **DCP**
    MRX7-DのDCPポートに接続するDCPを選択してください。
    DCPを選択すると、MRX7-DにDCPが接続されるとともに機器シートにDCPコンポーネントが追加されます。



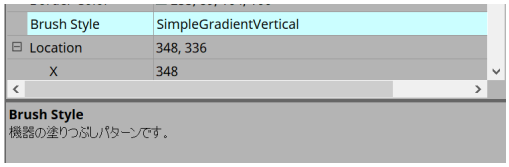
パラメーターのアサインは、DCPコンポーネントエディターで行ってください。

- **PGM1**
  MRX7-DをコントロールするPGM1のUnit IDを指定してください。
  「PGM1」ダイアログは、プロパティのValue欄をクリックすると表示される▭から表示します。
  詳細は、MTX5-Dの「Paging(ページング)の設定の流れ」を参照してください。

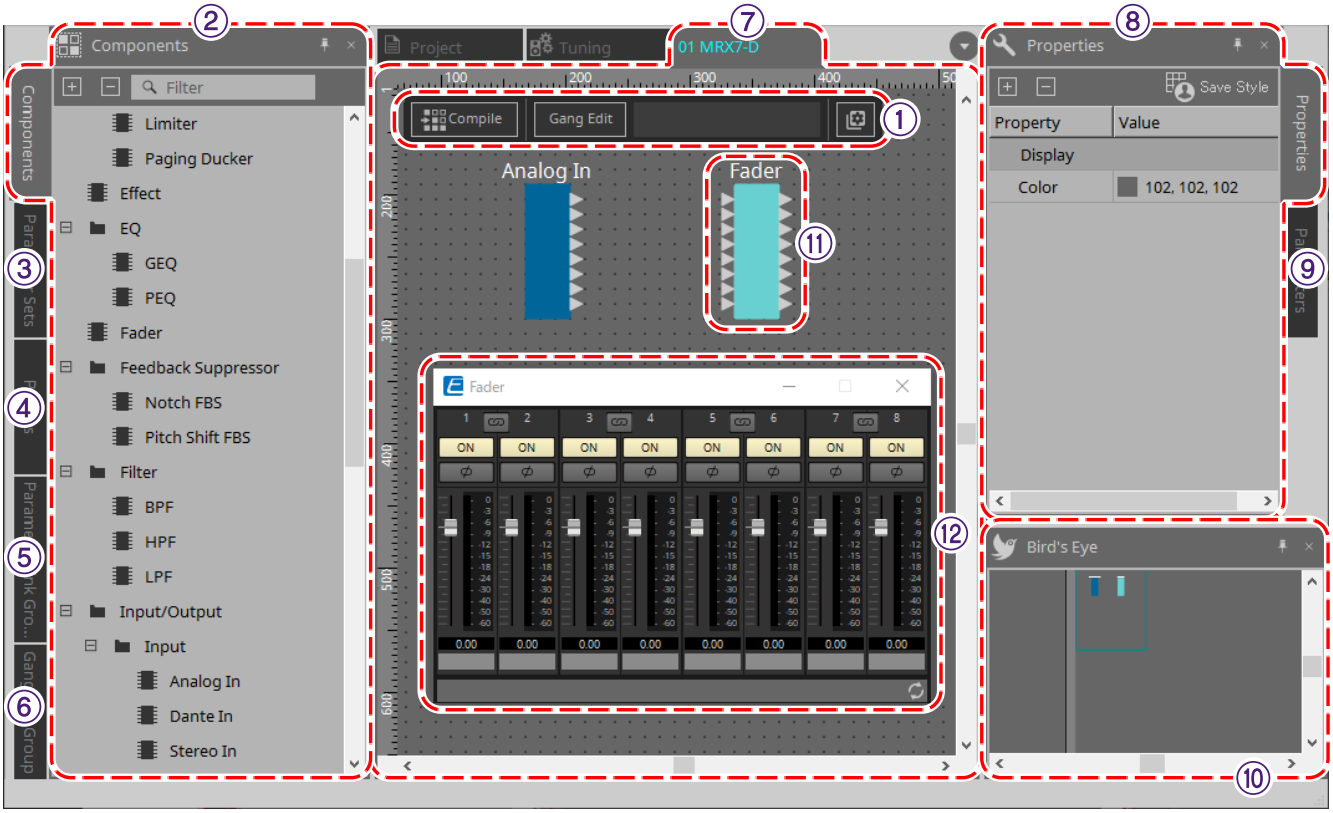


PGM1の設定データはMRX7-Dが保持していますので、ProVisionaire DesignでPGM1を発見できていなくても設定に問題はありません。
PGM1のファームアップデートやIPアドレスの変更を行う場合には、Bonjour Print Serivceをインストールして、ProVisionaire Designが機器を発見できるようにしてください。

その他の項目は、Propertiesの項目を選択したときに表示される説明文で確認してください。



14.3. 機器シートの画面構成



① ツールボタン
MRX7-Dでよく使うコマンドをボタンにしています（ツールボタン）。

② 「Components」エリア
コンポーネントのリストが表示されます(「Components」エリア)。

③ 「Parameter Sets」エリア
パラメーターセットやスナップショットを設定します(「Parameter Sets」エリア)。

④ 「Presets」エリア
プリセットを設定します (「Presets」エリア)。
プリセットは、本体フロントパネルでリコールできます。

⑤ 「Parameter Link Group」エリア
Level系やON/OFF系の複数パラメーターを連動させるパラメーターリンクグループを作成します(「Parameter Link Group」エリア)。

⑥ 「Gang Edit Group」エリア
複数コンポーネントを連動させるギャングエディットグループを作成します(「Gang Edit Group」エリア)。

⑦ デザインシート
コンポーネントの配置および結線をするシートです(デザインシート)。

⑧ 「Properties」エリア
選択中のコンポーネントやポート、ワイヤーの設定を変更します(「Properties」エリア)。

⑨ 「Parameters」エリア
デザインシートに配置済のコンポーネントとパラメーターをリスト表示します(「Parameters」エリア)。

⑩ Bird's Eye ビュー

シートの全景を表示します。

⑪ コンポーネント
イコライザーやコンプレッサーなど各種信号処理モジュールを「コンポーネント」と呼びます。

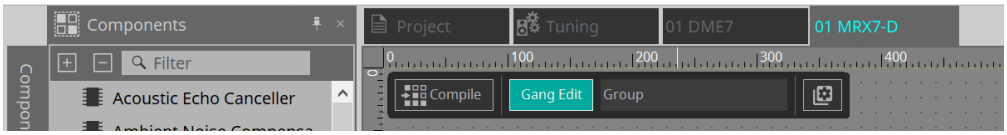
⑫ コンポーネントエディター
コンポーネントエディターでパラメーターを設定します。

14.4. 基本的な使い方

DMEでの「基本的な使い方」を参照ください。

14.5. ツールボタン

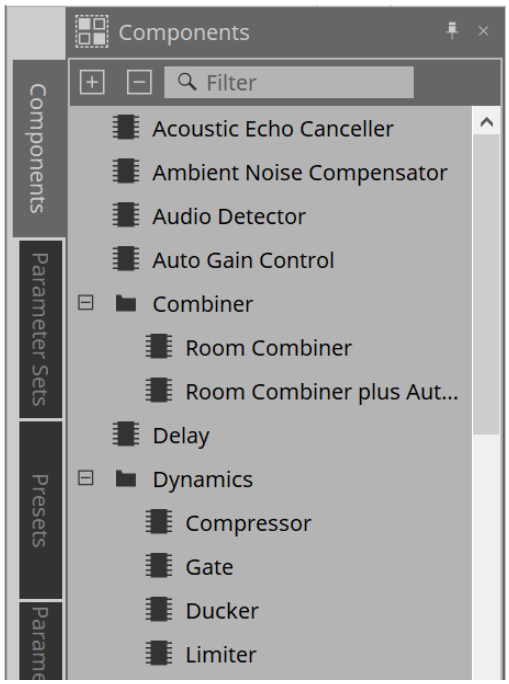
MRX7-Dでよく使うコマンドのショートカットボタンです。



ボタン	コマンド	概要
	[Compile]	コンポーネントの配置や結線に問題がないか解析します。
	[Gang Edit]	「Gang Edit Group」エリアの[Active]ボタンのオン/オフを切り替えます。 オンにすると、現在選択しているギャングエディットグループ名がボタンの右側に表示されます。

ボタン	コマンド	概要
	[Tools]	**[Remote Control Setup List]** リモートコントローラーからコントロールするパラメーターを登録します。 **[SD Card File Manager]** 「SD Card」コンポーネントで再生するファイルを登録します。 **[Scheduler]** あらかじめ設定しておいた日時にプリセットを切り替えたり、SDメモリーカードに保存してある曲や効果音を再生できます。 **[GPI]** GPI入出力を使うことによりカスタムメイドのコントローラーや外部機器からMRX7-Dをリモートコントロールできます。 **[External Events]** MRX7-Dが出力するコマンドの設定を行います。 **[MCP1]** 「Project」シートに配置されているMCP1のエディターを開きます。 **[Install Speech Privacy File]** 「Speech Privacy」コンポーネントに関するファイルをインストールします。 **[Peak Hold]** ONにチェックを入れると、配置されているコンポーネントのメーターで最大値を保持します。 Resetを選択すると、最大値の保持をリセットします。 **[Protect User Defined Block]** 「Protect User Defined Block」ダイアログを開きます。 DMEの「User Defined Block」を参照ください。

14.6. 「Components」エリア



MRX7-D固有のコンポーネントは、コンポーネントエディターを参照ください。
その他のDMEと共通のコンポーネントについては「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

14.7. デザインシート

DMEの「デザインシート」を参照ください。

14.8. オーディオ以外のコンポーネント

DMEの「オーディオ/コントロール以外のコンポーネント」を参照ください。

14.9. 「Parameter Sets」エリア

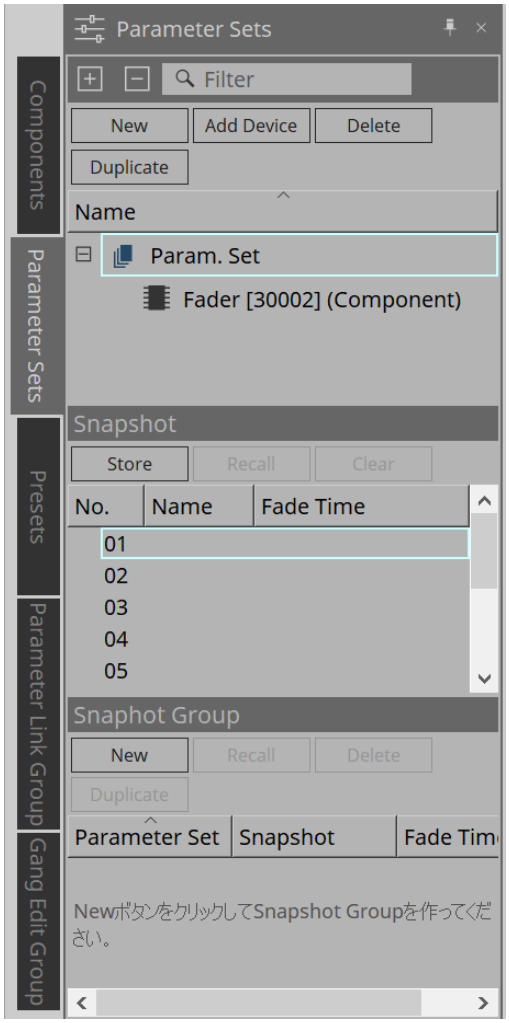
スナップショットでストア/リコールするパラメーターの集合体をパラメーターセットと呼びます。スナップショットをストアすると、パラメーターセットメンバーのカレント値を保存します。ひとつのパラメーターセットは 10パターンのスナップショットをストアできます。1つのパラメーターを複数のパラメーターセットに登録できます。
スナップショットは、Remote Control Setup Listにアサインすることで、外部コントローラーで制御できます。

本体フロントパネルでリコールできるのはスナップショットではなくプリセットです。
「Presets」エリアの“Recall Settings”でスナップショットをプリセットに登録してください。

パラメーターセットへの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
デザインシート	< Ctrl >を押しながら、コンポーネントをパラメーターセット名にドラッグ & ドロップする。
	コンポーネントを右クリックして、[Add to Parameter Set]で登録するパラメーターセットを選択する。
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをパラメーターセット名にドラッグ & ドロップする。
Link Control エディター	< Ctrl >を押しながら、Link Controlをパラメーターセット名にドラッグ& ドロップする。
「Parameters」エリア*1	コンポーネントまたはパラメーターをパラメーターセット名にドラッグ & ドロップする。
	コンポーネントまたはパラメーターを右クリックして、[Add to Parameter Set]で登録するパラメーターセットを選択する。
「Parameter Sets」エリア	登録先のパラメーターセットを選択したあと、[Add Device]ボタンをクリックすると、その時点で配置されているすべてのコンポーネントを登録します。

*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のコンポーネントやパラメーターを同時にパラメーターセットに登録できます。



Parameter Sets、 Snapshotの説明は、DMEの「Parameter Sets」エリアを参照ください。

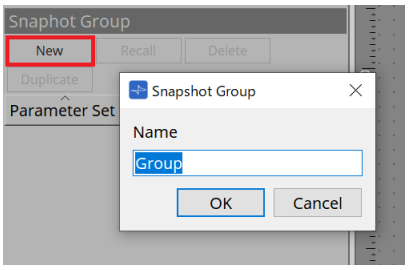
14.9.1. Snapshot Group

複数のスナップショットをひとつのグループに登録して、一括でリコールできます。
スナップショットグループは、Remote Control Setup Listにアサインすることで、外部コントローラーで制御できます。

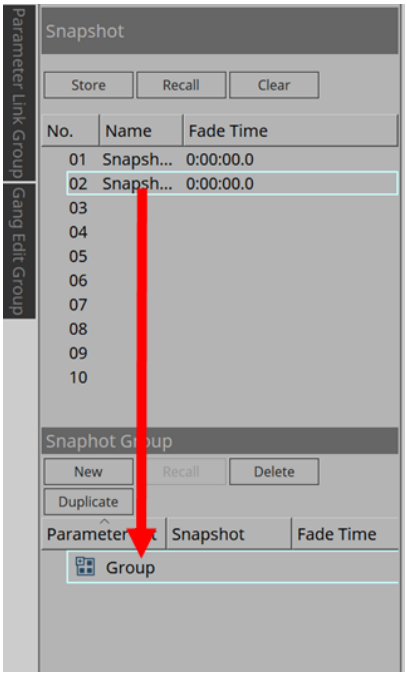
本体フロントパネルでリコールできるのはスナップショットグループではなくプリセットです。
「Presets」エリアのRecall Settingsで、スナップショットグループをプリセットに登録してください。

14.9.2. スナップショットグループの作成手順

1. **[New] ボタンをクリックしてグループを作成する。**



2. **Groupにスナップショットをドラッグ & ドロップでアサインする。**



ストアしていないスナップショットもアサインできます。

3. **必要に応じてスナップショットの順番を入れ替える。**

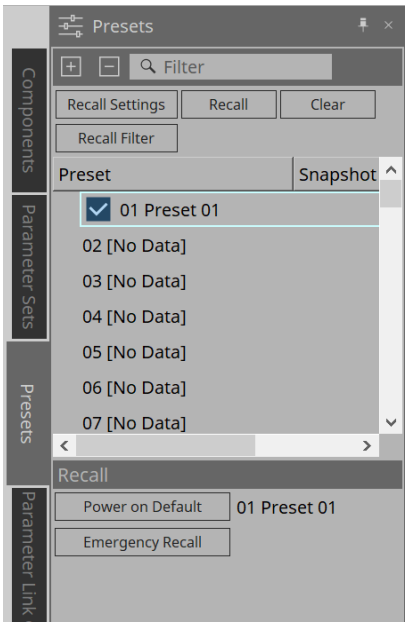
Groupに登録されているスナップショットは上から順番にリコールされます。
スナップショットを右クリックしてコンテキストメニューを表示し、スナップショットの順番を入れ替えることができます。

メニュー	内容
Delete	選択しているスナップショットを削除します。
Up	選択しているスナップショットをひとつ上に移動します。
Down	選択しているスナップショットをひとつ下に移動します。

Groupまたはスナップショットを削除したいときは、Groupまたはスナップショット選択して[Delete]ボタンをクリックします。または、コンピューターの< Delete >キーを押すか、コンテキストメニューで[Delete]を選択して削除することもできます。

14.10. 「Presets」エリア

本体フロントパネルでスナップショットまたはスナップショットグループを直接リコールすることはできません。
本体フロントパネルでリコールできるのはプリセットです。
プリセットにスナップショットやスナップショットグループを登録してください。



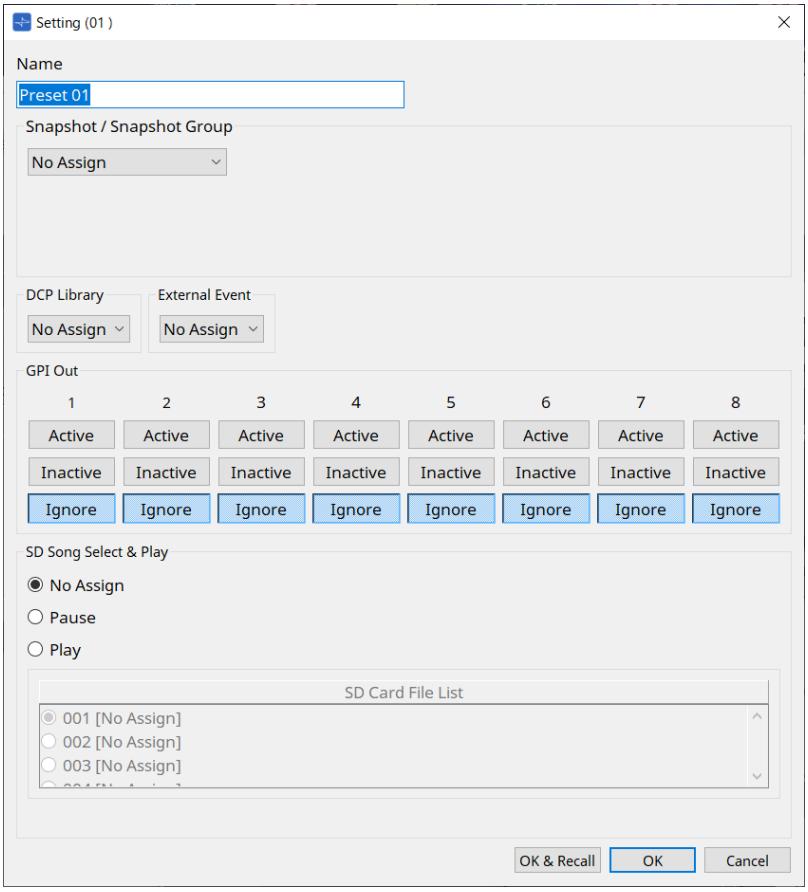
- **Snapshot**
  [Recall Settings]ダイアログでプリセットに紐づけされたスナップショットが表示されます。
- **Enable Scheduler**
  オンにするとプリセットをリコールしたとき、スケジューラー機能が有効になります。
  アイコンをクリックしてオン/オフを切り替えます。

> スケジューラー機能を無効にした状態で、イベント発生時間になると本体の[SCHEDULER]インジケーターが速く点滅します。

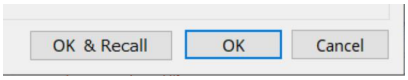
- **Filter**
  Recall Filterダイアログで、リコールされない部分はひとつでも設定されていると P と表示されます。

14.10.1. 手順

1. **プリセットを選択します。**
2. **[Recall Settings]ボタンをクリックします。**



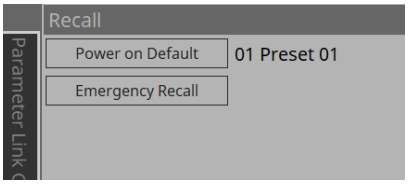
3. **「Recall Settings」ダイアログのSnapshot/Snapshot Groupでプリセットにアサインするスナップショットまたは Snapshot Group Recallを選択します。**



- **[OK & Recall] ボタン**
  現状の設定を確定し、Recallしてからダイアログを閉じます。
- **[OK] ボタン**
  設定を確定し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  変更を破棄してダイアログを閉じます。

GPI Out、SD Song Select & Playは、DMEの「Recall Settings」ダイアログを参照ください。

Recallの説明は、DMEの「Parameter Sets」エリアを参照ください。



MRX7-Dの全てのパラメータを一括でリコールする方法
MRX7-Dの全てのパラメータを一括でリコールする場合、MRX7-Dデバイスで構成されたParameterSetsのスナップショットをPresetに登録してください。

1. ParameterSetsを作成
2. Add DeviceにてMRX7-Dを登録
3. SnapShotを作成
4. 3で作成したSnapShotをPresetに登録

14.11. 「Parameter Link Group」エリア

Level系やON/OFF系の複数パラメーターを連動させるパラメーターリンクグループを作成します。
1つのパラメーターを複数のパラメーターリンクグループに登録できます。作成したパラメーターリンクグループはスナップショット、スケジューラー、GPI、DCP、MCP1、Remote Control Setup Listで使用できます。
1つのパラメーターリンクグループにLevel系とON/OFF系を混在することはできません。パラメーターリンクグループは最大64個まで作成できます。

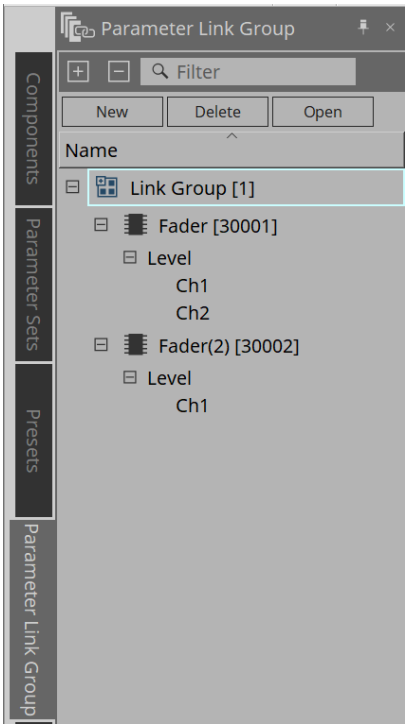
パラメーターリンクグループへの登録には、以下の方法があります。

[Parameter]

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをParameter Link Groupエリアのパラメーターリンクグループにドラッグ＆ドロップする。
	パラメーターを右クリックして、[Add to Parameter Link Group] で登録するパラメーターリンクグループを選択する。
「Parameters」エリア*1	パラメーターをParameter Link Groupエリアのパラメーターリンクグループにドラッグ＆ドロップする。
	パラメーターを右クリックして、[Add to Parameter Link Group] で登録するパラメーターリンクグループを選択する。

*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のパラメーターを同時にパラメーターリンクグループに登録できます。

「Parameter Link Group」エリアのパラメーターリンクグループなどの項目を選択している状態で英字キーを押すと、先頭文字が一致するパラメーターリンクグループなどが選択されます。



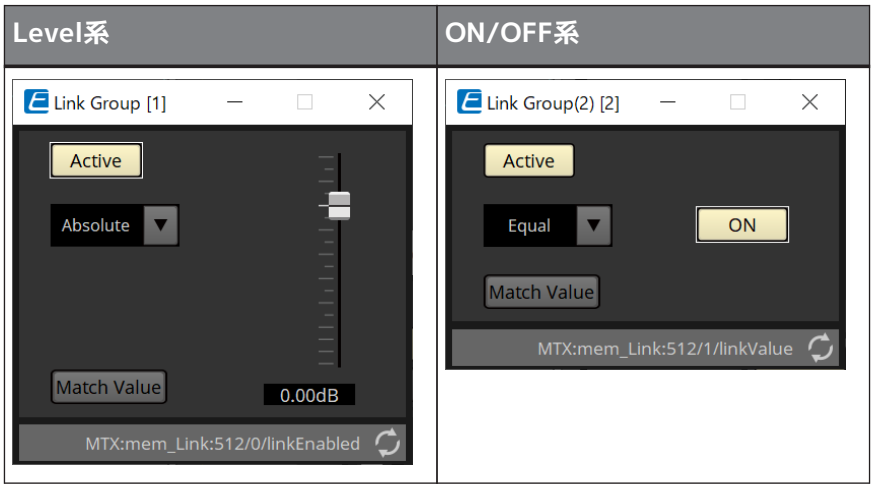
- **[New]ボタン**
  パラメーターリンクグループを作成します。

- **[Delete]ボタン**
  選択しているパラメーターリンクグループまたは パラメーターを削除します。
- **[Open]ボタン**
  選択しているパラメーターリンクグループの Link Controlエディターを表示します。

14.11.1. Link Control Editor

パラメーターリンクグループごとにリンクコントロールがあります。 リンクコントロールを変更すると、パラメーターリンクグループに登録されているパラメーターも同時に変更されます。
パラメーターリンクグループに登録されているパラメーターを変更しても、リンクコントロールのパラメーターは変わりません。
リンクコントロールは、GPI/DCP/Remote Control Setup List/Parameter Link Group/MCP1にアサインできます。

タイトルバーにパラメーターリンクグループの名称が表示されます。



- **フェーダー(Level 系のみ)**
  Level 系の値を設定します。
- **[ON] ボタン (ON/OFF 系のみ)**
  パラメーターのオン/オフを設定します。
- **[Match Values] ボタン**
  コンボボックスが [Absolute] または [Equal] のとき、登録されているパラメーターの値をリンクコントロールの値と同じにします。
- **[Active] ボタン**
  オンのとき、パラメーターリンクグループが有効になります。リンクを一時的に解除したいときにオフにしてください。
- **コンボボックス**
  Level 系と ON/OFF 系の設定をどのように反映させるかを設定します。

[Absolute]/[Equal]	登録されているパラメーターの値をリンクコントロールの値と同じにします。
[Relative]/[Opposite]	リンクコントロールを操作すると、登録されているパラメーターは相対位置を保ったまま動きます。

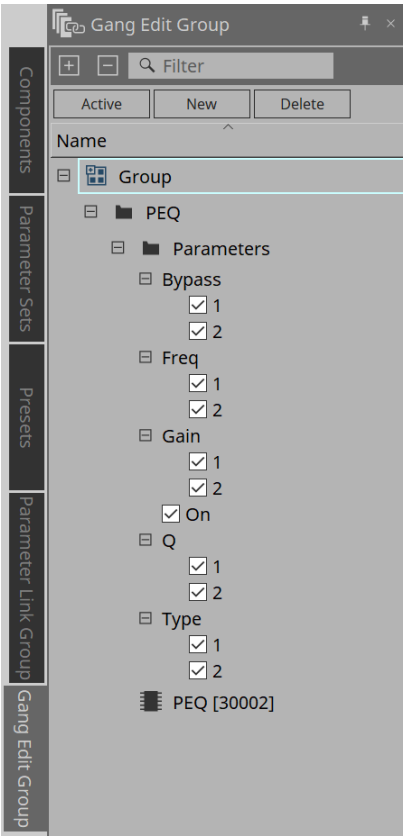
14.12. 「Gang Edit Group」エリア

複数のコンポーネントを連動させるギャングエディットグループを作成します。
グループ内の同じ種類のコンポーネントのパラメーターを同時に変更することができます。オンライン状態でもできますので、Speaker Processer など現場で音を聞きながらまとめて最終調整することもできます。
変更したいコンポーネントのどれかのコンポーネントエディターを開くと、それがリンクコントロールとなって他のリンクしているコンポーネントの設定ができます。
ギャングエディットグループは最大64個まで作成できます。

ギャングエディットグループへの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
デザインシート	< Ctrl >を押しながら、コンポーネントをギャングエディットグループ名にドラッグ＆ドロップする。
	コンポーネントを右クリックして、[Add to Gang Edit Group]で登録するギャングエディットグループを選択する。
「Parameters」エリア*1	コンポーネントをギャングエディットグループ名にドラッグ＆ドロップする。 コンポーネントを右クリックして、[Add to Gang Edit Group]で登録するギャングエディットグループを選択する。

*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のコンポーネントを同時にギャングエディットグループに登録できます。



- **[Active] ボタン**
  ギャングエディットグループ機能の有効 / 無効を設定します。選択中のグループに対して有効になります。

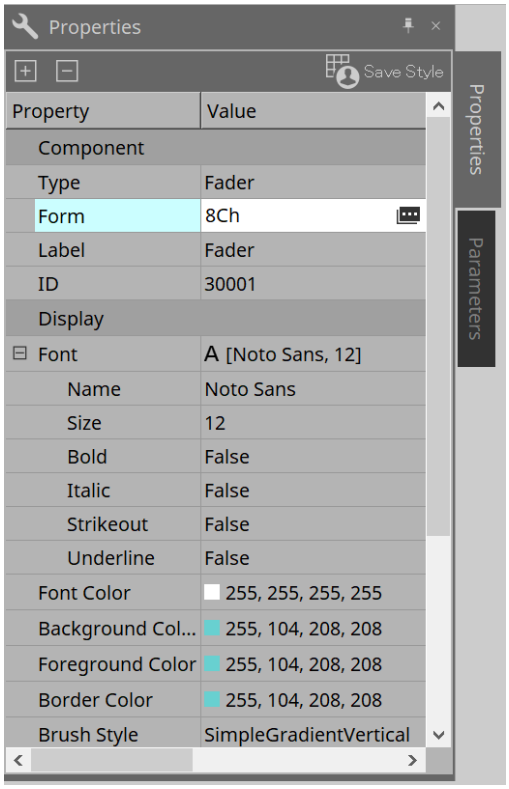
- **[New] ボタン**
  ギャングエディットグループを作成します。
- **[Delete] ボタン**
  選択しているギャングエディットグループまたはコンポーネントを削除します。
- **[Parameters]**
  チェックボックス リンクさせるパラメーターにチェックを入れます。

14.12.1. 手順

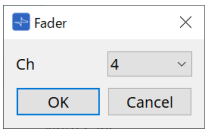
1. **[New] ボタンをクリックしてグループを作成する。**
2. **< Ctrl >を押しながらシート上のコンポーンネントをグループ名の上にドラッグ＆ドロップする。**
   または「Parameters」エリアからコンポーネントをドラッグ&ドロップする。
   リンク動作するのは同じ種類のコンポーネントですが、複数の種類のコンポーネントを登録できます。
3. **リンクさせたくないパラメーターのチェックを外す。**
4. **[Active] ボタン、またはツールボタンの [Gang Edit] ボタンをオンにする。**
5. **ギャングエディットグループに登録されている任意のシート上のコンポーネントをダブルクリックする。**
   コンポーネントエディターが表示されます。
6. **コンポーネントエディターでパラメーターを操作する。**
   ギャングエディットグループに所属する同種のコンポーネントのパラメーターが連動して変更されます。
7. **[Active] ボタン、またはツールボタンの [Gang Edit] ボタンをオフにすると、連動しなくなります。**

14.13. 「Properties」エリア

選択中のコンポーネントやポート、ワイヤーの設定を変更します。

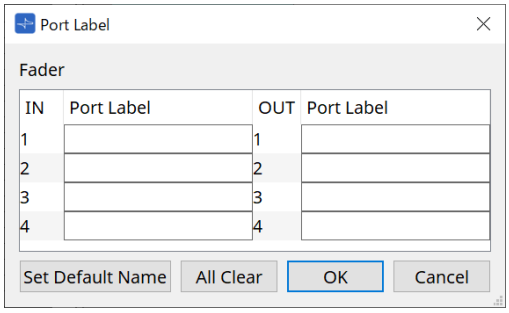


- **Component**
  "Form"のValueをクリックすると表示されるをクリックすると、コンポーネントのチャンネル数などを変更するためのダイアログが表示されます。



SlotコンポーネントでMY4-AEC、MY8-AE96Sを選択したとき、Sampling Rate Converterを編集できます。詳細は、MTX5-Dの「Sampling Rate Converter」ダイアログを参照ください。

- **Port**
  "Label"のValueをクリックすると表示されるをクリックすると、コンポーネントのすべてのポートのラベルを一斉に編集できるダイアログが表示されます。

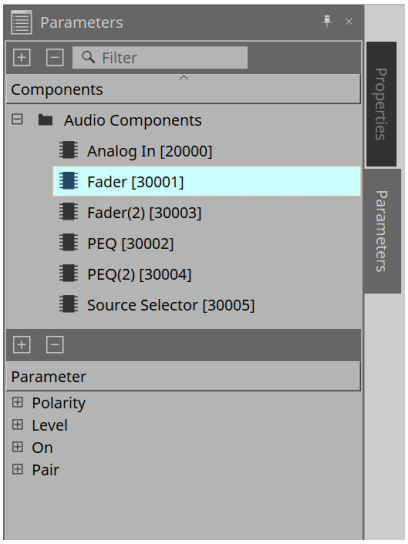


詳細は、「Port Label」ダイアログを参照ください。

14.14. 「Parameters」エリア

デザインシートで選択中のコンポーネントの情報を表示します。

上部エリアで選択中のコンポーネントのパラメーターを下部エリアで一覧表示します。
このエリアからコンポーネントやパラメーターをパラメーターセット、リモートコントロールセットアップリスト、GPIダイアログ、DCPコンポーネント、MCP1エディターにアサインできます。アサイン方法は、各画面の説明を参照ください。



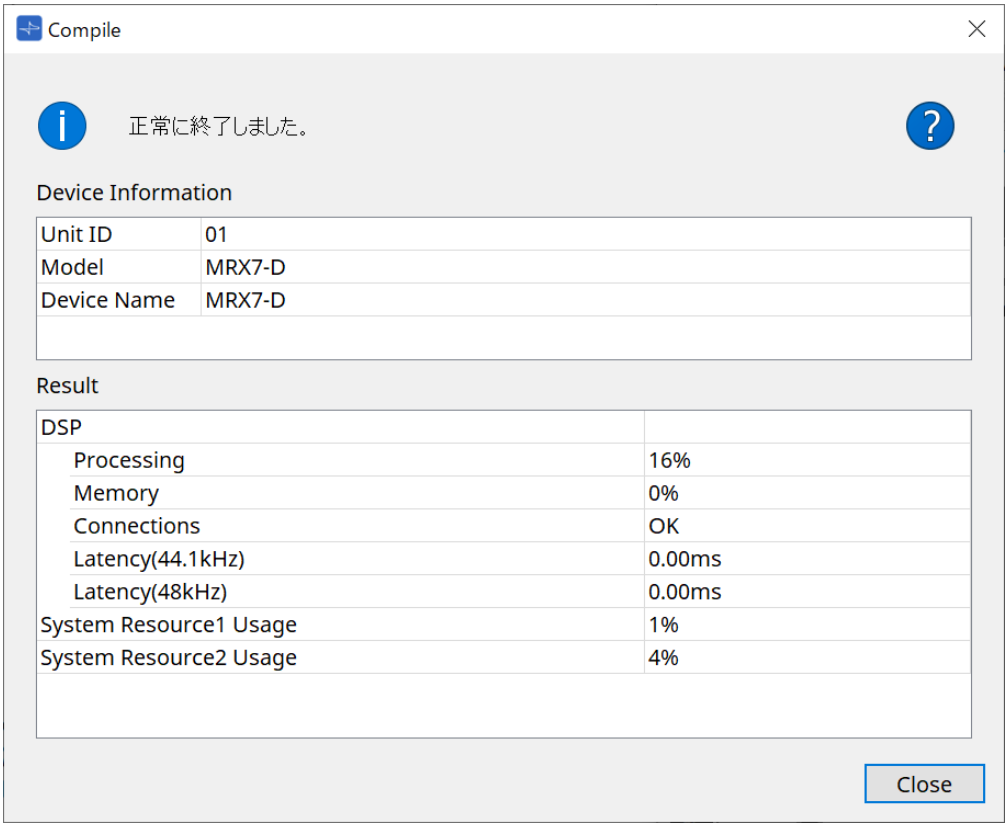
14.15. コンテキストメニュー

DMEのコンテキストメニューを参照ください。

14.16. ダイアログ

14.16.1. 「Compile」ダイアログ

機器シート内のツールボタン[Compile]をクリックし開きます。
MRX7-Dのコンポーネントの配置や結線に問題がないか解析します。また、リソースの消費量などを確認できます。



- **/メッセージ**
  コンパイルが成功したか失敗したか表示します。成功した場合は「正常に終了しました。」と表示します。コンパイルに失敗した場合は「コンパイルに失敗しました」と表示します。

- **ボタン**
  クリックすると不具合の解消方法を表示します。

- **[Result]**
  コンパイルした結果を表示します。コンパイルに成功したときだけ、MRX7-Dとオンラインにできます。
  それぞれの項目は、？をクリックしたときに開くInformationで確認してください。

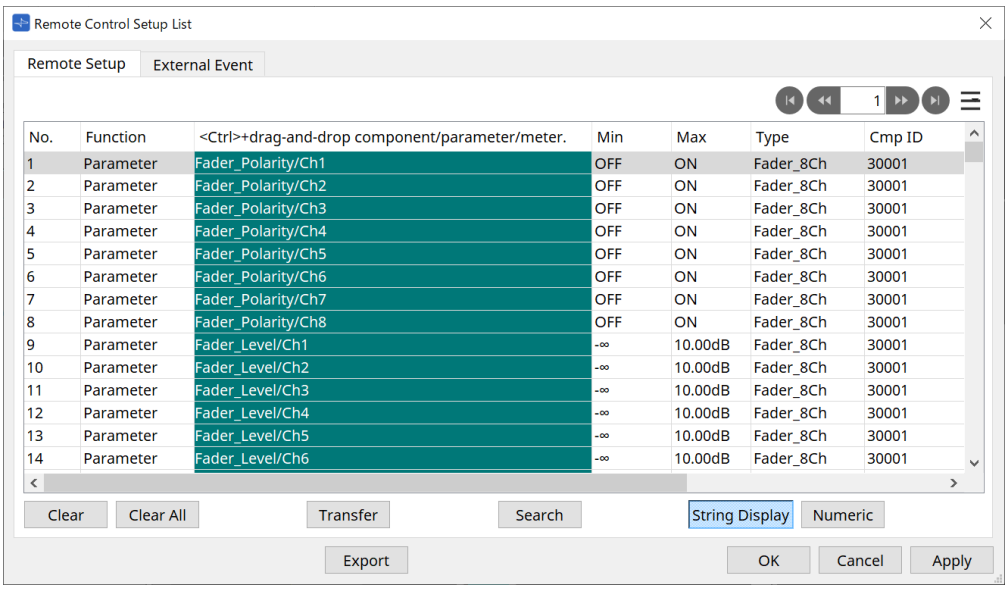
14.16.2. 「Remote Control Setup List」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[Remote Control Setup List]をクリックし開きます。

MRX7-Dは、Dante[PRIMARY]/[SECONDARY] 端子や [RS-232C] 端子を使って外部機器から制御できます。外部機器から制御またはモニタリングするには、Remote Control Setup Listにパラメーター/ メーター/ スナップショット / スナップショットグループを登録する必要があります。

外部機器は「MTX3 MTX5-D MRX7-D XMV シリーズ EXi8 EXo8 リモートコントロールプロトコル仕様書」にしたがって設定してください。

● Remote Setupタブ



リストへの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
デザインシート	< Ctrl >を押しながら、コンポーネントをリストにドラッグ＆ドロップする。
	コンポーネントを右クリックして、[Add to Remote Control List]を選択する。
コンポーネントエディター/ パラメーター設定ウィンドウ	【パラメーター】 < Ctrl >を押しながら、パラメーターをリストにドラッグ&ドロップする。 パラメーターを右クリックして、[Add to Remote Control List]を選択する。
	【コンポーネント】 パラメーター以外の場所を右クリックして[Add to Remote Control List]を選択する。
「Parameters」エリア*1	コンポーネントまたはパラメーターをリストにドラッグ&ドロップする。 コンポーネントまたはパラメーターを右クリックして、[Add to Remote Control List]を選択する。

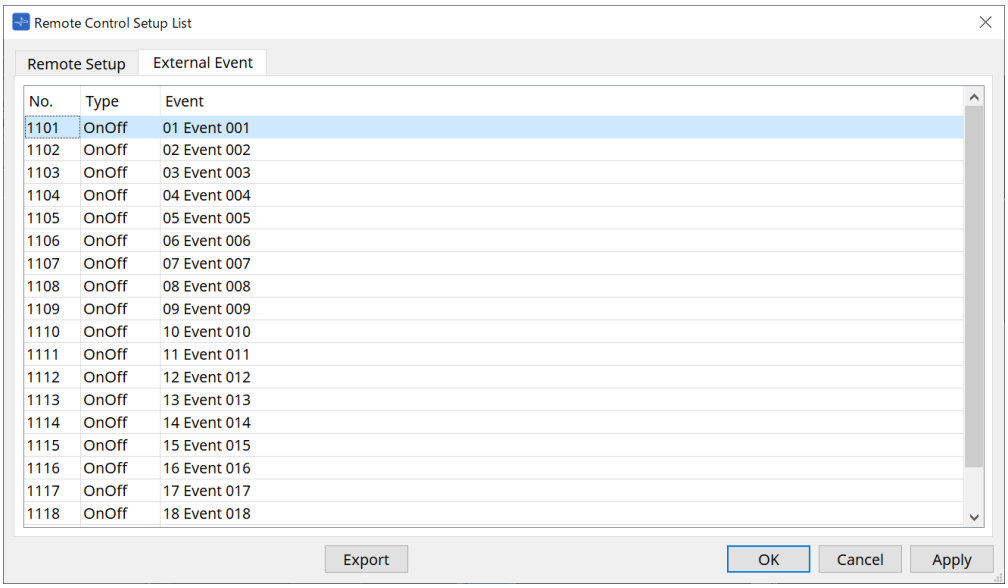
登録元	登録方法
「Parameter Sets」エリア	スナップショットをリストにドラッグ＆ドロップする。 スナップショットグループをリストにドラッグ＆ドロップする。
Parameter Link Groupエディター	< Ctrl >を押しながら、LINK Controlを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。

*1. < Shift >や< Ctrl >を併用することで複数のコンポーネントやパラメーターを同時にリストに登録できます。

- **[Function]**
  リストに登録されたアイテムの種類を表示します。
- **[< Ctrl >+drag-and-drop component/parameter/meter.]**
  リストに登録されたアイテムを表示します。
- **[Type]**
  リストに登録されたパラメーターを持つコンポーネントの種類を表示します。
- **[Cmp ID]**
  リストに登録されたパラメーターを持つコンポーネントの ID を表示します。
- **[MIN]/[MAX]**
  リストに登録されたパラメーターの下限 / 上限や選択範囲を表示します。Level 系など Mix/Max が設定可能なパラメーターの場合、クリックするとレンジを設定するダイアログが開きます。
- **Transferボタン**
  ProVisionaire Touchにファイルを送信するためのアプリケーション「File Transfer」アプリケーションを起動します。

その他の機能はDMEの「Remote Control Setup List」ダイアログを参照ください。

● External Eventタブ

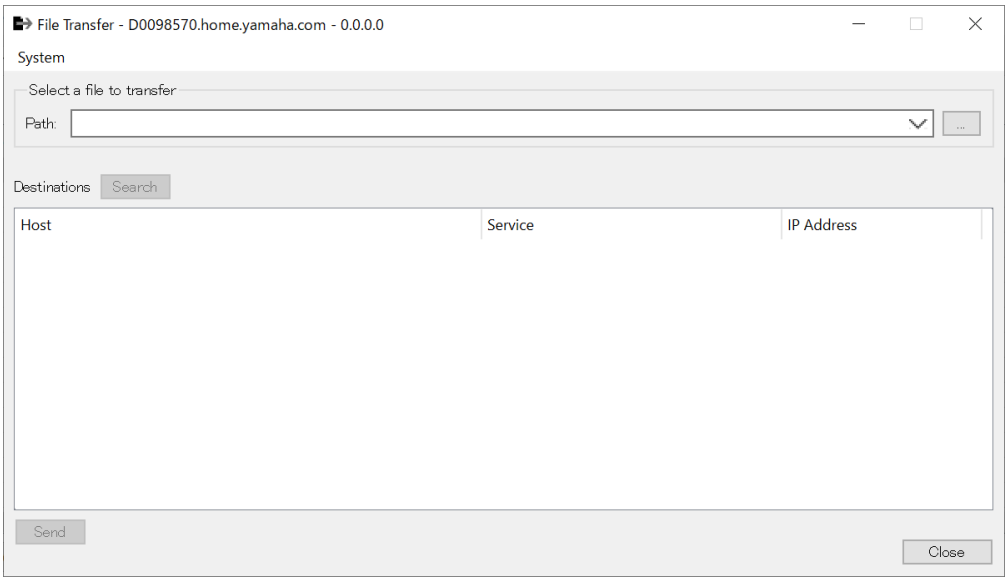


External Eventは、リストの初期状態で登録されています。

External Eventの詳細は、MTX5-D/MTX3の「External Events」ダイアログを参照ください。

14.16.3. 「File Transfer」アプリケーション

Remote Control Setup ListダイアログのTransferボタンをクリックして開きます。



エクスポートした拡張子 .rcsl ファイルや PDF ファイル、画像ファイルなどを同じネットワーク内にある ProVisionaire Touch(V1.2 以降)がインストールされたiPad に転送します。
転送をする前に ProVisionaire Touchを起動して、画面に表示されている状態にしてください。
ネットワークアダプターを選択していない場合、[Network Setup] ダイアログが呼び出されますので、ネットワークアダプターを選択してください。

ProVisionaire Touch が受信するファイルの拡張子は以下となります。
.rcsl、.pdf、.jpg、.jpeg、.bmp、.png、.pvt、.ypvt、ypvk
.pvt、.ypvt、ypvk ファイルは Provisionaire Touch のファイルフォルダに保存されます。
.rcsl は、Provisionaire Touch で MRX7-D をデバイス登録すると使用できます。

- **[System] メニュー**
  「Network Setup」コマンドから「Network Setup」ダイアログを呼び出します。
- **Select a file to transfer**
  送信するファイルを選択します。右側の ... ボタンをクリックすると「Open File」ダイアログが開いて、ファイルを選択できます。
- **Destinations**
  送信先の iPad を選択します。送信先の iPad が表示されない場合は、[Search] ボタンを押してネットワーク内を検索してください。[Search] ボタンは送信するファイルが選択されている状態で有効になります。
- **[Send] ボタン**
  選択した iPad に選択したファイルを送信します。
- **[Close] ボタン**
  「File Transfer」アプリケーションを終了します。

14.16.4. 「SD Card File Manager」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[SD Card File Manager]をクリックし開きます。
DMEの「SD Card File Manager」ダイアログを参照ください。

14.16.5. 「Scheduler」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[Scheduler]をクリックし開きます。
MTX5-D/MTX3の「Scheduler」ダイアログを参照ください。

14.16.6. 「GPI」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[GPI]をクリックし開きます。
DMEの「GPI」ダイアログを参照ください。

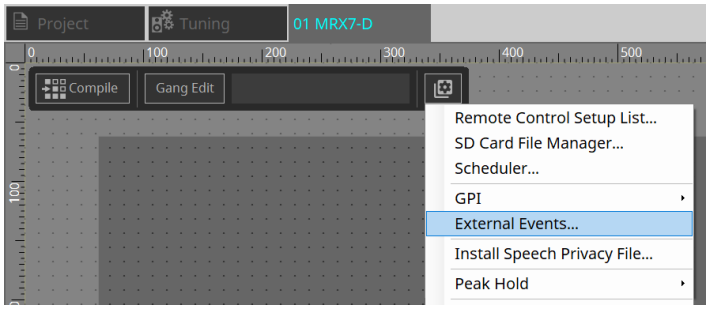
MRX7-Dには、コントロールレイヤーでのGPI設定はありません。
MRX7-DにはControl Type : Direct Parameter Valueの設定はありません。

パラメーターやスナップショット、スナップショットグループ、プリセットの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
「Parameter Sets」エリア	スナップショット、スナップショットグループを緑色の領域へドラッグ＆ドロップする。
「Presets」エリア	プリセットを緑色の領域へドラッグ＆ドロップする。
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。
「Parameters」エリア	パラメーターを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。
Parameter Link Groupエディター	< Ctrl >を押しながら、LINK Controlを緑色の領域へドラッグ&ドロップする。

14.16.7. 「External Events」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[External Events]をクリックし開きます。

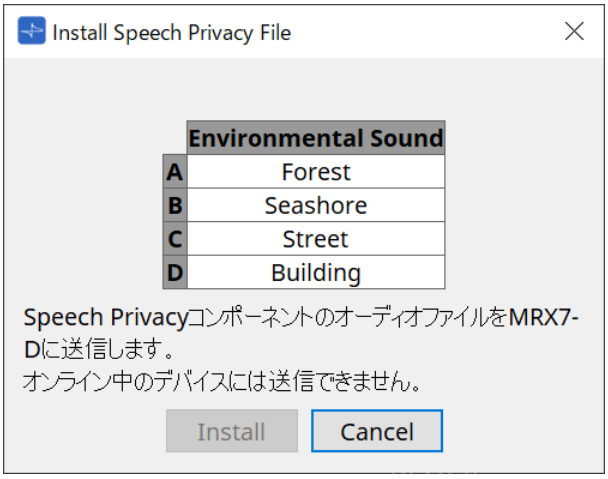


MTX5-D/MTX3の「External Events」ダイアログを参照ください。

14.16.8. 「Install Speech Privacy File」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[Install Speech Privacy File]をクリックし開きます。
MRX7-D に Speech Privacy コンポーネントに関するファイルをインストールします。

インストールが完了すると、MRX7-D が再起動します。



- **[Install] ボタン**
  MRX7-Dにファイルのインストールを開始します。
- **[Cancel] ボタン**
  ファイルのインストールをしないで、ダイアログを閉じます。

14.17. コンポーネントエディター

ここではMRX7-D固有のコンポーネントエディターについて説明します。
その他のDMEと共通のコンポーネントの詳細は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

MRX7-D コンポーネント一覧

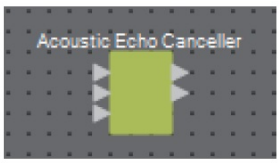
「Components」エリア フォルダ	コンポーネント名	リンク
---	Acoustic Echo Canceller	「Acoustic Echo Canceller」コンポーネントエディター
---	Ambient Noise Compensator	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Audio Detector	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Auto Gain Control	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
Combiner	Room Combiner Room Combiner plus Automixer	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Delay	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
Dynamics	Compressor Gate Ducker Limiter Paging Ducker	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Effect	「Effect」コンポーネントエディター
EQ	GEQ PEQ	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Fader	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
Feedback Suppressor	Notch FBS Pitch Shift FBS	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
Filter	BPF HPF LPF	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」

「Components」エリア フォルダ	コンポーネント名	リンク
Input/Output	Analog In	「Analog In」コンポーネントエディター
	Dante In	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
	Stereo In	---
	YDIF In	---
	Analog Out	「Analog Out」コンポーネントエディター
	Dante Out	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
	YDIF Out	---
	SD Card	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
	Slot	「Slot In」コンポーネントエディター 「Slot Out」コンポーネントエディター
---	Meter	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
Mixer	Dalay Matrix Dugan Automixer Matrix Mixer Summer	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Oscillator	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Paging	「Paging(ページング)の設定の流れ」
---	Polarity	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Router	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Source Selector	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Speaker Processor	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
---	Speech Privacy	「Speech Privacy」コンポーネントエディター

14.17.1. 「Acoustic Echo Canceller」コンポーネントエディター

Acoustic Echo Canceller(AEC) とは、遠隔会議時に問題となるスピーカーからの廻り込みや壁の反射によって発生するエコー(アコースティックエコー) や空調などの恒常的なノイズを除去する機能です。相手側に、このエコーやノイズを取り除いたクリアな音声を届けることで、遠隔会議でのスムーズな会話が実現できます。
なお、相手側で発生するアコースティックエコーを除去するには、相手側にもアコースティックエコーキャンセラー機能を搭載したシステムを設置する必要があります。
MRX7-D では1 台あたり8 チャンネル分までのAEC を搭載できます。

AEC コンポーネントが配置されている信号経路は以下の遅延量が加算されます。
ワードクロックが44.1kHz の場合：26.17msec
ワードクロックが48kHz の場合：24.02msec



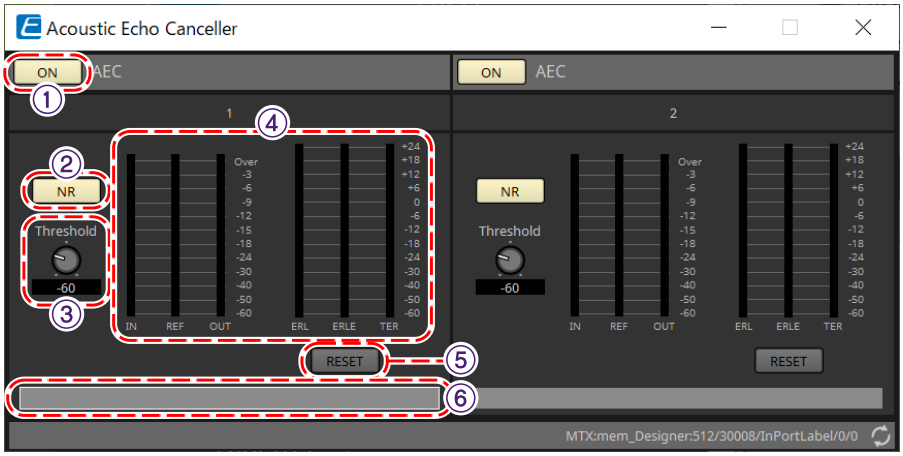
AEC の入力は上から以下のようになっています。

- **MicIn 1**：マイクからの入力
- **MicIn 2**：マイクからの入力
- **Reference**：遠隔地に送りたくない信号(エコーとみなし、除去したい信号) の入力(例:Codec In)

MicIn 1 とMicIn 2 は同じ会議室のマイクからの入力にしてください。

■「AEC」エディター

AEC に関する設定をします。画面の左側はMicIn 1 に接続したマイクに関する設定、画面の右側はMicIn 2 に接続したマイクに関する設定をします。



① AEC [ON] ボタン
AEC の機能を有効にするか無効にするかを切り替えます。

② [NR] ボタン
近接地にあるプロジェクターや空調などの恒常的なノイズの除去を行うノイズリダクション機能のオン/ オフを切り替えます。通常はオンにすることをおすすめします。

③ [THRESHOLD] ノブ
ノイズリダクション行う際、Threshold レベルを超えたノイズを、Threshold として設定したレベルまで減衰させます。

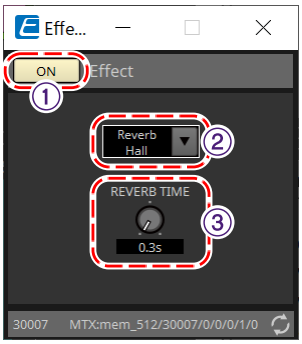
④ レベルメーター
入出力やアコースティックエコーに関する情報を表示します。

- **[IN] レベルメーター**
  マイクからの入力レベルを表示します。
- **[REF] レベルメーター**
  Reference からの入力レベルを表示します。
- **[OUT] レベルメーター**
  AEC からの出力レベルを表示します。
- **[ERL] レベルメーター**
  "Reference 入力" と"AEC が推定したマイク入力に含まれるエコー量" の比を表示します。
  ERL(Echo Return Loss) が0 dB から－ 16 dB 程度になるのが、良好な設置環境の目安です。0 dB より大きいとマイクの入力レベルが大きいか、マイクとスピーカーが近い可能性があります。－ 16 dB より小さいとマイクの入力レベルが小さい可能性があります。
- **[ERLE] レベルメーター**
  AEC が学習の結果、マイク入力から除去したアコースティックエコーの量をdB で表示します。エコーが正しく除去できている場合はマイナスの値を示します。
- **[TER] レベルメーター**
  最終的に除去したアコースティックエコーの量をdB で表示します。

⑤ [RESET] ボタン
クリックすると、AEC が学習した情報をリセットします。

⑥ ポートテキストボックス
ポートの名称を表示します。ダブルクリックすると名称を変更できます。

14.17.2. 「Effect」コンポーネントエディター



① EFFECT [ON] ボタン
エフェクトの機能を有効にするか無効にするか切り替えます。

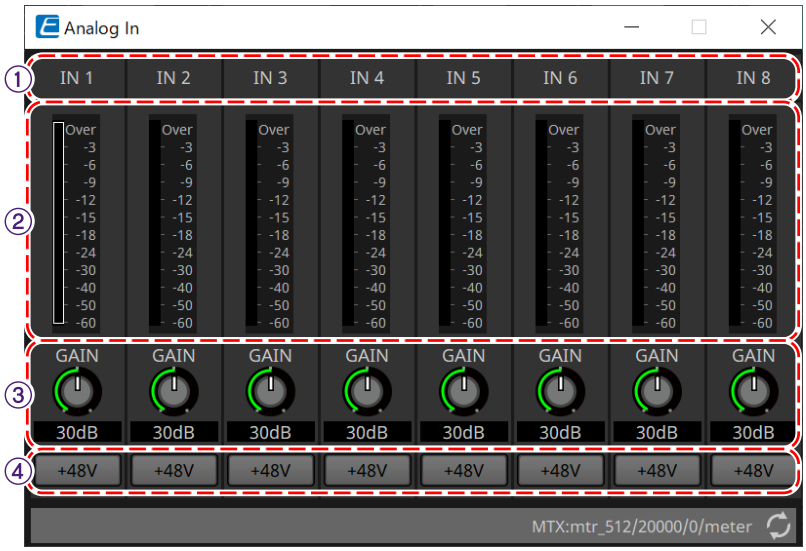
② エフェクトタイプリストボックス
エフェクトのタイプを選択します。選択できるタイプは以下の4 種類です。

- **Reverb Hall**
  コンサートホールなどの広い空間をシミュレートしたリバーブです。
- **Reverb Stage**
  広いステージをシミュレートしたリバーブです。
- **Karaoke Echo**
  カラオケでの使用を想定したマイクエコーです。
- **Vocal Echo**
  ステージを想定したボーカル専用のエコーです。

③ エフェクトパラメーターノブ
エフェクトのパラメーターを調整します。エフェクトタイプがリバーブのときは[REVERB TIME] に、エコーのときは「DELAY TIME」になります。

14.17.3. 「Analog In」コンポーネントエディター

[INPUT] 端子のHA(ヘッドアンプ）に関する設定および入力された音声信号のレベル表示をします。



① チャンネルインデックス
アナログ入力端子番号を表示します。

② レベルメーター
アナログ入力レベルを表示します。

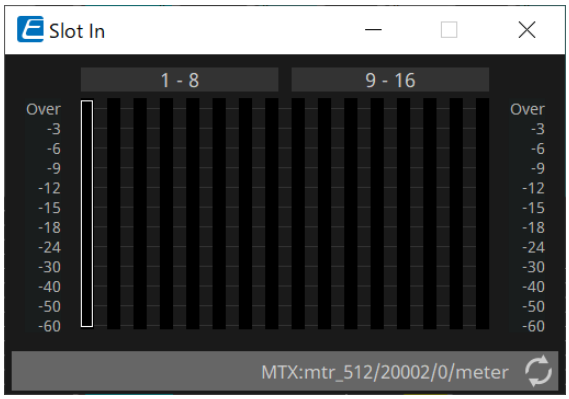
③ [GAIN] ノブ
HA(ヘッドアンプ)のアナログゲインを調整します。

④ [+48V] ボタン
HAのファンタム電源(+48V)のオン/オフを切り替えます。

ご注意
ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。
ファンタム電源をオンにする場合、機器本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。
・[INPUT]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
・ボタンをオンにしたまま、[INPUT]端子でケーブルの抜き差しをしない。
・ファンタム電源のオン/オフは、出力レベルを最小にした状態で行う。
+48V Activeスイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

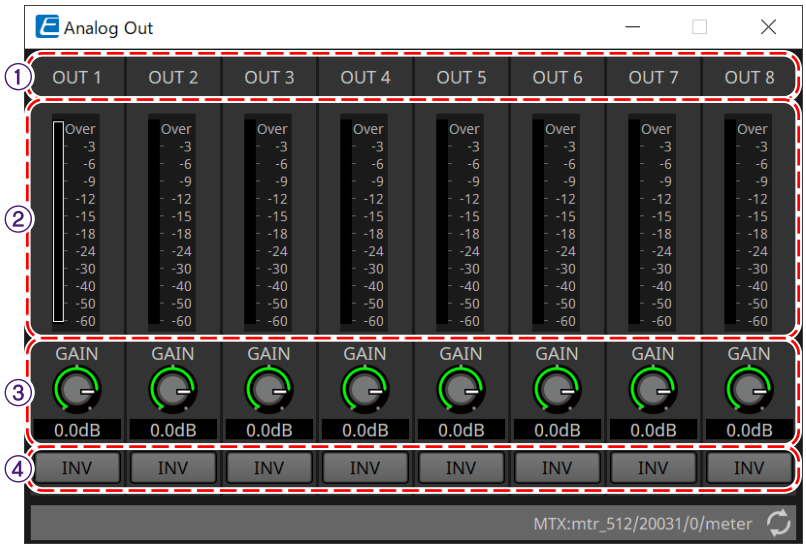
14.17.4. 「Slot In」コンポーネントエディター

Mini-YGDAIカードに入力された音声信号のレベル表示をします。



14.17.5. 「Analog Out」コンポーネントエディター

[OUTPUT] 端子の出力に関する設定および出力する音声信号のレベル表示をします。



① チャンネルインデックス
アナログ出力端子番号を表示します。

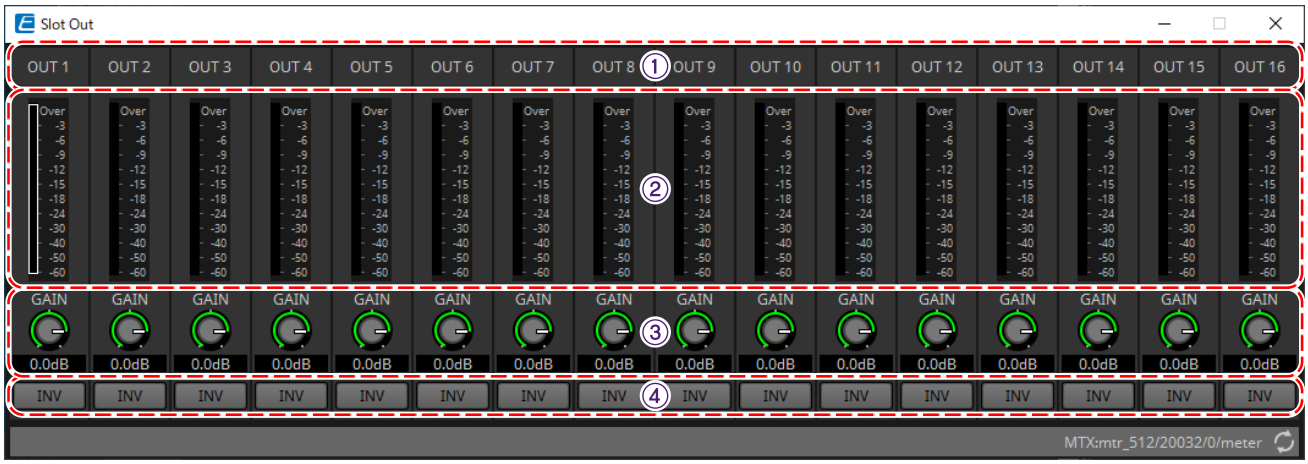
② レベルメーター
アナログ出力レベルを表示します。

③ [GAIN]ノブ
出力ゲインを調整します。

④ [INV]ボタン
出力信号の極性を切り替えます。

14.17.6. 「Slot Out」コンポーネントエディター

Mini-YGDAI カードの出力に関する設定および出力する音声信号のレベル表示をします。



① チャンネルインデックス
出力端子番号を表示します。

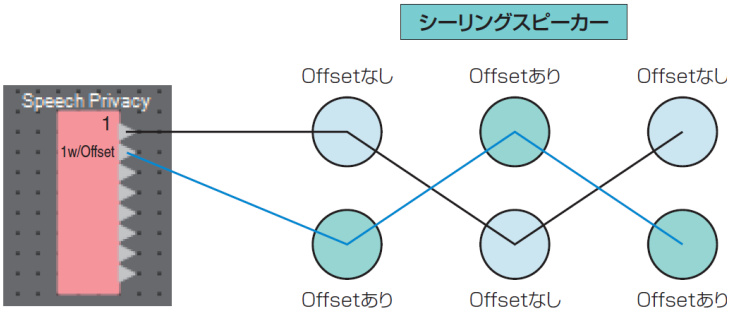
② レベルメーター
出力レベルを表示します。

③ [GAIN]ノブ
出力ゲインを調整します。

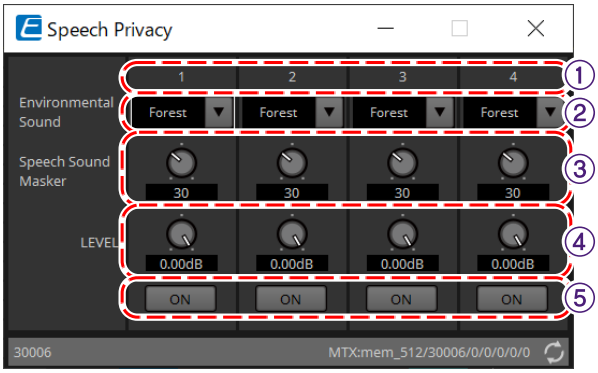
④ [INV]ボタン
出力信号の極性を切り替えます。

14.17.7. 「Speech Privacy」コンポーネントエディター

環境音と撹乱音をミックスして、特定の場所の会話を周囲に聞き取りにくくさせる機能です。
MRX7-Dでは1 台につき1つのみ搭載できます。
ミックスした信号は1系統に付き2つ出力されますが、オフセットなしと再生ポイントをオフセットさせたオフセットありの2つを出力します。それぞれを出力するスピーカーを交互に配置することで、音声が重なり合う部分での位相のずれによる不快感を軽減します。
MRX7-Dとオンラインにする前に、[Tools] ボタンにある[Install Speech Privacy File] を選択して表示される「Install Speech Privacy File」ダイアログで、MRX7-Dにファイルをインストールしてください。



「Speech Privacy」コンポーネントエディターで環境音と撹乱音に関する設定をします。



① 系統インデックス
設定する系統の番号が表示されます。

② [Environmental Sound] リストボックス
使用する環境音を設定します。出力する環境に合わせて選択してください。

- **Forest**：森の音
- **Seashore**：波の音
- **Street**：街の雑踏音
- **Building**：空調音

③ [Speech Sound Masker] ノブ
出力する音声に撹乱音をどのくらいの割合で入れるか設定します。単位は% です。

④ [LEVEL] ノブ
環境音と撹乱音をミックスした信号のレベルを設定します。

⑤ [ON] ボタン
各系統のミックスされた信号をミュートするかしないかを切り替えます。

14.18. アラート一覧

MTX5-D/MTX3のアラート一覧を参照ください。

14.19. Paging(ページング)の設定の流れ

MRX7-Dの場合、PGM1を使用するには、最初に「Components」エリアからPagingコンポーネントを機器シートに配置してください。
設定方法は、MTX5-Dの「Paging(ページング)の設定の流れ」を参照ください。

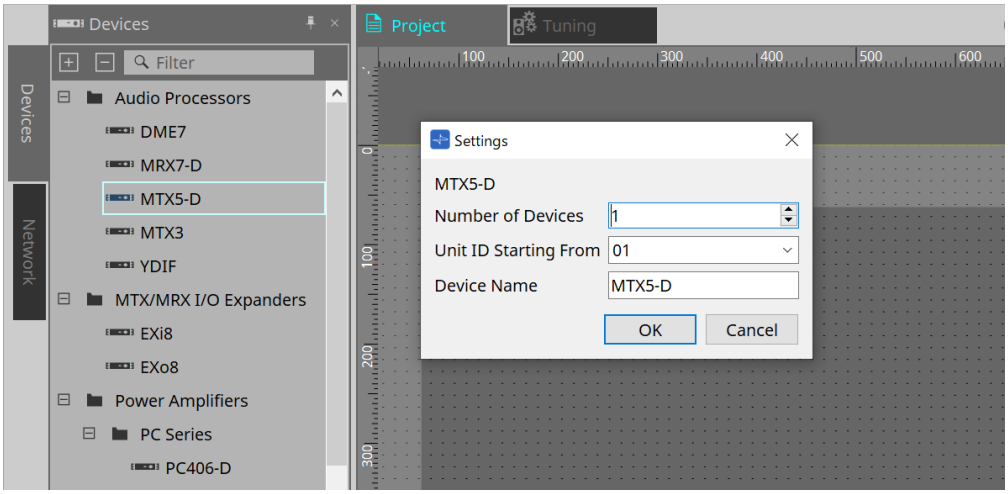
15. オーディオプロセッサー MTX5-D/MTX3

15.1. 概要

MTX3/MTX5-Dは店舗や宴会場などの中小規模設備に適したプロセッサーです。
詳細は、機器の取扱説明書を参照ください。

15.2. 「Project」シート

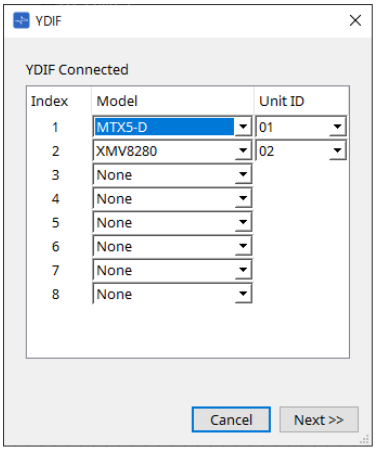
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。

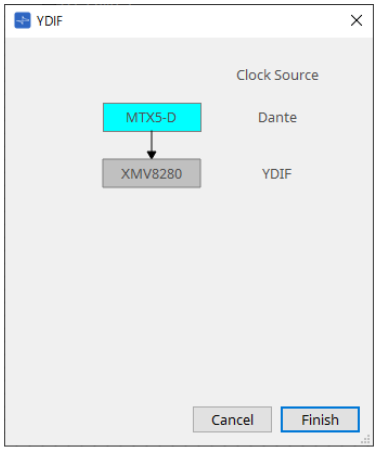


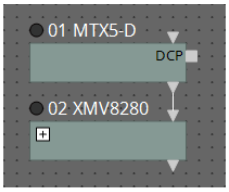
- **Number of Devices**
  シートに配置するMTXの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

15.2.1. 「Devices」エリア

“YDIF”をプロジェクトに追加すると、複数の機器をYDIF端子で接続して使用する場合の接続例を提示します。自動的にワードクロックの設定も行います。

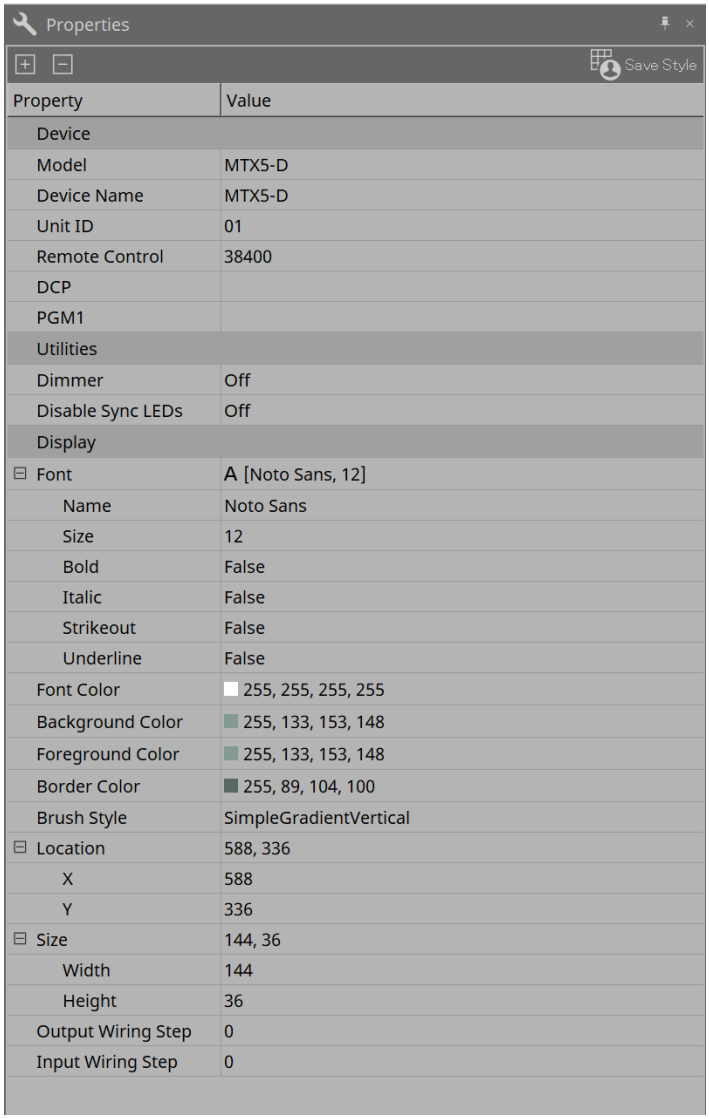




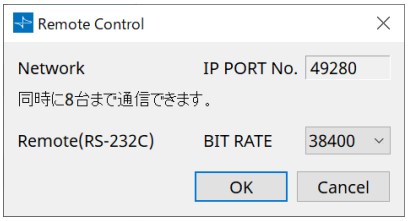


15.2.2. 「Properties」エリア

MTXの情報を表示/編集します。



- **Remote Control**
  外部コントローラーを接続する場合のポート番号の確認や、RS-232Cに外部コントローラーを接続する場合の設定をします。
  「Remote Control」ダイアログは、プロパティのValue欄をクリックすると表示される▭から表示します。



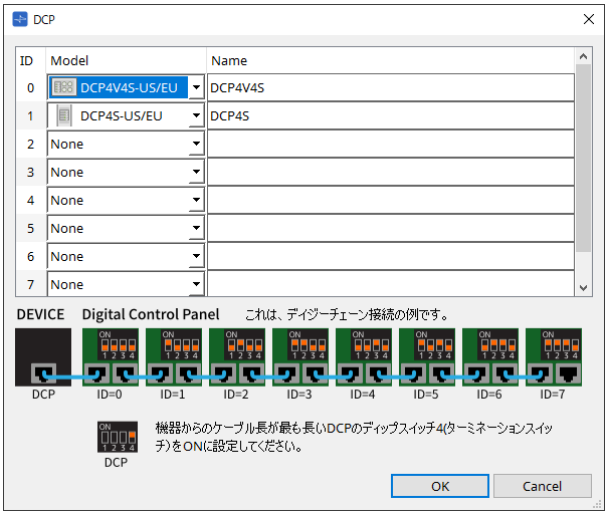
  - **[Network IP PORT No.]**
    MTX3のNETWORK 端子または MTX5-Dの Dante[PRIMARY]/[SECONDARY] 端子のポート番号を表示します。
    端子には最大8台までの外部コントローラーを接続できます。
  - **[Remote(RS-232C) BIT RATE] リストボックス**
    RS-232Cの通信速度を選択します。「38400」bpsと「115200」bpsが選択できます。

RS-232Cには1台の外部コントローラーを接続できます。

- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

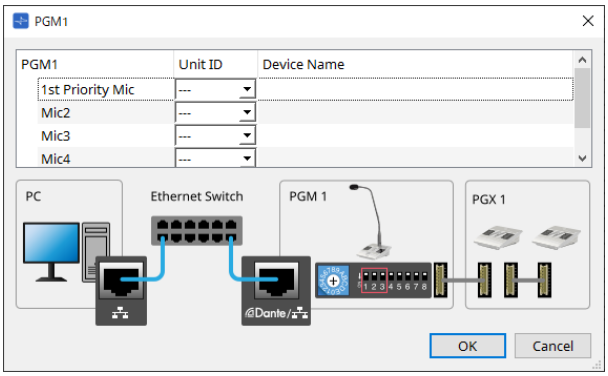
- **DCP**

  DCPポートに接続するDCPを選択してください。
  「DCP」ダイアログは、プロパティのValue欄をクリックすると表示される▭から表示します。
  詳細は、「DCP」の項目を参照ください。



- **PGM1 (MTX5-Dのみ)**

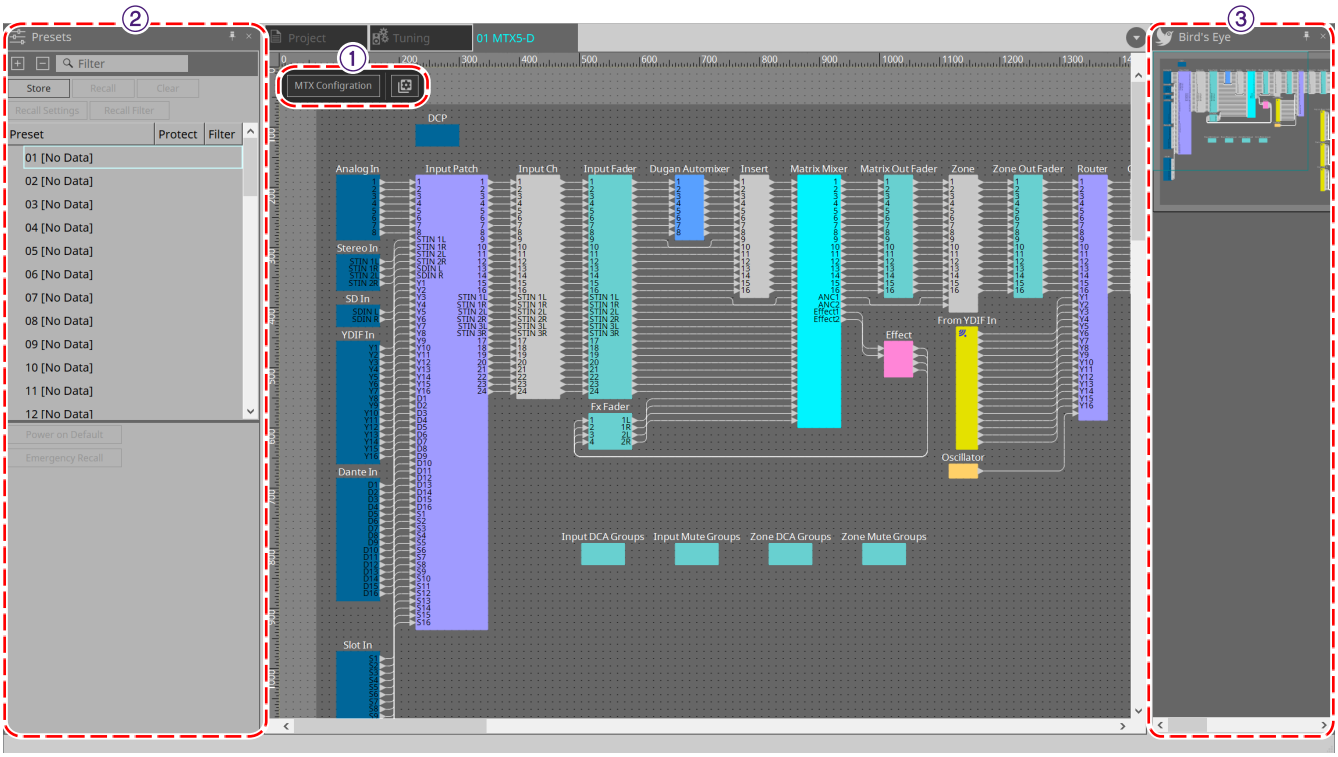
  MTX5-DをコントロールするPGM1のUnit IDを指定してください。
  「PGM1」ダイアログは、プロパティのValue欄をクリックすると表示される▭から表示します。
  詳細は、「Paging(ページング)の設定の流れ」を参照してください。



PGM1の設定データはMTX5-Dが保持していますので、ProVisionaire DesignでPGM1を発見できていなくても設定に問題はありません。
PGM1のファームアップデートやIPアドレスの変更を行う場合には、Bonjour Print Serivceをインストールして、ProVisionaire Designが機器を発見できるようにしてください。

15.3. 機器シートの画面構成

MTXの機器シートを開くと、「Presets」エリアと機器シート、「Bird's Eyeビュー」が表示されます。



① ツールボタン
MTXでよく使うコマンドのショートカットボタンです。

② 「Presets」エリア
複数のパラメーターの設定をプリセットとしてストアできます。

③ Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

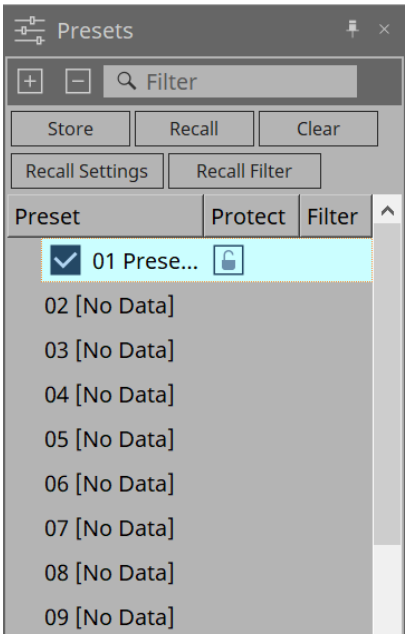
15.4. ツールボタン

MTXでよく使うコマンドのショートカットボタンです。

ボタン	コマンド	概要
MTX Configration	[MTX Configuration]	MTXの入力ポートや出力チャンネル、マトリクスバスなど、入出力の設定を機器ごとに行います。Project画面のとき、このコマンドは選択できません。
	[Tools]	[SD Card File Manager] SD Cardコンポーネントで再生するファイルを登録します。 [Scheduler] あらかじめ設定しておいた日時にプリセットを切り替えたり、SDメモリーカードに保存してある曲や効果音を再生できます。 [GPI] GPI入出力を使うことによりカスタムメイドのコントローラーや外部機器からMTXシリーズをリモートコントロールできます。 [External Events] MTXが出力するコマンドの設定を行います。

15.5. 「Presets」エリア

このエリアでは、パラメーターの値をプリセットとしてストア（保存）することができます。プリセットをリコールするとパラメーターを現在値（カレントパラメーター)として展開することができます。プリセットは、機器のフロントパネルでリコールすることもできます。



- **[Store]ボタン**
  選択している場所にプリセットをストアします。
- **[Recall]ボタン**
  選択されているプリセットをリコールします。
- **[Clear]ボタン**
  選択されているプリセットをクリアします。
- **[Recall settings]ボタン**
  「Recall Settings」ダイアログを開きます。
- **[Recall Filter]ボタン**
  「Recall Filter」ダイアログを開きます。
- **プリセットリスト**
  プリセットを一覧表示します。最大50個までのプリセットがストアできます。
  - **「Preset」**
    プリセットの番号と名前を表示します。
    ストアされているプリセットをダブルクリックすると、名前が編集できるようになります。
    空のプリセットは[No Data]と表示されます。
  - **「Protect」**
    鍵のアイコンをクリックして、アイコンをに変更すると、プロテクトがかかり、編集できないようになります。
    プロテクトがかかった状態でアイコンをクリックすると、プロテクトを解除します。

複数の機器のプリセットを同時にリコールするにはボタンをクリックして、「Linked Presets Manager」ダイアログで設定をしてください。

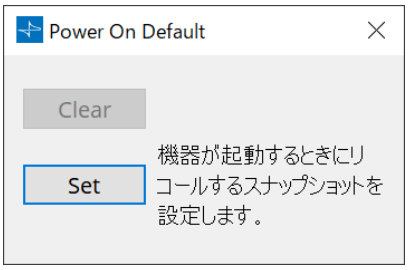
- **Enable Scheduler**
  オンにするとプリセットをリコールしたとき、スケジューラー機能が有効になります。
  アイコンをクリックしてオン/オフを切り替えます。

> スケジューラー機能を無効にした状態で、イベント発生時間になると本体の[SCHEDULER]インジケーターが速く点滅します。

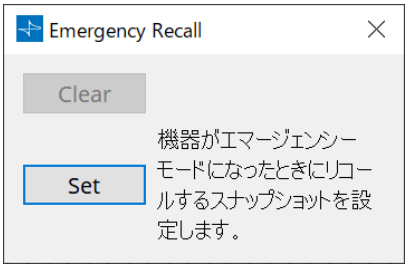
- **Filter**
  Recall Filterダイアログで、リコールされない部分はひとつでも設定されていると P と表示されます。

15.5.1. Recall

- **Power on Default**
  機器本体の電源をオンにしたときにリコールされるプリセットを設定します。「Power on Default」ダイアログでSetボタンを押すと、選択中のプリセットがセットされます。
  プリセットがセットされていないときは、前回電源をオフにしたときの状態で起動します。解除するときは、「Power on Default」ダイアログでClearを選択してください。



- **Emergency Recall**
  MTXがEMG(Emergency)信号を外部機器から受信したときや、+24V対応の[GPI IN]端子(IN 16)への入力が2.5V未満になったときにリコールされるプリセットを設定します。
  設定/解除方法は、Power on Defaultと同様です。



15.6. コンテキストメニュー

各エリアを右クリックして表示されるコンテキストメニューの内容は以下の通りです。

15.6.1. デザインシート

オブジェクトがない場所で機器シートを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。

15.6.2. MTX内のコンポーネント/コンポーネントエディター

コンポーネントの操作子以外の場所やコンポーネントを右クリックすると、有無がありますが、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Open Component Editor]	コンポーネントエディターを開きます。
[Copy]	コンポーネントエディターのパラメーター設定をコピーします。
[Paste Parameters]	コピーしたコンポーネントエディターのパラメーター設定を反映します。
[Select Mini-YGDAI Card]	「Slot In」または「Slot Out」コンポーネントエディターのみ表示されます。Mini-YDGAI Cardを選択する「Slot」ダイアログを開きます。
[Sampling Rate Converter]	「Slot」ダイアログでMY4-AECまたはMY8-AE96Sを選択すると表示されます。MY4-AECまたはMY8-AE96SのSRC(Sampling Rate Converter)を設定するダイアログを開きます。

15.7. ダイアログ

15.7.1. 「MTX Configuration」ダイアログ

機器シート内のツールボタン[MTX Configuration]をクリックし開きます。
MTXの入力ポートや出力チャンネル、マトリクスバスなど、入出力の設定を行います。

これらの設定はプリセットに含まれないため、Preset Recall機能での変更はできません。

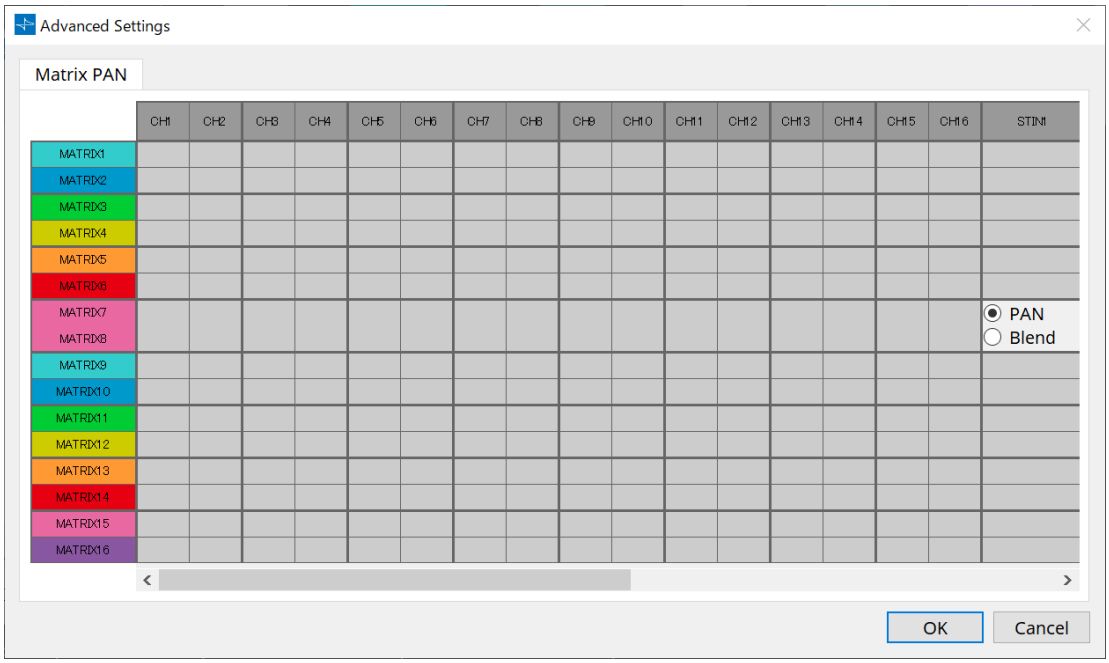
- **[INPUT] タブ**
  入力に関する設定をします。
  - **INPUT PORT SETUP**
    ステレオ入力ポートへの入力について設定します。
    STEREO……. ステレオ信号のまま入力します。
    SUM……. LおよびRの入力を足し合わせて1つのチャンネルにします。入力パッチへの入力が1本になります。
  - **INPUT CHANNEL SETUP**
    入力チャンネルについて設定します。
    MONO x2……. 入力チャンネルをモノラル2 チャンネルとして扱います。
    STEREO…… 入力チャンネルを1 組のステレオチャンネルとして扱います。
- **[OUTPUT] タブ**
  出力に関する設定をします。
  - **MATRIX BUS SETUP**
    マトリクスバスについて設定します。
    MONO x2……. 入力チャンネルをモノラル2チャンネルとして扱います。
    STEREO……. 入力チャンネルを1 組のステレオチャンネルとして扱います。
    MTXシステムのYDIFモードがCascadeモードの場合は、MTXシステム内のすべてのMTXでパラメーターが共通となります。
  - **OUTPUT CHANNEL SETUP**
    出力チャンネルのスピーカープロセッサーのタイプ(1WAYx2 または2WAY) を設定します。ここ

での設定は、「Output CH」コンポーネントエディターのRoom EQとSpeaker Processorに影響します。

- **[Advanced Settings] ボタン**
  「Advanced Settings」ダイアログが開きます。
- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

「Advanced Settings」ダイアログ

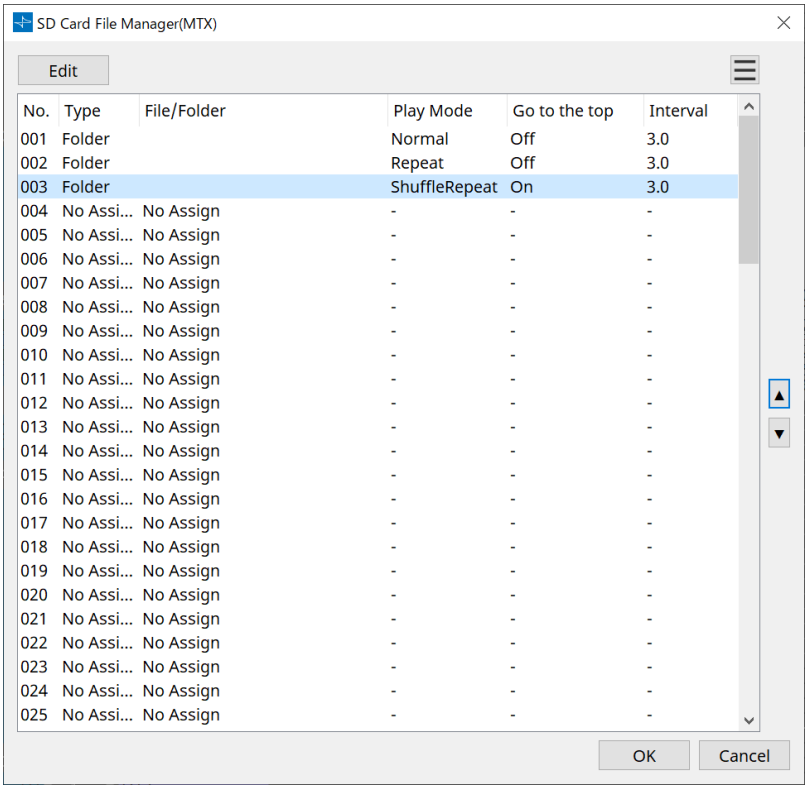
Matirx Mixerコンポーネントのパンのモード(PANまたはBlend)を設定します。[MATRIX BUS SETUP]の設定がSTEREOのチャンネルのみ設定できます。
[Blend]に設定すると、ステレオ音声の右チャンネルおよび左チャンネルをステレオ感を残したままミックスします。たとえば古いステレオ録音の音声の場合、右と左でまったく違った音声が録音されている場合があり、それをステレオBGMシステムで流すと場所によって音楽が違って聴こえます。「Blend」はそれを和らげる効果があります。



- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

15.7.2. 「SD Card File Manager」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[SD Card File Manager]をクリックし開きます。
SD Cardコンポーネントで再生するファイルを登録します。
このリストは、DCPやGPIなどでファイル再生する際に使用します。
詳細はDME7の項目を参照ください。



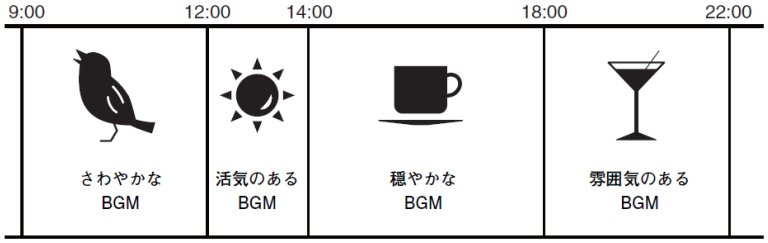
15.7.3. 「Scheduler」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[Scheduler]をクリックし開きます。
あらかじめ設定しておいた日時にプリセットを切り替えたり、SDメモリーカードに保存してある曲や効果音を再生できます。これらの個々の設定を「イベント(Event)」と呼びます。

＜使用例1 ＞

時間帯によってBGM を切り替える

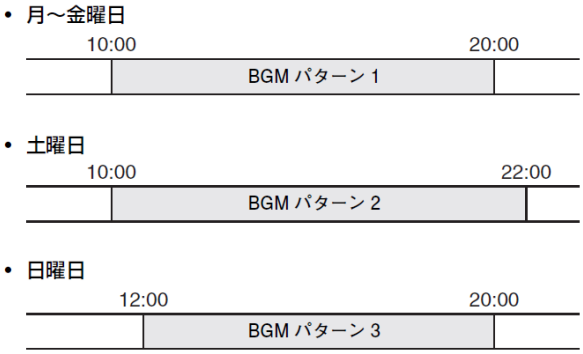
商業施設などで、時間帯によってBGM の種類を変えることができます。



＜使用例2 ＞

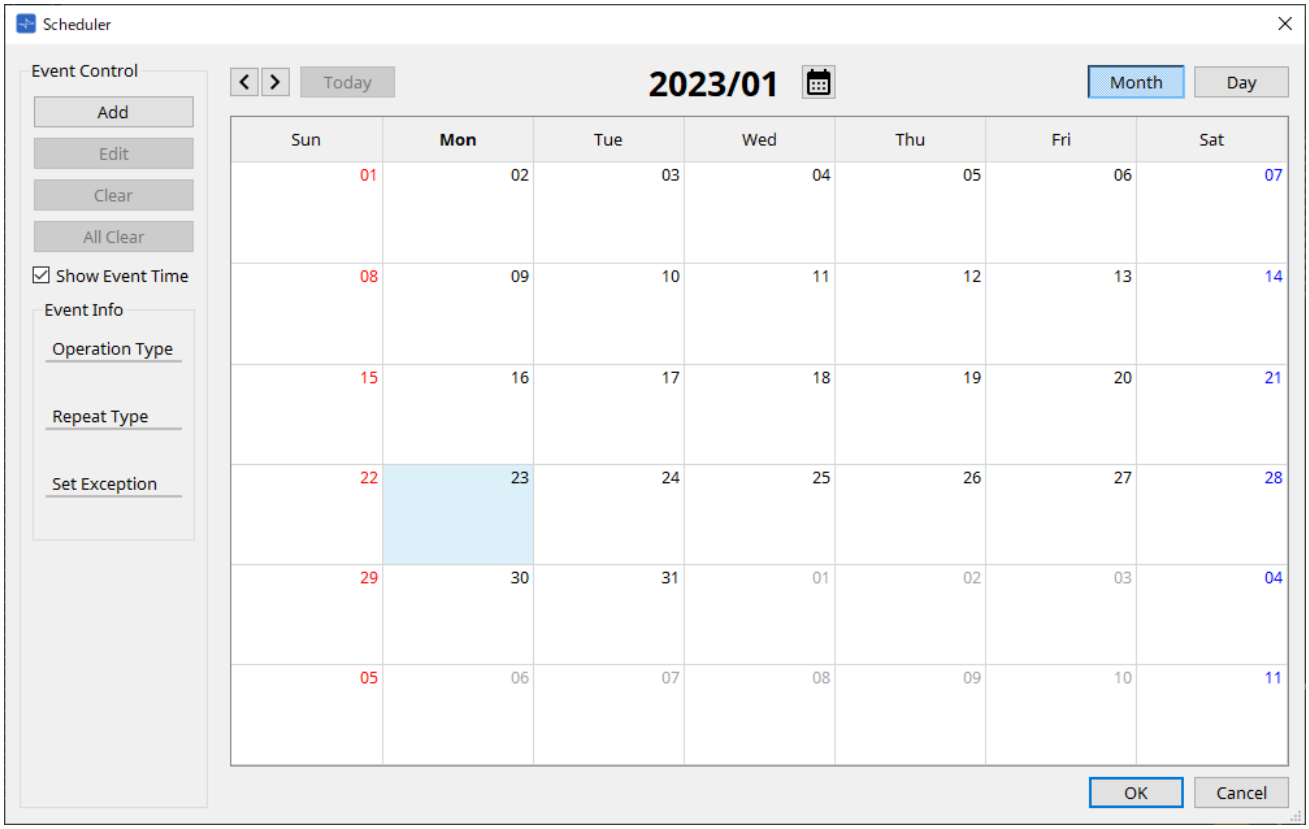
曜日によってBGMを再生する時間帯を切り替える

商業施設などで、曜日や営業時間によってBGM のパターンや再生する時間帯を変えることができます。



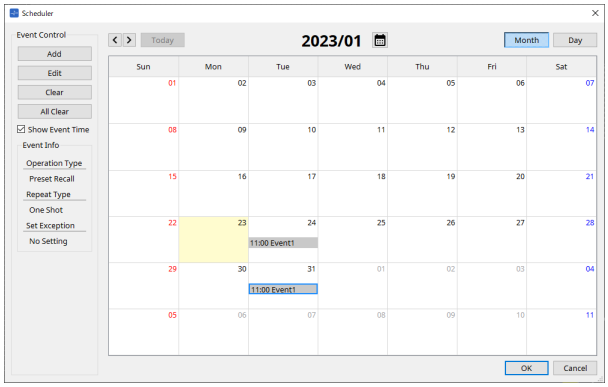
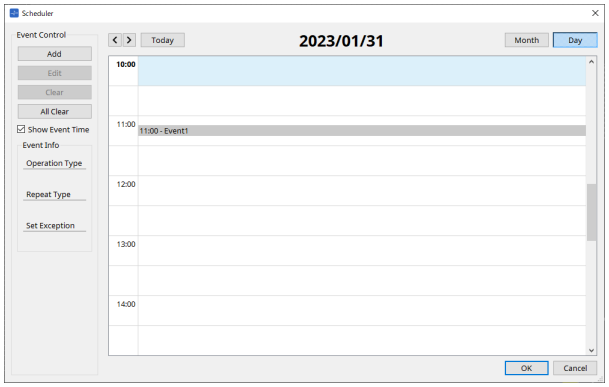
このほか、クリスマスなどの季節物のBGMを流したり、休業日に再生を止めたりなどの例外パターンも設定できます。

- イベントが設定されていると、MTXのフロントパネルの[SCHEDULER]インジケーターが黄色に点灯します。イベントの1分前になると、インジケーターが点滅します。
- 同時に複数のイベントが設定されている場合、1秒ずつの間をおいてすべてのイベントを起動します。この間、MTXのフロントパネルの[SCHEDULER]インジケーターは点滅し続けます。
- 「Daylight Saving Time」ダイアログで[Enable Daylight Saving Time]チェックボックスをオンに設定しているとき、サマータイム開始時刻または終了時刻の前後2時間に設定されたイベントは、正しく実行されません。



イベントは50 イベント、例外は50 パターンまで登録できます。

- **[Month] ボタン/[Day] ボタン**
  カレンダーを月表示または日表示に切り替えます。

月表示	日表示
	

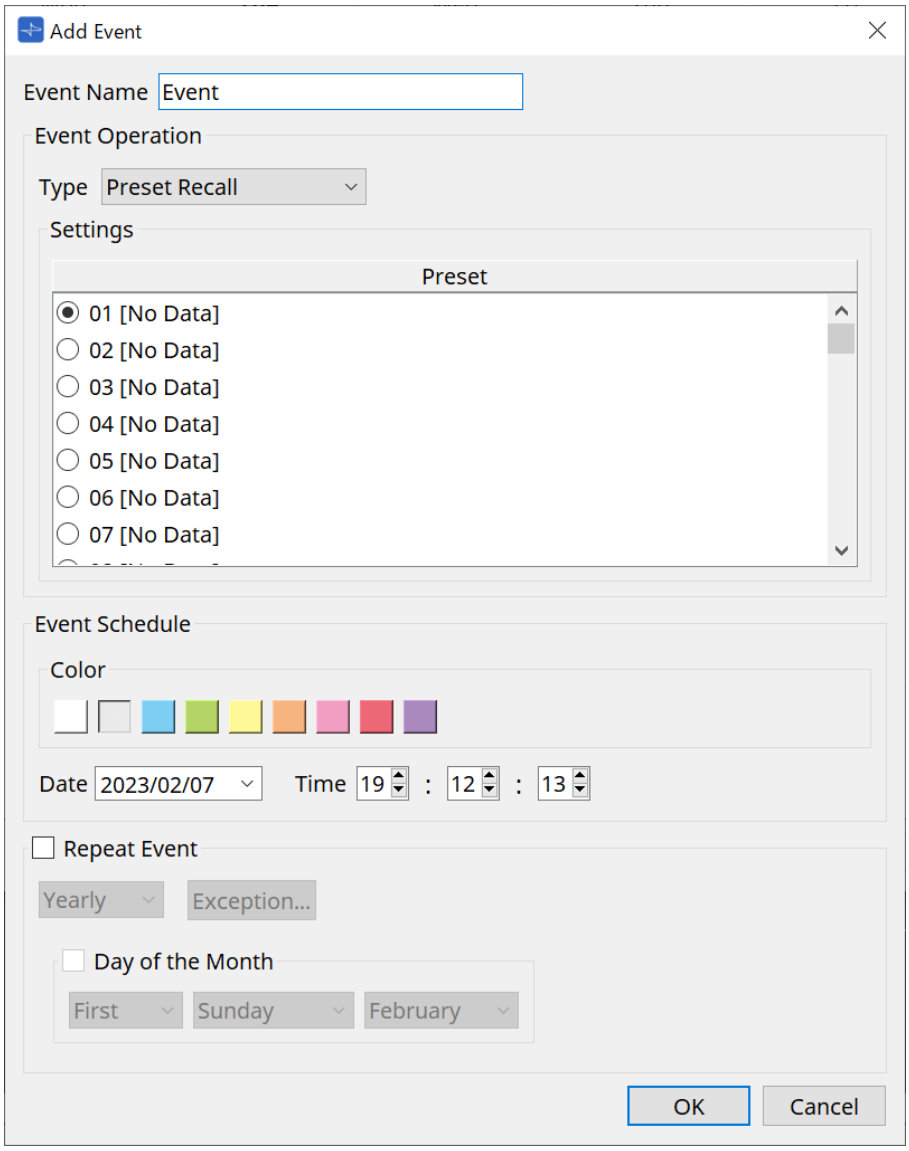
  - カレンダーで任意の日付をダブルクリックすると、「Add Event」ダイアログが表示され、イベントを追加できます
  - 周期イベント以外はイベントをドラッグ＆ドロップで移動させることができます(月表示のときは日付の移動、日表示のときは時間の移動)。
  - 月表示のときは、カレンダーアイコンをクリックすると、年月の選択画面が表示されます。

- **[Today]ボタン**
  月表示の場合は、今月のカレンダーが表示されます。
  日表示の場合は、本日のスケジュールが表示されます。

- **[<]/[>]ボタン**
  月表示の場合は、前月/翌月のカレンダーが表示されます。
  日表示の場合は、前日/翌日のスケジュールが表示されます。

- **Event Control**
  - **[Add]ボタン**
    「Add Event」ダイアログが開きます。
    イベントを追加します。
  - **[Edit]ボタン**
    「Edit Event」ダイアログが開きます。
    現在選択されているイベントの内容を編集します。イベントが選択されていないときは、ボタンがグレーアウト表示になります。
  - **[Clear]ボタン**
    現在選択されているイベントを削除します。イベントが選択されていないときは、ボタンがグレーアウト表示になります。
  - **[All Clear]ボタン**
    登録されているイベントをすべて削除します。
- **[Show Event Time]チェックボックス**
  チェックを入れると、月表示のときにイベントの時間を表示します。
- **Event Info**
  選択されているイベントの、「Add Event」ダイアログや「Edit Event」ダイアログで設定した情報を表示します。
  - **OperationType**
    イベントを起動したときに実行する操作を表示します。
  - **RepeatType**
    イベントの周期を表示します。
  - **Set Exception**
    例外としてイベントを起動しない日時を表示します。
- **[OK]ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel]ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

「Add Event」/「Edit Event」ダイアログ



● Event Name

イベントの名前を入力します。

● Event Operation

[Type] リストボックス

イベントを起動したときに実行する操作を選択します。

- **Preset Recall**
  プリセットをリコール(呼び出し) します。

> 「Recall Settings」ダイアログでは、プリセットにGPI Out やSD Song Select & Play の操作を含めることができます。プリセットをリコールしないで[GPI OUT] 端子から外部機器を操作したい場合はGPI Out を、再生するオーディオファイルを変更したい場合はSD Song Select & Play を選択してください。

- **GPI Out**
  [GPI OUT] 端子を制御します。

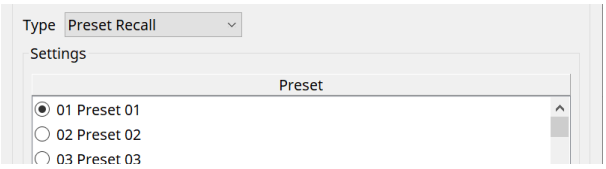
- **SD Song Select & Play**
  SD メモリーカードに保存されているオーディオファイルを再生または停止をします。
  あらかじめ、「SD Card File Manager」ダイアログで再生ファイルの設定を行ってください。

- **Paging**
  放送先(ZONE)を指定してSDメモリーカードに保存されているオーディオメッセージを再生します。

● Settings

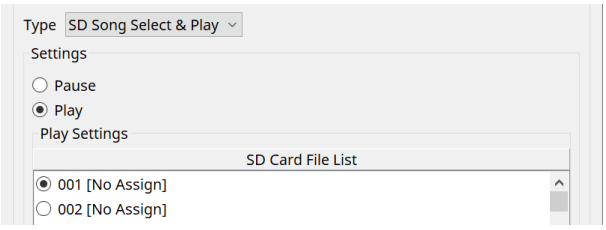
[Type] リストボックスで選択したイベントによって内容が変わります。

- Preset Recallを選択した場合
  リコールしたいプリセットを選択します。

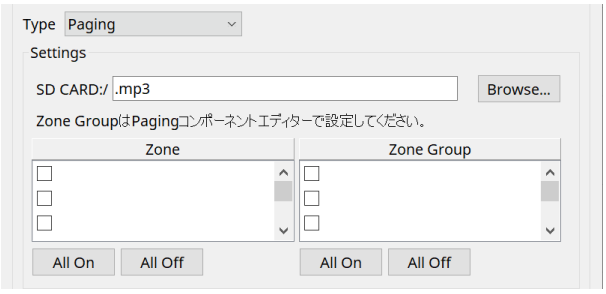


- GPI Outを選択した場合
  イベント起動時のGPI OUT端子の状態を設定します。
  設定方法は、「Recall Settings」ダイアログの[GPI Out]と同様です。

- SD Song Select & Play を選択した場合
  イベント起動時に、SD メモリーカードに保存されているオーディオファイルをどのように再生または停止をするかを設定します。
  - Pause
    イベント起動時に、再生中のSD Cardのファイルを停止します。
  - Play
    イベント起動時にSD Cardのファイルを再生します。
    「SD Card File Manager」ダイアログのリストのインデックス番号を選択します。



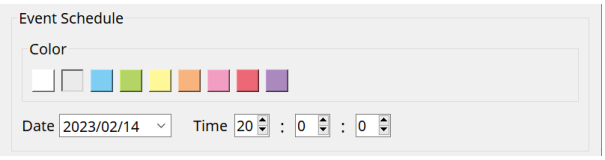
- Paging を選択した場合
  イベント起動時に、SDメモリーカードに保存されているメッセージファイルをどのZONE/ZONE GROUPに放送するかを設定します。



- SD CARD:/
  選択されているメッセージファイルが表示されます。
- [Browse] ボタン
  クリックするとメッセージファイルを選択する画面が表示されます。
- [Zone]/[Zone Group]
  放送する ZONE や ZONE Group を設定します。それぞれ複数選択できます。
- [All On]/[All Off] ボタン
  クリックすると、ZONE や ZONE Group をすべてオンにするかすべてオフにします。

ZONE GROUPはZONEコンポーネント > PAGINGコンポーネントエディターで、チャイム再生、PGM1のボタンへの機能アサインは、PAGINGコンポーネントエディター > Settingsで設定してください。

● **Event Schedule**

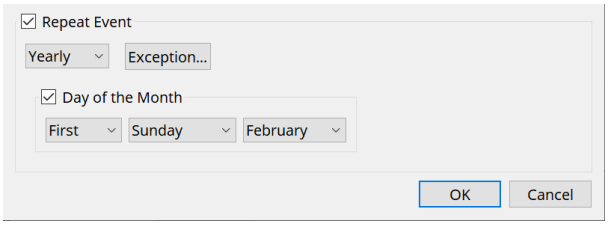


イベントが起動する日時を設定します。

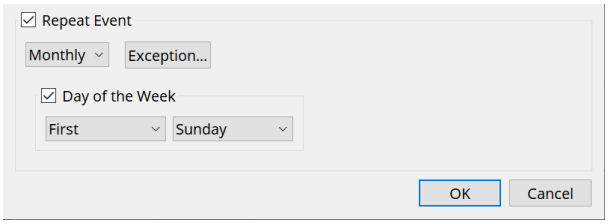
- **[Color] 選択スイッチ**
  カレンダーに表示されるイベントの色を選択します。これを使ってイベントを色分けすると見やすくなります。
- **[Date]**
  イベントの起動日付を設定します。(年/ 月/ 日)
  直接入力または右にあるVアイコンをクリックして表示されるカレンダーで日付を変更します。
  下記のRepeat Eventの設定によっては表示されない場合があります。
- **[Time]**
  イベントの起動時刻を設定します。(時：分：秒、24 時間表示)
  設定したい時/ 分/ 秒をクリックし、スピンボックスまたは直接入力して数値を変更します。
  下記のRepeat Eventをチェックし、イベントの周期を「Hourly」に設定した場合は、分/ 秒のみ設定可能となります。

● **Repeat Event**
チェックボックスをオンにすると、周期的なイベントを設定できます。

- **[Yearly]/[Monthly]/[Weekly]/[Daily]/[Hourly] リストボックス**
  イベントの周期を選択します。
- **イベント起動日時**
  イベントを周期的に起動する日時を設定します。イベントの周期によって設定できる項目が変わります。
  - イベントの周期が[Yearly] の場合
    [Day of the Month] がオンのとき、「○月」「第○」「○曜日」および[Time] で設定した日時になると、毎年イベントを起動します。
    [Day of the Month] がオフのとき、カレンダーで選択した日([Date] に表示されます)および[Time] で設定した時刻になると、毎年イベントを起動します。



- イベントの周期が[Monthly] の場合
  [Day of the Week] がオンのとき、「第○」「○曜日」および[Time] で設定した日時になると、毎月イベントを起動します。
  [Day of the Week] がオフのとき、カレンダーで選択した日([Date] に表示されます)および[Time] で設定した時刻になると、毎月イベントを起動します。



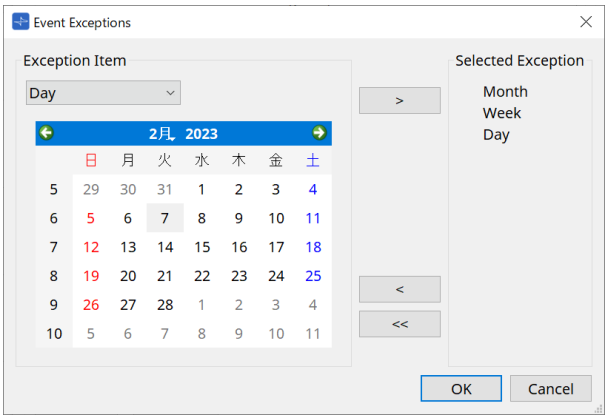
- イベントの周期が[Weekly] の場合
  選択した曜日および[Time] で設定した時刻になると、毎週イベントを起動します。

- イベントの周期が[Daily] の場合
  [Time] で設定した時刻(時：分：秒) になると、毎日イベントを起動します。
- イベントの周期が[Hourly] の場合
  [Time] で設定した時刻(分：秒) になると、毎時イベントを起動します。
- **[Exception] ボタン**
  「Event Exception」ダイアログが開きます。
  周期的なイベントを設定したとき、例外としてイベントを起動しない日時を設定します。

- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

■「Event Exception」ダイアログ

例外としてイベントを起動しない日時を設定します。イベントの周期によって設定できる項目が変わります。
例)・毎週水曜日の定休日はBGM を流さない
・毎月第3 日曜日のイベント時のみ特定のBGM を流す



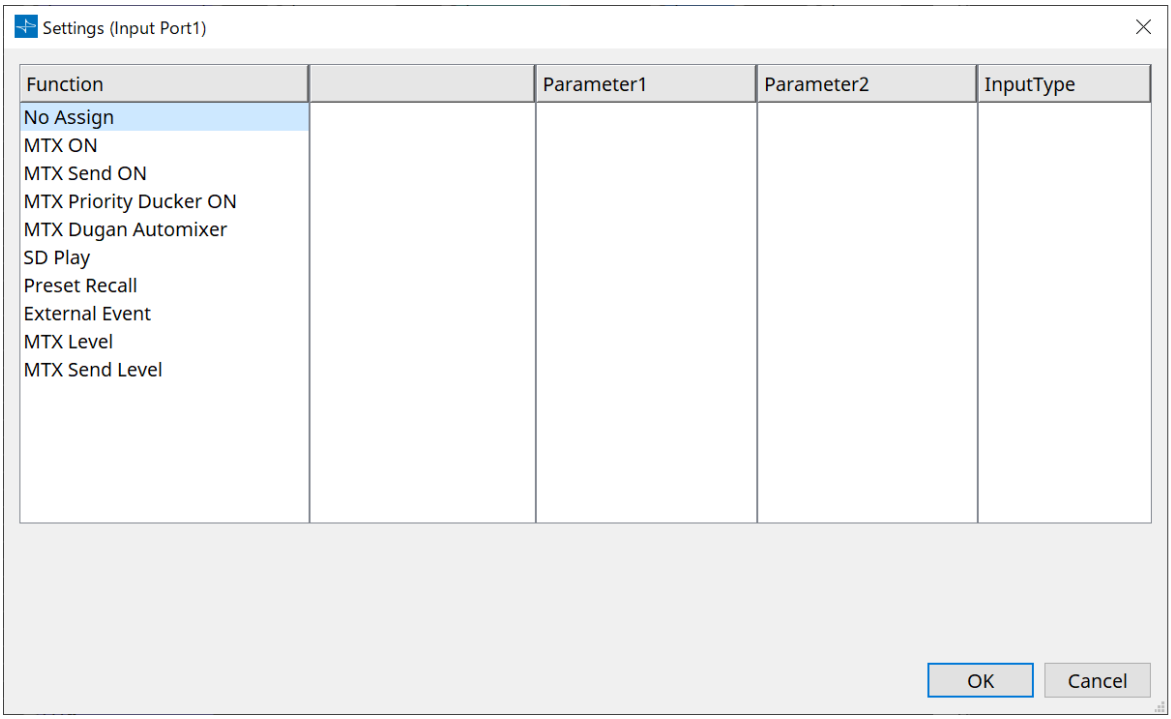
- **Exception Item**
  - イベントの周期が[Yearly] の場合
    イベントを起動しない年を設定します。
    [Year] のみ設定できます。
  - イベントの周期が[Monthly] の場合
    イベントを起動しない月または日を設定します。
    [Month] と[Day] のみ設定できます。
  - イベントの周期が[Weekly] の場合
    イベントを起動しない月、週、または日を設定します。
    [Month]、[Week]、[Day] のみ設定できます。
  - イベントの周期が[Daily] の場合
    イベントを起動しない月、週、日、または曜日を設定します。
    [Month]、[Week]、[Day]、[Day of the week] のみ設定できます。
  - イベントの周期が[Hourly] の場合
    イベントを起動しない月、週、日、曜日、または時間(1 時間ごと) を設定します。
    [Month]、[Week]、[Day]、[Day of the week]、[Hour] が設定できます。
  - **[>] ボタン**
    例外として設定した日時を右側のリストに加えます。
  - **[<] ボタン**
    例外として設定した日時を右側のリストから削除します。
  - **[<<] ボタン**
    例外として設定した日時を右側のリストからすべて削除します。
  - **[OK] ボタン**
    設定を保存し、ダイアログを閉じます。
  - **[Cancel] ボタン**
    設定を変更せずにダイアログを閉じます。

15.7.4. 「GPI」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[GPI Input]または[GPI Output]をクリックし開きます。
GPI機能の使い方はDMEと同様ですが、FUNCTIONでアサインできるパラメーターは異なります。

■ [GPI Input]

Settingsダイアログ



Input Typeの詳細はDMEの「GPI」を参照ください。

Function

- **[No Assign]**
  コントローラーのスイッチやノブ / スライダーで何も設定を変更しないための設定です。
- **[MTX ON]**
  [GPI IN] 端子への入力電圧でパラメーターのオン/オフをコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch ON
  - Fx RTN ON
  - ZONE Out ON
  - Output Ch ON
  - Input Ch Mute Group
  - ZONE Out Mute Group

    Input Ch Mute Group と ZONE Out Mute Group ではミュートがオンのときに機器本体の LEDが消灯します。

  - **[Parameter1]**
    パラメーターのチャンネルを設定します。

- **[Input Type]**
  GPI INへの入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。
  [High Active][Low Active][Rising Edge][Falling Edge] が選択できます。

- **[MTX Send ON]**
  [GPI IN] 端子への入力電圧で各チャンネルのセンドのオン/オフをコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch Send ON
  - Fx RTN Send ON

- **[MTX Priority Ducker ON]**
  [GPI IN]端子への入力電圧でZONEのDuckerのオン/オフをコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - 1st Priority
  - 2nd Priority

- **[MTX Dugan Automixer]**
  [GPI IN] 端子への入力電圧でパラメーターのオン/オフをコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Override(master)
  - Mute(master)
  - override(Ch)

- **[SD Play]**
  [GPI IN]端子への入力電圧で、指定したオーディオファイルを再生します。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - SD Song Select & Play
  - SD Song Pause
  - **[Input Type]**
    GPI IN への入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。
    [Rising Edge]と[Falling Edge] が選択できます。

- **[Preset Recall]**
  [GPI IN] 端子への入力電圧で、指定のプリセットをリコールします。
  - **[Parameter1]**
    リコールしたいプリセット番号を選択します。
  - **[Input Type]**
    GPI IN からの入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。
    [Rising Edge]と[Falling Edge]が選択できます。

- **[External Event]**
  [GPI IN]端子への入力電圧で、「External Events」ダイアログで設定したコマンドを出力します。
  - **[Parameter1]**
    実行するイベントの名称を選択します。
  - **[Input Type]**
    GPI INへの入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。
    [High Active][Low Active][Rising Edge][Falling Edge] が選択できます。
    [Command Type]で[On/Off]を選択した場合、以下のような動作になります。

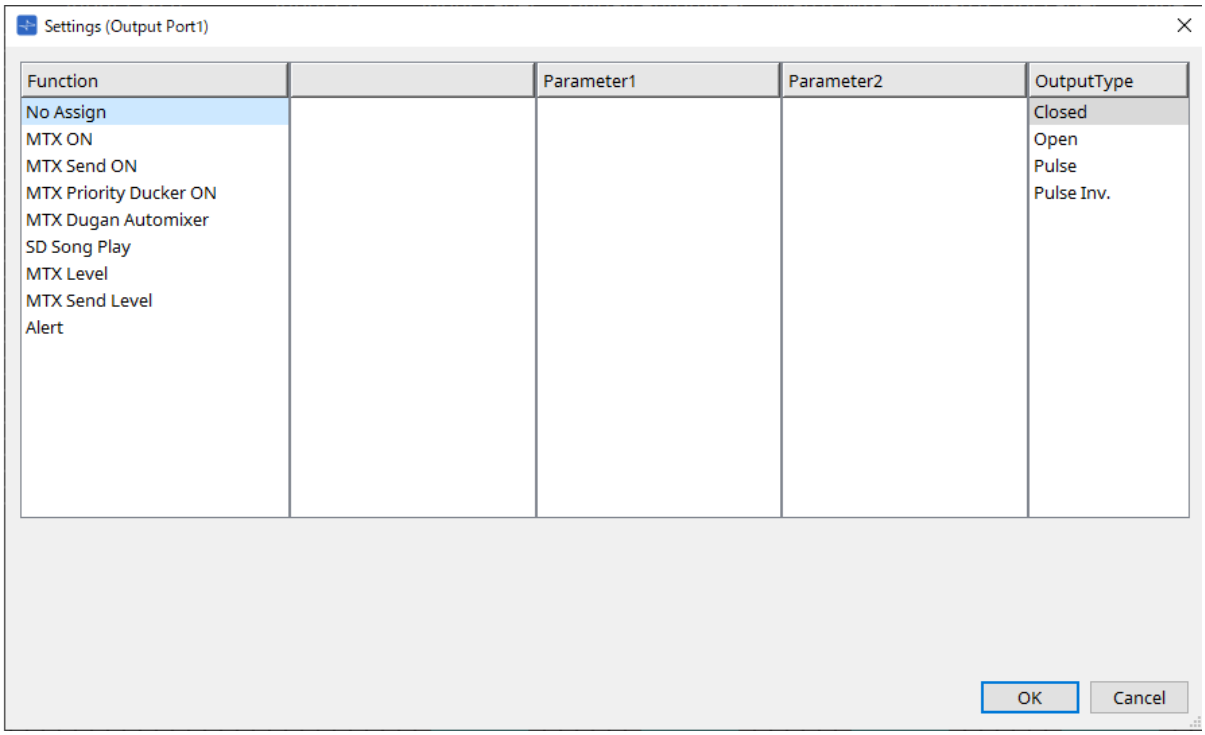
[High Active]	Highになったとき[Command-On]のコマンドを送信、Lowになったとき[Command-Off]のコマンドを送信。
[Low Active]	Lowになったとき[Command-On]のコマンドを送信、Highになったとき[Command-Off]のコマンドを送信。
[Rising Edge]	Highに変化するたびに[Command-On]のコマンドと[Command-Off]のコマンドを交互に送信。
[Falling Edge]	Lowに変化するたびに[Command-On]のコマンドと[Command-Off]のコマンドを交互に送信。

- **[MTX Level]**
  [GPI IN]端子への入力電圧で各チャンネルのレベルをコントロールします。
  ケーブルの長さの影響でレベルが最大にならない場合は、「GPI Calibration」ダイアログで入力電圧の最大値および最小値を調整してください。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch Level
  - Fx RTN Level
  - Matrix Out Level
  - ZONE Out Level
  - Output Ch Level
  - 1st Priority Mix Level
  - 2nd Priority Mix Level
  - Input Ch DCA Group
  - ZONE Out DCA Group
  - **[Parameter1]**
    レベルをコントロールしたいチャンネルを設定します。
  - **[Input Type]**
    GPI IN へのレベルをどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。
    [Analog] と[Analog Inv.] が選択できます。
  - **[Upper Limit]/[Lower Limit]**
    レベルの変更可能範囲を設定します。ユーザーが使う音量コントロールの可変範囲を制限できます。たとえば、BGMの最大音量を設定したり、可変範囲を-6 dB ～ +6 dBなどの狭い範囲に設定して音量を微調整するコントローラーとして使用できます。

- **[MTX Send Level]**
  [GPI IN]端子への入力電圧で各チャンネルのセンドレベルをコントロールします。
  ケーブルの長さの影響でレベルが最大にならない場合は、「GPI Calibration」ダイアログで入力電圧の最大値および最小値を調整してください。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch Send Level
  - Fx RTN Send Level

■ [GPI Output]ダイアログ

Settingsダイアログ



Output Typeの詳細はDMEの「GPI」を参照ください。

Function

- **[No Assign]**
  [Output Type] でアラート発生時の出力信号の極性を設定します。それ以外はどの機能も設定せず、デフォルト(初期値)となります。
  - **[Output Type]**
    プリセットのリコールや Scheduler のイベント実行時にGPI OUTをコントロールします。
- **[MTX ON]**
  パラメーターのオン / オフによって GPI Output をコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch ON
  - Fx RTN ON
  - ZONE Out ON
  - Output Ch ON
  - Input Ch Mute Group

- ZONE Out Mute Group
- **[Parameter1]**
  パラメーターのオン/ オフをコントロールするチャンネルを設定します。
- **[Output Type]**
  [GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。
  [Closed][Open][Pulse][Puse Inv.] が選択できます。

- **[MTX Send On]**
  センドのオン/ オフによってGPI Output をコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch Send ON
  - Fx RTN Send ON
- **[MTX Priority Ducker ON]**
  ZONE のDucker のオン/ オフによってGPI Output をコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - 1st Priority
  - 2nd Priority
- **[MTX Dugan Automixer]**
  パラメーターのオン/ オフによってGPI Output をコントロールします。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Override(master)
  - Mute(master)
  - override(Ch)
  - **[Parameter1]**
    Override(master) とMute(master) ではオン/ オフをコントロールするグループを、override(Ch) ではオン/ オフをコントロールするチャンネルを選択します。
  - **[Output Type]**
    [GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。
- **[SD Song Play]**
  オーディオファイル再生の状態を[GPI OUT] 端子に出力します。
  - **[Output Type]**
    [GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。
- **[MTX Level]**
  各チャンネルのレベル(音量の大小) によってGPI Output をコントロールします。CD プレーヤーをフェーダースタートさせたり、大音量の際にインジケーターを点灯させたりして使用します。
  以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch Level
  - Fx RTN Level
  - Matrix Out Level
  - ZONE Out Level
  - Output Ch Level
  - 1st Priority Mix Level
  - 2nd Priority Mix Level
  - Input Ch DCA Group

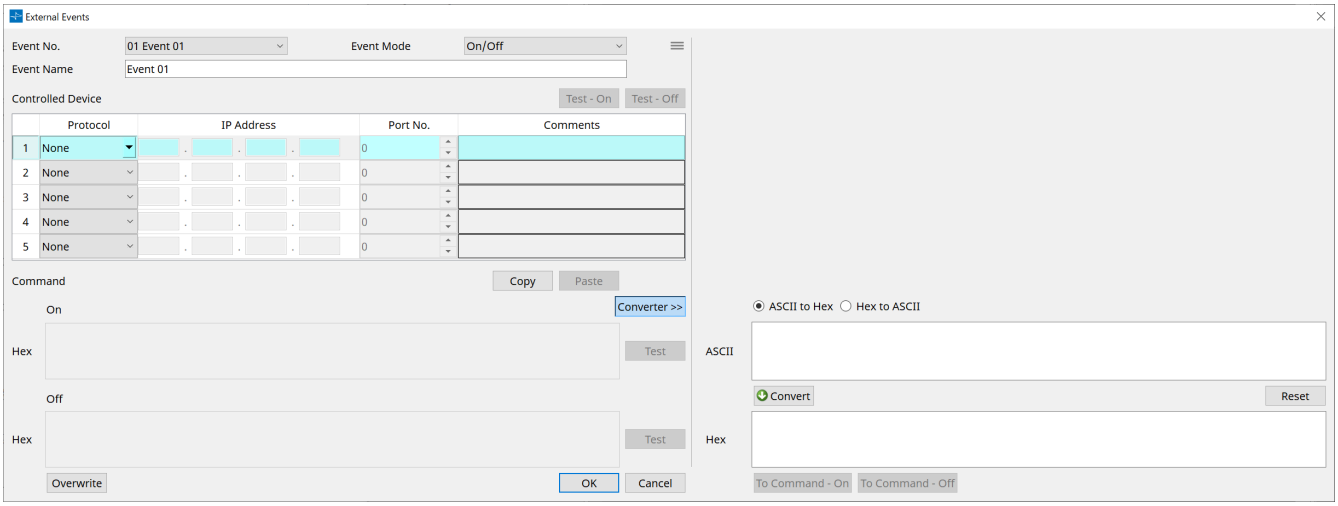
- ZONE Out DCA Group
- **[Parameter1]**
  [GPI OUT] 端子のコントロールに使用するチャンネルを設定します。
- **[Output Type]**
  [GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。

- **[MTX Send Level]**
  各チャンネルのセンドレベル(音量の大小) によってGPI Output をコントロールします。
  CD プレーヤーをフェーダースタートさせたり、大音量の際にインジケーターを点灯させたりして使用します。以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行います。
  - Input Ch Send Level
  - Fx RTN Send Level
- **[Alert]**
  アラートが発生した場合に[GPI OUT] 端子に出力します。
  - **[Parameter1]**
    アラートの種類を以下から選択します。出力されるアラートの種類については、「アラート一覧」を参照してください。
    - Fault, Error, Warning
    - Fault, Error
    - Fault
  - **[Output Type]**
    Closed のみ選択できます。アラートが発生しているとき、[GPI OUT] 端子がクローズドになります。発生しているアラートが解決するまでクローズドの状態が継続します。

15.7.5. 「External Events」ダイアログ

機器シート内の[Tools]ボタンから[External Events…]をクリックし開きます。
MTXの「プリセットのリコール」「GPI INからの入力」「DCPなどの外部機器の操作」をトリガーにして、Dante 端子またはNETWORK端子がつながっているネットワークに送信するコマンドの設定を行います。

コマンドを送信するのみで、コマンドの返答は破棄します。



20個までのExternalイベントが設定できます。1個のイベントには5つまでのコマンドを設定できます。

- **メニューボタン**(≡)
  クリックすると、以下のファンクションが実行できます。
  - **[Copy Event]**
    選択しているイベントの内容をコピーバッファーにコピーします。
  - **[Copy All Event]**
    すべてのイベントの内容をコピーバッファーにコピーします。
  - **[Paste Event]**
    コピーバッファーにあるイベントの設定を上書きします。
  - **[Clear Event]**
    選択しているイベントの内容を初期化します。
  - **[Clear All Event]**
    すべてのイベントの内容を初期化します。
- **[Event No.]リストボックス**
  イベントの番号を選択します。
- **[Event Mode] リストボックス**
  トリガーが発生したときのコマンドが[On/Off]系か[1shot]系かを選択します。
  DCP などのボタンにイベントを割り当てた場合、以下のように動作します。
  - **[On/Off]**
    ボタンを押すたびにMTXがOnコマンドとOffコマンドを交互に送信します。
  - **[1shot]**
    ボタンを押すたびにMTX が設定されたコマンドを送信します。
- **[Event Name] テキストボックス**
  イベントの名称を設定します。
- **[Test - On]/[Test – Off]ボタン**

コマンドを「Controlled Device」欄で設定された順にProVisionaire Designから直接送信します。[Command Type]リストボックスで[1shot]を選択している場合は、[Test - Off]ボタンが無効になります。

コマンドの送信はオンラインでもオフラインでも実行できます。

- **「Controlled Device」欄**
  コマンドを受け取る機器の情報を設定します。トリガーを受け取ると、欄の上からコマンドを送信します。
  受信する機器の設定については、各機器のコマンドに関する資料を参照してください。
  - **[Protocol]リストボックス**
    コマンドを受信する機器が対応しているプロトコルを選択します。
  - **[IP Address]テキストボックス**
    コマンドを受信する機器のIP アドレスを設定します。
  - **[Port No.]テキストボックス**
    コマンドを受信する機器のポート番号を設定します。
  - **[Comments]テキストボックス**
    テキストを32Byteまで入力できます。機器名などを入れて、識別しやすくするなどに活用してください。
- **[Copy] ボタン**
  選択しているコマンドの「Controlled Device」欄とCommandテキストボックスの情報をコピーバッファーにコピーします。
- **[Paste] ボタン**
  コピーバッファーにある「Controlled Device」欄とCommandテキストボックスの情報を上書きします。
- **[Test] ボタン**
  Command テキストボックスに入力されているコマンドをProVisionaire Designから直接送信します。
- **[Overwrite] / [Insert] ボタン**
  [Insert]にすると、Commandテキストボックスでの入力がインサート(挿入)になり、先頭や中程で16進数を追加することができます。
- **Command テキストボックス**
  [Event Mode]リストボックスで[On/Off]を選択した場合、DCPなどのボタンを押すたびにMTXがOnコマンドとOffコマンドを交互に送信します。[Event Mode]リストボックスで[1shot]を選択した場合、DCPなどのボタンを押すたびにMTXが設定されたコマンドを送信します。
  コマンドは16進数でXXという形式で入力されます。
  仕様書などで機器をコントロールするコマンドが文字列で提供されているとき、Converterを使用して16進素に変換して、入力してください。

コマンドの最大長は128バイトです。

- **[Converter>>]ボタン**
  文字列のコマンドを16 進数に変換するための領域を表示します。
- **[ASCII to Hex]/[Hex to ASCII]ラジオボタン**
  文字列を16 進数に変換するか、16 進数を文字列に変換するかを選択します。
- **[ASCII]/[Hex] テキストボックス**
  [ASCII to Hex]/[Hex to ASCII]ラジオボタンの選択で、上のテキストボックスがASCIIかHexに変わります。
  [Convert]ボタンをクリックすると、変換結果が下のテキストボックスに表示されます。

- **[Reset]ボタン**
  [ASCII]/[Hex]テキストボックスの内容を消去します。

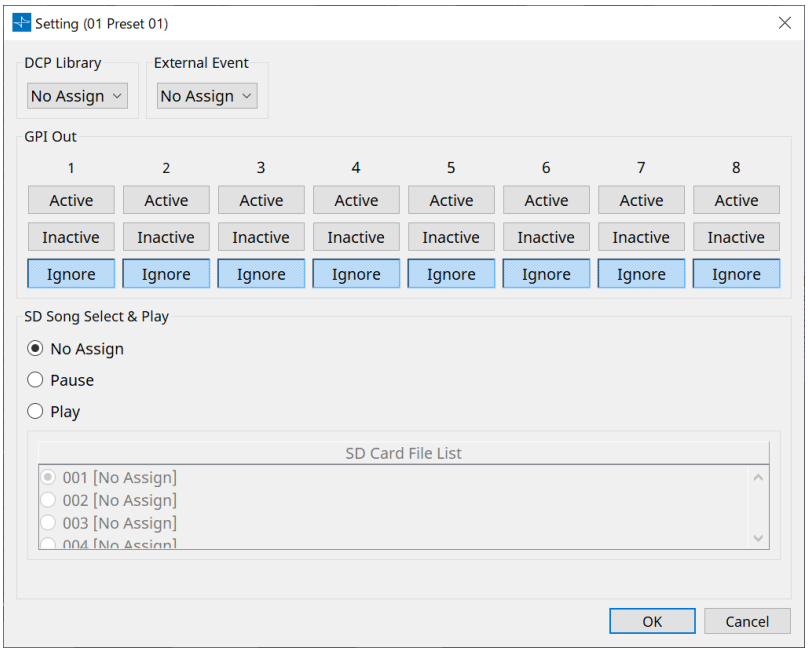
- **[To Command]ボタン**
  文字列を変換した16進数のコマンドをCommand テキストボックスに反映させます。
  [Command Type]リストボックスで[On/Off]を選択した場合、[Command-On]に反映させるのか、[Command-Off]に反映させるのかボタンが分かれます。

- **[OK]ボタン**
  設定を更新し、ダイアログを閉じます。IPアドレスが不正だったり、コマンドの書式が不正だったりする場合は、エラーメッセージを表示してダイアログは閉じません。

- **[Cancel]ボタン**
  設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

15.7.6. 「Recall Settings」ダイアログ

機器シート内の「Presets」エリアから[Recall Settings]をクリックし開きます。
プリセットがリコールされたときに同時にリコールされるDCPライブラリーやExternal Eventに関する設定を行います。



- **DCP Library**
  プリセットがリコールされたときに同時にリコールされるDCPライブラリーを選択します。

- **External Event**
  プリセットがリコールされたときに同時に出力されるイベントを選択します。
  「External Events」ダイアログで設定したイベント番号を選択します。

- **GPI Out**
  プリセットのリコールと同時に出力されるGPI OUTの設定を行います。
  GPI OUTの出力によって、機器本体の[GPI OUT]端子に接続された外部機器をコントロールします。

  [Active]/[Inactive]/[Ignore] ボタン
  GPI OUT端子の出力を有効(Active)にするか、Output Typeを逆にして無効(Inactive)にするか、無視(Ignore)にするかを設定します。 GPI Outputダイアログの[Output Type]が[Pulse]または[Pulse Inv.]に設定されている場合は、選択肢が[Active]または[Ignore]のみとなります。

  - [Active]に設定されている場合
    [Output Type]が[Closed]のとき、[GPI OUT]端子はクローズド(接地)となります。
    [Output Type]が[Open]のとき、[GPI OUT]端子はオープンとなります。
    [Output Type]が[Pulse]のとき、[GPI OUT]端子は約250 msの間クローズド(接地)となります。
    [Output Type]が[Pulse Inv.]のとき、[GPI OUT]端子は約250 msの間オープンとなります。

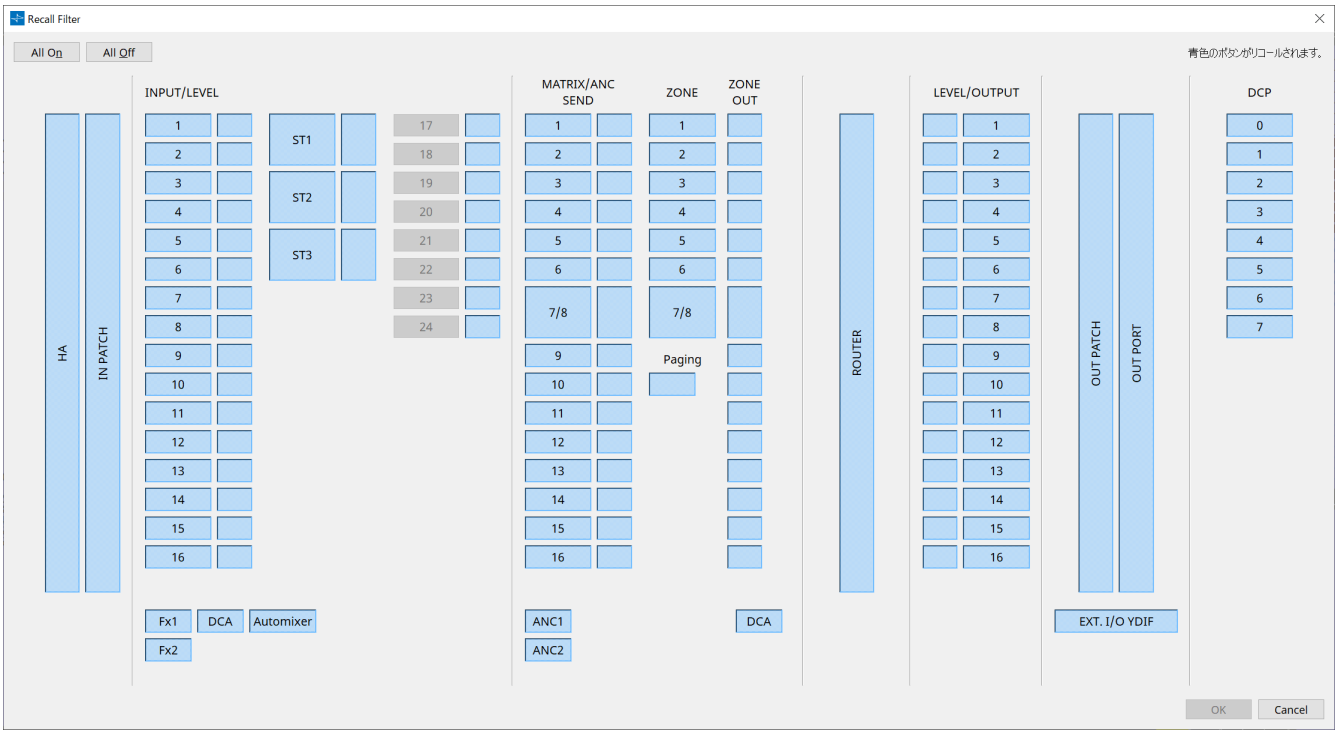
  - [Inactive] に設定されている場合
    [Output Type]が[Closed]のとき、[GPI OUT]端子はオープンとなります。
    [Output Type]が[Open]のとき、[GPI OUT]端子はクローズド(接地)となります。

  - [Ignore] に設定されている場合
    出力に変化はありません。GPI OUTに別の機能がアサインされていてプリセットのリコールの影響を受けたくない場合に設定します。

- **SD Song Select & Play**
  - Pause
    プリセットリコールと同時に再生中のファイルを停止します。
  - Play
    プリセットリコールと同時に指定したファイルを再生します。
    「SD Card File Manager」ダイアログのリストのインデックス番号を指定します。

15.7.7. 「Recall Filter」ダイアログ

機器シート内の「Presets」エリアから[Recall Filter]をクリックし開きます。
プリセットをリコールするときに、パラメーターごとにリコールの対象とするかしないかを設定します。たとえば、入出力のレベルはどのプリセットでも変わらない場合、INPUTのLEVELやOUTPUTのLEVELをリコール対象外にすると、プリセットごとにレベルを再設定しなくても同じレベル設定のまま運用できます。



● [All On]ボタン
ボタンをすべてオン(青)にします。すべてのパラメーターがリコールされます。

● [All Off]ボタン
ボタンをすべてオフ(白)にします。いずれのパラメーターもリコールされません。

● パラメーター選択ボタン

- **[HA]ボタン**
  オンにすると、入力ポートのHAゲインおよびファンタム電源(+48V)の設定がリコールされます。

- **[IN PATCH]ボタン**
  オンにすると、入力パッチの設定および入力チャンネル名がリコールされます。
  MY4-AECのFrom Far-end、Far-end Voice、Near-end Mic.、Near-end Voice、To Far-endの入力チャンネルへのパッチはこのボタンの範囲に含まれます。

- **[INPUT]/[LEVEL]ボタン**
  [INPUT] ボタンをオンにすると、入力チャンネルの以下の設定がリコールされます。
  入力チャンネル：位相、HPF、Digital Gain、PEQ、COMP、GATE、AGC、FBS、インサートのオン/オフ
  インサートのオン/ オフはMTX5-Dのみです。
  ステレオ入力チャンネル：Digital Gain、PEQ、AGC、COMP
  [LEVEL]ボタンをオンにすると、入力チャンネルのレベルおよびオン/オフ(ミュート)の設定がリコールされます。いずれもチャンネルごとに設定されます。

「MTX Configuration」ダイアログの[INPUT PORT SETUP]で、「MONOx2」から「STEREO」に変更すると、[INPUT]/[LEVEL]ボタンの設定はLに従います。

- **[Fx1]/[Fx2] ボタン**
  オンにすると、エフェクトのタイプや以下の設定がリコールされます。
  - 入力チャンネルからエフェクトバスへのセンドレベル、センドオン/オフ
  - エフェクトリターンのレベル、オン/オフ(ミュート)
  - エフェクトリターン名
- **[DCA] ボタン(INPUT側)**
  オンにすると、以下の設定がリコールされます。
  - 入力チャンネルのDCAまたはミュートグループへのチャンネルアサイン情報
  - DCA Group のMain Level
  - ミュートグループのMain Mute
- **[Automixer]ボタン**
  オンにすると、Dugan Automixerの設定がリコールされます。
- **[MATRIX SEND]ボタン**
  左側のボタンをオンにすると、以下の設定がリコールされます。右側のボタンをオンにすると、マトリクスアウトのレベルがリコールされます。
  - 入力チャンネルからマトリクスバスへのセンドレベル、センドオン/オフおよびステレオチャンネルのパン
  - エフェクトリターンからマトリクスバスへのセンドレベル、センドオン/オフおよびステレオチャンネルのパン
- **[ANC1 SEND]/[ANC2 SEND]ボタン**
  オンにすると、入力チャンネルからANCバスへのセンドレベルおよびセンドオン/オフがリコールされます。
- **[ZONE]ボタン**
  オンにすると、以下の設定がリコールされます。
  - 1st Priority のPriority Source、Mix Level、Ducker
  - 2nd Priority のPriority Source、Mix Level、Ducker
  - ANC
  - ゾーン名

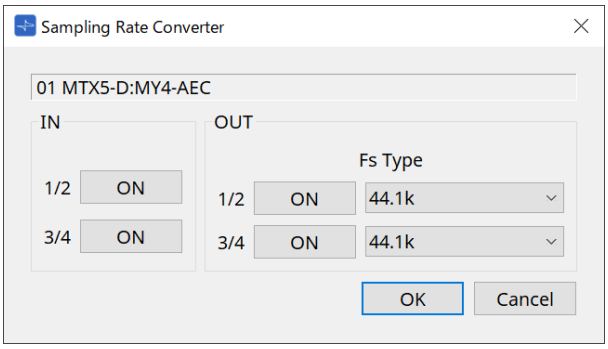
「MTX Configuration」ダイアログの[INPUT PORT SETUP]で、「MONOx2」から「STEREO」に変更すると、[ZONE]ボタンの設定は奇数ZONEに従います。

- **[PAGING]ボタン**
  オンにすると、PAGING [ON]ボタンの設定がリコールされます。
- **[ZONE OUT]ボタン**
  オンにすると、ZONE Out Levelおよびオン/オフ(ミュート)がリコールされます。
- **[DCA]ボタン(ZONE 側)**
  オンにすると、以下の設定がリコールされます。
  - ZONE Out のDCA またはミュートグループへのチャンネルアサイン情報
  - DCA Group のMain Level
  - ミュートグループのMute Group Control
- **[ROUTER] ボタン**
  オンにすると、ROUTERの設定がリコールされます。

- **[LEVEL]/[OUTPUT]ボタン**
  [LEVEL]ボタンをオンにすると、出力チャンネルのレベルおよびオン/オフ(ミュート)の設定がリコールされます。
  [OUTPUT]ボタンをオンにすると、Room EQ、Delay、Speaker Processorの設定がリコールされます。いずれもチャンネルごとに設定されます。
- **[OUT PATCH]ボタン**
  オンにすると、出力パッチの設定および出力チャンネル名がリコールされます。
- **[OUT PORT]ボタン**
  オンにすると、出力ポートの出力ゲインおよびPolarityの設定がリコールされます。
- **[EXT. I/O YDIF]ボタン**
  オンにすると、DistributionモードのときにMTX からYDIFへ出力する音声の設定がリコールされます。
- **[DCP]ボタン**
  オンにすると、MTXに接続されているDCP(デジタルコントロールパネル)のパラメーターアサイン状態がリコールされます。ボタンに表示されているのはDCPのIDです。
- **[MY4-AEC] ボタン(MTX5-Dのみ)**
  オンにすると、MTX5-D に挿入された MY4-AEC の設定がリコールされます。
  以下の設定は [MY4-AEC] ボタンでのリコール設定対象外となります。
  - From Far-end、 Far-end Voice、Near-end Mic.、Near-end Voice、To Far-end ([IN PATCH] ボタンの範囲内)
  - SRC

15.7.8. 「Sampling Rate Converter」ダイアログ

「Slot In」または「Slot Out」コンポーネントエディターのコンテキストメニューで「Sampling Rate Converter」をクリックして開きます。
機器のSLOT に挿入されたMY4-AEC やMY8-AE96S のSRC(Sampling Rate Converter) のオン/ オフと出力するワードクロック値を設定します。



- **[ON] ボタン**
  SRC のオン/ オフを切り替えます。また、ボタンにオン/ オフ状態を表示します。
- **[Fs Type] リストボックス(MY4-AEC のみ)**
  SRC がオンのときに、MY4-AEC から出力するワードクロックを選択します。
  AES/EBU_IN_CH1/2 を選択すると、MY4-AEC の入力1/2 に入ってきたワードクロックを出力します。AES/EBU_IN_CH3/4 を選択すると、MY4-AEC の入力3/4 に入ってきたワードクロックを出力します。
- **[OK] ボタン**
  設定を反映して、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を反映しないで、ダイアログを閉じます。

15.8. アラート一覧

MRX7-D/MTX5-D/MTX3で発生するアラート、およびその内容/対策は以下のとおりです。
問題が解決しない場合は、機器本体の取扱説明書の巻末に記載されている修理ご相談センターにご連絡ください。

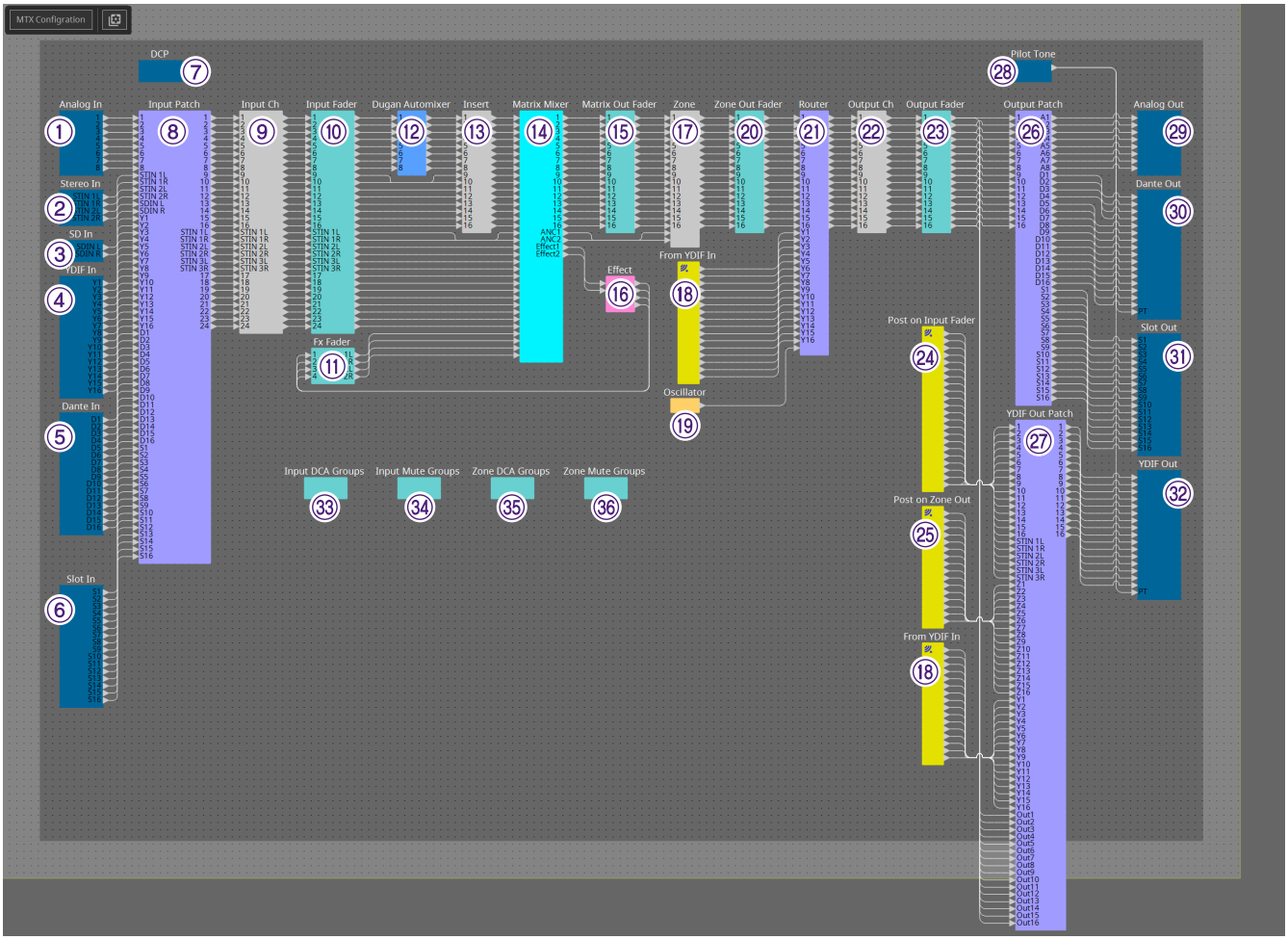
アラート番号	内容	対策
1 ～ 9	機器が正常に起動していません。	電源をいったんオフにして、6 秒以上間隔を空けてから電源をオンにしてください。問題が解決しない場合は、メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、修理ご相談センターにご連絡ください。 い。
10	内蔵バックアップバッテリーが完全に消耗しているか、装着されていません。	電源をオフにすると現在の設定が失われ、初期値に戻ります。ただちに使用を中止して、修理ご相談センターにご連絡ください。
11	内蔵バックアップバッテリーが極端に消耗しており、メモリーが消滅している可能性があります。	電源をオフにすると現在の設定が失われ、初期値に戻ります。ただちに使用を中止して、修理ご相談センターにご連絡ください。
12	内蔵バックアップバッテリーの残量が少なくなっています。	使用に支障はありませんが、継続して使用すると設定が失われ、初期設定に戻る可能性があります。お早めに修理ご相談センターにご連絡ください。
13	内蔵時計に異常が発生したので、初期値(2000 年1 月1 日0 時0 分) にしました。	電源をオンにするたびに発生する場合は内蔵バックアップバッテリーが消耗しているか、機器が故障している可能性があります。修理ご相談センターにご連絡ください。 一度だけの場合は時計の設定値の異常を検出して初期化しましたので、ProVisonaire Designを使って時刻を設定してください。
14	内蔵メモリーに保存されるカレントのプリセットが失われています。	プリセットをリコールしてください。問題が解決しない場合は、修理ご相談センターにご連絡ください。
15	内蔵メモリーに保存される設定が失われています。	内蔵バックアップバッテリーが消耗しているか、機器が故障している可能性があります。修理ご相談センターにご連絡ください。
20	スロットにサポート対象外のMini-YGDAI カードを挿入しているか、挿入されたMini-YGDAI カードが故障している可能性があります。	サポート対象のMini-YGDAI カードに取り替えてください。
21	ワードクロックリーダーに選択されたデジタル信号がアンロックになりました。	ワードクロック信号が正常に入力されているか確認してください。
22	[YDIF IN]端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 指定された仕様のケーブルを使ってください。
23	[YDIF IN]端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。	

アラート番号	内容	対策
24	スロットに入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	内部クロックに同期している信号を入力するか、ワードクロックリーダーをスロットに設定してください。
25	スロットに入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。	
26	Dante端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	内部クロックに同期している信号を入力するか、ワードクロックリーダーをDanteに設定してください。
27	Dante端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。	
28	Danteのサンプリング周波数が、機器本体のワードクロックリーダーに合わせて変更されました。	機器本体のワードクロックの設定を確認してください。そのあと、Danteネットワークのサンプリング周波数を設定してください。
30	[YDIF IN]端子の接続に異常があります。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 指定された仕様のケーブルを使ってください。
40	IPアドレスが重複しています。	IPアドレスが重複しないように設定してください。
41	起動してから60秒以内にIPアドレスが確定しませんでした。	機器設定ディップスイッチのスイッチ6(IP SETTING)が「PC」に設定されている場合は、DHCP サーバーでIPアドレスを設定してください。
42	MTX/MRXシステムを構成する機器が、ネットワーク上に見つかりませんでした。	システムを構成するすべての機器の電源をオンにし、ネットワークに正しく接続されているか確認してください。
43	ネットワークに接続している機器が多すぎます。	ネットワークに接続している機器の数を減らしてください。
46	Danteの送信フロー数が制限を超えました。	Dante Controllerで送信フローの一部をマルチキャストに変更するなど、フロー数を減らしてください。
50	Unit IDに「00」が設定されています。	Unit IDを「00」以外に設定してください。
51	同一ネットワークに接続された機器に、同一のUnit IDを持つ機器が発見されました。	Unit IDが重複しないように設定してください。
52	[DCP]端子で通信エラーが発生しました。	• DCPのパネルにエラーが表示されている場合は、DCPの取扱説明書を参照のうえ対応してください。 • DCPのパネルIDが重複しないように設定してください。 • ケーブルが規格範囲内の長さで確実に接続されているか確認してください。
53	[DCP]端子に接続されているDCPが、プロジェクトで設定した構成と異なっています。	• 必要なDCPが接続されているか確認してください。 • 異なるモデルのDCPが接続されていないか確認してください。

アラート番号	内容	対策
56	SDメモリーカードが認識されませんでした。	仕様に合ったSDメモリーカードを使用してください。
58	SDプレーヤーで、指定されたファイルまたはフォルダーを再生できませんでした。	指定したオーディオファイルやフォルダーがSDメモリーカード内に存在するか確認してください。指定したフォルダー内に再生可能なオーディオファイルが1つ以上存在する必要があります。
60	プリセットリコールに失敗しました。	メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、修理ご相談センターにご連絡ください。
61	MTXの起動時にリコールされるプリセットが見つからないため、リコールが実行されませんでした。	実在するプリセットを指定してください。適切なプリセットがリコールされないと音が出ません。
64	指定されたプリセットをリコールできませんでした。	• ストアされていないプリセット番号がリコールされました。ストアされているプリセット番号を指定してください。 • プリセットをストアした後に機器が追加された可能性があります。 ProVisionare Designで同期し、すべてのプリセットをチェックしてください。必要に応じて修正後、再度ストアしてください。
70	ProVisionaire Designとの同期が完了していません。同期処理が中断した可能性があります。	ProVisionaire Designで再度同期操作を行ってください。問題が解決しない場合は、メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、修理ご相談センターにご連絡ください。
71	同期操作を行ったときのUNIT IDの設定と、現在のUNIT IDの設定が一致しません。	同期操作を行った後はUNIT IDを変更しないでください。もしUNIT IDを変更した場合は再度同期操作を行ってください。
72 (MRX7-D/MTX5-D)	DanteにDevice Lockが設定されているため、ディップスイッチの設定とDanteの設定が一致しません。	Device Lockの設定をしている場合は、Dante Controllerから解除するか、ディップスイッチの設定を見直し、現状に合わせて正しく設定してください。
80 (MRX7-Dのみ)	Speech Privacyコンポーネントのオーディオファイルが存在しません。	Install Speech Privacy Fileダイアログでインストールしてください。

15.9. コンポーネントエディター

コンポーネントエディターでは、選択した機器の各コンポーネントの設定や調整をします。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではMTX固有のコンポーネントエディターについて説明します。その他のコンポーネントの詳細は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。



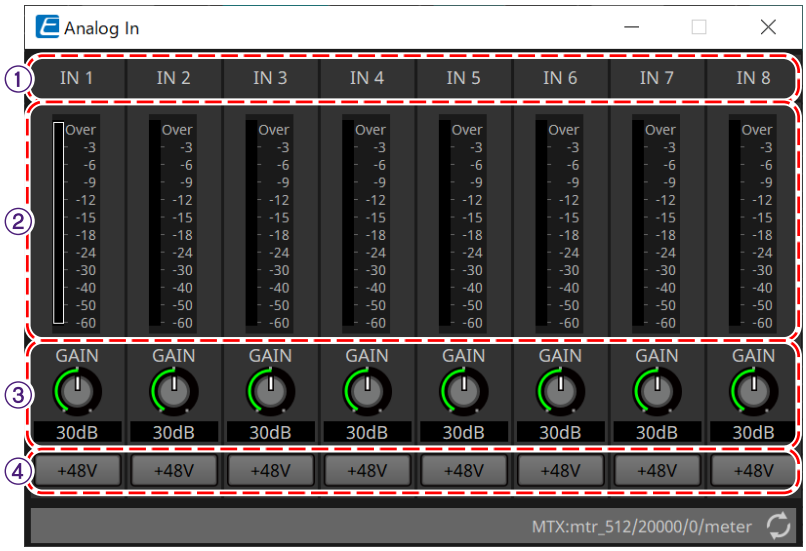
番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Analog In	[INPUT]端子の入力に関する設定および入力された音声信号のレベル表示をします。	「Analog In」コンポーネントエディター
②	Stereo In	[ST IN]端子から入力された音声信号のレベル表示をします。	---
③	SD In	SDメモリーで再生された音声信号を送信します。	---
④	YDIF In	[YDIF]端子から入力された音声信号のレベル表示をします。	---
⑤	Dante In(MTX5-Dのみ)	[Dante]端子から入力された音声信号を送信します。	---

番号	コンポーネント名	内容	リンク
⑥	Slot In(MTX5-Dのみ)	Mini-YGDAI カードに入力された音声信号のレベル表示をします。 コンポーネントを右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューで「Select Mini-YGDAI Card」をクリックし、MY4-AECカードを選択すると「MY4-AEC」コンポーネントが表示されます。	「MY4-AEC」コンポーネントエディター
⑦	DCP	DCPコントロールパネルを設定します。	「DCP」
⑧	Input Patch	入力ソースを入力チャンネルに割り当てます。	---
⑨	Input Ch	入力チャンネルの信号処理を行います。	「Input CH」コンポーネントエディター
⑩	Input Fader	入力チャンネルのレベルを調整します。	---
⑪	Fx Fader	エフェクトリターンのレベルを調整します。	---
⑫	Dugan Automixer	スピーチ用途において、MTX3では入力チャンネル 1 ～ 4、MTX5-Dでは入力チャンネル 1 ～ 8のオートミックスゲインを自動調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑬	Insert (MTX5-Dのみ)	Mini-YGDAIカードへのインサートをオン/オフします。	「Insert」コンポーネントエディター
⑭	Matrix Mixer	入力チャンネルの信号をミックスして各ZONEへ送信します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑮	Matrix Out Fader	マトリクスミキサーからZONEへのレベルを調整します。	---
⑯	Effect	エフェクトの調整をします。	---
⑰	Zone	PGM1 に関する設定（MTX5-Dのみ）と、入力信号の優先度に応じた信号を出力します。	「Zone」コンポーネントエディター
⑱	From YDIF In	④[YDIF IN]端子からの入力信号です。	---
⑲	Oscillator	オシレーター信号を出力します。	---
⑳	Zone Out Fader	ZONEの出力レベルを調整します。	---
㉑	Router	アウトプットチャンネルへ信号を割り当てます。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」

番号	コンポーネント名	内容	リンク
㉒	Output Ch	出力チャンネルの信号処理を行います。	「Output CH」コンポーネントエディター
㉓	Output Fader	出力チャンネルのレベル調整をします。	---
㉔	Post on Input Fader	⑩[Input Fader]または⑫[Dugan Automixer]の出力信号です。	---
㉕	Post on Zone Out	⑳[Zone Out Fader]の出力信号です。	---
㉖	Output Patch	出力信号を各種出力端子に割り振ります。	---
㉗	YDIF Out Patch	出力信号を[YDIF]端子に割り振ります。	---
㉘	Pilot Tone	パイロットトーンを設定します。	「Pilot Tone」コンポーネントエディター
㉙	Analog Out	[OUTPUT] 端子の出力に関する設定および出力する音声信号のレベル表示をします。	「Analog Out」コンポーネントエディター
㉚	Dante Out (MTX5-Dのみ)	Danteの出力に関する設定をします。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
㉛	Slot Out (MTX5-Dのみ)	Mini-YGDAI カードの出力に関する設定および出力する音声信号のレベル表示をします。	「Slot Out」コンポーネントエディター
㉜	YDIF Out	[YDIF]端子に出力します。	---
㉝	Input DCA Groups	入力チャンネルのDCAグループを設定します	「DCA Groups」/「Mute Groups」コンポーネントエディター
㉞	Input Mute Groups	入力チャンネルのミュートグループを設定します。	「DCA Groups」/「Mute Groups」コンポーネントエディター
㉟	Zone DCA Groups	ZONE 出力のDCAグループを設定します。	「DCA Groups」/「Mute Groups」コンポーネントエディター
㊱	Zone Mute Groups	ZONE出力のミュートグループを設定します。	「DCA Groups」/「Mute Groups」コンポーネントエディター

15.9.1. 「Analog In」コンポーネントエディター

[INPUT] 端子のHA(ヘッドアンプ) に関する設定および入力された音声信号のレベル表示をします。



① チャンネルインデックス
アナログ入力端子番号を表示します。

② レベルメーター
アナログ入力レベルを表示します。

③ [GAIN] ノブ
HA(ヘッドアンプ) のアナログゲインを調整します。

④ [+48V] ボタン
HAのファンタム電源(+48V) のオン/ オフを切り替えます。

ご注意

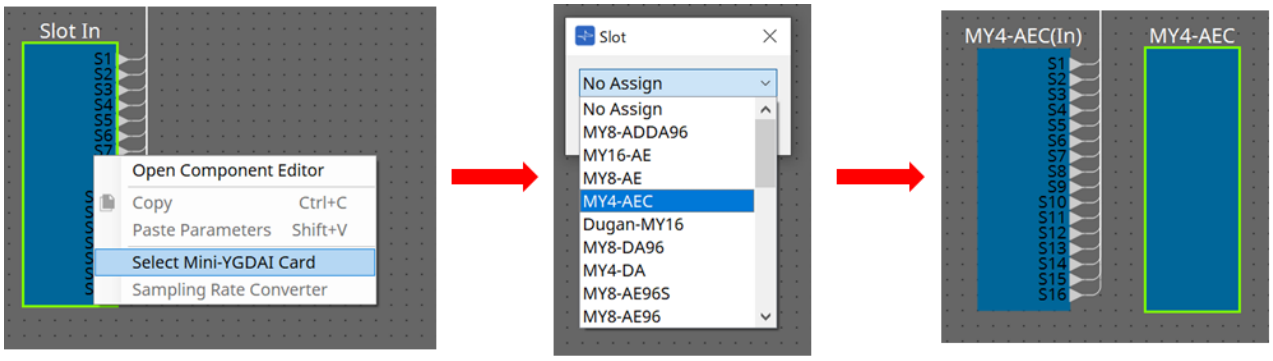
ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。
ファンタム電源をオンにする場合、機器本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

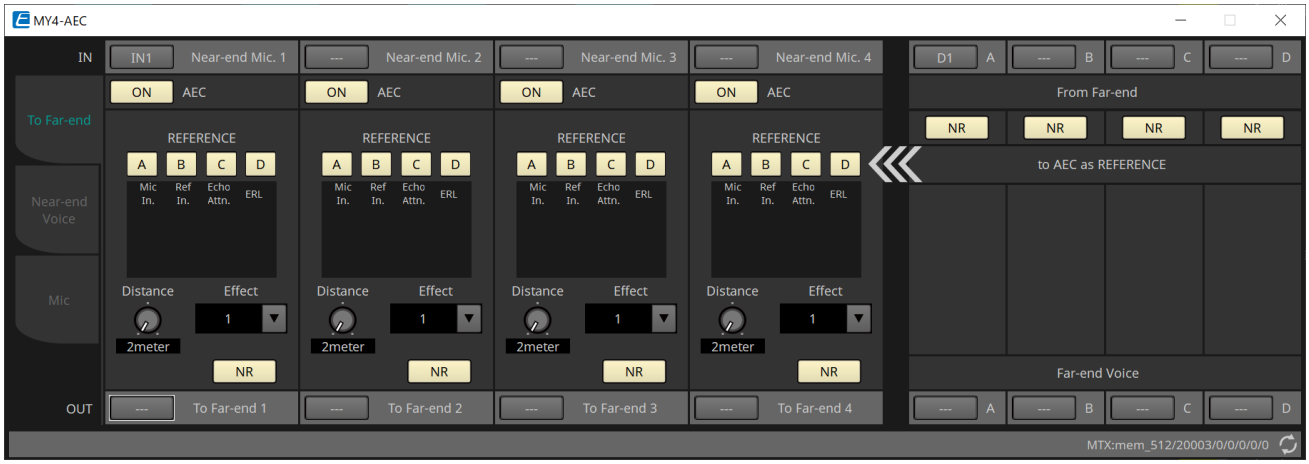
- [INPUT]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ボタンをオンにしたまま、[INPUT]端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン/オフは、出力レベルを最小にした状態で行う。

+48V Activeスイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

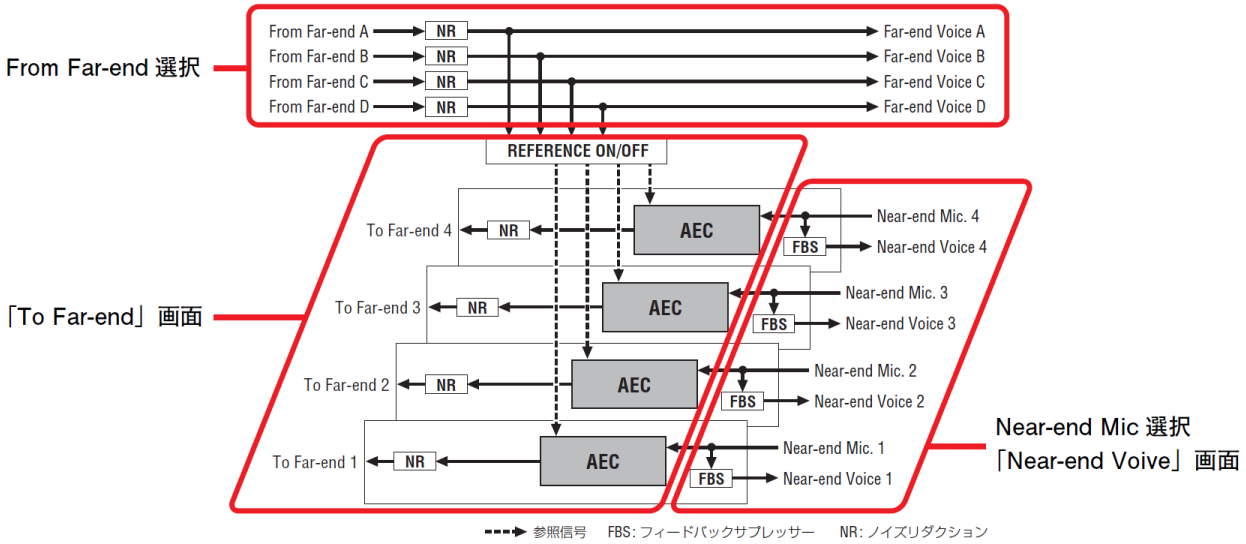
15.9.2. 「MY4-AEC」コンポーネントエディター

[Slot in]または[Slot Out]コンポーネント(MTX5-Dのみ)を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューで「Select Mini-YGDAI Card」をクリックし、MY4-AECカードを選択すると「MY4-AEC」コンポーネントが表示されます。





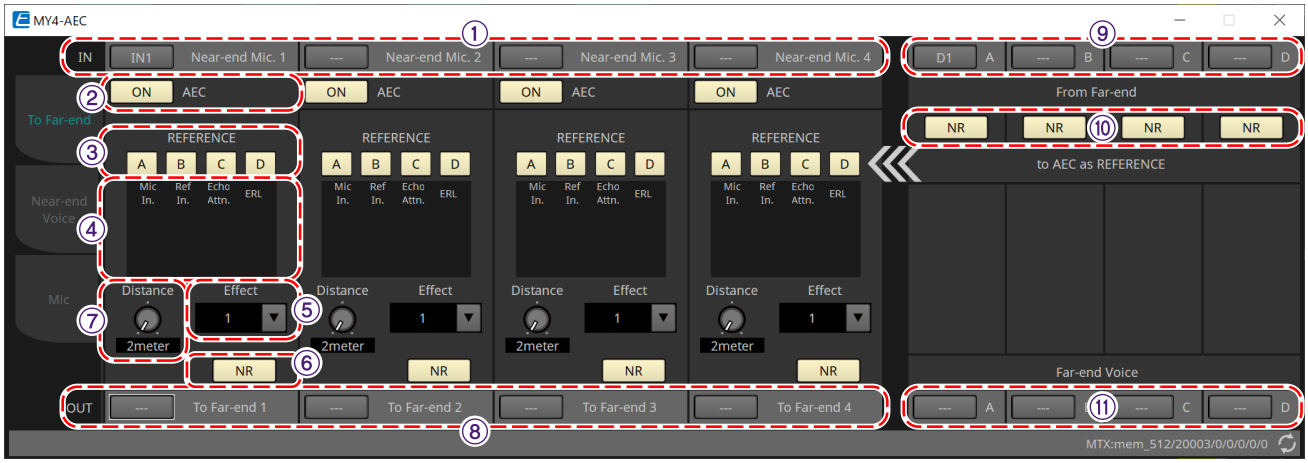
この画面ではMY4-AEC の信号に関する設定をします。
遠隔会議システムにおいて、近接地/ 遠隔地の環境のことをそれぞれNear-end/Far-end といいます。
MY4-AEC のアコースティックエコーキャンセラー(AEC) は、Far-end からの信号を参照信号としてマイク入力信号に含まれるエコー成分について学習を行い、マイク入力信号からFar-end のエコー成分のみを差し引きます。これにより、Near-end のクリアな音声を相手側に伝達できます。
MY4-AEC の信号は以下の選択や画面で設定します。



From Far-end	遠隔地(相手側) からの入力信号
Far-end Voice	近接地(自分側) のスピーカーで再生する遠隔地からの信号
Near-end Mic.	近接地のマイクからの入力信号
Near-end Voice	近接地のスピーカーで再生する近接地のマイクからの信号
To Far-end	遠隔地に送信するエコーキャンセル処理した近接地のマイク信号

■「To Far-end」画面

マイクのエコーキャンセル処理を設定する画面です。
エコーキャンセル処理をしたあとのマイク信号は遠隔地に出力します。



① [Near-end Mic]選択ボタン
近接地のマイク (Near-end Mic.) のポートを選択します。ポート選択ボタンをクリックすると、「Input Patch」ダイアログが開きます。ボタン表面には選択中のポートが表示されます。

② AEC [ON] ボタン
エコーキャンセラー機能のオン/ オフを切り替えます。

③ REFERENCE[A][B][C][D] ボタン
From Far-end 選択で設定した信号をAEC の参照信号(REFERENCE) として使用するかどうかを選択します。複数選択した場合は、ミックスされます。

④ メーター

- **Mic In. メーター**
  自分側のマイク(Near-end Mic.) から入力された信号のレベルを示します。
- **Ref In. メーター**
  参照信号のレベルを示します。黄色がときどき点灯する程度のレベルに保つことによって、エコーキャンセラーがより効果的に機能します。
- **Echo Attn. メーター**
  エコーキャンセル量をチャンネルごとに表示します。このレベルが大きいほどエコーキャンセラーが機能していることを示します。
- **ERL メーター**
  ERL (エコーリターンロス＝スピーカーから出力されて再びマイクに入力される音声のレベル) を示します。このレベルがなるべく小さくなるようにスピーカーとマイクの位置を調整すると、エコーキャンセ

ラーがより効果的に機能します。

⑤ [Effect] リストボックス
エコーの除去量を設定します。数字が大きくなるほど多くのエコーを除去できます。しかしその分音質が劣化しますので、バランスをチェックしながら調節してください。

⑥ [NR] ボタン
近接地にあるプロジェクターや空調などの恒常的なノイズの除去を行うノイズリダクション機能のオン/ オフを切り替えます。通常はオンにすることをおすすめします。

⑦ [Distance] ノブ
設置しているマイクとスピーカーの距離をメートル単位で設定します。複数のマイクとスピーカーを接続している場合は、最も近いマイクとスピーカーの距離を設定します。距離が2m 以下の場合は2 に設定してください。

⑧ [To Far-end] チャンネル選択ボタン
遠隔地に出力する音声信号 (To Far-end) の出力先を選択します。クリックすると「Output Patch」ダイアログを開きます。

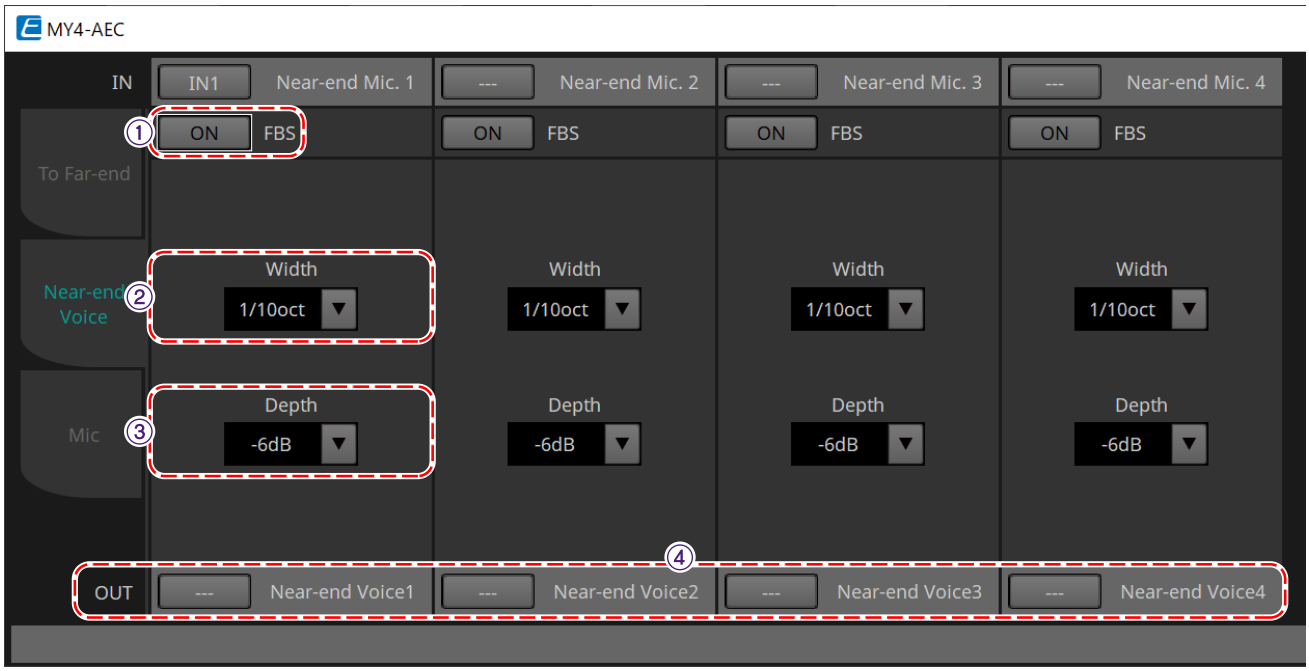
⑨ [From Far-end]信号選択ボタン
遠隔地の音声信号 (From Far-end) を選択する「Input Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のポートまたはチャンネルが表示されます。

⑩ [NR] ボタン
遠隔地にあるプロジェクターや空調などの恒常的なノイズの除去を行うノイズリダクション機能のオン / オフを切り替えます。通常はオンにすることをおすすめします。ノイズリダクションのあとの音声信号が参照信号 (REFERENCE) となります。

⑪ [Far-end Voice] 選択ボタン
近接地のスピーカーに出力する音声信号 (Far-end Voice) の出力先を選択します。クリックすると「Output Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のチャンネルが表示されます。

Far-end Voice はNear-end Mic. とミックスしてスピーカーに出力することを想定しています。そのため、MY4-AEC から見ると、MTX の入力チャンネルに対してFar-end Voice を出力します。

■「Near-end Voice」画面



MY4-AEC に内蔵されているFBS (Feed Back Suppressor) に関する設定をする画面です。

① FBS[ON] ボタン

フィードバックサプレッサー機能のオン/ オフを切り替えます。
MY4-AEC のFBS は、絶えず変化するハウリングポイントを見つけてフィルターの設定を更新する方式(DYNAMICS) です。
MTX5-D の電源を切るとリセットされ、ノッチフィルターを挿入していない状態に戻ります。

② [Width] リストボックス

ハウリングを検出した周波数に挿入するノッチフィルターの遮断幅を設定します。フィードバックサプレッサーによる音質変化が気になる場合は遮断幅を細くしてください。「1/93」に設定するとノッチフィルターの遮断幅が最も細くなります。ただし、その場合フィードバックサプレッサーの効果が小さくなることがあります。

③ [Depth] リストボックス

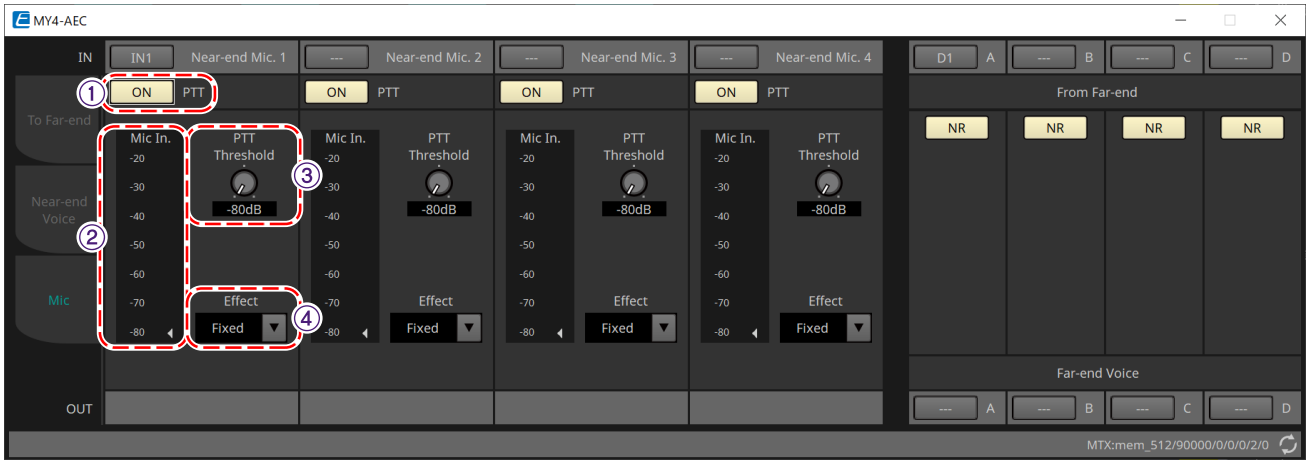
ハウリングを検出した周波数に挿入するノッチフィルターの遮断量を設定します。「-18」に設定するとハウリングを最も強く抑制します。ただし、その場合フィードバックサプレッサーによる音質変化が大きくなる場合があります。

④ [Near-end Voice] チャンネル選択ボタン

近接地に出力する音声信号(Near-end Voice) の出力先を選択します。クリックすると「Output Patch」ダイアログを開きます。

■「Mic」画面

PTT (プッシュトゥトーク) スイッチ付きのマイクを使用した場合、PTT スイッチがオフのときに微小なノイズが生じることがあります。このノイズがAEC に入力されるとAEC が誤って学習し、PTT スイッチをオンにして会話を再開したときにエコーが生じてしまいます。この画面はそのような現象を防ぐための設定やマイクのタイプの設定をします。



① PTT[ON] ボタン

オンに設定すると、近接地のマイク(Near-end Mic.) からの入力レベルがPTT Threshold で設定した値を下回ったときにマイクのPTT スイッチがオフになったと判断し、AEC の学習を停止します。通常はオンにすることをおすすめします。

② Mic In. メーター

近接地のマイク(Near-end Mic.) から入力された信号のレベルを示します。マイクのPTT ボタンをオフにしたときに生じるノイズのレベルもこのメーターで確認できます。

③ [PTT Threshold] ノブ

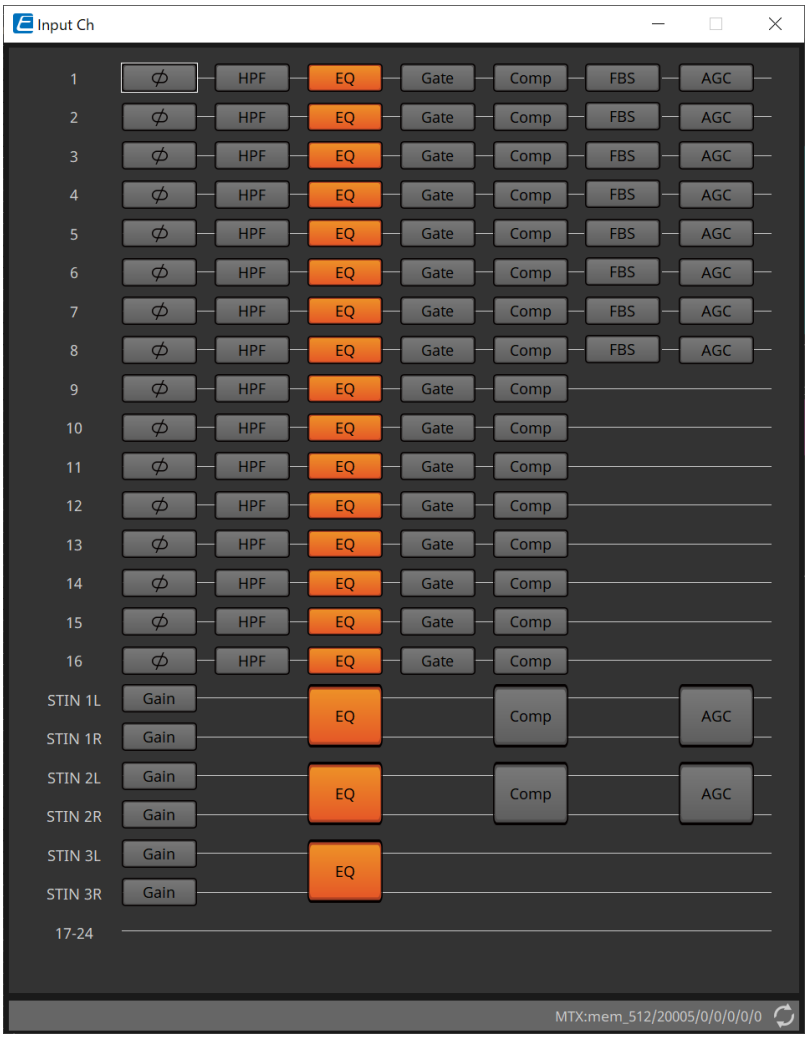
AEC が学習を行う基準レベルを設定します。PTT[ON] ボタンがオンに設定されているとき、近接地のマイク(Near-end Mic.) への入力信号がこのレベルよりも下回るとAEC の学習が止まり、このレベルを超えると学習が再開します。入力信号のレベルはMic In.メーターで確認します。

④ [Mic. Type] リストボックス

接続しているマイクの種類を設定します。
マイクとスピーカーの距離が固定された環境では「Fixed」に、ハンドマイクなど距離が変化する環境では「Moving」に設定してください。また、マイクとスピーカーの距離が固定された環境であっても、エコーが気になる場合は、「Moving」に設定してください。

15.9.3. 「Input CH」コンポーネントエディター

入力チャンネルの信号処理を行う画面です。



「Polarity」、「HPF/EQ」、「Gate」、「Comp」、「FBS」、「AGC」の信号処理を行います。

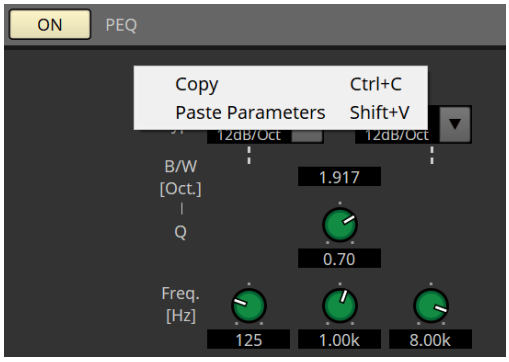
●画面選択

各ボタンをクリックすることにより、各設定をする画面に切り替わります。

各コンポーネント/エディターの各種パラメーターの調整については、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照してください。

●「INPUT」画面共通の操作

チャンネルの設定は他のチャンネルにコピーすることができます。エリア内で右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。


ON
PEQ
Copy
Ctrl+C
Paste Parameters
Shift+V
12dB/Oct
12dB/Oct
B/W
[Oct.]
Q
1.917
0.70
Freq.
[Hz]
125
1.00k
8.00k

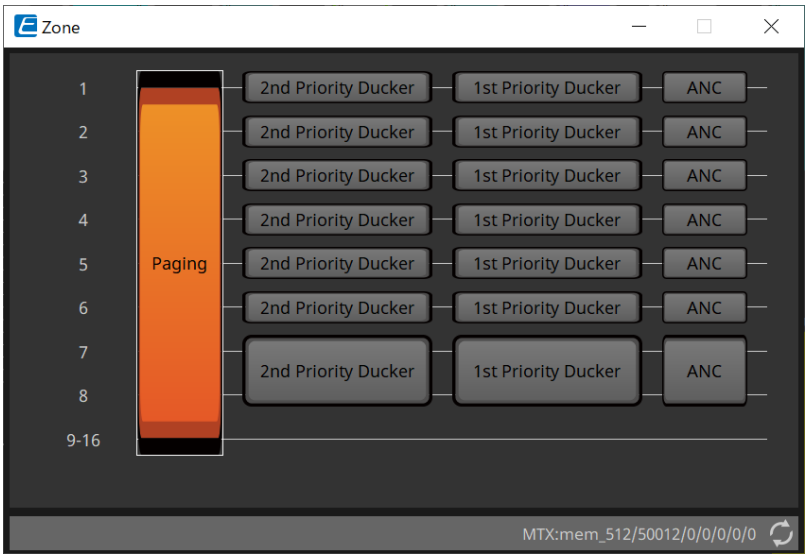
15.9.4. 「Insert」コンポーネントエディター

インサートのオン/オフを編集する画面を8チャンネル単位で表示します。
オンにするとPOST ONから[SLOT]に挿入されたMini-YGDAIカードへ音声信号が送られます。

Mini-YGDAI カードを挿入していなかったり、インサートに対応していないMini-YGDAIカードが挿入されている状態でオンにすると音声が出なくなります。

15.9.5. 「Zone」コンポーネントエディター

PGM1に関する設定と、入力信号の優先度に応じた信号を出力するように設定する画面です。



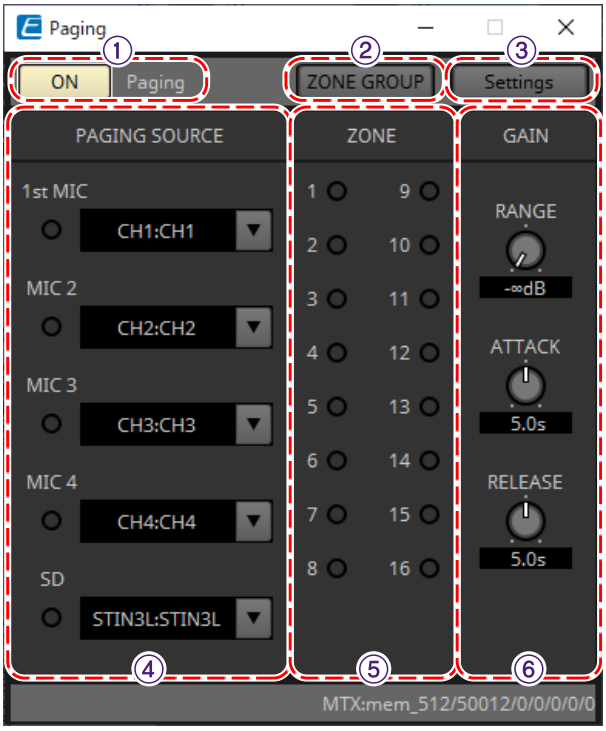
各ボタンをクリックすることにより、各設定をする画面に切り替わります。

- **[Paging]**
  ページングステーションマイクロフォン PGM1 を設定する「Paging」コンポーネントエディターを表示します。
- **[2nd Priority Ducker]**
  [1st Priority Ducker]
  「Priority Ducker」コンポーネントエディターを表示します。
- **[ANC]**
  「Ambient Noise Compensator」コンポーネントエディターを表示します。

DuckerとANCの詳細については、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

■「Paging」コンポーネントエディター(MTX5-Dのみ)

ページングステーションマイクロフォンPGM1に関する設定を行います。
PAGINGとは「放送呼び出し」機能のことです。
設定については「Pagingの設定の流れ」を参照ください。
ここで記述しているSDのメッセージとは、MTXのSDカードに保存されている定型のアナウンスなどを指します。



① Paging[ON]ボタン
Paging機能のオン/オフを設定します。

② [ZONE GROUP]ボタン
クリックすると「ZONE GROUP」エディターが開きます。

③ [Settings]ボタン
クリックすると「PGM1/PGX1」エディターが開きます。

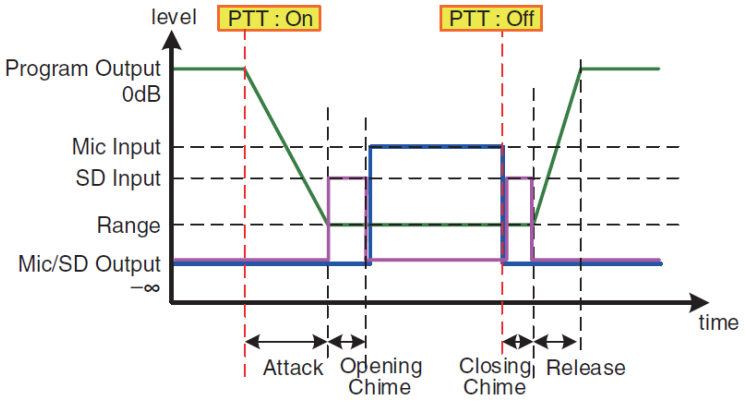
④ PAGING SOURCE設定エリア

- **インジケーター**
  現在放送中のPGM1やSDがあると点灯します。
- **チャンネルリストボックス**
  ページングソースを選択します。PGM1やSDが接続されている入力チャンネルを選択してください。1st Priorityに設定しているPGM1の入力チャンネルは1st Micに設定してください。

⑤ ZONEエリア

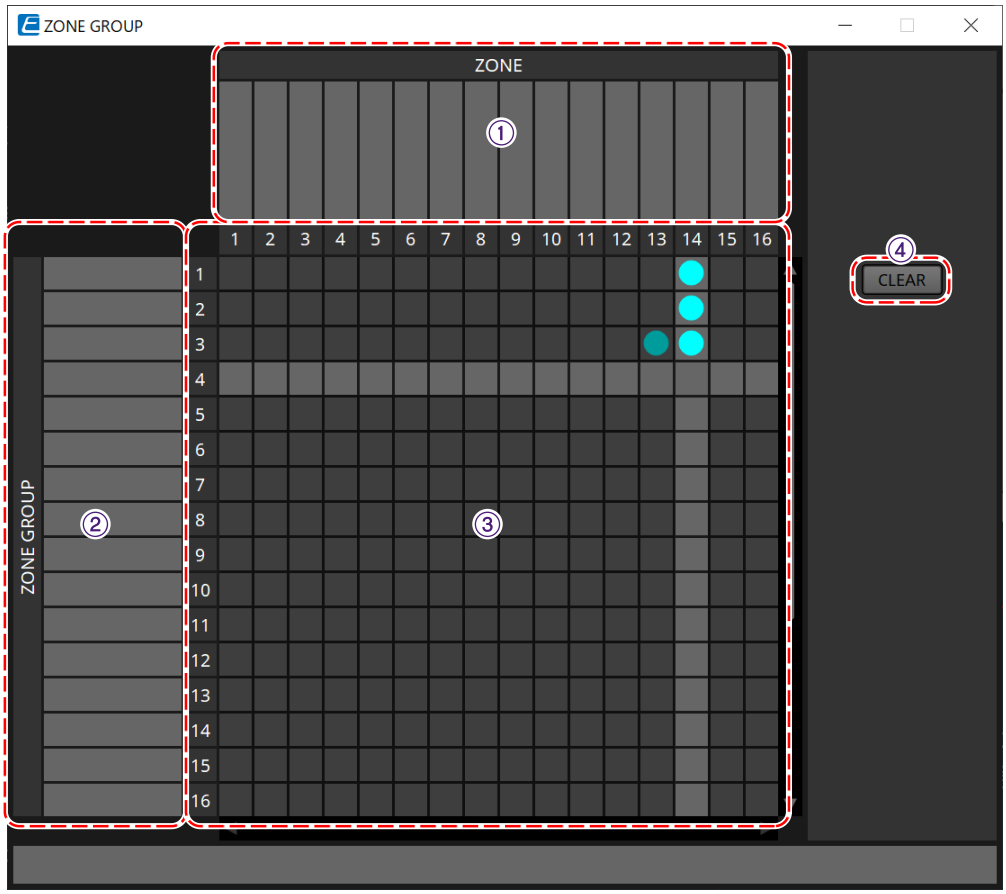
- **インジケーター**
  PGM1やSDのメッセージを使って現在放送中のゾーンがあると点灯します。

⑥ GAIN設定エリア
各ノブは< Alt >キーを押しながらクリックすると、初期値になります。
このエリアでは以下の流れのうち、緑色の線に関する設定をします。



- **[RANGE]ノブ**
  チャイムが鳴っているときやPGM1で放送しているときのProgramの値を設定します。
- **[ATTACK]ノブ**
  PGM1 のPTTがオンになってからProgramがRANGEの値に下がるまでの時間を設定します。
- **[RELEASE]ノブ**
  放送またはクロージングチャイムの再生が終わってからProgramが元のレベルになるまでの時間を設定します。

■「ZONE GROUP」エディター



① ゾーン名
ゾーン名を表示します。

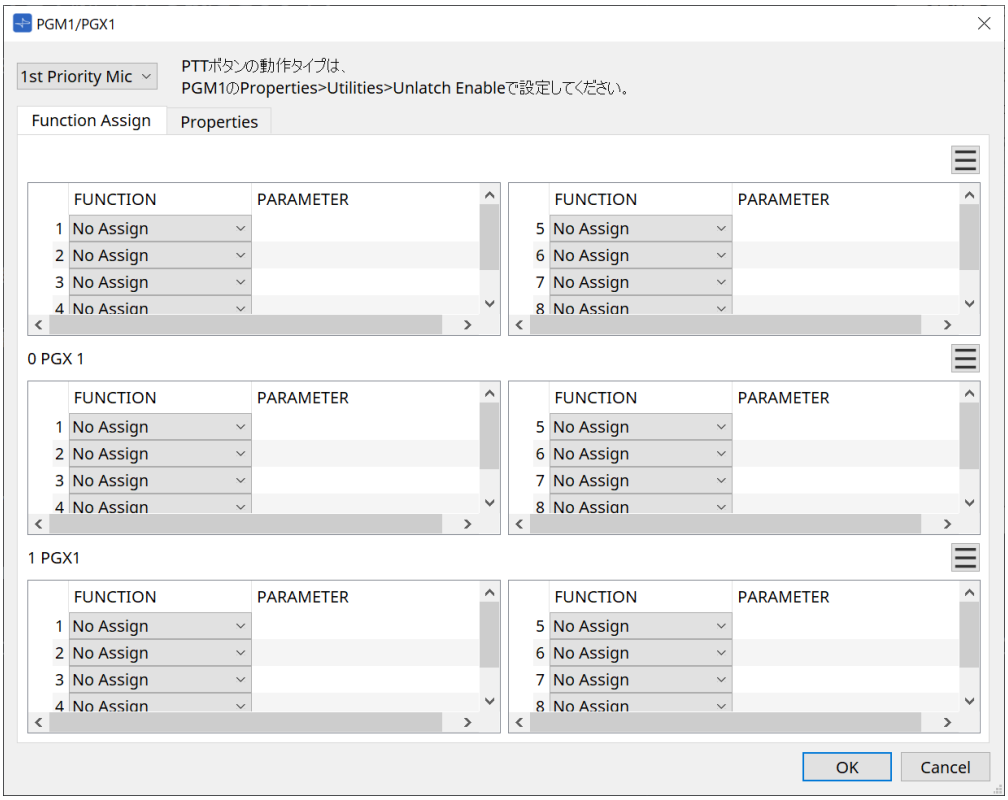
② グループ名
グループ名を表示します。

③ ZONE GROUPマトリクス
PGM1/PGX1の1つのゾーン/メッセージ選択ボタンで複数のゾーンを放送対象にしたいときに、ゾーングループを設定します。マトリクス上でクリックして、Zone Groupに追加するZoneを選択します。ゾーングループは24個まで設定できます。

④ [CLEAR]ボタン
設定したZONE GROUPをクリアします。

■「PGM1/PGX1」エディター

PGM1 やPGX1 のゾーン/ メッセージ選択ボタンへの割り当てや、PTT ボタンの設定をします。



- **PGM1 選択リストボックス**
  設定対象のPGM1を選択します。

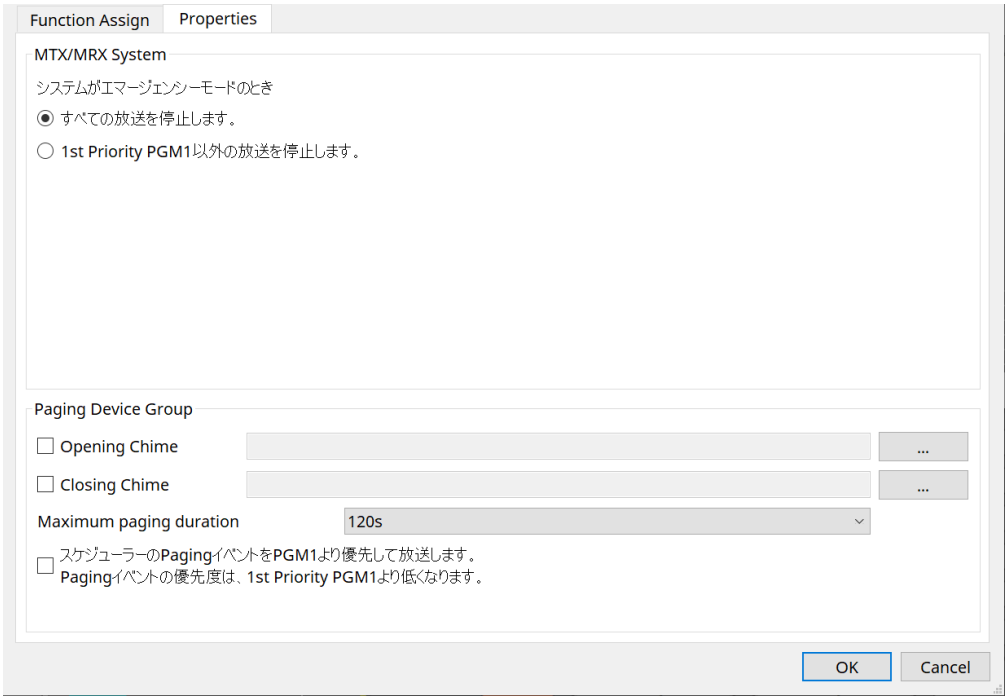
> MTX本体にPGM1を接続していなくてもPGM1/PGX1の設定はできます。稼働時には、PGM1/PGX1を適切に接続してください。

- **[Function Assign] タブ**
  PGM1 やPGX1 のゾーン/ メッセージ選択ボタンに機能を割り当てます。
  「FUNCTION」には以下の選択肢があります。
  - **[No Assign]**
    ボタンに機能を割り当てません。
  - **[Zone]**
    放送するゾーンを選択/ 選択解除します。
    選択したときにゾーン/ メッセージインジケーターが点灯します。
  - **[Zone Group]**
    放送する複数のゾーンを一括して選択/ 選択解除します。
    ゾーングループは「ZONE GROUP」エディターで設定してください。
    グループに登録されているすべてのゾーンに放送できる状態になっているときにゾーン/ メッセー

ジインジケーターが点灯します。

- **[SD Message]**
  再生するSDカードのファイルを選択します。
- **[All Zone Off]**
  すべてのゾーン/ ゾーングループを選択解除します。
  他のPGM1/PGX1 のゾーン/ ゾーングループの選択状態には影響しません。
- **[All Zone On/Off]**
  すべてのゾーン/ ゾーングループを選択/ 選択解除します。
  他のPGM1/PGX1 のゾーン/ ゾーングループの選択状態には影響しません。
  すべてのゾーン/ ゾーングループに放送できる状態になっているときにゾーン/ メッセージインジケーターが点灯します。

- **メニューボタン**(≡)
  メニューボタンをクリックすると、以下のファンクションが実行できます。
  - **[Copy]**
    該当する機器のFUNCTION とPARAMETER をコピーバッファーにコピーします。
  - **[Paste]**
    コピーバッファーにあるFUNCTION とPARAMETER を該当する機器に上書きします。
  - **[Clear]**
    該当する機器のFUNCTION とPARAMETER を初期化します。
- **[Properties] タブ**
  PGM1 の動作について設定します。

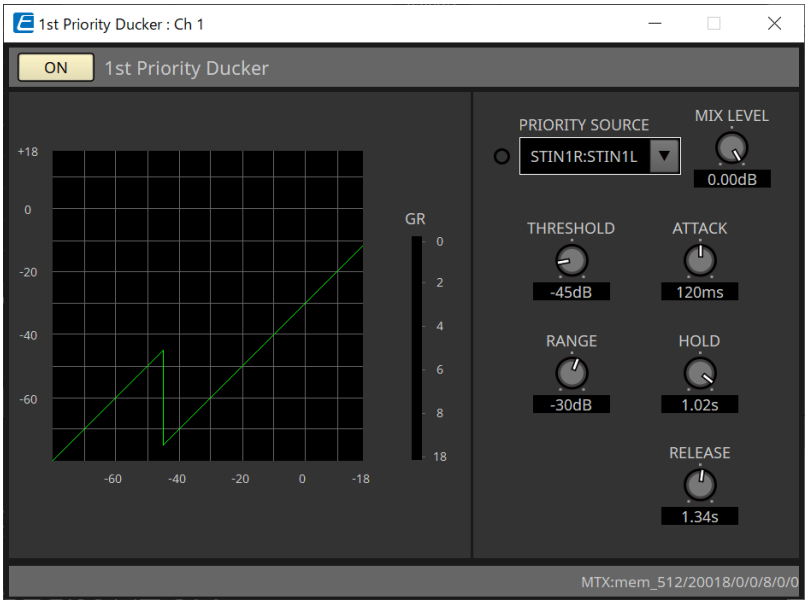


- **MTX**
  - **[すべての放送を停止します。] ラジオボタン**
    選択すると、MTXがエマージェンシーモードのとき、スケジューラーを含むページング放送ができなくなります。
  - **[1st Priority PGM1 以外の放送を停止します。] ラジオボタン**
    選択すると、MTXがエマージェンシーモードのとき、1st Priority PGM1 のみページング放送ができます。

- **Paging Device Group**
  - **[Opening Chime]/[Closing Chime] チェックボックス**
    チェックを入れると、オープニングチャイム/ クロージングチャイムを設定できます。右のボタンをクリックして再生するチャイムのファイルを指定してください。同じMTXにつながっているPGM1(Paging Device Group) で共通の設定となります。
  - **[Maximum paging duration] リストボックス**
    PTT オンにしてから自動的にオフにするまでの時間を選択します。メッセージを再生中は指定時間を過ぎてもオフになりません。同じMTXにつながっているPGM1 で共通の設定となります。
  - **[スケジューラーのPaging イベントをPGM1 より優先して放送します。Paging イベントの優先度は、1st Priority PGM1 より低くなります。] チェックボックス**
    チェックを入れると優先順位が「1st Priority PGM1> イベント> 普通のPGM1」になります。チェックを入れていないと優先順位が「1st Priority PGM1> 普通のPGM1>イベント」になります。
- **[OK] ボタン**
  設定を保持してダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を破棄してダイアログを閉じます。

■「PRIORITY DUCKER」コンポーネントエディター

DUCKERの設定を行います。
DUCKER とは、設定した入力チャンネルから音声信号が入ると、他のチャンネルからの入力を一時的に絞って、設定した入力チャンネルからの音声をはっきりと放送するために用いる機能です。優先順位は、「1st PRIORITY」の“PRIORITY SOURCE”>「2nd PRIORITY」の“PRIORITY SOURCE”>MATRIX Outの信号です。

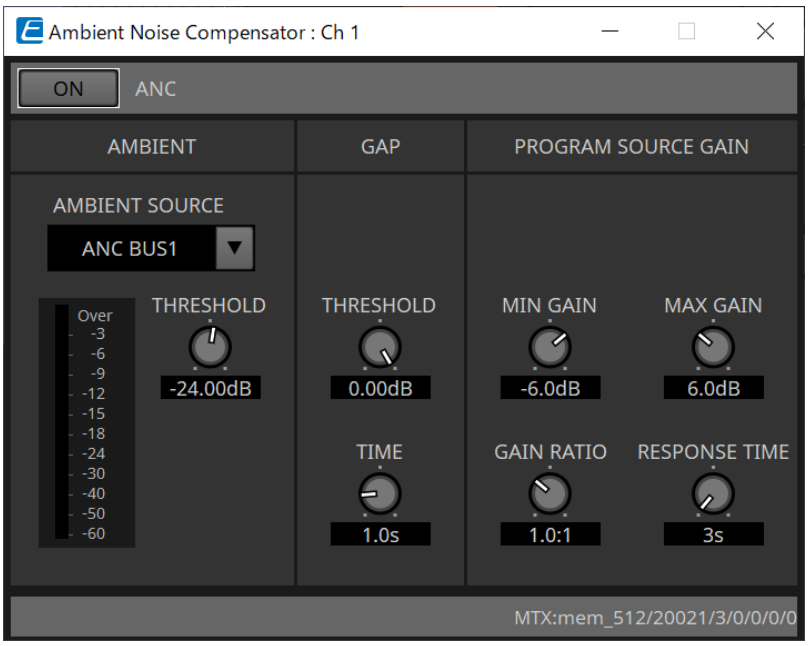


- **[PRIORITY SOURCE]リスト**
  DUCKERへの入力信号を選択します。
  ミックスした音声を優先度の高い音にする場合は、[ANC Bus]を選択してください。
  ANC Busへの音声のミックスは「Matrix Mixer」コンポーネントエディターでできます。

その他のパラメーターは、 「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」 を参照ください。

■「Ambient Noise Compensator」コンポーネントエディター

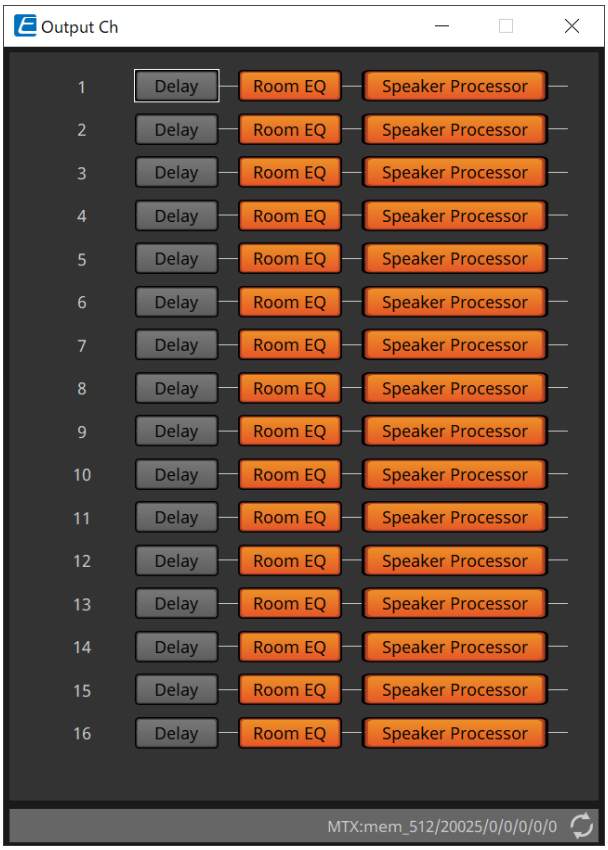
ANCとは、周辺ノイズ測定用のマイクから入力されたレベルに合わせて、MTXからの出力信号を増減させる機能です。MTXに搭載しているANCは、曲間などの無音部分を検知し、その間に騒音を測定しレベルを可変するGAPタイプのANCです。



パラメーターの詳細については、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

15.9.6. 「Output CH」コンポーネントエディター

出力チャンネルの信号処理を行う画面です。



「Delay」、「Room EQ」、「Speaker Processor」の信号処理を行います。

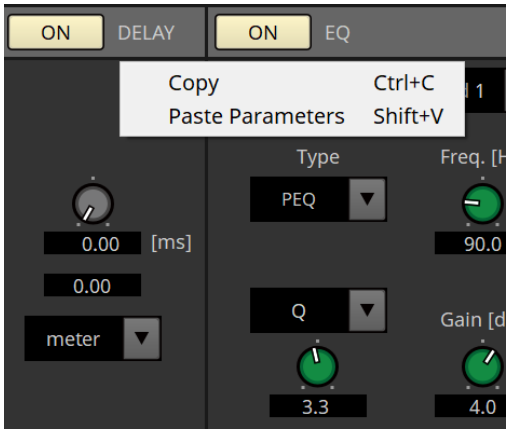
●画面選択

各ボタンをクリックすることにより、各設定をする画面に切り替わります。

各コンポーネントエディターの各種パラメーターの調整については、「ProVisionarie Designコンポーネントガイド」を参照してください。

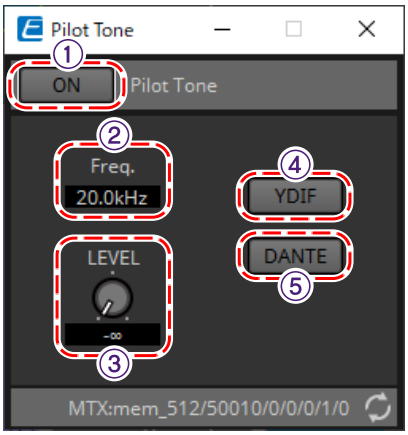
●「OUTPUT」画面共通の操作

チャンネルの設定は他のチャンネルにコピーすることができます。エリア内で右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。


ON
DELAY
ON
EQ
Copy
Ctrl+C
Paste Parameters
Shift+V
1
Type
Freq. [H
PEQ
0.00
[ms]
90.0
0.00
Q
Gain [d
meter
3.3
4.0

15.9.7. 「Pilot Tone」コンポーネントエディター

デジタル出力でパイロットトーンを送出するかどうかの設定をします。
パイロットトーンはPILOT TONE[ON]ボタンをオンにすると、パイロットトーンの出力がアサインされているYDIFもしくはDanteのアウトプットチャンネルに送出されます。

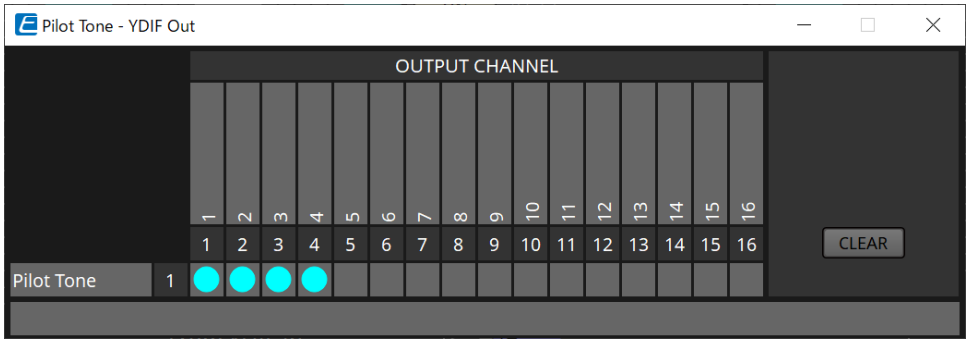


① PILOT TONE[ON]ボタン
パイロットトーン機能のオン/オフを設定します。オフの場合、”YDIF”、”DANTE”での設定がオンでもパイロットトーンは送出されません。

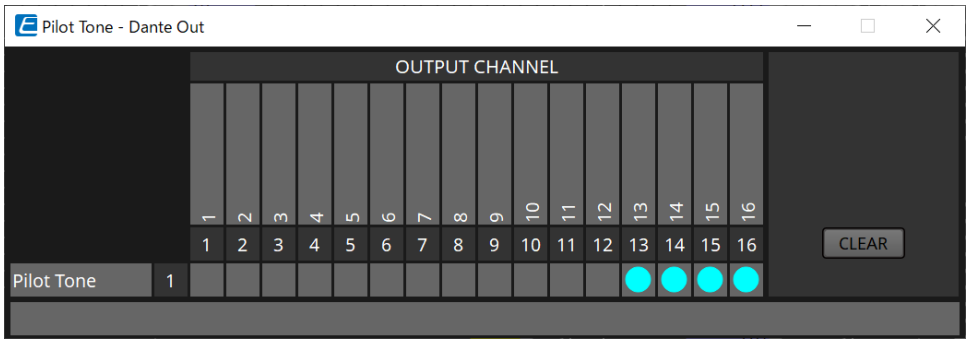
② Freq.
パイロットトーンの中心周波数を表示します。20kHz固定です。

③ [LEVEL]ノブ
パイロットトーンのレベルを設定します。

④ YDIFボタン
クリックするとYDIFへのパイロットトーン出力を設定する画面を開きます。

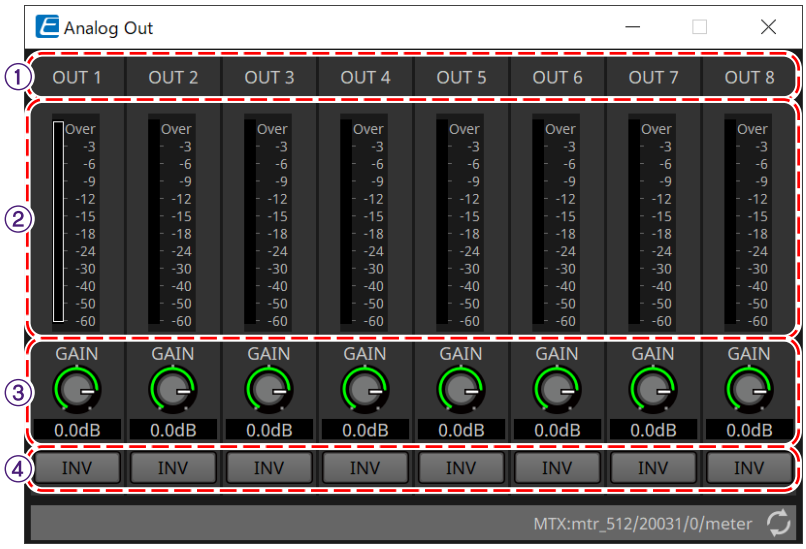


⑤ DANTEボタン(MTX5-Dのみ)
クリックするとDANTEへのパイロットトーン出力を設定する画面を開きます。



15.9.8. 「Analog Out」コンポーネントエディター

[OUTPUT] 端子の出力に関する設定および出力する音声信号のレベル表示をします。



① チャンネルインデックス
アナログ出力端子番号を表示します。

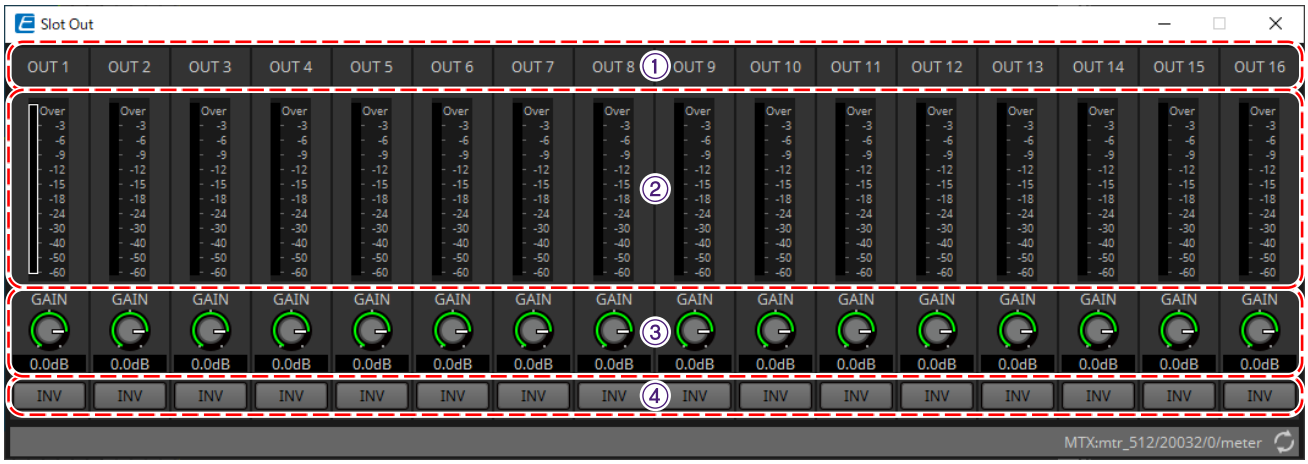
② レベルメーター
アナログ出力レベルを表示します。

③ [GAIN]ノブ
出力ゲインを調整します。

④ [INV]ボタン
出力信号の極性を切り替えます。

15.9.9. 「Slot Out」コンポーネントエディター

Mini-YGDAI カードの出力に関する設定および出力する音声信号のレベル表示をします。



① **チャンネルインデックス**
出力端子番号を表示します。

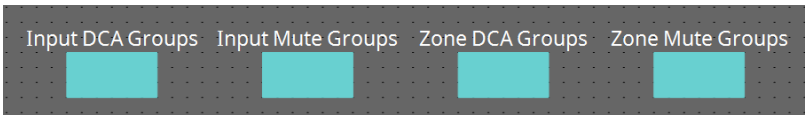
② **レベルメーター**
出力レベルを表示します。

③ **[GAIN]ノブ**
出力ゲインを調整します。

④ **[INV]ボタン**
出力信号の極性を切り替えます。

15.9.10. 「DCA Groups」/「Mute Groups」コンポーネントエディター

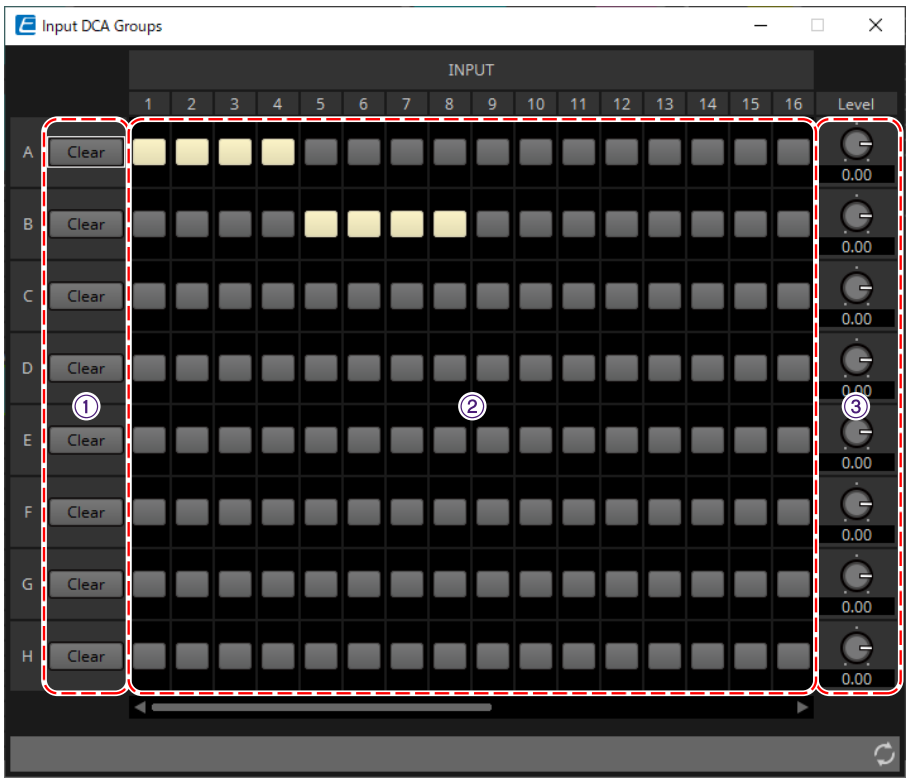
複数チャンネルのレベルやミュートを一括して操作するコンポーネントエディターです。



これらのコンポーネントエディターでは入力チャンネルのDCAグループとミュートグループが各8グループ、ZONE出力のDCAグループとミュートグループが各8グループ登録できます。
DCAグループでは複数チャンネルの入力レベルまたは出力レベルを一つのノブで一括操作できます。
また、ミュートグループでは複数チャンネルのオン/オフを一括操作できます。

- **「Input DCA Groups」コンポーネント**
  入力チャンネルのDCA グループを設定するエディターを表示します。
- **「Input Mute Groups」コンポーネント**
  入力チャンネルのミュートグループを設定するエディターを表示します。
- **「Zone DCA Groups」 コンポーネント**
  ZONE 出力のDCA グループを設定するエディターを表示します。
- **「Zone Mute Groups」コンポーネント**
  ZONE 出力のミュートグループを設定するエディターを表示します。

■ 「Input DCA Groups」コンポーネント/「Zone DCA Groups」コンポーネント
下記は「Input DCA Groups」コンポーネントの画面ですが、「Zone DCA Groups」コンポーネントも同じ画面構成です。



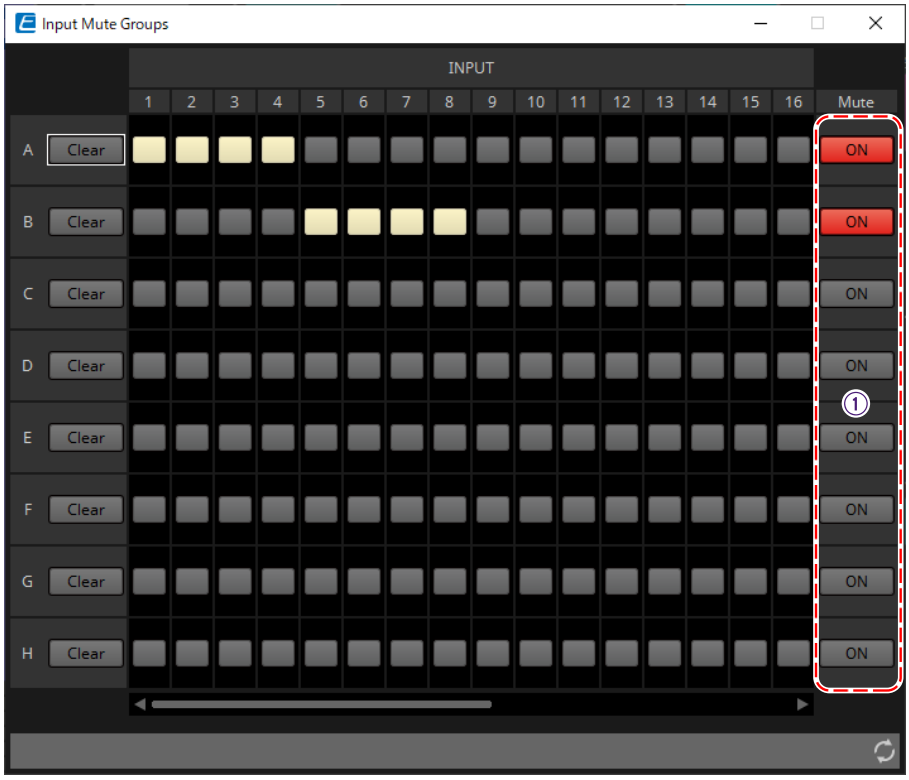
① [Clear]ボタン
グループに登録したチャンネルを一括で解除するボタンです。

② 登録チャンネルマトリクス
DCAグループにチャンネルを登録するマトリクスです。

縦軸にグループ名が、横軸に登録可能なチャンネル名が表示されています。交点をクリックすると、グループに登録できます。

③ [Level]ノブ
DCAグループごとにレベルを調整します。

■ 「Input Mute Groups」コンポーネント/「Zone Mute Groups」コンポーネント
下記は「Input Mute Groups」コンポーネントの画面ですが、「Zone Mute Groups」コンポーネントも同じ画面構成です。



① [Mute] グループメインボタン
ミュートグループごとにオン/オフを切り替えるボタンです。

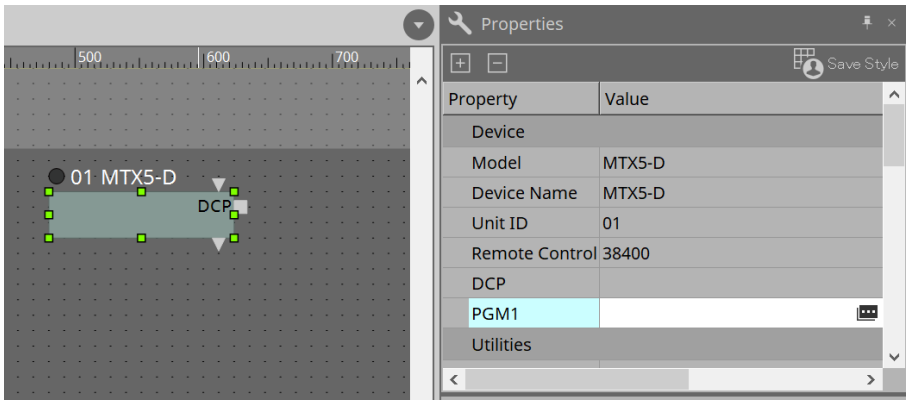
15.10. Paging(ページング)の設定の流れ

PGM1は1台のMTX5-Dにつき4台まで接続できます。1台のPGM1が1st Priority Micとなって、他のPGM1より優先的に放送することができます。

MTX5-DにPGM1を４台接続する例で説明します。
他のマイクより放送の優先順位の高いマイクを1st Priority Mic（Unit ID = 60）と呼び、その出力をMTX5-DのDante Input 1Chにパッチします。
同様にMic2～4(Unit ID=61～63)は、MTX5-DのDante Input 2Ch～4Chにパッチします。

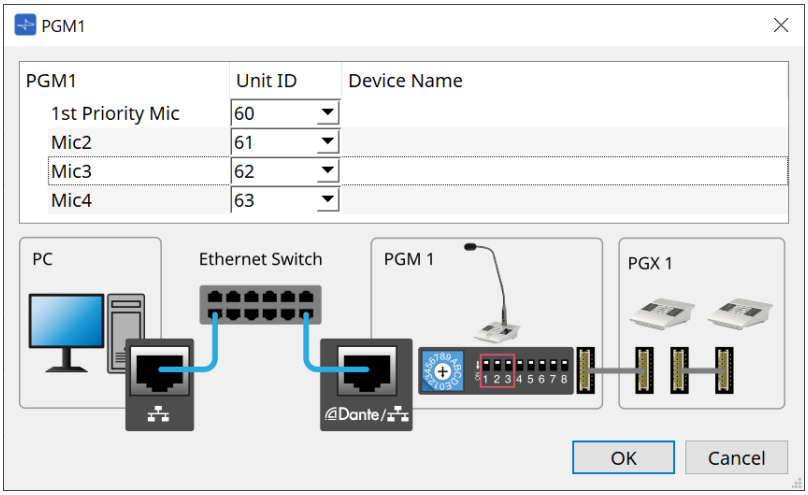
Danteの設定はDante Controllerで行ってください。

1. **「Project」シートにMTX5-Dを配置する。**
2. **「Project」シートに配置したMTX5-Dを選択する。**

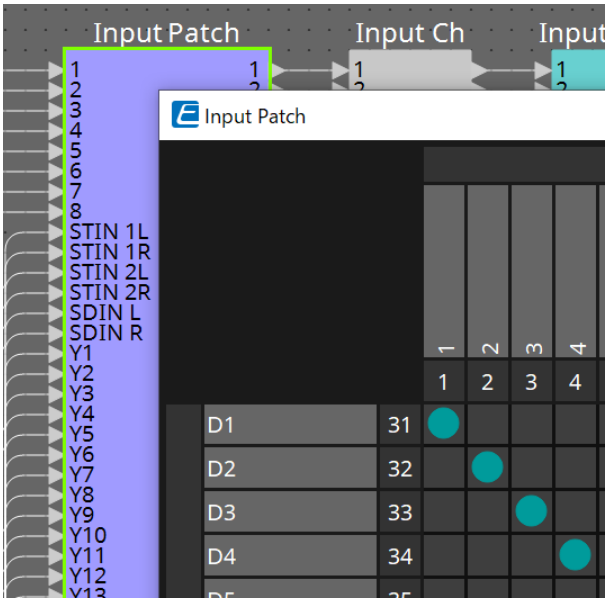


「Properties」エリアの「PGM1」のValue欄をクリックすると表示されるをクリックし、「PGM1」ダイアログを表示します。

3. **PGM1のUnit ID(60～63)を指定する。**

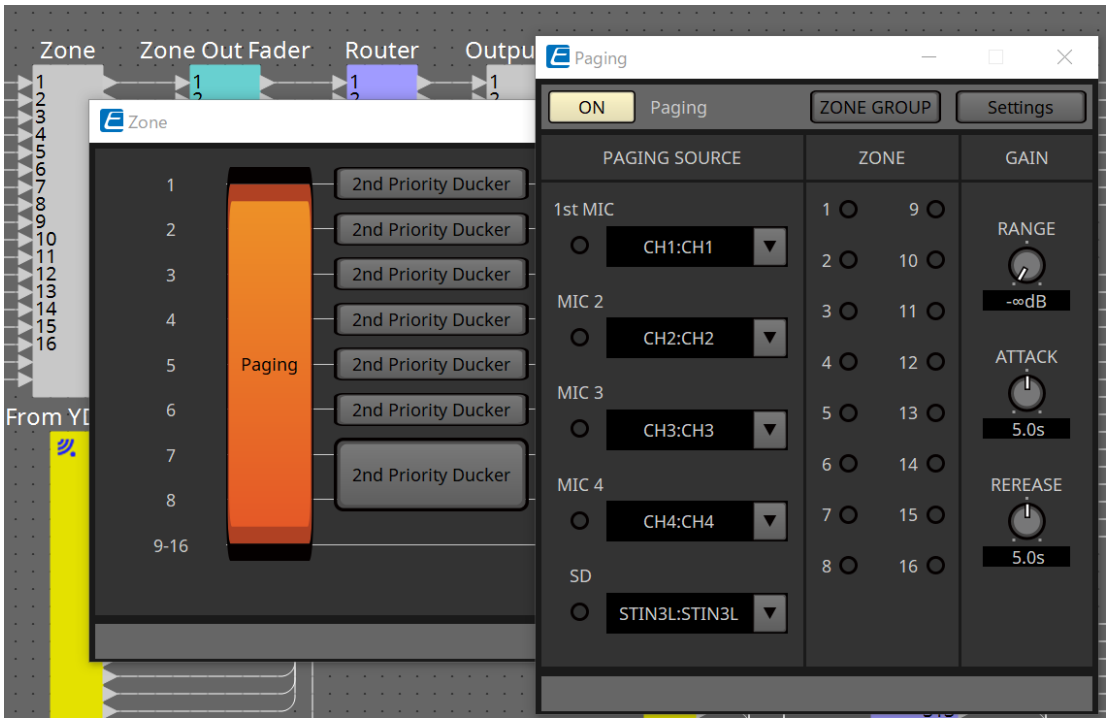


4. **MTX5-Dの「Input Patch」コンポーネントエディターを開く。**



D1をインプットチャンネル１にアサインします。
同様にD2～D4をインプットチャンネル2～4にアサインします。

5. **MTX5-Dの「ZONE」コンポーネント　>「Paging」コンポーネントエディターを開く。**



PAGING SOURCEの1st Micで「CH1:CH1」を選択します。
他も同様に選択します。

6. **[Settings]ボタンをクリックすると表示される「PGM1/PGX1」エディターでボタンに機能をアサインする。**
必要に応じて、[ZONE GROUP]ボタンをクリックすると表示される「ZONE GROUP」エディターでZONE GROUPを設定してください。

「PGM1/PGX1」エディター、「ZONE GROUP」エディターはそれぞれの説明を参照ください。

PGM1のProperties > Utilities > Unlatch Enableの初期設定は"OFF"です。
Unlatch Enableの設定を変更し、PGM1本体に反映させるには、以下の作業が必要です。
1. ProVisionaire DesignがPGM1を発見できるように、コンピューターにBonjour Print Serviceをインストールする。
2. 「Project」シートにPGM1を配置する。配置時に"３"で設定したUnit IDを指定する。
同期(Synchronization)するときに、設定が反映されます。

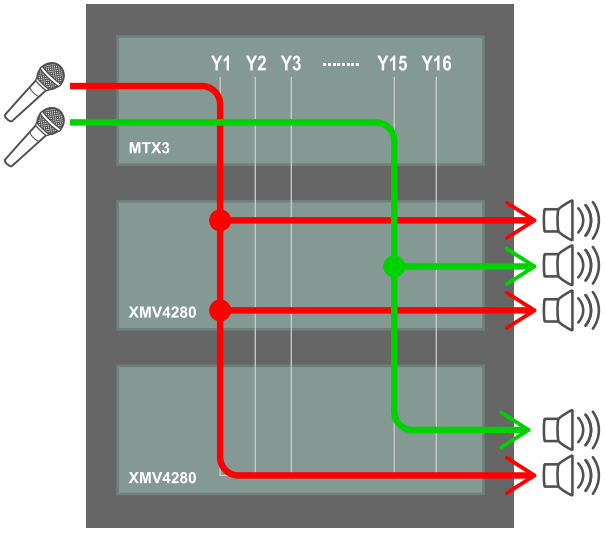
16. YDIF

16.1. YDIFとは

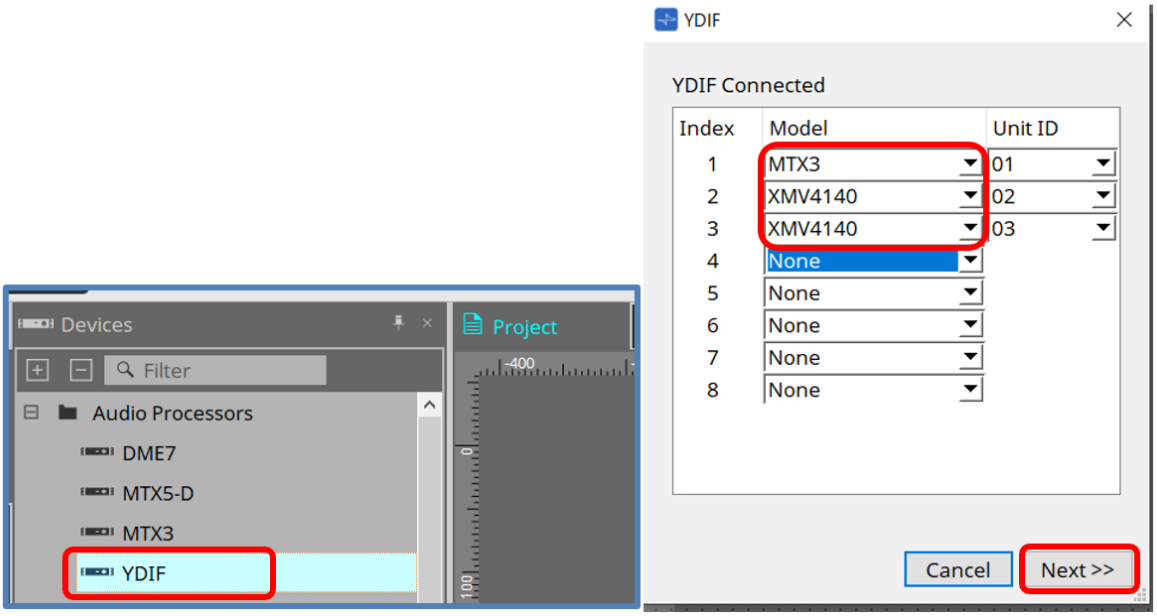
YDIFとはEthernetケーブルを使い、最大16チャンネルの音声とワードクロックを送受信できるデジタル音声伝送フォーマットです。機器間（MTXシリーズ/XMV/EXi8/EXo8）をEthernetケーブルで接続することで、最大16チャネルの音声信号を劣化することなく受け渡すことができます。

YDIFを用いることで、ケーブルの接続を変更することなく簡単に信号ルーティングを切り替えることができます。

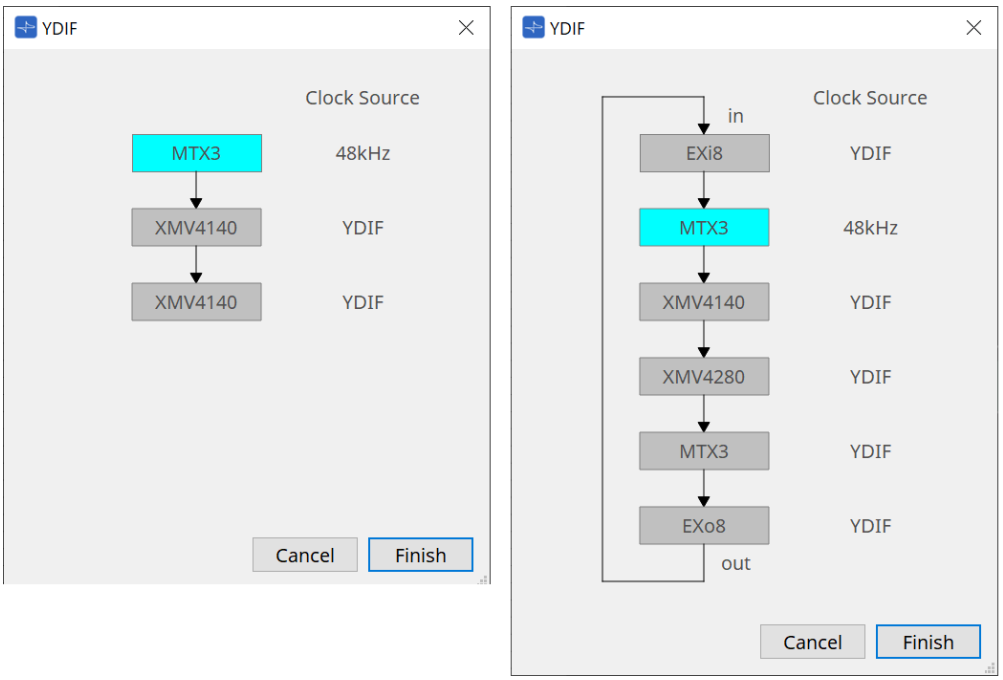
例えば下図のように「複数台のスピーカから同じマイク入力信号を出力する」といったケースも、YDIFのルーティングの設定のみで実現できます。



16.2. YDIFの設定方法(「Project」シート)

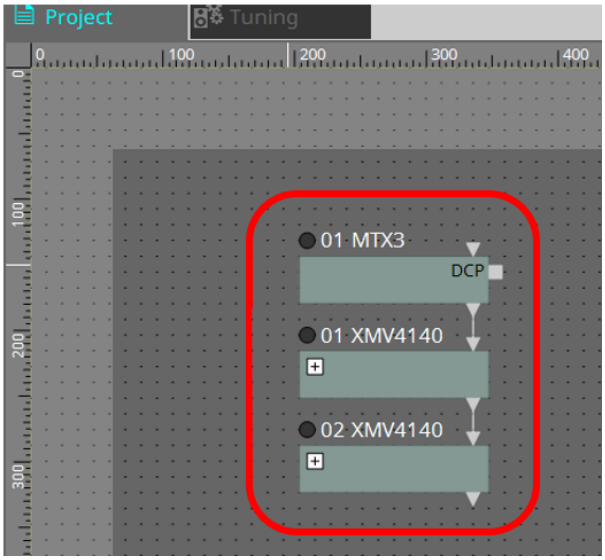


「Device」エリア内のYDIFコンポーネントを「Project」シートに配置してください。この時に、ウィザード形式のYDIFの設定画面が表示されます。
YDIF Connected 画面で、使用するModelをプルダウンメニューから選択し、[Next]ボタンを押してください。



結線図およびClock Sourceが表示されます。
表示された結線図に沿って、実際の機器同士をYDIFケーブルで接続してください。
リング接続をする必要がない場合（左図）と、リング接続する必要がある場合（右図）の、2パターンがあるのでご注意ください。

[Finish]ボタンを押すと、「Project」シート内にYDIF結線されたデバイス群が作成されます。



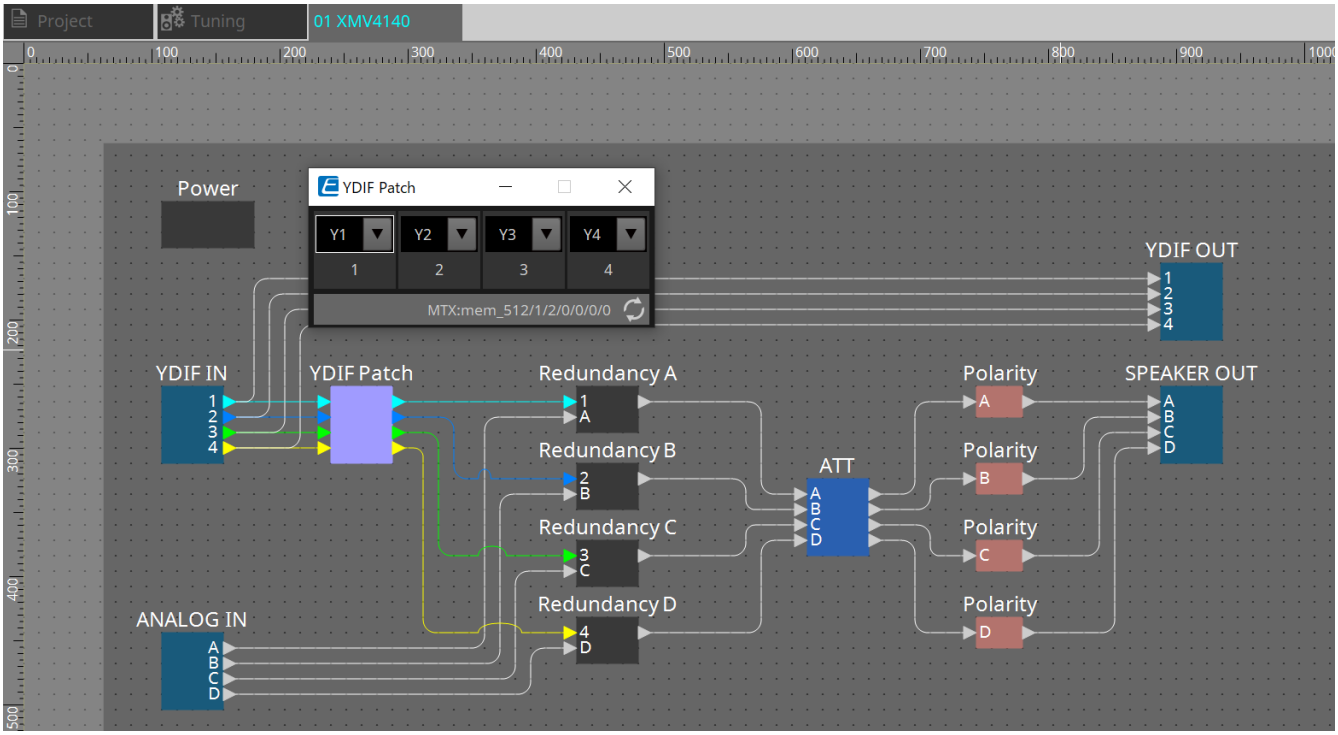
ウィザードによる設定には、以下の2つの利点があります。
(1) 間違ったデバイスの組み合わせを選択すると、ウィザードを完了できないため、誤接続を事前にチェックできます。
(2) リング接続の判断も自動で実施されます。

ウィザードを使用せずにデバイス間のYDIFコネクタをワイヤーでつなぐことで、同様の設定もできます。
その際は間違った結線はウィザードのように注意されないため、ご注意ください。このような場合は通常どおりリング接続をすることをおすすめします。

16.3. YDIFの設定方法(各機器シート)

各機器シート内で、YDIF Patchなどの設定を実施し、所望のルーティングを設定してください。

(例：XMV4140)



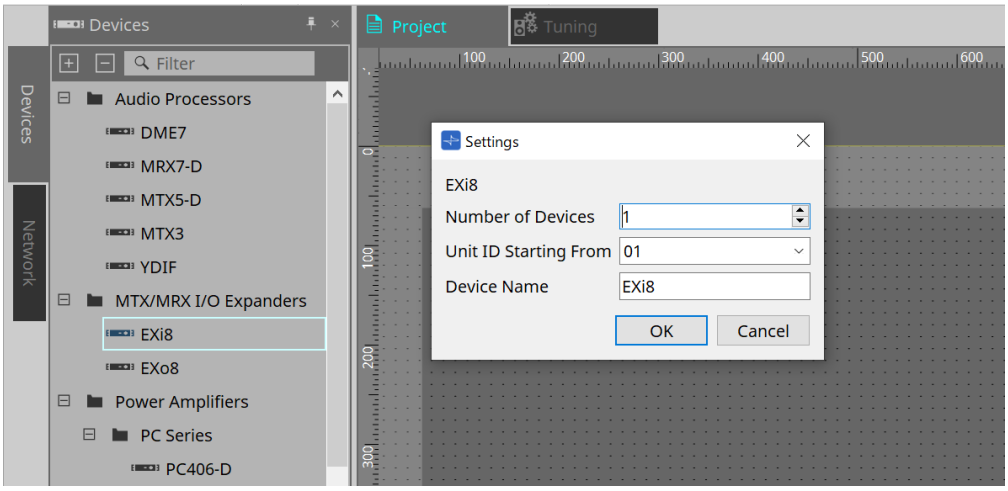
17. MTX I/O エクスパンダー EXi8 / Exo8

17.1. 概要

MTXシリーズの入力拡張用ADコンバーター(EXi8)と出力拡張用DAコンバーター(EXo8)です。EXi8は8chのマイク・ライン信号をYDIFに変換しMTXシリーズにデジタルで送信します。
EXo8はMTXシリーズからYDIFで音声を受信し8chのアナログ信号として出力します。

17.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。

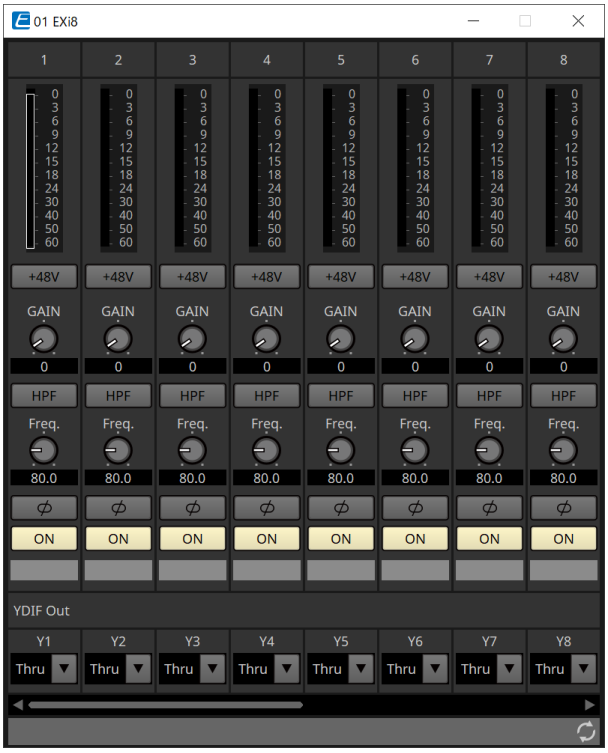


- **Number of Devices**
  シートに配置するEXi8またはEXo8の台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

Devicesエリア>YDIFを利用すると、YDIFの接続方法を提示できます。

17.3. エディター

「Project」シート上のEXi8をダブルクリックすると、[EXi8]エディターが開きます。



- **[+48V] ボタン**
  HAのファンタム電源(+48V) のオン/ オフを切り替えます。

ご注意

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。
ファンタム電源をオンにする場合、機器本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

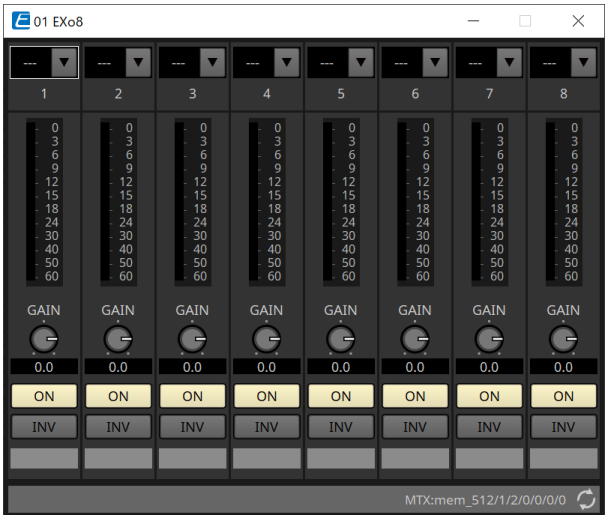
- [INPUT]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ボタンをオンにしたまま、[INPUT]端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン/オフは、出力レベルを最小にした状態で行う。

ACTIVEスイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

- **HAアナログゲイン**
  HA(ヘッドアンプ)のアナログゲインを調整します。
- **[HPF]ボタン/カットオフ周波数**
  HPF(ハイパスフィルター)のオン/オフを切り替えます。
  HPFのカットオフ周波数を設定します。
- **[φ] ボタン**
  入力信号の位相を切り替えます。
- **[ON]ボタン**
  入力チャンネルのオン/オフを切り替えます。

- **YDIF Out**
  YDIFに出力するチャンネルを選択してください。
  Thruを選択するとYDIF Inから入力された信号が、そのまま出力されます。

「Project」シート上のEXo8をダブルクリックすると、[EXo8]エディターが開きます。



- **YDIF In**
  YDIF Inから入力された信号をチャンネルにアサインします。

- **Gain**
  出力ゲインを調整します。

- **[ON]ボタン**
  出力チャンネルのオン/オフを切り替えます。

- **INVボタン**
  出力信号の極性を切り替えます。

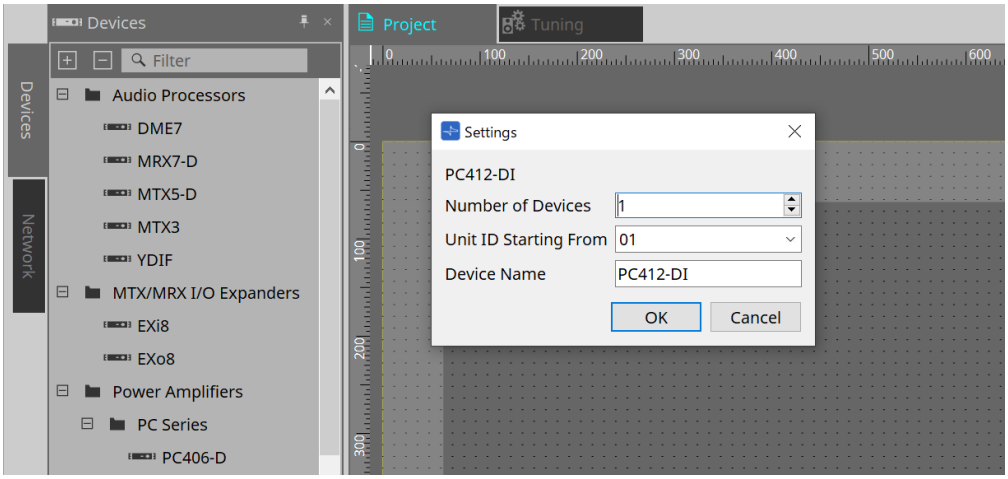
18. パワーアンプ PCシリーズ

18.1. 概要

PC-D/DIシリーズアンプの強力な20×8入力マトリクス機能とDante I/Oを組み合わせることで、あらゆるシステムの汎用性を飛躍的に向上させることができます。PC-D/DIシリーズの入力マトリクス機能は、システム全体を拡張する補助マトリックスとしてだけでなく、ミキサーやDSPを追加していないシステムにおいても他のアナログ機器やDante搭載の機器から直接音声信号を入力できるため、より柔軟なルーティングが可能となります。

18.2. 「Project」シート

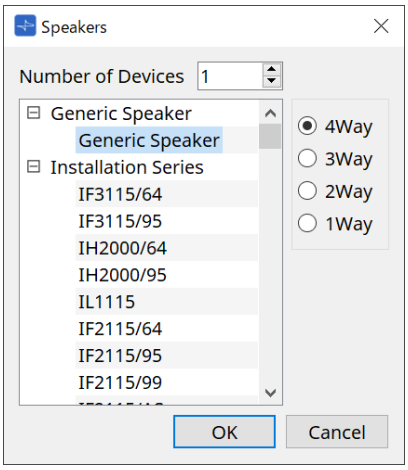
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



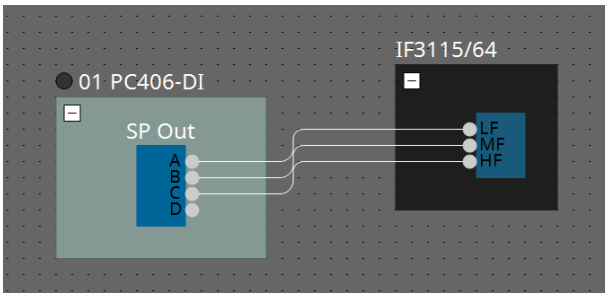
- **Number of Devices**
  シートに配置するPCシリーズの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

18.2.1. PC-Dとスピーカーの接続

Devicesエリアから"Speakers"をドラッグ＆ドロップすると任意のスピーカーをプロジェクトシートに追加することができます。



アンプとスピーカーを接続し、スピーカーをダブルクリックするとSpeaker Editorを表示します。



Speaker Editorでは接続元のパワーアンプのパラメーターをコントロールすることができます。
詳細は、Speaker Editor / Multi Speaker Editorを参照ください。

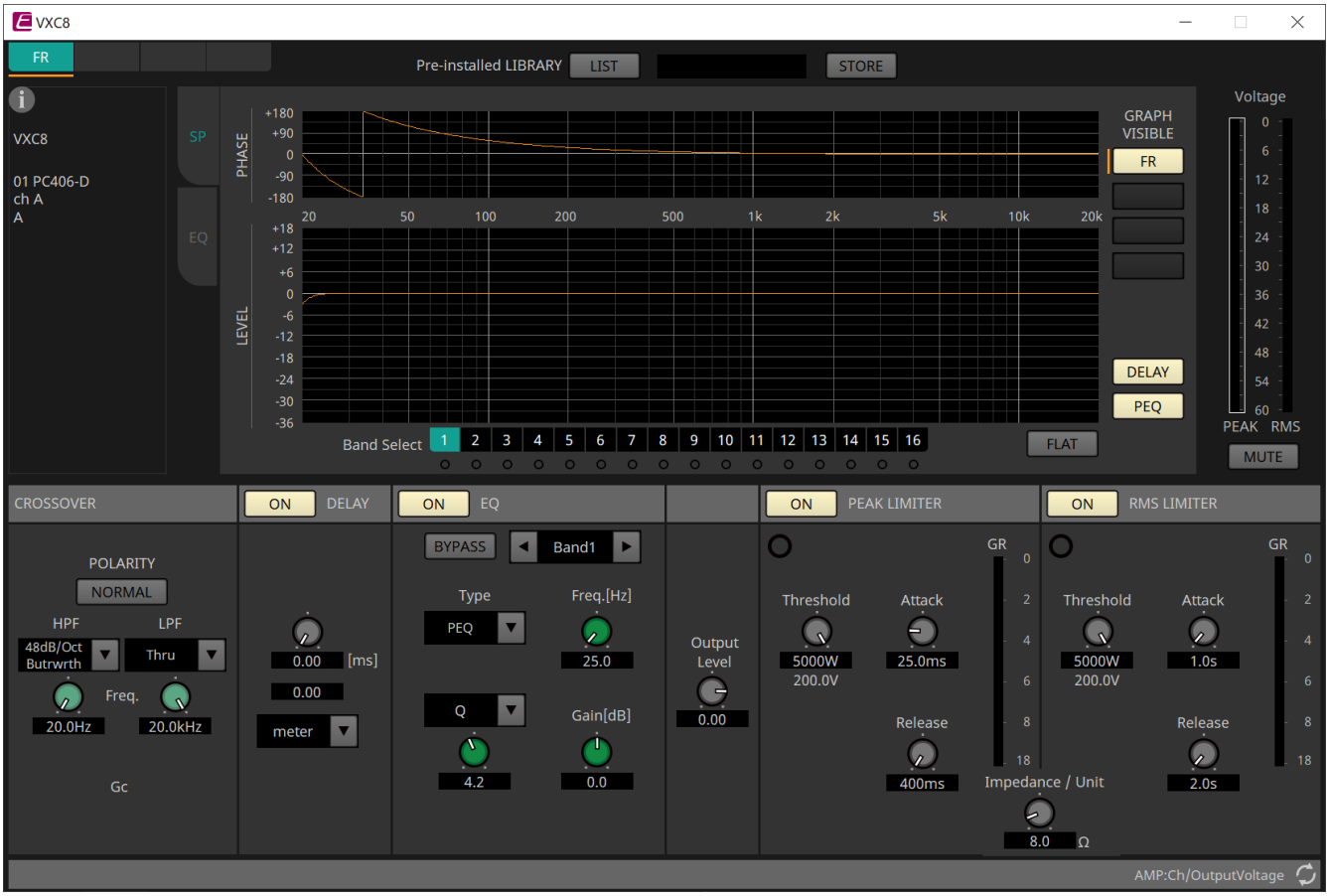
18.2.2. Speaker Editor / Multiple Speaker Editor

スピーカーとPCシリーズがワイヤーで接続されているとき、スピーカー単位でPCシリーズのスピーカープロセッサーのパラメーターを表示します。
スピーカーをダブルクリックするか、右クリックして表示されるコンテキストメニューの[Open Speaker Editor]を選択すると、Speaker Editorが開きます。
複数のスピーカーを選択している状態で、右クリックして表示されるコンテキストメニューの[Open Multiple Speaker Editor]を選択すると、Multiple Speaker Editorが開きます。

以下のようなときに便利です。

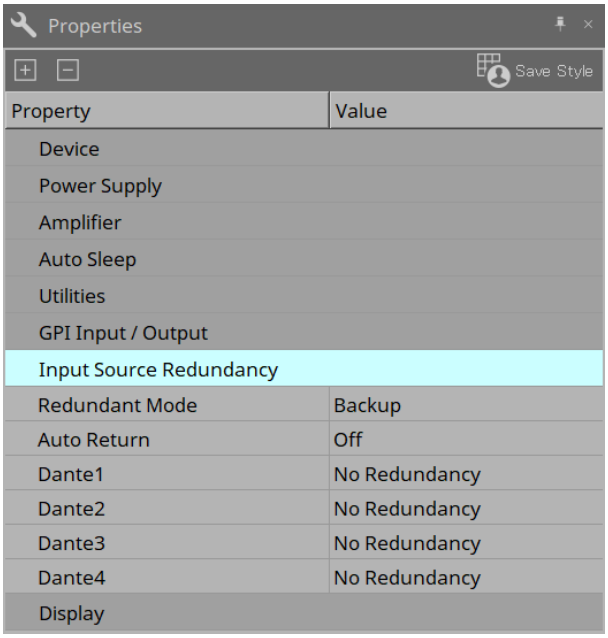
- スピーカーが複数のPCシリーズに接続されているとき、それぞれのスピーカープロセッサーを一括で表示したい。
- MainとSubのスピーカーの特性曲線を重ねて表示したい。(Multiple Speaker Editor)

パラメーターの詳細については「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」のSpeaker Processorコンポーネントを参照ください。



18.2.3. 「Properties」エリア

機器の情報を表示/編集します。ここでは「Input Source Redundancy」について説明します。
その他の設定については、PCシリーズの取扱説明書を参照ください。



Input Source Redundancy

PCシリーズには、「Backup Mode」「Override Mode」の2種類のリダンダントモードがあります。

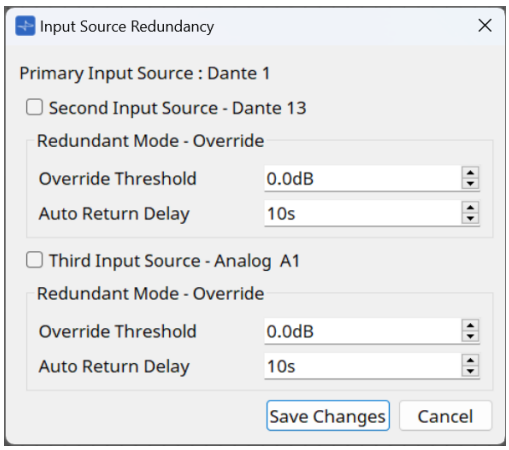
> Input Source RedundancyはDanteネットワークのリダンダント機能とは独立した機能です。

- **Redundant Mode**
  - **Backup**
    入力機器の故障などのトラブルによってプライマリー回線（Dante1-4）の入力音声が途切れた場合に、バックアップ回線（Dante13-16,Analog1-4）に自動的に切り替えます。
  - **Override**
    バックアップ回線（Dante13-16,Analog1-4）からの音声入力を検知した場合に、プライマリー回線（Dante1-4）の音声に対して、検知した信号を自動的に割り込ませます。優先度の高い非常放送や館内アナウンスなどの割り込み放送ができます。

    どちらのモードもバックアップ回線は2階層で設定でき、チャンネルの組合せは固定です。

PRIMARY SOURCE	2nd SOURCE	3rd SOURCE
Dante IN 1	Dante IN 13	Analog IN 1
Dante IN 2	Dante IN 14	Analog IN 2
Dante IN 3	Dante IN 15	Analog IN 3
Dante IN 4	Dante IN 16	Analog IN 4

- **Auto Return**
  - **Backup Modeの場合**
    ONにすると、プライマリー回線が復帰したときに、入力ソースを自動的にプライマリー回線に戻します。
  - **Override Modeの場合**
    ONにすると、バックアップ回線からの音声がしきい値を下回ったときに、入力ソースを自動的にプライマリー回線に戻します。
- **Dante1~4**



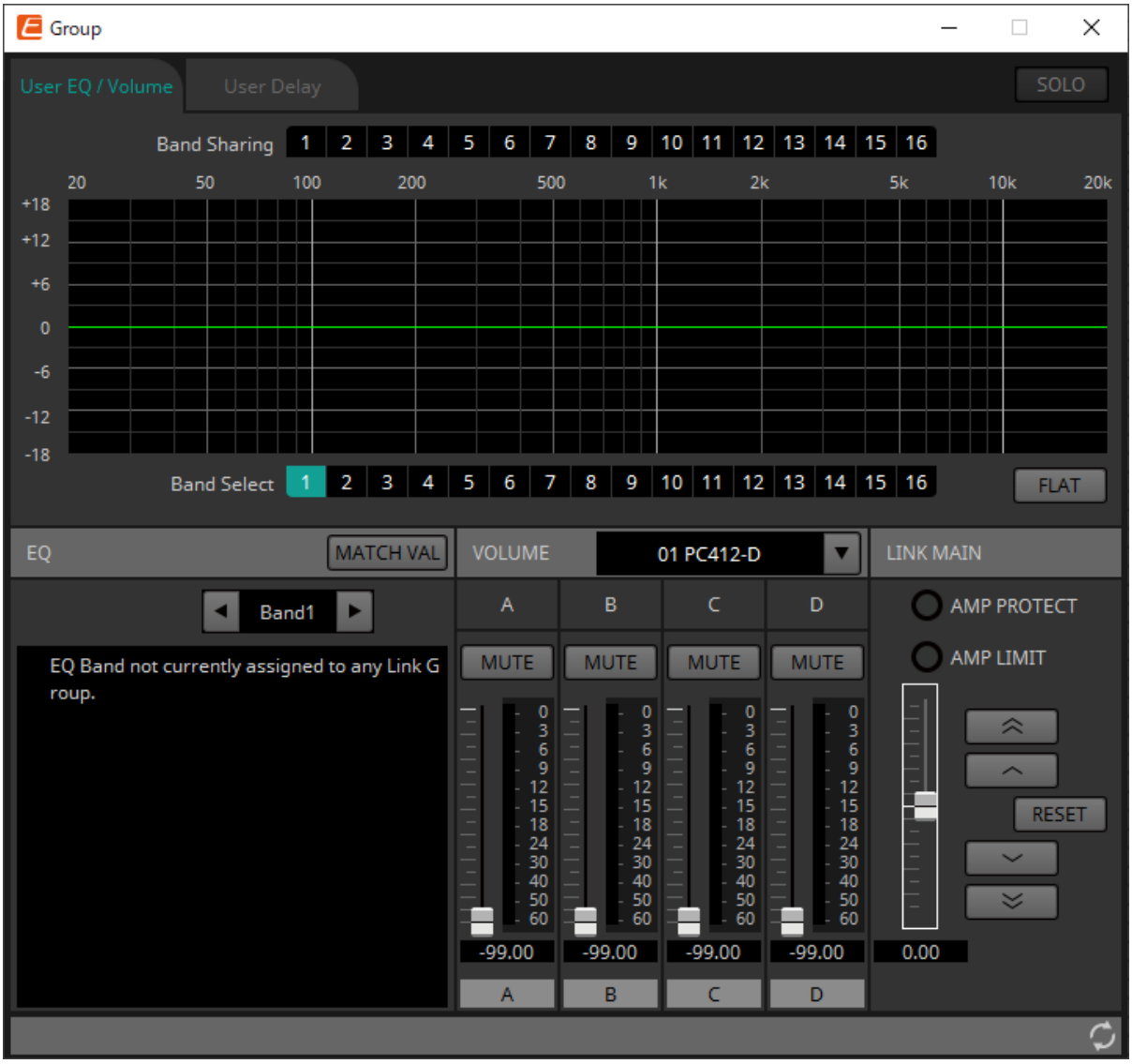
  - **Input Sourceチェックボックス**
    バックアップ回線を有効にする（ON）か無効にする（OFF）かを階層ごとに設定します。バックアップ回線は2階層で設定でき、チャンネルの組合せは固定です。
  - **Override Threshold**
    Override Modeの場合、割り込みした入力信号の有無を判定するための入力レベルのしきい値をチャンネルごとに設定します。
  - **Auto Return Delay**
    Override ModeでAUTO RETURNがONの場合、割り込みした入力信号の入力が途絶えてからプライマリー回線に切り替わるまでの時間を設定します。

18.3. 「Tuning」シート

「Tuning」シートでは、グループ化したチャンネルのパラメーター（EQやDelayなど）を一括で設定できます。
シートの詳細は、「Tuning」シートを参照ください。

18.3.1. リンクグループエディター

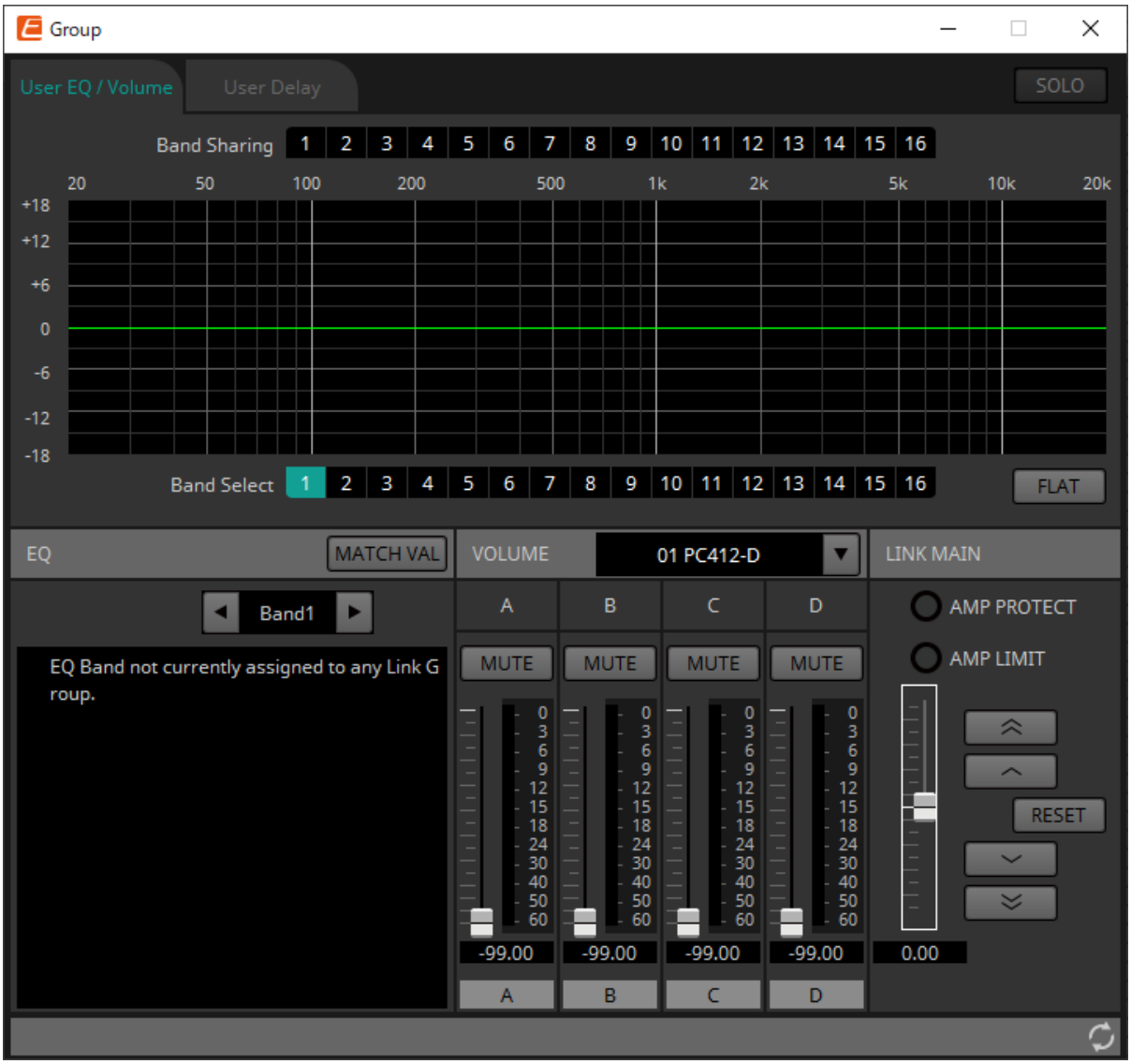
リンクグループのパラメーター設定画面です。
「Tuning」シートのPCシリーズのチャンネルが登録されているリンクグループをダブルクリックするか、右クリックして[Open Link Group Editor]を選択すると表示されます。



- **[SOLO]ボタン**
  オンラインのときに、ツールバーの[Solo Mode]ボタンをオンにすると有効になります。
  オンにすると、このリンクグループに登録されているチャンネルからのみ音声が出力され、EQや音量、Delayの最終調整をするときに便利です。

18.3.2. [User EQ/Volume]タブ

グループに登録しているチャンネルのUser EQやボリュームを一括して変更します。
ボリュームはメインフェーダーで操作します。
「Volume」のメインフェーダーは、グループに登録しているチャンネルのVolumeを相対値で一括変更します。
詳細は、「User EQ/User Delay」コンポーネントエディターを参照ください。



- **[Band Sharing]ボタン**
  あるチャンネルが複数のグループに登録されている場合、各グループで占有するバンドをクリックして選択します。占有すると青色で表示されます。白ヌキ番号になっていないバンドは他のグループが占有しているため、選択や操作ができません。
  クリックして、青色になっているバンドが占有中のバンドです。
  占有の解除はバンドを占有しているリンクグループエディターでのみ実行できます。

- **[MATCHVAL]ボタン**
  リンクグループエディターの占有しているバンドのEQ設定を、登録されているチャンネルにコピーします。

- **LINK MAIN**
  リンクグループ内のボリュームを相対値で調整します。

- **[AMP PROTECT]インジケーター**
  PCシリーズ本体でプロテクションが機能しているときに点灯します。

- **[AMP LIMIT]インジケーター**
  PCシリーズ本体でリミッターが機能しているときに点灯します。
  - **メインフェーダー**
    リンクグループ内のボリュームを相対値で調整します。上下に可動範囲が灰色で表示されます。フェーダーを右クリックして、[Match Values]を選択すると、リンクグループのメンバーのボリュームが同じ値になります。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを3 dB上昇させます。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを1 dB上昇させます。
  - **[RESET]ボタン**
    メインフェーダーを0の位置に移動させます。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを1 dB下降させます。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを3 dB下降させます。

18.3.3. [User Delay]タブ

リンクしている端子の「User EQ/User Delay」コンポーネントエディターのUser Delayを一括して変更します。詳細は、「User EQ/User Delay」コンポーネントエディターを参照ください。

- **LINK MAIN**
  このリンクグループに登録されている機器のチャンネルのディレイタイムを相対値で調整します。
  - **メインフェーダー**
    リンクグループ内のディレイタイムを相対値で調整します。上下に可動範囲が灰色で表示されます。
    フェーダーを右クリックして、[Match Values]を選択すると、リンクグループのメンバーのディレイタイムが同じ値になります。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを3ms上昇させます。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを0.3ms上昇させます。
  - **[RESET]ボタン**
    メインフェーダーを0の位置に移動させます。
  - **ボタン**
    メインフェーダーを0.3ms下降させます。

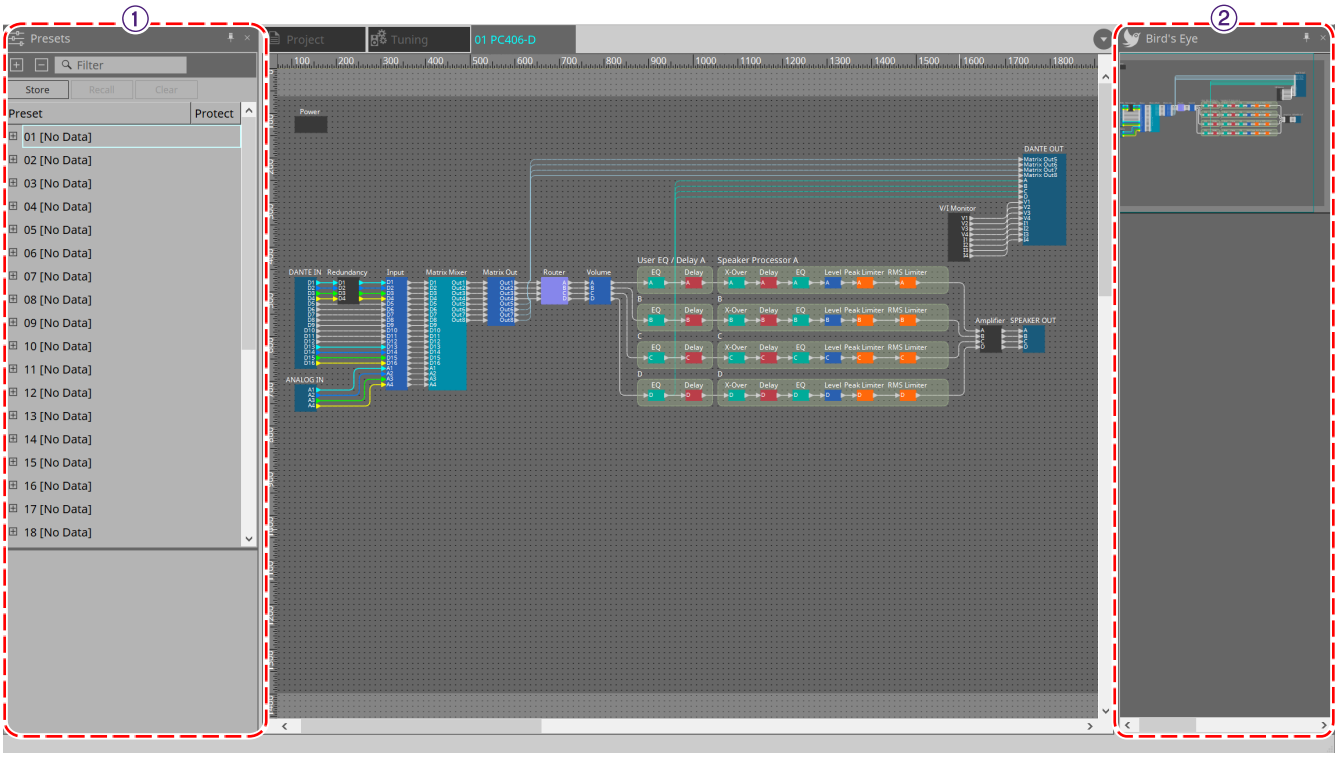
- **ボタン**
  メインフェーダーを3ms下降させます。

- **[ms]**
  メインフェーダーの値をms単位で表示します。

- **[meter]/[feet]リストボックス**
  左にある表示をメートル単位にしたり、フィート単位にしたりします。
  端子単位での表示も切り替わります。

18.4. 機器シートの画面構成

PCシリーズの機器シートを開くと、「Presets」エリアと「Bird's Eyeビュー」が表示されます。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。



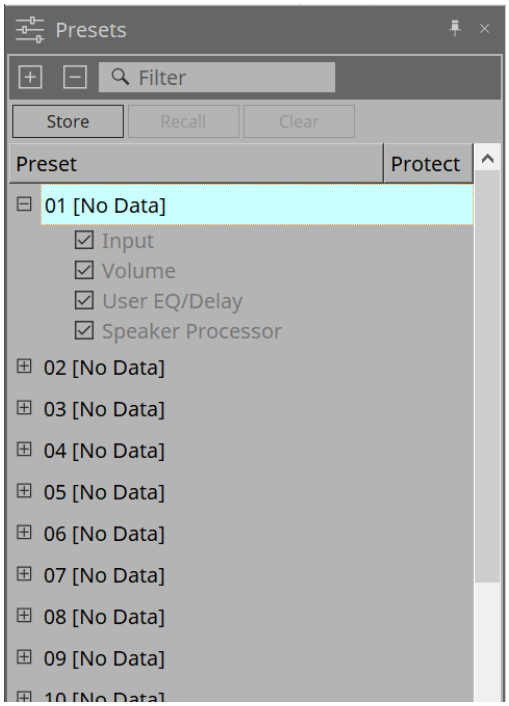
① 「Presets」エリア
複数のパラメーターの設定をプリセットとしてストアできます。

② Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

18.5. 「Presets」エリア

このエリアでは、複数のパラメーターの設定をプリセットとしてストアしておくことができ、リコールすることでストアしてあったプリセット内のパラメーターを展開できます。展開されているプリセットのパラメーターはカレントパラメーターと呼びます。

複数の機器のプリセットを同時にリコールするには ボタンをクリックして、「Linked Presets Manager」ダイアログで設定をしてください。



- **[Store]ボタン**
  プリセットをストアするためのボタンです。
- **[Recall]ボタン**
  プリセットをリコールするためのボタンです。
- **[Clear]ボタン**
  プリセットをクリアするためのボタンです。
- **プリセットリスト**
  プリセットを一覧表示します。最大32個までのプリセットがストアできます。
  - **「Preset」**
    プリセットの番号と名前を表示します。展開するとどのパラメーターをリコール対象とするのか選択できます。
    ストアされているプリセットを選択し、この部分をダブルクリックすると、名前が編集できるようになります。
    空のプリセットの名前は[No Data]と表示されます。
  - **「Protect」**
    鍵のアイコンをクリックすると、アイコンがに変わり、プリセットを編集やクリアできないようにプロテクトをかけます。
    プロテクトがかかった状態でアイコンをクリックすると、プロテクトを解除します。

18.6. コンテキストメニュー

各エリアを右クリックして表示されるコンテキストメニューの内容は以下の通りです。

18.6.1. 「Tuning」シート

「Tuning」シートを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Select All]	[All Link Groups] シート上のすべてのリンクグループを選択します。
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。
[Snap to Grid]	チェックを入れると、シートのグリッドに合わせてオブジェクトを配置します。

18.6.2. 「Tuning」シートのリンクグループ

リンクグループを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。接続している機器によって使用できないメニューがあります。

メニュー	内容
[Open Link Group Editor]	リンクグループエディターが開きます。リンクグループエディターについては、各機器を参照してください。
[Open Device Sheet]	選択中の機器の機器シートを開きます。
[Identify]	機器のインジケーターが数秒間点滅します。 PCシリーズでチャンネルを選択しているときは、チャンネルのインジケーターが数秒間点滅します。
[Delete]	チャンネルが選択されている場合は、チャンネルをリンクグループから削除します。 機器が選択されている場合は、機器をリンクグループから削除します。 リンクグループが選択されている場合は、リンクグループを削除します。
[Bring to Front]	リンクグループを最前面に移動します。
[Send to Back]	リンクグループを最背面に移動します。

18.6.3. 「Project Devices」エリア

「Project Devices」エリアの機器やチャンネルを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器やチャンネルが登録されているリンクグループにフォーカスを当てます。
[Add to Link Group]	リンクグループに機器のチャンネルを登録します。スピーカーが機器に接続されている場合、接続されている機器のチャンネルを登録します。

18.6.4. 「Link Groups」エリア

「Link Groups」エリアのオブジェクトを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器上で右クリックした場合はリンクグループ内の機器にフォーカスを当て、リンクグループコンポーネントエディターを開きます。 チャンネルやリンクグループ上で右クリックした場合はリンクグループ内のチャンネルやリンクグループにフォーカスを当て、リンクグループエディターが開きます。
[Delete]	チャンネル上で右クリックした場合は、チャンネルをリンクグループから削除します。 機器上で右クリックした場合は、機器をリンクグループから削除します。 リンクグループ上で右クリックした場合は、リンクグループを削除します。

18.6.5. 機器シート

オブジェクトがない場所で機器シートを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。

18.6.6. 機器シート内のコンポーネント/コンポーネントエディター

コンポーネントの操作子以外の場所やコンポーネントを右クリックすると、有無がありますが、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Open Component Editor]	コンポーネントエディターを開きます。
[Copy]	コンポーネントエディターのパラメーター設定をコピーします。
[Paste Parameters]	コピーしたコンポーネントエディターのパラメーター設定を反映します。

18.6.7. 「Presets」エリア

プリセットを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[All On]	リコール対象の全チェックボックスにチェックを入れます。
[All Off]	リコール対象の全チェックボックスのチェックを外します。

18.7. アラート一覧

PCシリーズで発生するアラート、およびその内容/対策は以下のとおりです。
単発は事象が発生したときに表示されます。継続は事象が発生したときと事象が終了したときに表示されます。
問題が解決しない場合は、機器本体の取扱説明書の巻末に記載されている修理ご相談センターにご連絡ください。

番号	メッセージ	重大度	内容	対策	単発/継続
05	Amplifier Output Muting	Error	保護機能が働いて、アンプの出力をミュートしました。	原因となる保護機能が解除されるように対応ください。 原因は、同時に表示される別のアラートで確認できます。	継続
12	Mains Voltage Over 276[V]	Error	(起動時)電源電圧が動作可能な電圧の上限を超えていたため、アンプを起動できません。	電源条件内の安定した電源に接続してください。	単発
			電源電圧が動作可能な電圧の上限を超えていたため、アンプを停止しました。		継続
13	Power Supply Output Voltage	Fault	(起動時)電源回路の出力電圧に異常があるため、アンプが起動できません。	製品が故障している可能性があります。 修理ご相談センターにお問い合わせください。	単発
			電源回路の出力電圧に異常が発生したため、アンプを停止しました。		継続
14	Power Supply Over-temperature	Error	(起動時)電源回路が高温のため、アンプが起動できません。	・温度を下げてから使用してください。 ・吸気口の掃除をしてください。 ・部屋の温度を下げてください。	単発
			電源回路が異常に高温になったため、アンプを停止しました。		継続
21	Amplifier Ch.* DC Output	Fault	(起動時)アンプ出力に異常があったため、アンプが起動できません。	製品が故障している可能性があります。 修理ご相談センターにお問い合わせください。	単発
			当該チャンネルのアンプ出力に異常があったため、アンプを停止しました。		継続
22	Amplifier Ch.* Overcurrent	Error	当該チャンネルのアンプに過電流が流れたため、出力をミュートしました。	・出力する音量を抑えて、電流値が高くならないようにしてください。 ・スピーカー出力端子がショートしている可能性があります。	継続

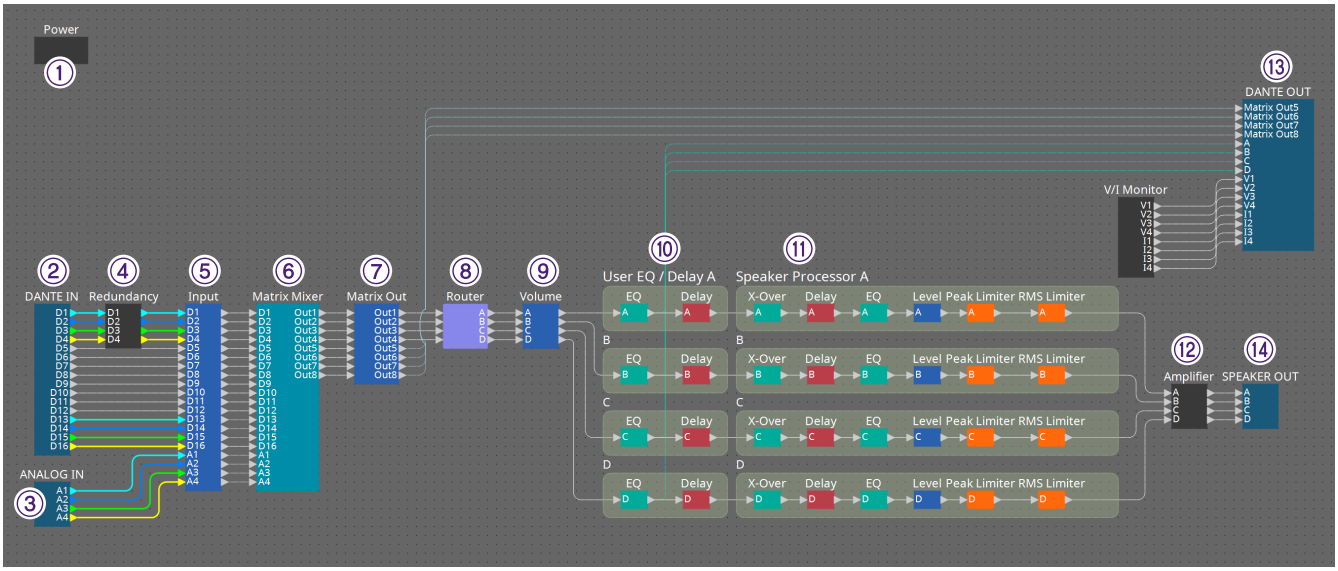
番号	メッセージ	重大度	内容	対策	単発/継続
23	Amplifier Ch.* Overtemp Level 1	Error	当該チャンネルのアンプの温度がレベル1を超えたため、ファンの回転数を上げて、出力にリミッターをかけました。	・出力する音量を抑えて、温度が高くならないようにしてください。 ・フィルターを清掃してください。また、室内温度を一定に保ってください。	継続
24	Amplifier Ch.* Overtemp Level 2	Error	当該チャンネルのアンプの温度がレベル2を超えたため、ファンの回転数を上げて、出力にリミッターをかけました。		継続
25	Amplifier Ch.* Overtemp Level 3	Error	当該チャンネルのアンプの温度がレベル3を超えたため、ファンを最高速で回して、出力をミュートしました。		継続
26	Ch.* High Load	Warning	Load Monitoring機能で測定した当該チャンネルのインピーダンス値が、指定値より高くなっています。	スピーカーやケーブルに異常がないか確認してください。 Thresholdの設定値が適切かどうか、確認してください。	継続
27	Ch.* Low Load	Warning	Load Monitoring機能で測定した当該チャンネルのインピーダンス値が、指定値より低くなっています。		継続
31	Fan * Error	Fault	当該番号のファンの回転が停止しました。	製品が故障している可能性があります。 修理ご相談センターにお問い合わせください。	継続
42	Input D* Change To 2nd	Warning	Input Source Redundancy機能によって、音声が第2プライオリティの回線に切り替わりました。	メインの音声回線(Dante)に異常がないか確認してください。 (Auto Return機能がONの場合、接続し直すと回線が急に切り換わることがあるのでご注意ください)	単発
43	Input D* Change To 3rd	Warning	Input Source Redundancy機能によって、音声が第3プライオリティの回線に切り替わりました。	メインや第2プライオリティの音声回線(Dante)に異常がないか確認してください。 (Auto Return機能がONの場合、接続し直すと回線が急に切り換わることがあるのでご注意ください)	単発
61	Dante Module Failed	Fault	内蔵するDanteモジュールが正しく動作していません。	製品が故障している可能性があります。 修理ご相談センターにお問い合わせください。	継続

番号	メッセージ	重大度	内容	対策	単発/継続
63	Firmware Versions Mismatch	Error	機器本体のファームウェアのバージョンと、Danteのファームウエアのバージョンとで、互換性がありません。	Webで公開されているアップデータは、機器本体のファームとDanteのファームがセットで含まれています。両者を共にアップデートしてください。	単発
64	Dante Is Not Working By Giga Bit	Error	ギガビットイーサネットに対応していない機器が接続されています。 Daisy Chainモードでは、Control Portに接続しても、本アラートが発生します。 本製品がネットワークから切断した場合、アラート69が発生して、本アラートはいったん解消します。	Danteでの音声伝送をする場合は、ギガビットイーサネットに対応した機器をご使用ください。	継続
65	Dante Is Working At Secondary	Warning	Redundantモードにおいて、Danteの音声通信がSecondary回線で行われています。 本製品がネットワークから切断した場合、アラート69が発生して、本アラートはいったん解消します。	Primary回線に異常がないか確認してください。	継続
66	Error Occurred At Secondary Port	Warning	Redundantモードにおいて、DanteのPrimary回線は正常に動作しているが、Secondary回線が接続されていません。 *一度接続が確認された後に切断したときにのみ	Secondary回線の接続が必要な場合は、異常がないか確認してください。	継続
67	Wrong Word Clock	Warning	ワードクロックに異常を検出しました。	・Dante Controller で、システム全体のワードクロックを正しく設定してください。 ・音声をパッチする機器どうしで、Fs(サンプリング周波数)の設定が一致していることを確認してください。	継続

番号	メッセージ	重大度	内容	対策	単発/継続
69	Dante Port Is Not Connected	Warning	Redundantモードにおいて、DanteのPrimary回線は正常に動作していますが、Secondary回線が接続されていません。 *一度接続が確認された後に切断したときにのみ表示します。	Danteの回線が正しく接続されていることを確認してください。	継続

18.8. コンポーネントエディター

コンポーネントエディターでは、選択した機器の各コンポーネントの設定や調整をします。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではPCシリーズのコンポーネントエディターと、コンポーネントと関連するダイアログやウィンドウについて説明します。その他のコンポーネントの詳細は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

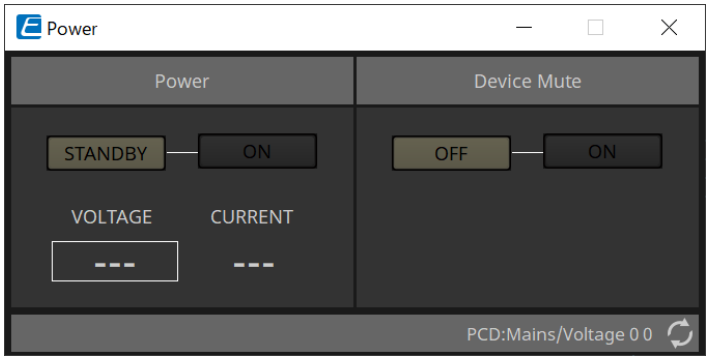


番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Power	機器の電源の切り替えたり、機器本体の電流値を表示します。	「Power」コンポーネントエディター
②	DANTE IN	[Dante]端子の入力に関する設定および入力された音声信号のレベルを表示します。	「Input Alignment」コンポーネントエディター
③	ANALOG IN	[INPUT]端子の入力に関する設定および入力された音声信号のレベル表示をします。	「Input Alignment」コンポーネントエディター
④	Redundancy	入力ソースおよびOverride/Backup動作をチャンネル単位で設定をします。	---
⑤	Input	入力チャンネルのレベル調整やステータス表示をします。	「Input」コンポーネントエディター
⑥	Matrix Mixer	出力バスごとにグループのバランスを調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑦	Matrix Out	マトリクスミキサーからルーターおよびDante出力へのレベルを調整します。	---
⑧	Router	マトリクスミキサーの出力を出力チャンネルに割り当てます。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑨	Volume	出力チャンネルのレベルを調整します。	---

番号	コンポーネント名	内容	リンク
⑩	User EQ/Delay	出力チャンネルのEQ/ディレイを設定します。	「User EQ/User Delay」コンポーネントエディター
⑪	Speaker Processor	出力チャンネルのスピーカープロセッサーを設定します。	「Speaker Processor」コンポーネントエディター
⑫	Amplifier	アンプの出力モードやインピーダンス検出を設定します。	「Amplifier」コンポーネントエディター
⑬	DANTE OUT	Danteの出力レベルを表示します。	---
⑭	SPEAKER OUT	スピーカー出力端子の出力電圧と出力電流を表示します。	「Speaker Out」コンポーネントエディター

18.8.1. 「Power」コンポーネントエディター

機器の電源の切り替えたり、機器本体の電流値を表示したりします。
オンライン中のみ有効です。



- **Power**
  - **[STANDBY]/[ON]ボタン**
    電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
  - **[VOLTAGE]**
    入力電源の電圧値を表示します。
  - **[CURRENT]**
    機器の電流値を表示します。
- **Device Mute [OFF]/[ON]ボタン**
  機器のDevice Muteのオン/オフを切り替えます。
  オンにすると、アンプの全チャンネルのスピーカー出力がミュートされます。

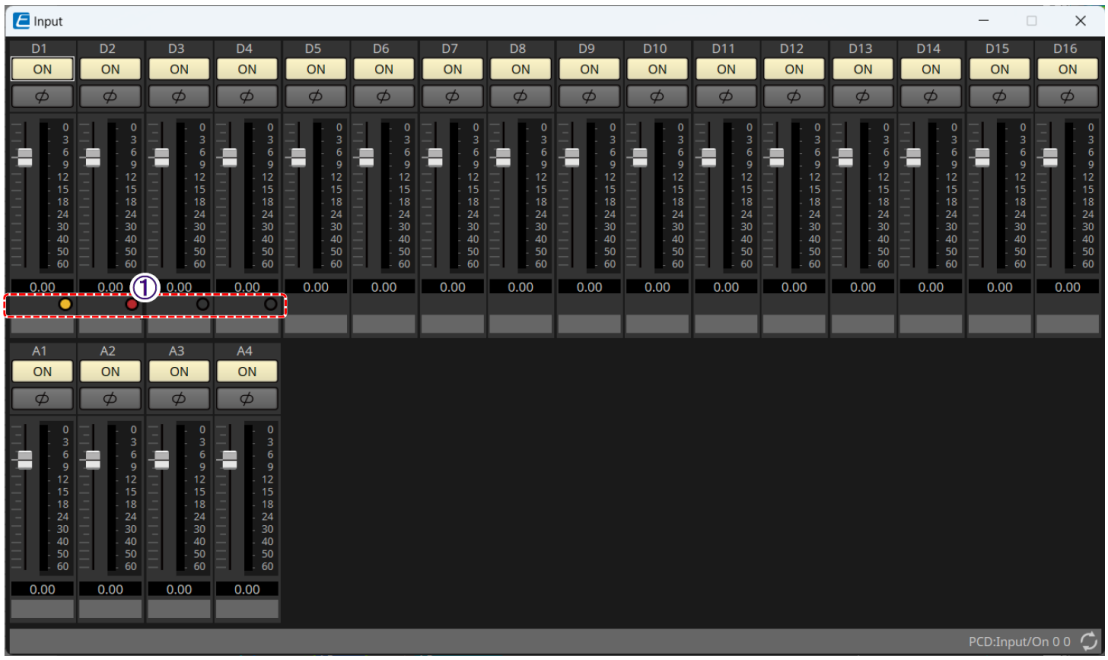
18.8.2. 「Input Alignment」コンポーネントエディター

「DANTE IN」コンポーネントや「ANALOG IN」コンポーネントをダブルクリックすると表示されます。
入力端子に関する設定および入力された音声信号のレベル表示をします。

- **入力レベル**
  TRIMやDELAYでの補正後のレベルを表示します。
- **[TRIM]ノブ**
  入力端子同士のレベル差を補正します。
- **[DELAY]ノブ**
  入力端子同士のレイテンシー差を補正します。
- **チャンネル名**
  入力端子の名称を表示/編集します。

18.8.3. 「Input」コンポーネントエディター

Inputチャンネルの調整（レベル、MUTE、位相）やステータス表示をします。

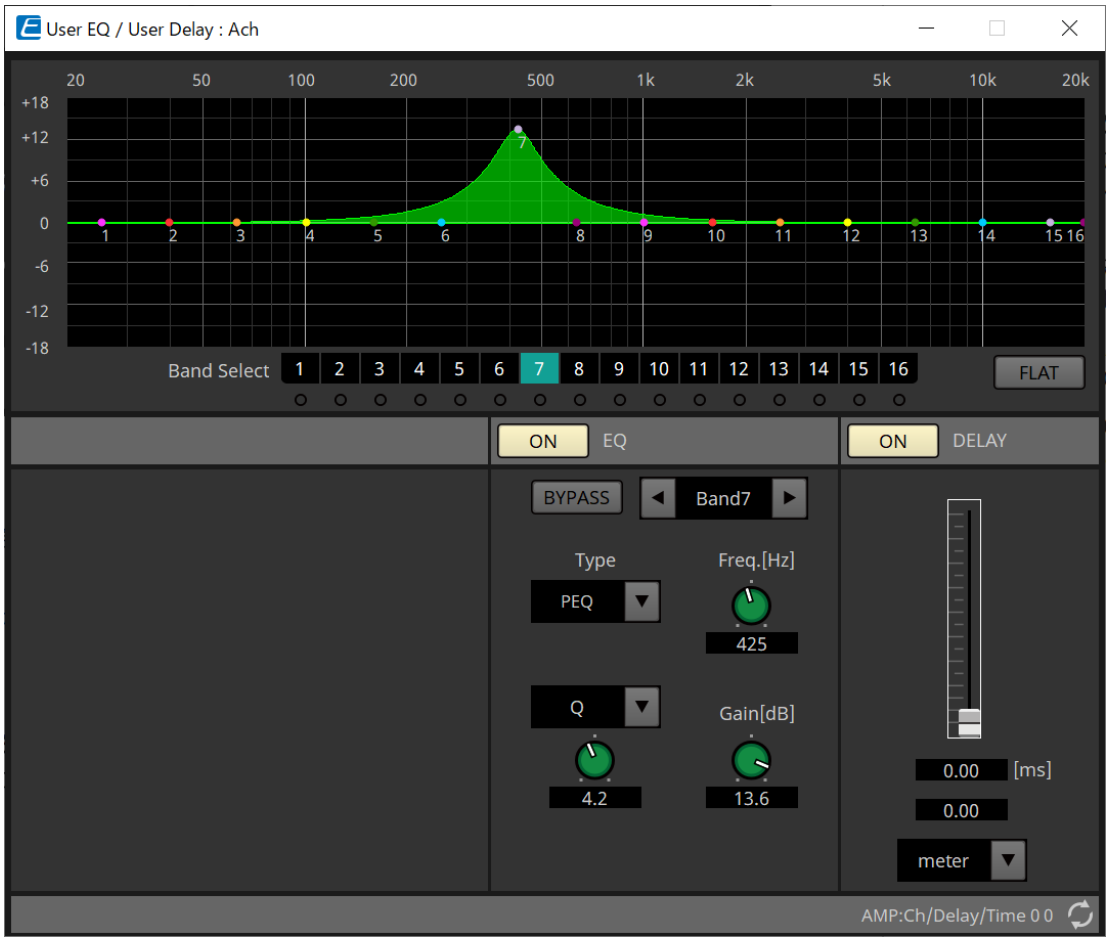


① Input Redundancy Status Indicator
Input Source Redundancy機能が有効の場合、現在の入力回線を示します（Dante1～4のみ）

- 消灯　　：プライマリー回線
- 点灯（橙）：2nd SOURCE 回線
- 点灯（赤）：3rd SOURCE回線

Input Source Redundancyの詳細は「Input Source Redundancy」を参照ください。

18.8.4. 「User EQ/User Delay」コンポーネントエディター

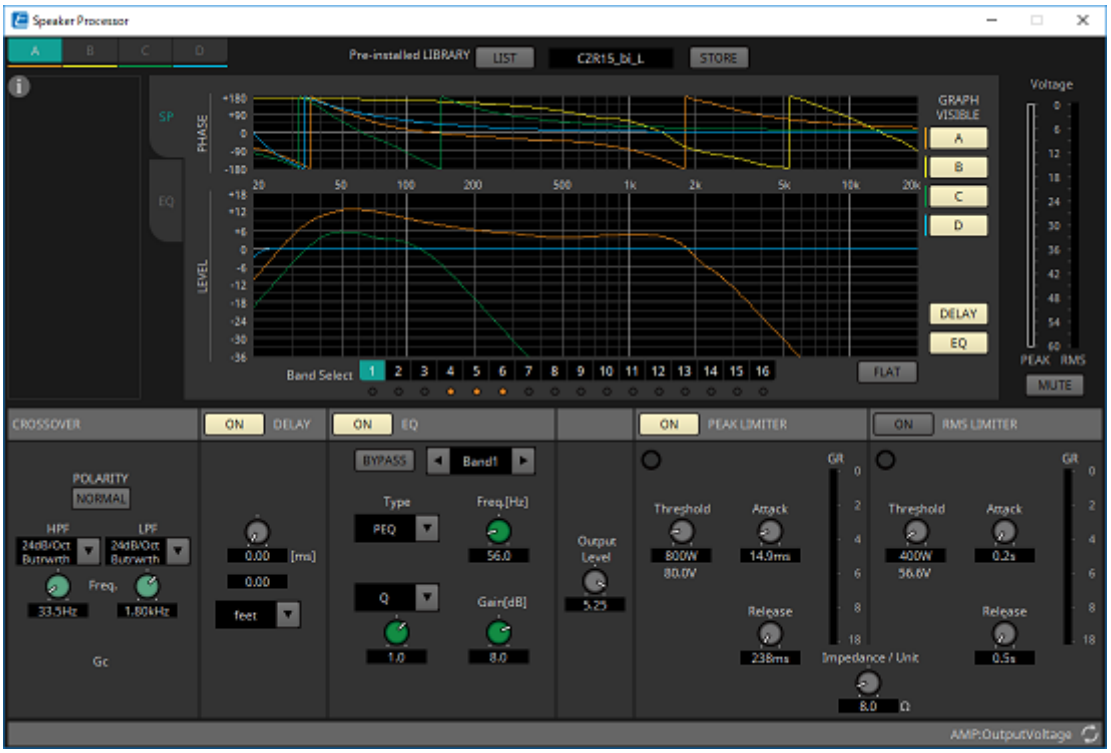


- **EQグラフ**
  EQの効果をグラフで表示します。
  コントロールポイントをドラッグして、パラメーターを変更します。

- **[Band Select]ボタン**
  選択すると、下の「EQ」に現在値を表示します。「EQ」の[BYPASS]ボタンがオンになっているバンドでは、[Band Select]ボタンの下にあるインジケーターが点灯します。

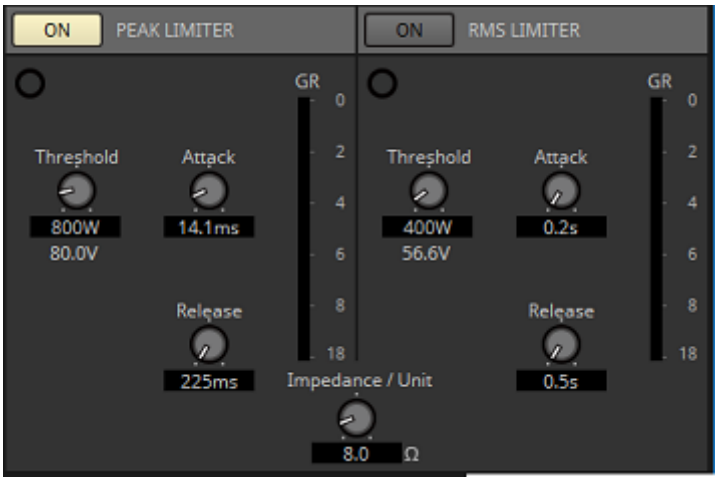
その他のパラメーターは、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

18.8.5. 「Speaker Processor」コンポーネントエディター



「PEAK LIMITER」/「RMS LIMITER」

該当端子が70Vまたは100Vのハイインピーダンス接続に設定されている場合、表示されません。



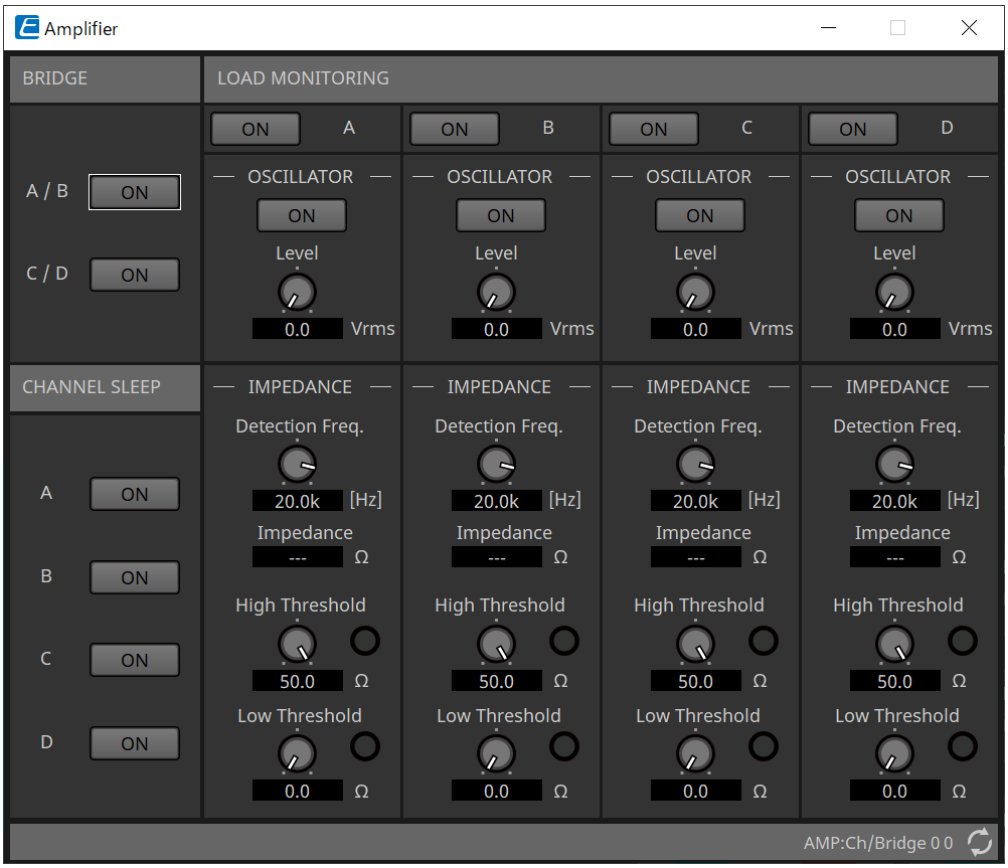
- **[ON]ボタン**
  リミッターのオン/オフを設定します。ボタンをオフにすると、バイパスされます。
- **Gain Reductionインジケーター**
  しきい値を超えた場合に点灯します。
- **[Threshold]ノブ**
  リミッターがかかる閾値を出力パワー (W)で設定します。
- **[Attack]ノブ**
  リミッターの立ち上がりの速さを設定します。
- **[Release]ノブ**
  リミッターのリリースの速さを設定します。

- **「GR」メーター**
  ゲインリダクションの減衰量を示します。

- **[Impedance / Unit]ノブ**
  スピーカーの定格インピーダンスを設定します。
  複数のスピーカーを並列に接続する場合も、1台あたりのインピーダンスで設定します。

その他のパラメーターは、「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

18.8.6. 「Amplifier」コンポーネントエディター



- **BRIDGE [ON]ボタン**
  有効にすると、アンプの出力モードがBRIDGEになります。
  BRIDGEモードにすると、隣り合う2つの奇数/偶数チャンネルをブリッジ接続して、ハイパワーアンプとして動作します。

- **CHANNEL SLEEP [ON]ボタン**
  有効にすると、そのチャンネルのアンプをスリープさせます。使用しないチャンネルをスリープさせることで、省電力や温度上昇軽減に効果がでます。
  「Project」シートの「Properties」エリアで設定するAuto Sleepとは異なります。

- **「LOAD MONITORING」**
  スピーカー出力のインピーダンスを検出して、短絡や断線、スピーカーの故障などで出力が途切れていないかどうかを判定するための設定をします。パイロットトーンを出力することにより、音声信号出力に依存せず安定してインピーダンスを検出できます。
  Hi-Z接続に設定されているチャンネルは表示されません。

  - **[ON]ボタン**
    LOAD MONITORINGのオン/オフを切り替えます。

  - **OSCILLATOR [ON]ボタン**
    パイロットトーンを出すか出さないかの設定をします。
    外部入力のパイロットトーンを使用してインピーダンスを検出することもできます。

  - **OSCILLATOR [Level]ノブ**
    パイロットトーンの出力レベルを設定します。

  - **IMPEDANCE [Detection Freq.]ノブ**
    インピーダンスを検出する周波数を設定します。下の[Impedance]に測定されたインピーダンスを表示します。

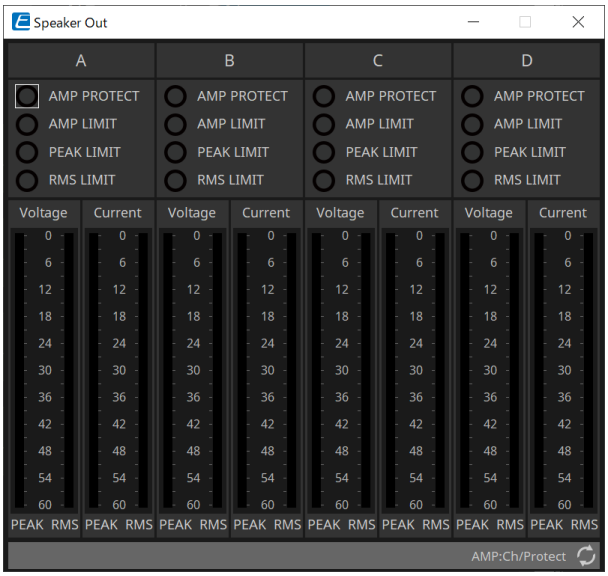
  - **IMPEDANCE [High Threshold]ノブ/インジケーター**

測定するインピーダンスの上限しきい値を設定します。設定した値を上回るとスピーカーに異常が発生したと判断して、インジケーターを点灯します。
設定値を上回る場合、断線などで線が開放状態になっている可能性があります。

- **IMPEDANCE [Low Threshold]ノブ/インジケーター**
  測定するインピーダンスの下限しきい値を設定します。設定した値を下回るとスピーカーに異常が発生したと判断して、インジケーターを点灯します。
  設定値を下回る場合、コイルの短絡などで抵抗が小さくなっている可能性があります。

18.8.7. 「Speaker Out」コンポーネントエディター

スピーカー出力端子の出力電圧と出力電流を表示します。



- **[AMP PROTECT]インジケーター**
  PCシリーズ本体でプロテクションが機能しているときに点灯します。
- **[AMP LIMIT]インジケーター**
  PCシリーズ本体でリミッターが機能しているときに点灯します。
- **[PEAK LIMIT]インジケーター**
  PCシリーズ本体でスピーカープロセッサー内のピークリミッターが機能しているときに点灯します。
- **[RMS LIMIT]インジケーター**
  PCシリーズ本体でスピーカープロセッサー内のRMSリミッターが機能しているときに点灯します。
- **[Voltage]メーター**
  出力電圧をPeakとRMSで表示します。
- **[Current]メーター**
  出力電流をPeakとRMSで表示します。

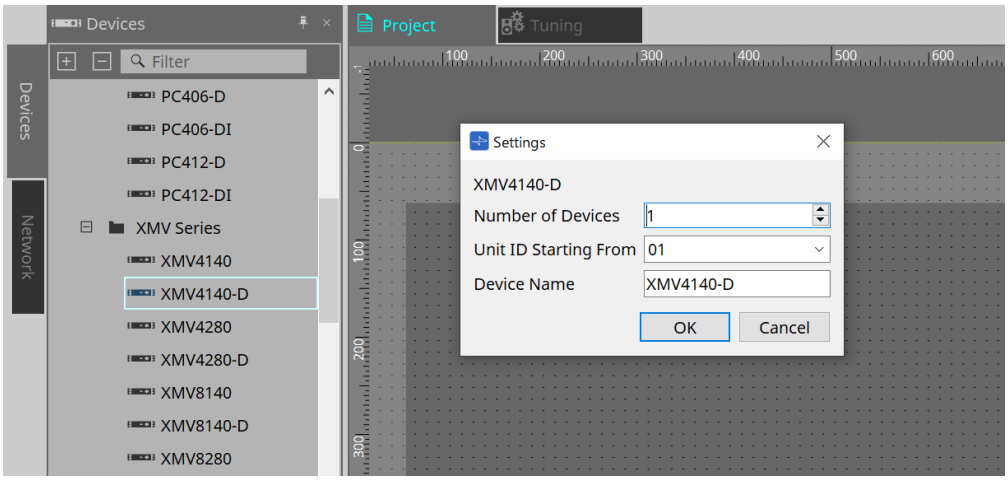
19. パワーアンプ XMVシリーズ

19.1. 概要

XMVシリーズは商業空間に最適な機能を搭載しながら高効率を実現したClass Dパワーアンプです。アナログの入出力に加え、新開発のデジタル音声フォーマット「YDIF」あるいはネットワークオーディオの「Dante」を搭載しています。Ethernetケーブル接続によるYDIF対応モデルはセットアップを容易にし、Danteモデルは大規模設備での高音質なデジタル伝送を可能にします。

19.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。

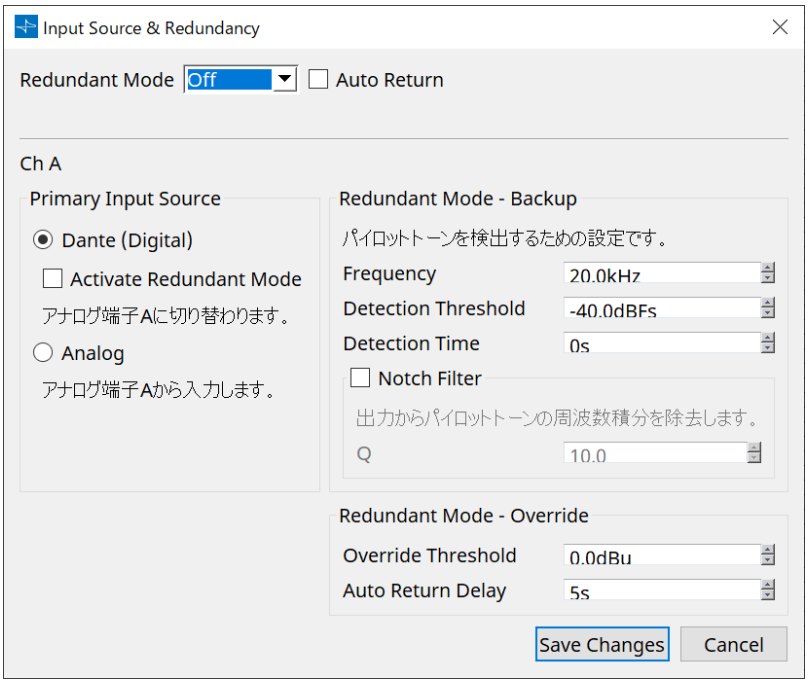


- **Number of Devices**
  シートに配置するXMVシリーズの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

19.2.1. 「Properties」エリア

Input Source & Redundancy

XMVの入力ソースをチャンネル単位でデジタルにするかアナログにするかを設定をします。また、入力ソースをデジタルにした場合、パイロットトーンまたはアナログの入力を検知して入力ソースをデジタルからアナログに切り替える設定をします。ここではデジタルがDanteの場合の画面で説明します。
「Properties」エリアの「Input Source＆Redundancy」の各チャンネルのValue欄をクリックすると表示される ボタンをクリックすると、「Input Source & Redundancy」ダイアログが表示されます。



- **[Redundant Mode]リストボックス**
  リダンダントの方法を選択します。
  - **[Off]**
    リダンダントを無効にします。
  - **[Backup]**
    断線などのトラブルでデジタル入力のパイロットトーンが途切れたとき、アナログ入力に切り替えます。
  - **[Override]**
    アナログ音声を検出したとき、アナログ入力に切り替えます。
- **[Auto Return]チェックボックス**
  チェックを入れると、以下のようになります。
  - **Backupモードの場合**
    デジタル入力が復帰したら、入力ソースをアナログからデジタルに切り替えます。
  - **Overrideモードの場合**
    アナログ入力がしきい値を下回ったときに、入力ソースをアナログからデジタルに戻します。
- **チャンネルインデックス**
  設定をする入力チャンネル番号が表示されます。
- **「Primary Input Source」エリア**
  入力をデジタルにするかアナログにするかをチャンネル単位で切り替えます。
  - **[YDIF(Digital)]/[Dante(Digital)]ラジオボタン**

該当チャンネルの信号をYDIFまたはDante から取得します。
DanteのパッチはDante Controllerで設定してください。

- **[Active Redundant Mode]チェックボックス**
  チェックを入れると、リダンダント機能が有効になります。
  [Redundant Mode]リストボックスでリダンダントモードが決まります。[Off]が選択されている場合、ここにチェックを入れてもリダンダント機能は無効です。

- **[Analog]ラジオボタン**
  信号を該当チャンネルのアナログ入力端子から取得します。

- **「Redundant Mode - Backup」エリア**
  チャンネルごとにパイロットトーンの検出に関する設定をします。

  - **[Frequency]スピンボックス**
    パイロットトーンの中心周波数を設定します。

  - **[Detection Threshold]スピンボックス**
    パイロットトーン入力レベルのしきい値を設定します。しきい値以上の入力をパイロットトーンとみなします。

  - **[Detection Time]スピンボックス**
    パイロットトーンの検出時間を設定します。設定した時間間隔内にパイロットトーンを検出できないとき、入力が途切れたと判断します。

  - **[Notch Filter]チェックボックス**
    チェックを入れると、パイロットトーンの周波数成分を除去し、アンプからパイロットトーンを出力しないためのノッチフィルターを有効にします。

  - **[Q]スピンボックス**
    ノッチフィルターの周波数帯域の幅を設定します。

- **「Redundant Mode - Override」エリア**
  チャンネルごとにOverrideモードのアナログ入力に切り替える条件の設定をします。

  - **[Override Threshold]スピンボックス**
    アナログ入力のしきい値を設定します。しきい値を超えたときに入力ソースをアナログに切り替えます。

  - **[Auto Return Delay]スピンボックス**
    [Auto Return]チェックボックスにチェックが入っているとき、アナログ入力がしきい値を下回ったと判定してからデジタル入力に切り替えるまでの時間を設定します。

- **[Save Changes]ボタン**
  設定を保持してダイアログを閉じます。

- **[Cancel]ボタン**
  設定の変更を破棄してダイアログを閉じます。

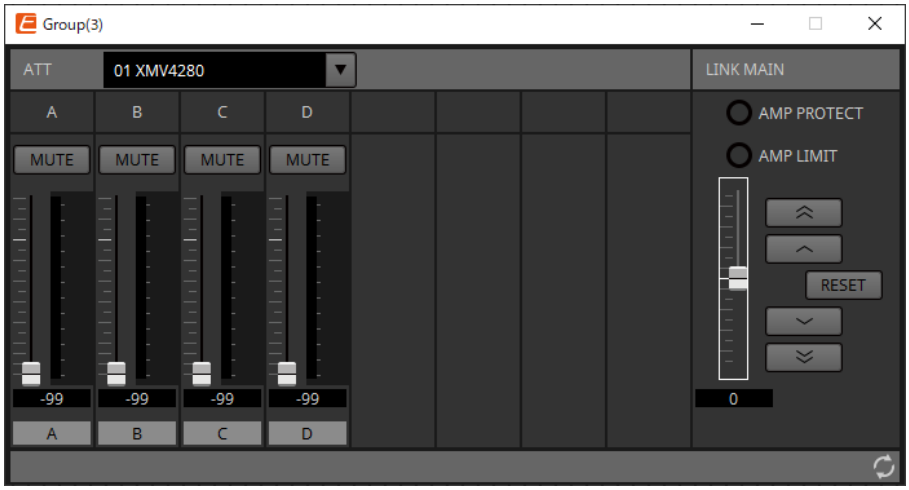
その他の機器の設定については、XMVシリーズの取扱説明書を参照ください。

19.3. 「Tuning」シート

「Tuning」シートでは、グループ化したチャンネルのパラメーター（EQやDelayなど）を一括で設定できます。
シートの詳細は、「Tuning」シートを参照ください。

19.3.1. リンクグループエディター

リンクグループのパラメーター設定画面です。
「Tuning」シートのXMVシリーズのチャンネルが登録されているリンクグループをダブルクリックするか、右クリックして[Open Link Group Editor]を選択すると表示されます。



19.3.2. 「ATT」

グループに登録しているチャンネルのアッテネーターを一括して変更します。
アッテネーターはメインフェーダーで操作します。
「LINK MAIN」のメインフェーダーは、グループに登録しているチャンネルのアッテネーターを相対値で一括変更します。アッテネーターについては「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディターを参照ください。

- **ATTリストボックス**
  グループに登録されているアンプの一覧です。
- **チャンネルインデックス**
  機器のチャンネルインデックスです。

19.3.3. 「LINK MAIN」

リンクグループ内のアッテネーターを相対値で調整します。

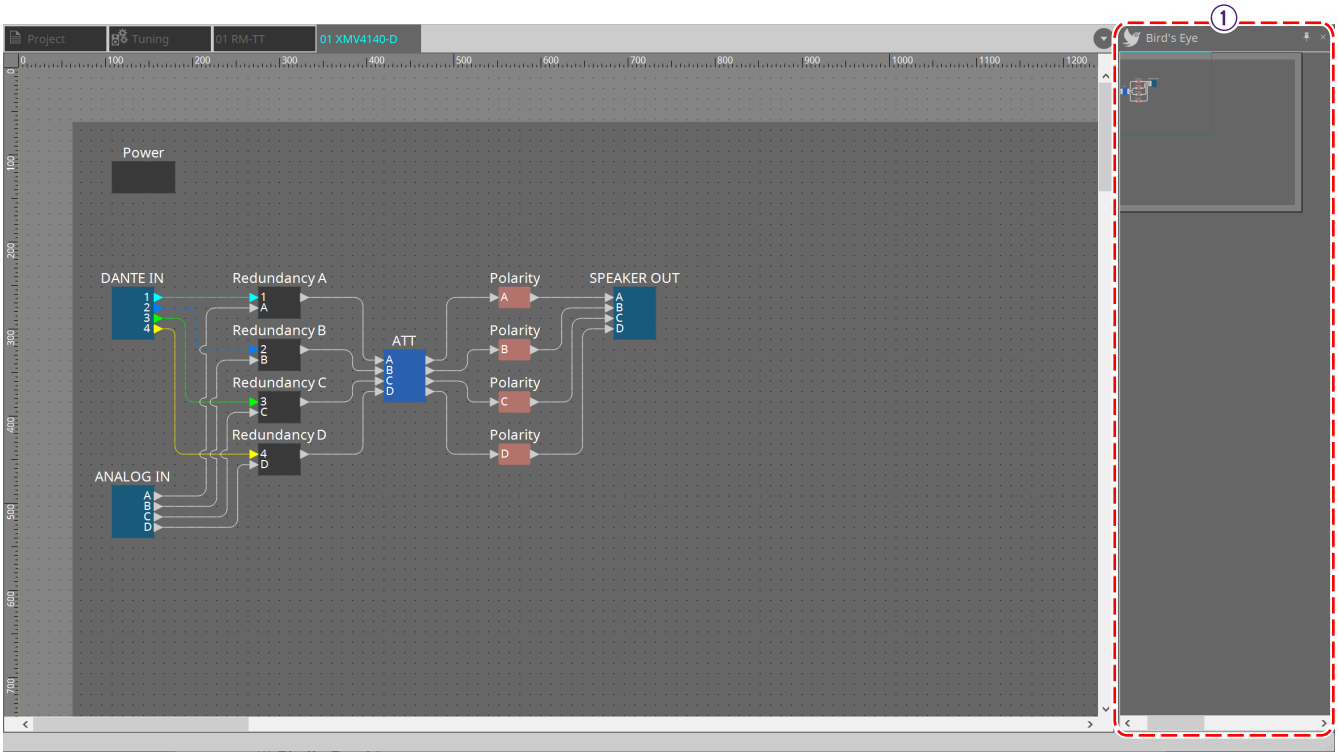
- **[AMP PROTECT]インジケーター**
  XMV本体でプロテクションが機能しているときに点灯します。
- **[AMP LIMIT]インジケーター**
  XMV本体でリミッターが機能しているときに点灯します。
- **メインフェーダー**
  リンクグループ内のアッテネーターを相対値で調整します。上下に可動範囲が灰色で表示されます。
  フェーダーを右クリックして、[Match Values]を選択すると、リンクグループのメンバーのアッテネーターが同じ値になります。
- **ボタン**

メインフェーダーを3 dB上昇させます。

- **ボタン**
  メインフェーダーを1 dB上昇させます。
- **[RESET]ボタン**
  メインフェーダーを0の位置に移動させます。
- **ボタン**
  メインフェーダーを1 dB下降させます。
- **ボタン**
  メインフェーダーを3 dB下降させます。

19.4. 機器シートの画面構成

XMVシリーズの機器シートを開くと、機器シートと「Bird's Eyeビュー」が表示されます。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。



① Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

19.5. コンテキストメニュー

各エリアを右クリックして表示されるコンテキストメニューの内容は以下の通りです。

19.5.1. 「Tuning」シート

「Tuning」シートを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Select All]	[All Link Groups] シート上のすべてのリンクグループを選択します。
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。
[Snap to Grid]	チェックを入れると、シートのグリッドに合わせてオブジェクトを配置します。

19.5.2. 「Tuning」シートのリンクグループ

リンクグループを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。接続している機器によって使用できないメニューがあります。

メニュー	内容
[Open Link Group Editor]	リンクグループエディターが開きます。リンクグループエディターについては、各機器を参照してください。
[Open Device Sheet]	選択中の機器の機器シートを開きます。
[Identify]	機器のインジケーターが数秒間点滅します。 PCシリーズでチャンネルを選択しているときは、チャンネルのインジケーターが数秒間点滅します。
[Delete]	チャンネルが選択されている場合は、チャンネルをリンクグループから削除します。 機器が選択されている場合は、機器をリンクグループから削除します。 リンクグループが選択されている場合は、リンクグループを削除します。
[Bring to Front]	リンクグループを最前面に移動します。
[Send to Back]	リンクグループを最背面に移動します。

19.5.3. 「Project Devices」エリア

「Project Devices」エリアの機器やチャンネルを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器やチャンネルが登録されているリンクグループにフォーカスを当てます。
[Add to Link Group]	リンクグループに機器のチャンネルを登録します。スピーカーが機器に接続されている場合、接続されている機器のチャンネルを登録します。

19.5.4. 「Link Groups」エリア

「Link Groups」エリアのオブジェクトを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器上で右クリックした場合はリンクグループ内の機器にフォーカスを当て、リンクグループコンポーネントエディターを開きます。 チャンネルやリンクグループ上で右クリックした場合はリンクグループ内のチャンネルやリンクグループにフォーカスを当て、リンクグループエディターが開きます。
[Delete]	チャンネル上で右クリックした場合はチャンネルをリンクグループから削除します。 機器上で右クリックした場合は機器をリンクグループから削除します。 リンクグループ上で右クリックした場合は、リンクグループを削除します。

19.6. アラート一覧

XMVシリーズで発生するアラート、およびその内容/対策は以下のとおりです。
単発は事象が発生したときに表示されます。継続は事象が発生したときと事象が終了したときに表示されます。一部のアラートと情報はProVisionaire Designでは表示されますが、機器本体では表示されません。
問題が解決しない場合は、機器本体の取扱説明書の巻末に記載されている修理ご相談センターにご連絡ください。

機器の不具合

番号	重大度	内容	対策	単発/継続
001～008	Fault	機器が正常に起動していません。	電源をいったんオフにして、5秒以上間隔を空けてから電源をオンにしてください。問題が解決しない場合は、メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、修理ご相談センターにご連絡ください。	継続
10	Fault	内蔵バックアップバッテリーが完全に消耗しているか、装着されていません。	電源をオフにすると現在の設定が失われ、初期値に戻ります。ただちに使用を中止して、修理ご相談センターにご連絡ください。	継続
11	Error	内蔵バックアップバッテリーが極端に消耗しており、メモリーが消滅している可能性があります。		継続
12	Warning	内蔵バックアップバッテリーの残量が少なくなっています。	使用に支障はありませんが、継続して使用すると設定が失われ、初期設定に戻る可能性があります。お早めに修理ご相談センターにご連絡ください。	単発
13	Fault	内蔵時計に異常が発生したので、初期値(2000 年1 月1 日0 時0 分)にしました。	電源をオンにするたびに発生する場合は内蔵バックアップバッテリーが消耗しているか、機器が故障している可能性があります。修理ご相談センターにご連絡ください。一度だけの場合は時計の設定値の異常を検出して初期化しましたので、「Clock」ダイアログを使って時刻を設定してください。	継続
15	Fault	内蔵メモリーに保存される設定が失われています。	内蔵バックアップバッテリーが消耗しているか、機器が故障している可能性があります。修理ご相談センターにご連絡ください。	継続
16	Fault	機器の内蔵メモリーが故障している可能性があります。	修理ご相談センターにご連絡ください。	継続
21	Error	ワードクロックリーダーに選択されたデジタル信号がアンロックになりました。	ワードクロック信号が正常に入力されているか確認してください。	継続

番号	重大度	内容	対策	単発/継続
22	Error	[YDIF IN]端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 指定された仕様のケーブルを使ってください。	単発
23	Error	[YDIF IN]端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。		継続
30	Error	[YDIF IN]端子の接続に異常があります。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 指定された仕様のケーブルを使ってください。	継続
40	Error	IPアドレスが重複しています。	IPアドレスが重複しないように設定してください。	継続
41	Warning	起動してから60秒以内にIPアドレスが確定しませんでした。	機器設定ディップスイッチのスイッチ6(IP SETTING)が「PC」に設定されている場合は、DHCP サーバーでIPアドレスを設定してください。	継続
43	Error	ネットワークに接続している機器が多すぎます。	ネットワークに接続している機器の数を減らしてください。	単発
46	Error	Danteの送信フロー数が制限を超えました。	Dante Controllerで送信フローの一部をマルチキャストに変更するなど、フロー数を減らしてください。	単発
50	Error	Unit IDに「00」が設定されています。	Unit IDを「00」以外に設定してください。	継続
51	Error	同一ネットワークに接続された機器に、同一のUnit IDを持つ機器が発見されました。	Unit IDが重複しないように設定してください。	継続
72	Error	DanteにDevice Lockが設定されているため、ディップスイッチの設定とDanteの設定が一致しません。	Device Lockの設定をしている場合は、Dante Controllerから解除するか、ディップスイッチの設定を見直し、現状に合わせて正しく設定してください。	継続
100	Fault	スピーカー出力端子に直流成分が検出されたため、電源がシャットダウンされました。	機器の故障と思われますので、修理ご相談センターにご連絡ください。	継続
101	Fault	電源の温度が規定値を超えたため、電源がシャットダウンされました。	電源をオフにして、電源を冷やしてから再度電源をオンにしてください。連続して大電力を出力すると高温になりますので、出力レベルを下げてください。それでも温度が高い場合は、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっていないか確認して、掃除してください。	継続

番号	重大度	内容	対策	単発/継続
103	Error	プロテクションが働き、電源がシャットダウンされました。	高負荷状態が連続しているため、出力レベルを下げてください。プロテクションが働いた要因については、取扱説明書を参照してください。	継続
104	Error	プロテクションが働き、出力がミュート[ch*]されました。		継続
105	Fault	スピーカー出力端子[ch*]のショートが検出されたため、出力がミュートされました。	スピーカー出力端子の＋と－がショートしているか、接続しているスピーカーが故障している可能性があります。	単発
106	Warning	アンプ部(ヒートシンク)の温度が変化し、次のスピーカー出力状態になりました。(*****) * = 0 dB and OK -1 dB and in protection muted and in protection	連続して大電力を出力すると高温になりますので、出力レベルを下げてください。それでも温度が高い場合は、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっていないか確認して、掃除してください。	単発

機器の情報

番号	重大度	内容	対策	単発/継続
200	Information	電源がオンになりました。	—	単発
201	Information	電源がオフになりました。	—	単発
202	Information	ファームウェアのアップデートが完了しました。	—	単発
203	Information	初期化を実行しました。	—	単発
204	Information	パネルロックが解除されました。	—	単発
205	Information	IPアドレスが確定しました	—	単発
206	Information	DHCPサーバーで運用中にネットワークのIPアドレスが確保されました。	—	単発
207	Information	DHCPサーバーで運用中にネットワークのIP アドレスが開放されました。	—	単発
211	Information	Editorと機器とが同期を開始しました。	—	単発

アンプの情報

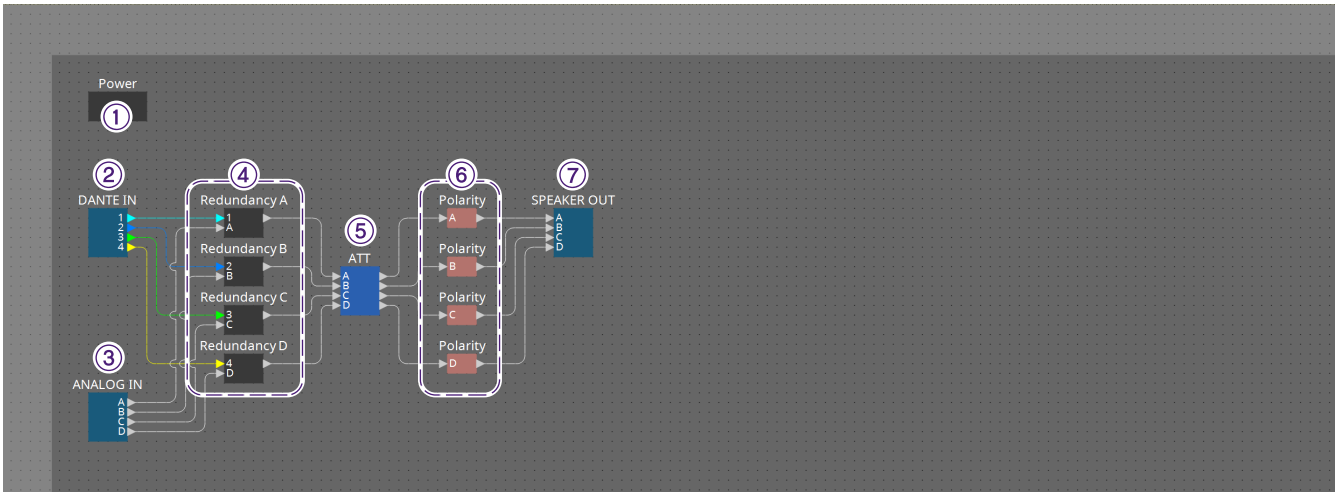
番号	重大度	内容	対策	単発/継続
102	Information	プロテクションが働き、リミッター[ch*] が動作しました。	高負荷状態が連続しているため、出力レベルを下げてください。プロテクションが働いた要因については、取扱説明書を参照してください。	継続

番号	重大度	内容	対策	単発/継続
110	Error	Redundant Backup機能が動作し、チャンネル* がアナログ入力に切り替わりました。	デジタル信号に異常があります。デジタル回線の接続やパイロットトーン信号が入力されているかを確認してください。	継続
219	Information	Power Amp Modeが変更されました。	—	単発
226	Information	Redundant Override機能が動作し、チャンネル*がアナログ入力に切り替わりました。	—	継続

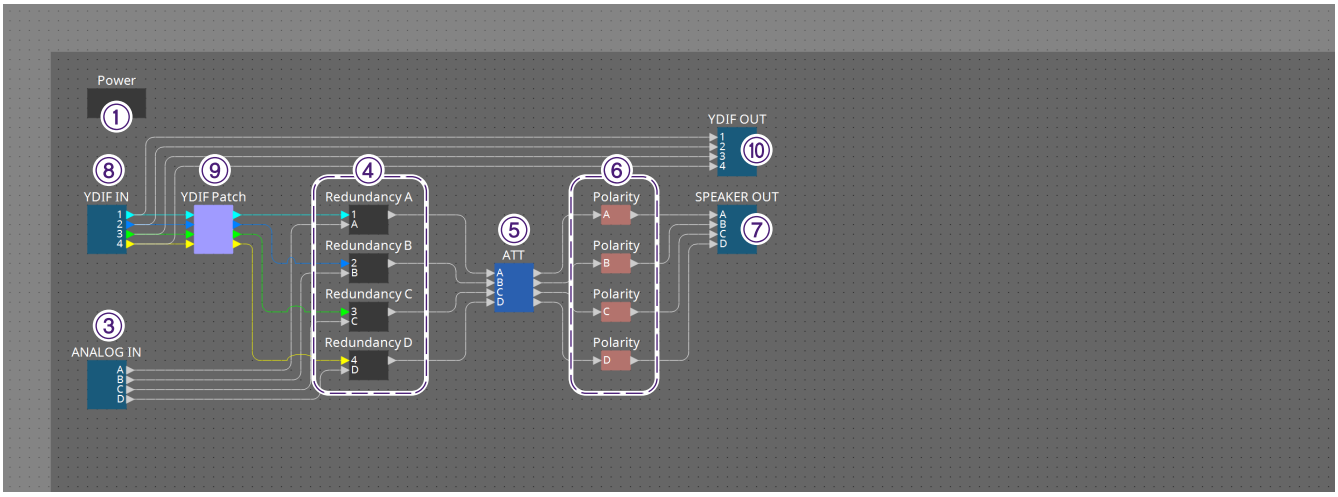
19.7. コンポーネントエディター

コンポーネントエディターでは、選択した機器の各コンポーネントの設定や調整をします。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではXMVシリーズのコンポーネントエディターと、コンポーネントと関連するダイアログやウィンドウについて説明します。その他のコンポーネントの詳細は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

Danteモデル



番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Power	電源のスタンバイ/オン、ミュート、極性、アッテネーターを設定します。	「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター
②	DANTE IN	[Dante]端子から入力された音声信号を送信します。	-
③	ANALOG IN	アナログ入力端子から入力された音声信号を送信します。	-
④	Redundancy	Redundantモード時のパイロットトーン検出設定を行います。	「Redundancy」コンポーネントエディター
⑤	ATT	電源のスタンバイ/オン、ミュート、極性、アッテネーターを設定します。	「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター
⑥	Polarity	電源のスタンバイ/オン、ミュート、極性、アッテネーターを設定します。	「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター
⑦	SPEAKER OUT	スピーカー出力端子の出力電圧と出力電流を表示します。	「Speaker Out」コンポーネントエディター

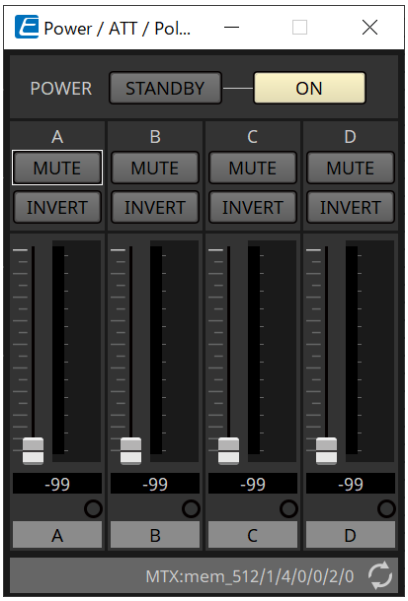


YDIFモデル

番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Power	電源のスタンバイ/オン、ミュート、極性、アッテネーターを設定します。	「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター
③	ANALOG IN	アナログ入力端子から入力された音声信号を送信します。	-
④	Redundancy	Redundantモード時のパイロットトーン検出設定を行います。	「Redundancy」コンポーネントエディター
⑤	ATT	電源のスタンバイ/オン、ミュート、極性、アッテネーターを設定します。	「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター
⑥	Polarity	電源のスタンバイ/オン、ミュート、極性、アッテネーターを設定します。	「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター
⑦	SPEAKER OUT	スピーカー出力端子の出力電圧と出力電流を表示します。	「Speaker Out」コンポーネントエディター
⑧	YDIF IN	[YDIF]端子から入力された音声信号を送信します。	-
⑨	YDIF Patch	各アンプのインプットチャンネルに入力するYDIFの音声チャンネルを選択します。	「YDIF Patch」コンポーネントエディター

19.7.1. 「Power/ATT/Polarity」コンポーネントエディター

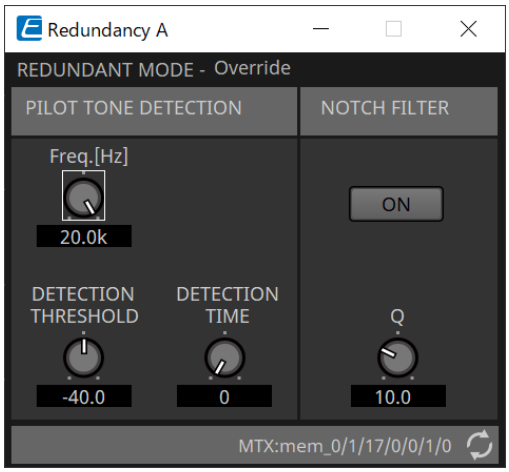
「Power」コンポーネント、「ATT」コンポーネント、「Polarity」コンポーネントのいずれかをダブルクリックすると表示されます。



- **[STANDBY]/[ON]ボタン**
  電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- **チャンネルインデックス**
  スピーカー端子の出力チャンネルを表示します。
- **[MUTE]ボタン**
  出力チャンネルのミュートのオン/オフを切り替えます。
- **[INVERT]ボタン**
  出力信号の極性を切り替えます。
- **アッテネーター**
  XMVの出力アッテネーター値を設定します。
- **リダンダントインジケーター**
  リダンダント機能で入力がアナログに切り替わっているときに点灯します。

19.7.2. 「Redundancy」コンポーネントエディター

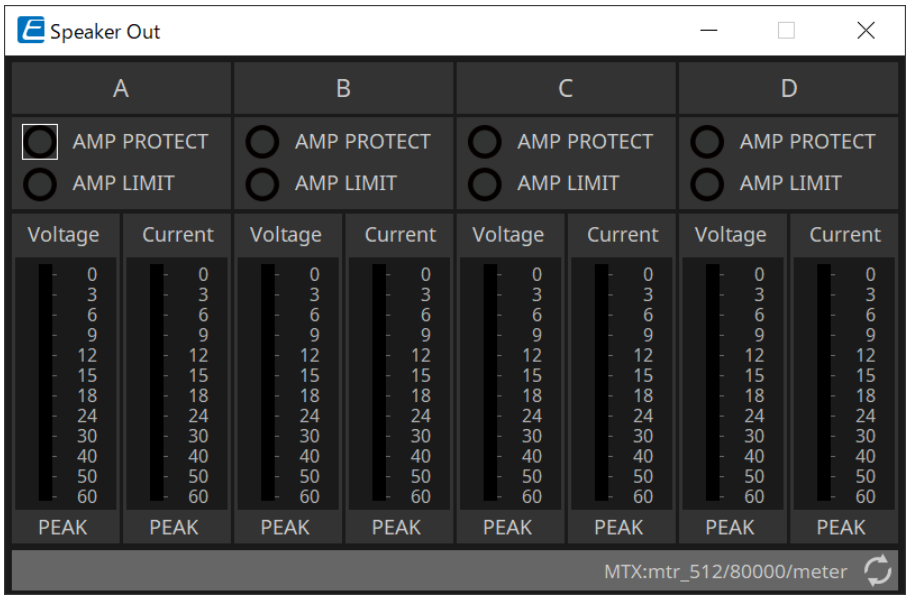
「Redundancy」コンポーネントをダブルクリックすると表示されます。
リダンダントモードが[Backup]のとき、音を聞きながら設定をしたい場合に使用するコンポーネントエディターです。



- **[REDUNDANT MODE]**
  リダンダントモードが何になっているかを表示します。
- **[PILOT TONE DETECTION]**
  パイロットトーンの検出に関する設定をします。
  - **[Freq.[Hz]]ノブ**
    パイロットトーンの中心周波数を設定します。
  - **[DETECTION THRESHOLD]ノブ**
    パイロットトーン入力レベルのしきい値を設定します。しきい値以上の入力をパイロットトーンとみなします。
  - **[DETECTION TIME]ノブ**
    パイロットトーンの検出時間を設定します。設定した時間間隔内にパイロットトーンを検出できないとき、入力が途切れたと判断します。
- **[NOTCH FILTER]**
  アンプからパイロットトーンを出力しないためのノッチフィルターに関する設定をします。
  - **[ON]ボタン**
    オンにすると、パイロットトーンの周波数成分を除去し、アンプからパイロットトーンを出力しないためのノッチフィルターを有効にします。
  - **[Q]ノブ**
    ノッチフィルターの周波数帯域の幅を設定します。

19.7.3. 「Speaker Out」コンポーネントエディター

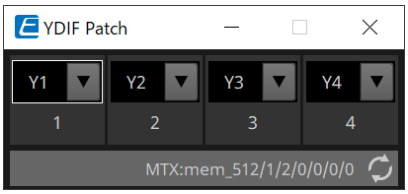
スピーカー出力端子の出力電圧と出力電流を表示します。



- **[AMP PROTECT]インジケーター**
  XMV本体でプロテクションが機能しているときに点灯します。
- **[AMP LIMIT]インジケーター**
  XMV本体でリミッターが機能しているときに点灯します。
- **[Voltage]メーター**
  出力電圧をPeakで表示します。
- **[Current]メーター**
  出力電流をPeakで表示します。

19.7.4. 「YDIF Patch」コンポーネントエディター

各アンプのインプットチャンネルに入力するYDIFの音声チャンネルを選択します。



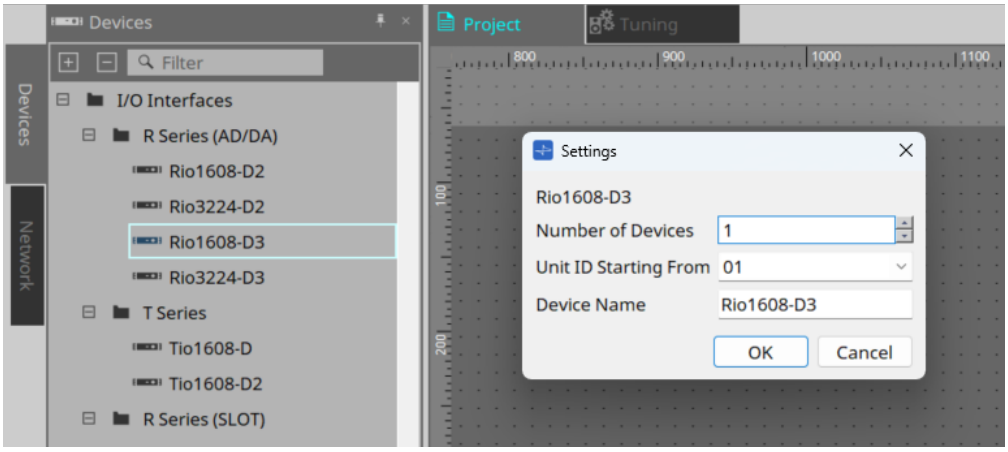
20. I/Oインターフェース Rio3224-D3 / Rio1608-D3 / Rio3224-D2 / Rio1608-D2

20.1. 概要

Dante対応I/Oラックです。アナログ端子からの入力をDanteの出力に変換したり、Danteの入力をアナログ端子への出力に変換したりできます。
Rio3224-D3/D2は、8チャンネルのAES/EBU出力を備えているため、Danteの入力をデジタル出力(AES/EBU)に変換することもできます。

20.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。

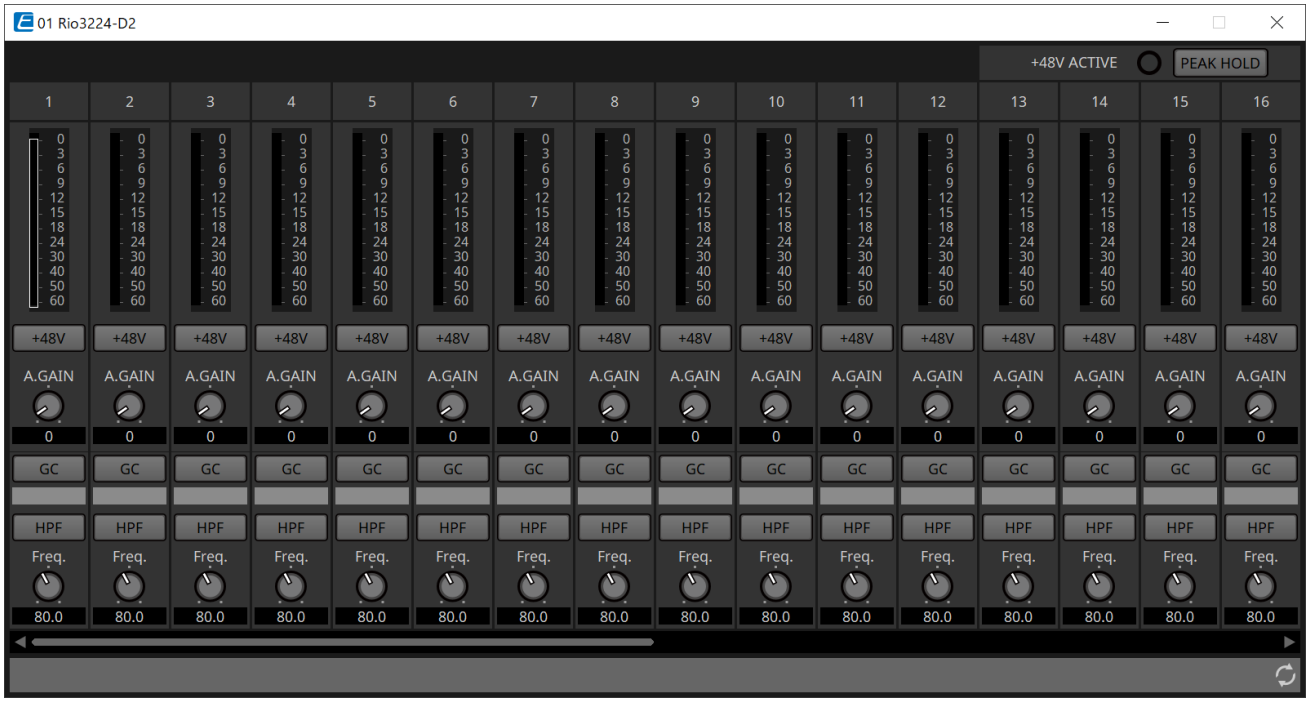


- **Number of Devices**
  シートに配置するRioの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

20.3. エディター

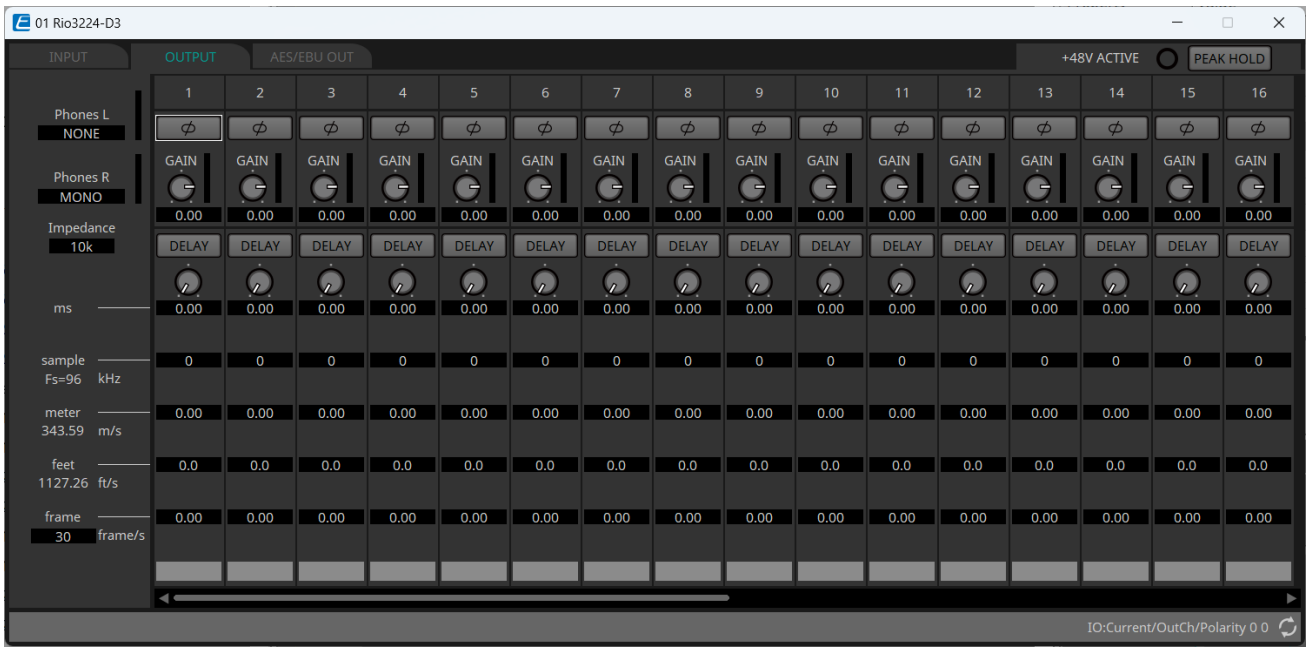
「Project」シート上のデバイスをダブルクリックすると、直接エディターが開きます。

INPUT



- **+48V ACTIVE**
  機器のファンタム機能の有効/無効を表示します。
- **[+48V]ボタン**
  HAのファンタム電源 (+48V) のオン/オフを切り替えます。機器のファンタム機能が有効なときに、このボタンのオンが有効になります。
- **[PEAK HOLD]ボタン**
  このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。
- **[A.GAIN]ノブ**
  HAアナログゲインを調整できます。
- **[GC]インジケーター/ ゲイン値**
  Rシリーズ (AD/DA) のゲインコンペンセーションのオン / オフ状態が表示されます。ゲインコンペンセーションがオンのときは、ゲインコンペンセーションにより固定されたゲイン値が表示されます。
- **[HPF]ボタン**
  オン(点灯)にすると、オーディオ信号にハイパスフィルターをかけることができます。
- **[Freq.]ノブ**
  ハイパスフィルターをかける周波数帯域を調節できます。

OUTPUT (Rio3224-D3、Rio1608-D3のみ)
AES/EBU OUT(Rio3224-D3のみ)



- **Phones**
  PHONES OUTポートに出力する音声を選択します。

> LとRで同じソースを選択するか、Lでソースを選択してRをMONOにすると音声がモノで出力されます。

- **Impedance**
  出力インピーダンスを選択します。
- **[Polarity]ボタン**
  位相を切り替えます。
- **[Gain]ノブ**
  ゲインを設定します。
- **[Delay]ボタン**
  ディレイをON/OFFします。
- **[Delay]ノブ**
  ディレイタイムを設定します。

20.4. コンテキストメニュー

EditorのChのスペースを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
Identify	選択した機器本体のLCDディスプレイとChに関連するインジケーターを一斉に点滅させます。

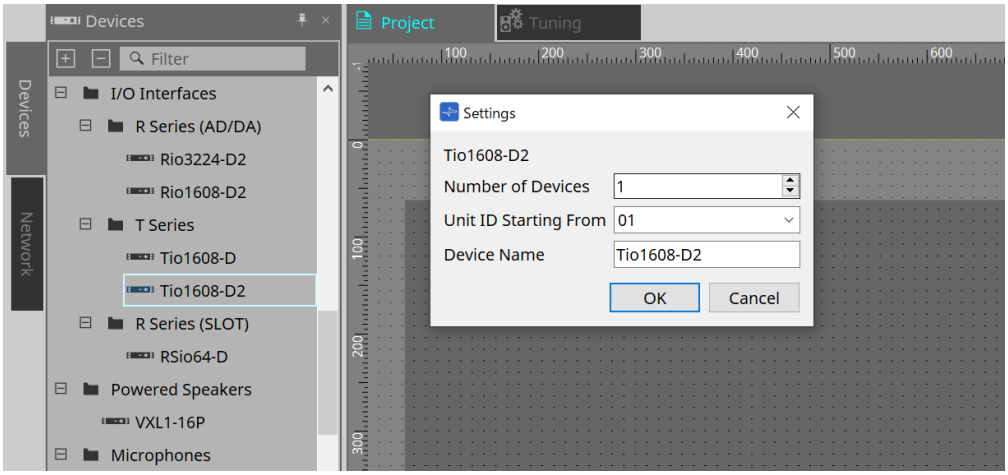
21. I/O インターフェース Tio1608-D / Tio1608-D2

21.1. 概要

TioシリーズはDante対応16マイク/ライン入力、8ライン出力を備えたI/Oラックです。
Tioシリーズを使用することで、簡単にシステムを拡張することができ、最大で40In/24Outのステージボックスシステムを構築することができます。

21.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するTioの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

21.3. エディター

「Project」シート上のデバイスをダブルクリックすると、直接エディターが開きます。

機能と使い方は[Rio]エディターと同様です。

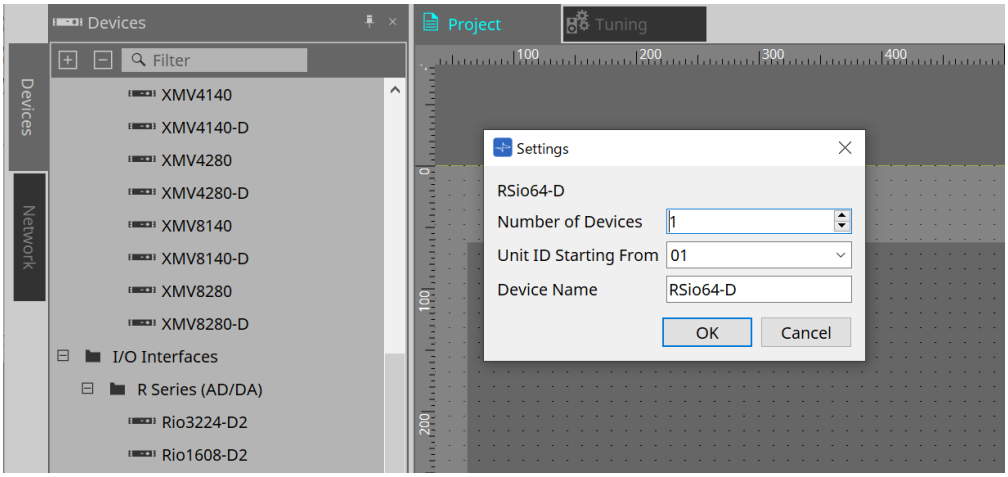
22. I/O インターフェース RSio64-D

22.1. 概要

ライブサウンドをはじめ、放送やレコーディングなど幅広い用途で活用できる、最大64イン/64アウトのDante/Mini-YGDAIカード変換に対応したI/Oラックです。

22.2. 「Project」シート

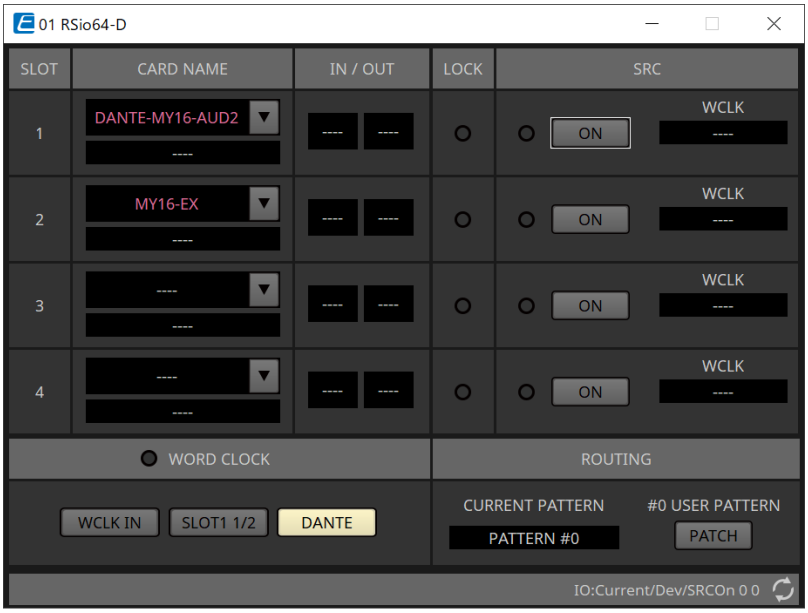
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するRSioの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

22.3. エディター

「Project」シート上のデバイスをダブルクリックすると、直接エディターが開きます。



- **[CARD NAME]**
  上段
  機器に装着する予定のカードを選択します。
  クリックすると、「Select Card」ダイアログを表示します。
  下段
  実際に機器に装着されているカードを表示します。

- **IN/OUT PORT**
  スロット1～4に装着されている各カードの入力ポート数および出力ポート数が表示されます。カードが装着されていない場合は、”----“を表示します。

- **[LOCK]インジケーター**
  スロット1-4のワードクロックの状態(ステータス)を表示します。正常に動作しているときは、緑色で点灯します。

消灯	スロットにカードが挿入されていない。または未対応のカードが挿入されています。
緑(点灯) LOCK	WORD CLOCKセレクトキーで選択したクロックソースと同期したクロックが、カードから入力されていることを示します。該当するスロットに外部機器が接続されている場合は、その機器とRSio64-Dとの間で正常に入出力が行われています。なお、サンプリング周波数が近接している場合、非同期であってもこのステータスを示すことがあります。
緑(点滅) SYNC ERROR	カードからは有効なクロックが入力されていますが、WORD CLOCKセレクトキーで選択したクロックソースとは同期していません。 該当するスロットに外部機器が接続されている場合、その機器とRSio64-Dとの間では、正常に入出力が行えません。SRCをONにすることで正常に入出力を行えます。
赤(点灯) UNLOCK	カードから有効なクロックが入力されていません。該当するスロットに外部機器が接続されている場合、その機器とRSio64-Dとの間では、正常に入出力を行えません。

赤(点滅) WRONG WORD CLOCK	WORD CLOCKセレクトキーで選択したクロックソースの周波数が、スロットに挿入されたカードの動作周波数範囲外です。クロックソースの周波数をカードの動作範囲内にするか、SRCをオンにしてください。また、アナログカードの場合は、SRCをオンにすることによって、RSio64-D内蔵の48kHzで動作します。

- **[SRC]インジケーター**
  スロット 1〜4 のSRC(Sampling Rate Converter)の状態を表示します。

消灯	SRCがオフ。
緑(点灯)	SRCがオンで、SRC WCLKディップスイッチで選択したクロックが正常に入力されています。
赤(点灯)	SRCはオンになっていますが、適切なクロックが入力されていません。SRC WCLKディップスイッチで選択したクロックが入力されていないか、動作範囲外であることが考えられます。SRCをオフにするか、ディップスイッチの設定を変更してください。

- **[SRC]ボタン**
  スロットのIN側、OUT側両方のSRCのオン/オフをスロットごとに切り替えます。
- **WORD CLOCK ソース**
  スロット1〜4のSRCのワードクロックソースを表示します。

[SLOT]	スロットに挿入されているカードのワードクロックの信号を使用している場合。
[WCLK IN]	リアパネルのWORD CLOCK IN端子から入力されているワードクロック信号を使用している場合。
[CARD]	カードの内蔵サンプリングコンバーター機能がオンになっている場合。
[---]	カードが挿入されていない場合。

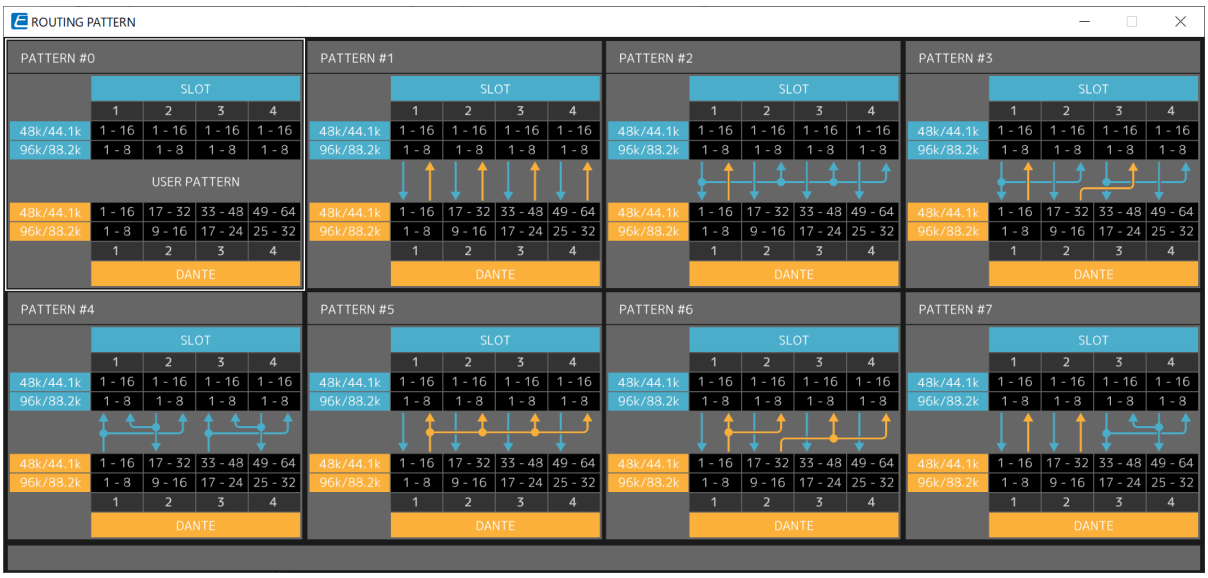
- **[WORD CLOCK]セレクトボタン**
  RSio64-Dのワードクロックソースを選択します。

WCLK IN	リアパネルの[WORD CLOCK IN]端子から入力されているワードクロック信号を使用している場合に点灯します。有効なワードクロック入力がない場合は点滅*1します。
SLOT1 1/2	スロット1のチャンネル1/2のワードクロックを使用している場合に点灯します。有効なワードクロック入力がない場合は点滅*1します。MY8-AEB使用時*2はチャンネル7/8のワードクロックを使用します。MY8-AE96S上のSRCを使用している場合、ワードクロックとして使用できません。
DANTE	Danteネットワークのワードクロック*3を使用している場合に点灯します(有効なDante信号入力がない場合は、内蔵Danteモジュールが生成するクロックで動作します)。

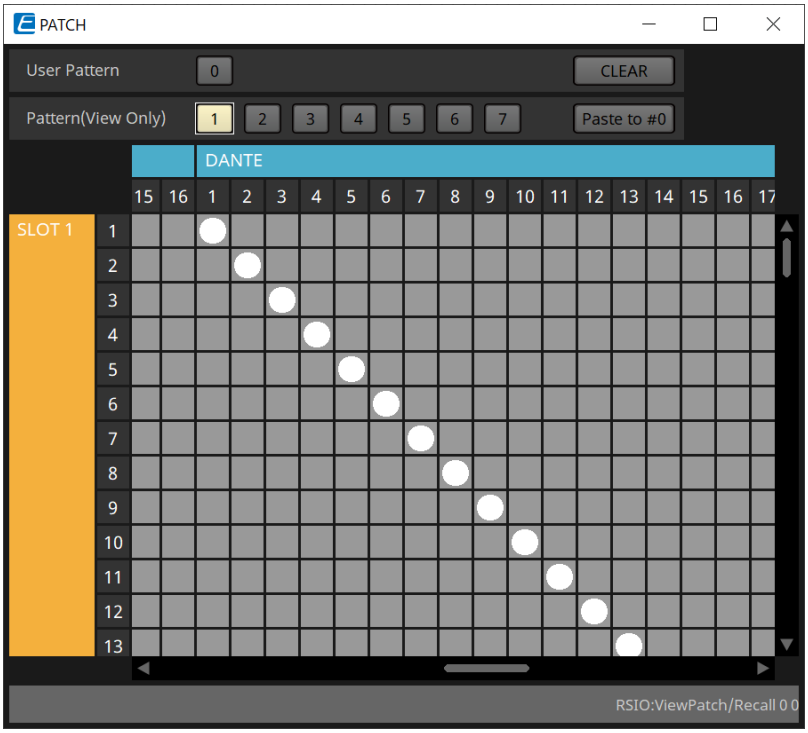
*1 点滅時はDanteワードクロック*3で動作し、入出力が行えます。

*2 MY8-AEBを使用する場合は、カードのAE⇔RSVDスイッチをRSVD側に設定してからご使用ください。
*3 Danteワードクロックの周波数を変更する場合は、Dante Controllerを使用してください。

- **[CURRENT PATTERN]ボタン**
  RSio64-D本体で現在選択されているルーティングパターンを表示します。ボタンをクリックするとルーティングパターンの詳細を表示します。



- **[Patch]ボタン**
  ボタンをクリックすると編集画面を開きます。
  機器本体のRouting Patternを選択するロータリースイッチで0（ユーザーパターン）を選択したときに適用されるPatchを編集します。



- **[User PATTERN] / [Pattern(View Only)]ボタン**
  User Patternを選択したときは、パッチを編集できます。
  Pattern(View Only)を選択したときは、７種類のテンプレートを呼び出します。編集はできません。
  Pattern(View Only)を選択しているときに[Paste to #0]ボタンをクリックすると、テンプレートをUser Patternにコピーします。

テンプレートを元にして編集するときに利用してください。

- **[CLEAR]ボタン**
  User Patternが選択されているときにクリックすると、パッチのすべてがクリアされます。

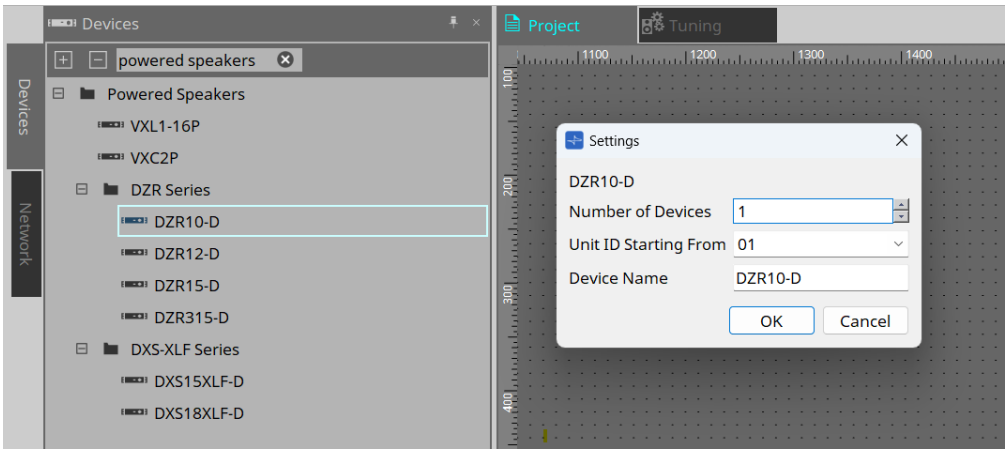
23. パワードスピーカー DZR/DXS-XLFシリーズ

23.1. 概要

DZR/DXS-XLFシリーズはクラス最高の音圧レベルと音質をハイパワーなアンプと96kHz信号処理により実現するヤマハのフラッグシップパワードスピーカーです。Danteモデルのみに対応しています。

23.2. 「Project」シート

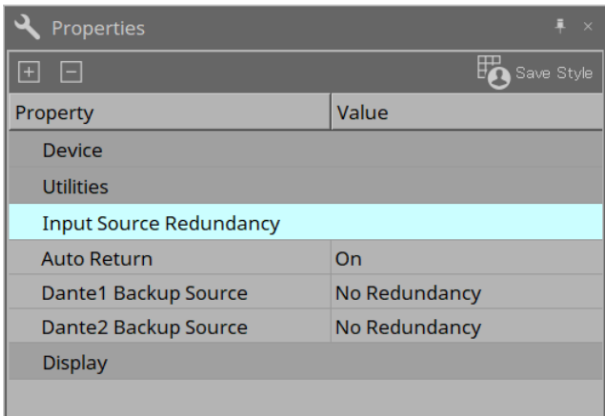
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置する機器の台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

23.2.1. 「Properties」エリア

機器の情報を表示/編集します。ここでは「Input Source Redundancy」について説明します。
その他の設定については、DZR/DXS-XLF Seriesリファレンスマニュアルを参照ください。



Input Source Redundancy

入力機器の故障などのトラブルによってプライマリー回線(Dante)の音声が途切れた場合に、バックアップ回線(Analog)に自動的に切り替えます。入力音声が復帰した際には元の回線に自動的に復帰させることができます。

Input Source RedundancyはDanteネットワークのリダンダント機能とは独立した機能です。

Dante IN(1-2)をプライマリー回線とし、Analog In(1-2)をバックアップ回線として利用します。
チャンネルの組合せは固定です。

PRIMARY SOURCE	BACKUP SOURCE
Dante IN 1	Analog In 1
Dante IN 2	Analog In 2

- **Auto Return**
  ONにすると、プライマリー回線が復帰したときに入力回線が自動的にプライマリー回線に戻ります。
  OFFにした場合は、本体でMANUAL RETURNを実行するか、ProVisionaire Designで[Return]ボタンを押すと手動で復帰できます。
- **Dante Backup Source**
  Backup Source(Analog1,2)を選択すると、Input Source Redundancy機能が有効になります。チャンネルの組み合わせは固定です。

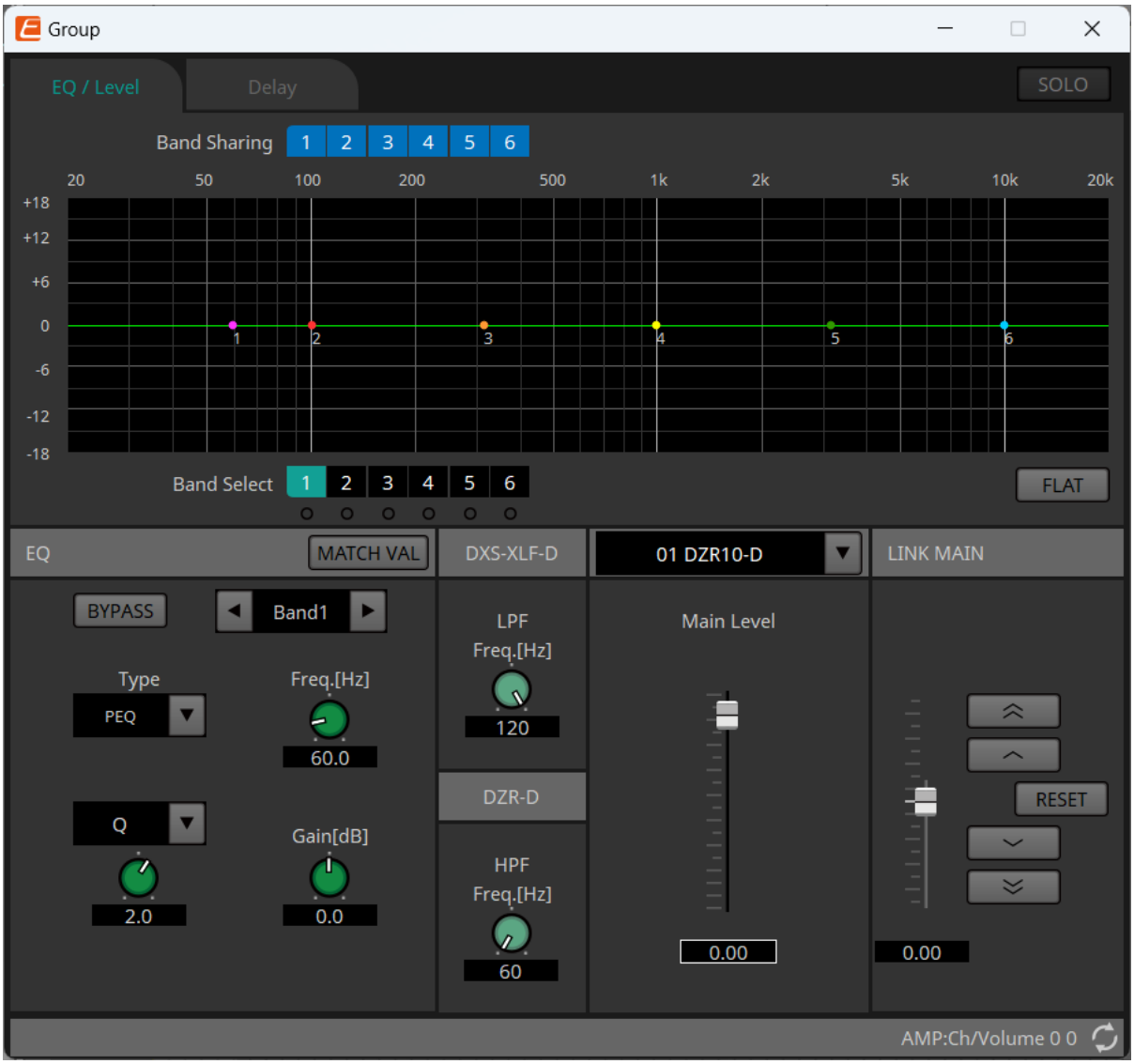
23.3. 「Tuning」シート

「Tuning」シートでは、グループ化したチャンネルのパラメーター（EQやDelayなど）を一括で設定できます。シートの詳細は、「Tuning」シートを参照ください。

1グループあたりの最大登録数はDZRシリーズは32台、DXS-XLFシリーズは16台です。

23.3.1. リンクグループエディター

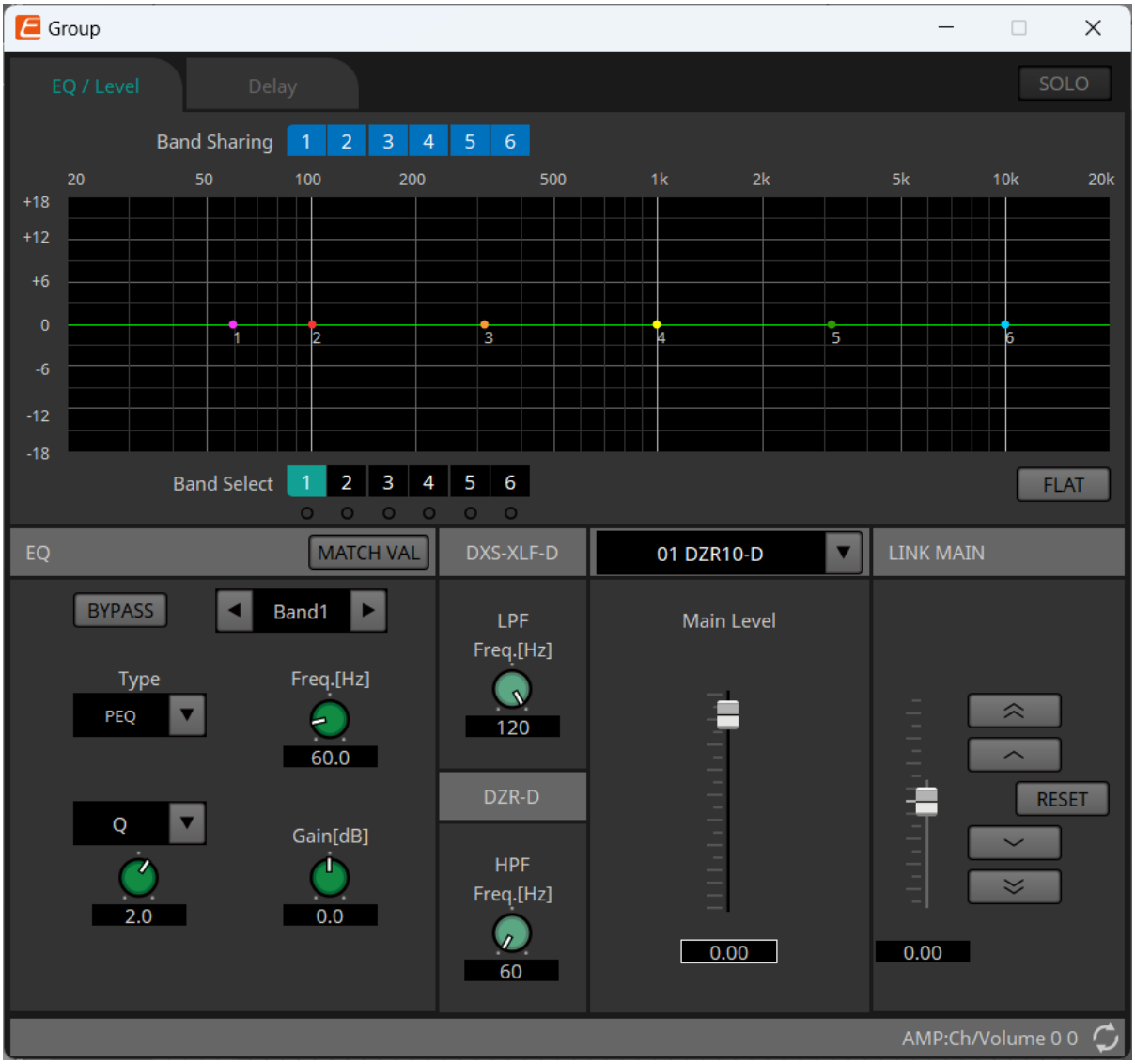
リンクグループのパラメーター設定画面です。「Tuning」シートのDZRシリーズのチャンネルが登録されているリンクグループをダブルクリックするか、右クリックして[Open Link Group Editor]を選択すると表示されます。



- **[SOLO]ボタン**
  オンラインのときに、ツールバーの[Solo Mode]ボタンをオンにすると有効になります。
  オンにすると、このリンクグループに登録されているチャンネルからのみ音声が出力され、EQや音量、Delayの最終調整をするときに便利です。
  SOLO機能によって消音する場合、「Speaker Out」コンポーネントの[MUTE]がONになります。

23.3.2. [EQ/Level]タブ

グループに登録している機器のEQやHPF, LPFを同値で一括変更します。
また、グループに登録している機器のMain Levelを相対値で一括変更します。



- **[Band Sharing]ボタン**
  ある機器が複数のグループに登録されている場合、各グループで占有するバンドをクリックして選択します。占有されたバンドは青色で表示されます。白ヌキ番号になっていないバンドは他のグループが占有しているため、選択や操作ができません。 占有の解除はバンドを占有しているリンクグループエディターでのみ実行できます。

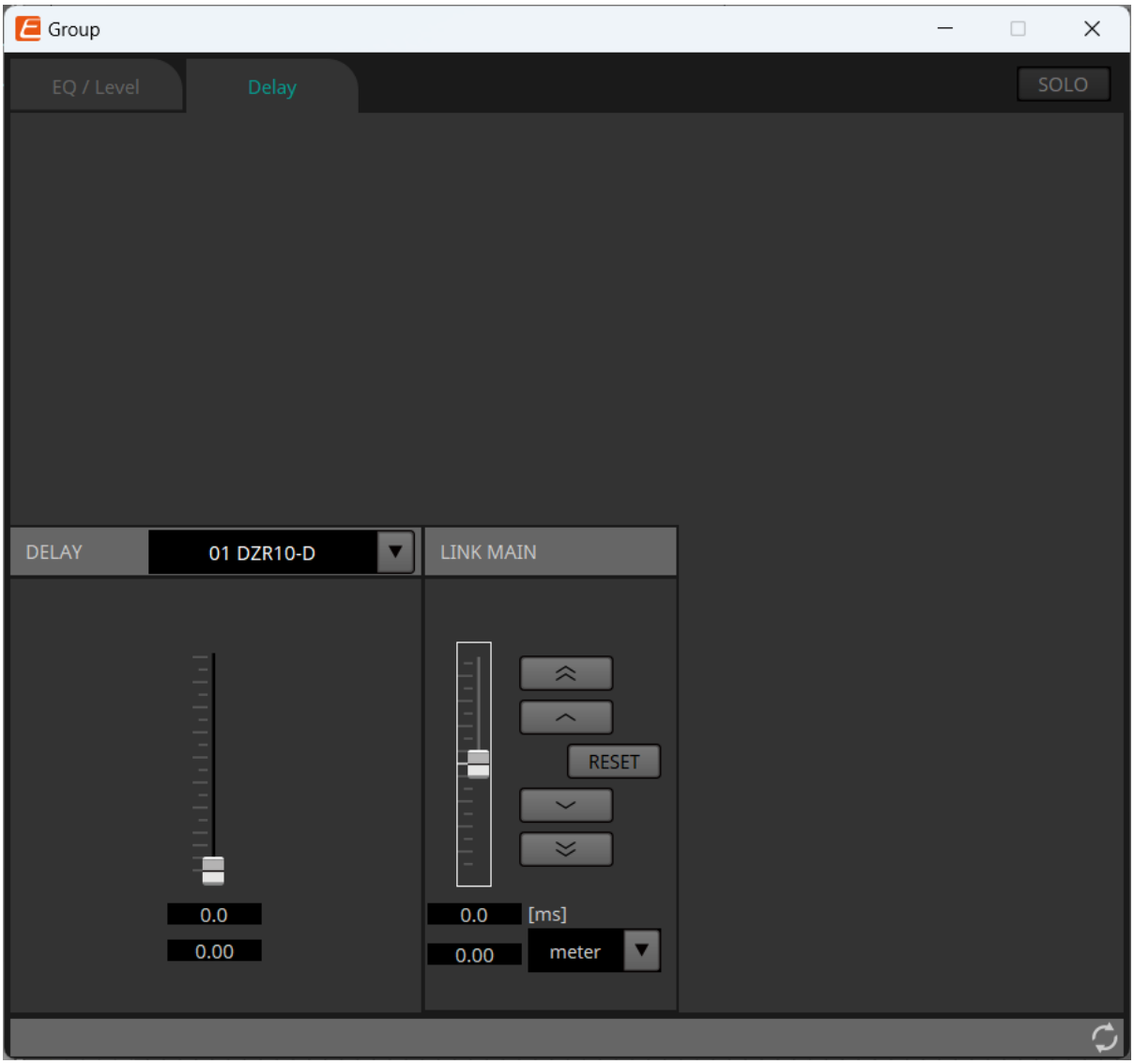
- **[MATCH VAL]ボタン**
  リンクグループエディターの占有しているバンドのEQ設定を、登録されている機器にコピーします。

- **Main Level**
  選択している機器の実際のMain Levelの値です。

- **LINK MAIN**
  リンクグループ内の機器のLevelを相対値で調整します。上下に可動範囲が灰色で表示されます。 フェーダーを右クリックして、[Match Values]を選択すると、リンクグループのメンバーのLevelが同じ値になります。

23.3.3. [Delay]タブ

グループに登録している機器のDelayを相対値で一括して変更します。

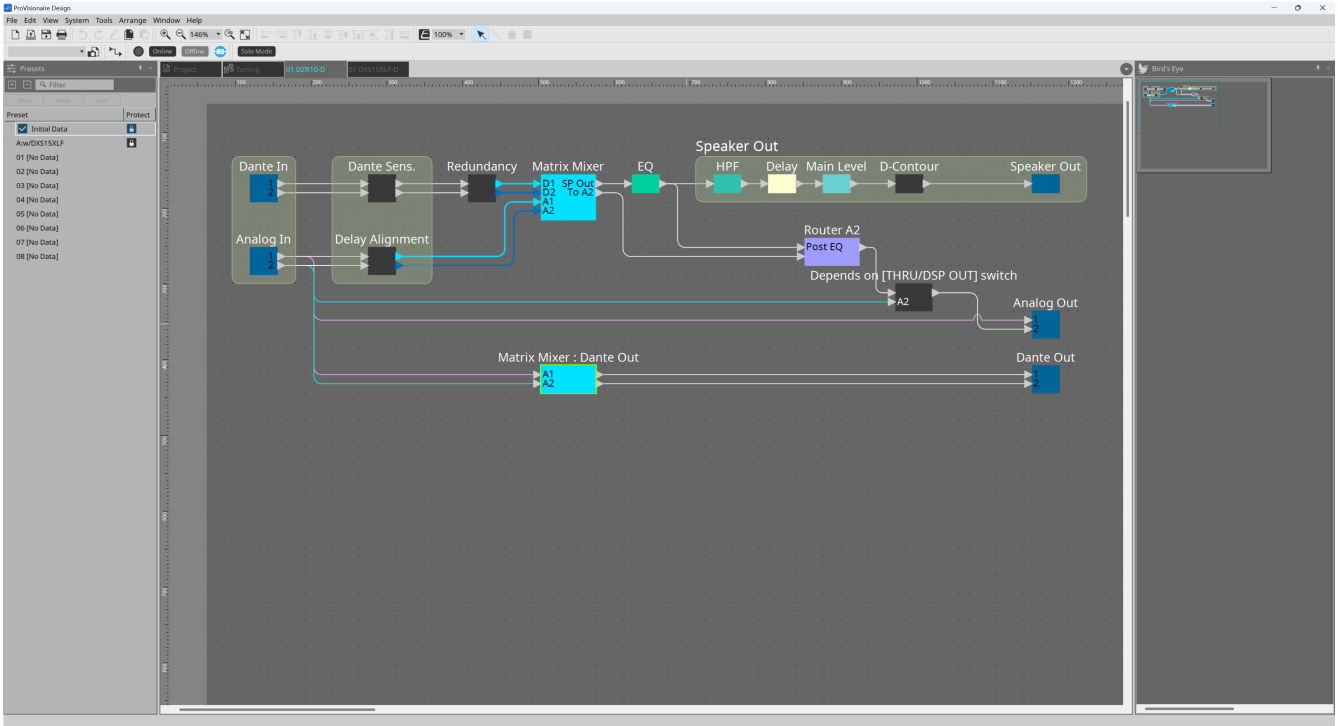


- **DELAY**
  選択している機器の実際のDelayの値です。
- **LINK MAIN**
  リンクグループ内の機器のDelayを相対値で調整します。上下に可動範囲が灰色で表示されます。 フェーダーを右クリックして、[Match Values]を選択すると、リンクグループのメンバーのDelayが同じ値になります。

その他のボタンの説明は、PCシリーズの「Tuning」シートを参照ください。

23.4. 機器シートの画面構成

DZR/DXS-XLFシリーズの機器シートを開くと、「Presets」エリアと「Bird's Eyeビュー」が表示されます。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。



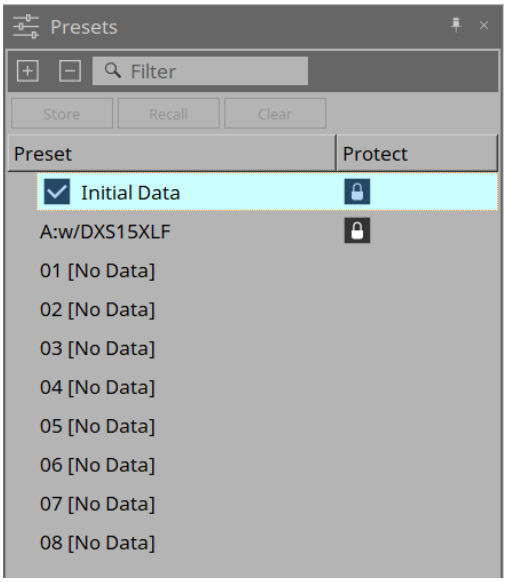
- **「Presets」エリア**
  複数のパラメーターの設定をプリセットとしてストアできます。
- **Bird's Eye ビュー**
  シートの全景を表示します。

23.5. 「Presets」エリア

このエリアでは、複数のパラメーターの設定をプリセットとしてストアしておくことができ、リコールすることでストアしてあったプリセット内のパラメーターを展開できます。展開されているプリセットのパラメーターはカレントパラメーターと呼びます。

複数の機器のプリセットを同時にリコールするには ボタンをクリックして、「Linked Presets Manager」ダイアログで設定をしてください。

プリセットのストア、リコール、クリアなどの編集操作は、ProVisionaire Designと機器が接続されているときのみ可能です。



- **[Store]ボタン**
  プリセットをストアするためのボタンです。
- **[Recall]ボタン**
  プリセットをリコールするためのボタンです。
- **[Clear]ボタン**
  プリセットをクリアするためのボタンです。
- **プリセットリスト**
  プリセットを一覧表示します。
  - **Initial Data**
    初期設定に戻します。呼び出し専用です。
  - **ファクトリープリセット**
    DZRシリーズ、DXS-XLFシリーズを組み合わせて使用する場合は、相互にモデル名の付いたプリセットを呼び出すことで、クロスオーバー周波数、レベル、ディレイ値を最適化できます。呼び出し専用です。
  - **ユーザープリセットリスト**
    設定を8つまで保存できます。呼び出し、保存、消去、タイトルの編集、プロテクトの設定ができます。
- **「Protect」**
  鍵のアイコンをクリックすると、アイコンがに変わり、プリセットを編集やクリアできないようにプロテクトをかけます。
  プロテクトがかかった状態でアイコンをクリックすると、プロテクトを解除します。
  呼び出し専用のプリセットには常にプロテクトがかかっています。

23.6. コンテキストメニュー

各エリアを右クリックして表示されるコンテキストメニューの内容は以下の通りです。

23.6.1. 「Tuning」シート

「Tuning」シートを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Select All]	[All Link Groups] シート上のすべてのリンクグループを選択します。
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。
[Snap to Grid]	チェックを入れると、シートのグリッドに合わせてオブジェクトを配置します。

23.6.2. 「Tuning」シートのリンクグループ

リンクグループを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。接続している機器によって使用できないメニューがあります。

メニュー	内容
[Open Link Group Editor]	リンクグループエディターが開きます。リンクグループエディターについては、各機器を参照してください。
[Open Device Sheet]	選択中の機器の機器シートを開きます。
[Identify]	機器のディスプレイが数秒間点滅します。
[Delete]	チャンネルが選択されている場合は、チャンネルをリンクグループから削除します。 機器が選択されている場合は、機器をリンクグループから削除します。 リンクグループが選択されている場合は、リンクグループを削除します。
[Bring to Front]	リンクグループを最前面に移動します。
[Send to Back]	リンクグループを最背面に移動します。

23.6.3. 「Project Devices」エリア

「Project Devices」エリアの機器やチャンネルを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器やチャンネルが登録されているリンクグループにフォーカスを当てます。
[Add to Link Group]	リンクグループに機器のチャンネルを登録します。スピーカーが機器に接続されている場合、接続されている機器のチャンネルを登録します。

23.6.4. 「Link Groups」エリア

「Link Groups」エリアのオブジェクトを右クリックすると以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Find]	機器上で右クリックした場合はリンクグループ内の機器にフォーカスを当て、リンクグループコンポーネントエディターを開きます。 チャンネルやリンクグループ上で右クリックした場合はリンクグループ内のチャンネルやリンクグループにフォーカスを当て、リンクグループエディターが開きます。
[Delete]	チャンネル上で右クリックした場合は、チャンネルをリンクグループから削除します。 機器上で右クリックした場合は、機器をリンクグループから削除します。 リンクグループ上で右クリックした場合は、リンクグループを削除します。

23.6.5. 機器シート

オブジェクトがない場所で機器シートを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Close All Editor Windows]	すべてのエディターを閉じます。

23.6.6. 機器シート内のコンポーネント/コンポーネントエディター

コンポーネントの操作子以外の場所やコンポーネントを右クリックすると、有無がありますが、以下のコンテキストメニューが表示されます。

メニュー	内容
[Open Component Editor]	コンポーネントエディターを開きます。
[Copy]	コンポーネントエディターのパラメーター設定をコピーします。
[Paste Parameters]	コピーしたコンポーネントエディターのパラメーター設定を反映します。

23.7. アラート一覧

DZR/DXS-XLFシリーズで発生するアラート、およびその内容/対策は以下のとおりです。
単発は事象が発生したときに表示されます。継続は事象が発生したときと事象が終了したときに表示されます。
問題が解決しない場合は、機器本体の取扱説明書の巻末に記載されている修理ご相談センターにご連絡ください。

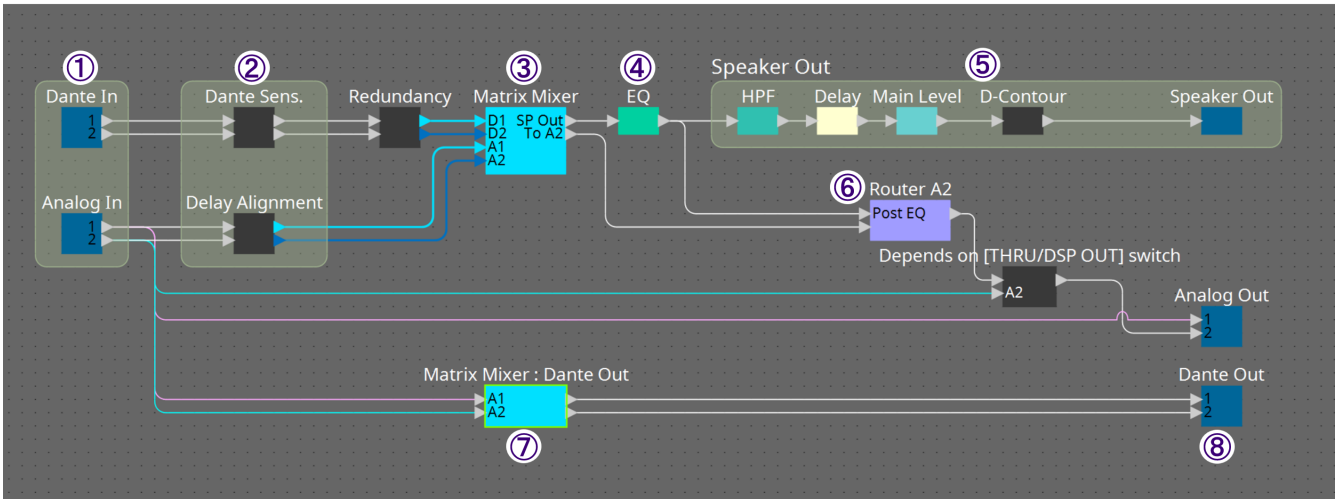
番号	重大度	単発/継続	メッセージ	内容	対策
01	Fault	継続	SYSTEM ERROR	本製品が正常に起動していません。	電源をいったんオフにして、6秒以上間隔を空けてから電源をオンにしてください。問題が解決しない場合、初期化を実行すると解決する場合があります。それでも解決しない場合は、修理ご相談センターにお問い合わせください。
03	Fault	継続			
04	Fault	継続			
05	Fault	継続			
10	Fault	単発			
11	Fault	単発			
12	Error	単発	CURRENT MEMORY ERROR		
13	Error	単発	PRESET MEMORY ERROR		
14	Fault	単発	SYSTEM ERROR		
15	Error	単発			
16	Error	単発	SYSTEM ERROR (DANTE)		本体ファームウェアのバージョンとDanteファームウェアのバージョンの互換性がないときに発生する場合があります。 互換表に従い、本体ファームウェアとDanteファームウェアの両方をアップデートしてください。 それでも解決しない場合は、番号01～15の対策を実施してください。
17	Error	単発	DUPLICATE IP ADDRESS	IPアドレスが重複しています。	IPアドレスが重複しないように設定してください。
20	Error	継続	OUTPUT CURRENT OVER	アンプ出力の過大電流から回路を保護しています。	製品が故障している可能性があります。 修理ご相談センターにお問い合わせください。

番号	重大度	単発/継続	メッセージ	内容	対策
23	Warning	継続	AMP TEMP TOO HIGH step2[*]	アンプが高温になったため、出力にリミッターをかけました。(*：HFまたはLF)	出力レベルを下げて使用するか、熱が下がるまでしばらくお待ちください。また、リアパネルへの直射日光を避け、リアパネル周辺の風通しをよくしてください。
25	Error	継続	AMP TEMP TOO HIGH step3[*]	アンプが高温になったため、出力をミュートしました。(*：HFまたはLF)	熱が下がるまでしばらくお待ちください。また、リアパネルへの直射日光を避け、リアパネル周辺の風通しをよくしてください。
27	Warning	継続	POWER SUPPLY TEMP TOO HIGH[*]	電源部の温度が異常に高くなったため、リミッターをかけました。(*：HFまたはLF)	継続して使用すると電源部が故障する可能性があります。出力レベルを下げて使用してください。
34	Warning	継続	AMP PROTECT (LIMIT)[*]	アンプに異常が発生したため、出力にリミッターをかけました。(*：HFまたはLF)	熱が下がるまでしばらくお待ちください。熱が下がっても症状が改善しない場合は、製品が故障している可能性があります。修理ご相談センターにお問い合わせください。
35	Error	継続	HF/OVER TEMP PROTECT (DOWN)	アンプに異常が発生したため、出力をミュートしました。	
42	Warning	継続	INPUT D[*] CHANGED TO A [*]	INPUT SOURCE REDUNDANCY機能によって、音声がDanteからAnalogに切り替わりました。(*:CH番号)	メインの音声回線（Dante）に異常が無いか確認してください。 (Auto Return機能がONの場合、接続しなおすと回線が急に切り替わることがありますのでご注意ください)
43	Error	継続	INPUT D[*] NOT CONNECTED	Dante入力の切断を検知しました。(*:CH番号)	Dante回線に異常が無いか確認してください。

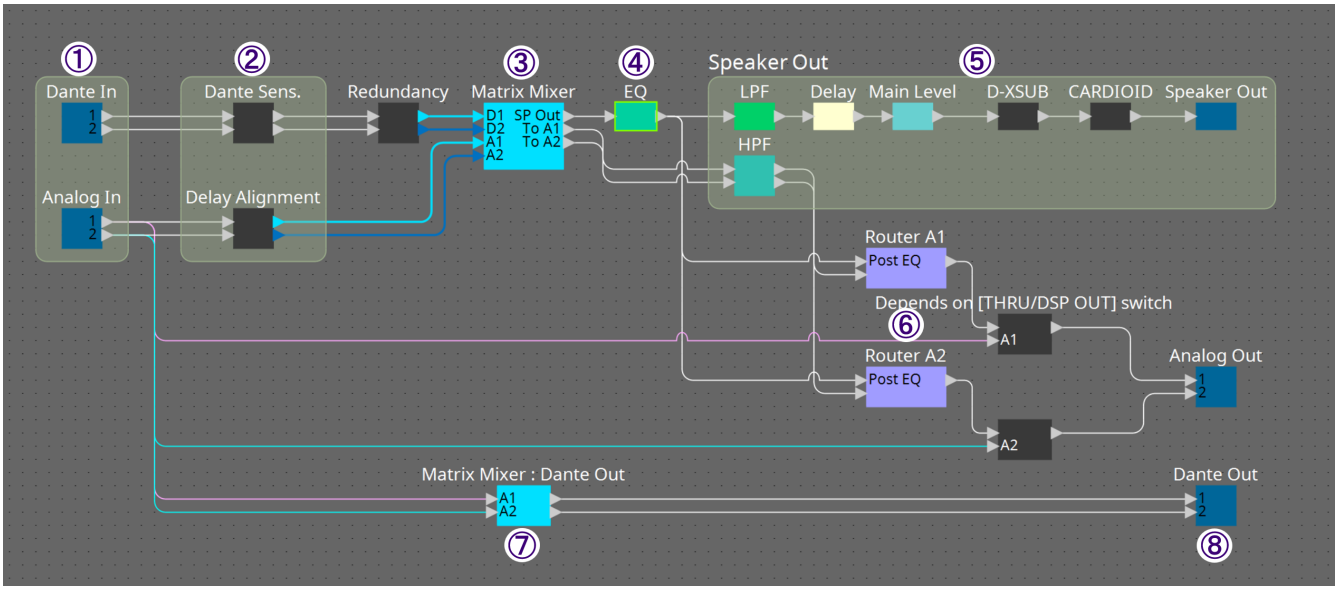
23.8. コンポーネントエディター

機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではDZRシリーズ/DXS-XLFシリーズのコンポーネントエディターと、コンポーネントと関連するダイアログやウィンドウについて説明します。その他のコンポーネントの詳細は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。

■DZRシリーズ



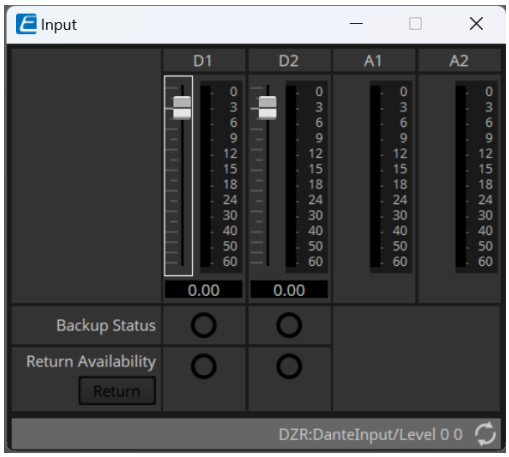
■DXS-XLFシリーズ



番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Input	入力レベルの調整、リダンダントの状態表示/解除を行います。	「Input」コンポーネント
②	Dante Sens. / Delay Alignment	Dante SensitivityとDelay Alignmentを設定します。	「Dante Sens. / Delay Alignment」コンポーネント
③	Matrix Mixer	マトリクスを設定します。	-----
④	EQ	6バンドEQを設定します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」

番号	コンポーネント名	内容	リンク
⑤	Speaker Out (DZRシリーズ)	HPF～D-Contourを設定します。	「Speaker Out」コンポーネント
⑤	Speaker Out (DXS-XLFシリーズ)	LPF～D-XSUB,CARDIOIDを設定します。	「Speaker Out」コンポーネント
⑥	Router	AnalogOutに対してEQのON/OFFの設定、レベル調整を行います。	-----
⑦	Matrix Mixer : Dante Out	DanteOutのマトリクスを設定します。	-----
⑧	Dante Out	Danteの出力レベルを調整します。	-----

23.8.1. 「Input」コンポーネントエディター

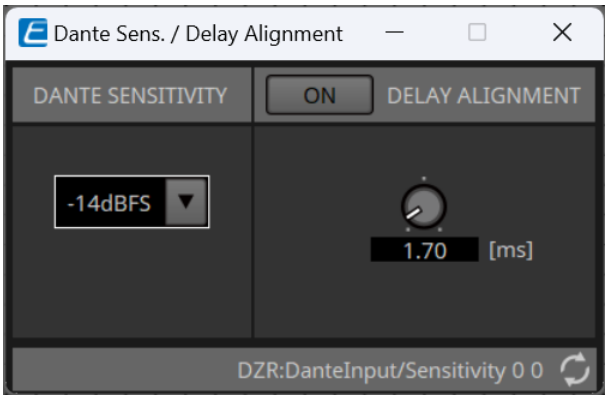


フェーダーでDanteのインプットレベルを調整できます。

- **Backup Status**
  プライマリー回線(Dante)からバックアップ回線(Analog)に切り替わっている場合に点灯します。
- **Return Availability**
  プライマリー回線が復帰し、入力回線をプライマリー回線に戻すことができる場合に点灯します。
  (AUTO RETURN = OFFのときのみ)
- **[Return]ボタン**
  プライマリー回線が復帰したとき、押すと入力回線を手動でプライマリー回線に戻します。
  (AUTO RETURN = OFFのときのみ)

AUTO RETURNがONのときは、自動で復帰します。
AUTO RETURNの設定はProjectシートのPropertiesエリアで変更できます。

23.8.2. 「Dante Sens./Delay Alignment」コンポーネントエディター



- **Dante Sensitivity**
  Danteからのデジタル信号が、アンプ部に入力されるときの入力感度を設定します。
  設定した入力感度の値がスピーカーのクリップレベルになります。
  -14dBFS(初期値)、-6dBFSから選択します。 微調整は、InputコンポーネントのD1/D2で行ってください。

> アナログ回線をDante回線のバックアップとして使用する場合は「-14dBFS」に設定してください。回線が切り替わったときの音量が一致します。
> 「-14dBFS」にするとDanteからの入力が8dB大きくなるため、Dante回線のみで使用する場合は「-6dBFS」に設定してください。「-6dBFS」にすることで、デジタルミキサーの出力レベルとDZRの入力レベルが一致します。

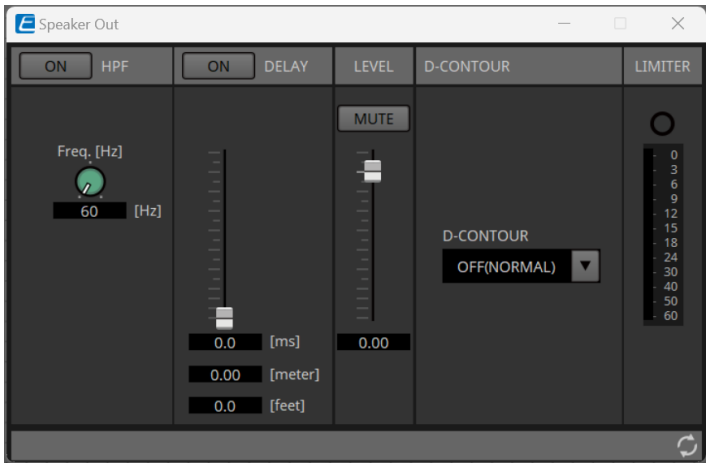
- **Delay Alignment**
  アナログ入力とDante入力との時間差を補正します。
  アナログ回線をDante回線のバックアップとして使用する場合は「ON」に設定してください。「ON」にすることで、回線が切替わったときのアナログ入力とDante入力の音声のタイミングが一致します。

> 適切なディレイ値は、Danteの設定や接続機器との組み合わせによって異なります。
> 詳細は、DZR / DXS XLF Seriesリファレンスマニュアルをご参照ください。

> ここで設定するディレイはアナログ入力にかかるので、アナログ回線のみで使用する場合は「OFF」にしてください。

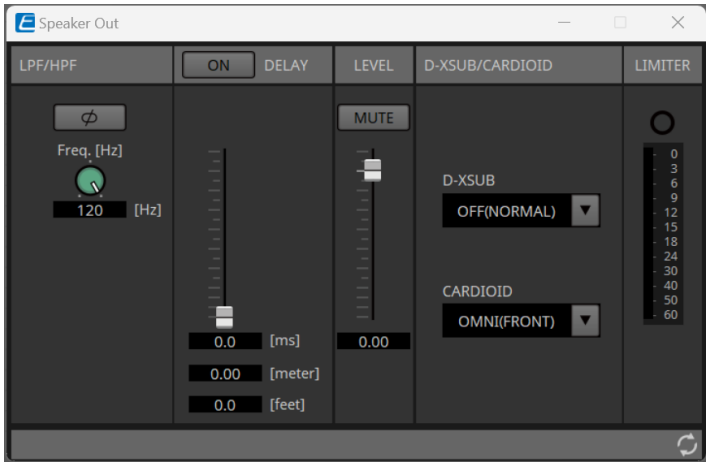
23.8.3. 「Speaker Out」コンポーネントエディター

■DZRシリーズ



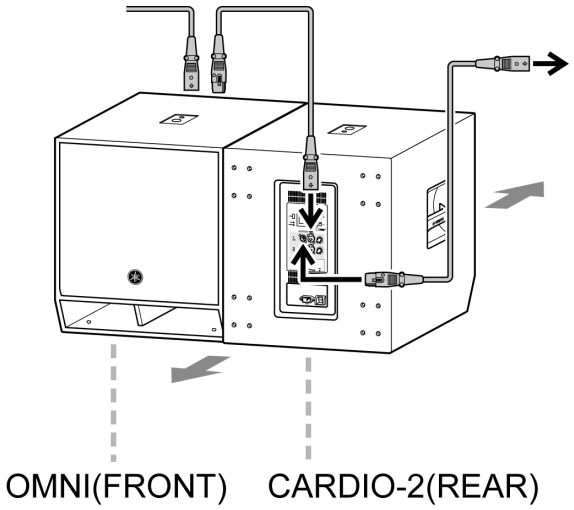
- **D-CONTOUR**
  用途に最適な周波数特性に設定します。
  - **OFF (NORMAL)**
    D-CONTOURがオフになります。汎用の周波数特性の設定です。
  - **FOH/MAIN**
    メインスピーカーに適した周波数特性になるように高域と低域を持ち上げた設定です。音量に応じてバランスよく聞こえるよう持ち上げる量を自動調整します。
  - **MONITOR**
    フロアモニターとして重要な明瞭性を確保し、床置きしたときにブーミーになりがちな低域を抑えた設定です。レイテンシーが短くなり、位相特性が変化します。

■DXS-XLFシリーズ

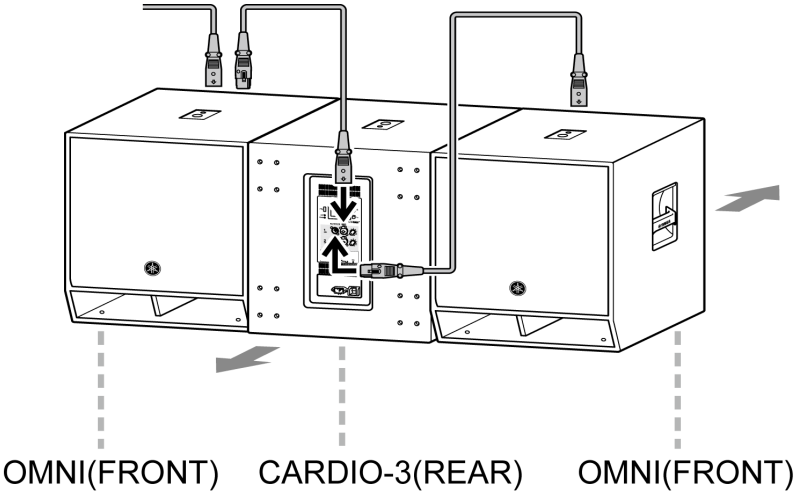


- **D-XSUB**
  用途や音楽ジャンルに最適な周波数特性に設定します。
  - **OFF (NORMAL)**
    D-XSUBがオフになります。汎用の周波数特性の設定です。
  - **BOOST**
    パンチ感を強調する周波数帯域をブーストした設定です。
  - **EXTenDed LF (extended LF)**
    より低い低域まで再生周波数を伸ばした設定です。

- **CARDIOID**
  カーディオイドモードを設定します。スピーカーの向きや台数に応じて設定を変えます。
  - **OMNI(FRONT)**
    カーディオイドモードを使用しない場合
  - **CARDIO-2(REAR)**
    2台並べて使用する場合のREAR向きスピーカー



- **CARDIO-3(REAR)**
  3台並べて使用する場合の中央のREAR向きスピーカー



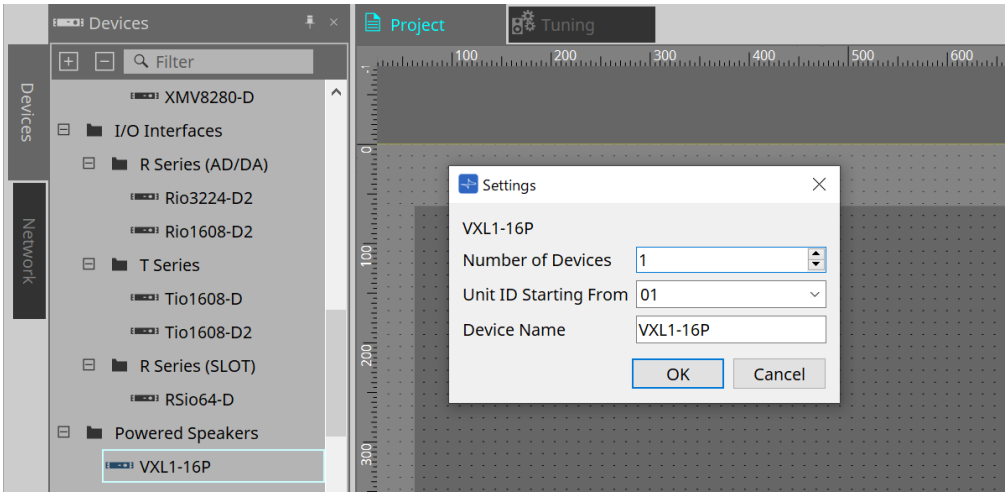
24. パワードスピーカー VXL1-16P/VXC2P

24.1. 概要

PoE給電によるDanteパワードスピーカーです。

24.2. 「Project」シート

機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



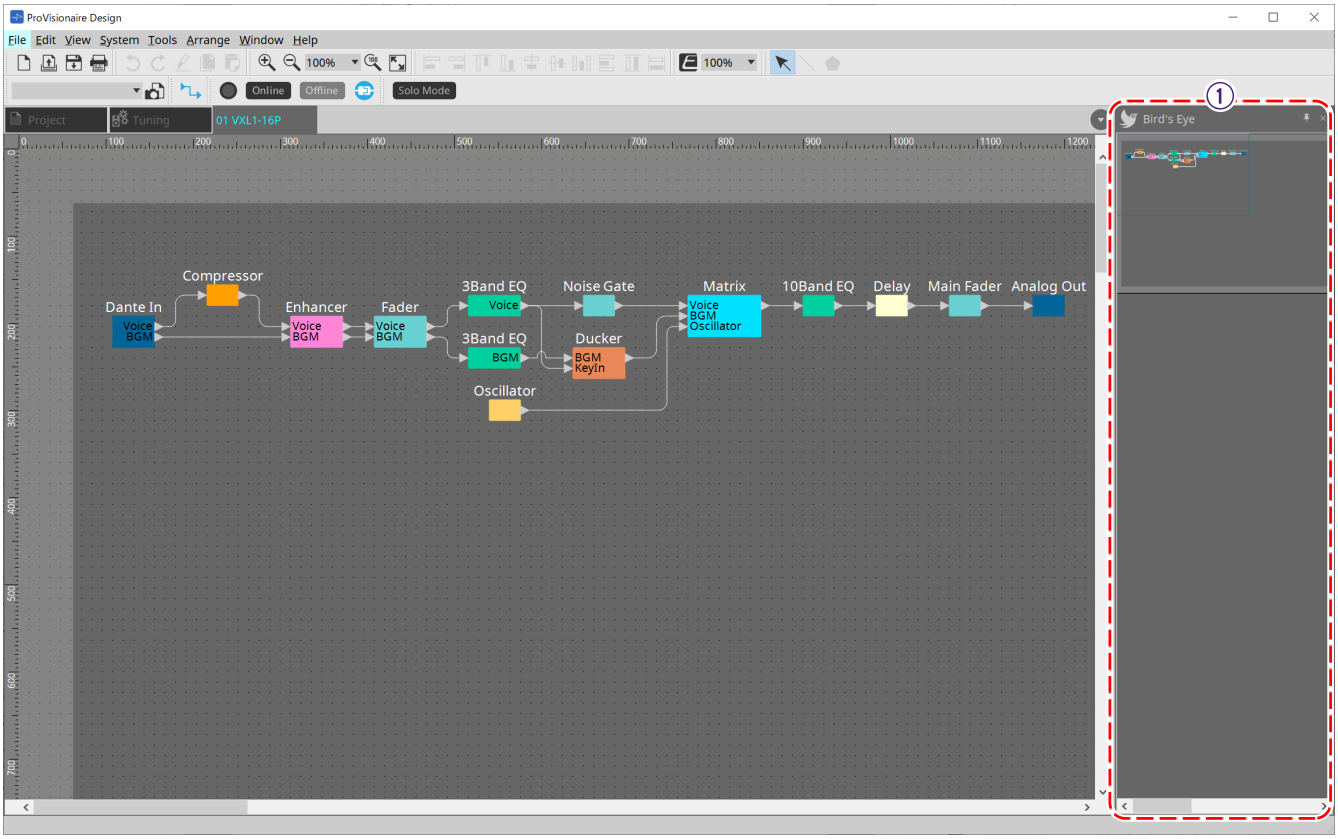
- **Number of Devices**
  シートに配置するVXL1-16P/VXC2Pの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。

> 機器本体のディップスイッチを "RESERVED"に設定すると、「Project」シートの「Network」エリア>Unit IDボタンから機器のUNIT IDを101-115（16進数：65 ～ 73）以外の値に設定できます。

- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

24.3. 機器シートの画面構成

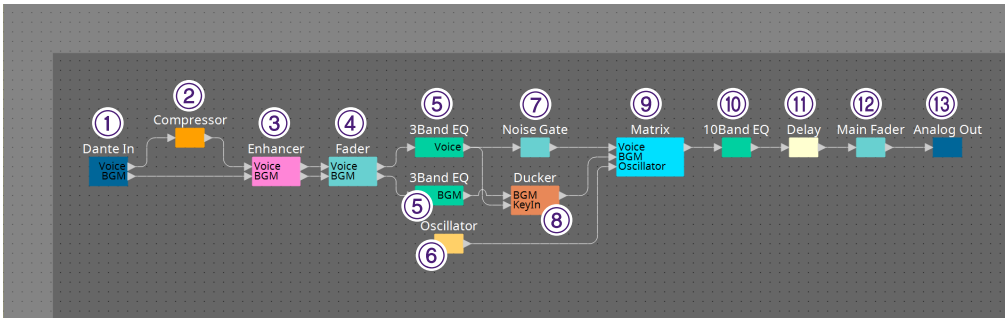
VXL1-16P/VXC2Pの機器シートを開くと、機器シートと「Bird's Eyeビュー」が表示されます。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。



① Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

24.4. コンポーネントエディター

コンポーネントエディターでは、選択した機器の各コンポーネントの設定や調整をします。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではVXL1-16P/VXC2Pのコンポーネントエディターと、コンポーネントと関連するダイアログやウィンドウについて説明します。その他のコンポーネントの詳細は「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」を参照ください。



番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Dante In	[Dante]端子から入力された2チャンネルの音声信号のレベルを表示し、ゲインを調整します。	---
②	Compressor	ダイナミックレンジを圧縮するコンプレッサーを調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
③	Enhancer	エンハンサーの有効/無効を設定します。スピーカーから出力されない低域や高域の基音以外の音を混ぜることで、あたかも低域や高域が出ているかのように聴かせる処理です。	---
④	Fader	入力チャンネルの信号レベルを調整します。	---
⑤	3 Band EQ	入力チャンネルの3バンドのイコライザーを調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑥	Oscillator	接続したスピーカーの動作や会場の音響特性をチェックするために、サイン波を出力します。	---
⑦	Noise Gate	ノイズゲートを設定します。	---
⑧	Ducker w/NG	ダッカーを設定します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑨	Matrix	入力チャンネルおよびオシレーター出力を出力チャンネルに割り当てます。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑩	10 Band EQ	出力チャンネルの10バンドEQを調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑪	Delay	出力チャンネルのディレイを設定します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑫	Main Fader	出力レベルを調整します。	---

番号	コンポーネント名	内容	リンク
⑬	Analog Out	アナログ出力信号をアンプ部に出力します。	---

25. マイクロフォン PGM1

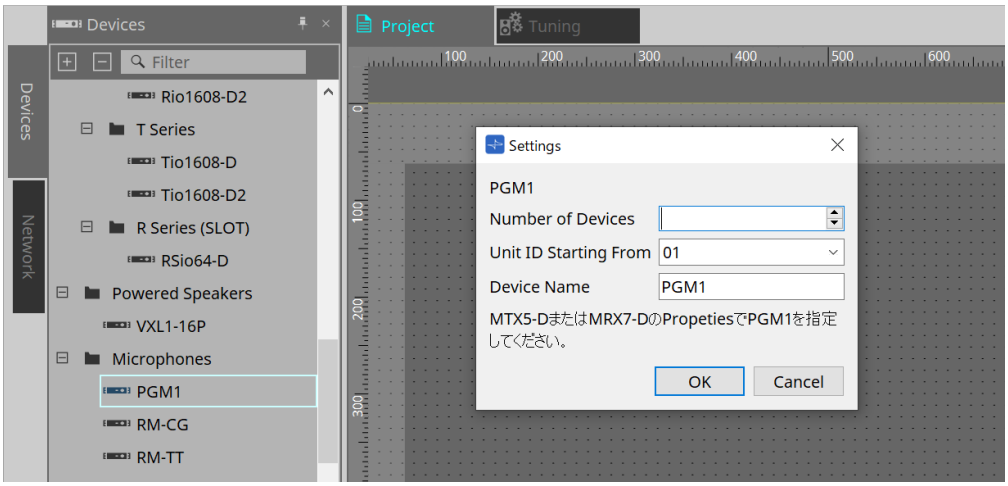
25.1. 概要

MRX7-D / MTX5-Dと組み合わせて使用するページングマイクです。
PGM1を使ってページングシステムを構築できます。

> PGM1の設定はMRX7-D / MTX5-Dが保持しているため、通常はProVisionaire DesignがPGM1を発見する必要はありません。
> ProVisionaire DesignでPGM1のIPアドレスの変更やファームウェアアップデートを実行するときは、Bonjour Print ServiceをインストールしてProVionaire DesignがPGM1を発見できるようにしてください。

25.2. 「Project」シート

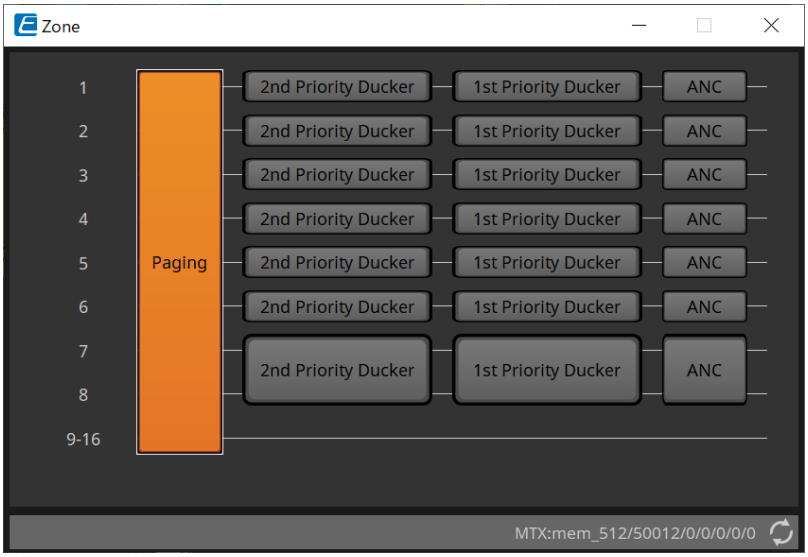
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するPGM1の台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

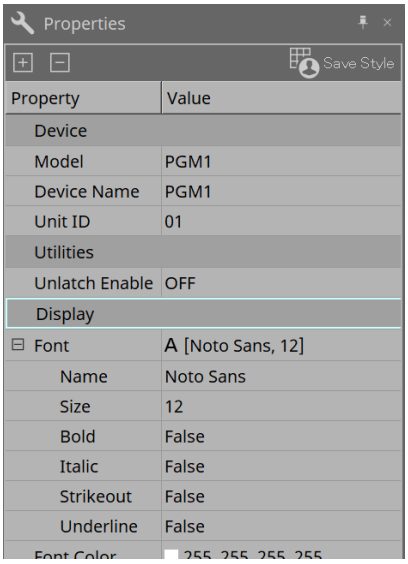
PGM1をプロジェクトに追加後、それぞれの機器で使用するPGM1を選択します。
機器とPGM1の紐づけは、「Project」シートの「Properties」エリア>PGM1から行います。

PGM1の設定は、それぞれの機器シートのページングコンポーネントのエディターで行ってください。
MTX5-Dの場合、機器シートで表示されるZoneコンポーネントの“Paging”から起動します。



25.3. 「Properties」エリア

機器の情報を表示/編集します。



- **Utilities**
  - **Unlatch Enable**
    オンのとき、PTTボタンはラッチとアンラッチの併用となります。

26. マイクロフォン RM-CG

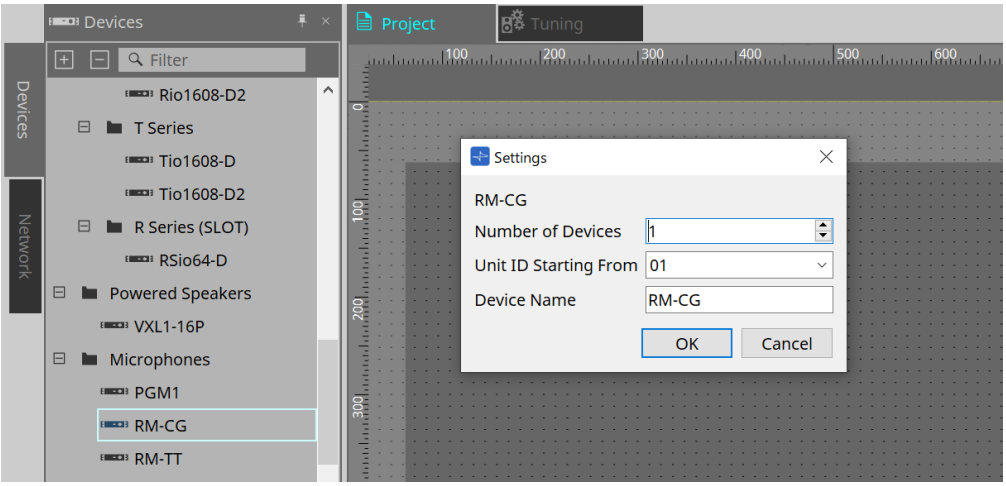
26.1. 概要

固定コンフィグレーションのシーリングマイクになります。

「RM-CG」をコントロールするには、機器に初期パスワードを設定し、ログインをする必要があります。

26.2. 「Project」シート

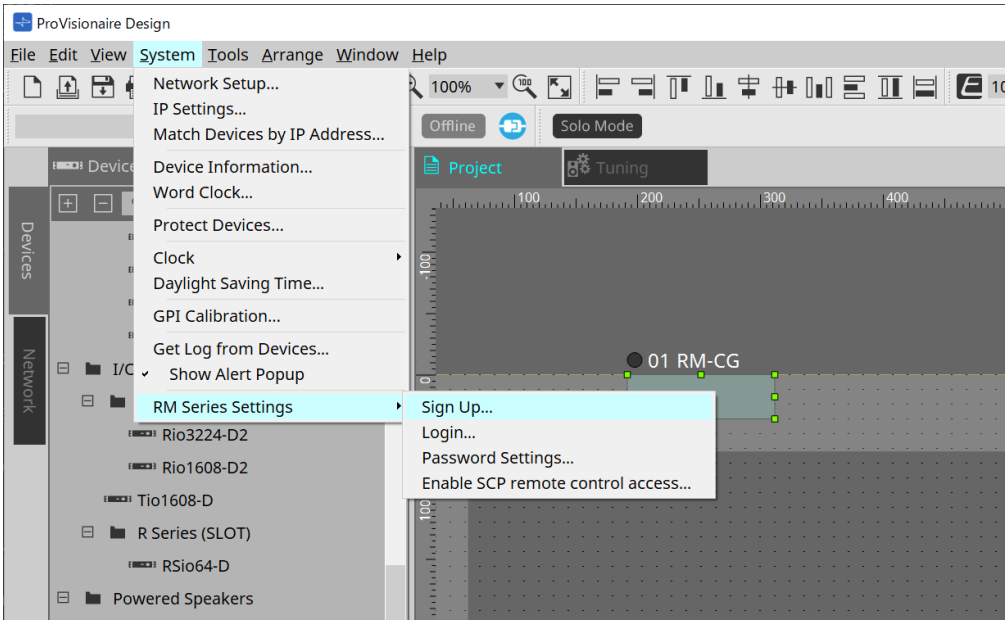
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するRM-CGの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

26.3. [System]メニュー

設定は、メニューバーの[System]メニューから表示されるRM Series Settingsで行ってください。

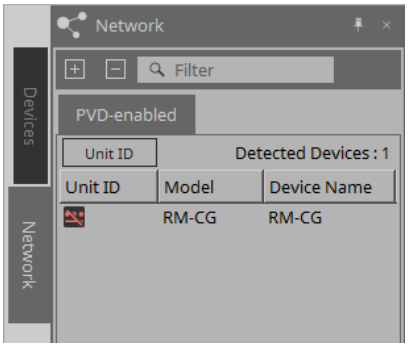


- **RM Series Settings**
  - **Sign Up**
    初期パスワードを設定します。
  - **Login**
    ProVisionaire Designで機器をコントロールする前にパスワードを入力します。
  - **Password Settings**
    機器のパスワードを変更します。
  - **Enable SCP remote control access**
    ProVisionaire Designやリモートコントローラーで機器をコントロールするにはオンにしてください。

> ProVisionaire Designと機器をオンラインにするときに、"Enable SCP remote control access"を自動的にオンにします。
> 機器を設定後、必要に応じて再設定してください。

26.4. 「Network」エリア

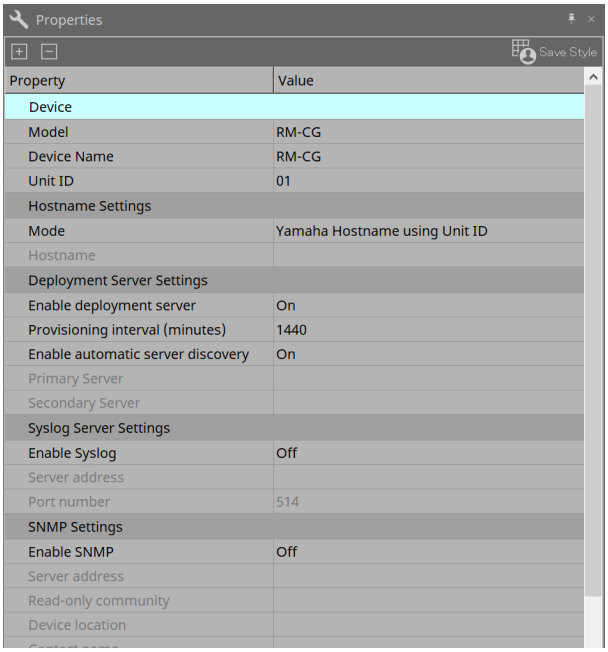
「RM-CG」をコントロールするには、機器に初期パスワードを設定し、ログインをする必要があります。
NetworkのRM-CGを右クリックしてSign Up/Loginを選択します。
または、メニューバーの[System]メニューから表示されるRM Series Settingsで行ってください。



Loginするまで、ProVisionaire Designによる設定はできません。

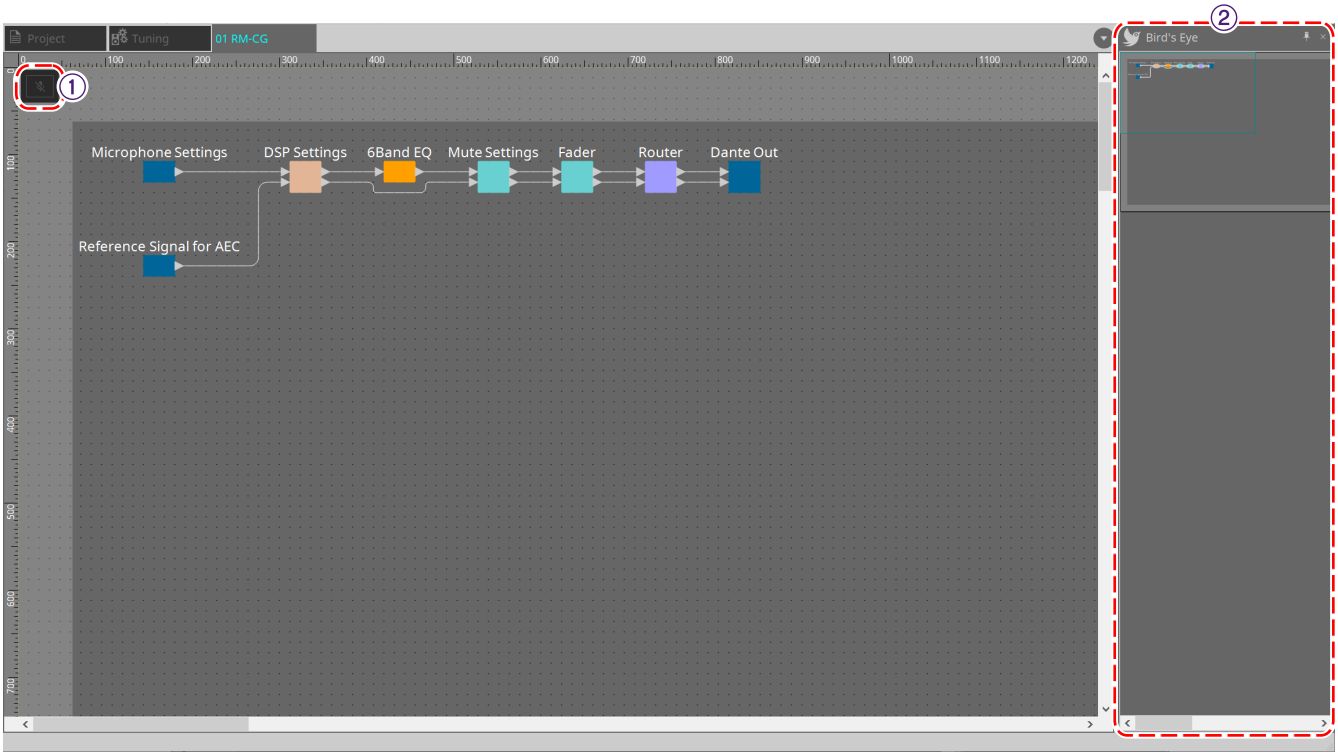
26.5. 「Properties」エリア

機器の情報を表示/編集します。
詳細は「RM-CGリファレンスマニュアル」を参照ください。



26.6. 機器シートの画面構成

RM-CGの機器シートを開くと、機器シートと「Bird's Eyeビュー」が表示されます。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。



① ツールボタン
RM-CGででよく使うコマンドのショートカットボタンです。

② Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

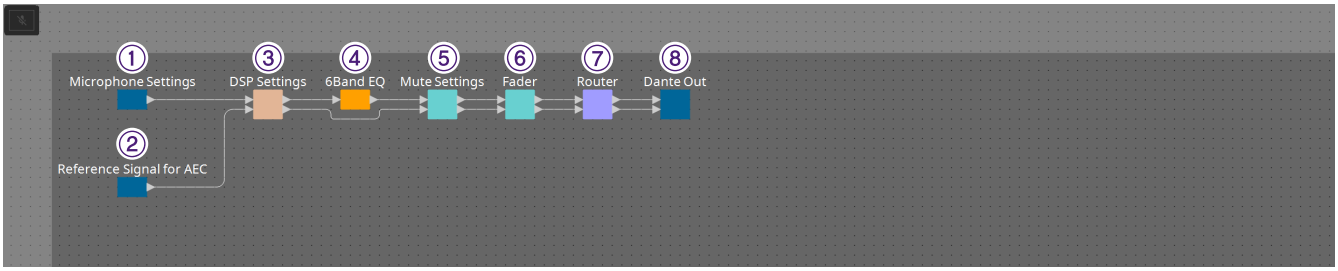
26.7. ツールボタン

RM-CGででよく使うコマンドのショートカットボタンです。

ボタン	コマンド	概要
	[Mic Mute]	マイクをミュートします。

26.8. コンポーネントエディター

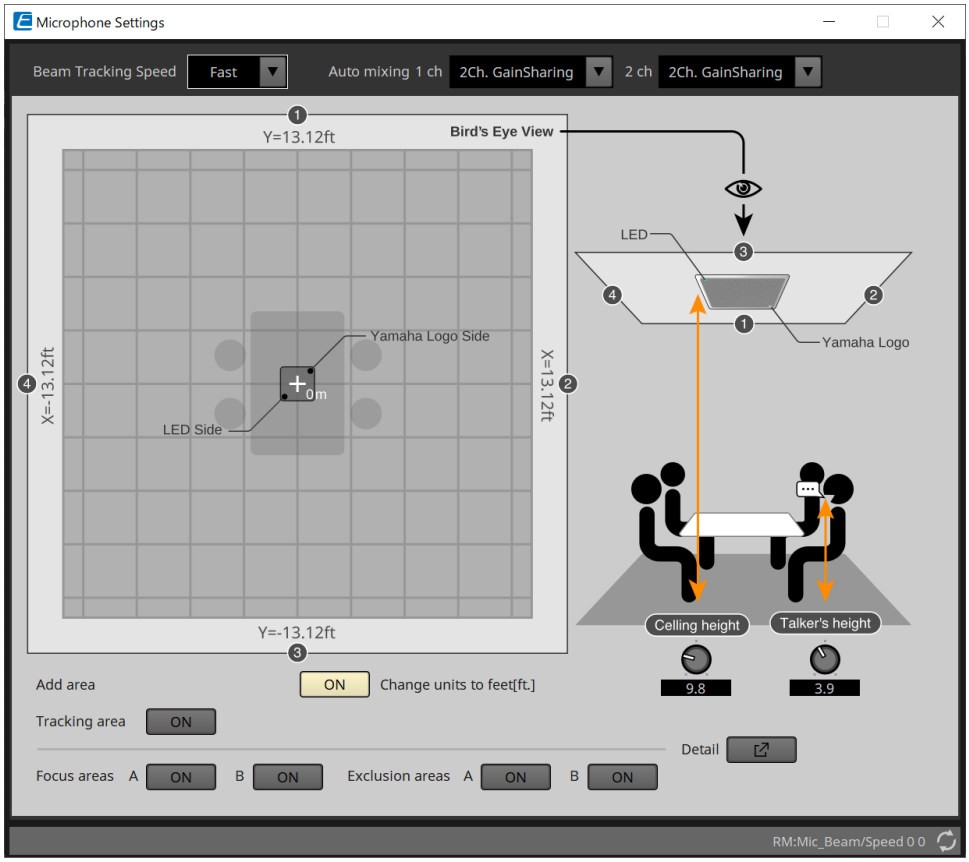
コンポーネントエディターでは、選択した機器の各コンポーネントの設定や調整をします。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではRM-CGのコンポーネントエディターと、コンポーネントと関連するダイアログやウィンドウについて説明します。



番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Microphone Settings	トラッキングの速度や範囲、オートミキサーの設定を調整します。	「Microphone Settings」コンポーネントエディター
②	Reference Signal for AEC	適応型エコーキャンセラーのリファレンス信号レベルを表示します。	---
③	DSP Settings	適応型エコーキャンセラーやノイズリダクションなど、各種DSP設定を行います。	「DSP Settings」コンポーネントエディター
④	6Band EQ	6バンドEQを調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑤	Mute Setting	チャンネルごとにMic Muteとの連動を設定します。	「Mute Settings」コンポーネントエディター
⑥	Fader	音声信号のレベルを調整します。	---
⑦	Router	入力チャンネルから出力チャンネルへの割り当てを変更します。	---
⑧	Dante Out	---	---

26.8.1. 「Microphone Settings」コンポーネントエディター

トラッキングの速度および範囲を確認/調節できます。
また、オートミキサーの設定を確認/変更できます。



- **Beam Tracking Speed**
  ビームが話し手に追従する反応時間を設定します。
  - **Slow**
    この設定では、音量変化の安定性が向上しますが、話し者への追従が遅くなります。残響時間が長い部屋など、音量が頻繁に変化する場合に選択します。
  - **Fast**
    デフォルトの設定です。音量変化の安定性と話し手への追従性をバランスよく設定できます。
- **Auto mixing**
  マイクビーム入力の自動オーディオミキシングのタイプを設定します。
  - **1Ch.Gating**
    シングルビームモードでは、この設定を選択します。残響時間の長い反響室での少人数のグループの話者に対して、明瞭度が高くなりますが、音量の変化が大きくなります。
  - **2Ch.GainSharing**
    デフォルトの設定です。 2つのビームのゲイン共有には、この設定を選択します。透明感と音量変化のバランスが取れたセッティングです。
  - **4Ch.GainSharing**
    4つのビームのゲイン共有には、この設定を選択します。このモードでは、残響時間の少ない良好な音響の部屋で多くの話者がいる場合に、より自然なサウンドを得るために、明瞭度を下げて音量の変動を抑えます。
  - **All Mix**
    4つのビームをミキシングするときは、このモードを選択します。このモードは、反響の少ない音響の良い部屋で、多くの話者がいる最も自然な音で、音量の変動が少なく明瞭です。

Ch.1出力信号は、すべての信号処理を利用しており、会議用音声に最適化されています。
Ch.2出力信号は、リニアに処理された信号または低遅延を必要とするアプリケーション向けに最適化されています。

- **Tracking area**
  ビーム追尾範囲は、±4m（13.1ft.)四方以内に制限することができます。
  複数のRM-CGがある環境でトラッキングエリアを分ける場合や、1つのRM-CGの周囲を制限する場合に使用します。

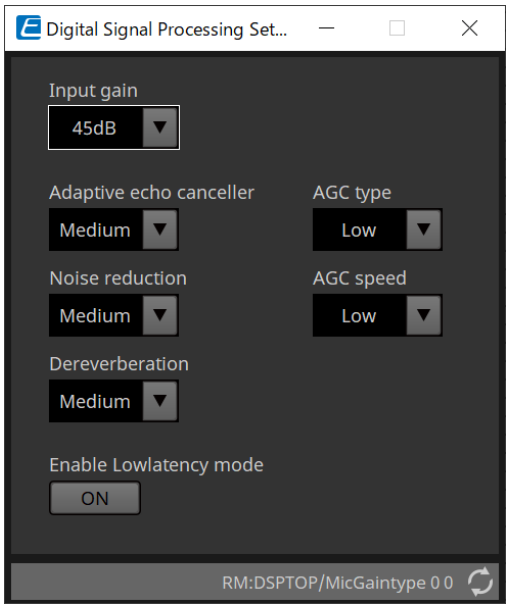
- **Focus areas**
  最大２つのフォーカスエリアを定義できるため、シーリングマイクは、小音量でもその特定のエリア内の音声をより明確に拾うことができます。
  この設定は単独で使用することも「Tracking Area]に加えて使用することもできます。
  [Focus Area]が[Exclusion Area]と重複している場合、[Exclusion Area]が優先され、オーバーラップエリア内での音声追跡は許可されないことに注意してください。

- **Exclusion areas**
  プロジェクターやエアコンなどのノイズ源や、コーヒーステーションなどの不要な音を除外する領域を指定します。
  ビームトラッキングを防ぐために、最大２つの[Exclusion Area]を設定できます。
  この設定は、[Tracking Area]の設定とは別に、単独で使用できます。
  [Exclusion Area]が[Focus Area]と重なっている場合は、[Exclusion Area]が優先され、これらエリアでのビームトラッキングが防止されることに注意してください。

- **Detailボタン**
  クリックするとエリアの設定を数値入力できる画面を開きます。

26.8.2. 「DSP Settings」コンポーネントエディター

下記の設定を確認/変更できます。

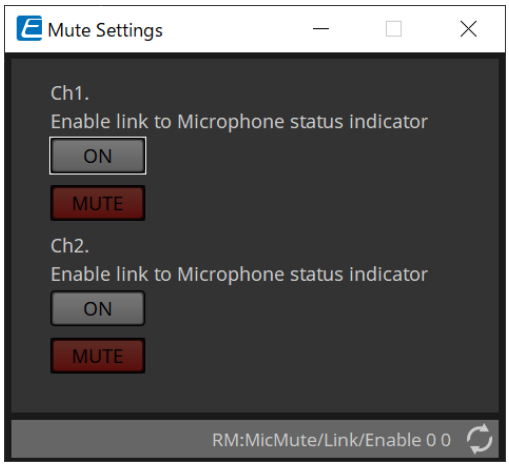


- **Input Gain**
  インプットゲインを設定します。
- **Adaptive echo canceller**
  エコーキャンセラーの抑制強度を設定します。
  - **Off:**
    会議アプリケーションまたは外部デバイスの外部のエコーキャンセラーを使用する場合に、内部エコーキャンセラーを無効にする場合に選択します。
  - **Low:**
    この設定を選択すると、元のサウンドを可能な限り維持しながら、アコースティックエコーを抑えます。
  - **Medium:**
    デフォルト設定です。 エコーキャンセレーションの強さと音質のバランスが取れた設定です。
  - **High:**
    エコーレベルが高く、残響時間が長いなど、あまり音響のよくない部屋には、この設定を選択します。
- **Noise reduction**
  定常ノイズに対するノイズリダクションの強さを設定します。
  - **Off:**
    この設定を選択すると、会議アプリケーションまたは外部デバイスの外部ノイズリダクションで使用する内部ノイズ抑制が無効になります。
  - **Low:**
    この設定を選択すると、元のサウンドを可能な限り維持しながら、定常状態のノイズ抑制を最小限に抑えることができます。 この設定は、除去されたノイズの量以上の自然なルームサウンドを提供します。
  - **Medium:**
    デフォルト設定です。ノイズ抑制効果と音質のバランスのとれた設定です。
  - **High:**
    この設定を選択すると、大きなファンやHVACシステムなど、定常状態のノイズが多い部屋で定常状態のノイズを最大限に低減できます。

- **Dereverberation**
  残響除去機能の強さを設定します。
  - **Off:**
    残響除去機能なし。 会議アプリケーションまたは外部DSPの外部信号処理を使用します。
  - **Low:**
    この設定を選択すると、音響が良好で残響時間が少ない部屋で残響を最小限に抑えることができます。
  - **Medium:**
    ほとんどの部屋で使用されるデフォルト設定で、残響除去と音質のバランスが良好です。
  - **High:**
    音響が悪く、残響時間が長い部屋で最大の残響除去を行うには、このモードを選択します。（例: ガラスの壁やその他の反射面）
- **AGC type**
  オートゲインコントロールの強度を設定します。
  - **Off**
    自動音量調整を無効にするか、外部アプリケーションまたは外部デバイスの別の自動ゲイン調整を使用する場合に選択します。
  - **Low**
    デフォルト設定です。自然なサウンドレベルを生成します。音量の低い話者の入力はそのまま、音量の高い話者の入力は、抑えられます。
  - **High**
    音量が高く、変化の大きい話者の入力を補正します。静かな話者の音量をあげ、大きすぎる話者の音量を抑えます。
- **AGC speed**
  オートゲインコントロールの音量変化の反応速度を設定します。
  - **Low:**
    初期設定で、全体的に音量変化と効果のバランスがとれた設定です。
  - **High:**
    この設定を選択すると、音量レベル補正が速くなります。
- **Enable Low latency mode**
  音声リフトなど、短いオーディオ遅延を必要とするアプリケーションの場合に選択します。
  Ch2(DSP Settingsコンポーネントの下段の出力）のすべての信号処理が無効になります。

26.8.3. 「Mute Settings」コンポーネントエディター

ミュート状態をRM-CG/RM-TT本体のStatus LEDに表示するかどうかを設定します。



- **ONボタン**
  オンにすると機器本体をミュートしたときに連動してミュートします。
- **MUTEボタン**
  チャンネルごとのミュートです。

27. マイクロフォン RM-TT

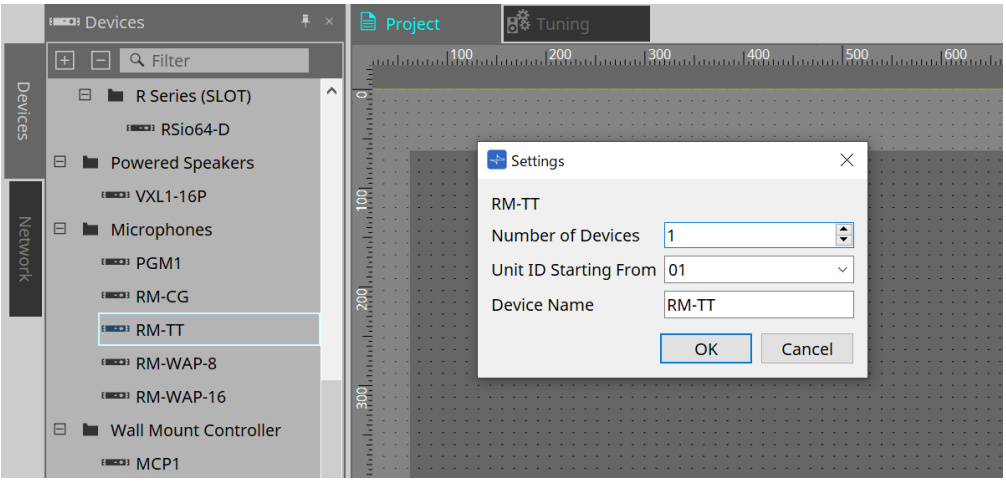
27.1. 概要

固定コンフィグレーションのテーブルトップマイクになります。

「RM-TT」をコントロールするには、機器に初期パスワードを設定し、ログインをする必要があります。

27.2. 「Project」シート

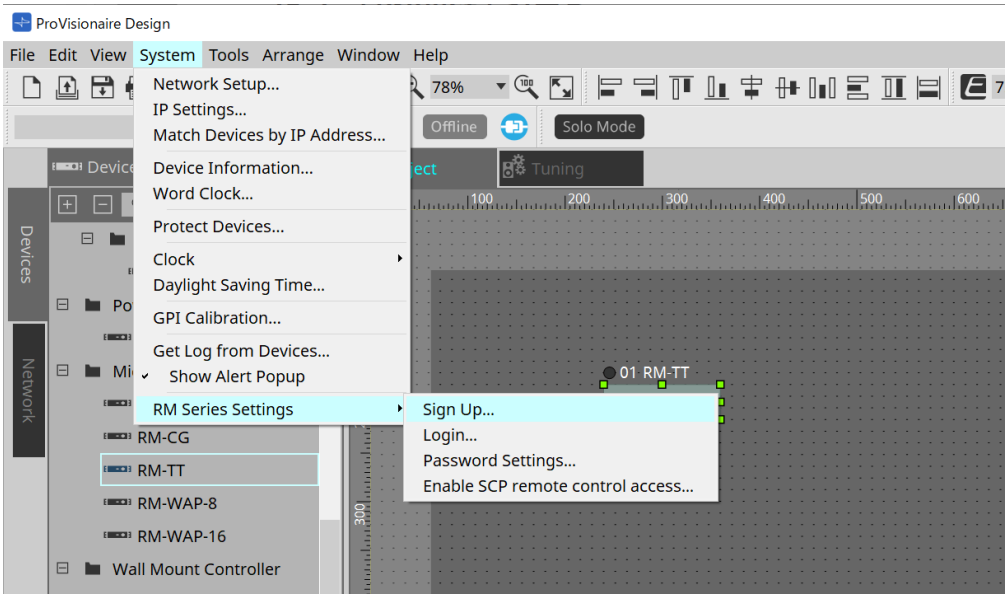
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するRM-TTの台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示、編集できます。

27.3. [System]メニュー

設定は、メニューバーの[System]メニューから表示されるRM Series Settingsで行ってください。

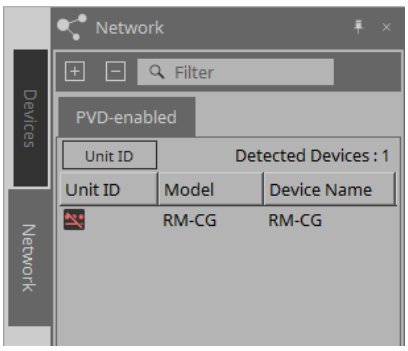


- **RM Series Settings**
  - **Sign Up**
    初期パスワードを設定します。
  - **Login**
    ProVisionaire Designで機器をコントロールする前にパスワードを入力します。
  - **Password Settings**
    機器のパスワードを変更します。
  - **Enable SCP remote control access**
    ProVisionaire Designやリモートコントローラーで機器をコントロールするにはオンにしてください。

> ProVisionaire Designと機器をオンラインにするときに、"Enable SCP remote control access"を自動的にオンにします。
> 機器を設定後、必要に応じて再設定してください。

27.4. 「Network」エリア

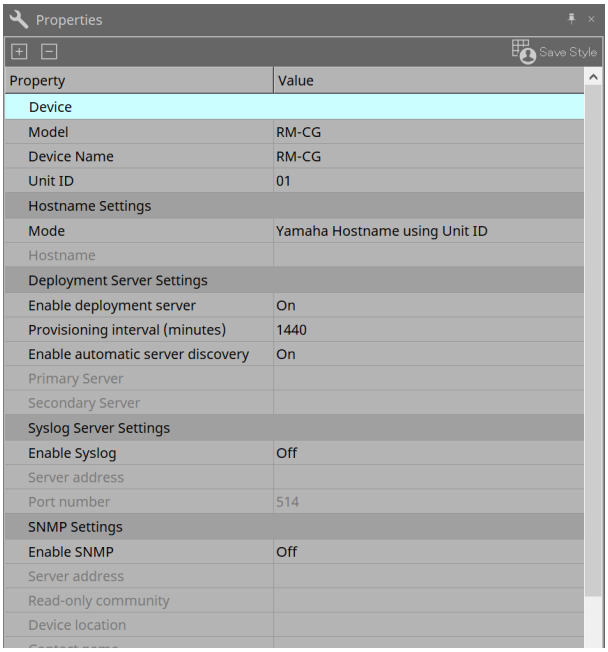
「RM-TT」をコントロールするには、機器に初期パスワードを設定し、ログインをする必要があります。
NetworkのRM-TTを右クリックしてSign Up/Loginを選択します。
または、メニューバーの[System]メニューから表示されるRM Series Settingsで行ってください。



Loginするまで、ProVisionaire Designによる設定はできません。

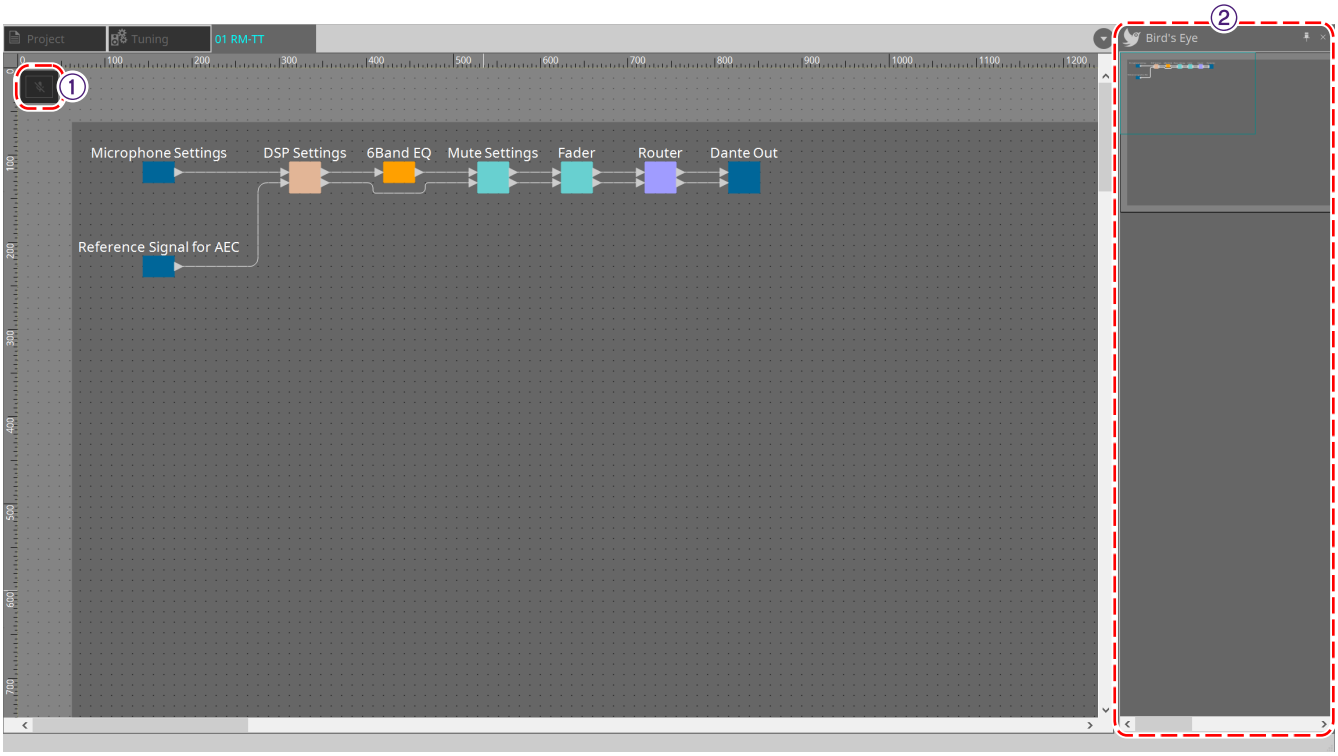
27.5. 「Properties」エリア

機器の情報を表示/編集します。
詳細は「RM-TTリファレンスマニュアル」を参照ください。



27.6. 機器シートの画面構成

RM-TTの機器シートを開くと、機器シートと「Bird's Eyeビュー」が表示されます。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。



① ツールボタン
RM-TTでよく使うコマンドのショートカットボタンです。

② Bird's Eye ビュー
シートの全景を表示します。

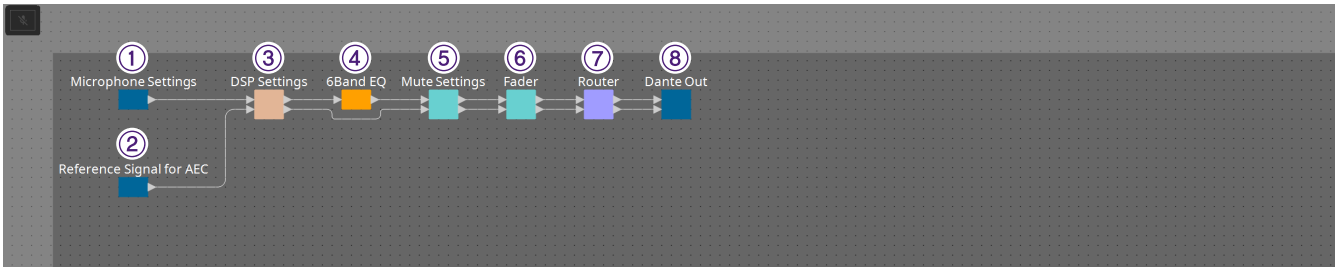
27.7. ツールボタン

RM-TTでよく使うコマンドのショートカットボタンです。

ボタン	コマンド	概要
	[Mic Mute]	マイクをミュートします。

27.8. コンポーネントエディター

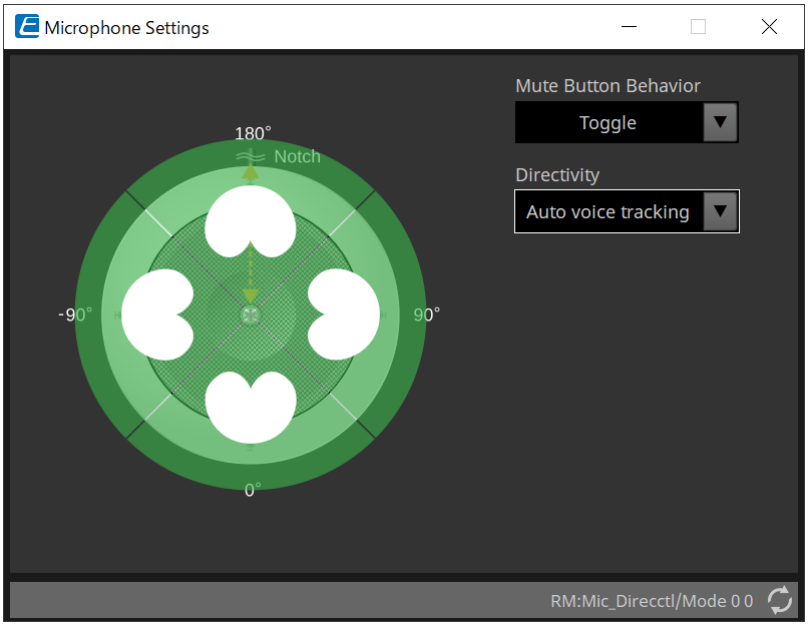
コンポーネントエディターでは、選択した機器の各コンポーネントの設定や調整をします。
機器シート上のコンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。
ここではRM-TTのコンポーネントエディターと、コンポーネントと関連するダイアログやウィンドウについて説明します。



番号	コンポーネント名	内容	リンク
①	Microphone Settings	ミュートボタンの動作、およびマイクの指向性を設定します。	「Microphone Settings」コンポーネントエディター
②	Reference Signal for AEC	適応型エコーキャンセラーのリファレンス信号レベルを表示します。	---
③	DSP Settings	適応型エコーキャンセラーやノイズリダクションなど、各種DSP設定を行います。	「DSP Settings」コンポーネントエディター
④	6Band EQ	6バンドEQを調整します。	「ProVisionaire Design コンポーネントガイド」
⑤	Mute Setting	ミュート状態を上面のインジケーターに表示するかどうかを設定します。	「Mute Settings」コンポーネントエディター
⑥	Fader	音声信号のレベルを調整します。	---
⑦	Router	入力チャンネルから出力チャンネルへの割り当てを変更します。	---
⑧	Dante Out	---	---

27.8.1. 「Microphone Settings」コンポーネントエディター

トラッキングの速度および範囲を確認/調節できます。
また、オートミキサーの設定を確認/変更できます。



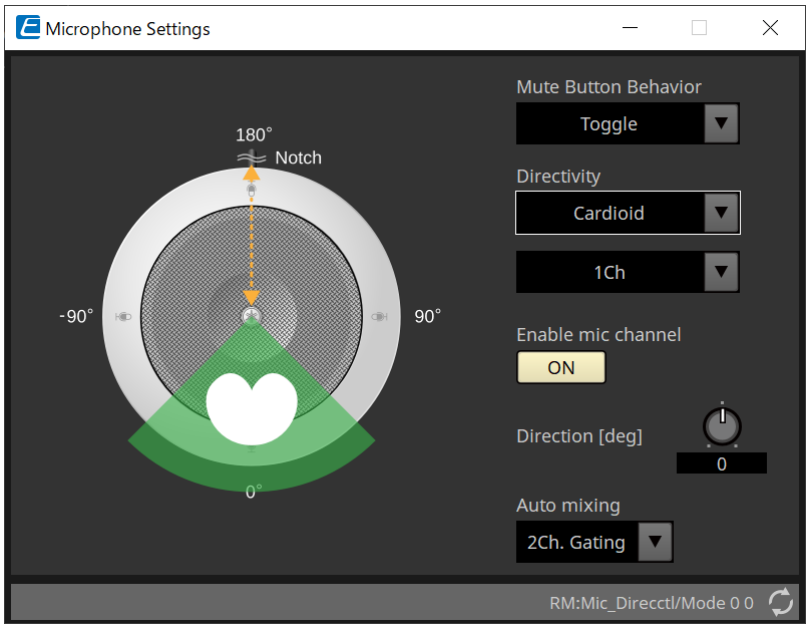
- **Mute Button Behavior**
  - **Toggle**
    Micボタンにタッチすることでマイクのon/OFFが切り替わります。
  - **Push to talk**
    Micボタンにタッチしている間だけマイクがONになります。
  - **Disable**
    Micボタンによる操作が無効になり、ミュートステータスは外部(コントローラーまたは同じグループ内の別のマイク)からのみ変更できます。
- **Directivity**
  マイクの指向性を設定します。
  - **Auto voice tracking**
    デフォルトの設定です。自動追尾モードでは、この設定を選択します。マイクは自動的に話者の声に焦点を合わせます。
  - **Omnidirectional**
    この設定では、すべてのマイク要素が常にアクティブになります。マイクの上の半球で音声を拾います。 Omni設定では、複数のボイスを同時にキャプチャーできます。この設定は、静かで反響のない部屋で音響条件が良好な場合にのみ選択してください。
  - **Cardioid**
    この設定では、最大4つのアクティブなカーディオイドピックアップパターンの方向を選択できます。参加者がマイクに対して常に同じ場所にいる場合は、この設定を選択します。 マイクの指向性を"Cardioid"、"Supercardioid"、"Hypercardioid"に設定したときはオートミキサーの設定を確認/変更できます。
  - **Supercardioid**
    Cardioidと同じですが、Cardioidよりもピックアップパターンの指向性が狭くなっています。
  - **Hypercardioid**

CardioidやSupercardioidと同じですが、ピックアップパターンはSupercardioidよりもさらに狭くなっています。

- **Toroid**
  マイクの上にノイズ源がある環境では、この設定を選択します。音声ピックアップは垂直方向に制限されています。マイクは、マイクに対して水平方向の音源に焦点を合わせます。

- **Bidirectional**
  互いに反対 (180°)の2つの話者位置をカバーするには、この設定を選択します。

マイクの指向性を"Cardioid"、"Supercardioid"、"Hypercardioid"に設定したときはオートミキサーの設定を確認 / 変更できます。



- **Enable mic channel**
  Directivityで選択したCHのマイクをON/OFFします。

- **Direction[deg]**
  Directivityで選択したCHのマイクの収音角度を設定/変更します。

- **Auto mixing**

  - **1Ch. Gating**
    一度に1つの入力チャンネルをアクティブにできます。
    この設定により、アクティブな発言者の明瞭さが最も明確になりますが、音量のばらつきが大きくなります。
    複数の参加者がいる場合や残響のある部屋ではこの設定を使用します。

  - **2Ch. Gating**
    デフォルトの設定です。
    ゲインシェアリングを使用して、2つのマイクを自動的にミキシングします。
    この設定により明瞭度と音量の変化のバランスをとることができます。

  - **4Ch. Gating**
    ゲインシェアリングを使用して、4つのマイクを自動的にミキシングします。
    このモードでは、より良い音量変化が得られますが、明瞭度は低くなります。
    この設定は、ディスカッションに複数のアクティブな参加者がいる場合に推奨されます。
    この設定は、音響が良く、残響時間の短い部屋でのみ使用してください。

  - **All Mix**
    ゲインシェアリングなしで全チャンネルをミックスする場合に選択します。

リスナーは音量のばらつきが大きくなりますが、話者が多い場合、最も自然なサウンドを体験できます。
この設定は、音響効果が良く、残響時間の短い部屋でのみ使用してください。

「Microphone Settings」コンポーネントエディター以外のコンポネントの詳細は「RM-CG」を参照ください。

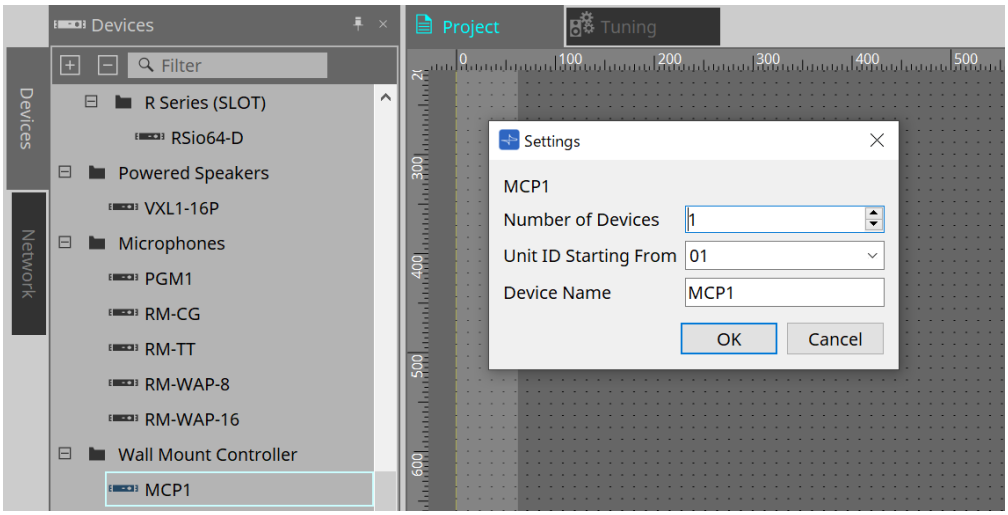
28. ウォールマウントコントローラー MCP1

28.1. 概要

機器のパラメーターやプリセットなどを制御するためのウォールマウントコントローラーです。
External Event機能を使用すると、ProVisionaire Designで対応していない製品も制御できます。
ホームページと6つのページを設定でき、スイッチに最大36のパラメーターなどを割り振ることができます。
MCP1の取り扱いについては「MCP1施工説明書」も参照ください。

28.2. 「Project」シート

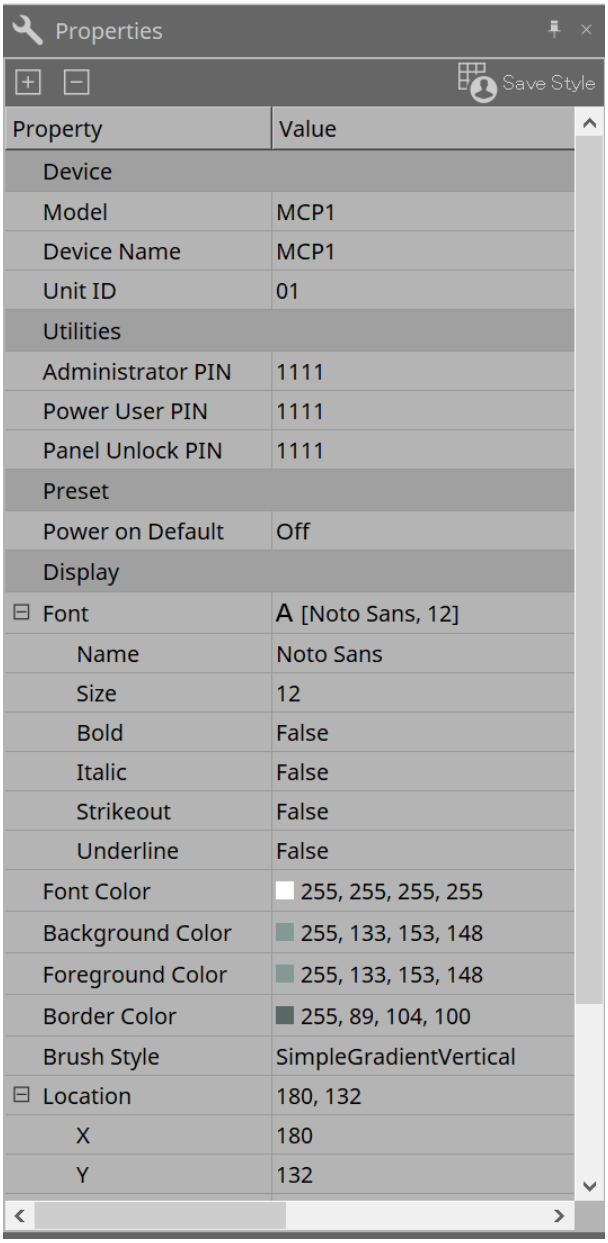
機器を配置するシートです。機器を配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



- **Number of Devices**
  シートに配置するMCP1の台数を選択します。
- **Unit ID Starting From**
  機器のUnit IDをどの番号から開始するかを選択できます。
- **Device Name**
  デバイス名を表示/編集できます。

28.2.1. 「Properties」エリア

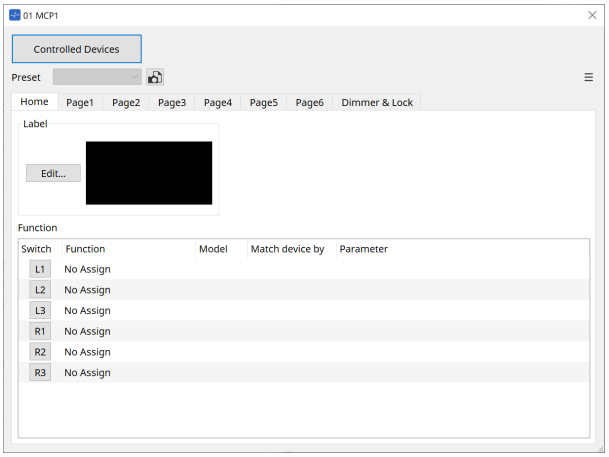
MCP1の情報を表示/編集します。



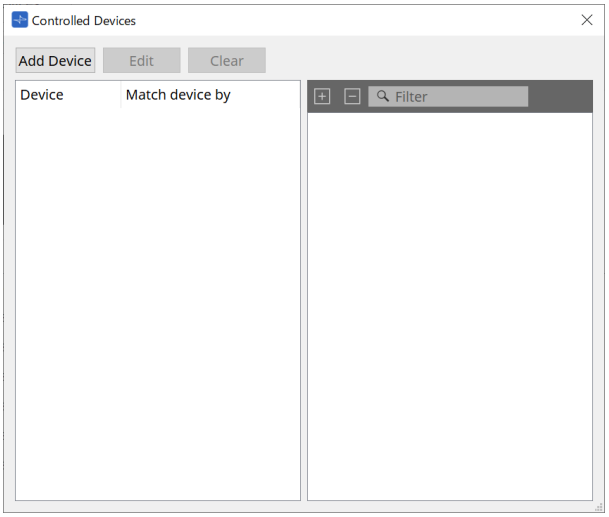
- **Utilities**
  - **Administrator PIN**
    本体のSettings Pageを開くためのコードです。4桁の数字です。
    Power User PIN、Panel Unlock PINとしても使うことができます。
  - **Power User PIN**
    “Power User Page(PIN required)”設定が有効になっているページを開くためのコードです。4桁の数字です。
  - **Panel Unlock PIN**
    パネルロックを解除するためのコードです。4桁の数字です。

28.3. 設定方法

1. **「Project」シートに配置したMCP1をダブルクリックします。**
   コンポーネントエディターが表示されます。

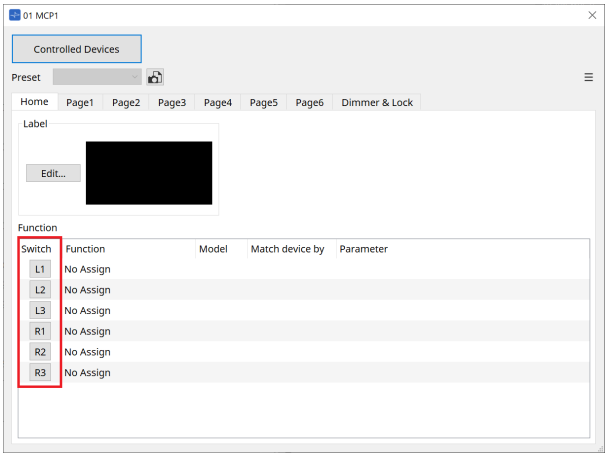


2. **コンポーネントエディターの[Controlled Devices]ボタンをクリックします。**
   「Controlled Devices」ダイアログが表示されます。
   この画面では、MCP1が制御する機器を登録します。



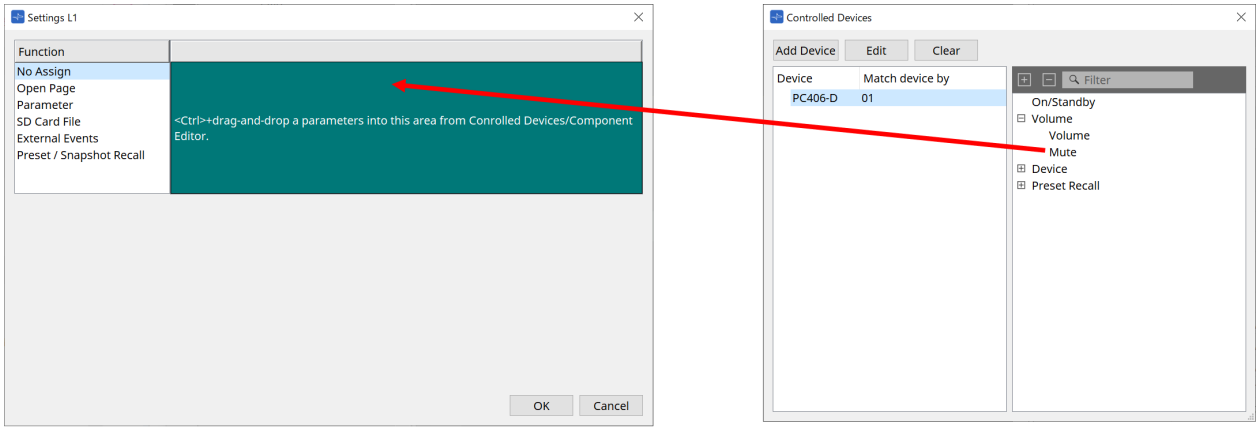
MTX5-DやPC-Dシリーズのようにコンフィグレーションが固定の機器は、必ずしも機器を「Project」シートに配置する必要はありません。
ただし、DMEやMRX7-Dのように、ユーザーがコンフィグレーションを自由に変更できる機器は、必ず「Project」シートに配置する必要があります。パラメーターを機器シートのコンポーネントエディターやParameter Setsエリアなどからドラッグ&ドロップによってアサインするためです。

3. **コンポーネントエディターの「スイッチ選択ボタン」をクリックします。**

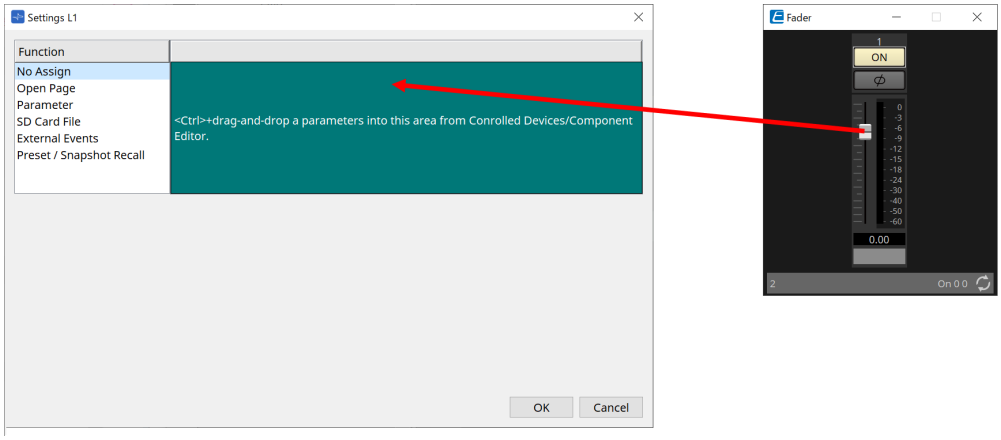


「Settings」ダイアログが表示されます。

4. **「Controlled Devices」ダイアログのパラメーターリストのパラメーターを「Settings」ダイアログにドラッグ＆ドロップして、スイッチにアサインします。**



DMEやMRX7-Dは、コンポーネントエディターや「Parameters」エリアからパラメーターをドラッグします。
DMEやMRX7-Dの機器シートに移動しても、「Settings」ダイアログは表示されたままです。



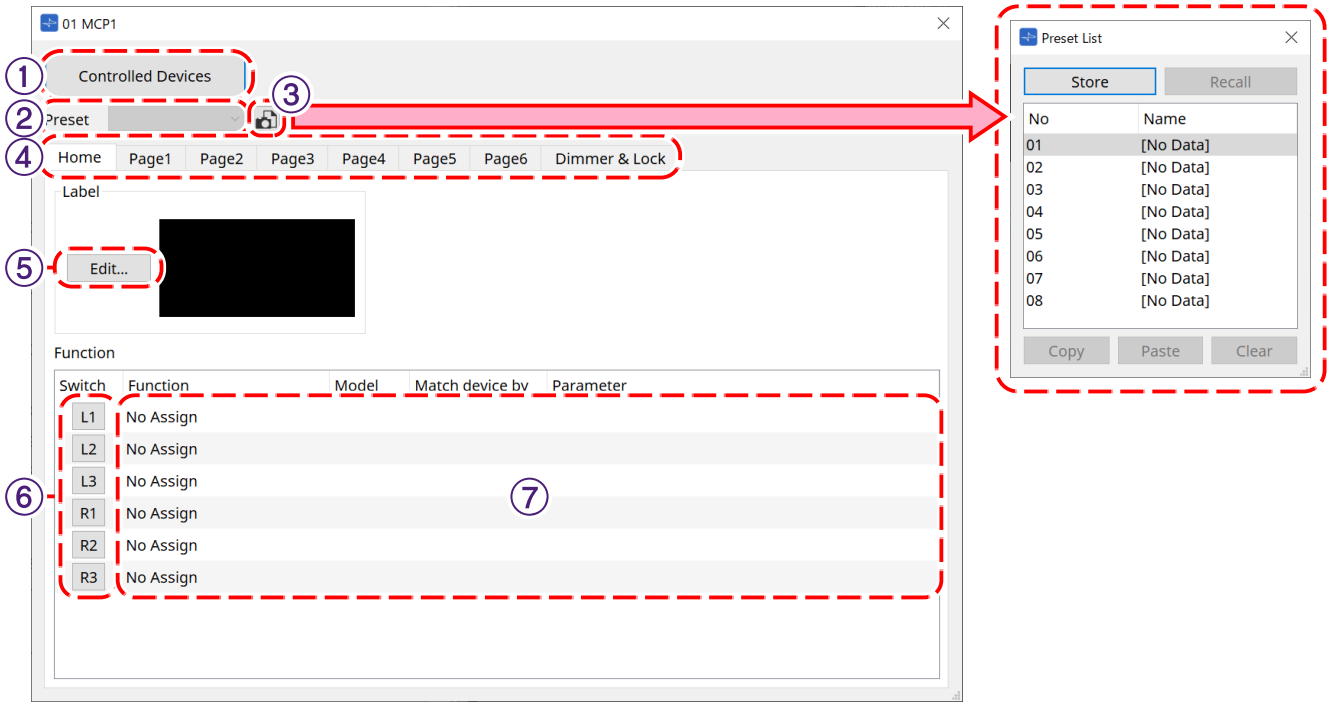
パラメーターのアサイン方法は、「Settings」ダイアログを参照ください。

ProVisioniare Designで対応していない製品をコントロールする場合は、Function > External Eventをご利用ください。

5. **[Preset]ボタンをクリックします。**
   「Preset List」ダイアログが表示されます。プリセットは、すべてのページとDimmer & Lockの設定が保存されます。
   プリセットをロードすると、ページとDimmer&Lockの設定がMCP1 Editorにロードされます。オンライン中にプリセットをリコールすると、MCP1本体のパネル設定も変わります。

28.4. コンポーネントエディター

「Project」シート上のデバイスをダブルクリックすると、エディターが開きます。



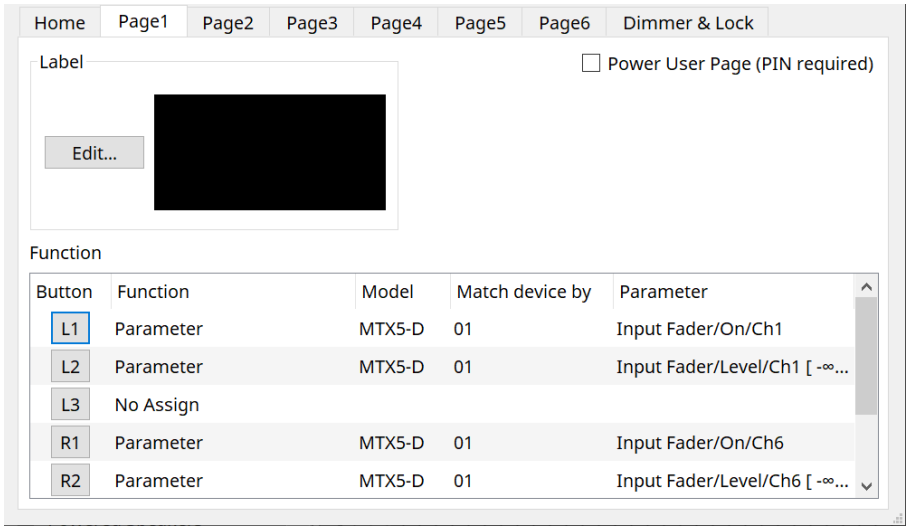
① [Controlled Devices]ボタン
「Controlled Devices」ダイアログを開きます。

② Presetリスト
プリセットをリコールします。

③ [Preset]ボタン
「Preset List」ダイアログを開きます。

④ [Home]/[Page 1] ～ [Page 6] タブ
MCP1 のページを設定します。
[Home]ページはMCP1を起動したときや、ホームスイッチが押されたときに表示されるページです。
[Home]ページではスイッチに [Open Page] を割り当てるとページを切り替えることができます。

ここでは [Page 1] タブで説明します。



- **[Power User Page [PIN required]] チェックボックス ([Home] ページ以外)**
  チェックを入れると、MCP1本体でページを開くときにPower User PINを入力する必要があります。
  Power User PINは、機器の「Properties」エリア > Utilitiesで設定します。

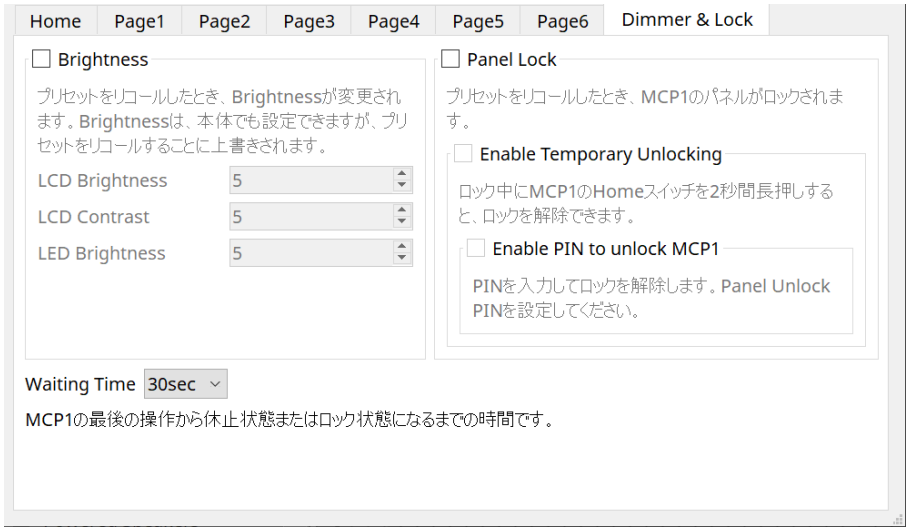
⑤ Label [Edit] ボタン
「Label」ダイアログを開きます。

⑥ Function [Switch]選択ボタン
クリックすると、「Settings」ダイアログを開きます。

⑦ [Function]/[Model]/[Match device by][Parameter]
「Settings」画面で設定した概要を表示します。

28.4.1. [Dimmer & Lock] タブ

MCP1のディスプレイやスイッチの輝度、パネルロックの動作を設定します。



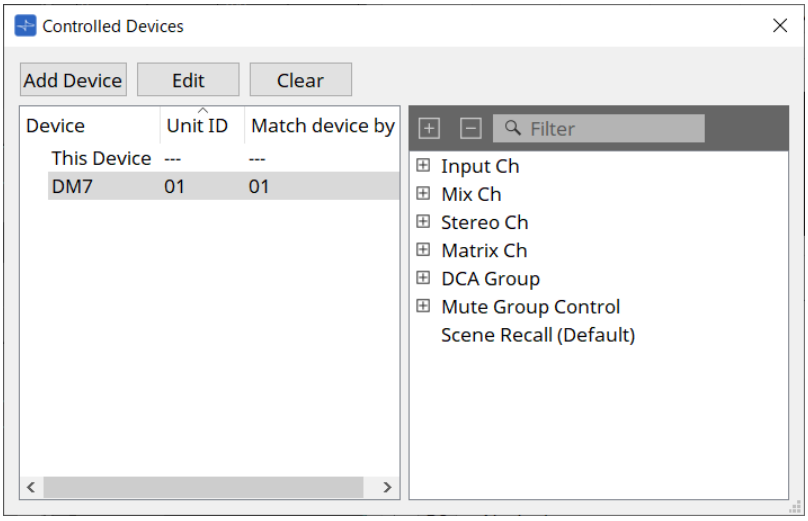
- **[Brightness] チェックボックス**
  チェックボックスをオンにすると、プリセットをリコールしたとき、ディスプレイの明るさやコントラスト、スイッチの明るさを変更できます。
  [LCD Brightness]は、ディスプレイの明るさです。数字が大きいほど明るくなります。
  [LCD Contrast] は、ディスプレイのコントラストです。数字が大きいほど明暗の差が大きくなります。
  [LED Brightness] は、スイッチの明るさです。数字が大きいほど明るくなります。

- **[Panel Lock] チェックボックス**
  チェックボックスをオンにすると、プリセットをリコールしたとき、 MCP1 のパネルがロックされます。 [Enable Temporary Unlocking] チェックボックスをオンにすると、MCP1のホームスイッチを2 秒以上長押ししたときにロックを解除できます。
  [Enter PIN to unlock MCP1] チェックボックスをオンにすると、パネルロックを解除するときにPanel Unlock PINの入力を求められます。

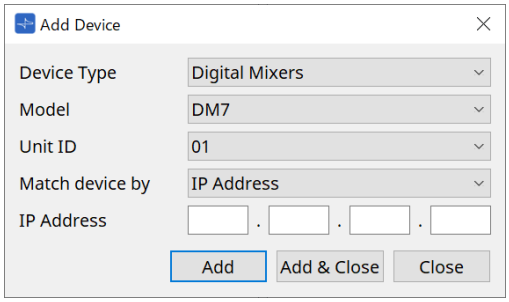
- **[Waiting Time]**
  最後の操作から休止状態またはロック状態になるまでの時間を設定します。

28.4.2. 「Controlled Devices」ダイアログ

コンポーネントエディターの[Controlled Devices]ボタンをクリックすると、表示されます。
MCP1で制御する機器を登録します。



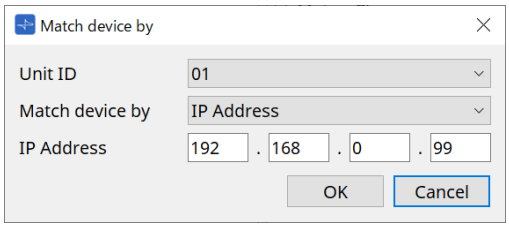
- **[Add Device]ボタン**
  クリックすると、「Add Device」ダイアログが開きます。
  MCP1で制御する機器を登録します。



  [Match Device by]でMCP1がネットワーク上の機器を検索する方法を選択します。
  [IP Address]を選択すると機器本体のIPアドレスで、[Unit ID]を選択すると機器本体のUnit IDで検索します。

Unit IDは、機器をシートに追加しているとき、機器の識別子として使用できます。

- **[Edit]ボタン**
  クリックすると、「Unit ID & Match Device by」ダイアログを開きます。



  Device Listで選択中の機器の[Unit ID]と[Match Device by]を変更します。

- **[Clear]ボタン**
  Device Listで選択中の機器を削除します。

- **Device List**

登録中の機器を表示します。

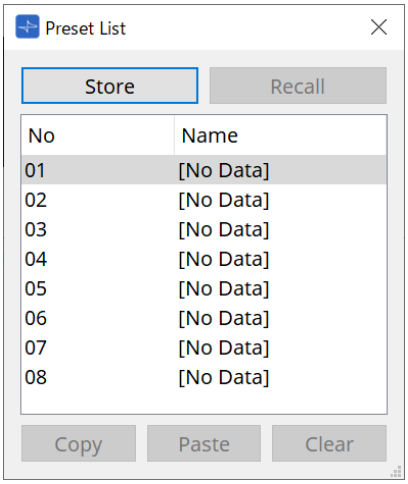
- **Parameter List**

  Device Listで選択中の機器のパラメーターを表示します。
  パラメーターをドラッグ＆ドロップで、「Settings」ダイアログへ登録できます。

DMEやMRX7-Dなどのコンフィグレーションを自由に変更できるモデルのパラメーターは、コンポーネントエディターまたは「Parameters」エリアから「Settings」ダイアログへドラッグ＆ドロップで登録してください。

28.4.3. 「Preset List」ダイアログ

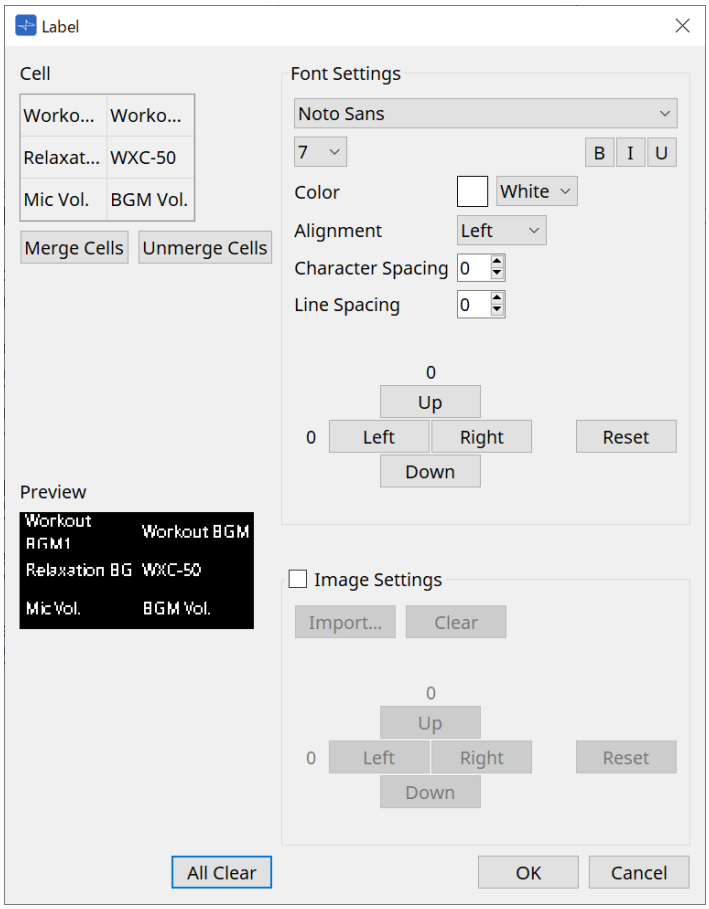
MCP1 に関する設定を「プリセット」として 8 個まで保存できます。
プリセットは、外部機器からリコールできます。また、他のMCP1のスイッチでリコールすることもできます。



- **[Store]ボタン**
  [Home]/[Page 1] ～ [Page 6]/[Dimmer & Lock]の設定をプリセットに保存します。
- **[Recall]ボタン**
  選択中のプリセットをリコールします。
  [Home]/[Page 1] ～ [Page 6]/[Dimmer & Lock]に設定が展開されます。
  オンライン中にプリセットをリコールすると本体のパネル設定も変わります。
- **[Copy]ボタン**
  選択中のプリセットをコピーします。
- **[Paste]ボタン**
  コピーしたプリセットを選択中のプリセットにペーストします。
- **[Clear]ボタン**
  選択中のプリセットを消去します。

28.4.4. 「Label」ダイアログ

MCP1本体のディスプレイに表示する画像をページごとに作成します。



- **[Cell]**
  ページ画面を編集します。
  文字列を編集する場合、セルをダブルクリックするか、セルを選択して< F2 >キーを押してください。
  < Enter >キーを押すかマウスで他のセルを選択すると確定します。
  セルに背景画像を入れる場合、セルを選択して [Image Settings] チェックボックスにチェックします。[Import] ボタンを押して、画像ファイルを選択してください。
  セルの移動はマウス操作だけでは無く、カーソルキーや< Tab >キー、 < Enter >キーでもできます。
  また、< Shift >キーを押しながらセルの移動をすると範囲選択できます。

- **[Merge Cells] ボタン**
  セルを複数選択してクリックすると、セルを結合します。

- **[Unmerge Cells] ボタン**
  結合されたセルを選択してクリックすると、セルの結合を解除します。

- **[Preview]**
  ページイメージを表示します。
  [Cell]に設定した文字や画像を確認できます。

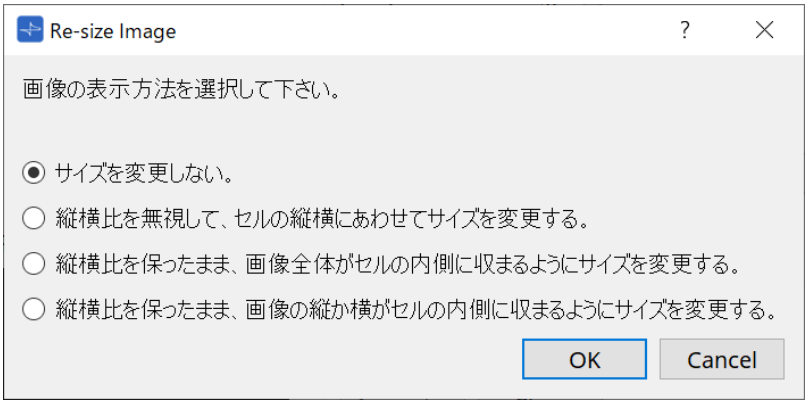
- **「Font Settings」エリア**
  選択しているセルに表示する文字列のフォントを設定します。

  - **フォントリストボックス**
    フォントを選択します。コンピューターにインストールされているフォントが選択できます。

  - **フォントサイズリストボックス**
    フォントサイズを選択します。

- **[B]/[I]/[U] ボタン**
  クリックすると、セル内の文字列を太文字/イタリック体/下線付きにできます。
- **「Color」**
  セル内の文字列の色が表示されます。ボタンをクリックすると、白 / 黒の切り替えができます。
- **[Alignment] リストボックス**
  セル内の文字列の表示位置を選択します。
- **[Character Spacing] スピンボックス**
  セル内の文字の間隔を設定します。
- **[Line Spacing] スピンボックス**
  セル内の行の間隔を設定します。
- **[Up]/[Left]/[Right]/[Down]/[Reset] ボタン**
  セル内の文字位置を調整します。移動量が数字で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると、初期値になります。

- **「Image Settings」**
  チェックを入れると選択しているセルの背景画像に関する設定をします。
  - **[Import] ボタン**
    クリックすると、「Open File」ダイアログが開きます。
    選択できる画像の拡張子は *.png と *.bmp と *.jpg です。
    画像データを選択したあと、[OK] ボタンをクリックすると、画像をどのようにセルに配置するかを選択する「Re-size Image」ダイアログが開きます。

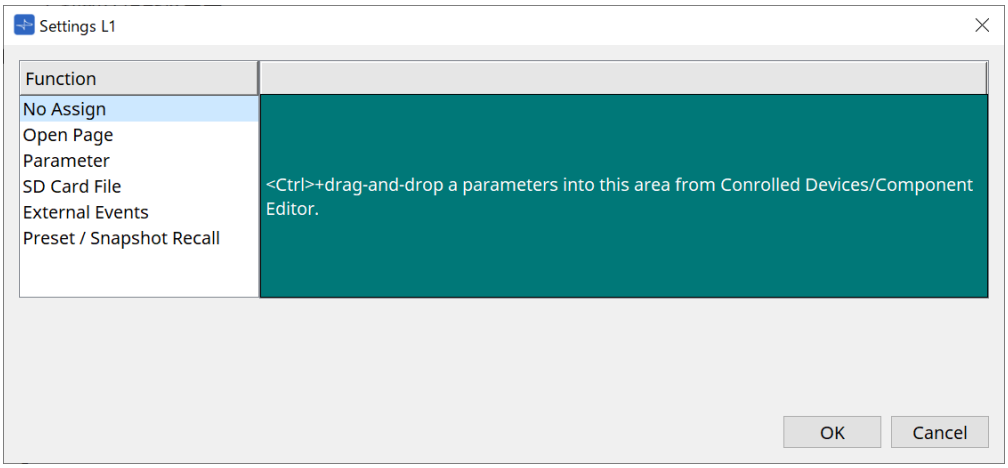


  - **[Clear] ボタン**
    クリックすると、背景画像を削除します。
  - **[Up]/[Left]/[Right]/[Down]/[Reset] ボタン**
    セル内の背景画像位置を調整します。移動量が数字で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると、初期値になります。

- **[All Clear] ボタン**
  セルの情報をすべて初期化します。
- **[OK] ボタン**
  設定情報を保持してダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定情報を破棄してダイアログを閉じます。

28.4.5. 「Settings」ダイアログ

MCP1で制御するパラメーターやプリセットを登録します。



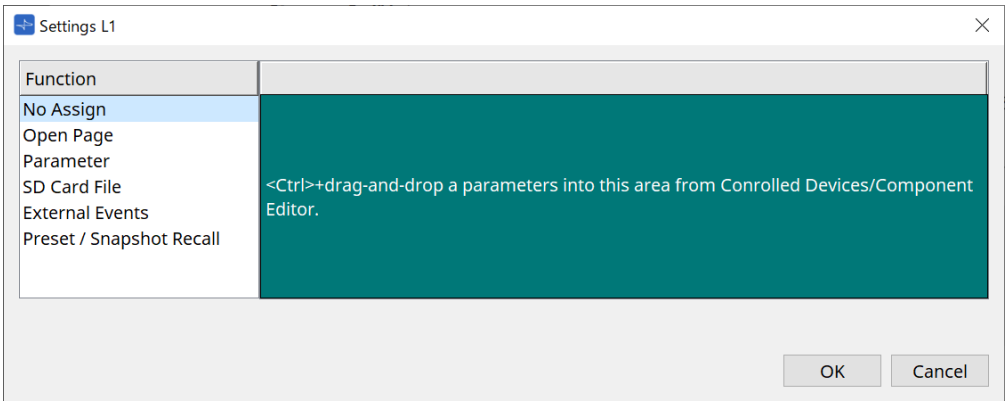
緑色の領域にパラメーターやプリセットをドラッグ&ドロップするとスイッチに登録できます。

登録元	登録方法
「Controlled Device」ダイアログのParameter List	パラメーターやプリセットを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
DMEとMRX7-Dのコンポーネントエディター※1	< Ctrl >を押しながら、パラメーターを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
DMEとMRX7-Dの「Parameters」エリア	パラメーターを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
MRX7-DのLink Control エディター	< Ctrl >を押しながら、Link Controlを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
DMEの「Parameter Sets」エリア	スナップショットを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
MRX7-Dの「Parameter Sets」エリア	スナップショットを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。 スナップショットグループを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
MRX7-Dの「Presets」エリア	プリセットを「Settings」ダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

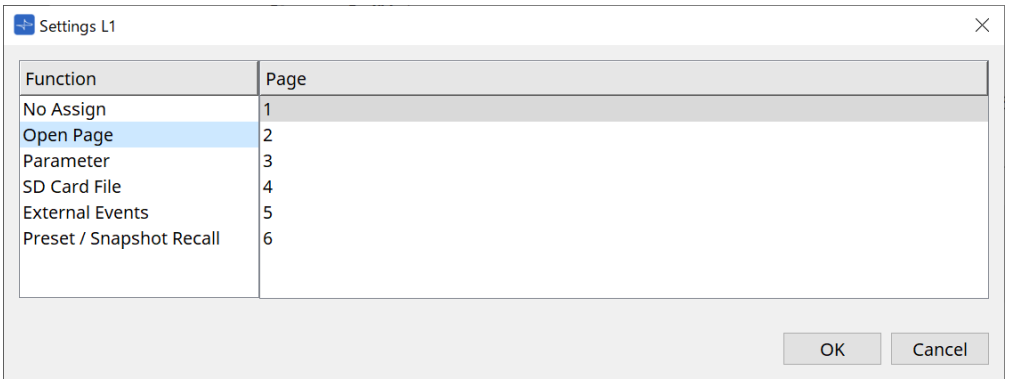
※1 DME、MRX7-D以外の機器は、「Controlled Device」ダイアログのParameter Listからのみパラメーターを登録できます。

Function

- **[No Assign]**
  機能をアサインしません。

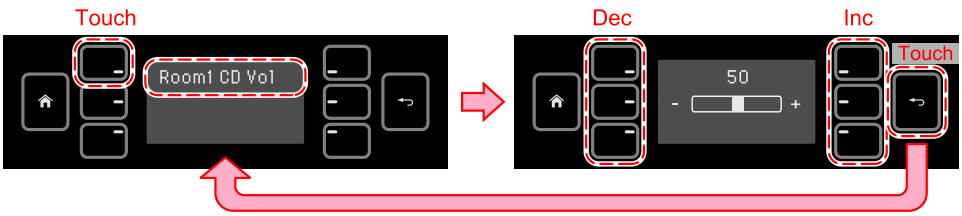


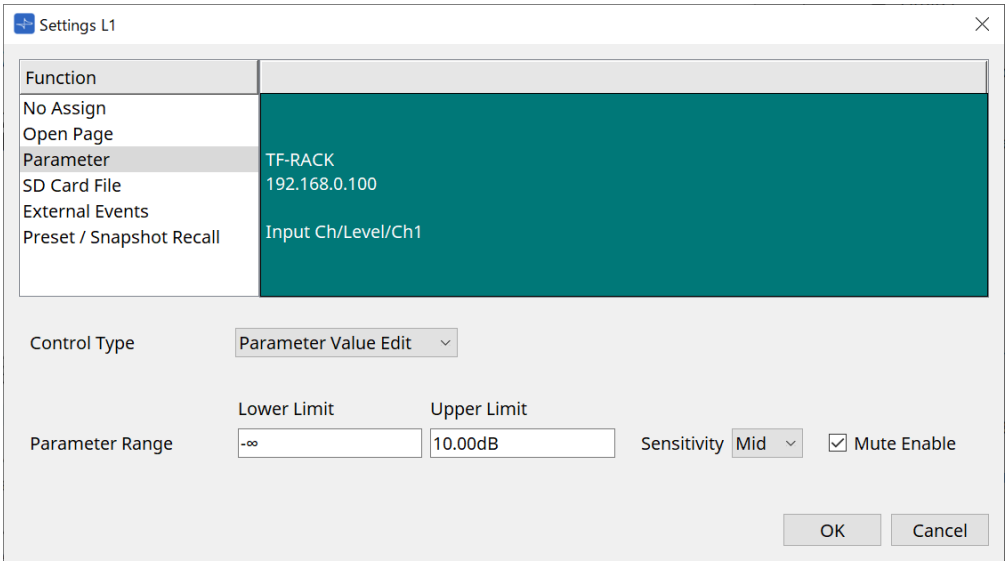
- **[Open Page (Homeページのみ)]**



スイッチを押すとMCP1のページを変更します。

- **[parameter]**
  - **Control Typeリストボックス**
    Parameter Value Editを選択したとき
    アサインしたパラメーターをLower Limit/Upper Limitで指定した範囲で操作します。
    MCP1本体で操作したいパラメーターをタッチして選択し、L1/2/3、R1/2/3スイッチとリターンスイッチで操作します。



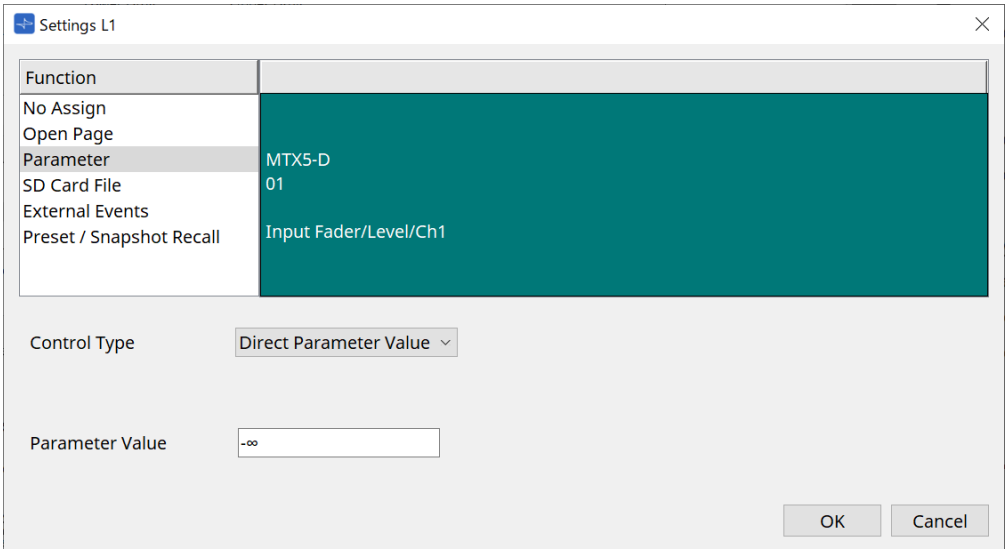


- **Parameter Range**
  パラメーターの可動域を設定します。
  Lower Limit/Upper Limitをクリックすると、操作子が表示されます。

- **Mute Enableチェックボックス**
  オンにすると、レベルが[Lower Limit]で設定した値よりも下回った場合にMute状態(-∞ dB)になります。

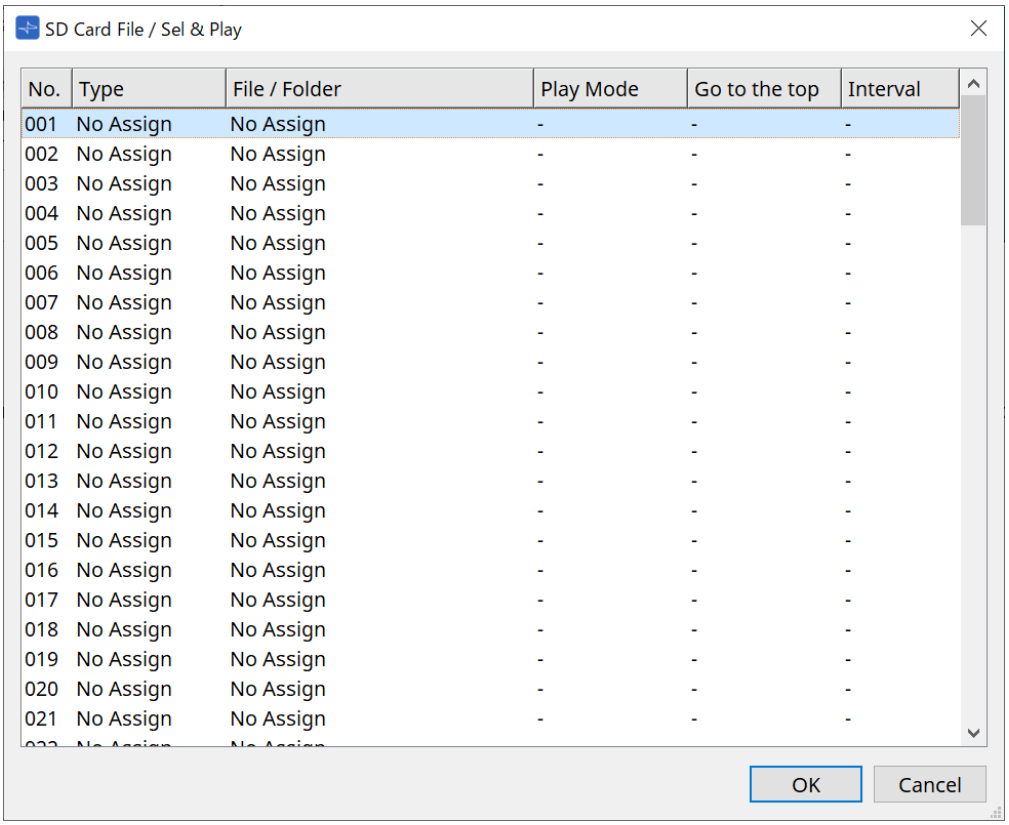
- **[Sensitivity]**
  スイッチ操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

  Direct Parameter Valueを選択したとき
  アサインしたパラメーターをValueで指定した値にします。
  Parameter Valueをクリックすると、操作子が表示されます。



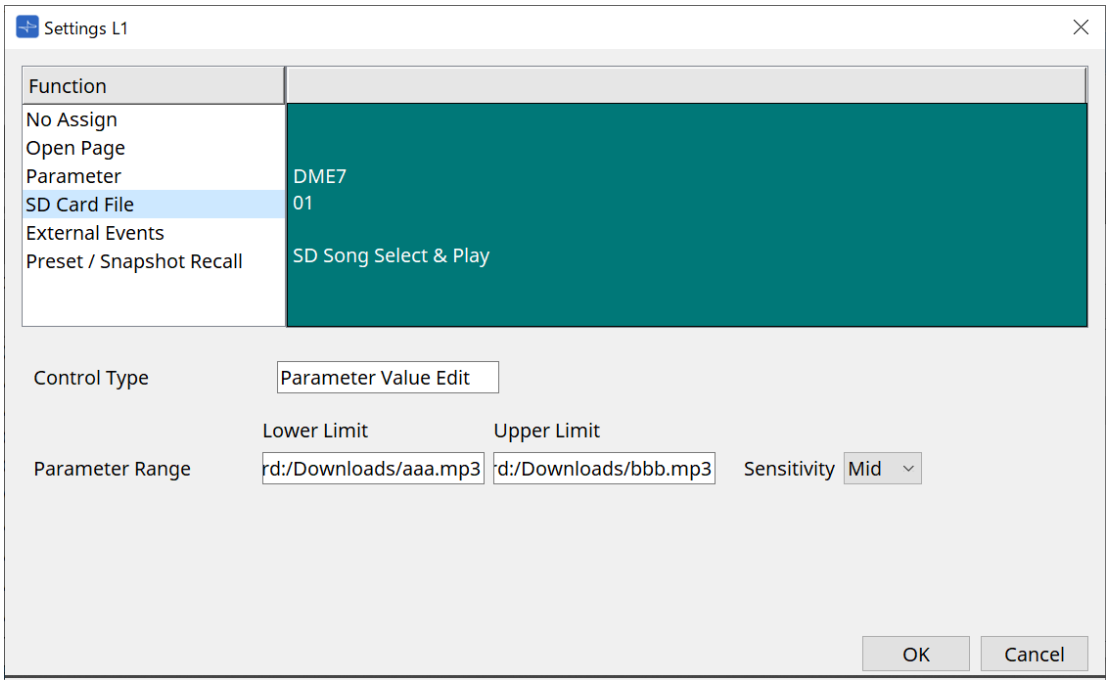
- **[SD Card File Manager]**

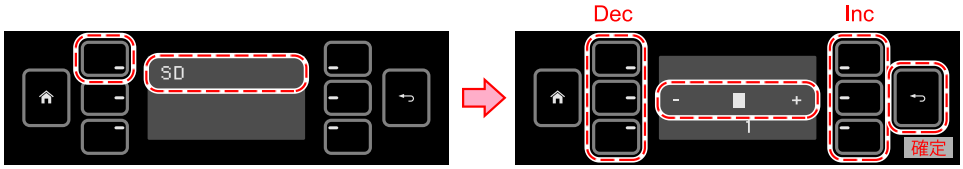
DME/MRX7-DまたはProjectシートに配置しているMTX3/MTX5-Dの場合
Controlled DevicesからSD Card File > Sel & Playをアサインしたとき、「SD Card File Manager」ダイアログが起動します。
DMEの場合は、ファイルはひとつ、または連続した複数を選択できます。
MTX3、MTX5-D、MRX7-Dの場合は、ファイルをひとつしか選択できません。



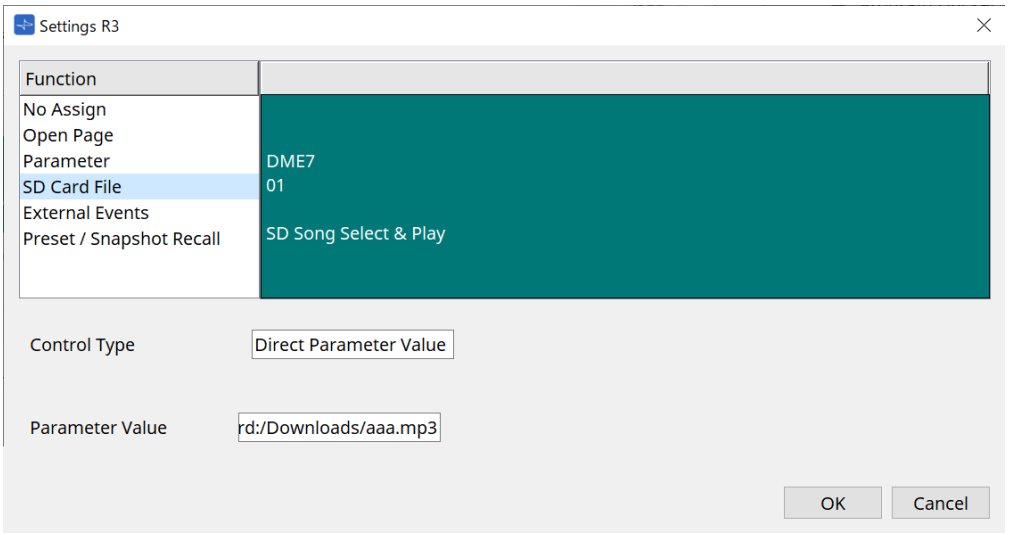
DMEの場合は、複数のファイルを選択できます。

<u>複数ファイルを選択したとき（DMEの場合のみ）</u>



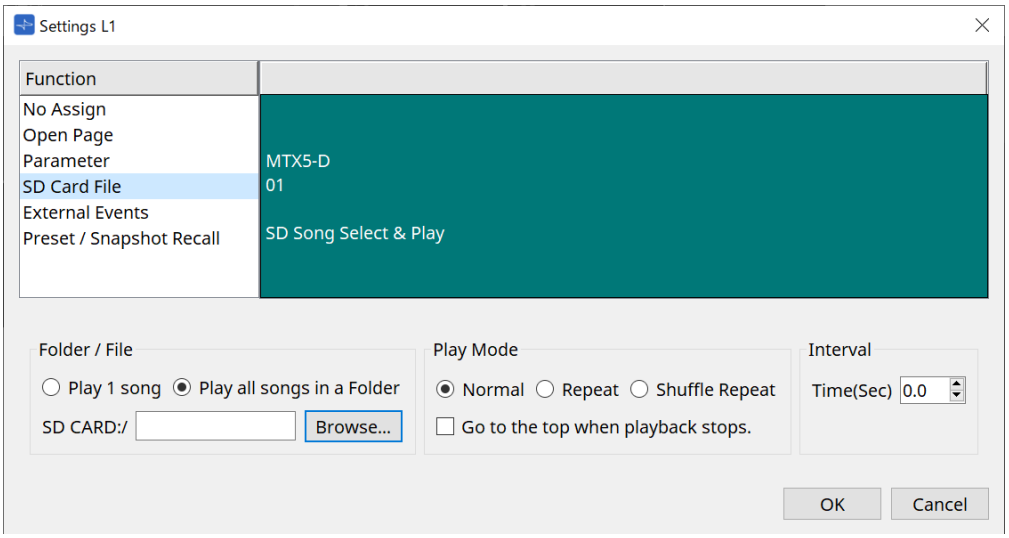


1つのファイルを選択したとき



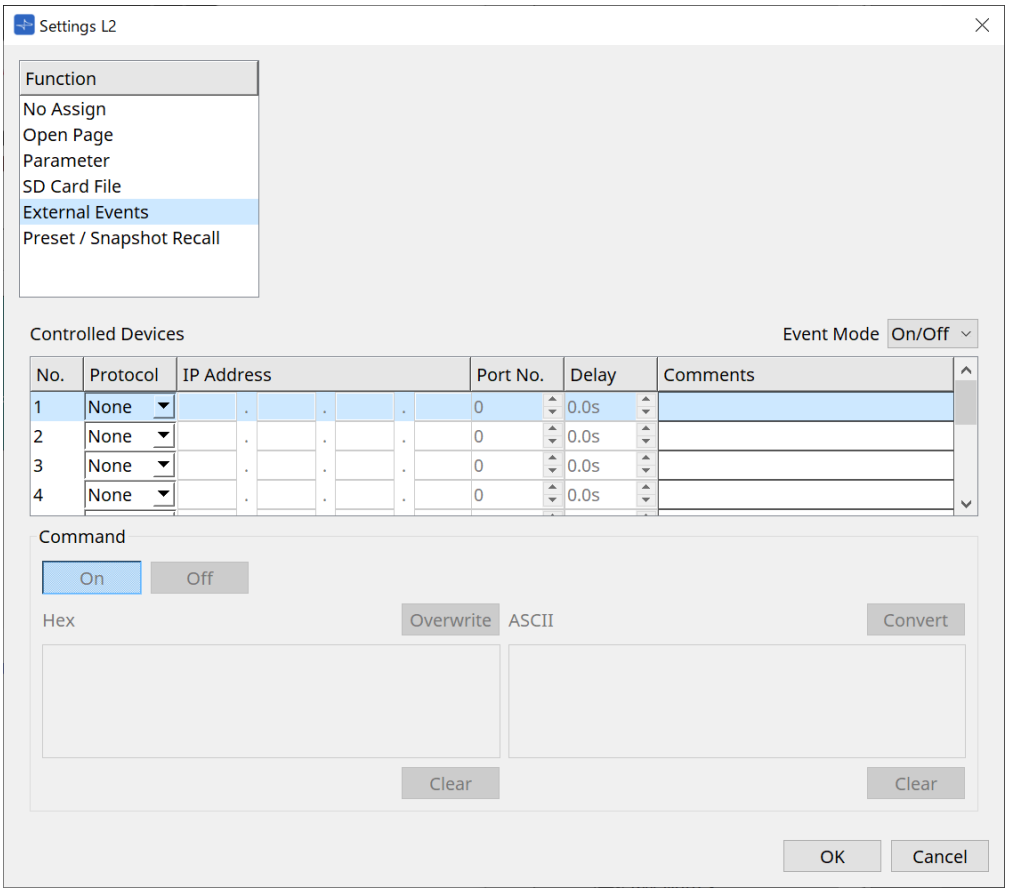
押している間だけ LED 点灯

Projectシートに配置していないMTX3/MTX5-Dの場合
Controlled DevicesからSD Card File > Sel & Playをドラッグ＆ドロップでアサインしたあとに、ファイル再生に関する設定をしてください。



設定の詳細は、DMEの「SD Card File Manager」ダイアログを参照ください。

- **[External Event]**



◦ **[Event Mode] リストボックス**

スイッチにイベントを割り当てた場合、以下のように動作します。

[On/Off] ：スイッチを押すたびにMCP1がOnコマンドとOffコマンドを交互に送信します。
[1shot] ：スイッチを押すたびに MCP1が設定されたコマンドを送信します。

◦ **Controlled Device**

コマンドを受け取る機器の情報を設定します。
受信する機器の設定については、各機器のコマンドに関する資料を参照してください。

- **Protocol**
  コマンドを受信する機器が対応しているプロトコルを選択します。
- **IP Address**
  コマンドを受信する機器の IP アドレスを設定します。
- **Port No.**
  コマンドを受信する機器のポート番号を設定します。
- **Delay**
  スイッチを押したときを0として、コマンドごとにそこからのディレイを設定します。
- **Comments**
  テキストを入力できます。

◦ **Command On/Off**

[Event Mode]リストボックスでOn/Offに設定すると表示されます。

スイッチがオンのとき、オフのとき、それぞれのコマンドを設定します。
コマンドは16進数でXXという形式で入力されます。

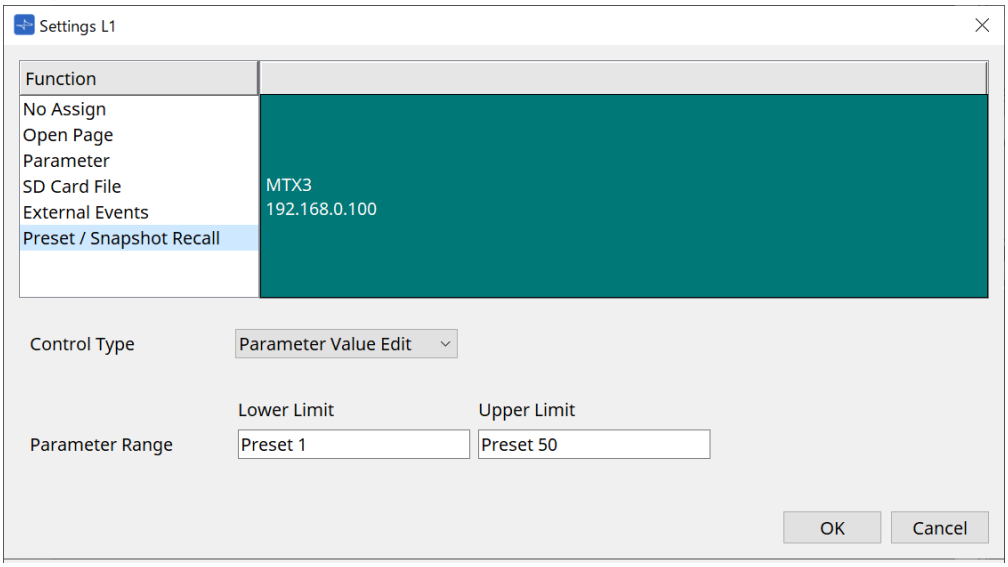
- **Overwrite/Insert**
  [Insert]にすると、Commandテキストボックスでの入力がインサート(挿入)になり、先頭

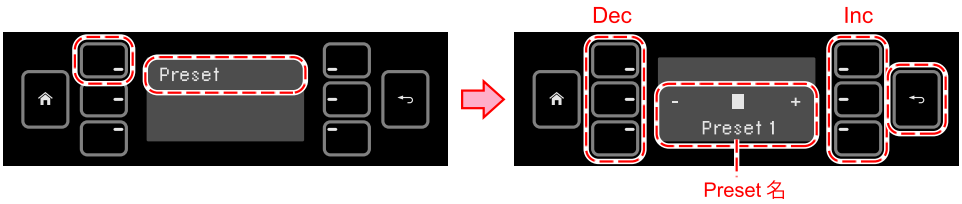
や中程で16進数を追加することができます。

- **Hex**
  機器をコントロールするコマンドを16進数で設定します。
- **Clear**
  コマンドを削除します。
- **Ascii**
  仕様書などで機器をコントロールするコマンドが文字列で提供されている場合、コマンドを入力して[Converter]ボタンで16進数に変換してください。
- **[Convert]ボタン**
  文字列のコマンドを16進数に変換して"Hex"に入力します。

- **[Presets/Snapshots]**
  - **Control Type**

    Parameter Value Editを選択したとき
    1台の機器に連続した番号のプリセットやスナップショットをアサインできます。

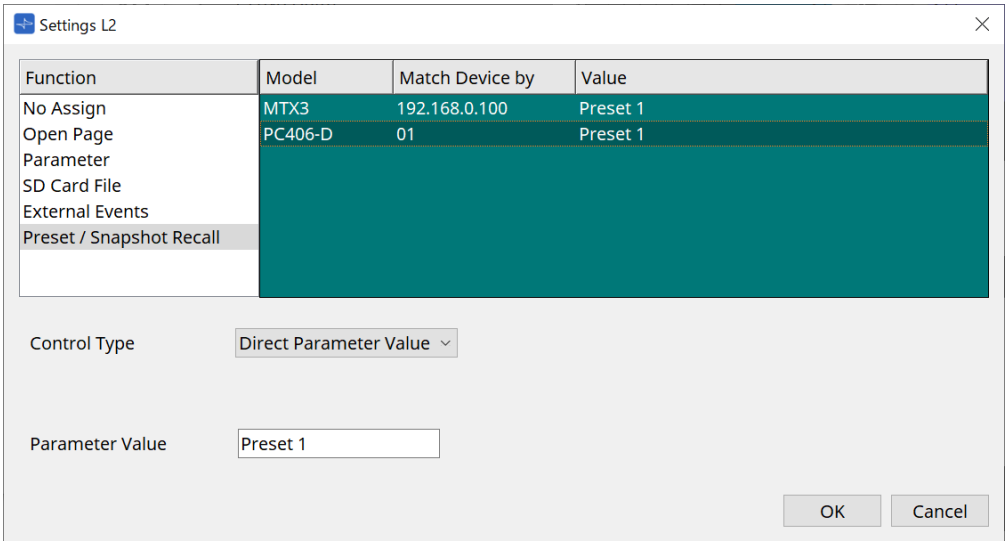




Direct Parameter Valueを選択したとき
同じスイッチに、繰り返しアサイン作業を実行することで、複数のプリセット、スナップショット、スナップショットグループを同時にアサインできます。異なる機器のプリセットも同時にアサインできます。

Rivage PMシリーズやDM7シリーズはDirect Parameter Valueのみ選択できます。

MRX7-Dのスナップショットグループは、Direct Parameter Valueのみ選択できます。



押している間だけ LED 点灯

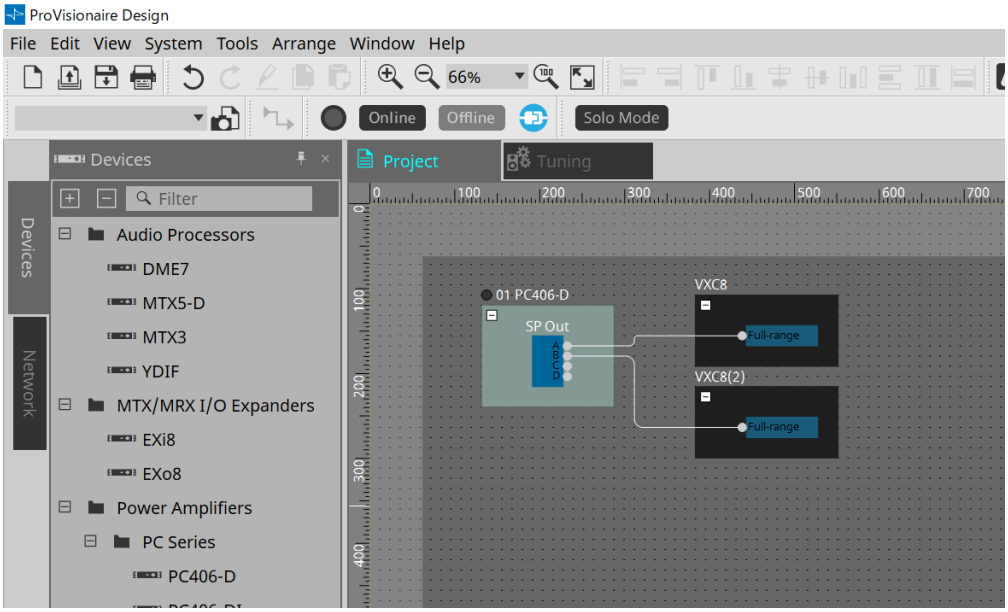
28.5. アラート一覧

MTX5-D/MTX3のアラート一覧を参照ください。

29. External Device Speakers

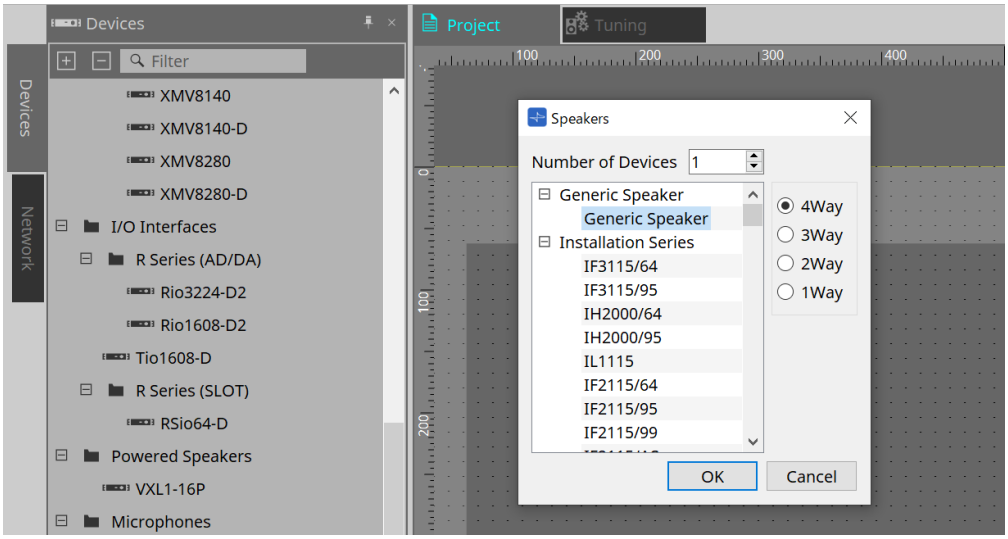
29.1. 概要

「Project」シートに配置したスピーカーは、PCシリーズなどのアンプに接続することによって、PC-Dアンプのスピーカープロセッサーを開くことができます。



29.2. 「Project」シート

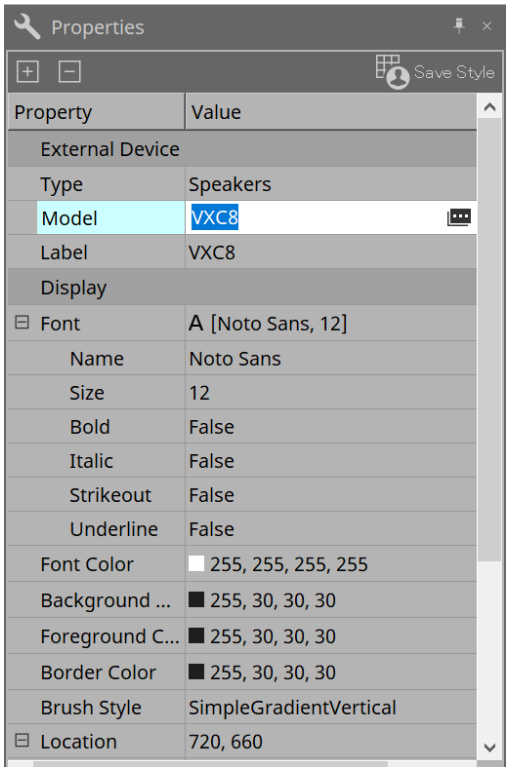
機器を配置するシートです。スピーカーを配置するときに、下記のSettings画面が表示されます。



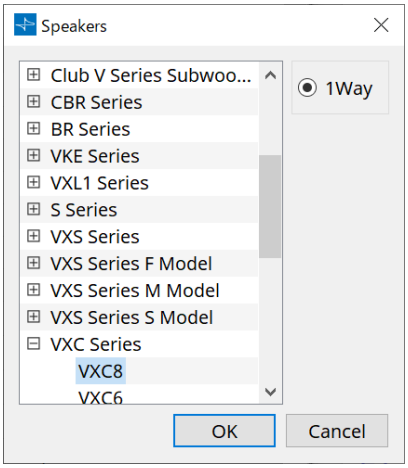
- **Number of Devices**
  シートに配置するスピーカーの台数を選択します。
- **[4way/3way/2way/1way] ラジオボタン**
  スピーカーの構成を選択します。

29.3. 「Properties」エリア

スピーカーの情報を表示/編集します。



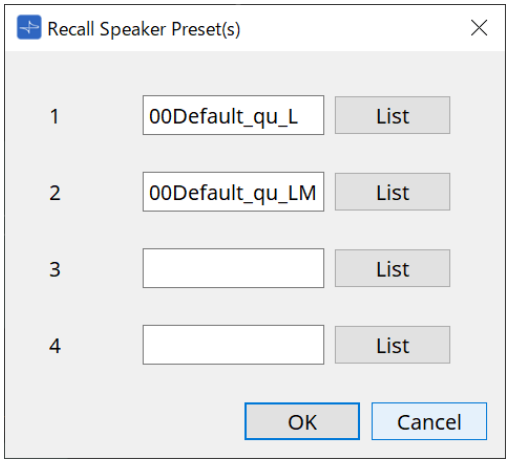
- **Model**
  クリックすると ボタンを表示します。
  ボタンをクリックするとダイアログが表示され、選択中のスピーカータイプを変更できます。



- **Label**
  スピーカーに任意の文字列を表示、編集できます。

29.4. 「Recall Speaker Preset(s)」ダイアログ

スピーカーのライブラリーを変更します。
PCシリーズのアンプに接続したスピーカーのコンテキストメニューでRecall Speaker Preset(s)を選択すると表示されます。
端子ごとにリコールするSpeaker Preset Fileを指定できます。



- **ライブラリー**
  設定するライブラリーを端子ごとに表示します。ダイアログを表示させた直後は初期値であるライブラリーを表示します。
- **[LIST]ボタン**
  ライブラリーを選択し、表示します。
- **[OK]ボタン**
  接続されているパワーアンプでスピーカープリセットをリコールします。
- **[Cancel]ボタン**
  リコールせずに、ダイアログを閉じます。

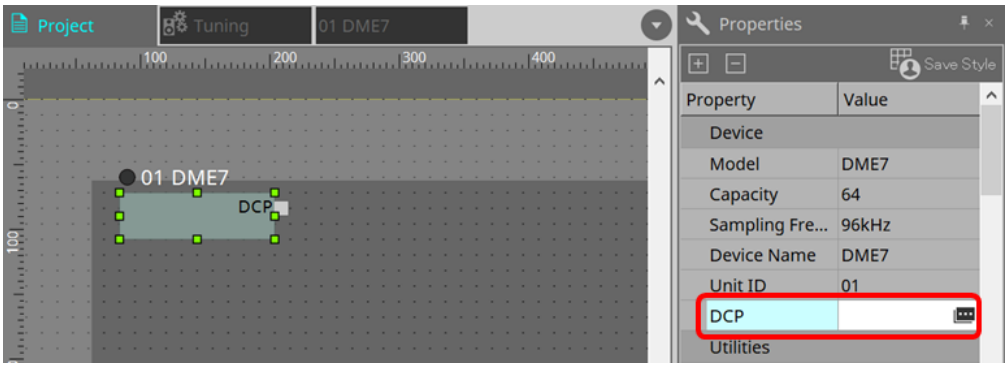
30. デジタルコントロールパネル DCP

30.1. 概要

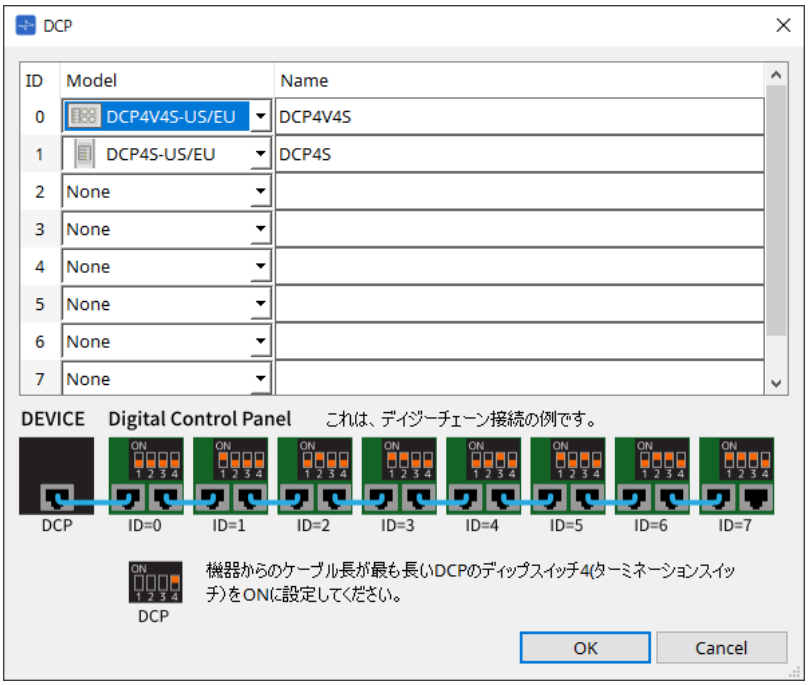
DME10/DME7/MRX7-D/MTX5-D/MTX3のパラメーターをDCP1V4Sなどのデジタルコントロールパネル(以下「DCP」とする)の操作子にアサインし、DCPから操作できます。また、DCP本体のLEDの輝度やパネルロックの設定もできます。オンライン状態のときは設定できません(設定の確認のみ可能です)。

30.2. 接続するDCPの選択方法

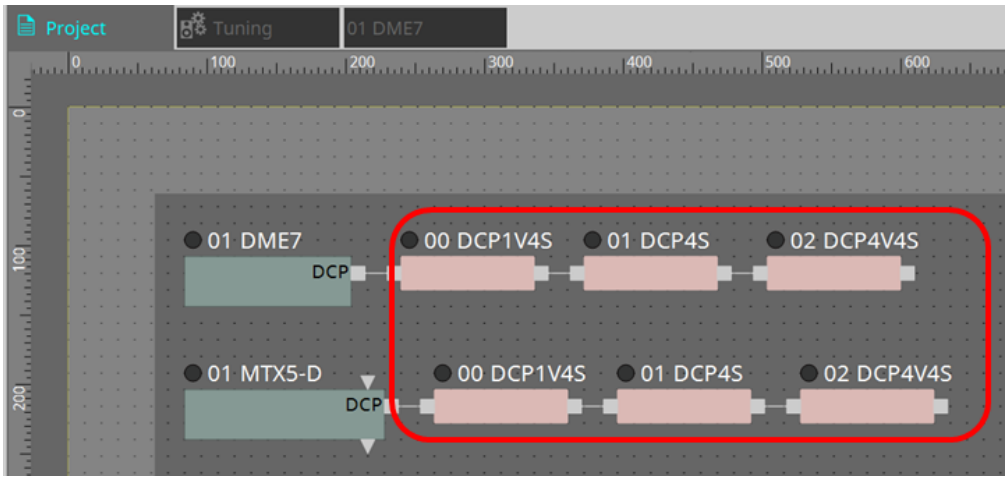
はじめに、「Project」シート内でDME10/DME7/MRX7-D/MTX5-D/MTX3を選択し、「Properties」エリアのDCPを選択します。



その後、以下の画面でDCPポートに接続するDCPを選択します。

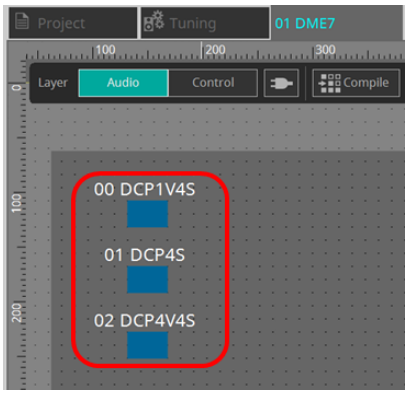


DCPを選択すると、「Project」シートの各機器にDCPが接続されます。
DCPをダブルクリックして、DCPコンポーネントエディターを開きます。

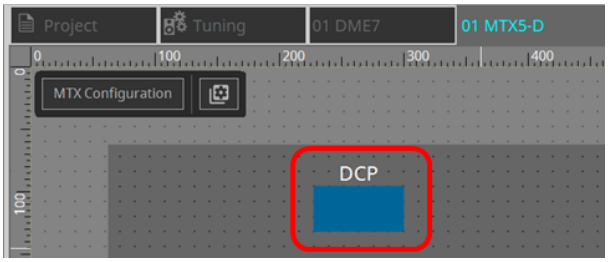


また、「機器シート」にDCPコンポーネントが自動的に追加されます。コンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントエディターが開きます。

■ DME10/DME7/MRX7-Dの場合



■ MTXシリーズの場合



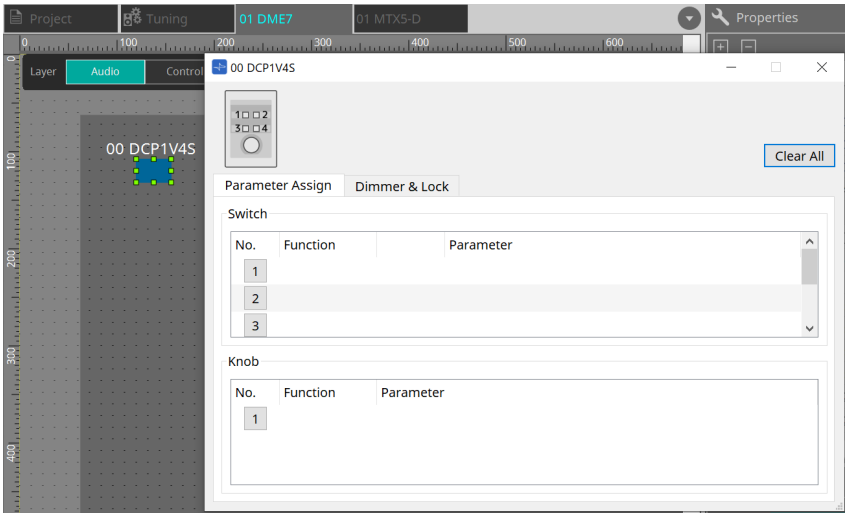
30.3. DME10/7における設定方法

DCPコンポーネントは、他のオーディオコンポーネントと同様に、Parameter Setに追加し、スナップショットでカレント値をストア/リコールできます。

■ Parameter Setへの登録方法
Parameter Setへの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
機器シート	< Ctrl >を押しながら、DCPコンポーネントを「Parameter Sets」エリアのParameter Setへドラッグ＆ドロップする。
	コンテキストメニューで"Add to Parameter Set"を選択する。

30.3.1. DCPコンポーネントの設定

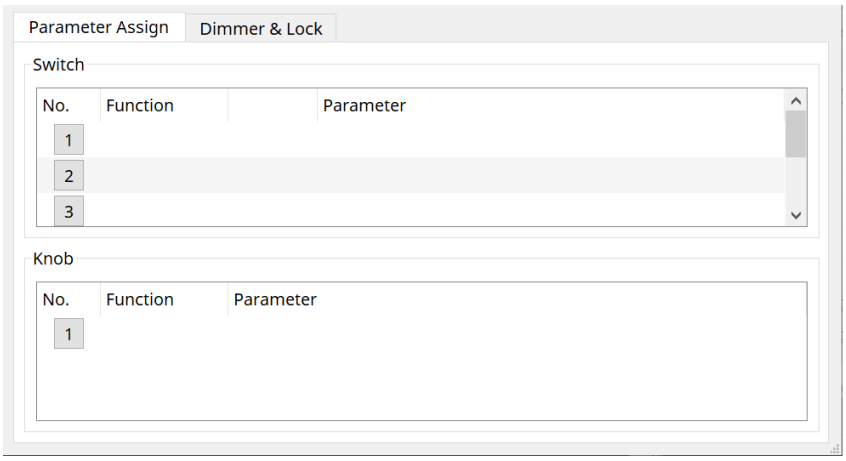


Audioレイヤー内のDCPコンポーネントをダブルクリックし、各種設定をします。

- **[Clear All]ボタン**
  設定した内容を消去します。

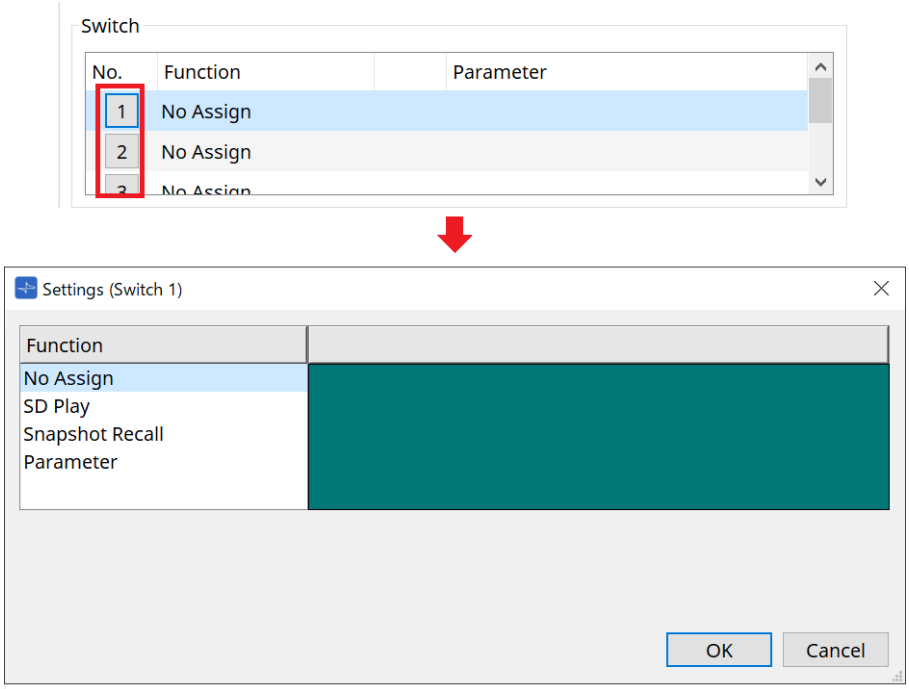
30.3.2. [Parameter Assign]タブ

設定したい操作子(スイッチまたはノブ)のNo.アイコンをクリックすると、各操作子の設定を行う「Settings」ダイアログが表示されます。ダイアログ内にてDME10/7のパラメーターを各操作子にアサインします。



27.3.2.1 DCPコンポーネント:Settingsダイアログ(スイッチ)

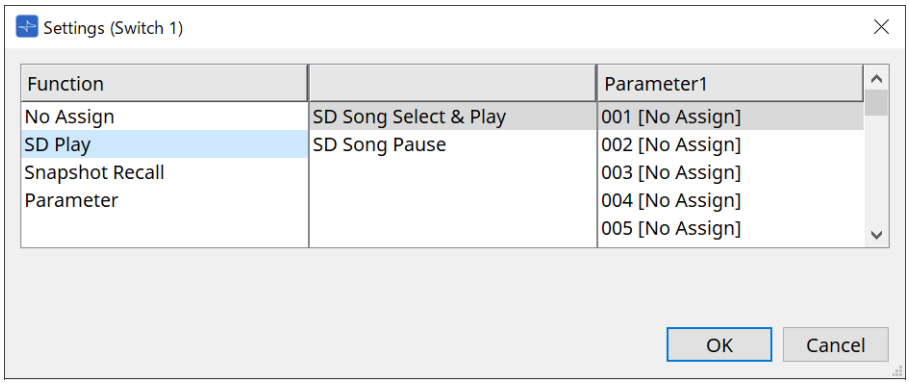
DCPコンポーネントエディターのNo.アイコンをクリックすると、Settingsダイアログを表示します。



- **[OK] ボタン**
  設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- **[Cancel] ボタン**
  設定を変更せずにダイアログを閉じます。

Function

- **[No Assign]**
  機能をアサインしません。
- **[SD Play]**



  - **SD Song Select & Play**
    [Parameter1]リストにて指定したファイルを再生します。
    SD Cardのファイル設定に関しては、「SD Card File Manager」ダイアログを参照ください。
  - **SD Song Pause**
    再生中のファイルを停止します。
- **[Snapshot Recall]**
  スナップショットをリコールします。

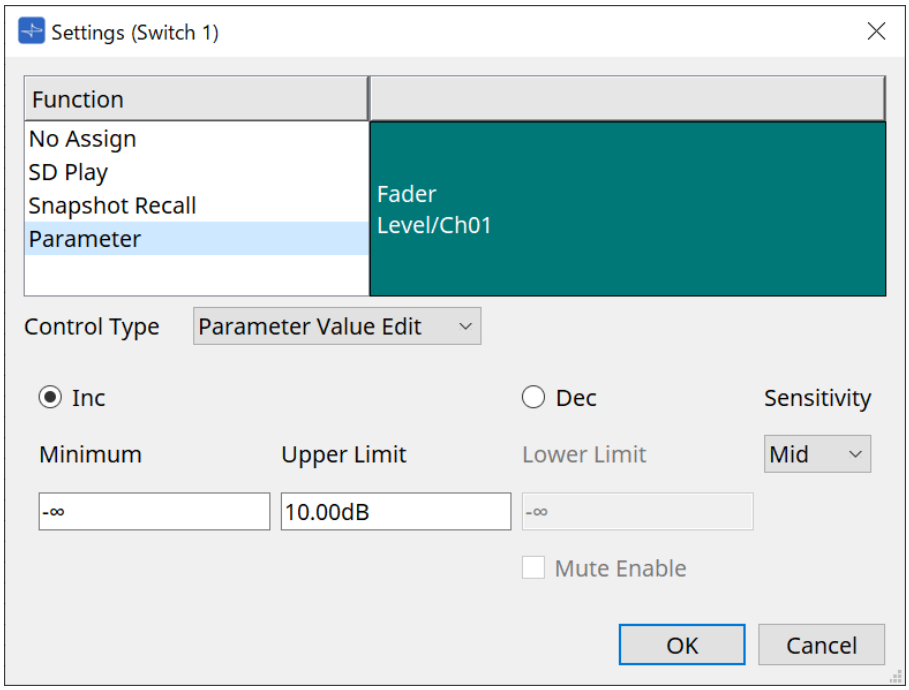
スナップショットの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
「Parameter Sets」エリア	スナップショットをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

- **[Parameter]**
  スイッチでパラメーターを操作します。
  パラメーターの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
「Parameters」エリア	パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

以下は、連続的に変化するパラメーターをアサインしたときの例を説明します。



- **[Control Type]リストボックス**
  Parameter Value Editを選択したとき

  - **[Inc]**
    スイッチを押すたびにパラメーターを加算します。
    Minimum/Upper Limitで可動域を設定できます。
    Minimum/Upper Limitのボックスをクリックすると、操作子が表示されます。

  - **[Dec]**
    スイッチを押すたびにパラメーターを減算します。
    Lower Limitで下限値を設定できます。
    Lower Limitをクリックすると、操作子が表示されます。

    - **[Mute Enable] チェックボックス**
      オンにすると、レベルが[Lower Limit]で設定した値よりも下回った場合にMute状

態(-∞ dB)になります。

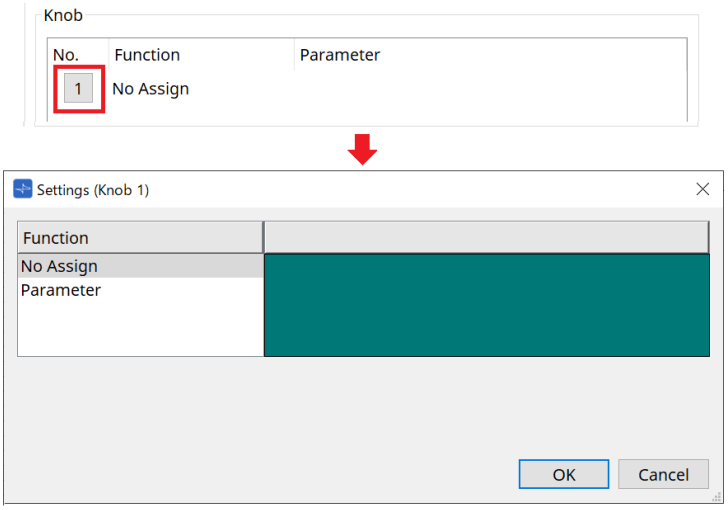
- **[Sensitivity]リストボックス**
  DCPのスイッチの押下操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

  Direct Parameter Valueを選択したとき
  スイッチを押すとパラメーターがValueで指定した値になります。

  Knob Assignを選択したとき
  スイッチを押すとスイッチにアサインしたパラメーターをノブで操作できます。
  DCP1V4Sのみの機能です。
  設定は、ノブの項目を参照ください。

27.3.2.2 DCPコンポーネント:Settingsダイアログ(ノブ)

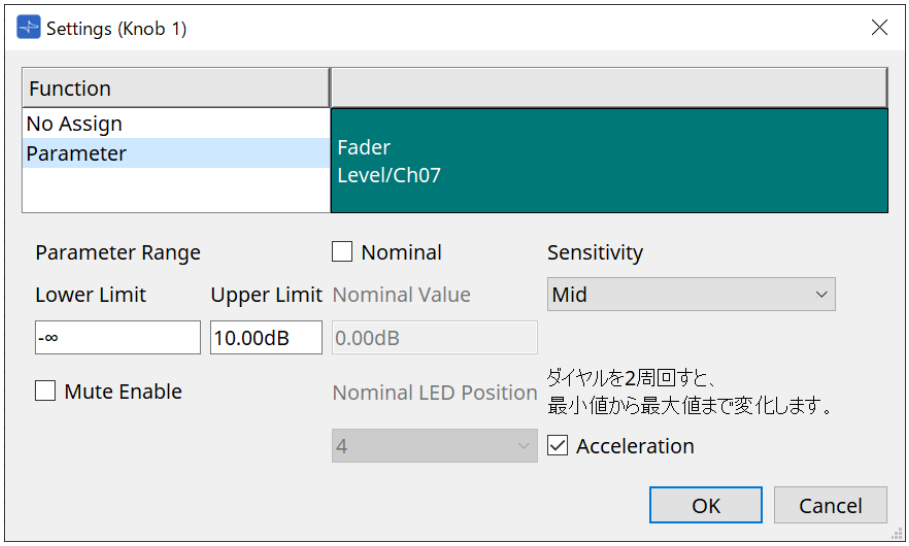
DCPコンポーネントエディターのNo.アイコンをクリックすると、Settingsダイアログを表示します。



Function

- **[No Assign]**
  機能をアサインしません。
- **[Parameter]**
  ノブでパラメーターを操作します。
  パラメーターの登録には、以下の方法があります。

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
「Parameters」エリア	パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。



- **[Parameter Range]**
  Lower LimitとUpper Limitで可動域を設定できます。
  Lower Limit /Upper Limitをクリックすると、操作子が表示されます。

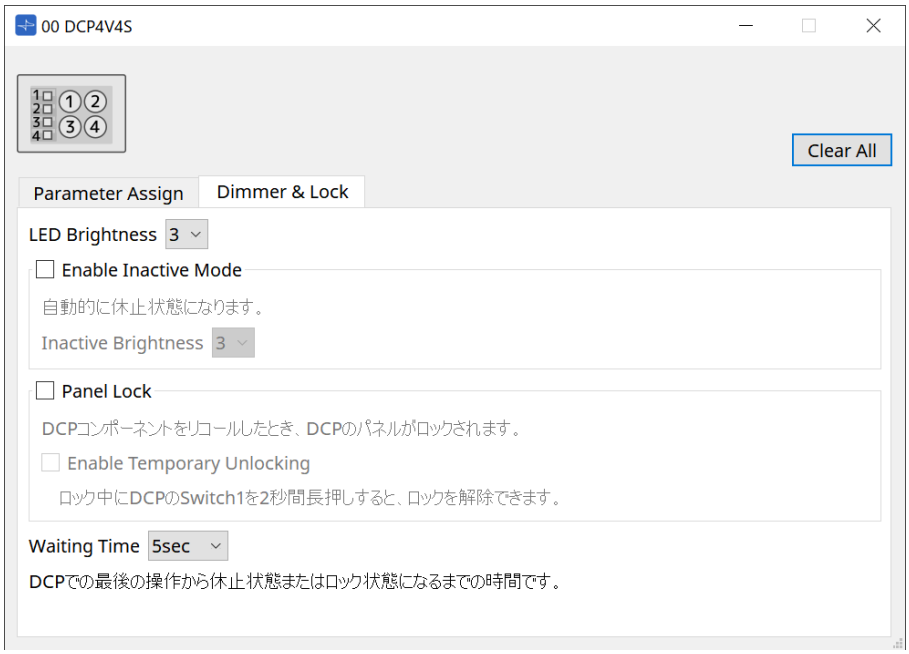
  - **[Mute Enable] チェックボックス**
    オンにすると、レベルが[Lower Limit]で設定した値よりも下回った場合にMute状態(-∞ dB)になります。

- **[Nominal]**
  ノミナル機能に関する設定を行います。 ノミナル値を設定することで、通常音量時の位置を特定のLEDポジションとして設定できます。たとえば、センターのLEDを通常使用状態のボリューム位置として設定し、また 最大値をシステムに許容される最大音量に設定しておくと、騒がしい場合などに BGMの音量を上げてシステムを壊してしまうことを防げます。 チェックボックスをオンにすると、ノミナル機能がオンになります。
  [Nominal Value]ではノミナル値を設定します。
  [Nominal LED Position]では、レベルがノミナル値に達したときに点灯するLEDの位置を設定します。

- **[Sensitivity]**
  DCPのノブの回転操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。[Acceleration]をオンにすると、ノブを速く回したときにパラメーターの変化が加速します。
  [Sensitivity]で[Fast]を選択している場合は、[Acceleration]はグレーアウト表示となり設定できません。

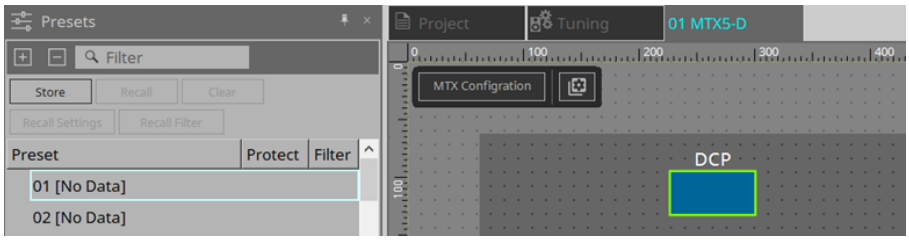
30.3.3. [Dimmer & Lock]タブ

DCP本体のLEDの輝度や休止状態に関する設定を行います。



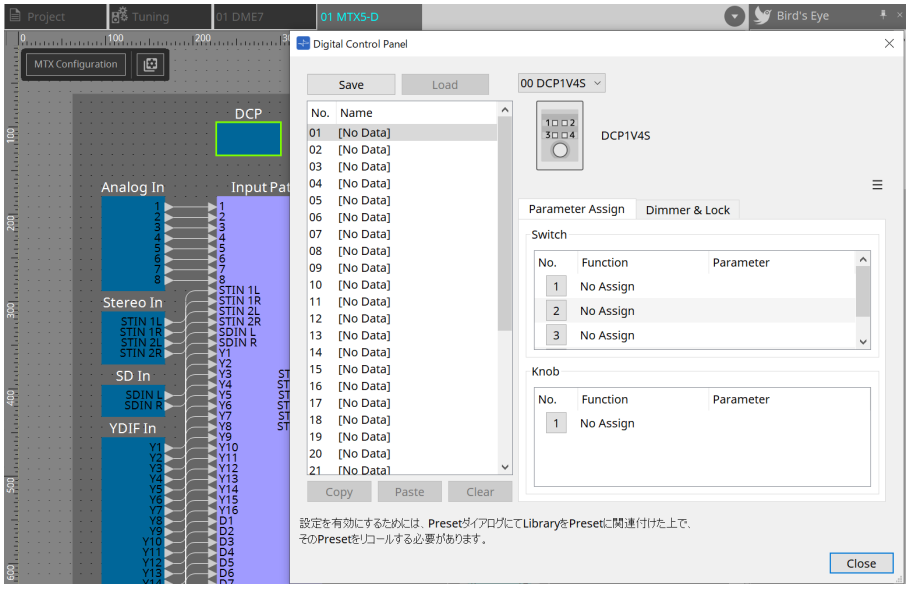
- **[LED Brightness]リストボックス**
  DCPのLEDの輝度を設定します。値が大きくなるほど明るくなります。
  - **[Enable Inactive Mode] チェックボックス**
    チェックボックスをオンにすると、[Waiting Time]で設定した時間後に、自動的に休止状態になります。
    [Inactive LED Brightness] では、休止時のLED の輝度を設定します。
    チェックボックスがオフの場合は、グレーアウト表示となり設定できません。
- **[Panel Lock] チェックボックス**
  チェックボックスをオンにすると、スナップショットでDCPコンポーネントがリコールされたときDCPのパネルがロックされます。
  [Enable Temporary Unlocking]チェックボックスをオンにすると、DCPのスイッチ1を2秒長押しすると、ロックを解除できるようになります。
- **[Waiting Time]**
  最後の操作から休止状態またはロック状態になるまでの時間を設定します。

30.4. MTX5-D/MTX3における設定方法



MTX5-DまたはMTX3のDCPコンポーネントをダブルクリックし、各種設定をします。

30.4.1. DCPコンポーネントの設定



DCPコンポーネントをダブルクリックし、コンポーネントエディターを開きます。

- **[Library]**
  DCPに関する設定を[Library]として32個まで保存できます。
  Libraryには、MTXに接続されているすべてのDCPの設定が保存されます。

> Libraryは、MTXのプリセットと同時にリコールすることでDCP本体で使用できるようになります。「Presets」エリアの[Recall Settings]ボタンを押すと表示されるダイアログで設定してください。

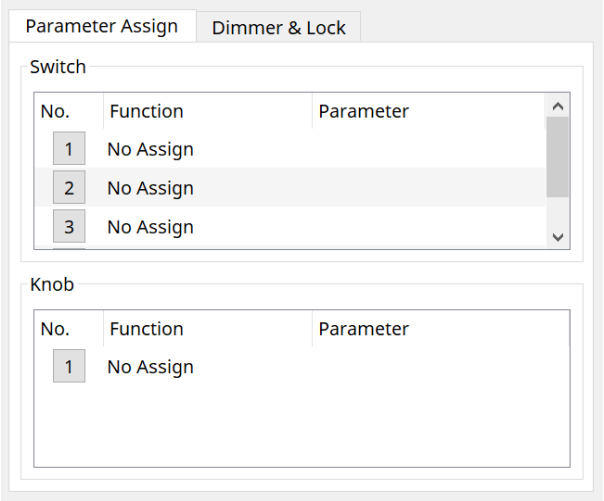
> Libraryをリコールするとと MTXに接続されているすべてのDCP（最大8台）が一括でリコールされます。
> Libraryをリコールするとき、任意のDCPをリコールの対象外にすることができます。「Presets」エリアの「Recall Filter」ボタンをクリックすると表示されるダイアログでフィルターを設定してください。

  - **[Save] ボタン**
    Libraryをセーブします。
    [Parameter Assign]タブと[Dimmer & Lock]タブの設定が保存されます。
  - **[Load] ボタン**
    LibraryをLoadします。
    「Parameter Assign」タブと[Dimmer & Lock]タブに設定を展開します。

- **[Library] リスト**
  セーブまたはロードするLibraryを選択します。現在ロードされているLibraryは太字になります。
  セーブ済みのLibraryをダブルクリックすると、Libraryの名前を変更できます。
- **[Copy] ボタン**
  選択されているLibraryをコピーします。
  オンライン状態のときにはコピーできません。
- **[Paste] ボタン**
  コピーしたLibraryを現在リストで選択されているLibraryに貼り付けます。オンライン状態のときには貼り付けできません。
- **[Clear] ボタン**
  現在リストで選択されているLibraryの内容を消去します。オンラインのときには削除できません。

- **[DCP選択]リストボックス**
  設定対象のDCPを選択します。
  「Project」シートの「Properties」エリアで設定したDCPが表示されます。

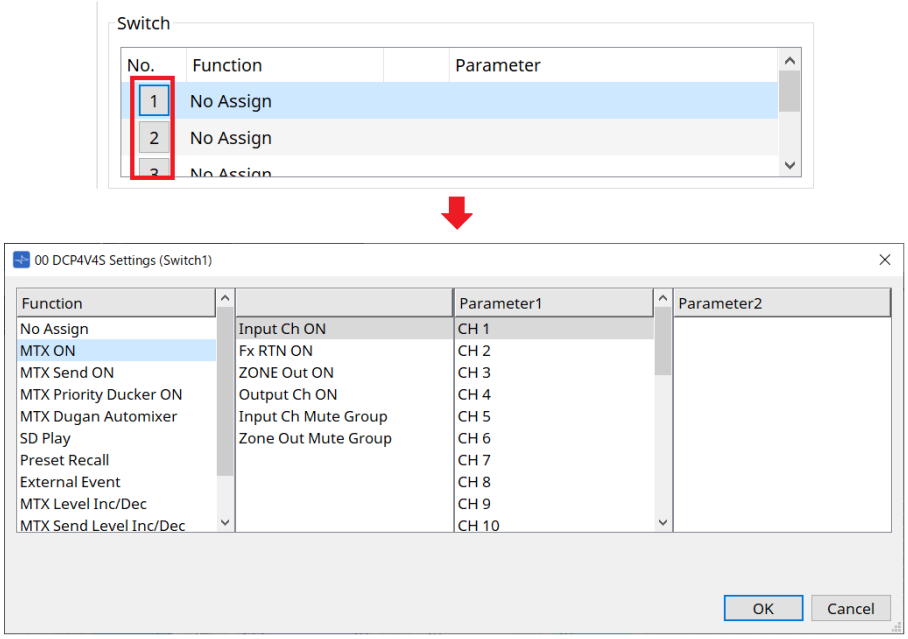
30.4.2. [Parameter Assign]タブ



設定したい操作子(スイッチまたはノブ)のNo.アイコンをクリックすると、各操作子の設定を行う「Settings」ダイアログが表示されます。ダイアログ内にてMTXのパラメーターを各操作子にアサインします。

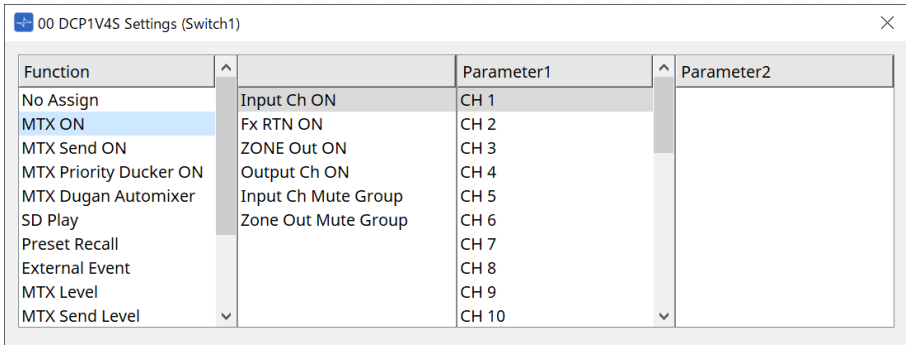
27.4.2.1 DCPコンポーネント:Settingsダイアログ(スイッチ)

DCPコンポーネントエディターのNo.アイコンをクリックすると、Settingsダイアログを表示します。

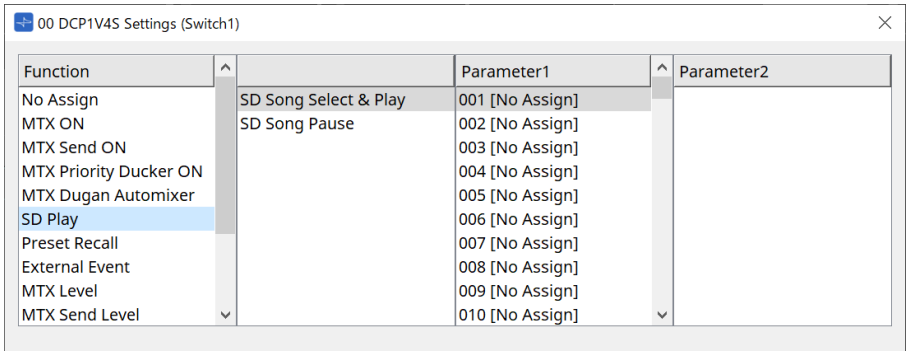


Function

- **[No Assign]**
  機能をアサインしません。
- **[MTX ON / MTX Send ON / MTX Priority Ducker ON / MTX Dugan Automixer]**
  スイッチを押すとアサインしたパラメーターを操作します。



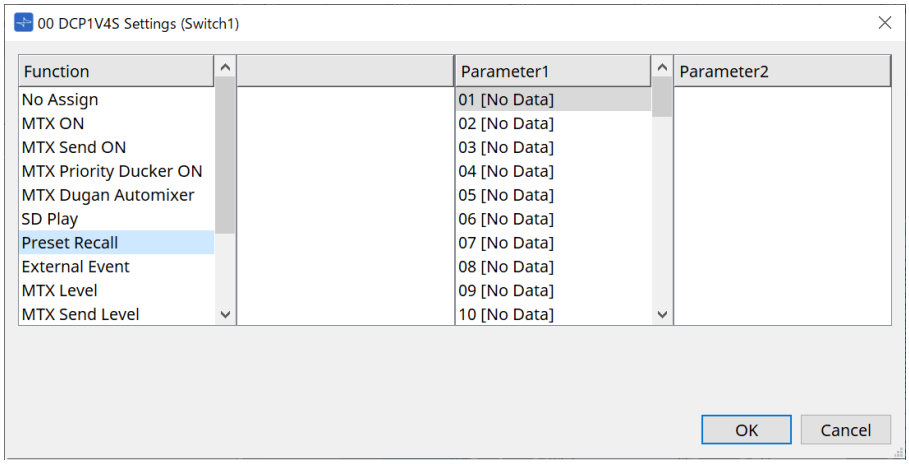
- **[SD Play]**



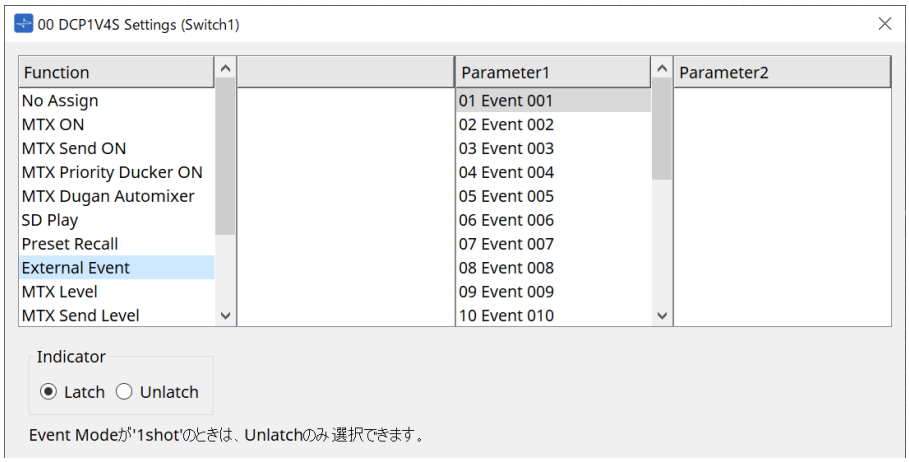
  - **SD Song Select & Play**
    スイッチを押すと[Parameter1]リストで指定したファイルを再生します。
    再生ファイルの設定は、「SD Card File Manager」ダイアログを参照ください。

- **SD Song Pause**
  スイッチを押すと再生中のファイルを停止します。

- **[Preset Recall]**
  スイッチを押すと選択したプリセットをリコールします。



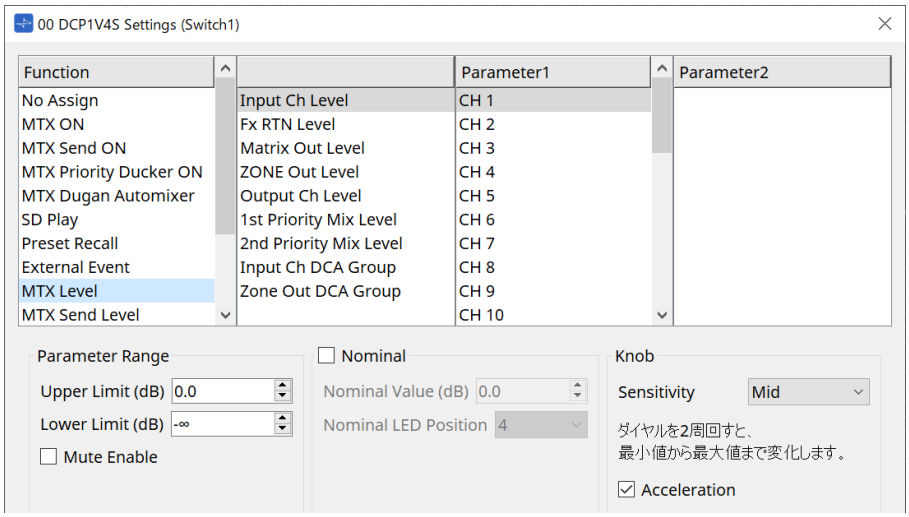
- **[External Event]**
  スイッチを押すと選択したイベントを発行します。



[External Event]は、「External Events」ダイアログで設定してください。

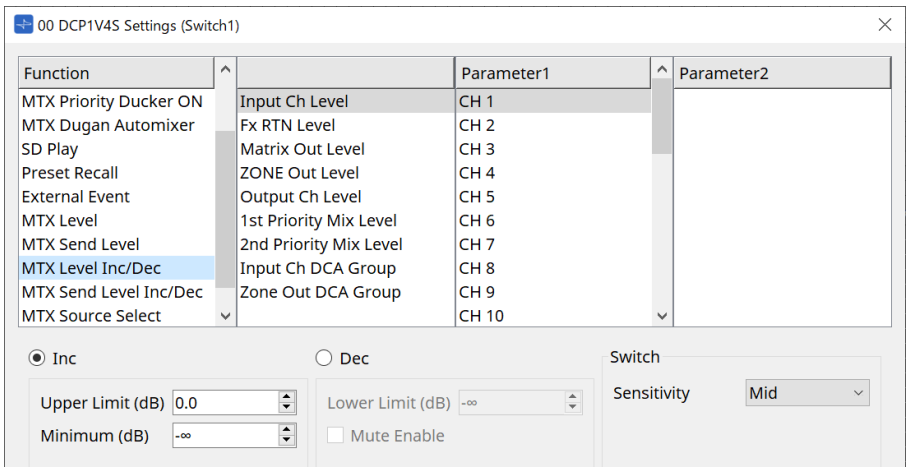
- **[Indicator]**
  スイッチのインジケーターでオン/オフ状態を表示するか (Latch)、スイッチを押したときだけ点灯するか (Unlatch) を選択します。

- **[MTX Level / MTX Send Level]**
  スイッチを押すとアサインしたパラメーターが自動的にノブにアサインされ、ノブで操作できます。
  DCP1V4Sのみの機能です。



スイッチにこの機能をアサインすると、ノブは「Occupied by sw」と表示され、他のパラメーターをアサインできなくなります。
パラメーターは、ノブの項目を参照ください。

- **[MTX Level Inc/Dec / MTX Send Level Inc/Dec]**



  - **[Inc]**
    スイッチを押すたびにパラメーターを加算します。
    Upper Limit/ Minimumで可動域を設定できます。

  - **[Dec]**
    スイッチを押すたびにパラメーターを減算します。
    Lower Limitで下限値を設定できます。

    - **[Mute Enable]チェックボックス**
      オンにすると、レベルが[Lower Limit]で設定した値よりも下回った場合にMute状態(-∞ dB)になります。

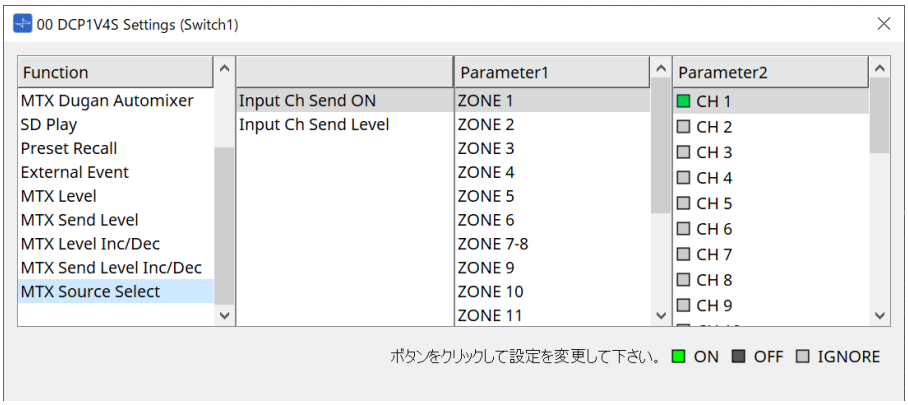
  - **[Sensitivity]リストボックス**
    DCPのスイッチの押下操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

- **[MTX Source Select]**

  Matrix Mixerコンポーネントを利用したソースセレクト機能です。

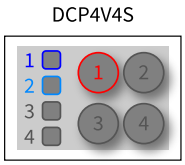
  Input Ch Send ONとInput Ch Send Levelを組み合わせて使用します。
  Input Ch Send ONがアサインされたスイッチで制御対象のセンドレベルを指定し、そのセンドレベルをInput Ch Send Levelがアサインされたノブまたはスイッチで操作します。

  - **Input Ch Send ON**



Matrix Mixerコンポーネントの任意の出力（Parameter1）に対するソース（Parameter2）のオン/オフを一斉に変更します。
Parameter2は、チェックボックスをクリックするたびに"ON"、"OFF"、"IGNORE"と状態が変わります。
"ON"にできるソースはひとつです。

例
DCP4V4Sのスイッチ1と2に[MTX Source Select] > Input Ch Send ONを、ノブ1に[MTX Source Select] > Input Ch Send Levelをアサインします。
いずれも同じ出力（Parameter1）を選択します。

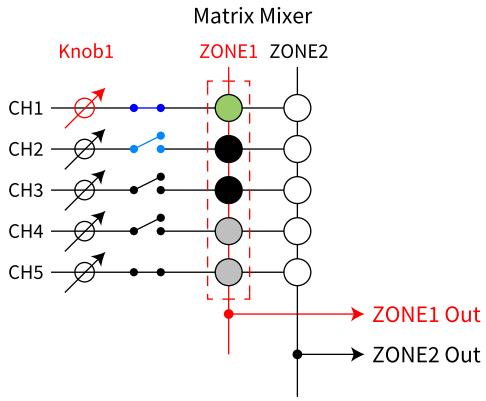


	function	Parameter1	Parameter2				
			CH1	CH2	CH3	CH4	CH5
Sw1	[MIX Source Select] > Input Ch Send ON	ZONE1	ON	OFF	OFF	IGNORE	IGNORE
Sw2	[MIX Source Select] > Input Ch Send ON	ZONE1	OFF	ON	OFF	IGNORE	IGNORE
Knob1	[MIX Source Select] > Input Ch Send Level	ZONE1					

ON
OFF
IGNORE

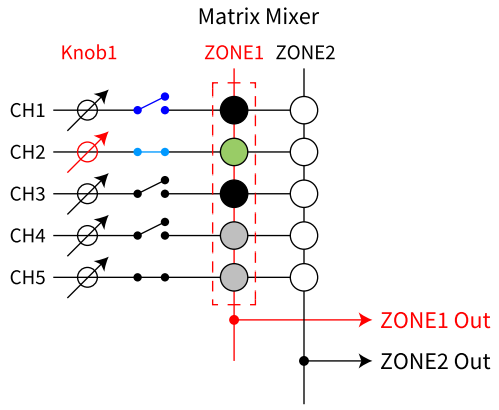
スイッチ1を押したとき、ノブ１にZONE1に対するCH1のセンドレベルがアサインされます。

Sw1 を押したときの状態



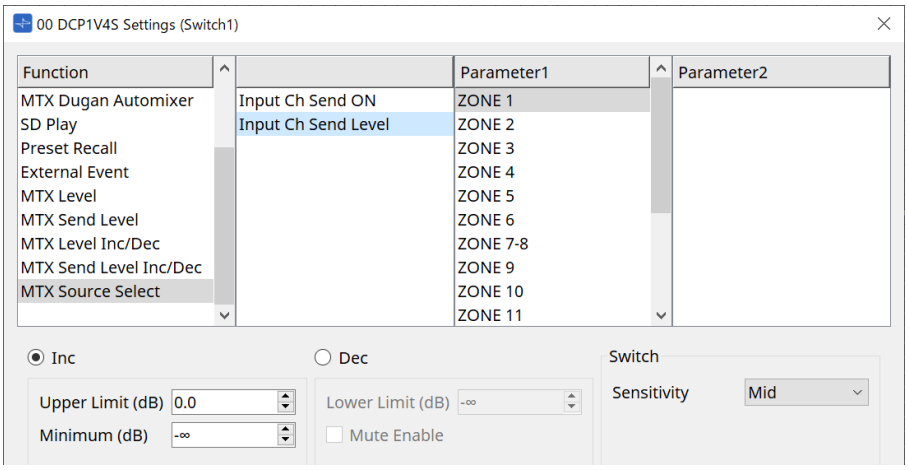
スイッチ2を押したとき、ノブ1がZONE1に対するCH2のセンドレベルに変わります。

Sw2 を押したときの状態
Knob1 にアサインされているパラメーターが自動的に変わる



ノブにアサインされるセンドレベルをスイッチによって自動的に変更するので、ひとつのノブで複数ポイントのセンドレベルを操作することができます。

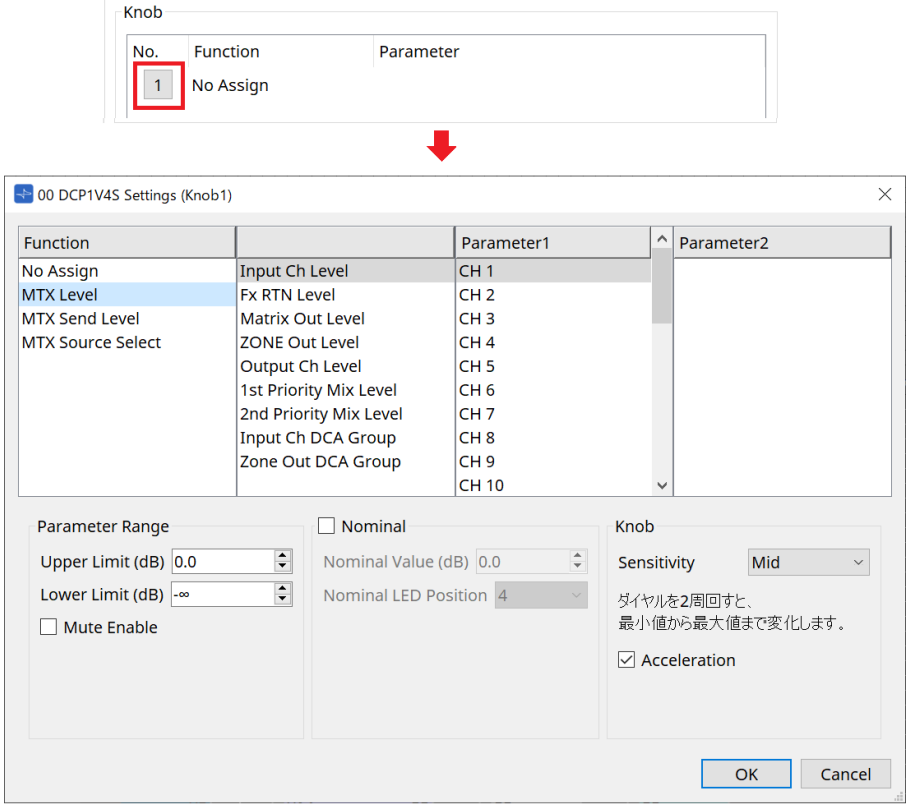
◦ **Input Ch Send Level**



Matrix Mixerコンポーネントの出力（Parameter1）を選択します。
使用方法は、DCPコンポーネント:Settingsダイアログ(スイッチ)の[MTX Source Select]を参照ください。
パラメーターは、[MTX Level Inc/Dec/MTX Send Level Inc/Dec]を参照ください。

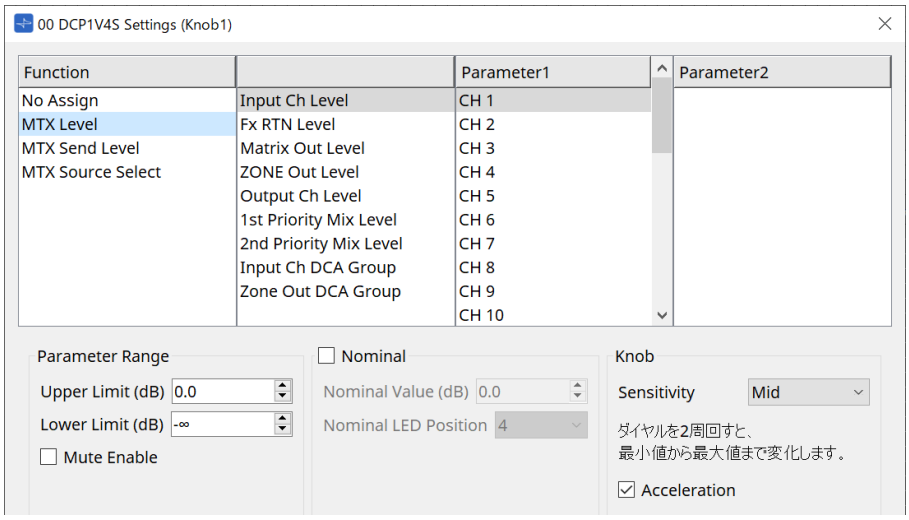
27.4.2.2 DCPコンポーネント:Settingsダイアログ(ノブ)

DCPコンポーネントエディターのNo.アイコンをクリックすると、Settingsダイアログを表示します。



Function

- **[No Assign]**
  機能をアサインしません。
- **[MTX Level / MTX Send Level]**



  - **[Parameter Range]**
    Lower LimitとUpper Limitで可動域を設定できます。
    - **[Mute Enable]**
      オンにすると、レベルが[Lower Limit]で設定した値よりも下回った場合にMute状態(-∞ dB)になります。
  - **[Nominal]**

ノミナル機能に関する設定を行います。ノミナル値を設定することで、通常音量時の位置を特定のLEDポジションとして設定できます。たとえば、センターのLEDを通常使用状態のボリューム位置として設定し、また最大値をシステムに許容される最大音量に設定しておくと、騒がしい場合などにBGMの音量を上げてシステムを壊してしまうことを防げます。 チェックボックスをオンにすると、ノミナル機能がオンになります。

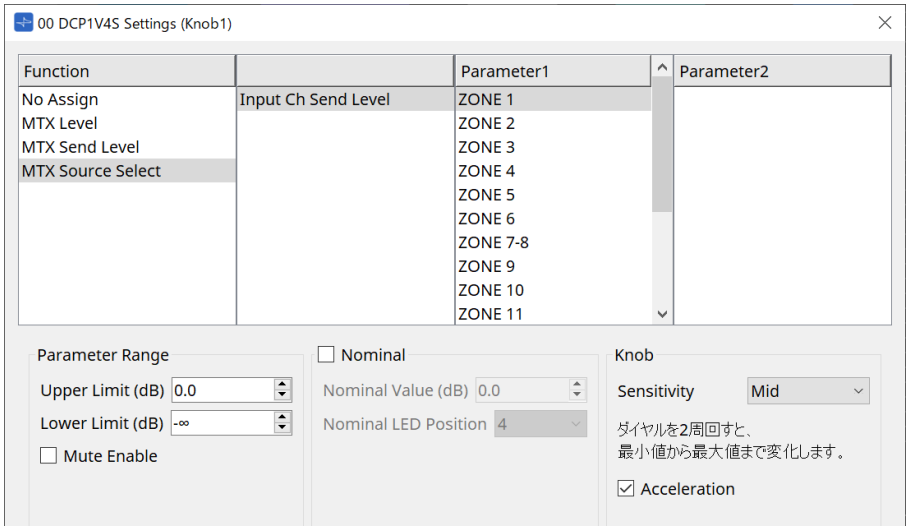
[Nominal Value] ではノミナル値を設定します。
[Nominal LED Position]では、レベルがノミナル値に達したときに点灯するLEDの位置を設定します。

- **[Sensitivity]**

  DCPのノブの回転操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

  [Acceleration]をオンにすると、ノブを速く回したときにパラメーターの変化が加速します。
  [Sensitivity]で[Fast]を選択している場合は、[Acceleration]はグレーアウト表示となり設定できません。

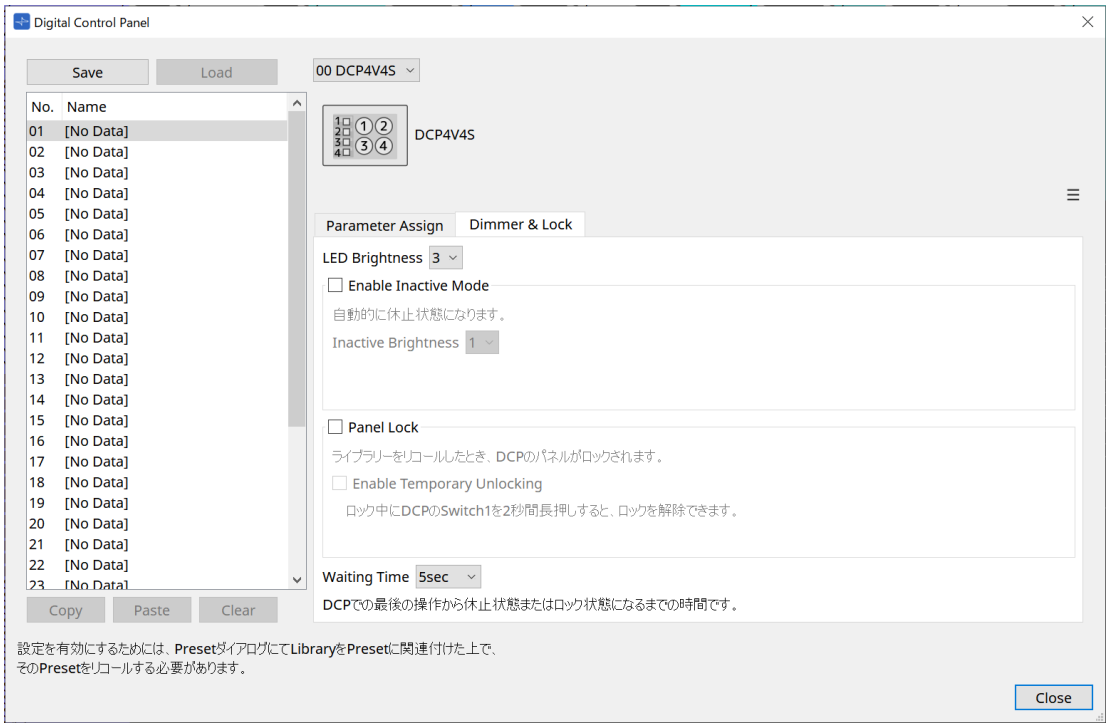
- **[MTX Source Select]**



使用方法は、DCPコンポーネント:Settingsダイアログ(スイッチ)の[MTX Source Select]を参照ください。
パラメーターは、[MTX Level / MTX Send Level]を参照ください。

30.4.3. [Dimmer & Lock]タブ

DCP本体のLEDの輝度や休止状態に関する設定を行います。



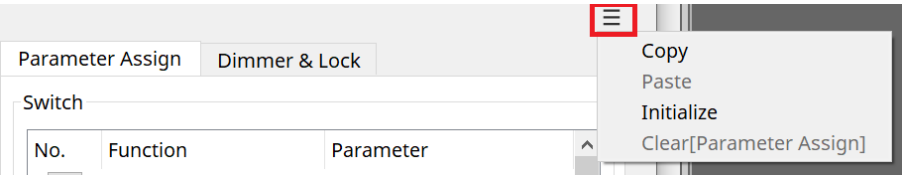
- **[LED Brightness]リストボックス**
  DCPのLEDの輝度を設定します。値が大きくなるほど明るくなります。

- **[Enable Inactive Mode] チェックボックス**
  チェックボックスをオンにすると、[Waiting Time]で設定した時間後に、自動的に休止状態になります。
  [Inactive Brightness]では、休止時のLEDの輝度を設定します。 チェックボックスがオフの場合は、グレーアウト表示となり設定できません。

- **[Panel Lock] チェックボックス**
  チェックボックスをオンにすると、プリセットでライブラリーをリコールしたときDCPのパネルがロックされます。
  [Enable Temporary Unlocking]チェックボックスをオンにすると、DCPのスイッチ1を2秒長押しすると、ロックを解除できるようになります。

- **[Waiting Time]**
  最後の操作から休止状態またはロック状態になるまでの時間を設定します。

メニューボタン
クリックすると、以下のファンクションが実行できます。



- **[Copy]**
  表示しているDCPのParameter Assign、Dimmer&Lock、Source Selectをコピーバッファにコピーします。

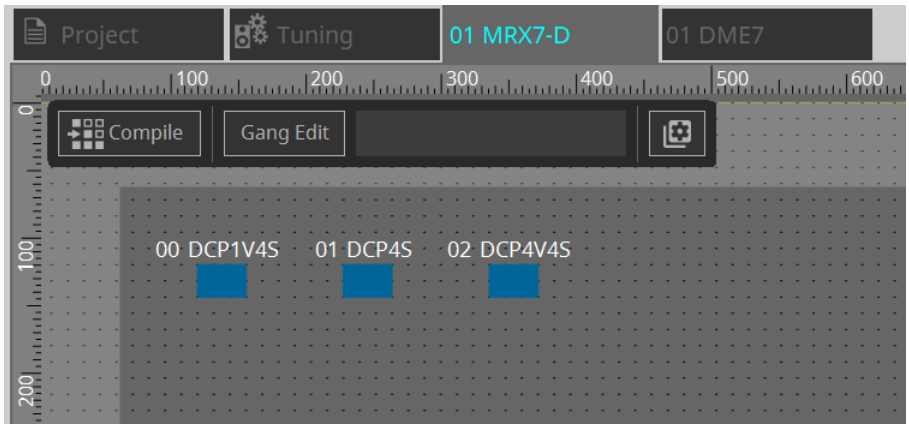
- **[Paste]**
  表示しているDCPにコピーバッファにある同機種のParameter Assign、Dimmer&Lock、Source Select

の設定を上書きします。
ただし上書きできるのは同じMTXでコピーしたもののみです。

- **[Initialize]**
  表示しているDCPのParameter Assign、Dimmer&Lock、Source Selectの設定を初期化します。
- **[Clear [Parameter Assign]]**
  表示しているDCPのParameter Assignの設定を初期化します。

[Close] ボタン
ダイアログを閉じます。

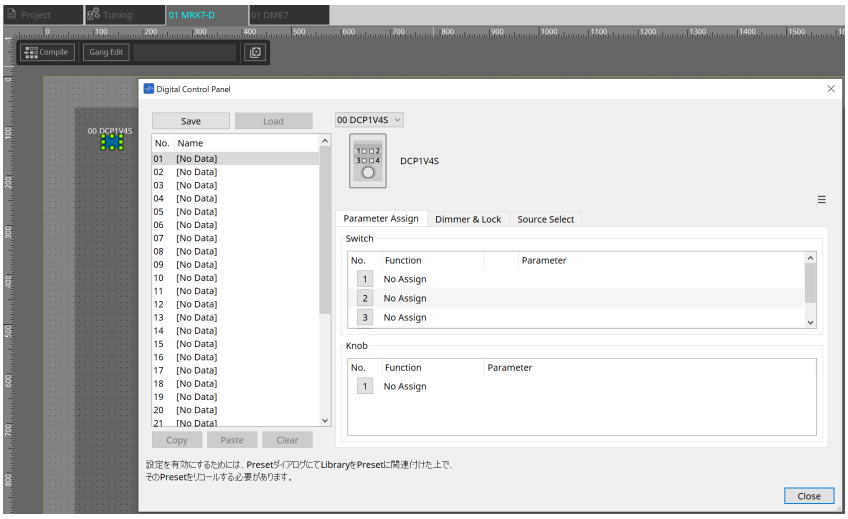
30.5. MRX7-Dにおける設定方法



DCPコンポーネントをダブルクリックし、各種設定をします。

その他の操作は、MTX5-D/MTX3の「DCPコンポーネントの設定」を参照ください。

30.5.1. DCPコンポーネントの設定



DCPコンポーネントをダブルクリックし、コンポーネントエディターを開きます。

[Library]
DCPに関する設定を[Library]として32個まで保存できます。
Libraryには、MRX7-Dに接続されているすべてのDCPの設定が保存されます。

Libraryは、MRX7-Dのプリセットと同時にリコールすることでDCP本体で使用できるようになります。「Presets」エリアの[Recall Settings]ボタンを押すと表示されるダイアログで設定してください。

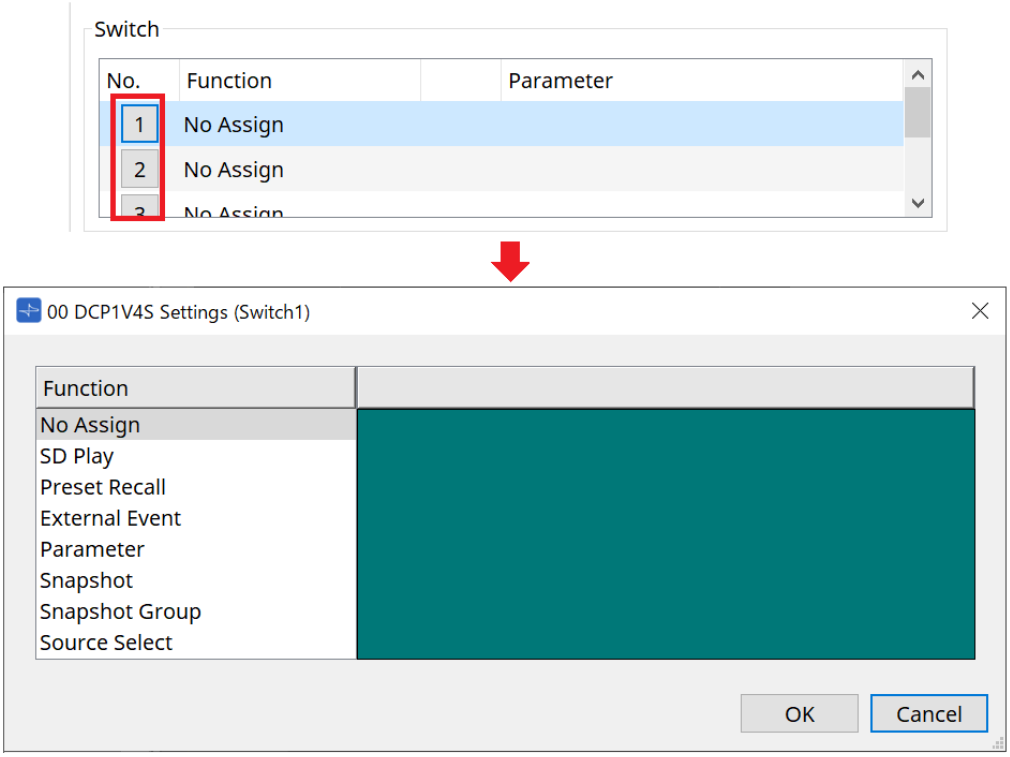
LibraryをリコールするとMRX7-Dに接続されているすべてのDCP（最大8台）が一括でリコールされます。
Libraryをリコールするとき、任意のDCPをリコールの対象外にすることができます。
「Presets」エリアの[Recall Filter]ボタンをクリックすると表示されるダイアログでフィルターを設定してください。

その他の操作は、MTX5-D/MTX3の「DCPコンポーネントの設定」を参照ください。

30.5.2. [Parameter Assign]タブ

27.5.2.1 Settingsダイアログ（スイッチ）

DCPコンポーネントエディターのNo.アイコンをクリックすると、Settingsダイアログを表示します。



DMEの「Settingsダイアログ（スイッチ）」を参照ください。
以下は、DMEとの相違点を記載します。

[Snapshot Recall]

[Snapshot Group Recall]
[Preset Recall]

登録元	登録方法
「Parameter Sets」エリア	スナップショットをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。 スナップショットグループをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
Presetsエリア	プリセットをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

[Parameter]

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
Link Control エディター	< Ctrl >を押しながら、Link ControlをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

登録元	登録方法
「Parameters」エリア	パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

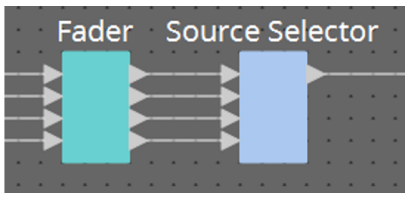
[Control Type]は設定できません。

[MRX Source Select]

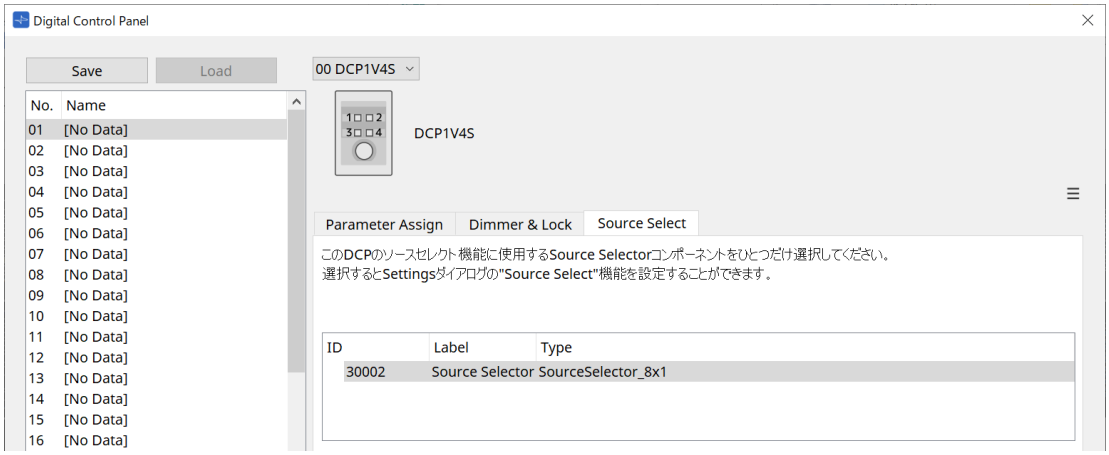
スイッチでSource Selectorコンポーネントのソースを変更し、ノブでソースに関連するレベルを変更する機能です。Source SelectorコンポーネントとFaderコンポーネントを組み合わせたコンフィグレーションを利用します。
スイッチとノブの両方にFunction：Source Selectorをアサインします。

手順

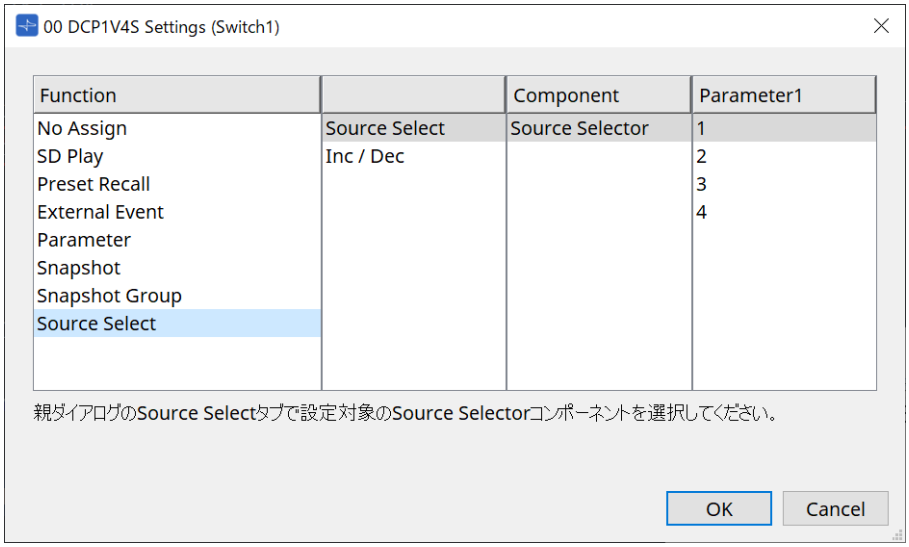
1. **機器シートにFaderコンポーネントとSource Selectorコンポーネントを追加し、接続します。**



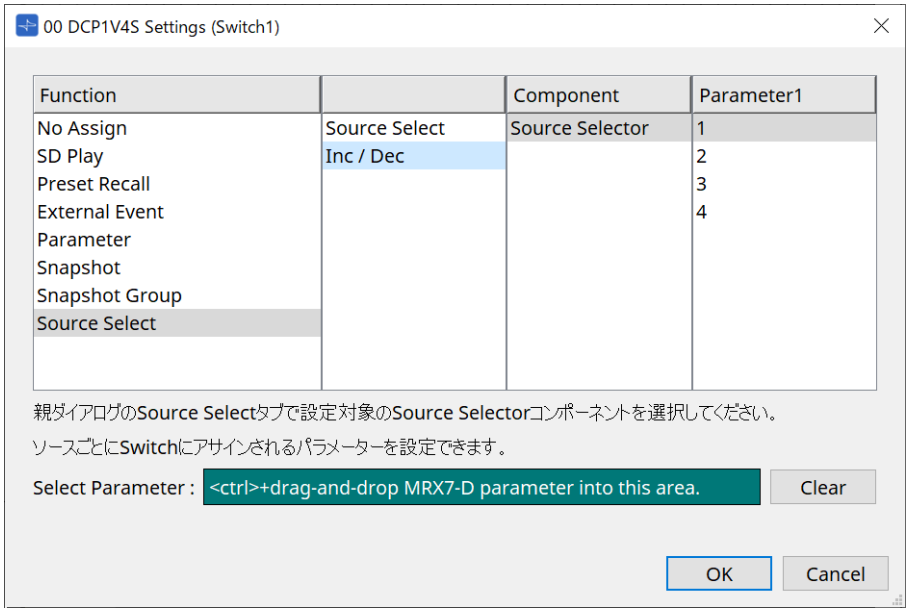
2. **DCPコンポーネントエディターのSource Selectタブで配置中のSource Selectorコンポーネントをひとつ選択します。**



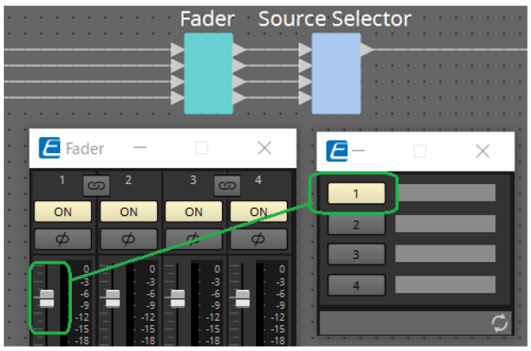
3. **スイッチにSource Selectorコンポーネントのソースをアサインします。**

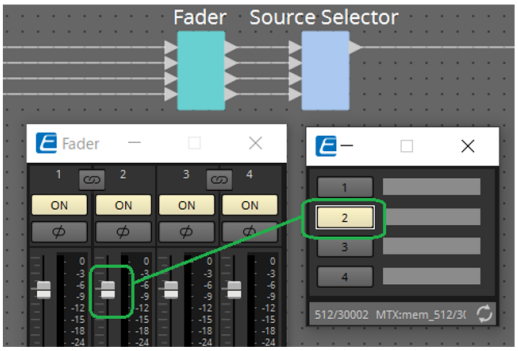


4. **ノブにSource Selectorコンポーネントに接続されたフェーダーコンポーネントのレベルをアサインします。**
ソースが選択されたときに、Source Selectorコンポーネントから出力されるレベルパラメーターを緑の領域にドラッグ＆ドロップでアサインしてください。ソースごとに設定します。



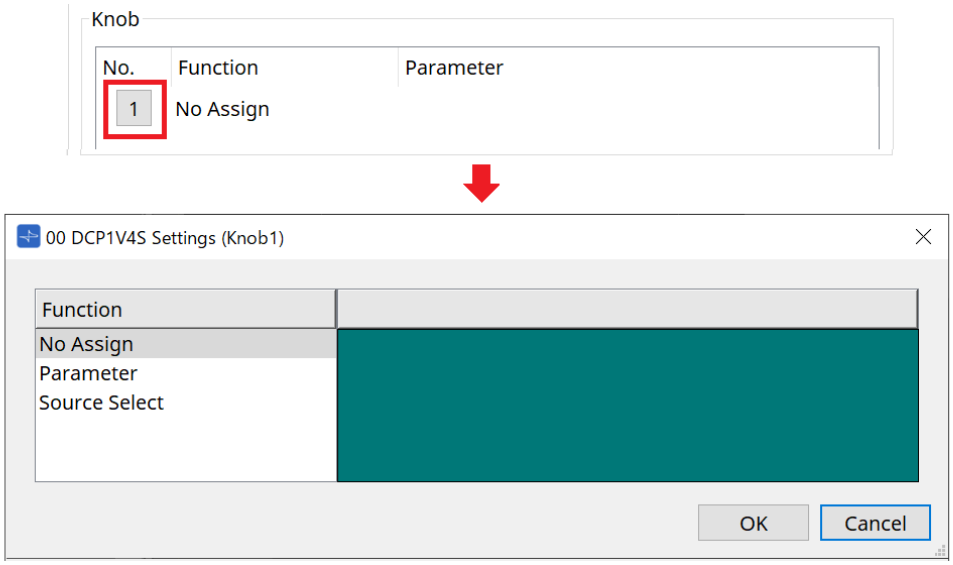
例えば、スイッチ1でソース1を選択すると、ノブ1にFaderコンポーネントの1Chがアサインされ、スイッチ2でソース2を選択すると、同じノブ1にFaderコンポーネントの2Chがアサインされるという使い方ができます。





27.5.2.2 Settingsダイアログ（ノブ）

DCPコンポーネントエディターのNo.アイコンをクリックすると、Settingsダイアログを表示します。
DMEの「Settingsダイアログ（ノブ）」を参照ください。



以下は、DMEとの相違点を記載します。

[Parameter]

登録元	登録方法
コンポーネントエディター	< Ctrl >を押しながら、パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
Link Control エディター	< Ctrl >を押しながら、Link ControlをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。
「Parameters」エリア	パラメーターをSettingsダイアログの緑色の領域にドラッグ＆ドロップする。

[MRX Source Select]
「Settingsダイアログ（スイッチ）」のMRX Source Selectを参照ください。

30.5.3. [Dimmer & Lock]タブ

MTX5-D/MTX3の「Dimmer & Lockタブ」を参照ください。

30.5.4. [Source Select]タブ

機器シートに配置したSource Selectorコンポーネントをひとつ選択してください。
機能の説明は、「Settingsダイアログ（スイッチ）」を参照ください。

2025年5月 発行
YJ-F0